は　じ　め　に

新入生の皆さんは、縁あって本学理工学部に入学し、これからの学生生活に胸をはずませていることと思います。大学における生活は多面的かつ多彩ですが、その中心は勉学です。在学生の皆さんも、新学期を迎えて新たな決意と希望を持って勉学に取り組もうとしていることでしょう。

何事においてもそうですが、目標を設定し、その目標に向けてたゆまぬ努力を行うことが大切です。皆さんの探究心や積極性、自主性がその支えとなります。大学生活を通して、基礎力と幅広い教養、そして自分で課題を見つけ出し、よく考えて解決していくような力を身に付けて欲しいと思います。また、敬いと思いやりのある人格を培いながら高い見識を身に付け、グローカルに貢献するために不断の研鑽を積んで欲しいと思います。

この冊子は、皆さんの努力を支援し必要な情報を提供するための、「履修要項」と「シラバス」が合体して編集されたものです。理工学部において勉学を進めていく上で必要となる、重要事項が網羅されています。

「履修要項」には単位制度の説明からはじまり、卒業必要単位数、進級要件、履修登録方法の説明などが書かれています。なお、「数学」、「理科」、「工業」、「情報」の教員免許状に関する教職課程の説明は別冊に書いています。

「シラバス」には、すべての開講科目について、授業の内容や方法、授業計画や教科書･参考書、履修方法、成績の評価方法等が書かれています。科目の履修登録の際に、履修すべきかどうかの重要な判断材料を与えてくれます。さらに、日々の授業の際の、予習・復習のためのガイドとして有効に利用して下さい。

理工学部では､自分の将来にむけてのキャリア啓発の第一歩として､新入生対象に「キャリアデザイン」、２年次生対象に「キャリアプランニング」を開講しています。是非受講して下さい。

また、読んでみて意味不明や疑問に思う点があれば、遠慮なく理工学部教務課の窓口に相談に来て下さい。履修の仕方を誤ったがために卒業延期等の事態を招くことがないようにして下さい。

皆さんの学生生活が楽しく実り多いものとなることを願っています。

2009年４月

理工学部長　大柳　満之

2009年度　学　年　暦

4月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

1　学年始
2　入学式（瀬田）
3～8　履修指導期間
9　第１学期授業開始
21　ご生誕法要（瀬田）
29　昭和の日（授業実施日）

5月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

3　憲法記念日
4　みどりの日
5　こどもの日
6　振替休日
16　5/19午後分
19　降誕会（午後休講）
21　創立記念日・降誕会（全学終日休講）
23　降誕会（瀬田）（全学授業実施日）
24　降誕会（深草）

6月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

15～19　履修辞退受付期間

7月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

17～18　集中補講期間
20　海の日（授業実施日）
21　ご生誕法要（瀬田）
22　第１学期授業終了
23～8/4　第１学期試験期間

8月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

5～10　集中講義Ⅰ
5～9/10　夏期休業
11～18　一斉休暇
20～22　追試験期間
24～9/19　集中講義Ⅱ
24～9/11　学外実習期間（理工学部）

9月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

11　第２学期開始
11～23　履修指導期間
17　９月卒業式・入学式
21　敬老の日
22　国民の休日
23　秋分の日
24　第２学期授業開始

10月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

12　体育の日（授業実施日）
18　報恩講
21　ご生誕法要（瀬田）
24～25　龍谷祭（瀬田）（24　全学終日休講）

11月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

1～3　龍谷祭（深草）（2　全学終日休講）
3　文化の日
23　勤労感謝の日(授業実施日)
30～12/4　履修辞退受付期間

12月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

21　ご生誕法要（瀬田）
23　天皇誕生日(授業実施日)　月曜日13回分
24～1/5　冬期休業
29～1/5　一斉休暇

1月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

1　元日
6　講義再開
11　成人の日
14～15　集中補講期間
19　授業終了
20～2/2　第２学期試験期間

2月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28						

2/3～3/31　春期休業
11　建国記念の日
入試終了２日後から３日間追試験期間（予定）

3月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

19　卒業式（瀬田）
21　春分の日
22　振替休日
31　学年終

授業日
補講期間
定期試験

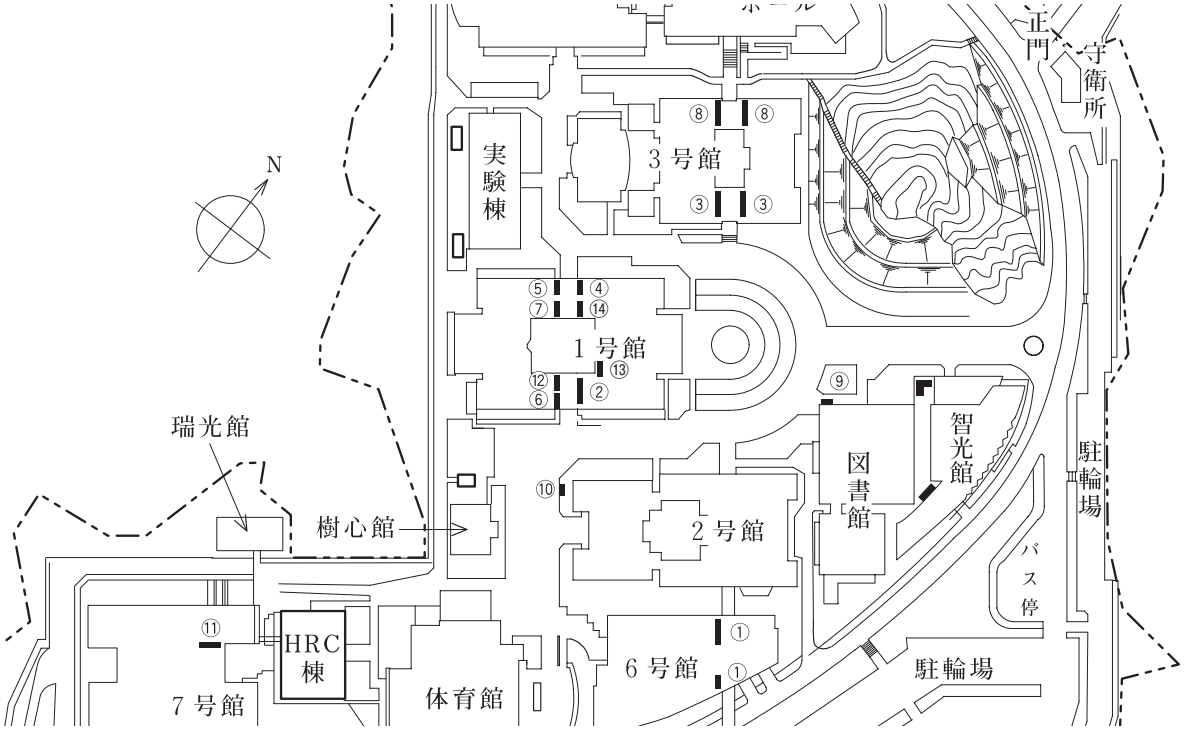
⚠ 注意事項

1．ご生誕法要は、12時15分から13時15分です。２講時の授業終了を15分繰りあげて実施します。
2．土曜日の３・４講時にも補講が行われる場合があります。

大学からの連絡・通知の掲示

円滑な学生生活を送るために必要な情報が伝達されます。

大学からみなさんへの連絡や通知は、特別な場合を除きすべて掲示で行われます。掲示を見落としたために後で支障をきたさないよう、**大学に来たらまず掲示板を見る習慣をつけましょう。電話による問い合わせについては、間違いが起こり得ますので一切応じません。**



掲　示　板

学部掲示板

大学全般に関する連絡

学内行事・窓口業務についての連絡・呼び出し・その他

授業に関する連絡

授業・休講通知・教科についての一般事項

定期試験・追試験に関する連絡

①…社会学部教務課

②…理工学部教務課

③…国際文化学部教務課

⑪…理工学部（補助的運用）

⑬…理工学部（臨時的運用）

学生部（瀬田）、瀬田教学部

④奨学金

⑫学生生活

⑥教職関係

キャリア開発部（瀬田）掲示板

⑤インターンシップ関係

⑦就職ガイダンス関係

⑭就職・資格講座等に関する連絡

国際交流関係掲示板　⑧

図書館関係掲示板　⑨

宗教部専用掲示板　⑩

※大学の事務組織変更やキャンパス整備等により掲示内容や掲示板の設置場所を変更する場合があります。

…登校したら掲示板を

下校前にも掲示板を…

休講・補講・教室変更情報について

休講・補講・教室変更情報を本学のポータル上で次のとおり公開しています。

⑴　アクセス方法　＜パソコン用＞

本学ホームページ（http://www.ryukoku.ac.jp/）の「ポータルログイン」からアクセスしてください。

ポータルの利用には全学統合認証のIDとパスワードが必要です。

＜携帯電話用＞

携帯電話用ポータルの利用には初回のみパソコン用ポータルから「携帯電話アクセス番号の設定」が必要です。設定方法は、パソコン用ポータルサイトをご覧ください。設定完了後、URLが自動的に通知されます。

⑵　公開の範囲　本学開講科目

⑶　公開の期間　＜パソコン用＞

休講：休講日を含めて30日前から、公開しています。

補講：予定が入り次第、随時公開しています。

教室変更（臨時）：変更日を含めて30日分を表示しています。

教室変更（恒常）：変更日を含めて前後30日分を表示しています。

＜携帯電話用＞

休講：休講日を含めて３日前から、公開しています。

補講：予定が入り次第、随時公開しています。

教室変更（臨時）：変更日を含めて3日分を表示しています。

教室変更（恒常）：変更日を含めて前後30日分を表示しています。

⑷　注意事項　・受付日や受付時間により公開に時差が生じる場合があります。

・当日に連絡があった情報には対応できない場合があります。

※ポータル上での公開情報はあくまでも補足的なものです。必ず学部の掲示板で確認するよう心がけてください。

※本学以外の第三者機関による休講情報提供サービス等が存在しますが、本学が提供する公式の情報は上記サイトのみです。

※他学科等のシラバスや時間割については理工学部HP（http://www.rikou.ryukoku.ac.jp/index.html）を参考にして下さい。

※休講、補講、教室変更の公開については、メールでの配信サービスも準備中です。

ガイダンス

新学期の始めには各種のガイダンスが行われます。

最初のガイダンスでは、みなさんが学修の履修計画を立てたり、履修に必要な手続きをスムースに行うための説明や指導をするものです。

その他にも、学生部が主催する奨学金申請手続きに関するガイダンス、教職など諸資格取得のためのガイダンスも開催されます。これらの連絡は、掲示により行われるので十分注意しなければなりません。

2009年度　理工学部学年始ガイダンス日程

＜書類配布、説明会等日程＞

行事 / 年次	成績表・書類配布 履修登録説明会	学科別履修説明会
新　入　生	4月3日（金）9：00集合	左記書類配布等終了後
新2年次生	3月24日（火）9：30集合	左記書類配布等終了後
新3年次生	3月24日（火）13：30集合	左記書類配布等終了後
新4年次生	3月24日（火）15：30集合	左記書類配布等終了後

⚠注意事項

1．大切な伝達事項等があるので、上記の日程には必ず出席してください。
　なお、やむを得ず出席できない場合は、事前に理工学部教務課に連絡の上、指示を受けてください。

2．書類配布日には、成績表、登録関係書類等を配布するので、学生証を持参のうえ、必ず本人が受け取りに来てください。

＜各説明会会場＞

学　　科	教　　室	
	新入生	2～4年次
数理情報学科	別途指示	3号館101教室
電子情報学科		3号館102教室
機械システム工学科		3号館106教室
物質化学科		3号館107教室
情報メディア学科		7号館講義室1
環境ソリューション工学科		7号館講義室2

☆成績の疑義申し出については、成績表配布日を含めて3日間（土・日除く）です。
　申し出は、理工学部教務課に備えつけの用紙で行ってください。

＜履修登録日程＞

	予備登録期間	受　付
全　年　次 （新入生除く）	3月24日（火）9：00～3月27日（金）13：00〈2：00～7：00除く〉 発表：4月8日（水）9：00～web登録画面にて発表 ※ただし、英語（再）の予備登録については、別途掲示板で指示	web予備登録画面

	事前登録期間	受　付
全　年　次 （新入生除く）	3月24日（火）9：00～3月27日（金）13：00	理工学部教務課

	授業科目受講登録期間	受　付
全　年　次	4月8日（水）9：00～4月13日（月）16：00〈2：00～7：00除く〉	web登録画面

2009年度　学生定期健康診断日程表（理工学部）

対　象　学　年	性　別	月　日	受　付　時　間	受検学舎	健診項目
新入生	男性	４月８日（水）	9：00 ～ 12：30	瀬田学舎 4号館 1階	胸部Ｘ線 身体計測 尿検査 問診 内科診察 （必要時）
	女性	４月８日（水）	15：40 ～ 16：30		
編転入生	男性	４月３日（金）	10：00 ～ 12：30		
	女性	４月６日（月）	9：00 ～ 12：30		
２年次生・３年次生	男性	４月３日（金） ４月６日（月） ４月８日（水）	10：00 ～ 12：30 14：00 ～ 16：30 11：00 ～ 12：30		
	女性	４月３日（金） ４月６日（月） ４月８日（水）	14：00 ～ 16：30 10：00 ～ 12：30 14：00 ～ 16：30		
４年次生・大学院生 介護等体験実習生	男性	４月３日（金） ４月７日（火）	9：00 ～ 12：30 13：00 ～ 16：30		上記項目 ＋ 視力
	女性	４月３日（金） ４月７日（火）	13：00 ～ 16：30 10：30 ～ 12：30		

注意事項

1. **学生証**を忘れず持参のこと。
2. 健診は混雑が予想されます。**受付時間内の早め**に受付を済ませること。
3. 指定日時に受検できない場合は、**他学部の同学年・同性の時間**に受検し、未受検のないようにすること。
4. 2・3年次生で介護等体験受講希望者（今年度）は、視力検査が必要！卒業年次生の日時で受検すること。
5. 服装は、無地でボタン・金属等のないＴシャツとし、アクセサリーはつけないで受検すること。
6. 貴重品は各自が責任もって管理すること。
7. 健康管理カード（問診票）・採尿容器は、健康診断前日までに学部・保健管理センター窓口にとりに来ること。
8. 受検当日、健康管理カード（記入しておくこと）・尿容器（採尿した）を持って受付すること。
   ※受付後に、採尿することのないように！
9. この期間中に健康診断を受検しないと、2009年度中の診断書の発行はできません。
10. 社会人等で職場などの定期健康診断（本学における実施項目を含んでいるもの）を受検している場合は，その結果のコピーを提出することによって受検に替えることができる場合がありますので，保健管理センターに相談すること。

昨年度からの変更点

・問診票が、全学年統一様式に変更。事前に配布予定。
・内科診察を全員から問診結果により、必要と認められた方に変更。

心身ともに健康な学生生活を送るために
～保健管理センターの利用について～

１．保健管理センターについて

保健管理センターは、深草・大宮・瀬田の各学舎にあり、学生の皆さんが心身ともに健康な学生生活を送れるよういろいろな支援をしています。

【主な業務】

＊定期健康診断および定期健康診断後の再検査・保健指導など
＊健康診断書の発行
＊応急処置・健康相談（健康に関する相談全般）
＊精神相談（専門医によるカウンセリングと治療）
＊診療（内科・精神科　～保険証が必要～）
＊学生相談（こころの相談室におけるカウンセリング）
＊健康に関する調査・研究・教育
＊健康増進のための学習会の主催

２．定期健康診断について

【検査項目】

検査項目＼年次	学部生				大学院		短期大学部			法科大学院
	１年	２年	３年	４年以上	１年	２年以上	１年	２年	専攻科	
問診	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
身長・体重	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
胸部Ｘ線検査	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
尿検査（蛋白･糖）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
視力				○	○	○		○	○	○
内科診察（必要時）	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△

※内科診察は、看護師の問診等により必要と認めた学生のみ実施。

【実施時期】

毎年、３月から４月に実施。指定された日に受けるようにしてください。
指定日に受けられない場合は、他学部の同性の日に必ず受検し、未受検のないよう注意してください。
勤務先（会社など）にて健康診断を受けられる方は、健診結果を保健管理センターへ提出してください。（コピーでも可）。

詳しい日時や場所は､掲示板や保健管理センターのホームページなどを注意して見るようにしてください。

３．健康診断証明書・健康診断書の発行について

健康診断証明書（診断書）は、本学の定期健康診断の結果に基づいて発行します。
従って本学の定期健康診断を受けていない場合は、発行できません。

本学の定期健康診断を受けられなかった場合は、保健管理センター窓口でご相談ください。

【健康診断証明書について】

定期健康診断結果を証明する「健康診断証明書」は､自動発行機で**その年度の学位授与日まで**発行します。（既往症や尿検査結果は、記載されていません。）

用途は、就職活動や本学に提出する各種実習受講・奨学金申請等に限られます。

【健康診断書について】

進学や大会参加・アルバイトなど診察した医師の総合判定が必要な健康診断書は、診療所で発行します。

検査項目等によっては、即日発行が出来ない場合もありますので、保健管理センター窓口に指定用紙や要項を持参の上、余裕を持って申し込んでください。

４．保健管理センターの利用について

①応急処置や休養室の提供

医師の診療時間以外に体調が悪くなった時やケガの時には、看護師が応急処置や休養室の提供を行っています。ただし、けがの程度や病状により医療機関での受診が必要と判断した場合は、診療所や外部医療機関を紹介することになります。

②健康相談

健康上の相談や悩みがあるときは、気軽に相談してください。必要に応じて看護師が窓口になり、カウンセラーや医師に紹介します。

③保健・医療に関する情報提供

保健管理センターには、身長計・体重計・体脂肪計・視力計・自動血圧計などが設置されています。
自己の健康管理に利用してください。
また、大学近辺の医療機関やタイムリーな健康情報などを随時、ホームページにて掲示しますので、チェックするようにしてください。
URL：http://www.ryukoku.ac.jp/ hoken/

【保健管理センター開室時間】
〔深草学舎・大宮学舎〕　８：45～17：15（昼休み11：30～12：30）
〔瀬田学舎〕　９：00～17：30（昼休み11：45～12：45）
※いずれも授業開講中の時間。窓口時間の変更がある場合は掲示等でお知らせします。

５．診療所について

保健管理センターでは、診療所を併設し、内科・精神科の保険診療を行っています。

【診療科名】内科・精神科

【診療日及び時間】詳しいことは、保健管理センターのホームページにて確認してください。

【費　　用】診療には、「健康保険証」が必要です。コピーされた保険証は使用できません。
健康保険証を持ってない人は、早急に手続きをして**「遠隔地被保険者証」**を取り寄せてください。

遠隔地被保険証の発行は、証明書自動発行機で在学証明書を取り、これを保護者に送付し、保護者の勤務先（社会保険）へ申請してください。また、自営業の場合は、市・区・町村役場（国民健康）に申請すれば作成してもらえます。

※医師の診察を受けないで薬だけお渡しすることはできません。症状は、身体からの「ＳＯＳサイン」ですから、必ず医師による診察を受けてください。

６．学生相談（なんでも相談コーナー）について

学生生活を有意義に送ることができるよう、学生部の中に「なんでも相談コーナー」を設けています。学生生活を送る中で、生活上の問題、修学上の問題、進路の問題、交友関係、心や健康に関する不安など、様々な問題に遭遇することがあります。
そんな時は一人で考え込まず、どんな小さなことでも気軽に「なんでも相談コーナー」を訪れてください。

※学生部内の「なんでも相談コーナー」は、保健管理センターの「こころの相談室」とも連携しています。希望に応じて、専門のカウンセラーによる相談を受けることもできます。

７．こころの相談室について

こころの相談室では、悩みや問題などを解決するために専門のカウンセラーが相談に応じています。悩みの解決の仕方はいろいろありますが、人に相談するというのは最良の方法です。

こころの相談室では、そんな学生のためにお役に立ちたいと願っています。相談を受けた事柄の秘密は固く守りますので安心して来室してください。

開室日時

予約日：月～金曜日　9:00 ～ 17:00

８．健康増進のための学習会について

心身ともに充実した学生生活が遅れるよう随時、健康学習会（ライフスタイル改善教室）を予定しています。随時、ポータルサイト等で連絡しますのでチェックし積極的に参加してください。

目　次

はじめに
2009年度学年暦
大学からの連絡・通知の掲示
ガイダンス
2009年度学生定期健康診断日程表（理工学部）
保健管理センター利用について

履修の心得

Ⅰ　履修をはじめるにあたって…… 2
１．長期的な履修計画を立てること　／２．系統的に科目を履修すること
３．自主的に学修をすること
Ⅱ　単位制度と単位の認定…… 3
１．単位制度　／２．単位とは　／３．単位の認定　／４．履修登録制度
５．授業科目の履修　／６．履修辞退制度　／７．授業時間　／８．卒業要件単位および学士号
９．進級制度　／10．セメスター制　／11．入学前に修得した単位の認定
Ⅲ　履修登録…… 8
１．履修登録手続のスケジュール　／２．履修登録に際しての注意事項　／３．履修登録制限
４．予備登録　／５．履修登録要領　／６．履修登録の確認
Ⅳ　成績評価…… 12
１．成績評価の方法　／２．成績評価の基準　／３．成績疑義　／４．平均点とＧＰＡ
Ⅴ　筆答試験…… 14
１．試験の時期　／２．受験資格　／３．受験の注意事項　／４．答案の無効
５．筆記試験における不正行為　／６．追試験　／７．筆答試験時間
８．レポート試験における不正行為
Ⅵ　教育支援…… 17
１．学科の委員　／２．クラス担任制　／３．教員との面談　／４．T.A.制度
５．チューター制度　／６．L.A.制度　／７．ライティングセンター　／８．その他

教育課程

Ⅰ　理工学部の教学理念と教育目標…… 20
Ⅱ　物質化学科の教学理念と教育目標…… 22
Ⅲ　教育課程の編成・履修方法…… 28
１．授業科目の区分　／２．必修科目・選択必修科目・選択科目・随意科目
３．各科目の履修方法について
❶教養教育科目（共同開講科目）（共通科目）の履修方法 …… 29
１．必修科目の履修について　／２．学科指定・クラス指定　／３．予備登録について
４．先修制について　／５．予備登録について（総合科目）　／設置科目
❷教養教育科目（共同開講科目）（共通科目）カリキュラム対照表 …… 42
１．教養教育科目（共同開講科目）（共通科目）　基礎科目
２．教養教育科目（共同開講科目）（共通科目）　総合科目
❸固有科目の履修方法…… 46
１．学部内共通科目の履修方法　／２．学科固有科目の履修方法　／３．卒業・進級の要件
４．設置科目　／５．カリキュラムフローチャート

❹学科固有科目カリキュラム対照表…… 64
❺他学科科目の履修について…… 66
❻単位互換制度について…… 67
❼日本技術者教育認定機構（ＪＡＢＥＥ）について…… 71
❽卒業年次生の大学院授業科目の履修について…… 72
Ⅳ　諸課程等の履修方法…… 73
❶教職課程…… 73
❷本願寺派教師資格課程…… 73
❸特別研修講座…… 74
Ⅴ　協定型インターンシッププログラム…… 75

学修生活

Ⅰ　窓口事務…… 78
１．学部窓口取扱時間　／２．届書・願書および各種証明書
３．各種証明書の交付について　／４．裁判員制度に伴い裁判員（候補者）に選任された場合の手続きについて
Ⅱ　授業休止の取り扱い基準…… 82
１．全学休講とする場合　／２．授業等の開始基準　／３．その他の注意事項
Ⅲ　学籍の取り扱い…… 83
１．学籍とは　／２．学籍簿　／３．学生証　／４．学籍の喪失　／５．休学と復学
６．年次　／７．再入学　／８．編入学・転入学　／９．９月卒業について
Ⅳ　留学…… 88
１．交換留学　／２．BIE Program留学　／３．私費留学
４．個人留学（休学して留学する）　／５．短期留学
Ⅴ　通学について（自転車・バイク・自動車）…… 90
１．自動車通学の禁止　／２．バイク・自転車通学　／３．バイク・自転車の駐輪
４．交通安全教育講習会について　／５．自動車の臨時入構許可について

シラバス

Ⅰ　教養教育科目（共同開講科目）（共通科目）　基礎科目…… 94
Ⅱ　教養教育科目（共同開講科目）（共通科目）　総合科目…… 165
Ⅲ　学部内共通科目…… 199
Ⅳ　学科固有科目…… 223
Ⅴ　教職課程科目…… 259
Ⅵ　本願寺派教師資格課程科目…… 273

付録

Ⅰ　教員名簿…… 278
Ⅱ　瀬田学舎近隣医療機関…… 280
Ⅲ　瀬田学舎見取図…… 281
Ⅳ　履修要項・Syllabus利用の手引き…… 284

TOEIC®はエデュケーショナル・テスティング・サービス（ＥＴＳ）の登録商標です。
この印刷物はＥＴＳの検討をうけまたはその承認を得たものではありません。

TOEFL®はエデュケーショナル・テスティング・サービス（ＥＴＳ）の登録商標です。
この印刷物はＥＴＳの検討をうけまたはその承認を得たものではありません。

履修の心得

教育課程

学修生活

履修要項

履　修　の　心　得

Ⅰ　履修をはじめるにあたって

大学生にとって、学問をすることが第一の目的です。この目的を達成するために、これから述べることに十分留意して勉学に取り組んでください。大学では、学生生活や履修に関するすべてのことが自分の責任に委ねられていますので、それだけに各自が十分な理解のもと履修することが望まれます。

１．長期的な履修計画を立てること

大学における学業は、一定の単位数を修得することによって完了します（その単位のことを卒業要件単位と呼び、修得のしかたは多くの組み合わせがあります)。卒業に必要な単位の取得は、学部に設置されている授業科目にもとづいて行われます。単位とは、それぞれの授業科目を通して得られる学修の量をあらわすものです。

授業科目は、「**教養教育科目**（共同開講科目)」、および「**固有科目**」からなります。みなさんはこれらの科目群から卒業に必要な一定の単位数を満たすよう履修しなければなりません。

各学年ごとに、必ず履修すべき科目や選択して履修すべき科目が配当されています。なお年度によって開講される科目が異なるので、１学年間あるいは１学期間の履修計画をたてるときは、同時に次年期以降における履修計画もあわせて考える必要があります。

すべての科目は必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目のいずれかに分類されます。

必修科目とは、卒業要件を満たすために必ず履修しなければならない科目です。この科目の単位が未修得の場合は、修得単位数の合計が卒業要件単位数を超えていても、卒業の認定を受けることができません。

選択必修科目とは、指定された科目群の内から決められた数の科目を任意に選択して履修しなければならない科目です。この科目も必修科目と同じく決められただけの単位数が未修得であれば、卒業の認定を受けることができません。また、これらの科目は、指定された単位数を超えて修得した場合、超えた分の単位数を選択科目の単位数の一部に充てることができます。数理情報学科では、「グループ必修科目」（2006年度以前入学生）/「コア選択必修科目」（2007年度以降入学生）と呼びます。

選択科目とは、どの科目を履修するかはすべて学生の自由に任されている科目です。ただし、卒業要件として定められた単位数は修得する必要があり、この要件を欠く場合は卒業の認定を受けることができません。

随意科目とは、単位の認定はされますが、卒業要件の単位数には含まれない科目です。「数学序論」「物理学序論」や各種の資格取得にかかわる科目が該当します。

また、理工学部では各学科の科目を系統的に履修するために、各学年毎に進級の必要要件（進級制度）を設けています。４年間で卒業要件を満たすとともに各学年毎に進級要件を満たさなければならないことを念頭に置いて下さい。

２．系統的に科目を履修すること

各学年に設置されている授業科目、カリキュラムフローチャートを参考にして、系統だった履修をすることが重要です。明確な学修目的をもたずに、単に決められた単位数を数字の上でそろえるだけの履修は、たとえ４年間在学したとしても、大学の卒業生としてふさわしい能力と識見をもつことはできません。したがって、自らの学修目的にあわせて各科目の性格や開講学期（配当セメスター）を考慮しながら系統的に履修する必要があります。

大学４年間において、みなさんは自ら選んだテーマに主体的に取組み、専門的な視点に立って研究するのです。テーマの研究にとって土台となる知識や思考力さらには研究方法などをあらかじめ修得しておくことが求められます。

３．自主的に学修をすること

充分な学修成果をあげるためには、単に教室で講義を聞くだけでなく、講義そのものに積極的な姿勢で臨むとともに、講義以外に自主的な学修が必要です。教室での講義時間の２倍あるいはそれ以上の自主的な学修が行われてはじめて満足な理解が可能となります。そのため、シラバス（講義概要・授業計画）によって指示された参考図書をはじめ、関連図書をよく読んで理解を深めることが望まれます。また、講義を聞き、参考図書・関連図書でも理解できない点については、直接先生に質問したり、先生や友人・先輩とのディスカッションを通じて理解を深めることも大切です。

Ⅱ　単位制度と単位の認定

1．単位制度

大学での学修はすべて単位制になっています。単位制というのは、すべての科目に一定の単位数が定められており、みなさんがその科目の授業を受け、かつ、その試験に合格した場合、定められた単位が与えられます。その単位の合計が一定の要件における一定の単位数を満たした者に対して卒業が認定される制度です。

2．単位とは

単位とは、学修の量を数字で表すものであり、下表のとおり、原則として各単位数によって必要な学修時間が定められています。

単位数	学修時間					
	講義・演習・講読科目の場合			外国語・スポーツ・実験・実習科目の場合		
	自主	授業	合計	自主	授業	合計
1				15時間	30時間	45時間
2	60時間	30時間	90時間	30時間	60時間	90時間
4	120時間	60時間	180時間			

⑴　単位の計算方法

学則第26条に基づき、原則として次の基準によって計算します。

① 本学では単位計算上、１つの授業90分を２時間として計算します。

② 本学では１単位につき45時間の学修時間を必要と定めています。

③ 本学では学期完結型授業の場合は第１学期（前期）授業期間を15週、第２学期（後期）授業期間を15週とし、学期連結型授業の場合は１学年間（通年）で30週としています。

○　講義・演習・講読科目の場合

上表から、講義・演習・購読科目の場合、単位計算上の授業時間２時間に対し、４時間（授業時間の２倍）の自主的学修が必要となり、単位の計算方法は以下のとおりになります。

区　分	必要な学修時間	単位数
学期完結型授業の場合	６時間（授業２時間＋自主４時間）×15週＝90時間	90時間÷45時間（１単位につき）＝２単位
学期連結型授業の場合	６時間（授業２時間＋自主４時間）×30週＝180時間	180時間÷45時間（１単位につき）＝４単位

○　外国語・スポーツ・実験・実習科目の場合

上表から、外国語・スポーツ・実験・実習科目の場合、単位計算上の授業時間２時間に対し、１時間（授業時間の半分）の自主的学修が必要となり、単位の計算方法は以下のとおりになります。

区　分	必要な学修時間	単位数
学期完結型授業の場合	３時間（授業２時間＋自主１時間）×15週＝45時間	45時間÷45時間（１単位につき）＝１単位
学期連結型授業の場合	３時間（授業２時間＋自主１時間）×30週＝90時間	90時間÷45時間（１単位につき）＝２単位

3．単位の認定

一つの授業科目に定められた所定の単位を修得するためには、次の３つの要件を満たしていなければなり

ません。

⑴　単位の認定を受けようとする科目について、**履修登録**をすること。

⑵　その科目の授業に**出席**し、履修に必要な**学修**をすること。

⑶　その科目の**試験**を受け（レポート、論文等をもって試験とする場合等があり、必ずしも教室における筆答試験とは限らない。詳細はシラバスの成績評価の方法で確認してください。）、その試験に合格（60点以上）をすること。

４．履修登録制度

履修登録とは、その学期に履修しようとする科目の授業を受けるための手続きです。この登録をしていなければ、仮にその授業に出席していたとしても、試験を受けることや単位認定を受けることができません。履修登録は、学修計画の基礎となるわけであり、登録が有効に行われるようすべて自分の責任において取り組まれなければなりません。

５．授業科目の履修

履修登録をした授業を受けるということは、その科目に定められている単位数に見合った量の**学修**をするということです。

学修の内容は、授業形態に応じて教室での学修とその準備のための学修とを含んでいます。

このうち、教室での学修は、授業に出席し、その中で学修するということです。総授業回数の３分の１を超えて欠席した場合は、その科目の単位認定は受けられないことがあります。

また、準備のための学修は、「シラバス（講義概要・授業計画）」によって指示される参考文献等を中心として、あるいは友人とのディスカッションや図書館の利用などを通して、自主的に行われる学修のことです。大学での学修はこの自主的な学修の比重が大きく、大学生活の成否はこの自主的な学修のいかんにかかっていると言えます。

６．履修辞退制度

※受講登録確認時に行う修正とは異なりますので注意してください。

⑴　「履修辞退制度」とは

「履修辞退制度」とは、受講者が授業を受けてみたものの、『授業内容が学修したいものと著しく違っていた場合』や『受講者自身が授業について行ける状況にまったくない場合』など、やむを得ない理由がある場合に自分自身の判断で履修を辞退することができる制度のことです。

この制度は、履修登録確認表配付後の、登録不備によって修正が必要となる場合の「履修登録修正」とは異なり、履修登録がすべて確定した後に、上記のような理由によって受講者自身が定められた期間に履修辞退の申し出をすることができるものです。「履修登録修正」は登録情報を「修正や取消」するものであり、以前の履歴は一切記録で残らない仕組みですが、「履修辞退」は、「履修登録」および「履修辞退」の履歴が記録として残る仕組みです。

したがって、受講者のみなさんはこの「履修辞退制度」を安易に利用するのではなく、「履修要項」および「シラバス」を熟読して学修計画をしっかりと立て、慎重な履修登録をするよう十分留意する必要があります。

⑵　履修辞退による成績評価のあり方

本学が設定する履修辞退の申出期間中に辞退を申し出た場合、当該授業科目の成績評価は行ないません。したがって、履修辞退した科目は**平均点**や**GPA**の計算対象から除外されるとともに、成績証明書への記載対象からも除外されます。なお、各学期に配付される個人別の成績表には履修履歴および履修辞退履歴として「**J**」の記号が記載されます。

⑶ 履修辞退対象外科目の一覧

科目区分	備考
必修科目	
事前登録が必要となる科目　※	教室の規模や教室の設備、授業の企画規模等にあわせて、予め受講者数の制限を設けて募集した科目については、履修辞退を認めません。
「大学ｺﾝｿｰｼｱﾑ京都」および「滋賀12大学」の単位互換科目として受講している科目	本学学生が本学他学部の開講する科目を、左記の２団体が展開する「単位互換科目」として受講している場合、履修辞退を認めません。
教育実習科目 （教育実践研究Ⅰ・Ⅱ・ⅢA・ⅢB）	実習校との事前調整を行う科目であるため、履修辞退を認めません。
集中講義科目	本制度となじまない科目であることから、履修辞退は認めません。
その他各学部が設定する科目	各学部（学科・専攻・コース）において設定する科目 ※別表「◆各学部が設定する履修辞退対象外科目の一覧」のとおり

※教養教育科目（共同開講科目）の「予備登録」が必要となる科目とは異なります。

◆各学部が設定する履修辞退対象外科目の一覧

学部	履修辞退の対象外とする科目
理工学部	基礎セミナー（対象学科／数理情報学科） 都市環境施設実験A、都市環境施設実験B（対象学科／環境ソリューション工学科）

※これら以外に履修辞退対象外科目が生じた場合は、別途理工学部掲示版で掲示します。

⑷ 履修辞退の申出期間

2009年度の履修辞退の申出期間は下記の日程です。なお、下記の申出期間以外の履修辞退の申し出は受付しません。

学期	履修辞退受付期間
第１学期（前期）	６月15日（月）～ 19日（金）
第２学期（後期）	11月30日（月）～12月４日（金）

※上記期間中でも、平日においては窓口取扱時間外での受付は行いません。また、土・日の受付は行いません。

※上記期間中、教育実習（介護等体験）・インターンシップ等参加により、やむを得ず申し出ができない学生のために、次のとおり随時受付を行います。

学期	受付期間
第１学期（前期）	６月１日（月）～ 12日（金）
第２学期（後期）	11月16日（月）～ 27日（金）

※上記期間においても申し出ができない理由を有する学生については、理工学部教務課窓口に相談してください。

⑸ 履修辞退の申出方法

上記、履修辞退の申出期間に「履修辞退届」（本学所定の用紙）を、理工学部教務課窓口に提出してください。

⑹ 留意事項

① 通年科目を第１学期（前期）期間中に履修辞退の申し出をした場合は、第２学期（後期）の当該科目分にかかる登録単位数は登録制限単位から除外され、カウントされません。また、後期の履修登録がある場合は、履修辞退した科目の同一曜講時に半期完結型の後期開講科目を履修登録することができます。
なお、履修辞退の申し出による単位数計算は以下のとおりです。

履修辞退申出時期	科目区分	単位数の計算
第１学期（前期）（６月中旬）	前期科目	カウントします
	通年科目	第１学期(前期)分はカウントしますが、第２学期(後期)分はカウントしません。
第２学期（後期）（12月上旬）	後期科目	カウントします
	通年科目	カウントします

② 履修辞退申し出により授業料（科目等履修生は履修料）の返還はしません。

なお、単位制学費の対象学生（留年生）が、通年科目を第１学期（前期）期間中の履修辞退申出期間に申し出た場合の第２学期（後期）分授業料は徴収いたしません。

また、科目等履修生が、通年科目を第１学期（前期）期間中の履修辞退申出期間に申し出た場合の第２学期（後期）分履修料は、理由の如何にかかわらず返還いたしません。

７．授業時間

本学における１回の授業時間は、90分です。また、それぞれの授業時間を「**講時**」といいます。
年間を通して各講時の時間帯は次のとおりです。

	１講時	２講時	３講時	４講時	５講時
開始時刻	９：20	11：00	13：30	15：10	16：50
終了時刻	10：50	12：30	15：00	16：40	18：20

８．卒業要件単位および学士号

卒業は、大学が定める教育課程の修了であり、数理情報学科では「**学士（理学）**」、電子情報学科・機械システム工学科・物質化学科・情報メディア学科・環境ソリューション工学科では「**学士（工学）**」の学位が授与されます。この認定証が卒業証書（学位記）です。

卒業するためには､大学が定める教育課程にしたがって学修し､134単位以上を修得しなければなりません。

⑴ 卒業の要件

本学において、卒業認定を得ようとする者は、次の２つの要件を満たさなければなりません。

① 所定在学年数

本学の教育課程を修了するには、４年以上在学しなければなりません。

これは、単なる在籍期間ではなく、学修期間が４年以上必要ということです。したがって、休学等による学修中断の期間はこの在学期間に加えません。

② 所定単位の修得

本学部の教育課程（カリキュラム）は、授業科目の区分ごとに履修すべき単位数を指定しています。この指定と異なる履修をした場合には、いかに多くの単位を修得したとしても卒業の認定を受けることはできません。

⑵ 卒業の時期

卒業認定は、毎年学年の終わり（３月）に行います。

なお、在学期間が４年以上の学生で、卒業要件単位を修めた場合は、前期終了時（９月）に認定することがあります。**（９月卒業）**

⚠ 注意事項

９月卒業を希望する者は、４月初旬に所定の願書を受け取り、必ず指定された期間に手続を完了してください。本人の申し出がなければ、たとえ卒業要件を満たしていても、９月卒業の対象にはなりません。

９．進級制度

理工学部では、各学科の科目を系統的に履修するために、各学年毎に進級の必要要件（進級制度）を設けています。履修登録するにあたっては、細心の注意をすることが必要です。

10. セメスター制

理工学部の授業は、セメスター制で開講されています。セメスター制というのは、半年を１学期とするもので、１学年を原則として４月～９月末までを第１学期（前期）、10月～翌年３月末までを第２学期（後期）の２学期に区分し､以後４年次までの計８学期にわたって教育課程（カリキュラム）の編成を行うものです。これら年次、学期、セメスターの関係は次のとおりです。

年次	１年次		２年次		３年次		４年次	
学期	第１学期（前期）	第２学期（後期）	第１学期（前期）	第２学期（後期）	第１学期（前期）	第２学期（後期）	第１学期（前期）	第２学期（後期）
セメスター	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター

各セメスターにはそれぞれ必修科目、選択必修科目、選択科目が配当されています。これらの科目の中からどの科目を履修するかは各自の責任に委ねられています。ただし、必修科目はそれを履修しないと卒業することができない科目です。また選択必修科目も同じ性格を有する科目ですから、配当されたセメスターにおいて必ず履修しなければなりません。

必修科目や選択必修科目の単位を未修得のまま次のセメスターに進行した場合、他のすべての科目に優先してこれらの未修得科目を履修しなければならない場合が生じてしまい、本来そのセメスターに配当されている科目が履修できなくなるなど、みなさんの学修計画に重大な支障をきたすことにもなりかねません。したがって、十分な理解のもと学修計画を立て、講義を通しての学修と自主的な学修に積極的に取り組むことが望まれます。

11. 入学前に修得した単位の認定

学則第38条にもとづき、１年次に願い出た者に限り、出身大学で修得した科目を、本学理工学部の科目として認定することがあります。詳細は、入学後すみやかに、理工学部教務課窓口に申し出てください。

Ⅲ 履 修 登 録

履修登録は、自らの学習計画に従ってその年度・学期（セメスター）に履修しようとする授業科目を届け出る手続であり、みなさんの学習計画の出発点となるものです。この登録をしていなければ、たとえ授業に出席しても、試験を受けることや単位の認定を受けることはできません。履修登録は学修計画の基礎となるものであり、登録が有効に行われるよう、すべて自分の責任において取り組まなければなりません。

1．履修登録手続のスケジュール

１～３年次生は、履修登録が前期・後期の年２回行われます。ただし、４年次生については、卒業見込判定の関係から、前期に１年分の履修登録を行います。

１～３年次生	年２回登録	前期：通年・前期科目登録
		後期：後期科目登録
卒年次生	年１回登録	前期：通年・前期・後期科目登録
		後期：後期科目の変更のみ受付

履修登録に関する手続きのスケジュールは以下の通りです。

〈１～３年次生〉

前期

① 履修登録説明会
↓
② 予備・事前登録（該当科目のみ）
↓
③ 履修登録（Web）
↓
④ 受講登録確認表配布
（登録エラー、登録科目の確認）
↓
⑤ 登録科目の修正
（登録エラーのあった場合のみ）
↓
⑥ 受講登録確認表配布
（修正をした学生のみ）
↓
⑦ 履修辞退制度
↓
⑧ 定期試験
↓
⑨ 成績表配布

後期

① 履修登録説明会
↓
② 予備・事前登録（該当科目のみ）
↓
③ 履修登録（Web）
↓
④ 受講登録確認表配布
（登録エラー、登録科目の確認）
↓
⑤ 登録科目の修正
（登録エラーのあった場合のみ）
↓
⑥ 受講登録確認表配布
（修正をした学生のみ）
↓
⑦ 履修辞退制度
↓
⑧ 定期試験
↓
⑨ 成績表配布

⚠ 注意事項

●一度登録した通年科目は、履修辞退制度による登録の取消の場合を除き、途中で放棄・変更することはできません。つまり、後期登録時に前期に登録した通年科目を放棄して、他の科目を登録することはできません。したがって、後期に履修すべき科目がある場合は、特に注意が必要です。

〈卒業年次生〉

前期

① 履修登録説明会
↓
② 予備・事前登録（該当科目のみ）
↓
③ 履修登録（Web）
↓
④ 受講登録確認表配布
（登録エラー、登録科目の確認）
↓
⑤ 登録科目の修正
（登録エラーのあった場合のみ）
↓
⑥ 受講登録確認表配布
（修正をした学生のみ）
↓
⑦ 履修辞退制度
↓
⑧ 定期試験
↓
⑨ 成績表配布

後期

① 履修登録説明会
↓
② 予備・事前登録（該当科目のみ）
↓
③ 受講科目受講届〈修正〉提出
↓
④ 受講登録確認表配布
（登録エラー、登録科目の確認）
↓
⑤ 登録科目の修正
（登録エラーのあった場合のみ）
↓
⑥ 受講登録確認表配布
（修正をした学生のみ）
↓
〈後期登録科目の変更を希望する者〉
↓
⑦ 履修辞退制度
↓
⑧ 定期試験
↓
⑨ 成績表配布

⚠ 注意事項

●前期登録時は、卒業見込判定の関係から、その年度に履修しようとする全科目を登録してください。
●後期登録時は､後期科目について変更･追加･取消を希望する場合のみ受講科目受講届を提出してください。
●一度登録した通年科目は、履修辞退制度による登録の取消の場合を除き、途中で放棄・変更することはできません。つまり、後期登録時に前期に登録した通年科目を放棄して、他の科目を登録することはできません。したがって、後期に履修すべき科目がある場合は、特に注意が必要です。

2．履修登録に際しての注意事項

① **単位の修得**

履修登録した科目でなければ、受講、受験、単位の修得はできません。

② **二重登録の禁止**

同一時間帯に２科目以上履修登録することはできません。二重登録した場合、該当科目は全て無効となりますので注意してください。

③ **修得済み科目の登録禁止**

既に単位を修得した科目を再び履修登録することはできません。

④ **登録制限単位数**

制限単位以上の科目を履修登録することはできません。ただし、随意科目（諸課程科目など）は制限単位に含みません。

⑤ **履修配当年次**

現年次より上の年次に配当されている科目を履修登録することはできません。（留年生に対する特別措置は除く）

⑥ **クラス、学科指定**

学科や学籍番号によってクラスあるいは学科が指定される科目（英語、スポーツ技術学、仏教の思想等）があるので注意して登録してください。Web登録画面にて確認して下さい。

⑦ **登録科目の追加、変更の禁止**

登録日以後の科目の変更、追加、修正は認めません。ただし、履修不可能科目の登録によるエラーがあった場合はこの限りではありません。（履修辞退制度による登録取消は除く）

⚠ 注意事項

① 必修科目が配当されている学年にあっては、その年次において登録してください。

② 所属年次に配当されている授業科目以外の授業科目は登録できません。ただし、授業科目の区分等の関係で、卒業要件を充たすに必要な場合は、下級年次配当の授業科目を登録することができます。

③ 授業時間割表に従って登録してください。（特に、同一授業科目について複数の担当者がある場合や、週２回学期完結授業等の場合は、別段の指示があるので注意してください。）

３．履修登録制限

理工学部では、下記のとおり履修登録制限をしています。ここに定める単位数を超えて履修登録することは一切認められないので、よく考えて履修計画を立てる必要があります。

学　　年	１年次	２年次	３年次	卒業年次生
前期制限単位数	30	30	30	60
後期制限単位数	30	30	30	

⚠ 注意事項

① 制限単位を計算する際、通年科目、前期・後期のペア科目については、前期・後期それぞれに単位数の半分ずつをカウントします。

（例）４単位の通年科目を登録すると、前期・後期にそれぞれ２単位ずつ加算されます。

② 諸課程科目（教職課程科目・本願寺派教師資格課程）などの随意科目は制限単位に含みません。

③ 集中講義期間に実施される以下の科目は履修制限単位数に含みません。（2009年度）

情報と職業／ MOT概論／特別講義（機械システム工学科）

④ 大学コンソーシアム京都の単位互換科目と滋賀県環びわ湖大学連携単位互換制度の科目は履修制限単位数に含みません。

４．予備登録

予備登録とは、定員が定められている科目について、受講者数の調整およびクラス分けのため、通常の履修登録に先立って行われるものです。

予備登録にあたっては、以下の点に注意する必要があります。

予備登録が必要な科目は、別途指示します。

①予備登録が必要な科目は、予備登録なしに履修することはできません。（ただし、予備登録の結果、定員に満たなかった場合は追加募集する場合があります。）

②予備登録で履修許可された科目は、必ず登録しなければなりません。

５．履修登録要領

(1) 登録の心得

① 登録は、すべて自己の責任においてなされなければならないので、十分に注意して履修登録を行っ

てください。なお、登録にあたって、不明な点があれば、遠慮なく理工学部教務課窓口に相談してください。

② 登録不備等が卒業延期等重大な結果につながる場合があるので必ず登録確認を行ってください。

③ 時間割、教室、担当者等について変更が生じる場合があるので、随時理工学部掲示板で確認してください。

⑵ 履修登録にあたって注意すべき点

① 授業時間割等に変更が生じた場合は、理工学部掲示板に掲示しますので注意してください。

② 履修登録にあたって、不明な点があれば、遠慮なく理工学部教務課窓口に相談してください。

③ Web履修登録画面から、定められた期日に必ず登録してください。

登録期間は次のとおりです。

学　期	登録期間
第１学期	４月８日（水）　13：00 ～ 26：00 ４月９日（木）　７：00 ～ 26：00 ４月10日（金）　７：00 ～ 26：00 ４月11日（土）　７：00 ～ 26：00 ４月12日（日）　７：00 ～ 26：00 ４月13日（月）　７：00 ～ 16：00
第２学期	未定（理工学部掲示板・HPで別途お知らせします。）

⚠ 注意事項

＊通年科目、前期･後期のペア科目の単位数は、前期･後期にそれぞれ半分ずつカウントされます。

＊半期に完結するペア科目（半期で１週間に２回講義が行われる科目）の単位数は、半期にカウントされます。

（例）前期ペアで４単位の科目の場合は、前期に４単位を加算します。

（例）前・後期ペアで４単位の科目、通年で４単位の科目の場合は、前・後期それぞれに２単位ずつ加算します。

＊集中講義Ⅱの期間に実施される科目は、９月卒業を希望する者は受講できません。

④ 受講登録確認表の配布

本人が登録した授業科目は、コンピューター処理され、その結果が４月下旬（第２学期は10月中旬）に理工学部教務課窓口に配布されますので、正しく登録されているかどうかを必ず確認してください。受講登録確認表について、不備もしくは質問のある場合は、だたちに、理工学部教務課窓口に申し出てください。

６．履修登録の確認

授業科目が正確に登録されているかは、自己の責任において、配布する**受講登録確認表**で必ず確認してください。(配布日時は理工学部掲示板にて指示)

もし、確認せずに間違ったまま登録を放置しておくと、受講している科目が無効となり、試験が受けられなくなるので注意してください。

登録確認を怠ったために、登録不備等により留年や卒業延期等の重大な不利益を被った例が生じているので、確認は１科目ずつ慎重に行ってください。

万一、登録に疑問または誤りがあれば登録修正期間に理工学部教務課まで申し出てください。(日時は理工学部掲示板にて指示)

Ⅳ 成 績 評 価

成績評価は、個々の科目について定められている単位数に相当する量の学修成果の有無やその内容を評価するために行われます。成績評価は、一般的に100点満点法で評価され、60点以上の評価を得られた場合に所定の単位が認定されます。

1．成績評価の方法

成績評価は、おおよそ次の４種類の方法があり、これらのうちの１または２以上を合わせて評価されます。各科目の成績評価方法は、その科目の特性に応じて授業担当者によって定められています。その内容はシラバスに明示されているので参照してください。

① 筆答試験による評価
② レポート試験による評価
③ 実技試験による評価
④ 授業への取組状況や小テストなど、上記試験による評価の他に、授業担当者が設定する方法による評価

2．成績評価の基準

① 成績評価は、100点を満点とし60点以上を合格、それを満たさない場合は不合格とします。
② 一度合格点を得た科目（既得科目）は、いかなる事情があっても、再度履修し成績評価を受けることはできません。
③ 履修登録した科目の試験を受験しなかった場合、その試験の評価は０点となります。ただし、この場合でも、試験による評価以外に授業担当者が設定する方法により評価される場合があります。
④ 段階評価と評点の関係は、次のとおりとします。

適用入学年度	段階評価と評点
2004年度以前入学生	A（80 ～ 100点） B（70点～ 79点） C（60 ～ 69点）
2005年度以降入学生	S（90 ～ 100点） A（80 ～ 89点） B（70 ～ 79点） C（60 ～ 69点）

上記の段階評価以外に、実習科目はG（合格）・D（不合格）で評価する場合があります。単位認定された科目の場合はN（認定）となります。

※2004年度まで使用していた試験欠席を示す「K」表記は、2005年度より廃止しました。（全学生に適用）。

⑤ 学業成績証明書は、すべて段階評価で表示し、不合格科目は表示しません。
⑥ 学業成績表は、第１学期（前期）分を９月下旬、第２学期分（後期）を３月下旬に配布します。
指定された期日に学生証を提示の上、指定された場所で受け取ってください。

3．成績疑義

成績評価について疑義がある場合は、必ず所定の「成績疑義申出用紙」に疑義内容を記入した後、理工学部教務課窓口に提出してください。授業担当者に直接申し出てはいけません。

なお、申出期間については、成績表配布日を含めて３日間（土・日除く）です。詳細は別途掲示します。

4．平均点とＧＰＡ

(1) 平均点

平均点は、登録科目の素点（100点満点）の合計と単位数をかけたものを、登録科目の総単位数で割ったものです。

$$\text{平均点} = \frac{\Sigma\ (\text{登録科目の素点} \times \text{単位数})}{\Sigma\ (\text{登録科目の単位数})}$$

例えば、「仏教の思想Ａ」（２単位）90点、「英語ＩＡ」（１単位）80点、「心理学入門」（２単位）40点、「物理学Ｉ」（２単位）78点が登録科目の結果とした場合、平均点は次のように計算されます。

$$平均点 = \frac{(90\times 2)+(80\times 1)+(40\times 2)+(78\times 2)}{2+1+2+2} = \frac{496}{7} = 70.86$$

(2) ＧＰＡ

ＧＰＡとは、Grade Point Average（成績加重平均値）のことで、登録科目の素点（100点満点）を下表のように換算し直し、その合計を登録科目の総単位数で割ったものです。

素　点	グレイドポイント
100～90点	4
89～80点	3
79～70点	2
69～60点	1
59点以下	0

$$ＧＰＡ = \frac{\Sigma\ (登録科目のグレイドポイント\times 単位数)}{\Sigma\ (登録科目の単位数)}$$

例えば、「仏教の思想Ａ」（２単位）90点、「英語ＩＡ」（１単位）80点、「心理学入門」（２単位）40点、「物理学Ｉ」（２単位）78点が登録科目の結果とした場合、ＧＰＡは次のように計算されます。

$$ＧＰＡ = \frac{(4\times 2)+(3\times 1)+(0\times 2)+(2\times 2)}{2+1+2+2} = \frac{15}{7} = 2.14$$

(3) 各科目の算入基準

平均点およびＧＰＡの計算をする際、下表のとおり取り扱います。

科目の区分	取り扱い
卒業要件となる科目 (2005年度以降入学生については、卒業要件上、余剰分となる科目も含む)	算入する
随意科目	算入しない
再履修により合格した場合、当初履修し不合格となった科目	算入しない

＊再履修で不合格の場合は、高得点の方を算入します。

理工学部としては平均点を使用することとし、ＧＰＡは参考までに学業成績表に表記することとします。

Ⅴ 筆 答 試 験

筆答試験は、次の要領で実施されます。

1．試験の時期

筆答試験をその実施時期によって分類すると、次の２種類になります。

① **定期試験**（学期末・学年末試験）
個々の科目について定められている授業期間の終了時期（通常の場合は学期末）に実施する筆答試験をいう。

② **追試験**
定期試験欠席者のために、定期試験終了後に改めて実施する筆答試験をいう。（追試験の項を参照のこと。）

2．受験資格

次の各号に定める条件をすべて備えていないと受験資格を失い、受験することができなくなる恐れがあります（追試験については、追試験の項を参照のこと）。

① その科目について、有効な履修登録がなされていること。
② 定められた学費を納入していること。
③ 授業に出席していること。原則として３分の２以上の出席があること。
④ 授業担当者の求める諸条件を満たしていること。

3．受験の注意事項

筆答試験に際しては、次のことを守らなければなりません。

① 指定された試験場で受験すること。
② 試験開始20分以上の遅刻および30分以内の退室は許されない。
③ 学生証を携帯すること。
④ 学生証を必ず机上に提示し、写真欄が見えるよう机上通路側に置くこと。
万一学生証を忘れた場合には､理工学部教務課窓口で｢試験用臨時学生証｣の交付を受けておくこと。
⑤ 答案（解答）用紙が配付されたら直ちに年次、学籍番号、氏名を「ペンまたはボールペン」で記入すること。
⑥ 参照を許可されたもの以外は、指示された場所に置くこと。
⑦ 試験開始前に携帯電話等の電源を切り、鞄の中に入れること。
⑧ 答案（白紙答案を含む）を提出しないで退室しないこと。

4．答案の無効

次の場合は、その答案は無効となります。

① 無記名の場合。
② 指定された場所に提出しない場合。
③ 試験終了後、試験監督者の許可なく氏名を書き直した場合。
④ 同一科目の複数開講において、開講曜講時等の間違いで受験したもの。
⑤ 試験場間違いで受験したもの。
⑥ 受験態度の不良な場合。

５．筆記試験における不正行為

① 受験中に不正行為を行った場合は、その学期に履修登録をした全科目の単位認定を行いません。さらに、不正行為の程度により、学則に定める懲戒を加えることがあります。

② 次に該当する場合は、これを不正行為と見なします。

（ア） 私語や態度不良について注意を与えても改めない場合。
（イ） 監督者の指示に従わない場合。
（ウ） 身代り受験を行った場合、または行わせた場合。
（エ） カンニングペーパー等を所持していた場合。
（オ） 許可された以外のものを参照した場合。
（カ） 机上等への書き込みをしていた場合。
（キ） 許可なくして物品や教科書、ノート類を貸借した場合。
（ク） 答案用紙の交換および見せ合いをした場合。
（ケ） その他、（ア）～（ク）に準じる行為を行なった場合。

６．追試験

① 追試験の受験資格

（ア） 病気や怪我、試験時における体調不良等により受験ができなかった者。
（イ） 親族（原則として３親等まで）の葬儀により受験ができなかった者。
（ウ） 公認サークルの公式戦に選手として参加することにより受験ができなかった者。
（エ） 資格試験（公務員試験、公的資格試験等）や就職活動（説明会、筆記試験、面接等）により受験ができなかった者。
（オ） 単位互換科目（大学コンソーシアム京都科目、滋賀県環びわ湖大学連携単位互換科目）の試験により受験ができなかった者。
（カ） ３年次生で単位認定の対象となるインターンシップ実習(協定型インターンシップ､大学コンソーシアム京都インターンシップ・プログラム）により受験ができなかった者。
（キ） 交通機関の遅延等により受験ができなかった者。
（ク） 交通事故や災害等により受験ができなかった者。
（ケ） 裁判員制度による裁判員（候補者）に選任されたことにより受験できなかった者。
（コ） その他、学部教授会が特に必要と認めた者。

ただし､その際､追試験受験願および欠席理由証明書（医師診断書､交通遅延証明書または事故理由書、就職試験等による場合は会社あるいは団体が発行する証明書等）をその科目の試験日を含めて４日以内（土・日・祝日は含まない。ただし、土曜日が試験日の場合は試験当日を含む４日以内。）に理工学部教務課窓口に提出しなければなりません。

なお、定期試験当日、医師の診断の結果、インフルエンザなどの流感により外出が制限され、定期試験を受験できなかった場合は、追試験申込期限内に理工学部教務課まで連絡してください（電話による連絡可)。

② 追試験の受験料は、１科目1,000円です。

③ 実技、実験・実習科目（例えば、「スポーツ技術学」)、レポート試験による科目、特別に指定された科目については、原則として追試験は行いません。

④ 追試験における評点は、最高100点です。

7．筆答試験時間

筆答試験時間割は、原則として試験14日前に掲示およびポータルにより発表します。
試験時間は、次のとおりです。

講　　時	開始時間	終　了　時　間	
		右記以外の全科目 （60分）	理工学部固有科目 （学部内共通科目 学科固有科目） （90分）
1講時	9：20	10：20	10：50
2講時	11：10	12：10	12：40
3講時	13：30	14：30	15：00
4講時	15：20	16：20	16：50
5講時	17：10	18：10	18：40

※2、4、5講時は通常の講義時間と異なるので注意すること。

8．レポート試験における不正行為

レポート試験については、既存文書からの不正な転用等が認められたとき（例えば、インターネット等から複写したような場合）は、当該レポートを無効扱いとし、単位認定をおこなわない場合があります。

参考 レポート提出要領

①　レポートの提出方法

（ア）　レポートは授業担当者の指示に従って提出すること。
（イ）　レポートは指示されたところに提出し、郵送の場合は宛名を確認の上、必ず「書留」で発送すること。
（ウ）　授業担当者に直接提出するように指示のあるものについて、事故を防ぐため事情のいかんを問わず、理工学部教務課窓口では一切取り扱わない。
（エ）　提出期限は厳守すること。（期限を経過したものは受理しない。）
（オ）　その他、指示に従わない場合は無効となる。

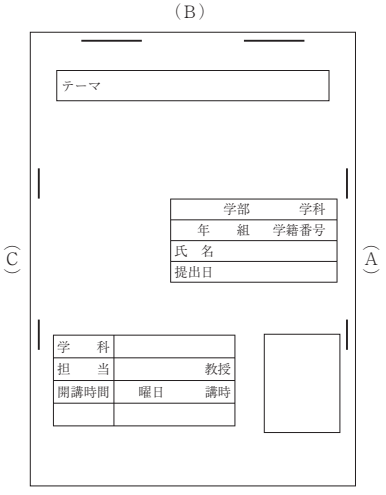
②　レポートの提出形式

用紙・規格等は次のとおりとする。

用紙種別	字数	大きさ	書き方	綴じ方	綴じ位置
龍大論文用紙	400字	B4判	縦書き	右側	A
龍大原稿用紙	400字	B4判	横書き	上側	B
レポート用紙		A4判	横書き	左側	C

●必ずホッチキスで綴じること。
●表紙の書き方、綴じ方は下図のとおり。（但し、担当者より別途指示がある場合は、指示に従うこと。）

表紙記入・綴じ方法



Ⅵ 教 育 支 援

理工学部には、学修に関することから学生生活まで、さまざまなサポート体制があります。ここでそのいくつかを紹介しますので、積極的に利用してください。

1．学科の委員

理工学部では、学科毎に教員が諸委員を担当して、学科の運営にあたっています。以下に、みなさんに関わりの大きい委員を紹介しますので、それぞれに関わる事について、なんでも相談してください。（各委員は１年毎に変更されます。担当教員は掲示します。）

担　当	担 当 内 容
学 科 主 任	総合的に学科の運営を担当します。
教 務 委 員	学科の授業運営を担当します。 時間割の作成や履修説明会なども行います。　２名の教員が担当します。
学生生活委員	学修以外の学生生活について、学生部と連携して担当します。
就職担当委員	就職活動について、キャリア開発部と連携して担当します。２名の教員が担当します。
学外実習実施委員	３年次科目「学外実習」の運営を担当します。

2．クラス担任制

入学してから各研究室に配属されるまで、全学生に対してクラス担任を配置します。どんなことでも気軽に相談してください。新入生オリエンテーションでのクラス会をはじめとして、食事会を実施するクラスもあります。また、学科全体が１クラスのような雰囲気で、学科全体の懇親会なども開かれます。

3．教員との面談

理工学部の専任教員との面談は、各自で行ってください。また、在室時間は、各研究室のドアのスケジュールシートを参考にしてください。

学科によっては、学科のＨＰに各教員のスケジュール表が示されています。

他学部の教員との面談も、各自で行ってください。研究室の所在や出校日などは理工学部教務課窓口で問い合わせてください。

非常勤の教員は、担当授業の曜講時以外は出校しておられませんので、できるだけ、授業の際に直接申し出てください。

教員によっては、オフィスアワーを実施している場合がありますので、そちらも利用してください。

4．T.A.制度

ほとんどの実験･実習科目に､大学院生などによるT.A.（Teaching Assistant）を配置し､教員と連携して、少人数による双方向・対話型のきめ細かな指導を行っています。

5．チューター制度

授業で十分に理解できなかった内容や、高校までの基礎的な内容など、学修に対する相談に大学院生などが個別に対応してくれます。チューターには､決められた時間･場所で待機している常駐型のチュータールームと、個人指導の個別型があります。チュータールームの実施日時は掲示板・ＨＰでお知らせします。個別型については、教務委員に相談してください。

6．L.A.制度

計算機実習室での自習をサポートするために、学生によるＬ.Ａ（Leaning Assistant）を配置しています。

7．ライティングセンター

当センターは、学生のみなさんにおけるアカデミックライティングの技術を向上させるための機関です。具体的には、卒業論文・卒業研究、レポート、ゼミ発表などに関する相談を受けつけます。何からはじめればいいのかわからないときや行き詰ったときなど、下記の開室期間を参照のうえ、自由に利用してください。相談には、本学所属の大学院生など、みなさんの先輩にあたるチューターが応じますので、本学に合った的確なアドバイスが受けられます。

◆場　　所　１号館１階　セルフラーニングルーム（講師控室のとなり）

◆開室日時　月・水・金　11：00 ～ 16：00（授業実施期間中）

8．その他

カウンセリングを行う学生相談室や、セクシュアル・ハラスメントに関する相談員も配置しています。

各相談窓口がわからない場合は、理工学部教務課窓口へ問い合わせてください。

教　育　課　程

Ⅰ　理工学部の教学理念と教育目標

理工学部は、日本の仏教系大学では初めての自然科学系学部で、情報化と国際化が著しい現代において、**科学と人間の調和**を最も重視し、技術の高度化のみならず精神文化の豊かさに対し貢献できる科学技術者の育成を教学の理念としています。

20世紀において科学技術は大きな発展を遂げ、われわれの生活に多大の貢献をしてきましたが、同時に環境に対して大きな負荷を与え、また精神文化や倫理にも少なからず影響を与えてきました。特に、科学技術に携わる人材の倫理観の欠如は、大きな社会的問題を引き起こしています。本学設立の基礎である仏教の思想と高い倫理性を基礎におき、最新の科学技術の高度な専門知識を備え、21世紀の社会に大いに貢献できる有為な人材を育てることこそ本学理工学部に与えられた使命であり、存在価値であります。

自然を学ぶことから出発した**理学**と、人間生活の向上に資することを目的とした**工学**とは引き離すことのできない自然科学の２大分野であり、共に急速に発展しています。これら最新の理学と工学を融合させることにより、新しい視点に立った学問の道を開き、若い世代に教育していくことによって、時代の要請にかない先端技術の発展に寄与し得る人材を育成することを理工学部の目標としています。このため、基礎から応用までバランスがとれ、科学全体を総合した教育課程を構成しています。

教養教育科目（共同開講科目）

人間性を高めるため、入学初年度に**仏教の思想**を必須科目として設定しています。また、他学部との共同開講である**教養**科目や**スポーツ科学**の受講を義務付け、科学偏重や視野の狭い技術者にならないような配慮をしています。また、国際化に対応して系統的な**英語教育**を実施し、その他の外国語の履修の機会や**倫理教育**科目を設定しています。

固有科目

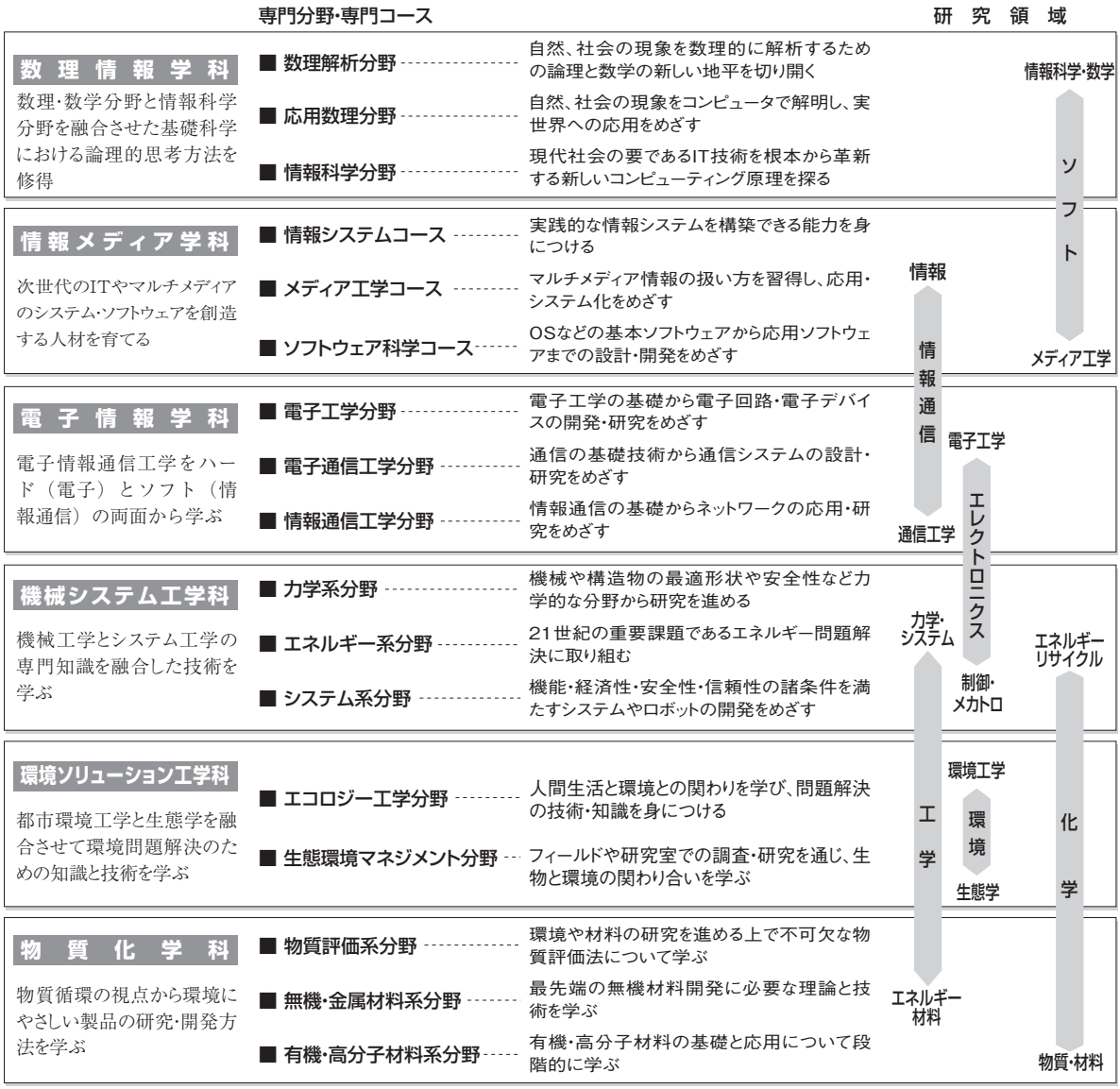
＜学部内共通科目＞

学部共通の基礎教育として、実践力のある技術者･研究者としての基礎を確立するために、情報リテラシー教育を含むコンピュータ関連科目を基礎から応用まで段階的に用意して、専門的な計算機実習、理工学基礎実験（物理実験）、学外実習や総合実習・特別演習を学部内共通の必修または選択必修科目とし、**基礎技術**の強化を行っています。

＜学科固有科目＞

専門科目については、各学科の特性に合わせたカリキュラムが編成されています。現代の自然科学を代表するキーワードは、**「情報」「システム」「エネルギー」「材料・物質」「環境」**です。これらを軸として、**数理情報学科**では数理科学と情報科学が、**情報メディア学科**では情報科学とメディア工学が、**電子情報学科**では電子工学と情報通信工学が、**機械システム工学科**では機械工学とシステム工学が、**環境ソリューション工学科**では都市環境工学と生態学が、**物質化学科**では材料・物質と化学が、それぞれ組み合わされた専門課程のカリキュラムが編成されています。さらに、個々の科目の内容を統合し応用する力を育てるために、**卒業研究**を高単位の必修科目とし、極めて重要視しています。なお、科目選択の幅を広げるため、制限内で他学科の科目の履修も認めています。

学科構成図



科学技術は日進月歩であり、社会が求める人材も変化して行きます。一旦設定した教育内容も時代の要請に応じて変化させていかなければなりません。理工学部が設立当時より継続している**学外実習**は、学生を企業に派遣し実習を行わせるものですが、学生自身が実社会において使われている最先端技術を知り、勉学の必要性を実感すると共に、社会が求めている人材や備えるべき知識についての情報を企業等から直接得る良い機会となります。また、企業との**共同研究**から得られる情報も大切です。これらの情報を基に、学生に付与すべき知識を見直しカリキュラムに反映していくことで、常に社会のニーズに即した教育内容となり、実践力をもつ人材を育てることができます。

同時にキャリア教育にも積極的に取り組み、将来に対する意識の啓発等のために「キャリアデザイン」と「キャリアプランニング」を開講しています。

幼少時代から科学技術に関する興味を持たせ、科学者の芽を育てていくことも大切です。理工学部では教職につく人材の育成にも努力しています。学科によって中学校教諭一種免許（数学・理科）、および高等学校教諭一種免許（数学、情報、工業、理科）を取得することができます。

Ⅱ　物質化学科の教学理念と教育目標

物質化学科では「グリーンケミストリー２１」を合言葉に、地球環境を視野に入れた化学の基礎および専門知識を修得し、それを応用できる力が養えるようにカリキュラムが設定されている。カリキュラムが全て修了したときに身につく学習・教育目標を以下のように設定している。

【学習・教育目標】

(A)生物・無生物を問わず、宇宙にある“もの”は全て平等であるとの考えに基づき、エネルギーや資源を利用する人間の視点に執着することなく、地球上における“もの”の共生や循環の考え方を身につける。**（共生・循環）**

(B)共生や循環の発想に基づき、環境にやさしい工業製品の製造･開発をはじめとする「グリーンケミストリー」の考え方や手法を身につける。**（グリーンケミストリー）**

（B1）科学技術が地球環境や社会に及ぼす影響についての基礎知識を身につける。

（B2）環境に配慮しながら化学の知識を“ものづくり”に応用する知識・能力を身につける。

(C)物質化学の知識・能力を「何のために、どのように使うか」を判断するための高い倫理観と健全な常識を身につける。**（技術者倫理）**

（C1）社会科学や人文科学などの素養に基づく健全な常識を身につける

（C2）科学技術者として社会から求められる基本的な倫理観を身につける

(D)数学、物理学、物理化学、無機化学、有機化学を含む科学的基礎知識をバランスよく学習し、これらの普遍的真理に基づいた論理的思考・柔軟な発想を身につける。**（化学の基礎）**

（D1）数学、物理学、情報技術などに関する基本的な知識・能力を身につける

（D2）物理化学、無機化学、有機化学の基礎知識をバランスよく身につける

（D3）総合的・多面的な基礎知識に基づき、論理的で柔軟な発想力を身につける

(E)物質化学の主要な分野である「物質評価」、「無機・金属」、「有機・高分子」のうち、いずれか一つの分野において高度な専門知識と応用能力を身につける。**（化学の応用）**

（E1）最低一つの専門分野において、高度な専門知識を身につける。
上記の専門知識を、それ以外の周辺分野の基礎知識と総合して、問題解決に応用する能力を身につける。

（E2）未知の問題に対して、それを解決に導くための具体的な手順を立案する能力を身につける。

（E3）上記の専門知識を、時代の進歩に即して自主的に更新する姿勢を身につける。

(F)自分の意見を正確に相手に伝えると同時に、相手の意見を充分聞き、尊重するために必要な考え方および国際的に通用するコミュニケーション基礎技術を習得する。ディスカッションを通じて叡智を集約することにより新しい構想をまとめ上げる能力を身につける。**（国際的コミュニケーション力）**

（F1）日本語による論理的な記述力、口頭発表能力、ディスカッション能力を身につける。

（F2）英語によるコミュニケーション基礎能力を身につける。

（F3）チームワークにより、与えられた条件の下で構想をまとめ上げる能力を身につける

これらの目標を達成するため次ページの表に示すような科目群が系統的に配置されている。また各学習・教育目標の達成度は各教科群の成績によって評価される。

実際に物質化学科の学生が履修する科目は＜共同開講科目＞、＜学部内共通科目＞、＜学科固有科目＞に

分類される。後に掲載しているカリキュラムフローチャートには＜学科固有科目＞を中心に、物質化学科のカリキュラムを簡潔に図示してある。この図ではカリキュラムの理解を助けるために、設置科目を５つのフロー（流れ）に沿って設置してある。まずフローⅠ（理工学基礎）とフローⅢ（物質化学の基礎と応用）に示す科目群で物質化学の基礎知識を修得し、順次より専門的な講義科目と演習・実験科目を履修する。最先端の材料開発や物質評価法を学ぶのはもちろんのことであるが、物質化学を勉強する上で地球環境に関する知識が不可欠である。このため、本学科では＜グリーンケミストリー＞（環境にやさしい化学）に関する科目を１年次から３年次まで連続して設置してある（フローⅡ）。４年次では、それまでに学んできた知識を総合的に活かして、最先端の研究テーマに取り組む。そして、１年間にわたり創意工夫して得られた研究成果を卒業論文にまとめ、成果発表を行う。

履修単位に関する具体的条件等は「設置科目」、「卒業・進級の要件」に表としてまとめてあるので注意事項も含めて熟読し、履修計画をたてること。

表　各学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ【2007年度以降入学生】

学習・教育目標			授業科目名							
			1年		2年		3年		4年	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(A) 共生・循環		必修	**仏教の思想A** 環境科学	**仏教の思想B**					特別研究	特別研究
		選必								
		選択	**共通科目**	**共通科目**	生態学概論	地球環境概論 **共通科目**				
(B) グリーンケミストリー	B1	必修	**環境科学**	**資源エネルギー論**						
		選必			**環境化学**					
		選択	共通科目	共通科目	共通科目 生態学概論	共通科目 **地球環境概論**				
	B2	必修	**物質化学総論**						特別研究	特別研究
		選必				グリーンプロセス工学	**化学リスク学**	**エネルギー循環工学**		
		選択					工業化学	**工業法規**		
(C) 技術者倫理	C1	必修	仏教の思想A **スポーツ技術学A**	仏教の思想B **スポーツ技術学B**			学外実習			
		選択	キャリアデザイン **共通科目**	**共通科目**	**共通科目** キャリアプランニング	**共通科目**				
	C2	必修	物質化学総論 環境科学	資源エネルギー論			学外実習		特別研究	特別研究
		選必			環境化学		化学リスク学	エネルギー循環工学		
		選択	入門セミナー	知的財産概論	**情報と職業** **MOT概論** **情報倫理**	**科学思想史** **工業経済** **MOT演習**		**工業法規**		
(D) 化学の基礎	D1	必修	**計算機基礎実習I** **数学I・演習** **物理学Ⅰ・演習**	**数学Ⅱ・演習** **物理学Ⅱ・演習**	**数学Ⅲ・演習** **化学工学概論** **物理学Ⅲ・演習**		化学英語演習			
		選択	**地学概論Ⅰ**	**地学概論Ⅱ** 自然観察実習	**生物学概論Ⅰ** **情報学概論** **工学概論** **生体情報概論**	**化学数学** **計算機基礎実習Ⅱ** **生物学概論Ⅱ** **人間工学** **物理学Ⅳ・演習**	電磁気学		特別講義	
	D2	必修	分析化学 無機化学Ⅰ・演習 有機化学Ⅰ・演習	物理化学Ⅰ・演習 無機化学Ⅱ・演習 有機化学Ⅱ・演習	物理化学Ⅱ・演習 無機化学Ⅲ 有機化学Ⅲ 高分子化学	物理化学Ⅲ 物理化学Ⅳ 無機化学Ⅳ 有機化学Ⅳ				
		選必			環境化学					
		選択	化学概論Ⅰ			高分子プロセス化学	量子化学 **生化学** 工業化学	工業法規		
	D3	必修	物質化学総論	**化学基礎実験**	**物理実験**	**物理化学実験**	学外実習 **無機合成化学実験** **有機合成化学実験**	**機器分析化学実験** **物質化学研究** **デザイン演習**	特別研究	特別研究
		選択	地学実験					生物学実験		

学習・教育目標			授業科目名							
			1年		2年		3年		4年	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(E) **化学の応用**	E1	必修						**科学技術英語** **物質化学研究デザイン演習**	**英語セミナー** **特別研究**	**特別研究**
		選必				グリーンプロセス工学	化学リスク学	エネルギー循環工学		
		選択					工業化学 **機器分析化学** **結晶材料工学** セラミック材料工学 **有機構造解析**	**分子設計化学** **構造解析学** **ナノ材料工学** **機能材料工学** **有機材料化学** **高分子材料化学**		
	E2	必修					**無機合成化学実験** **学外実習**	**物質化学研究デザイン演習**	**特別研究**	**特別研究**
	E3	必修							**特別研究**	**特別研究**
(F) **コミュニケーション能力**	F1	必修		化学基礎実験	物理実験	物理化学実験	学外実習 有機合成化学実験	機器分析化学実験 物質化学研究 デザイン演習	英語セミナー	
		選択	地学実験 **入門セミナー** **キャリアデザイン**	自然観察実習			**プレゼンテーション演習**	生物学実験		
	F2	必修	**英語ⅠA** **英語ⅠB**	**英語ⅡA** **英語ⅡB**	**英語Ⅲ**	**英語Ⅳ**	**化学英語演習**	科学技術英語	英語セミナー	
		選択	**共通科目**	**共通科目**	**共通科目**	**共通科目**				
	F3	必修					学外実習		特別研究	特別研究
		選択	**入門セミナー**							

⚠ 注意事項

1）授業科目名で、太字のものは、それぞれの学習・教育目標を主体的に含んでいる科目、その他は付随的に含んでいる科目。
2）共通科目については、必修科目を除き科目名を省略した。
3）下線つきは随意科目であり、卒業要件単位には含まれない。

表　各学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ【2004年度～2006年度入学生】

学習・教育目標			授業科目名							
			1年		2年		3年		4年	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(A) 共生・循環		必修	**仏教の思想A** 環境科学	**仏教の思想B**					特別研究	特別研究
		選必				物質循環工学 資源工学		環境生態学		
		選択	**共通科目**	**共通科目**	生態学概論	地球環境概論				
(B) グリーンケミストリー	B1	必修	**環境科学**	**資源エネルギー論**	環境化学					
		選必				物質循環工学 資源工学		環境生態学		
		選択	共通科目	共通科目	共通科目 生態学概論	共通科目 **地球環境概論**				
	B2	必修	**物質化学総論**						特別研究	特別研究
		選必					**化学リスク学 エネルギー循環工学**	グリーンプロセス工学		
		選択					工業化学	**工業法規**		
(C) 技術者倫理	C1	必修	仏教の思想A **スポーツ技術学A**	仏教の思想B **スポーツ技術学B**			学外実習			
		選択	**共通科目** キャリアデザイン	**共通科目**	**共通科目** キャリアプランニング	**共通科目**				
	C2	必修	物質化学総論 環境科学	資源エネルギー論	環境化学		学外実習		特別研究	特別研究
		選必				物質循環工学 資源工学	化学リスク学 エネルギー循環工学			
		選択	入門セミナー	知的財産概論	**情報と職業 MOT概論**	**科学思想史 工業経済 MOT演習**		**工業法規**		
(D) 化学の基礎	D1	必修	**計算機基礎実習I**	**数学 I 物理学 I**	**数学 II 物理学 II 化学工業概論**		化学英語演習			
		選択	**地学概論 I** 数学序論 物理学序論	**地学概論 II** 生物多様性実習B	**生物学概論 I 情報学概論 工学概論 生体情報概論**	**数学III 物理学III** 計算機基礎実習II **生物学概論 II 人間工学**			特別講義	
	D2	必修	分析化学 無機化学 I 有機化学 I	物理化学 I 無機化学 II 有機化学 II	物理化学 II 有機化学 III 高分子化学 環境化学	物理化学 III 固体化学				
		選必								
		選択	化学概論 I		電子化学		量子化学 無機プロセス化学 **生化学** 工業化学 高分子合成化学	工業法規		
	D3	必修	物質化学総論	**理工学基礎実験B**	**理工学基礎実験A**	**物理化学実験**	学外実習 **無機合成化学実験 有機合成化学実験**	**機器分析化学実験 物質化学研究 デザイン演習**	特別研究	特別研究
		選択	地学実験					生物学実験		

学習・教育目標			授業科目名							
			1年		2年		3年		4年	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(E) **化学の応用**	E1	必修						**科学技術英語** **物質化学研究** **デザイン演習**	**英語セミナー** **特別研究**	**特別研究**
		選必				物質循環工学 資源工学	化学リスク学 エネルギー循環工学	環境生態学 グリーンプロセス工学		
		選択			**セラミック材料工学**	**有機機器分析化学**	工業化学 **無機機器分析化学** **環境分析化学** **結晶材料工学**	**有機・高分子化学演習** **分子設計化学** **構造解析学** **ナノ材料工学** **機能材料工学** **高分子物性** **有機材料化学**	**無機・物理化学演習**	
	E2	必修					**無機合成化学実験** **学外実習**	**物質化学研究** **デザイン演習**	**特別研究**	**特別研究**
	E3	必修							**特別研究**	**特別研究**
(F) **コミュニケーション能力**	F1	必修		理工学基礎実験B	理工学基礎実験A	物理化学実験	学外実習 有機合成化学実験	機器分析化学実験 物質化学研究 デザイン演習	セミナー	
		選択	地学実験 **入門セミナー**	生物多様性実習B			**プレゼンテーション演習**	生物学実験		
	F2	必修	**英語ⅠA** **英語ⅠB**	**英語ⅡA** **英語ⅡB**	**英語Ⅲ**	**英語Ⅳ**	**化学英語演習**	科学技術英語	セミナー	
		選択	**共通科目**	**共通科目**	**共通科目**	**共通科目**				
	F3	必修					学外実習		特別研究	特別研究
		選択	**入門セミナー**							

⚠ 注意事項

1）授業科目名で、太字のものは、それぞれの学習・教育目標を主体的に含んでいる科目、その他は付随的に含んでいる科目。

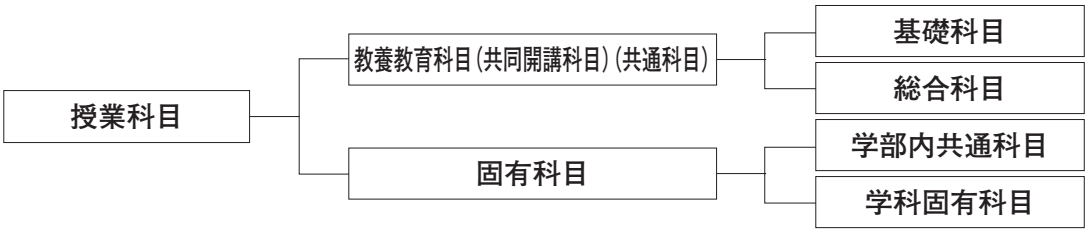
2）共通科目については、必修科目を除き科目名を省略した。

3）下線つきは随意科目であり、卒業要件単位には含まれない。

Ⅲ　教育課程の編成・履修方法

1．授業科目の区分

理工学部の教育課程（カリキュラム）の編成は、「教養教育科目（共同開講科目）（共通科目）」「固有科目」から編成され、さらに、教養教育科目（共同開講科目）（共通科目）は「基礎科目」「総合科目」、固有科目は「学部内共通科目」「学科固有科目」で編成されます。これらの分類のことを授業科目の区分といいます。



⑴　**教養教育科目（共同開講科目）（共通科目）**

教養教育科目（共同開講科目）（共通科目）は、固有科目との有機的な結びつきのもとに、幅広い教養と総合的判断力を養うことを目的とし、基礎科目、総合科目から構成されています。瀬田学舎の３学部が共同して開講します。

⑵　**固有科目**

固有科目は、専門領域に関する授業科目であり、理工学部共通の基礎教育を行う学部内共通科目と、各学科専門分野の基礎および応用を教育する学科固有科目に分類されます。

2．必修科目・選択必修科目・選択科目・随意科目

すべての授業科目は、必修科目・選択必修科目・選択科目・随意科目のいずれかに指定されています。

⑴　**必修科目**

卒業要件を満たすために必ず履修しなければならない科目です。この科目の単位が未修得の場合は、修得単位数の合計が卒業要件単位数を超えていても、卒業の認定を受けることができません。

⑵　**選択必修科目**

指定された科目群の内から決められた数の科目を任意に選択して履修しなければならない科目です。この科目も必修科目と同じく決められただけの単位数が未修得であれば、卒業の認定を受けることができません。また、これらの科目は、指定された単位数を超えて修得した場合、超えた分の単位数を選択科目の単位数の一部に充てることができます。なお、数理情報学科では「グループ必修科目」（2006年度以前入学生）／「コア選択必修科目」（2007年度以降入学生）と呼びます。

⑶　**選択科目**

どの科目を履修するかはすべて学生の自由に任されている科目です。ただし、卒業要件として定められた単位数は修得する必要があり、この要件を満たしていない場合は卒業の認定を受けることができません。

⑷　**随意科目**

単位の認定はされますが、卒業要件の単位数には含まれない科目です。「数学序論」「物理学序論」のような序論科目や、各種の資格取得にかかわる科目が該当します。

3．各科目の履修方法について

⑴　教養教育科目（共同開講科目）（共通科目）についての履修方法は、入学年度により異なるので注意してください。

入学年度	掲載ページ
2008年度以降入学生	P29 ～ P33
2003～2007年度入学生	P34 ～ P37
2001・2002年度入学生	P38 ～ P41

⑵　固有科目についての履修方法は、入学年度により異なるので注意してください。

入学年度	掲載ページ
2007年度以降入学生	P46 ～ P51
2004～2006年度入学生	P52 ～ P57
2000～2003年度入学生	P58 ～ P63

❶教養教育科目の履修方法　【2008年度以降入学生】

教養教育とは

（1）教養教育の目的と意義

本学の教養教育は、建学の精神を具現化する高い倫理性や豊かな人間性とともに、知性・感性を兼ねそなえ、現代社会でたくましく生きる力を持った人間の形成を目的として開講されています。

つまり、幅広い知識と知的な諸技法の修得に基づく論理的思考力の涵養により、社会性をもって現実を正しく理解する総合的な判断力と、国際的なコミュニケーション能力を持った「専門性を身につけた教養人の育成」の一翼を担うことを目的としており、その達成のために以下の目標を掲げています。

1. コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力の向上
2. 歴史認識と社会認識に基づく自己の確認と自律
3. 学問や科学技術が問いかけている諸課題・問題の理解
4. 知的訓練ないし知的鍛錬

（2）教養教育科目とは

本学の教養教育は、主に教養教育科目として提供されており、瀬田学舎では、基礎科目（６分野）と総合科目（「情報」「福祉」「国際」「環境」をキーワードとする）にわけて、学際的・系統的履修を可能にしています。

■基礎科目

「基礎科目」は、仏教、スポーツ、外国語、人文科学、社会科学、自然科学の各分野からなり、幅広く社会全体を見渡す知識や教養を深めるために、学部の専門を問わず大学における学修の基礎となることを目的とする全学共通の授業科目です。幅広い分野の授業科目を可能な限り受講することをすすめます。

１．必修科目の履修について

「基礎科目」として開設している科目の中から、以下の科目を必修科目として合計12単位を履修しなければなりません。

分野	科目名	単位数	合計単位数
仏教	仏教の思想Ａ、仏教の思想Ｂ	各２単位	４単位
外国語	英語ＩＡ、英語ＩＢ、英語ⅡＡ、英語ⅡＢ、英語Ⅲ、英語Ⅳ	各１単位	６単位
スポーツ	スポーツ技術学Ａ、スポーツ技術学Ｂ	各１単位	２単位

（1）仏教の思想の履修について

「仏教の思想Ａ・Ｂ（各２単位）」は、配当された学期において必ず履修してください。

ただし、配当された学期で単位を修得できなかった場合は、次年次以降に再履修しなければなりませんが、この場合は、別途指示いたします。

（2）スポーツ技術学の履修について

「スポーツ技術学Ａ、Ｂ（各１単位）」は、配当された学期において必ず履修してください。

ただし、配当された学期で単位を修得できなかった場合は、次年次以降再履修しなければなりません。この場合は、別途指示いたします。

（3）英語の履修について

必修外国語として英語６単位を履修しなければなりません。配当された学期で単位を修得できなかった場合は、次学期以降再履修しなければなりません。この場合は、再履修クラスを予備登録後、履修してください。

－外国語科目の意義－

大学における外国語教育の目的は、それぞれの外国語の運用能力を養うことだけではありません。母国語とは異質の言語に接することにより、各民族の思考様式を反映している言語にたいする認識を深め、外国の芸術、文化をより深く理解する能力を養うことがその目的です。

また、母国語との間に行われる訳解の日常作業は、外国語能力の養成のみならず、一般に論理的思考能力の錬磨のため伝統的に大きな役割を果たしてきました。さらにそれが日本語を客観的に眺め、学生が自分の日本語能力を検証し得る数少ない機会の一つとなっています。

これらが一体となって大学生活に必須とされる学問的基礎訓練の一環をなしています。この目標に近づくためには、大学の外国語教育に対する正しい理解を持つとともに、訓練にたえうる忍耐力、持続力が不可欠です。教室外での自発的研修ももちろん必要です。

＜習熟度別クラス編成について＞

必修外国語である英語のクラスは、習熟度別クラス編成を行っています。これは、既習の英語の知識、能力を踏まえつつ、英語圏の文化に対する理解および情報伝達のための英語力（読む、書く、聴く、話す）の総合的向上を図るために、より学生の実態に即した教育を行うためのものです。習熟度別クラスについては、入学時に実施する英語クラス編成テストの得点結果によって編成します。

＜科目概要＞

英語ＩＡ・ＩＢ	基礎的な英語力の見直し
英語ⅡＡ・ⅡＢ	「Ｉ」を発展させた基礎力の強化
英語Ⅲ・Ⅳ	「Ｉ、Ⅱ」をもとに４技能（Reading、Writing、Speaking、Listening）のさらなる養成

２．学科指定・クラス指定

必修科目は、学科指定もしくはクラス指定がありますので別途指示に従って履修登録してください。

３．予備登録について

次の科目については、教育環境、授業密度を考慮し、受講者数を適正規模に調整するため予備登録制がとられています。これらの科目は通常の履修登録に先立って行われます。その結果発表にしたがって履修登録してください。

⑴**「スポーツ技術学Ａ・Ｂ」**は、予備登録が必要となります。別途指示に従ってください。

⑵**「英語（再）」**は、予備登録が必要となります。先着順となりますので別途指示に従ってください。

⑶**「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「コリア語」**の各科目は、予備登録が必要となります。

⑷**「英語セミナー」**の各科目は、予備登録が必要となります。

４．先修制について

先修制とは、ある科目を履修する場合に、特別に指定された科目（単位）を修得していなければ、その科目を履修することができない制度です。これは、その科目の学修成果をより高めるために設けられた「学修の順序」です。

＜先修制授業科目＞

① **ドイツ語セミナーＡもしくは、Ｂ**を履修するためには「ドイツ語ＩＡ・ＩＢ・ＩＣ・ＩＤ（各１単位）」のいずれか１単位を修得していなければならない。

② **フランス語セミナーＡもしくは、Ｂ**を履修するためには「フランス語ＩＡ・ＩＢ・ＩＣ・ＩＤ（各１単位）」のいずれか１単位を修得していなければならない。

③ **中国語セミナーＡもしくは、Ｂ**を履修するためには「中国語ＩＡ・ＩＢ・ＩＣ・ＩＤ（各１単位）」のいずれか１単位を修得していなければならない。

④ **コリア語セミナーＡもしくは、Ｂ**を履修するためには「コリア語ＩＡ・ＩＢ・ＩＣ・ＩＤ（各１単位）」のいずれか１単位を修得していなければならない。

＜英語以外の外国語概要＞

ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語ＩＡ・ＩＢ	「未知なることば」への入門
ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語ＩＣ・ＩＤ	総合的な言語運用能力の獲得
ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語セミナーＡ、セミナーＢ	異文化へのアプローチ

■総合科目

「総合科目」は、２１世紀のキーワードである『情報』・『福祉』・『国際』・『環境』を中心として、幅広い視野に立脚しつつ、現代のテーマ・問題・ニーズなどに対応した科目を開設しています。「基礎科目」は、主として分野によって科目を開設していますが、「総合科目」は、分野の枠組みを越えた科目群であり、「基礎科目」につづいてさらに幅広い視野をもち人間的に成長するために構成されたものです。「基礎科目」と同様にできるだけ多くの授業科目を履修し、在学期間中の自己研鑽に努めることを望みます。

５．予備登録について（総合科目）

次の科目については、教育環境、授業密度を考慮し、受講者数を適正規模に調整するため予備登録制がとられています。これらの科目は通常の履修登録に先立って行われます。その結果発表にしたがって履修登録してください。

⑴「**自然観察法**」は、予備登録が必要となります。

設置科目　【2008年度以降入学生】

■基礎科目

科目名	単位数		配当年次 1年次 前	1年次 後	2年次 前	2年次 後
仏教の思想A	**必修**	**2**	○			
仏教の思想B	**必修**	**2**		○		
スポーツ技術学A	**必修**	**1**	○			
スポーツ技術学B	**必修**	**1**		○		
英語ⅠA	**必修**	**1**	○			
英語ⅠB	**必修**	**1**	○			
英語ⅡA	**必修**	**1**		○		
英語ⅡB	**必修**	**1**		○		
英語Ⅲ	**必修**	**1**			○	
英語Ⅳ	**必修**	**1**				○
英語セミナーA1	選択	2	○			
英語セミナーA2	選択	2		○		
英語セミナーB1	選択	2			○	
英語セミナーB2	選択	2				○
英語セミナーC1	選択	2			○	
英語セミナーC2	選択	2				○
英語セミナーD1	選択	2			○	
英語セミナーD2	選択	2				○
英語セミナーE1	選択	2			○	
英語セミナーE2	選択	2				○
英語セミナーF1	選択	2			○	
英語セミナーF2	選択	2				○
ドイツ語ⅠA	選択	1	○			
ドイツ語ⅠB	選択	1		○		
ドイツ語ⅠC	選択	1	○			
ドイツ語ⅠD	選択	1		○		
ドイツ語セミナーA	選択	2			○	
ドイツ語セミナーB	選択	2				○
フランス語ⅠA	選択	1	○			
フランス語ⅠB	選択	1		○		
フランス語ⅠC	選択	1	○			
フランス語ⅠD	選択	1		○		
フランス語セミナーA	選択	2			○	
フランス語セミナーB	選択	2				○
中国語ⅠA	選択	1	○			
中国語ⅠB	選択	1		○		
中国語ⅠC	選択	1	○			
中国語ⅠD	選択	1		○		
中国語セミナーA	選択	2			○	
中国語セミナーB	選択	2				○

科目名	単位数		配当年次 1年次 前	1年次 後	2年次 前	2年次 後
コリア語ⅠA	選択	1	○			
コリア語ⅠB	選択	1		○		
コリア語ⅠC	選択	1	○			
コリア語ⅠD	選択	1		○		
コリア語セミナーA	選択	2			○	
コリア語セミナーB	選択	2				○
文学入門	選択	2	○	○		
哲学入門	選択	2	○	○		
心理学入門	選択	2	○	○		
教育原論A	選択	2	○			
教育原論B	選択	2		○		
発達と教育A	選択	2			○	
発達と教育B	選択	2				○
歴史入門	選択	2			○	○
倫理学入門	選択	2		○		
言語学入門	選択	2	○			
論理学入門	選択	2	○	○		
法学入門	選択	2	○			
日本国憲法	選択	2		○		
政治学入門	選択	2	○	○		
統計入門	選択	2		○		
社会学入門	選択	2	○	○		
経済学入門	選択	2	○	○		
社会思想史入門	選択	2			○	○
★生活の中の数学	選択	2	○			
★生活の中の物理	選択	2		○		
※★生活の中の化学	選択	2		○		
★生命と科学	選択	2			○	
★生活の中の統計技術	選択	2	○			

⚠注意事項

1）★印の５科目のうち、卒業要件単位として認めるのは、１科目２単位まで。（余剰分は、フリーゾーンにも計上されない。）

2）※印「**生活の中の化学**」について、物質化学科の学生は履修不可。

■総合科目

	科目名	単位数		配当年次				
				1年次		2年次		
				前	後	前	後	
	情報社会とメディア	選択	2	○	○			
	現代社会とマス・メディア	選択	2			○		
	情報と人間	選択	2		○			
	スポーツ文化論	選択	2			○	○	
	情報倫理	選択	2			○		
	現代社会と福祉	選択	2	○				
	メディアにみる福祉	選択	2		○			
	世界の福祉	選択	2			○		
	国際社会と日本A	選択	2			○		※2009年度は後期開講
	国際社会と日本B	選択	2				○	
	国際社会と日本C	選択	2			○		※2009年度は後期開講
	日本の文化	選択	2		○			
	アジアの文化	選択	2			○	○	
	欧米の文化	選択	2			○	○	
	海外英語研修	選択	2		○			
	科学技術史	選択	2	○	○			
	現代の技術	選択	2		○			
	環境と倫理	選択	2			○		※2009年度は後期開講
	環境と人間A	選択	2			○	○	
	環境と人間B	選択	2			○	○	
*	自然観察法	選択	2			○		
	人権論A	選択	2	○				
	人権論B	選択	2		○			
	平和学入門	選択	2	○	○			
	ジェンダー論	選択	2	○				
	生命と共生	選択	2	○	○			
	人間と社会と法	選択	2			○		
	生活の中の宗教	選択	2	○	○			
	現代社会と宗教	選択	2	○	○			
	現代社会とスポーツ	選択	2			○	○	
	健康とスポーツ	選択	2	○	○			
	大学生入門	選択	2	○				※2010年度以降不開講
	歎異抄の思想Ⅰ	選択	2			○		
	歎異抄の思想Ⅱ	選択	2				○	
	教養教育科目特別講義	選択	2	○				

⚠注意事項

1）＊自然観察法について、環境ソリューション工学科の学生は履修不可。

❶共同開講科目の履修方法　【2003年度～ 2007年度入学生】

■基礎科目

「基礎科目」は、仏教、スポーツ、外国語、人文科学、社会科学、自然科学の各分野からなり、幅広く社会全体を見渡す知識や教養を深めるために、学部の専門を問わず大学における学修の基礎となることを目的とする全学共通の授業科目です。幅広い分野の授業科目を可能な限り受講することをすすめます。

1．必修科目の履修について

「基礎科目」として開設している科目の中から、以下の科目を必修科目として合計12単位を履修しなければなりません。

分野	科目名	単位数	合計単位数
仏教	仏教の思想Ａ、仏教の思想Ｂ	各２単位	４単位
スポーツ	スポーツ技術学Ａ、スポーツ技術学Ｂ	各１単位	２単位
外国語	英語ＩＡ、英語ＩＢ、英語ⅡＡ、英語ⅡＢ、英語Ⅲ、英語Ⅳ	各１単位	６単位

⑴　仏教の思想の履修について

「仏教の思想Ａ・Ｂ（各２単位)」は、配当された学期において必ず履修してください。

ただし、配当された学期で単位を修得できなかった場合は、次年次以降に再履修しなければなりませんが、この場合は、別途指示いたします。

⑵　スポーツ技術学の履修について

「スポーツ技術学Ａ・Ｂ（各１単位)」は、配当された学期において必ず履修してください。

ただし、配当された学期で単位を修得できなかった場合は、次年次以降再履修しなければなりません。この場合は、別途指示いたします。

⑶　英語の履修について

必修外国語として英語６単位を履修しなければなりません。配当された学期で単位を修得できなかった場合は、次学期以降再履修しなければなりません。この場合は、再履修クラスを予備登録後、履修してください。

－外国語科目の意義－

大学における外国語教育の目的は、それぞれの外国語の運用能力を養うことだけではありません。母国語とは異質の言語に接することにより、各民族の思考様式を反映している言語にたいする認識を深め、外国の芸術、文化をより深く理解する能力を養うことがその目的です。

また、母国語との間に行われる訳解の日常作業は、外国語能力の養成のみならず、一般に論理的思考能力の錬磨のため古来大きな役割を果たしてきました。さらにそれが日本語を客観的に眺め、学生が自分の日本語能力を検証し得る数少ない機会の一つとなっています。

これらが一体となって大学生活に必須とされる学問的基礎訓練の一環をなしています。この目標に近づくためには、大学の外国語教育にたいする正しい理解を持つとともに、訓練にたえうる忍耐力、持続力が不可欠です。教室外での自発的研修ももちろん必要です。

＜習熟度別クラス編成について＞

必修外国語である英語のクラスは、習熟度別クラス編成を行っています。これは、既習の英語の知識、能力を踏まえつつ、英語圏の文化に対する理解及び情報伝達のための英語力（読む、書く、聴く、話す）

の総合的向上を図るために、より学生の実態に即した教育を行うためのものです。習熟度別クラスの編成方法については、入学時に実施する英語クラス編成テストの得点結果によって編成します。

＜科目概要＞

英語ＩＡ・ＩＢ	基礎的な英語力の見直し
英語ⅡＡ・ⅡＢ	「Ｉ」を発展させた基礎力の強化
英語Ⅲ・Ⅳ	「Ｉ、Ⅱ」をもとに４技能（Reading、Writing、Speaking、Listening）のさらなる養成

２．学科指定・クラス指定

必修科目は、学科指定もしくはクラス指定がありますので別途指示に従って履修登録してください。

３．予備登録について

次の科目については、教育環境、授業密度を考慮し、受講者数を適正規模に調整するため予備登録制がとられています。これらの科目は通常の履修登録に先立って行われます。その結果発表にしたがって履修登録してください。

⑴ 「**スポーツ技術学Ａ・Ｂ**」は、予備登録が必要となります。別途指示に従ってください。
⑵ 「**英語（再）**」は、予備登録が必要となります。先着順となりますので別途指示に従ってください。
⑶ 「**ドイツ語**」、「**フランス語**」、「**中国語**」、「**コリア語**」の各科目は、予備登録が必要となります。
⑷ 「**英語セミナー**」の各科目は、予備登録が必要となります。

４．先修制について

先修制とは、ある科目を履修する場合に、特別に指定された科目（単位）を修得していなければ、その科目を履修することができない制度です。これは、その科目の学修成果をより高めるために設けられた「学修の順序」です。

＜先修制授業科目＞

① **ドイツ語セミナーＡもしくは、Ｂ**を履修するためには「ドイツ語ＩＡ・ＩＢ・ＩＣ・ＩＤ（各１単位）」のいずれか１単位を修得していなければならない。
② **フランス語セミナーＡもしくは、Ｂ**を履修するためには「フランス語ＩＡ・ＩＢ・ＩＣ・ＩＤ（各１単位）」のいずれか１単位を修得していなければならない。
③ **中国語セミナーＡもしくは、Ｂ**を履修するためには「中国語ＩＡ・ＩＢ・ＩＣ・ＩＤ（各１単位）」のいずれか１単位を修得していなければならない。
④ **コリア語セミナーＡもしくは、Ｂ**を履修するためには「コリア語ＩＡ・ＩＢ・ＩＣ・ＩＤ（各１単位）」のいずれか１単位を修得していなければならない。

＜英語以外の外国語概要＞

ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語ＩＡ・ＩＢ	「未知なることば」への入門
ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語ＩＣ・ＩＤ	総合的な言語運用能力の獲得
ドイツ語、フランス語、中国語、コリア語セミナーＡ、セミナーＢ	異文化へのアプローチ

■総合科目

「総合科目」は、21世紀のキーワードである『情報』・『福祉』・『国際』・『環境』を中心として、幅広い視野に立脚しつつ、現代のテーマ・問題・ニーズなどに対応した科目を開設しています。「基礎科目」は、主として分野によって科目を開設していますが、「総合科目」は、分野の枠組みを越えた科目群であり、「基礎

科目」につづいてさらに幅広い視野をもち人間的に成長するために構成されたものです。「基礎科目」と同様にできるだけ多くの授業科目を履修し、在学期間中の自己研鑽に努めることを望みます。

5．予備登録について（総合科目）

次の科目については、教育環境、授業密度を考慮し、受講者数を適正規模に調整するため予備登録制がとられています。これらの科目は通常の履修登録に先立って行われます。その結果発表にしたがって履修登録してください。

⑴ 「**自然観察法**」は、予備登録が必要となります。

設置科目 【2003年度～ 2007年度入学生】

■基礎科目

科目名	単位数		配当年次 1年次 前	1年次 後	2年次 前	2年次 後
仏教の思想A	**必修**	**2**	○			
仏教の思想B	**必修**	**2**		○		
スポーツ技術学A	**必修**	**1**	○			
スポーツ技術学B	**必修**	**1**		○		
英語ⅠA	**必修**	**1**	○			
英語ⅠB	**必修**	**1**	○			
英語ⅡA	**必修**	**1**		○		
英語ⅡB	**必修**	**1**		○		
英語Ⅲ	**必修**	**1**			○	
英語Ⅳ	**必修**	**1**				○
英語セミナーA1	選択	2	○			
英語セミナーA2	選択	2		○		
英語セミナーB1	選択	2			○	
英語セミナーB2	選択	2				○
英語セミナーC1	選択	2			○	
英語セミナーC2	選択	2				○
英語セミナーD1	選択	2			○	
英語セミナーD2	選択	2				○
英語セミナーE1	選択	2			○	
英語セミナーE2	選択	2				○
英語セミナーF1	選択	2			○	
英語セミナーF2	選択	2				○
ドイツ語ⅠA	選択	1	○			
ドイツ語ⅠB	選択	1		○		
ドイツ語ⅠC	選択	1	○			
ドイツ語ⅠD	選択	1		○		
ドイツ語セミナーA	選択	2			○	
ドイツ語セミナーB	選択	2				○
フランス語ⅠA	選択	1	○			
フランス語ⅠB	選択	1		○		
フランス語ⅠC	選択	1	○			
フランス語ⅠD	選択	1		○		
フランス語セミナーA	選択	2			○	
フランス語セミナーB	選択	2				○
中国語ⅠA	選択	1	○			
中国語ⅠB	選択	1		○		
中国語ⅠC	選択	1	○			
中国語ⅠD	選択	1		○		
中国語セミナーA	選択	2			○	
中国語セミナーB	選択	2				○

	科目名	単位数		配当年次 1年次 前	1年次 後	2年次 前	2年次 後
	コリア語ⅠA	選択	1	○			
	コリア語ⅠB	選択	1		○		
	コリア語ⅠC	選択	1	○			
	コリア語ⅠD	選択	1		○		
	コリア語セミナーA	選択	2			○	
	コリア語セミナーB	選択	2				○
	文学入門	選択	2	○	○		
	哲学入門	選択	2	○	○		
	心理学入門	選択	2	○	○		
	教育原論A	選択	2	○			
	教育原論B	選択	2		○		
	発達と教育A	選択	2			○	
	発達と教育B	選択	2				○
	歴史入門	選択	2			○	○
	倫理学入門	選択	2		○		
	言語学入門	選択	2	○	○		
	論理学入門	選択	2	○	○		
	法学入門	選択	2	○			
	日本国憲法	選択	2		○		
	政治学入門	選択	2	○	○		
	統計入門	選択	2		○		
	社会学入門	選択	2	○	○		
	経済学入門	選択	2	○	○		
	社会思想史入門	選択	2			○	○
★	生活の中の数学	選択	2	○			
★	生活の中の物理	選択	2		○		
※★	生活の中の化学	選択	2		○		
★	生命と科学	選択	2			○	
★	生活の中の統計技術	選択	2	○			

⚠注意事項

1）★印の５科目のうち、卒業要件単位として認めるのは、１科目２単位まで。（余剰分は、フリーゾーンにも計上されない。）

2）※印「**生活の中の化学**」について、物質化学科の学生は履修不可。

■総合科目

	科目名	単位数		配当年次				
				1年次		2年次		
				前	後	前	後	
	情報社会とメディア	選択	2	○	○			
	現代社会とマス・メディア	選択	2			○		
	情報と人間	選択	2		○			
	スポーツ文化論	選択	2			○	○	
	情報倫理	選択	2			○		
	現代社会と福祉	選択	2	○				
	メディアにみる福祉	選択	2		○			
	世界の福祉	選択	2			○		
	国際社会と日本A	選択	2			○		※2009年度は後期開講
	国際社会と日本B	選択	2			○		
	国際社会と日本C	選択	2			○		※2009年度は後期開講
	日本の文化	選択	2		○			
	アジアの文化	選択	2			○	○	
	欧米の文化	選択	2			○	○	
	海外英語研修	選択	2		○			
	科学技術史	選択	2	○	○			
	現代の技術	選択	2		○			
	環境と倫理	選択	2			○		
	環境と人間A	選択	2			○	○	
	環境と人間B	選択	2			○	○	
*	自然観察法	選択	2			○		
	人権論A	選択	2	○				
	人権論B	選択	2		○			
	平和学入門	選択	2	○	○			
	ジェンダー論	選択	2	○				
	生命と共生	選択	2	○	○			
	人間と社会と法	選択	2			○		
	生活の中の宗教	選択	2	○	○			
	現代社会と宗教	選択	2	○	○			
	現代社会とスポーツ	選択	2			○	○	
	健康とスポーツ	選択	2		○			
	大学生入門	選択	2	○				※2010年度以降不開講
	歎異抄の思想Ⅰ	選択	2			○		
	歎異抄の思想Ⅱ	選択	2				○	
	共同開講科目特別講義	選択	2	○				

⚠注意事項

1）＊自然観察法について、環境ソリューション工学科の学生は履修不可。

❶共通科目の履修方法　【2001・2002年度入学生】

■基礎科目

「基礎科目」は、人文、社会、自然、語学、スポーツ分野からなり、幅広く社会全体を見渡す知識や教養を深めるために、学部の専門を問わず大学における学修の基礎となることを目的とする全学共通の授業科目です。幅広い分野の授業科目を可能な限り受講することをすすめます。

1．必修科目の履修について

「基礎科目」として開設されている科目の中から、以下の科目を必修科目として合計12単位を履修しなければなりません。

分野	科目名	単位数	合計単位数
仏教	仏教の思想Ａ、仏教の思想Ｂ	各２単位	４単位
スポーツ	スポーツ技術学Ａ、スポーツ技術学Ｂ	各１単位	２単位
外国語	英語ＩＡ、英語ＩＢ、英語ⅡＡ、英語ⅡＢ、英語Ⅲ、英語Ⅳ	各１単位	６単位

⑴　仏教の思想の履修について

「仏教の思想Ａ・Ｂ（各２単位）」は必修科目であり、配当された学期において必ず履修してください。ただし、配当された学期で単位を得られなかった場合は、次年次以降に再履修しなければなりません。この場合は、クラス指定は行いません。

⑵　スポーツ技術学の履修について

「スポーツ技術学Ａ・Ｂ（各１単位）」は、配当された学期において必ず履修してください。

ただし、配当された学期で単位を得られなかった場合は、次年次以降に再履修しなければなりません。この場合は、別途指示いたします。

⑶　英語の履修について

必修外国語として英語６単位を履修しなければなりません。配当された学期で単位を得られなかった場合は、次学期以降再履修しなければなりません。この場合は、再履修クラスを予備登録後、履修してください。

－外国語科目の意義－

大学における外国語教育の目的は、それぞれの外国語の運用能力を養うことだけではありません。母国語とは異質の言語に接することにより、各民族の思考様式を反映している言語にたいする認識を深め、外国の芸術、文化をより深く理解する能力を養うことがその目的です。

また、母国語との間に行われる訳解の日常作業は、外国語能力の養成のみならず、一般に論理的思考能力の練磨のため古来大きな役割を果たしてきました。さらにそれが日本語を客観的に眺め、学生が自分の日本語能力を検証し得る数少ない機会の一つとなっています。

これらが一体となって大学生活に必須とされる学問的基礎訓練の一環をなしています。この目標に近づくためには、大学の外国語教育にたいする正しい理解を持つとともに、訓練にたえうる忍耐力、持続力が不可欠です。教室外での自発的研修ももちろん必要です。

＜必修外国語概要＞

英語ＩＡ・英語ＩＢ	基礎的な英語力の見直し
英語ⅡＡ・英語ⅡＢ	「Ｉ」を発展させた基礎力の強化
英語Ⅲ、英語Ⅳ	「Ｉ、Ⅱ」をもとに４技能（Reading、Writing、Speaking、Listening）のさらなる養成

2．学科指定・クラス指定

「仏教の思想」、「英語」は、学科指定もしくはクラス指定がありますので別途指示に従って履修登録してください。

3．予備登録について

次の科目については、教育環境、授業密度を考慮し、受講者数を適正規模に調整するため予備登録制がとられています。これらの科目は通常の履修登録に先立って行われます。その結果発表にしたがって履修登録してください。

⑴ 「**スポーツ技術学Ａ、Ｂ**」は、予備登録が必要となります。別途指示に従ってください。
⑵ 「**英語（再）**」は、予備登録が必要となります。先着順となりますので別途指示に従ってください。
⑶ 「**ドイツ語**」、「**フランス語**」、「**中国語**」の各科目は、予備登録が必要となります。
⑷ 「**英語セミナー**」の各科目は、予備登録が必要となります。

4．先修制について

先修制とは、ある科目を履修する場合に、特別指定された科目（単位）を修得していなければ、その科目を履修することができない制度です。これは、その科目の学修成果をより高めるために設けられた「学修の順序」です。

先修制授業科目

① **ドイツ語セミナーＡもしくは、Ｂ**を履修するためには、「ドイツ語ＩＡ、ＩＢ、ⅡＡ、ⅡＢ（各１単位）」のいずれか１単位を修得していなければならない。
② **フランス語セミナーＡもしくは、Ｂ**を履修するためには、「フランス語ＩＡ、ＩＢ、ⅡＡ、ⅡＢ（各１単位）」のいずれか１単位を修得していなければならない。
③ **中国語セミナーＡもしくは、Ｂ**を履修するためには、「中国語ＩＡ、ＩＢ、ⅡＡ、ⅡＢ（各１単位）」のいずれか１単位を修得していなければならない。

＜英語以外の外国語概要＞

ドイツ語・フランス語・中国語ＩＡ、ＩＢ	「未知なることば」への入門
ドイツ語・フランス語・中国語ⅡＡ、ⅡＢ	基礎力の養成
ドイツ語・フランス語・中国語セミナーＡ、セミナーＢ	異文化へのアプローチ

■総合科目

「総合科目」は、瀬田キャンパスの社会学部と理工学部および国際文化学部が協力して提供する科目群です。これは＜人間・科学・宗教＞に関する総合的な知識、教養を高めるための授業科目であり、「基礎科目」につづいてさらに幅広い視野をもち人間的に成長するために構成されたものです。「基礎科目」と同様にできるだけ多くの授業科目を履修し、在学期間中の自己研鑽に努めることを望みます。

設置科目　【2001・2002年度入学生】

■基礎科目

科　目　名	単位数		配当年次			
			1年次		2年次	
			前	後	前	後
仏教の思想A	**必修**	**2**	○			
仏教の思想B	**必修**	**2**		○		
哲学	選択	2	○	○		
文学	選択	2	○	○		
社会学	選択	2	○	○		
心理学	選択	2	○	○		
経済学	選択	2	○	○		
政治学	選択	2	○	○		
社会統計学A	選択	2	○			
社会統計学B	選択	2		○		
法学入門	選択	2	○			
日本国憲法	選択	2		○		
教育原論A	選択	2	○			
教育原論B	選択	2		○		
英語ⅠA	**必修**	**1**	○			
英語ⅠB	**必修**	**1**	○			
英語ⅡA	**必修**	**1**		○		
英語ⅡB	**必修**	**1**		○		
英語Ⅲ	**必修**	**1**			○	
英語Ⅳ	**必修**	**1**				○
ドイツ語ⅠA	選択	1	○			
ドイツ語ⅠB	選択	1		○		
ドイツ語ⅡA	選択	1	○			
ドイツ語ⅡB	選択	1		○		
ドイツ語セミナーA	選択	2			○	
ドイツ語セミナーB	選択	2				○
フランス語ⅠA	選択	1	○			
フランス語ⅠB	選択	1		○		
フランス語ⅡA	選択	1	○			
フランス語ⅡB	選択	1		○		
フランス語セミナーA	選択	2			○	
フランス語セミナーB	選択	2				○
中国語ⅠA	選択	1	○			
中国語ⅠB	選択	1		○		
中国語ⅡA	選択	1	○			
中国語ⅡB	選択	1		○		
中国語セミナーA	選択	2			○	
中国語セミナーB	選択	2				○
スポーツ技術学A	**必修**	**1**	○			
スポーツ技術学B	**必修**	**1**		○		
発達と教育A	選択	2			○	
発達と教育B	選択	2				○

【2004年度以降不開講となる科目】

科　目　名	単位数		配当年次			
			1年次		2年次	
			前	後	前	後
英語コミュニケーション	選択	2			○	○
時事英語	選択	2			○	○

【2003年度以降新たに履修可能な科目】

	科　目　名	単位数		配当年次			
				1年次		2年次	
				前	後	前	後
★	生活の中の数学	選択	2	○			
★	生活の中の物理	選択	2		○		
※★	生活の中の化学	選択	2		○		
	英語セミナーA1	選択	2	○			
	英語セミナーA2	選択	2		○		

【2004年度以降新たに履修可能な科目】

科　目　名	単位数		配当年次			
			1年次		2年次	
			前	後	前	後
英語セミナーB1	選択	2			○	
英語セミナーB2	選択	2				○
英語セミナーC1	選択	2			○	
英語セミナーC2	選択	2				○
英語セミナーD1	選択	2			○	
英語セミナーD2	選択	2				○
英語セミナーE1	選択	2			○	
英語セミナーE2	選択	2				○
英語セミナーF1	選択	2			○	
英語セミナーF2	選択	2				○

⚠注意事項

1）★印の3科目のうち、卒業要件単位として認めるのは、1科目2単位まで。（余剰分は、フリーゾーンにも計上されない。）

2）※印「**生活の中の化学**」について、物質化学科の学生は履修不可。

■総合科目

	科目名	単位数		配当年次			
				1年次		2年次	
				前	後	前	後
	人権論Ⅰ	選択	2	○	○		
	人権論Ⅱ	選択	2	○	○		
	平和論	選択	2	○	○		
	生命と共生	選択	2	○	○		
	現代社会と宗教	選択	2	○	○		
	生活の中の宗教	選択	2	○	○		
	人間と社会と法	選択	2	○			
※	海外英語研修	選択	2				○
	現代社会とスポーツ	選択	2			○	○
	高齢化社会と福祉	選択	2	○			
	科学技術史	選択	2	○			
	現代技術論	選択	2		○		
	情報社会とメディア	選択	2	○	○		
	環境と倫理	選択	2	○			

【2003年度以降不開講になる科目】

科目名	単位数		配当年次			
			1年次		2年次	
			前	後	前	後
大学生入門	選択	2	○			
日本の宗教	選択	2	○			
世界の宗教	選択	2		○		
心と身体と宗教	選択	2		○		
社会思想史Ⅰ	選択	2	○			
社会思想史Ⅱ	選択	2		○		
国際化と日本社会	選択	2		○		
数学と生命	選択	2		○		
物質と資源と生活	選択	2	○	○		
エコロジーと人間	選択	2	○	○		

⚠注意事項

1）※印「**海外英語研修**」は、卒年次の履修不可。

【2004年度以降不開講となる科目】

科目名	単位数		配当年次			
			1年次		2年次	
			前	後	前	後
人間と思想と論理	選択	2	○	○		
欧米文化事情Ⅰ	選択	2			○	○
欧米文化事情Ⅱ	選択	2			○	○
欧米文化事情Ⅲ	選択	2			○	○
アジア文化事情Ⅰ	選択	2			○	○
アジア文化事情Ⅱ	選択	2			○	○
歴史と文化A（欧米）	選択	2				○
歴史と文化B（アジア）	選択	2			○	
歴史と文化C（考古学）	選択	2				○
ｱｼﾞｱ文化事情Ⅲ（ｵｰｽﾄﾗﾘｱ入門）	選択	2				○
都市とすまい	選択	2		○		
NGO論	選択	2	○			
生態学入門	選択	2	○			

【2003年度以降新たに履修可能な科目】

科目名	単位数		配当年次			
			1年次		2年次	
			前	後	前	後
ジェンダー論	選択	2	○			

【2004年度以降新たに履修可能な科目】

科目名	単位数		配当年次				
			1年次		2年次		
			前	後	前	後	
国際社会と日本A	選択	2			○		※2009年度は後期開講
国際社会と日本B	選択	2				○	
国際社会と日本C	選択	2			○		※2009年度は後期開講
アジアの文化	選択	2			○	○	
欧米の文化	選択	2			○	○	
環境と人間A	選択	2			○	○	
環境と人間B	選択	2			○	○	

❷教養教育科目（共同開講科目）（共通科目）カリキュラム対照表

カリキュラム改革にともない、下記対照表の通り、入学年度によって科目名が異なり、合同授業となる場合があるので注意してください。（一部の科目については､不開講となる場合があるので注意してください。）

1．教養教育科目（共同開講科目）（共通科目）基礎科目

2008年度以降入学生		2003～2007年度入学生		2001・2002年度入学生	
科　目　名	単位	科　目　名	単位	科　目　名	単位
仏教の思想Ａ	2	仏教の思想Ａ	2	仏教の思想Ａ（仏教学Ａ）	2
仏教の思想Ｂ	2	仏教の思想Ｂ	2	仏教の思想Ｂ（仏教学Ｂ）	2
スポーツ技術学Ａ	1	スポーツ技術学Ａ	1	スポーツ技術学Ａ	1
スポーツ技術学Ｂ	1	スポーツ技術学Ｂ	1	スポーツ技術学Ｂ	1
英語ＩＡ	1	英語ＩＡ	1	英語ＩＡ	1
英語ＩＢ	1	英語ＩＢ	1	英語ＩＢ	1
英語ⅡＡ	1	英語ⅡＡ	1	英語ⅡＡ	1
英語ⅡＢ	1	英語ⅡＢ	1	英語ⅡＢ	1
英語Ⅲ	1	英語Ⅲ	1	英語Ⅲ	1
英語Ⅳ	1	英語Ⅳ	1	英語Ⅳ	1
英語セミナーＡ１	2	英語セミナーＡ１	2	英語セミナーＡ１	2
英語セミナーＡ２	2	英語セミナーＡ２	2	英語セミナーＡ２	2
英語セミナーＢ１	2	英語セミナーＢ１	2	英語セミナーＢ１	2
英語セミナーＢ２	2	英語セミナーＢ２	2	英語セミナーＢ２	2
英語セミナーＣ１	2	英語セミナーＣ１	2	英語セミナーＣ１	2
英語セミナーＣ２	2	英語セミナーＣ２	2	英語セミナーＣ２	2
英語セミナーＤ１	2	英語セミナーＤ１	2	英語セミナーＤ１	2
英語セミナーＤ２	2	英語セミナーＤ２	2	英語セミナーＤ２	2
英語セミナーＥ１	2	英語セミナーＥ１	2	英語セミナーＥ１	2
英語セミナーＥ２	2	英語セミナーＥ２	2	英語セミナーＥ２	2
英語セミナーＦ１	2	英語セミナーＦ１	2	英語セミナーＦ１	2
英語セミナーＦ２	2	英語セミナーＦ２	2	英語セミナーＦ２	2
				時事英語	2
				英語コミュニケーション	2
ドイツ語ＩＡ	1	ドイツ語ＩＡ	1	ドイツ語ＩＡ	1
ドイツ語ＩＢ	1	ドイツ語ＩＢ	1	ドイツ語ＩＢ	1
ドイツ語ＩＣ	1	ドイツ語ＩＣ	1	ドイツ語ⅡＡ	1
ドイツ語ＩＤ	1	ドイツ語ＩＤ	1	ドイツ語ⅡＢ	1
ドイツ語セミナーＡ	2	ドイツ語セミナーＡ	2	ドイツ語セミナーＡ	2
ドイツ語セミナーＢ	2	ドイツ語セミナーＢ	2	ドイツ語セミナーＢ	2
フランス語ＩＡ	1	フランス語ＩＡ	1	フランス語ⅡＡ	1
フランス語ＩＢ	1	フランス語ＩＢ	1	フランス語ⅡＢ	1
フランス語ＩＣ	1	フランス語ＩＣ	1	フランス語ＩＡ	1
フランス語ＩＤ	1	フランス語ＩＤ	1	フランス語ＩＢ	1
フランス語セミナーＡ	2	フランス語セミナーＡ	2	フランス語セミナーＡ	2
フランス語セミナーＢ	2	フランス語セミナーＢ	2	フランス語セミナーＢ	2
中国語ＩＡ	1	中国語ＩＡ	1	中国語ＩＡ	1
中国語ＩＢ	1	中国語ＩＢ	1	中国語ＩＢ	1
中国語ＩＣ	1	中国語ＩＣ	1	中国語ⅡＡ	1
中国語ＩＤ	1	中国語ＩＤ	1	中国語ⅡＢ	1
中国語セミナーＡ	2	中国語セミナーＡ	2	中国語セミナーＡ	2
中国語セミナーＢ	2	中国語セミナーＢ	2	中国語セミナーＢ	2
コリア語ＩＡ	1	コリア語ＩＡ	1		
コリア語ＩＢ	1	コリア語ＩＢ	1		
コリア語ＩＣ	1	コリア語ＩＣ	1		
コリア語ＩＤ	1	コリア語ＩＤ	1		
コリア語セミナーＡ	2	コリア語セミナーＡ	2		
コリア語セミナーＢ	2	コリア語セミナーＢ	2		

2008年度以降入学生		2003～2007年度入学生		2001・2002年度入学生	
科　目　名	単位	科　目　名	単位	科　目　名	単位
文学入門	2	文学入門	2	文学	2
哲学入門	2	哲学入門	2	哲学	2
心理学入門	2	心理学入門	2	心理学	2
教育原論A	2	教育原論A	2	教育原論A	2
教育原論B	2	教育原論B	2	教育原論B	2
発達と教育A	2	発達と教育A	2	発達と教育A	2
発達と教育B	2	発達と教育B	2	発達と教育B	2
歴史入門	2	歴史入門	2		
倫理学入門	2	倫理学入門	2		
言語学入門	2	言語学入門	2		
論理学入門	2	論理学入門	2		
法学入門	2	法学入門	2	法学入門	2
日本国憲法	2	日本国憲法	2	日本国憲法	2
政治学入門	2	政治学入門	2	政治学	2
統計入門	2	統計入門	2	社会統計学B	2
社会学入門	2	社会学入門	2	社会学	2
経済学入門	2	経済学入門	2	経済学	2
社会思想史入門	2	社会思想史入門	2		
生活の中の数学	2	生活の中の数学	2	生活の中の数学	2
生活の中の物理	2	生活の中の物理	2	生活の中の物理	2
生活の中の化学	2	生活の中の化学	2	生活の中の化学	2
生命と科学	2	生命と科学	2		
生活の中の統計技術	2	生活の中の統計技術	2	社会統計学A	2

2．教養教育科目（共同開講科目）（共通科目）総合科目

2008年度以降入学生		2003～2007年度入学生		2001・2002年度入学生	
科　目　名	単位	科　目　名	単位	科　目　名	単位
情報社会とメディア	2	情報社会とメディア	2	情報社会とメディア	2
現代社会とマス・メディア	2	現代社会とマス・メディア	2		
情報と人間	2	情報と人間	2		
スポーツ文化論	2	スポーツ文化論	2		
情報倫理	2	情報倫理	2		
現代社会と福祉	2	現代社会と福祉	2	高齢化社会と福祉	2
メディアにみる福祉	2	メディアにみる福祉	2		
世界の福祉	2	世界の福祉	2		
国際社会と日本A	2	国際社会と日本A	2	国際社会と日本A	2
国際社会と日本B	2	国際社会と日本B	2	国際社会と日本B	2
国際社会と日本C	2	国際社会と日本C	2	国際社会と日本C	2
日本の文化	2	日本の文化	2		
アジアの文化	2	アジアの文化	2	アジアの文化	2
欧米の文化	2	欧米の文化	2	欧米の文化	2
海外英語研修	2	海外英語研修	2	海外英語研修	2
科学技術史	2	科学技術史	2	科学技術史	2
現代の技術	2	現代の技術	2	現代技術論	2
環境と倫理	2	環境と倫理	2	環境と倫理	2
環境と人間A	2	環境と人間A	2	環境と人間A	2
環境と人間B	2	環境と人間B	2	環境と人間B	2
自然観察法	2	自然観察法	2		
人権論A	2	人権論A	2	人権論Ⅰ	2
人権論B	2	人権論B	2	人権論Ⅱ	2
平和学入門	2	平和学入門	2	平和論	2
ジェンダー論	2	ジェンダー論	2	ジェンダー論	2
生命と共生	2	生命と共生	2	生命と共生	2
人間と社会と法	2	人間と社会と法	2	人間と社会と法	2
生活の中の宗教	2	生活の中の宗教	2	生活の中の宗教	2
現代社会と宗教	2	現代社会と宗教	2	現代社会と宗教	2
現代社会とスポーツ	2	現代社会とスポーツ	2	現代社会とスポーツ	2
健康とスポーツ	2	健康とスポーツ	2		
大学生入門	2	大学生入門	2		
教養教育科目特別講義		共同開講科目特別講義			
				人間と思想と論理	2
				日本の宗教	2
				世界の宗教	2
				心と身体と宗教	2
				社会思想史Ⅰ	2
				社会思想史Ⅱ	2
				欧米文化事情Ⅰ	2
				欧米文化事情Ⅱ	2
				欧米文化事情Ⅲ	2
				アジア文化事情Ⅰ	2
				アジア文化事情Ⅱ	2
				アジア文化事情Ⅲ（オーストラリア入門）	2
				国際化と日本社会	2
				数学と生命	2
				地球環境と人間	2
				物質と資源と生活	2
				エコロジーと人間	2
				歴史と文化A（欧米）	2
				歴史と文化B（アジア）	2
				歴史と文化C（考古学）	2
				都市とすまい	2
				NGO論	2
				生態学入門	2

❸固有科目の履修方法　【2007年度以降入学生】

1．学部内共通科目の履修方法

理工学部を構成する６学科の共通科目であるが、学科により履修科目が異なる。コンピュータの基礎を学ぶ計算機基礎実習Ⅰ、化学基礎実験および物理実験は必修である。また総合に区分されている環境科学と資源エネルギー論は物質化学科では必修科目なので注意すること。３年次配当の科学技術英語は科学の国際化に対応するための重要な科目である。

2．学科固有科目の履修方法

物質化学科では「環境にやさしい化学」の専門知識を多く身につけることを目標にしておりグリーンケミストリー関連の選択必修科目である「環境化学」「グリーンプロセス工学」「化学リスク学」「エネルギー循環工学」の４科目の中から最低２科目は履修しなければならない。また将来技術者として活躍するための基礎知識として「化学工学概論」を必修としている。

また、４年次では特別研究（卒業研究）を行うに当り、各人が４年生で行う研究を想定してコース科目（物質評価、無機・金属、有機・高分子の３コース）を選択することが望ましい。

【評価制度について】

①自己評価制度

学生諸君は学期の開始時にポートフォリオを記入し、その学期の目標を自分自身で設定する。次の学期の初めに、その目標に対する達成度を自己評価する。卒業研究の発表会では、学生諸君が自己評価すると同時に、学生どうしでも相互評価を行う。優れた発表をした者は表彰される。

②授業評価制度

すべての科目の終了時には、無記名の学生アンケートを実施し、学生諸君による授業評価を行うことにより、教育改善に役立てている。

3．卒業・進級の要件

⑴卒業要件単位（最低）数表

卒業のためには下表に示すように必修科目および選択科目を合わせて134単位の修得が必要である。

区　分			単位数
教養教育科目（共同開講科目）	基礎科目	必修	12
		選択	10
		（小計）	(22)
	総合科目	選択	6
		（小計）	(6)
学部内共通科目		必修	14
		選択	4
		（小計）	(18)
学科固有科目		必修	64
		選択必修	4　A)
		選択	20
		（小計）	(88)
合　計			134

⚠ 注意事項

A）グリーンケミストリー関連科目より、4単位修得すること。余剰分は学科固有科目の選択科目に計上される。

⑵進級に係る在学期間

各年次の進級に必要な在学期間は原則として下表のとおりである。ただし、休学期間は進級要件上の在学期間には算入しない。

進級年次	必要在学期間（最低）
2年進級	1年間
3年進級	2年間
4年進級	3年間
卒　業	4年間

⑶進級に係る取得単位（最低）数表

理工学部においては、学年が進むにつれ内容が高レベルになるように構成されている。

各年次の進級のための取得単位数の要件は原則として下表のとおりである。

区　分		単位数
2年進級	必修科目単位数	20
	卒業要件総修得単位数	30　B)
3年進級	必修科目単位数	44
	卒業要件総修得単位数	62　C)
4年進級	必修科目単位数	82
	選択必修科目単位数	
	卒業要件総修得単位数	106　D)
卒　業	必修科目単位数	90
	選択必修科目単位数	4
	卒業要件総修得単位数	134

⚠ 注意事項

B）特別措置として、1年次留年生は、2年次配当科目（物理実験、物理化学実験を除く）の登録を年間10単位まで認める。（登録制限単位数に含む）

C）特別措置として、2年次留年生は、3年次配当科目（無機合成化学実験、有機合成化学実験、機器分析化学実験、科学技術英語、学外実習、物質化学研究デザイン演習を除く）の登録を年間8単位まで認める。（登録制限単位数に含む）

D）次の科目をすべて修得していること。

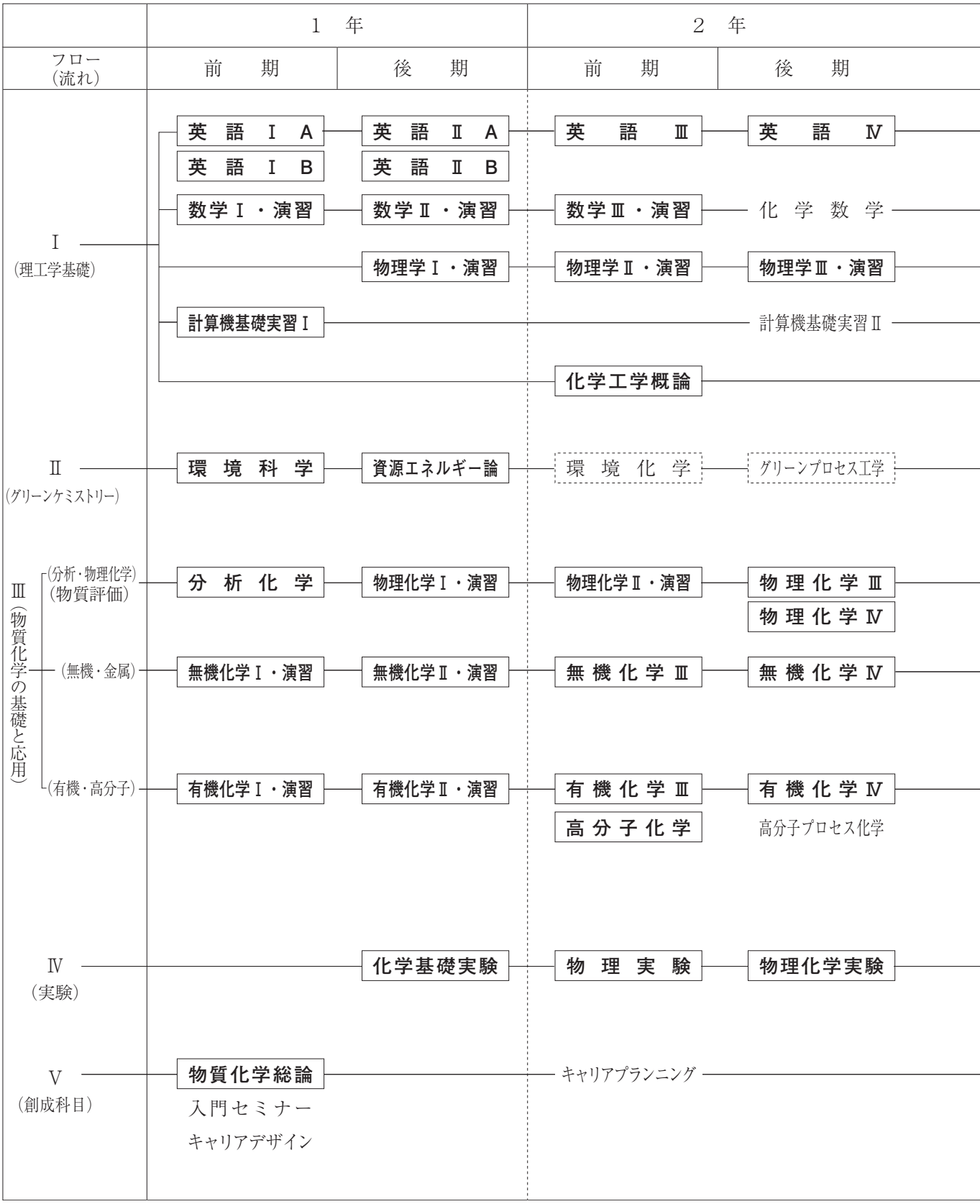
物理実験、化学基礎実験、計算機基礎実習Ⅰ、無機合成化学実験、有機合成化学実験、物理化学実験、機器分析化学実験、学外実習、物質化学研究デザイン演習

4．設置科目

区分		授業科目	単位数		配当年次（前期・後期） 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
学部内共通科目	語学	**科学技術英語**	**必修**	**2**						○			
		化学概論I	選択	2									2007年度以降不開講
	生物	生物学概論I	選択	2			○						
		生物学概論II	選択	2				○					
	地学	地学概論I	選択	2	○								
		地学概論II	選択	2		○							
	実験・実習	**物理実験**	**必修**	**2**			○						
		化学基礎実験	**必修**	**2**		○							
		計算機基礎実習I	**必修**	**2**	○								
		計算機基礎実習II	選択	2				○					
		自然観察実習	選択	2	○								
		生物学実験	選択	2						○			
		地学実験	選択	2	○								
		学外実習	**必修**	**2**					○				
	総合	科学思想史	選択	2				○		○		○	
		情報学概論	選択	2			○		○		○		
		環境科学	**必修**	**2**	○								
		資源エネルギー論	**必修**	**2**		○							
		人間工学	選択	2				○		○		○	
		工学概論	選択	2			○		○		○		
		生態情報概論	選択	2			○		○		○		
		工業経済	選択	2				○		○		○	
		生態学概論	選択	2			○		○		○		
		地域環境概論	選択	2			○		○		○		
		地球環境概論	選択	2				○		○		○	
		情報と職業	選択	2			○						
		MOT概論	選択	2			○		○		○		
		MOT演習	選択	2				○		○		○	
		知的財産概論	選択	2		○		○		○		○	
		キャリアデザイン	選択	2	○								
		キャリアプランニング	選択	2			○						
学科固有科目	グリーンケミストリー	環境化学	選必	2			○						
		グリーンプロセス工学	選必	2				○					4単位以上修得すること
		化学リスク学	選必	2					○				
		エネルギー循環工学	選必	2					●	○			
	数学	**数学I・演習**	**必修**	**2**	○								
		数学II・演習	**必修**	**2**		○							
		数学III・演習	**必修**	**2**			○						
		化学数学	選択	2				○					
	物理学	**物理学I・演習**	**必修**	**2**		○							
		物理学II・演習	**必修**	**2**			○						
		物理学III・演習	**必修**	**2**				○					
		物理学IV・演習	選択	2					○				
	分析・物理化学・物質評価	**分析化学**	**必修**	**2**	○								
		物理化学I・演習	**必修**	**2**		○							
		物理化学II・演習	**必修**	**2**			○						
		物理化学III	**必修**	**2**				○					
		物理化学IV	**必修**	**2**				○					
		量子化学	選択	2					○				
		機器分析化学	選択	2					○				
		分子設計化学	選択	2						○			
		構造解析学	選択	2						○			

区分		授業科目	単位数		配当年次（前期・後期） 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
学科固有科目	無機・金属	**無機化学I・演習**	**必修**	**2**	○								
		無機化学II・演習	**必修**	**2**		○							
		無機化学III	**必修**	**2**			○						
		無機化学IV	**必修**	**2**				○					
		結晶材料工学	選択	2					○				
		セラミック材料工学	選択	2					○				
		ナノ材料工学	選択	2						○			
		機能材料工学	選択	2						○			
	有機・高分子	**有機化学I・演習**	**必修**	**2**	○								
		有機化学II・演習	**必修**	**2**		○							
		有機化学III	**必修**	**2**			○						
		有機化学IV	**必修**	**2**				○					
		高分子化学	**必修**	**2**			○						
		高分子プロセス化学	選択	2				○					
		有機構造解析学	選択	2					○				
		生化学	選択	2					○				
		有機材料化学	選択	2						○			
		高分子材料化学	選択	2						○			
	実験・演習	**物理化学実験**	**必修**	**2**				○					
		無機合成化学実験	**必修**	**2**					○				
		有機合成化学実験	**必修**	**2**					○				
		機器分析化学実験	**必修**	**2**						○			
		化学英語演習	**必修**	**2**					○				
	その他	**化学工学概論**	**必修**	**2**			○						
		工業化学	選択	2					○				
		工業法規	選択	2						○			
		物質化学総論	**必修**	**2**	○								
		入門セミナー	選択	2	○								
		物質化学研究デザイン演習	**必修**	**2**						○			
		プレゼンテーション演習	随意	2					○				
		英語セミナー	**必修**	**2**							○		
		特別講義	選択	2							○		※2008年度不開講
		特別研究	**必修**	**6**								○	

5．カリキュラムフローチャート



付きゴシック文字は必修科目を示す

付き文字は選択必修科目を示す

❸固有科目の履修方法　【2004年度～ 2006年度入学生】

1．学部内共通科目の履修方法

理工学部を構成する６学科の共通科目であるが、学科により履修科目が異なる。コンピュータの基礎を学ぶ計算機基礎演習Ⅰ、化学実験である理工学部基礎実験Ｂおよび物理学実験である理工学部基礎実験Ａは必修である。また総合に区分されている環境科学と資源エネルギー論は物質化学科では必修科目なので注意すること。３年次配当の科学技術英語は科学の国際化に対応するための重要な科目である。

2．学科固有科目の履修方法

数学序論、物理学序論は随意科目であるが高校で数学Ⅲ、物理ＩＢ、物理Ⅱを履修しなかった人ならびに履修はしたが理解が不十分と思われる人は受講すること。学年が進行すると授業内容が高度になるので早めに苦手科目をなくしておく必要がある。学科固有科目を履修する上で以下の２点について特に注意すること。

物質化学科では「環境にやさしい化学」の専門知識を多く身につけることを目標にしておりグリーンケミストリー関連の選択必修科目である「物質循環工学」「資源工学」「化学リスク学」「エネルギー循環工学」「環境生態学」「グリーンプロセス工学」の６科目の中から最低２科目は履修しなければならない。また将来技術者として活躍するための基礎知識として「化学工学概論」を必修としている。

また、４年次では特別研究（卒業研究）を行うに当り、各人が４年生で行う研究を想定してコース科目（物質評価、無機・金属、有機・高分子の３コース）を選択することが望ましい。

【評価制度について】

①自己評価制度

学生諸君は学期の開始時にポートフォリオを記入し、その学期の目標を自分自身で設定する。次の学期の初めに、その目標に対する達成度を自己評価する。卒業研究の発表会では、学生諸君が自己評価すると同時に、学生どうしでも相互評価を行う。優れた発表をした者は表彰される。

②授業評価制度

すべての科目の終了時には、無記名の学生アンケートを実施し、学生諸君による授業評価を行うことにより、教育改善に役立てている。

3．卒業・進級の要件

⑴卒業要件単位（最低）数表

卒業のためには下表に示すように必修科目および選択科目を合わせて134単位の修得が必要である。

区分			単位数
共同開講科目（共通科目）	基礎科目	必修	12
		選択	10
		（小計）	(22)
	総合科目	選択	6
		（小計）	(6)
学部内共通科目		必修	14
		選択	4
		（小計）	(18)
学科固有科目		必修	56
		選択必修	4　A)
		選択	28
		（小計）	(88)
合計			134

⚠ 注意事項

A）グリーンケミストリー関連科目（物質化学総論、環境化学を除く）より、4単位修得すること。余剰分は学科固有科目の選択科目に計上される。

⑵進級に係る在学期間

各年次の進級に必要な在学期間は原則として下表のとおりである。ただし、休学期間は進級要件上の在学期間には算入しない。

進級年次	必要在学期間（最低）
2年進級	1年間
3年進級	2年間
4年進級	3年間
卒業	4年間

⑶進級に係る取得単位（最低）数表

理工学部においては、学年が進むにつれ内容が高レベルになるように構成されている。

各年次の進級のための取得単位数の要件は原則として下表のとおりである。

区分		単位数
2年進級	必修科目単位数	20
	卒業要件総修得単位数	30　B)
3年進級	必修科目単位数	40
	卒業要件総修得単位数	62　C)
4年進級	必修科目単位数	74
	選択必修科目単位数	
	卒業要件総修得単位数	106　D)
卒業	必修科目単位数	82
	選択必修科目単位数	4
	卒業要件総修得単位数	134

⚠ 注意事項

B）特別措置として、1年次留年生は、2年次配当科目（理工学基礎実験A、物理化学実験を除く）の登録を年間10単位まで認める。（登録制限単位数に含む）

C）特別措置として、2年次留年生は、3年次配当科目（無機合成化学実験、有機合成化学実験、機器分析化学実験、科学技術英語、学外実習、物質化学研究デザイン演習を除く）の登録を年間8単位まで認める。（登録制限単位数に含む）

D）次の科目をすべて修得していること。

理工学基礎実験A、理工学基礎実験B、計算機基礎実習Ⅰ、無機合成化学実験、有機合成化学実験、物理化学実験、機器分析化学実験、学外実習、物質化学研究デザイン演習

4．設置科目

区分		授業科目	単位数		配当年次（前期・後期） 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
学部内共通科目	総合	**科学技術英語**	**必修**	**2**						○			
		化学概論Ⅰ	選択	2	○								2007年度以降不開講
	生物	生物学概論Ⅰ	選択	2			○						
		生物学概論Ⅱ	選択	2				○					
	地学	地学概論Ⅰ	選択	2	○								
		地学概論Ⅱ	選択	2		○							
	実験・実習	**理工学基礎実験A**	**必修**	**2**			○						
		理工学基礎実験B	**必修**	**2**		○							
		計算機基礎実習Ⅰ	**必修**	**2**	○								
		計算機基礎実習Ⅱ	選択	2				○					
		生物多様性実習B	選択	2	○	●							
		生物学実験	選択	2						○			
		地学実験	選択	2	○								
		学外実習	**必修**	**2**					○				
	総合	科学思想史	選択	2				○		○		○	
		情報学概論	選択	2			○		○		○		
		環境科学	**必修**	**2**	○								
		資源エネルギー論	**必修**	**2**		○							
		人間工学	選択	2				○		○		○	
		工学概論	選択	2			○		○		○		
		生体情報概論	選択	2			○		○		○		
		工業経済	選択	2				○		○		○	
		生態学概論	選択	2			○		○		○		
		地球環境概論	選択	2				○		○		○	
		情報と職業	選択	2			○						
		MOT概論	選択	2			○		○		○		
		MOT演習	選択	2				○		○		○	
		知的財産概論	随意	②		○		○		○		○	
		キャリアデザイン	選択	2	○								2005年度以降入学生対象
		キャリアプランニング	選択	2			○						2005年度以降入学生対象
学科固有科目	グリーンケミストリー関連科目	**物質化学総論**	**必修**	**2**	○								
		環境化学	**必修**	**2**			○	●					
		物質循環工学	選必	2				○					2008年度不開講
		資源工学	選必	2				○					2008年度不開講
		化学リスク学	選必	2					○				1）4単位以上修得すること。
		エネルギー循環工学	選必	2					○				1）
		環境生態学	選必	2						○			1）
		グリーンプロセス工学	選必	2						○			1）
	学科基本科目 数学	数学序論	随意	②	○								
		数学Ⅰ	**必修**	**2**		○							
		数学Ⅱ	**必修**	**2**			○						
		数学Ⅲ	選択	2				○					
	物理学	物理学序論	随意	②	○								
		物理学Ⅰ	**必修**	**2**		○							
		物理学Ⅱ	**必修**	**2**			○						
		物理学Ⅲ	選択	2				○					
	物理化学	**分析化学**	**必修**	**2**	○								
		物理化学Ⅰ	**必修**	**2**		○							
		物理化学Ⅱ	**必修**	**2**			○						
		物理化学Ⅲ	**必修**	**2**				○					
		量子化学	選択	2					○				

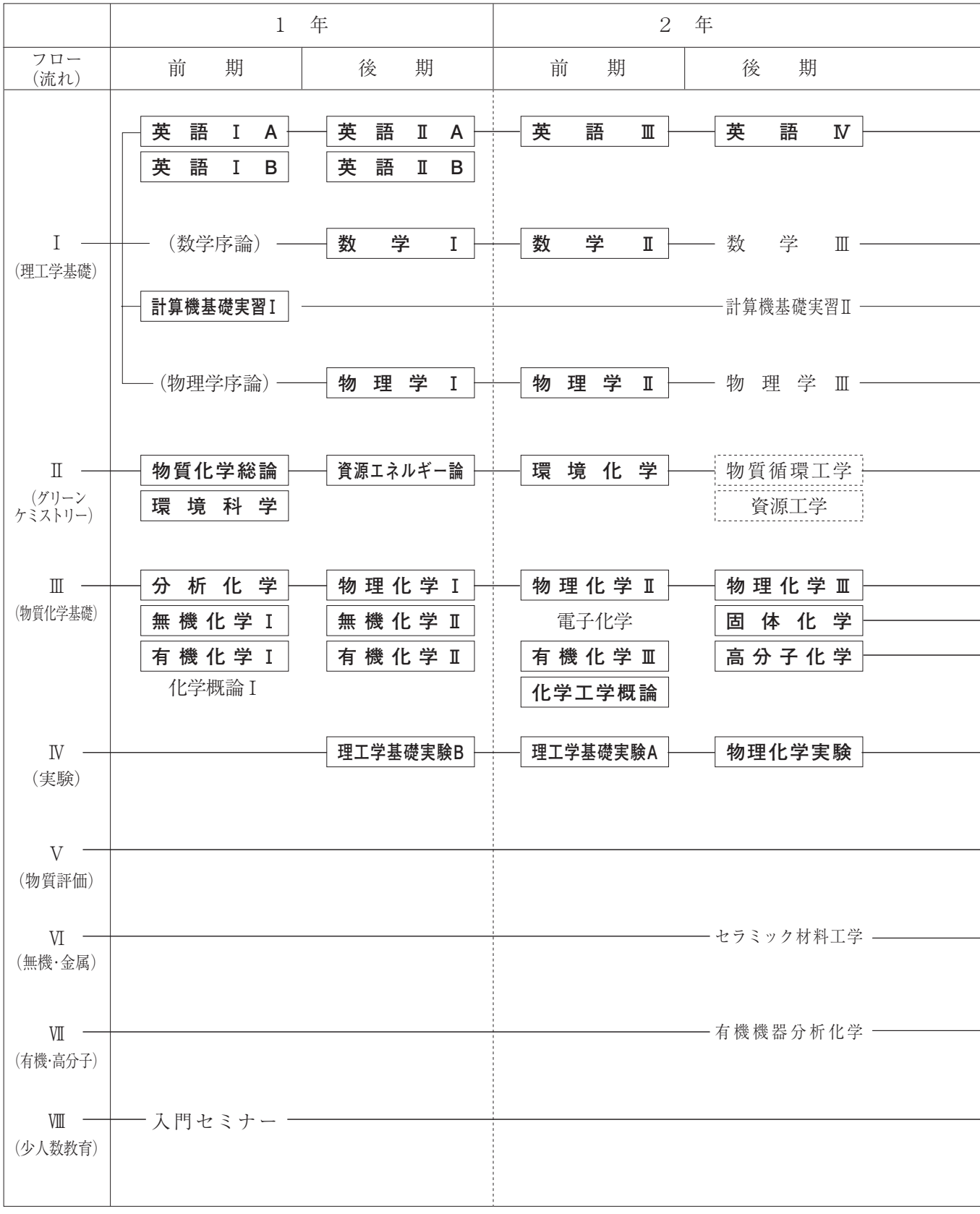
区分			授業科目	単位数		配当年次（前期・後期） 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
学科固有科目	学科基本科目	無機化学	**無機化学Ⅰ**	**必修**	**2**	○								
			無機化学Ⅱ	**必修**	**2**		○							
			電子化学	選択	2			○						
			固体化学	**必修**	**2**				○					
			無機プロセス化学	選択	2					○				
		有機化学	**有機化学Ⅰ**	**必修**	**2**	○								
			有機化学Ⅱ	**必修**	**2**		○							
			有機化学Ⅲ	**必修**	**2**			○						
			高分子化学	**必修**	**2**			○	●					
			生化学	選択	2					○				
		実験・演習	**物理化学実験**	**必修**	**2**				○					
			無機合成化学実験	**必修**	**2**					○				
			有機合成化学実験	**必修**	**2**					○				
			機器分析化学実験	**必修**	**2**						○			
			化学英語演習	**必修**	**2**					○				
			無機・物理化学演習	選択	2							○		
			有機・高分子化学演習	選択	2						○			
		その他	**化学工学概論**	**必修**	**2**			○						
			工業化学	選択	2					○				
			工業法規	選択	2					●	○			
	コース科目	物質評価	無機機器分析化学	選択	2					○				
			環境分析化学	選択	2					○				
			分子設計化学	選択	2						○			
			構造解析学	選択	2						○			
		無機・金属	セラミック材料工学	選択	2			○	●					
			結晶材料工学	選択	2					○				
			ナノ材料工学	選択	2						○			
			機能材料工学	選択	2						○			
		有機・高分子	有機機器分析化学	選択	2				○					
			高分子合成化学	選択	2					○				
			高分子物性	選択	2						○			
			有機材料化学	選択	2						○			
	特別研究関連科目		入門セミナー	選択	2	○								2008年度不開講
			物質化学研究デザイン演習	**必修**	**2**						○			
			プレゼンテーション演習	随意	②					○				
			特別講義	選択	2							○		
			セミナー	**必修**	**2**							○		
			特別研究	**必修**	**6**								○	

「必修」＝必修科目、「選必」＝選択必修科目、「選択」＝選択科目、「随意」＝随意科目（卒業要件単位に含めない）

⚠ 注意事項

1）グリーンケミストリー関連科目から、必修科目以外に4単位以上修得すること。

5．カリキュラムフローチャート



付きゴシック文字は必修科目を示す

付き文字は選択必修科目を示す

❸固有科目の履修方法　【2000年度～ 2003年度入学生】

1．学部内共通科目の履修方法

理工学部を構成する６学科の共通科目であるが、学科により履修科目が異なる。コンピュータの基礎を学ぶ計算機基礎演習Ⅰ、化学実験である理工学部基礎実験Ｂおよび物理学実験である理工学部基礎実験Ａは必修である。また総合に区分されている環境科学と資源エネルギー論は物質化学科では必修科目なので注意すること。３年次配当の科学技術英語は科学の国際化に対応するための重要な科目である。

2．学科固有科目の履修方法

数学序論、物理学序論は随意科目であるが高校で数学Ⅲ、物理ＩＢ、物理Ⅱを履修しなかった人ならびに履修はしたが理解が不十分と思われる人は受講すること。学年が進行すると授業内容が高度になるので早めに苦手科目をなくしておく必要がある。学科固有科目を履修する上で以下の２点について特に注意すること。

物質化学科では「環境にやさしい化学」の専門知識を多く身につけることを目標にしておりグリーンケミストリー関連の選択必修科目である「物質循環工学」「資源工学」「化学リスク学」「エネルギー循環工学」「環境生態学」「グリーンプロセス工学」の６科目の中から最低２科目は履修しなければならない。また将来技術者として活躍するための基礎知識として「界面・分離化学」と「特別講義」を選択必修としている。

また、４年次では特別研究（卒業研究）を行うに当り、各人が４年生で行う研究を想定してコース科目（物質評価、無機・金属、有機・高分子の３コース）を選択することが望ましい。

【評価制度について】

①自己評価制度

学生諸君は学期の開始時にポートフォリオを記入し、その学期の目標を自分自身で設定する。次の学期の初めに、その目標に対する達成度を自己評価する。卒業研究の発表会では、学生諸君が自己評価すると同時に、学生どうしでも相互評価を行う。優れた発表をした者は表彰される。

②授業評価制度

すべての科目の終了時には、無記名の学生アンケートを実施し、学生諸君による授業評価を行うことにより、教育改善に役立てている。

3．卒業・進級の要件

⑴卒業要件単位（最低）数表

卒業のためには下表に示すように必修科目および選択科目を合わせて134単位の修得が必要である。

区　分			単位数
共同開講科目（共通科目）	基礎科目	必修	12
		選択	10
		（小計）	(22)
	総合科目	選択	6
		（小計）	（6）
学部内共通科目		必修	14
		選択	4
		（小計）	(18)
学部固有科目		必修	54
		選択	34
		（小計）	(88)
合　　計			134

⑵進級に係る在学期間

各年次の進級に必要な在学期間は原則として下表のとおりである。ただし、休学期間は進級要件上の在学期間には算入しない。

進級年次	必要在学期間（最低）
２年進級	１年間
３年進級	２年間
４年進級	３年間
卒　　業	４年間

⑶進級に係る取得単位（最低）数表

理工学部においては、学年が進むにつれ内容が高レベルになるように構成されている。

各年次の進級のための取得単位数の要件は原則として下表のとおりである。

区　　分		単位数	
２年進級	必修科目単位数	24	
	卒業要件総修得単位数	30	A）
３年進級	必修科目単位数	48	
	卒業要件総修得単位数	62	B）
４年進級	必修科目単位数	68	
	卒業要件総修得単位数	106	C）
卒　　業	必修科目単位数	80	
	卒業要件総修得単位数	134	

⚠ 注意事項

A）特別措置として、１年次留年生は、２年次配当科目（理工学基礎実験A、物理化学実験を除く）の登録を年間10単位まで認める。（登録制限単位数に含む）

B）特別措置として、２年次留年生は、３年次配当科目（無機合成化学実験、有機合成化学実験、機器分析化学実験、科学技術英語、学外実習、物質化学研究デザイン演習を除く）の登録を年間８単位まで認める。（登録制限単位数に含む）

C）次の科目をすべて修得していること。

理工学基礎実験A、理工学基礎実験B、計算機基礎実習Ⅰ、無機合成化学実験、有機合成化学実験、物理化学実験、機器分析化学実験、学外実習、物質化学研究デザイン演習

4．設置科目

区分		授業科目	単位数		配当年次（前期・後期） 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
学部内共通科目	語学	**科学技術英語**	**必修**	**2**						○			
	語学	化学概論Ⅰ	選択	2	○								2007年度以降不開講
	生物	生物学概論Ⅰ	選択	2			○						
	生物	生物学概論Ⅱ	選択	2				○					
	地学	地学概論Ⅰ	選択	2	○								
	地学	地学概論Ⅱ	選択	2		○							
	実験・実習	**理工学基礎実験A**	**必修**	**2**			○						
	実験・実習	**理工学基礎実験B**	**必修**	**2**		○							
	実験・実習	**計算機基礎実習Ⅰ**	**必修**	**2**	○								
	実験・実習	計算機基礎実習Ⅱ	選択	2				○					
	実験・実習	生物多様性実習B	選択	2	○	●							2003年度入学生対象
	実験・実習	生物学実験	選択	2						○			
	実験・実習	地学実験	選択	2	○								
	実験・実習	**学外実習**	**必修**	**2**					○				
	総合	科学思想史	選択	2				○		○		○	〔原則として総合分野より「環境科学」「資源エネルギー論」以外に4単位以上を2年次から4年次の間に修得すること。
	総合	情報学概論	選択	2			○		○		○		
	総合	**環境科学**	**必修**	**2**	○								
	総合	**資源エネルギー論**	**必修**	**2**		○							
	総合	人間工学	選択	2				○		○		○	
	総合	工学概論	選択	2			○		○		○		
	総合	生体情報概論	選択	2			○		○		○		
	総合	工業経済	選択	2				○		○		○	
	総合	生態学概論	選択	2			○		○		○		2003年度入学生対象
	総合	地球環境概論	選択	2				○		○		○	2003年度入学生対象
	総合	情報倫理	選択	2			○						01～'02年度入学生対象
	総合	情報と職業	選択	2					○	●			01～'02年度入学生対象
	総合	情報と職業	選択	2			○						2003年度入学生対象
	総合	MOT概論	選択	2			○		○		○		
	総合	MOT演習	選択	2				○		○		○	
	総合	知的財産概論	随意	②		○		○		○		○	
学科固有科目	グリーンケミストリー関連科目	**物質化学総論**	**必修**	**2**	○								
	グリーンケミストリー関連科目	**環境化学**	**必修**	**2**			○	●					
	グリーンケミストリー関連科目	物質循環工学	選択	2				○					2008年度不開講
	グリーンケミストリー関連科目	資源工学	選択	2				○					2008年度不開講
	グリーンケミストリー関連科目	化学リスク学	選択	2					○				
	グリーンケミストリー関連科目	エネルギー循環工学	選択	2					○				
	グリーンケミストリー関連科目	環境生態学	選択	2						○			
	グリーンケミストリー関連科目	グリーンプロセス工学	選択	2						○			
	学科基本科目 数学	数学序論	随意	②	○								
	学科基本科目 数学	**数学Ⅰ**	**必修**	**2**		○							
	学科基本科目 数学	**数学Ⅱ**	**必修**	**2**			○						
	学科基本科目 数学	数学Ⅲ	選択	2				○					
	学科基本科目 物理学	物理学序論	随意	②	○								
	学科基本科目 物理学	**物理学Ⅰ**	**必修**	**2**		○							
	学科基本科目 物理学	**物理学Ⅱ**	**必修**	**2**			○						
	学科基本科目 物理学	物理学Ⅲ	選択	2				○					
	学科基本科目 物理化学	**分析化学**	**必修**	**2**	○								
	学科基本科目 物理化学	**物理化学Ⅰ**	**必修**	**2**		○							
	学科基本科目 物理化学	**物理化学Ⅱ**	**必修**	**2**			○						
	学科基本科目 物理化学	**物理化学Ⅲ**	**必修**	**2**				○					
	学科基本科目 物理化学	量子化学	選択	2					○				

区分			授業科目	単位数		配当年次（前期・後期） 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
学科固有科目	学科基本科目	無機化学	**無機化学Ⅰ**	**必修**	**2**	○								
			無機化学Ⅱ	**必修**	**2**		○							
			電子化学	選択	2			○						
			固体化学	**必修**	**2**				○					
			無機プロセス化学	選択	2					○				
		有機化学	**有機化学Ⅰ**	**必修**	**2**	○								
			有機化学Ⅱ	**必修**	**2**		○							
			有機化学Ⅲ	**必修**	**2**			○						
			高分子化学	**必修**	**2**			○	●					
			生化学	選択	2					○				
		実験・演習	**物理化学実験**	**必修**	**2**				○					
			無機合成化学実験	**必修**	**2**					○				
			有機合成化学実験	**必修**	**2**					○				
			機器分析化学実験	**必修**	**2**						○			
			化学英語演習	**必修**	**2**					○				
			無機・物理化学演習	選択	2							○		'00・'01年度入学生対象
			無機・物理化学演習	選択	2					○	●			'02・'03年度入学生対象
			有機・高分子化学演習	選択	2							○		'00・'01年度入学生対象
			有機・高分子化学演習	選択	2					○	●			'02・'03年度入学生対象
		その他	工業化学	選択	2					○				
			工業法規	選択	2					●	○			
	コース科目	物質評価	界面・分離化学	選択	2					○				※
			環境分析化学	選択	2					○				
			分子設計化学	選択	2						○			
			構造解析学	選択	2						○			
		無機・金属	セラミック材料工学	選択	2			○	●					
			結晶材料工学	選択	2					○				
			ナノ材料工学	選択	2						○			
			機能材料工学	選択	2						○			
		有機・高分子	有機機器分析化学	選択	2				○					
			高分子合成化学	選択	2					○				
			高分子物性	選択	2						○			
			有機材料化学	選択	2						○			
	特別研究関連科目		入門セミナー	選択	2	○								
			物質化学研究デザイン演習	**必修**	**2**						○			
			プレゼンテーション演習	随意	②					○				
			特別講義	選択	2							○		※2008年度不開講
			セミナー	**必修**	**2**							○		
			特別研究	**必修**	**6**								○	

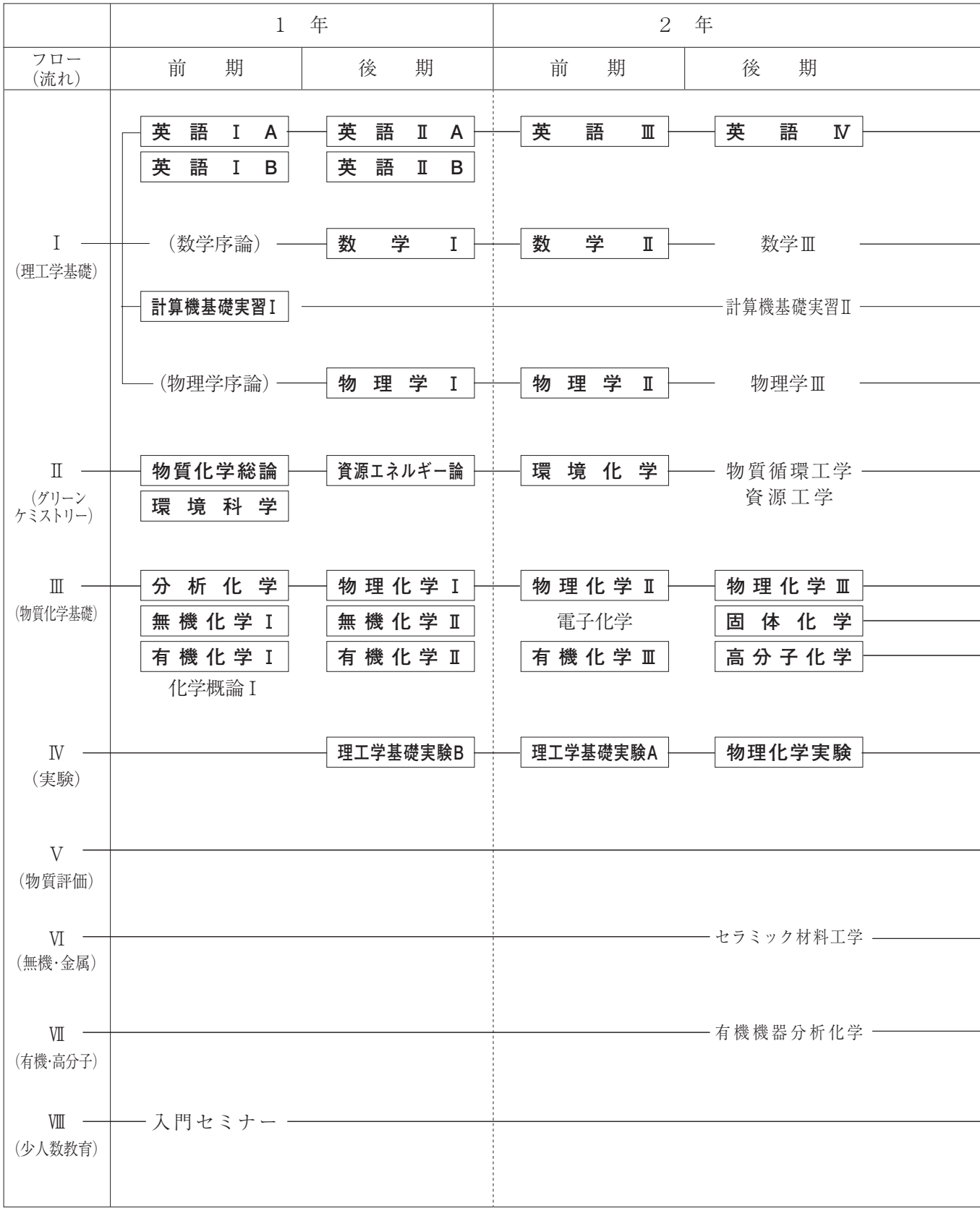
「必修」＝必修科目、「選択」＝選択科目、「随意」＝随意科目（卒業要件単位に含めない）

⚠ 注意事項

●は、通常の開講学期であるが、カリキュラム改革および他学科合併開講の都合上、○の学期に開講されているので注意すること。

※は、JABEE認定プログラムのため、どちらか一科目の修得が必要である。

5．カリキュラムフローチャート



付きゴシック文字は必修科目を示す

❹学科固有科目カリキュラム対照表

2007年度以降入学生		2006年度以前入学生	
科　目　名	単位	科　目　名	単位
環境化学	2	環境化学	2
グリーンプロセス工学	2	グリーンプロセス工学	2
化学リスク学	2	化学リスク学	2
エネルギー循環工学	2	エネルギー循環工学	2
		物質循環工学	2
		資源工学	2
		環境生態学	2
数学Ⅰ・演習	2	数学序論	2
数学Ⅱ・演習	2	数学Ⅰ	2
数学Ⅲ・演習	2	数学Ⅱ	2
化学数学	2	数学Ⅲ	2
物理学Ⅰ・演習	2	物理学序論	2
物理学Ⅱ・演習	2	物理学Ⅰ	2
物理学Ⅲ・演習	2	物理学Ⅱ	2
物理学Ⅳ・演習	2	物理学Ⅲ	2
分析化学	2	分析化学	2
物理化学Ⅰ・演習	2		
物理化学Ⅱ・演習	2	物理化学Ⅰ	2
物理化学Ⅲ	2	物理化学Ⅱ	2
物理化学Ⅳ	2	物理化学Ⅲ	2
		無機・物理化学演習	2
量子化学	2	量子化学	2
機器分析化学	2	無機機器分析化学	2
分子設計化学	2	分子設計化学	2
構造解析学	2	構造解析学	2
		環境分析化学	2
無機化学Ⅰ・演習	2	無機化学Ⅰ	2
無機化学Ⅱ・演習	2	無機化学Ⅱ	2
無機化学Ⅲ	2	電子化学	2
無機化学Ⅳ	2	固体化学	2
		無機プロセス化学	2
結晶材料工学	2	結晶材料工学	2
セラミック材料工学	2	セラミック材料工学	2
ナノ材料工学	2	ナノ材料工学	2
機能材料工学	2	機能材料工学	2
有機化学Ⅰ・演習	2	有機化学Ⅰ	2
有機化学Ⅱ・演習	2	有機化学Ⅱ	2
有機化学Ⅲ	2	有機化学Ⅲ	2
有機化学Ⅳ	2		
		有機・高分子化学演習	2
高分子化学	2	高分子化学	2
高分子プロセス化学	2	高分子合成化学	2
有機構造解析学	2	有機機器分析化学	2
生化学	2	生化学	2
有機材料化学	2	有機材料化学	2
高分子材料化学	2	高分子物性	2
物理化学実験	2	物理化学実験	2
無機合成化学実験	2	無機合成化学実験	2
有機合成化学実験	2	有機合成化学実験	2

2007年度以降入学生		2006年度以前入学生	
科　　目　　名	単位	科　　目　　名	単位
機器分析化学実験	2	機器分析化学実験	2
化学英語演習	2	化学英語演習	2
化学工学概論	2	化学工学概論（2004年度以降入学生）	2
		界面・分離化学（2000～2003年度入学生）	2
工業化学	2	工業化学	2
工業法規	2	工業法規	2
物質化学総論	2	物質化学総論	2
入門セミナー	2	入門セミナー	2
物質化学研究デザイン演習	2	物質化学研究デザイン演習	2
プレゼンテーション演習	2	プレゼンテーション演習	2
英語セミナー	2	セミナー	2
特別講義	2	特別講義	2
特別研究	6	特別研究	6

❺他学科科目の履修について

2001年度より理工学部ではカリキュラム改革の一環として、自主的学習プランの作成と幅広い知識の習得や総合的思考力を養うために、他学科科目の履修を大幅に拡大しました。履修を希望する者は以下の事項に注意して履修してください。

1．履修可能他学科科目

＜科　　目＞

各学科から提供された科目の中から、あなたの所属する学科が履修を認めた科目。

（別紙、他学科開放科目一覧を参照してください。掲示等でお知らせします。）

＜配当年次・対象＞

科目提供学科での配当年次および対象入学年度に従います。

履修要項で確認してください。

＜開講曜講時＞

理工学部教務課カウンターに設置している他学科時間割表で確認してください。

2．単位認定

他学科科目は、各学科次の通り単位認定されます。

＜数理情報学科＞
2001年度～ 2006年度入学生は、フリーゾーン科目として16単位まで認定。
2007年度以降入学生は、フリーゾーン科目として10単位まで認定。
＜電子情報学科＞
2001年度入学生より、学科固有科目の選択科目として６単位まで認定。
＜機械システム工学科＞
2001年度入学生～ 2006年度入学生は、学科固有科目の選択科目として６単位まで認定。
2007年度入学生より、自由選択科目として９単位まで認定。
＜物質化学科＞
2000年度入学生より、学科固有科目選択科目として６単位まで認定。
＜情報メディア学科＞
フリーゾーン科目として８単位まで認定。
＜環境ソリューション工学科＞
フリーゾーン科目として８単位まで認定。

上記以外の学生は随意科目として認定。

3．履修方法

受講登録より事前に、必ず『他学科科目履修届』（理工学部教務課窓口にて配布）を提出してください。（提出がない場合、受講、単位認定ができない場合があります。）

履修制限単位数に含まれます。

⚠注意事項

科目によっては該当学科の受講生を優先するため、受講可能人数を制限する場合があります。（掲示にて発表しますので注意してください。）

❻単位互換制度について

単位互換制度とは、他大学が提供する科目のうち、理工学部があらかじめ履修可能科目（掲示等でお知らせします）として認めた科目を「単位互換履修生」として受講し、試験に合格すれば、下記の要領にしたがって単位が認定される制度です。受講料は無料です。(ただし、科目により実習・演習料金等が別途必要となる場合があります。)

また、京都駅前の「キャンパスプラザ京都」においても「単位互換科目」としての授業科目が各大学から提供されています。本学部の学生が「他大学」または「キャンパスプラザ京都」において提供された科目を受講する際は、「単位互換履修生」として扱われることになっています。

理工学部では、大学コンソーシアム京都の単位互換制度と、滋賀県環びわ湖大学連携単位互換制度を利用することができます。

1．履修条件

【2007年度以前入学生】

随意科目として、大学コンソーシアム京都の単位互換科目と滋賀県環びわ湖大学連携単位互換制度の科目を合わせて在学期間中に上限８単位まで履修を認める。

【2008年度以降入学生】

<table>
<tr><th rowspan="2">学科</th><th rowspan="2">単位互換
制度名</th><th colspan="4">備　　考</th></tr>
<tr><th>単位認定</th><th>登録制限</th><th>受講対象</th><th>備考</th></tr>
<tr><td rowspan="2">数理情報学科</td><td>大学コンソーシアム京都</td><td rowspan="2">・在学期間中にフリーゾーン科目として上限２単位まで単位を認定する。</td><td rowspan="6">履修登録制限単位には含まない。</td><td rowspan="6">１年次生～３年次生
（卒業年次生は随意科目として受講可。）</td><td rowspan="6">大学コンソーシアム京都の単位互換科目と滋賀県環びわ湖大学連携単位互換制度の科目を合わせて在学期間中に上限８単位まで履修を認める。</td></tr>
<tr><td>滋賀県環びわ湖大学連携単位互換制度</td></tr>
<tr><td rowspan="2">機械システム工学科</td><td>大学コンソーシアム京都</td><td rowspan="2">・在学期間中に自由選択科目として上限２単位まで単位を認定する。</td></tr>
<tr><td>滋賀県環びわ湖大学連携単位互換制度</td></tr>
<tr><td rowspan="2">電子情報学科
物質化学科
情報メディア学科
環境ソリューション工学科</td><td>大学コンソーシアム京都</td><td rowspan="2">・在学期間中に教養教育科目の総合科目として上限２単位まで単位を認定する。</td></tr>
<tr><td>滋賀県環びわ湖大学連携単位互換制度</td></tr>
</table>

2．「単位互換履修生」の学籍およびその取り扱い

①履修手続きを完了した者には、科目開設大学における「単位互換履修生」となります。

②単位互換履修生は許可を受けた授業科目について受講することができ、当該科目についての試験に合格すれば、単位の認定を受けることができます。

③単位互換履修生は、自分が受講する科目開設大学の定める範囲において、履修期間中に限りその大学の施設（図書館等）を利用することができます。

3．試験について

試験期間は、科目開設大学の定めるところにより実施されますので、当該科目と本学の試験日時が重なることが判明した場合は、直ちに理工学部教務課窓口に相談してください。

なお、単位互換科目に関し本学定期試験と重なった場合の取扱いは以下のとおりです。

◎印は、卒業要件に関する科目（教職課程科目を含む）
○印は、随意科目として扱い科目

本学の授業科目	単位互換科目	対応方法	本学の科目の追試対象	追試受験料
◎	◎	単位互換科目を優先して受験させる	認める	免除
○	◎	単位互換科目を優先して受験させる	認める	免除
◎	○	本学の科目を優先して受験すること。ただし、本人の判断により選択可能。	認める	必要
○	○	本人の判断により選択	認める	必要

4．その他の注意事項

単位互換科目のほとんどは人数制限があり、希望者全員が受講できるものではありません。しかしながらその一方では、受講が許可されたにも関わらず受講を放棄する学生も多数います。許可された科目を放棄することは、受講を許可されなかった学生のみならず、科目開設大学にも大変な迷惑をかけることになります。出願にあたっては、途中で放棄することのないよう慎重に科目を選択し、受講が許可された場合には必ず最後まで受講するようにしてください。

5．大学コンソーシアム京都の単位互換制度について

大学コンソーシアム京都においては、1994年度から京都地域の大学および短期大学が単位互換の協定を締結し、各大学から特色ある科目を提供することによって、相互に科目履修のできる「単位互換授業」の制度を設置、さらには、1998年度からは、学生が在学中に企業や行政機関およびNPO・NGO団体等において就業体験をする「インターンシップ・プログラム」を開講し、これらの事業内容を年々充実すると共に継続的に発展させています。

この「単位互換制度」および「インターンシップ・プログラム」等の大学コンソーシアムの事業には、本学を含め40以上の大学および短期大学が参加していることもあり、これまでにも多くの学生が参加しています。

これらの教育プログラムの具体的な内容等の案内および出願手続きの資料等については、今後、理工学部教務課（および「インターンシップ・プログラム」についてはインターンシップ支援オフィス）窓口にて配付する予定です。

⑴出願手続きについて

「大学コンソーシアム京都　単位互換制度」で提供される授業の履修を希望する学生は、前期・後期・集中科目とも、4月初旬の指定された登録日（学年別の学部履修登録日）に出願手続きをおこなってください。出願手続きは、Web出願票作成システム（http://cs.consortium.or.jp/student/）にアクセスして、出願票に入力後出力し、１科目２枚印刷して、事前に各学科教務委員の確認を得た上で、理工学部教務課窓口に提出してください。なお、受講機会拡大のため、集中科目・後期科目の定員に余裕がある科目について、６月初旬に追加登録をおこないます。

科目開設大学の都合により、男子学生の受講が制限されたり、科目の性質から学部および学年が制限される場合があるので注意してください。受講資格については、「単位互換開講科目シラバスweb」または募集ガイドの「単位互換科目詳細」の項を参照してください。

⑵履修許可および履修手続き

申し込み者多数の場合は、選考（書類選考等）をおこなう場合があります。科目開設大学からの選考結果は４月末頃掲示でお知らせします。許可を受けた者は、科目開設大学によっては、指定の期日までに所定の

手続き（身分証明書用写真、実習費用の必要な場合には、費用の納入など）を必要とする場合もありますので、科目開設大学の指示に従ってください。

●休講・補講・教室変更等の連絡は、大学コンソーシアム京都ホームページで確認してください。
ホームページアドレス　http://www.consortium.or.jp/student/tan-i/

6.「インターンシップ・プログラム」について

大学コンソーシアム京都が実施する「インターンシップ・プログラム」には、以下のプログラムが用意されております。

①短期実践型（夏期）「ビジネスコース」・「パブリックコース」
夏期休暇を中心としたインターンシップを企業や行政機関およびNPO・NGO団体等においておこなう。

②長期プロジェクト型「プログレスコース」
３～６ヶ月の長期にわたり企業、NPOなどで実際にひとつのプロジェクトを担当する。

③短期体験型（冬期）「トライアルコース」
短期大学生および４年制大学１・２年次生を対象に12月中旬～２月下旬にかけて最低５日間の実習をおこなう。なお、2009年度は休止する予定です。詳細は大学コンソーシアム京都ホームページで確認してください。

「インターンシップ・プログラム」は理工学部では最終評価に合格すれば、下記の要領にしたがって単位が認定されます。なお、インターンシップ･プログラムを受講希望で単位認定を希望の場合は、必ず事前（履修登録日まで）に理工学部教務課および各学科の学外実習実施委員まで相談すること。

これらの「インターンシップ・プログラム」の受講を希望する学生は、本学の授業や定期試験等と「インターンシップ・プログラム」の日程が重なることも考えられますので理工学部教務課窓口で事前に相談してください。

なお、コースのプログラム内容等については、2009年度の「インターンシップ・プログラム実習生募集ガイド」で確認してください。

⑴資格要件　理工学部学生の履修条件は以下のとおりです。
３年次に、「学外実習」の科目として履修登録を行うこと。
※３年次以外の受講については、単位認定対象外とする。

⑵出願手続について

理工学部教務課、またはインターンシップ支援オフィス窓口において、「インターンシップ実習生募集ガイド」と受講を希望するコースの「インターンシップ・プログラム出願票」を受け取り、「募集ガイド」を熟読のうえ、「出願票」に必要事項を記入、写真を貼付し、キャンパスプラザ京都の「大学コンソーシアム京都事務局窓口」に定められた期日までに提出してください。なお、出願できるのは、1名につき1コースであり、複数コースへの出願、同一コースの重複出願があった場合は、その全てが無効になるので注意してください。

⑶インターンシップ・プログラムの枠組みについて

「事前学習」→「実習（中間指導）」→「事後学習」をひとつの枠組みとした、各コースの目的に沿ったプログラムの学習・実習がおこなわれます。

①事前学習について
実習に先だって、実習が有意義なものとなるように準備に万全をきすためのプログラムで、オリエンテーション、実習先の研究を通じ職業意識を啓蒙するディスカッション、最低限必要なパソコンのスキルアッ

プやビジネスマナー講座などがあります。

②実習について

実習先において正（準）社員・職員と同じ責任と意識をもった就業体験ができるよう、各受入先では特色あるプログラムが策定されています。

③事後学習について

ゼミクラスで各々の実習体験を報告することによって、自らの問題意識や関心を明確にし、今後の学習効果やライフプランにつなげていくことを重点とした学習をおこないます。

⑷実習先の決定について

実習生の希望や適性を考慮して、大学コンソーシアム京都インターンシップ事業推進室の総合コーディネーター（大学教員）を中心とした「選考委員会」にて決定されます。この際､受け入れ人数の問題等によって、必ずしも希望する業界や職種で実習できない場合があることを出願時から理解しておいてください。

７．滋賀県環びわ湖大学連携単位互換制度について

滋賀県環びわ湖大学連携単位互換制度が提供する科目を履修し、それを単位として認定する制度です。この制度は、2005年度から開始され、滋賀県特有の内容をテーマにした科目や各大学や短期大学の学部・学科・専攻の特徴的な科目が提供されています。本学の学生は本学の定める範囲において、単位互換科目を受講することができます。

⑴出願手続きについて

滋賀県環びわ湖大学連携単位互換制度で提供される科目の履修を希望する学生は、指定された登録期限日までに出願手続きをおこなってください。出願書類は、カウンター配布の「滋賀県環びわ湖大学連携単位互換制度　出願票」を１科目１枚として、事前に各学科教務委員の確認を得た上で、理工学部教務課窓口に提出してください。

受講料は、実習費等が別途必要な場合を除いて無料です。ただし、実習費等が必要な科目については、履修許可通知が届いた後、科目開設大学の指示にしたがって納入してください。

⑵履修許可および履修手続き

出願者多数の場合は、科目開設大学において選考が行われ（原則として、出願票に各自が記載した「志望理由」をもとに選考されます)、選考結果は本学を通じて出願者に通知します。許可通知は４月末頃の予定です。前期科目の場合、出願して履修許可通知があるまでの４月前半に授業が開始されることがあります。この場合、履修許可通知があるまでは、その出願科目を仮受講してください。

許可通知の後、科目開設大学によっては写真提出等の別途手続きを必要とする場合もありますので、科目開設大学の指示に従ってください。

❼日本技術者教育認定機構（JABEE）について

1．JABEEとは

JABEEとは「日本技術者教育認定機構」のことです。英語名の“Japan Accreditation Board for Engineering Education”の頭文字をとったもので「ジャビー」と愛称されています。JABEEは、大学などの高等教育機関のプログラムを審査し、その内容が国際的に認められるレベルにあり、技術者として活動するために必要な知識や能力の養成に成功していると判断したとき、認定を与えます。

2．JABEEによる認定制度

JABEEによる審査は、定められた明確な基準に照らし、書類審査と実地審査に基づいて、厳密かつ公正に行われます。JABEEはまた、アメリカ、イギリスを始め、世界各国が加盟するワシントン協定に加盟しており、JABEEの認定は国際的な認定として認められています。

3．認定の基準

JABEEは以下の基準をすべて満たした技術者教育プログラムに対して認定を与えます。

⑴大学や教育プログラムは、社会のニーズに一致する使命と目的を明示しなければならない。

⑵教育プログラムは、使命と目的に沿う具体的な教育目標を定義し、教育活動の成果がこれらの教育目標と日本技術者教育認定制度が求める教育成果を如何に満たしているかを示さなければならない。

⑶教育プログラムを継続的に改善する仕組みを持たなければならない。

⑷入学学生の質、教員、設備、大学のサポート、財務などの諸問題を教育プログラムの目標と結びつけて十分検討してあること。

これらの項目は、教育機関が、整然とした教育目標と教育戦略を持ち、必要な水準の教育活動を維持し継続的に改善していくために、人的資源や設備が組織的にも財務的にも充分であることを要求するものです。（JABEEホームページより）

4．認定を受けるメリット

JABEEから認定を受けるためには、基準を満たすため数々の教育改善を継続的に実行することが求められます。また、それを客観的に説明する努力も必要となります。このようにして、学部や学科での教育内容や方法に継続的な改善が加えられるので、学生諸君は常に社会の要求に合致した質の高い教育を受けられることが保証されます。また、JABEE認定プログラムを修了するということは、国際的に通用する技術者として認められるための第一歩を踏み出すことでもあります。その評価が、卒業後の皆さんの活躍により益々高まり、広範囲なものになることを期待します。また、修了生には技術士になるための１次試験（技術士補試験）が免除されるなどの直接的なメリットも期待できます。

5．理工学部における取り組み

本学理工学部ではJABEE認定に対し深い関心を寄せており、2003年度には、物質化学科が関西にある私立大学の化学系としては初めて、JABEEの認定を受けました。

❽卒業年次生の大学院授業科目の履修について

理工学部では、卒業年次生のうち特に優秀な学生に対し、学部における修学に影響のない範囲で本学大学院理工学研究科科目（以下、大学院科目）の履修を認めています。この制度の利用者には大学院への進学を奨励するため、学内推薦入学試験の受験を要件としています。

大学院科目の履修ならびに学内推薦入学試験の受験に関して、指導教員または教務委員とよく相談することをおすすめします。

また、大学院理工学研究科修士課程１年修了制を利用して、大学院理工学研究科修士課程の在学期間を短縮することが可能です。これは、文部科学省の大学院設置基準および本学大学院学則第12条に基づき実施されるものです。

１．履修出願資格

大学院科目の履修を出願できる者は、次の各号に該当し、かつ研究科委員会の定める要件を満たさなければなりません。

①本学理工学部の卒業年次生

②大学院科目を履修する能力を有する者

③本学大学院理工学研究科への進学を希望している者であって、かつ学内推薦入学試験（詳細は学内推薦入学試験要項を参照してください。）に出願を希望している者。ただし、同試験において不合格となった場合および入学手続を所定の期間に行わなかった場合は履修許可を取り消すものとする。

④各専攻において別途定める基準を満たす者

２．出願方法

大学院科目の履修を希望する者は、卒業年次の第一学期（前期）履修登録時に所定の願書を理工学部教務課に提出し、研究科委員会の議に基づき、教授会の承認を得て、履修が許可されます。

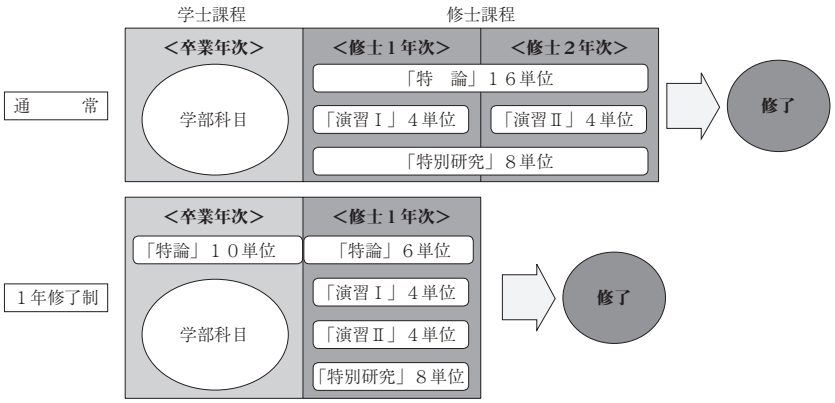
３．単位認定

許可された者が、出願した大学院科目に合格した場合は、本学大学院理工学研究科に入学した際に、研究科委員会の議を経て大学院科目として単位が認定されます。

この単位は、理工学部の卒業要件単位としては認められませんので、注意してください。

４．修士課程１年修了制のしくみ

修士課程を１年間で修了するためには、下図のように、卒業年次の時に大学院の特論科目（10単位）を修得し（大学院入学時に単位認定）、修士１年次の時に修了要件単位に必要な特論科目（６単位）と演習Ⅰ・Ⅱ（８単位）、特別研究（８単位）を修得して、修士論文の審査に合格しなければなりません。



Ⅳ　諸課程等の履修方法

❶教職課程

教育職員免許法に基づき、本学が認定を受けている免許状の種類は下記の通りです。本学学則に定める所定の単位を修得することによって、下記の免許状が取得できます。

入学年度により取得できる免許状が異なりますので注意してください。

教育職員免許法取得に関する科目の履修方法については、**「履修要項別冊　教職課程ガイドブック（瀬田学舎共通）」**を参照してください。

＜2000年度以降入学生＞

学科	免許教科	中学校教諭	高等学校教諭
数理情報学科	数　学	一種免許状	一種免許状
	情　報		一種免許状
電子情報学科	工　業		一種免許状
	情　報		一種免許状
機械システム工学科	工　業		一種免許状
物質化学科	理　科	一種免許状	一種免許状
情報メディア学科	情　報		一種免許状
環境ソリューション工学科	理　科	一種免許状	一種免許状

❷本願寺派教師資格課程

本願寺派教師資格は、下記の本学部開講の関連科目を履修することによって取得できます。

本山教師科目	本学部開講の関連科目	単位	配当年次	備考
真宗教義	真宗学概論	4	2	
仏教教義	仏教学概論	4	2	
真宗史	真宗史	4	1	通年
仏教史	日本仏教史	4	1	通年
宗教概説	宗教学概論	4	2	
勤式作法	勤式	4	1	＊
宗門法規	宗門法規	2	1	前期集中
布教法	教化法	4	1	＊

隔年開講の科目がありますので、計画的に履修すること。

＊……2009年度不開講（隔年開講のため）

❸特別研修講座

課程	目的・内容	担当課
開教使課程	将来,海外開教使(外国における真宗伝道)を志す人のために、必要な知識を修得させることを目的とした講座	文学部教務課窓口
職業会計士課程	簿記の初歩から指導をおこない,商業簿記・工業簿記の基礎力・応用力を養成する講座 日本商工会議所簿記検定試験3級・2級の合格をめざします。	経営学部教務課窓口
矯正・保護課程	刑務所、少年院、少年鑑別所などで働く強制職員や犯罪や非行をしてしまった人たちの社会復帰の手助けをする保護観察官等の専門職やボランティアとして活躍する人たちを、養成することを目的としています。	法学部教務課窓口
法職課程	司法試験をはじめ,司法書士試験,各種公務員試験(裁判所事務官試験,家庭裁判所調査官補試験など)の合格を目指す学生に対し,体系的かつ効率的な学習カリキュラムを編成し,良質な講座及び最新の試験情報などを提供し,合格者を輩出することを目的としています。	
教職講座	教員採用試験突破のための基礎力・実践力を養成する講座	教学部(深草)瀬田教学部窓口
語学系講座 模擬試験 資格試験	＜語学系講座＞ TOEIC®講座	キャリア開発部窓口
	＜模擬試験＞ TOEIC®IP ／ TOEFL®-ITP	生協窓口
	＜資格試験＞ 簿記検定試験	経営学部教務課窓口
キャリア支援講座 ※受講希望者が少ない場合,開講できないことがあります。 ※名称は変更することがあります。	就職活動のサポートや公務員試験対策、将来のキャリアアップのための資格試験対策などを目的とした各種講座 〈就職対策系〉 マスコミ就職対策講座／就職活動まるごと集中講座／エントリーシートの書き方講座／Ｒ－ＣＡＰ／Ｅ－Testing（Web就職筆記試験対策）／就職筆記試験レクチャー／福祉・保育施設就職模擬試験 <資格系> 公務員講座／日本語文章能力養成講座／ TOEIC®500点対策講座／秘書検定講座＜準１・２級＞／旅行業務取扱管理者講座／宅地建物取引主任者講座／２級ＦＰ技能士・ＡＦＰ講座／証券外務員Ⅱ種講座／ Microsoft Office Specialist講座（Word・Excel・PowerPoint）／ Microsoft Certified Application Specialist講 座（Word・Excel）／ITパスポート講座／ホームヘルパー２級養成講座	キャリア開発部 （深草・大宮）窓口
	〈就職対策系〉 マスコミ就職対策講座／就職活動まるごと集中講座／エントリーシートの書き方講座／Ｒ－ＣＡＰ／Ｅ－Testing（Web就職筆記試験対策）／就職筆記試験レクチャー <資格対系> 公務員講座／ TOEIC®500点対策講座／秘書検定講座＜準１・２級＞／色彩検定講座＜２・３級＞／旅行業務取扱管理者講座／貿易実務検定講座＜C級＞通関士講座 ／ Microsoft Office Specialist講 座（Word・Excel・PowerPoint）／ Microsoft Certified Application Specialist講座（Word・Excel）／ITパスポート講座／基本情報技術者講座／ CAD利用技術者講座／危険物取扱者講座／社会福祉士国家試験対策講座	キャリア開発部 （瀬田）窓口

※　上記の講座以外にも、「ＲＥＣコミュニティカレッジ」（生涯学習講座）を多数開講しています。
本学学生は会員割引価格で受講できます。詳しくはパンフレットをご覧下さい。

※　TOEIC®はエデュケーショナル・テスティング・サービス（ETS）の登録商標です。この（印刷物／製品／ウェブサイト）はETSの検討を受けまたはその承認を得たものではありません。
TOEFL®はエデュケーショナル・テスティング・サービス（ETS）の登録商標です。この印刷物（あるいは製品）はETSの検討を受けまたはその承認を得たものではありません。

Ⅴ 協定型インターンシッププログラム

❶プログラムについて

本学では、学生の自立とキャリア形成を支援する実践的な教育プログラムとして全学共通の協定型インターンシップを展開しています。このインターンシップは、建学の精神にもとづくきめ細かな事前・事後学習を展開し、本学独自の特色のあるインターンシッププログラムです。このインターンシッププログラムの具体的な内容については、インターンシップ支援オフィス発行の「インターンシッププログラム2009」のリーフレットを参照してください。

また、2007年度より理工学部で卒業要件単位として単位認定されることになりました。詳細については、下記のとおりです。

⑴対象学年

学部３年次に、「学外実習」の科目として履修登録を行うこと。

※３年次以外の受講については、単位認定対象外とする。

なお、協定型インターンシッププログラムを受講希望で単位認定を希望の場合は、必ず事前（履修登録日まで）に理工学部教務課および各学科の学外実習実施委員まで相談すること。

⑵単位認定

※具体的な単位認定方法（単位登録・評価方法・履修制限等）は理工学部教務課にて確認してください。

学部	学科・専攻	科目名称（学則上の名称）	科目単位数	単位数（上限）	科目区分	必須・選択区分	対象年次	単位認定の取り扱い	備　考
理工学部	全学科	＊＊＊＊	＊＊	＊＊	＊＊＊＊	＊＊＊＊	１～２年次生	単位認定対象外	
		学外実習	２	２単位	固有科目	学科によって異なる。	３年次生	合格(G) ※不合格(D)	３年次生受講生は、「学外実習」で読み替える。

⑶応募方法

当プログラムの応募方法等の詳細内容については、インターンシップ支援オフィスで配布される募集要項を参照してください。

⑷シラバス

次ページ参照

2009年度体験型インターンシップ「協定型インターンシップ」授業計画

（総合コーディネーター：藤田誠久）

	日程	場所	講師	講義名	内容
第１講	6月13日(土) １限目	大宮 本館講堂	担当教員 総合コーディネーター	オリエンテーション	・インターンシップとは ・社会環境・状況 ・プログラム概要説明
第２講	6月13日(土) ２限目	大宮 本館講堂	学長 担当教員 総合コーディネーター	建学の精神	学長による建学の精神にもとづく講義
第３講	6月13日(土) ３限目	大宮 本館講堂 →ゼミ室	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グループワーク①	ゼミ形式によるグループワーク ・自己紹介など
第４講	6月27日(土) １限目	瀬田 6号館 プレゼンルーム	外部講師 担当教員 総合コーディネーター	ビジネスマナー①	ビジネスマナー ・第一印象、コミュニケーション能力養成 ・敬語の使い方、マナー等
第５講	6月27日(土) ２限目	瀬田 6号館 プレゼンルーム	外部講師 総合コーディネーター	ビジネスマナー②	ビジネスマナー実技 ・電話応対、来客応対、名刺交換
第６講	6月27日(土) ３限目	瀬田 6号館 プレゼンルーム	外部講師 総合コーディネーター	ビジネスマナー③	ビジネス文書の基本 ・ビジネス文書の書き方 ・電子メール等
第７講	7月4日(土) １限目	深草 2号館 205 ～ 211	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グループワーク②	ゼミ形式によるグループワーク ・インターンシップ実習目的設定 ・グループ別プレゼンテーション ・受け入れ担当者による講義 ・インターンシップ体験者による報告など
第８講	7月4日(土) ２限目	深草 2号館 205 ～ 211	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グループワーク③	
第９講	7月4日(土) ３限目	深草 2号館 205 ～ 211	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グループワーク④	
学生による実習先訪問（7/5 ～ 7/22）					
第10講	7月11日(土) １限目	深草 2号館 205 ～ 211	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グループワーク⑤	・インターンシップ(企業・業界)研究 ・プレゼンテーション能力 ・コミュニケーション能力
第11講	7月11日(土) ２限目	深草 2号館 205 ～ 211	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グループワーク⑥	・インターンシップ(目的の明確化)研究 ・中間発表報告
第12講	7月11日(土) ３限目	深草 2号館 205 ～ 211	担当教員 総合コーディネーター	事前学習グループワーク⑦	グループ別プレゼンテーション
第13講	8月1日(土) ２限目	瀬田 2号館 120	総合コーディネーター	実習直前オリエンテーション	実習にあたっての準備・確認・注意事項 ・リスクマネジメント等
インターンシップ実習（総合コーディネーター・担当教員による中間指導）					
第14講	9月26日(土) ３限目	深草 2号館 205 ～ 211	担当教員 総合コーディネーター	事後学習グループワーク①	ゼミ形式によるグループワーク ・実習内容と獲得したものについてのプレゼンテーション ・相互評価
第15講	9月26日(土) ４限目	深草 2号館 205 ～ 211	担当教員 総合コーディネーター	事後学習グループワーク②	
第16講	9月26日(土) ５限目	深草 2号館 205 ～ 211	担当教員 総合コーディネーター	事後学習グループワーク③	
第17講	10月3日(土) ３限目	深草 3号館 202	担当教員 総合コーディネーター	(事後学習グループワーク④) 全体報告会	・学生によるグループ発表 ・受け入れ企業代表発表 ・総括及び講評
第18講	10月3日(土) ４限目	深草 3号館 202	担当教員 総合コーディネーター	(事後学習グループワーク⑤) 全体報告会	
第19講	10月3日(土) ５限目	深草 4号館 地下食堂	担当教員 総合コーディネーター	修了式・情報交換会	修了式・情報交換会

学　修　生　活

Ⅰ 窓口事務

窓口取扱時間は次のとおりです。

1．理工学部教務課の窓口取扱時間

曜日等	取扱時間	備考
月、水、木、金	9：00～17：30	ただし、授業期間・試験期間以外の期間は、11:45～12:45を閉室し、窓口業務は行いません。
火	10：45～17：30	
土、日、祝日並びに大学の定める休業日	窓口業務は行いません。	

2．届書・願書および各種証明書

理工学部教務課窓口で取り扱う届書・願書および各種証明書には次のものがあります。なお、用紙はすべて本学所定のものを使用して下さい。（理工学部教務課窓口で受け取ってください。）

(1) 届書

事　項	添付書類
※保証人変更届	特になし
現住所変更届	特になし
本籍地変更届	住民票記載事項証明書（本籍地記入）
改姓名届	住民票記載事項証明書

（※印のものは、保証人の連署が必要。）

(2) 願書

事　項	添付書類	受付期間
※休学願	理由書または診断書	○１年間・第１学期休学 当該年度の６月30日まで ○第２学期休学 当該年度の12月31日まで
※復学願	理由書	○第１学期復学 前年度３月１日から３月31日まで ○第２学期復学 当該年度９月１日から９月30日まで
※退学願	理由書または診断書、学生証	
追試験受験願	理由書、追試験料納付書、診断書等の証明書	当該科目の試験日を含め４日以内（土・日・祝日は含まない）

（※印のものは、保証人の連署が必要。）

⑶ 各種証明書の交付申請

各種証明書は、原則として学内に設置している「証明書自動発行機」にて発行いたします。証明書自動発行機を利用する際は、「学生証」と「全学統合認証パスワード」が必要です。

ただし、証明書の種類によっては、証明書自動発行機から発行できない証明書がありますので、その場合は、証明書自動発行機で各種証明書の交付願を出力し、理工学部教務課窓口に提出・交付申請を行ってください。

なお、電話やファクシミリ、電子メールによる証明書の交付申請は一切取り扱っておりませんので、予め留意してください。

各種証明書の交付に必要な日数や手数料は、下表のとおりです。

交付に必要な日数等	証明書の種類	手数料（2007.4.1変更）	備　考
即日交付	在学証明書	1通　100円	左記証明書は（通学証明書を除く）、証明書自動発行機から直接発行が可能です。
	卒業（修了）証明書		
	卒業（修了）見込証明書		
	学業成績証明書		
	健康診断証明書		
	卒業（修了）・学業成績証明書	1通　200円	
	卒業（修了）見込・学業成績証明書		
	通学証明書（理工学部教務課窓口で受付）	無　料	
	学割証		
2日後交付	単位修得証明書	1通　100円	左記証明書は、証明書自動発行機で交付願を出力し、理工学部教務課窓口に提出してください。
	単位修得見込証明書		
	在籍証明書		
	教育職員免許状取得見込証明書		
	本願寺派教師資格科目履修証明書		
1週間後交付	英文証明書	1通　300円	
	教員免許基礎資格単位修得証明書	1通　200円	

（注1）交付日は、原則として申請日から交付に要する日数を示します。

（注2）手数料の納金は、すべて証明書自動発行機で行ってください。

（注3）卒業見込に関する証明書は、データ更新等の処理に伴い発行できない期間が生じることがありますので注意してください。詳しくは理工学部掲示板でお知らせします。

（注4）「卒業（見込）証明書」、「学業成績証明書」は、「卒業（見込）・学業成績証明書」という1枚の証明書として交付が可能です。特に分ける必要のない場合、「卒業（見込）・学業成績証明書」で交付を受けてください。

《卒業後の証明書交付申請》

電話による申請は一切受け付けておりません。

本学のホームページ上から「証明書交付願」フォームがダウンロードできます。携帯電話には対応していませんのでご了承ください。

URL　http://www.ryukoku.ac.jp（本学ホームページ）の（訪問者別ガイド）「卒業生の方に」－「関連ページガイド」の「証明書発行」からアクセスできます。

① **郵送の場合**

郵送による申請は、下記の内容に留意してください。

◆証明書に関して ・必要な証明書の種類と枚数 ・必要な証明書の使用目的 ◆申請者に関して ・氏名（在学時から姓が変わられた方は、旧姓もご記入ください） ・生年月日 ・出身学部、学科名（文学部は専攻名） ・学籍番号 ・卒業年度 ・現住所（郵便番号を含む） ・電話番号	◆同封が必要なもの ・返信用封筒 返信先住所を明記してください。 （返信に必要な切手を貼付してください。） ・手数料 （手数料は同額の切手でも納金できます。）

② **直接、来学する場合**

直接、来学して申請する場合は、証明書自動発行機から出力される「証明書交付願」に必要事項を記入の上、理工学部教務課窓口へ申請してください。

⑷ 通学証明書

通学定期乗車券を購入する場合、ほとんどの交通機関で学生証のみの提示で購入できますが、交通機関によっては学生証のほかに通学証明書を必要とする場合があります。

※通学証明書が必要となる場合には、各交通機関の所定申込用紙を事前に受取り、学生証を持参の上理工学部教務課窓口で通学証明書（手数料無料・即日交付）交付の手続きをしてください。

⚠ 注意事項

㋐ 通学定期券は大学最寄駅と住所地最寄駅の最短経路、区間に限り購入できます。

㋑ 学生証の通学定期乗車券発行控欄には、大学最寄駅より住所地最寄駅までの通学区間を、利用する各交通機関別に最寄駅より順に記入してください。

㋒ 学生証裏面の「在籍確認シール」の住所欄に現住所を正確に記入してください。

㋓ 住所変更等がある場合には、理工学部教務課窓口で変更手続き後、定期券を購入してください。

⑸ 学校学生生徒旅客運賃割引証（以下、「学割証」）（手数料無料、即日交付）

学割証は、証明書自動発行機から直接発行ができます。ただし、必ず学生証を持参してください。

なお、交付枚数は原則として年度毎に１人10枚、１回の交付枚数は１週間に２枚以内です。※年間10枚を超えて必要な場合は、理工学部教務課窓口で相談してください。

◆ 学割証の使用については、学割証裏面の注意事項を厳守することはもちろん、次の事項に注意してください。

ア．学割証は本人に限って使用できますが、学生証を携帯しない場合は使用できません。

イ．学割証の不正使用を行なった場合は、大学へのペナルティーとして、学割証の交付停止、即交付分の回収がされます。他の学生への不利益が生じますので、不正使用は絶対にやめてください。

ウ．学割証は101km以上の区間を乗車・乗船する場合に使用できます。割引率は普通運賃の２割引、有効期間は発行日から３ヵ月間です。なお、夏･冬期休暇前には学割証の申し込みが集中するので、余裕を持って申し込むようにしてください。

※なお、学生８名以上で（ただし、学生８名の他に教職員（非常勤講師含む）１名以上の引率者を含むことを条件として）旅行する場合は、運賃が５割引（ただし、引率者は３割引）となる制度があります。申込用紙（生協サービス事業部、各主要駅、旅行代理店等で求めてください）を出発日２週間前までに下記窓口に提出の上、手続きすれば即日発行されます。

ゼミナールやクラスの場合……理工学部教務課窓口

クラブやサークルの場合……学生部

3．各種証明書の交付について

各種証明書および申請書の発行申込等には、学生証が必要です。また、手続き方法は、証明書自動発行機で申請書を交付しますので、理工学部教務課窓口にて申請手続きを行ってください。

◆証明書自動発行機の設置場所およびサービス時間等について

学舎	設置場所	曜日	時間帯
深草	21号館１階エントランスホール	月～金	８：45 ～ 21：45
		土	８：45 ～ 17：15
	紫英館１階各学部教務課窓口	月～金	８：45 ～ 17：15 (但し､火曜日は10:30～)
	紫光館１階ロビー	月～土	８：45 ～ 17：15
大宮	西黌（新館）１階ロビー	月～金	８：45 ～ 20：15
		土	８：45 ～ 17：15
瀬田	１号館１階エントランスホール	月～土	９：00 ～ 17：30

⚠ 注意事項

・証明書自動発行機を利用するときは、「学生証」と学生個々に与えられる「全学統合認証パスワード」が必要です。

※パスワードは、学内パソコンのログイン用と同じです。新入生は入学時のオリエンテーションで説明します。

・上記サービス時間帯は、原則として学年暦にある講義期間中の対応とします。

・オリエンテーション期間を含む新学期当初の予定、試験期間中、春期・夏期・冬期休暇中の運用時間帯については、サービス時間を変更します。サービス時間は本学ポータル内「証明書発行機運用時間」で公開しています。

・証明書自動発行機から直接発行が可能な証明書の交付および交付願の出力はいずれの学舎の証明書自動発行機でも対応しています。ただし、証明書自動発行機から直接発行ができない証明書については、所定の手続が必要となりますので、各自が所属する理工学部教務課窓口で申請してください。

・学生証の再発行手続が生じた場合、理工学部教務課窓口に申し出てください。証明書自動発行機にて申請書を交付しますので、必要事項を記入の上、理工学部教務課窓口に提出してください。

・証明書自動発行機では、証明書交付以外に各種特別研修講座や就職対策講座などの講座受講申込にも対応しています。その他、手数料が必要な場合も原則として証明書自動発行機にて対応します。

・夜間時間帯および土曜日において､証明書自動発行機に故障が生じた場合や｢買い間違えた｣場合の対応は、翌日もしくは翌月曜日以降となります。

4．裁判員制度に伴い裁判員（候補者）に選任された場合の手続きについて

2009年５月施行の「裁判員の参加する刑事裁判に関する法律」(「裁判員法」) に伴い､みなさんが裁判員（候補者）に選任される可能性があります。

「呼出状」が届いて教育上の配慮が必要な場合は、速やかに理工学部教務課に相談してください。

裁判員（候補者）を務める場合は、当該学部長から当該授業科目を授業欠席すること及びそれによる教育上の不利益について授業担当者に配慮を求めることとします。試験については追試で対応することとし、追試料は無料とします。

Ⅲ　授業休止の取り扱い基準

（交通機関の不通、台風等の場合の授業についての取り扱い）

ストライキ等により交通機関が不通となった場合や、台風による暴風警報が発令された場合は、下記の基準に従って下さい。

1．全学休講とする場合

次の(a)(b)どちらの事態が発生した場合でも、その時点でただちに全学休講とします。

(a)　下記のうち、２つ以上の交通機関の運行が中止された場合は、その時点でただちに全学休講とします。対象とする交通機関および区間は次のとおりです。

①ＪＲ　（米原～西明石）
②京都市営バス・京都市営地下鉄（全区間）
③京阪電車　（出町柳～淀屋橋）
④阪急電車　（河原町～梅田、梅田～三宮）
⑤近鉄電車　（京都～橿原神宮前）

※ただし、**瀬田学舎**はJR（京都～米原）または帝産湖南交通（JR瀬田駅～龍谷大学）のいずれか１つの運行が中止された場合も休講とします。

(b)　暴風警報が京都府南部（京都･亀岡、南丹･京丹波、山城中部、山城南部）、大阪府（北大阪、大阪市、東部大阪、泉州、南河内）、滋賀県南部（近江南部、東近江、甲賀）のいずれかに出された場合、その時点でただちに全学休講とします。

2．授業等の開始基準

交通機関の運行再開および暴風警報解除の場合は、次の基準により授業等を実施します。

運行開始の時刻および警報解除時刻	授業・定期試験開始講時
午前６時まで	１講時から平常どおり実施
午前10時まで	３講時から平常どおり実施
午後２時まで	６講時から平常どおり実施
午後２時以降	終日休講

3．その他の注意事項

(1)　上記以外に、通学不能または通学困難と学長が認めた場合は、全学休講とすることもあります。
(2)　定期試験期間中にこの措置が適用された場合、当該試験に関しては別途掲示により指示します。

Ⅲ　学籍の取り扱い

1．学籍とは

「学籍」とはその学校の在学者としての身分を意味する用語です。学籍は、入学によって発生し、入学は、大学が行った入学許可に対して学生の入学諸手続きが完了することにより成立します。学籍は、卒業により消滅します。

2．学籍簿

⑴　学籍番号

入学と同時に、各個人に記号と数字を組み合わせた７桁の**学籍番号**が与えられます。在学中の学内における事務取扱は、すべてこの学籍番号により処理されます。学籍番号は卒業後も変わらない当人固有の番号であり、本学在学中は身分証明書（学生証）の番号でもありますから、正確に記憶し、記入が必要な場合は省略せずに記入してください。

学籍番号の仕組み

T	０９	０	００１
L：文学部・文学研究科 E：経済学部・経済学研究科 B：経営学部・経営学研究科 J：法学部・法学研究科 **T：理工学部・理工学研究科** C：社会学部・社会学研究科 W：国際文化学部 ・国際文化学研究科 S：短期大学部 F：法科大学院 M：実践真宗学研究科 R：留学生別科	入学年度（西暦）の下２桁	学生区分（主たる学生区分を記す） 学部生：０～７ 編転入生：８ 再入学生：９ 修士課程：M 博士後期課程：D 研究生：R 短大専攻科生：A 専門職学位課程生：F 科目等特別履修生：U 科目等履修生：V その他（学術研究生）：Z （特別専攻生）：S	学部内における個人番号

このような仕組みになっているので、同姓同名者がいたとしても混同を防ぐ機能を持っています。

ただし、頭のアルファベット（学部をあらわす）が記入されないと、他学部の学生と区別ができませんので注意してください。

⑵　学籍簿

学籍取得により、大学における在学関係を明確にする書類として、**学籍簿**（入学手続き時に各自が提出した書類）が編成されます。学籍簿に記載される事項（本人の現住所、保証人の現住所、学費の請求先等）は、基本的には本人であることの確認に必要な事項に限定されています。これら記載事項に変更が生じたときには直ちに所属の理工学部教務課窓口に届け出て下さい。

3．学生証

学生証は、本学の学生であるという身分を証明するとともに、学生生活での諸手続きに際して本人であることを証明する大切なものです。

⑴　学生証は常に携帯し、次の場合はこれを提示しなければなりません。
　ア　学業成績表を受領するとき。
　イ　試験を受けるとき。
　ウ　各種証明書の発行を受けるとき。
　エ　通学定期乗車券の購入および学割証の交付を受けるとき。
　オ　龍谷大学健康管理センターを利用するとき。
　カ　図書館を利用するとき。
　キ　その他、本人であることを確認することが必要なとき。

⑵　入学時に交付した学生証は、卒業するまで使用するので、大切に扱って下さい。ただし、在籍を証明する**在籍確認シール**は毎年学年始めに配付します。新しい「在籍確認シール」を受け取ったら、速やかに前年度のシールと貼り替えてください。（新入生は、住所欄に現住所を正確に記入し、学生証の指定された場所に各自貼ってください。）
　なお、シールを重ねて貼ると、カードに登録されている情報が認識されず、図書館に入館できないなどのトラブルが発生することがあります。必ず、前年度のシールと貼り替えてください。また、該年度の「在籍確認シール」が貼られていない学生証は無効として取り扱いますので注意してください。

⑶　学生証の記載事項に変更が生じた場合は、速やかに理工学部教務課窓口にその内容を届け出てください。

⑷　学生証を破損または紛失した場合は、直ちに理工学部教務課窓口へ届け出てください。届け出は所定の「学生証再交付願」（紛失・破損届）に必要事項を記入・捺印のうえ提出してください。なお、紛失した場合は、直ちに最寄りの警察署（交番）に紛失届等の提出をしてください。

⑸　学生証の再交付については、1,000円の手数料が必要です。証明書自動発行機より学生証再交付願を出力できますので、所定の手続きを理工学部教務課窓口にて行ってください。また、学生証の再交付には、２日以上を要するので注意してください。

⑹　学生証を折り曲げたり汚したり磁気に近づけたりしないでください。

⑺　学生証は他人に貸与または譲渡してはいけません。

⑻　卒業・退学の場合または有効期限が過ぎた学生証は、速やかに理工学部教務課窓口に返納してください。

4．学籍の喪失

卒業以外の事由で学籍を喪失（本学の学生でなくなること）する場合としては、**退学**と**除籍**の２種類があり、さらに退学はその内容により依願退学と懲戒退学に区分されます。

⑴　退学

①　依願退学

依願退学は、学生自身の意志により学籍を喪失（本学の学生でなくなること）することです。依願退学は、学生の意志によるものであるから、何時でも願い出ることはできますが、公的教育機関との関係であり、次の諸手続きが必要です。

ア　大学所定の書式により、退学理由を明記し、保証人と連署により願い出てください。
イ　当該学期分の学費を納入していること。（学費の納入と学籍の取得は、対価関係にあり、学費の納入の無い者は本学学生と見なすことができず、したがって退学を願い出る資格もありません。なお、学期当初に退学する場合は、学部で個別に対応をしているので相談してください。）
　また、休学期間中の者も退学を願い出ることができますが、除籍となった者は、退学を願い出ることはできません。

②　懲戒退学

懲戒退学は、学則に定める懲戒すべき事由に該当する学生に対して、学生の意志に関わりなく大学が一方的に在学契約を解消することです。このため、懲戒退学は、学則上明記されている場合を除き、大学が恣意的に行うことはありません。

本学の学則において定められている懲戒退学の事由は、次のとおりです。
ア　品行が不良で改善の見込みがないと認められた者。
イ　学業を怠り、成業の見込みがないと認められた者。
ウ　正当な理由なくして出席常ならぬ者。
エ　学校の秩序を乱しその他学生としての本分に反した者。

また、懲戒退学は、ことがらの性格上、教授会における議決、学生生活委員会における全学的調整等を経て決定されます。

⑵　除籍

「懲戒」という概念になじまない事由であっても、大学が一方的に在学契約を解消する必要のある場合があります。このため本学ではこれを**除籍**として処理しています。しかし、除籍といえども本学学生としての身分を失う点では、懲戒退学と同じ結果となるので、その事由は学則により明記されています。

本学学則において定められている除籍の事由は、次のとおりです。
ア　定められた期間に所定の学費を納入しないとき。
イ　在学し得る年数（通常の場合は８年間）以内に卒業できないとき。
ウ　休学期間を終えても復学できないとき。

なお、死亡の場合も除籍とします。

５．休学と復学

学生が疾病またはその他の事情により、３ケ月以上修学を中断しようとするときは、**休学**を願い出ることができます。

⑴　休学の願出

休学には、次の諸手続きが必要です。
ア　大学所定の書式により願い出ること。
イ　休学の必要性を証明する書類（診断書等）を添付すること。
ウ　保証人と連署で願い出ること。

⑵ **休学期間**

ア　休学期間は、１学年間または１学期間のいずれかです。
　　１年間あるいは第１学期（前期）休学希望者は６月30日まで、第２学期（後期）休学希望者は12月31日までに理工学部教務課窓口に大学所定の書類を提出してください。

イ　休学期間の延長の必要がある場合は、さらに１学年間または１学期間の休学期間の延長を願い出ることができます。

ウ　休学期間は連続して２年、通算して４年を越えることはできません。

⑶ **休学中の学費**

休学者は、学費として休学する学期の休学在籍料を納入しなければなりません。

⑷ **復学の願い出**

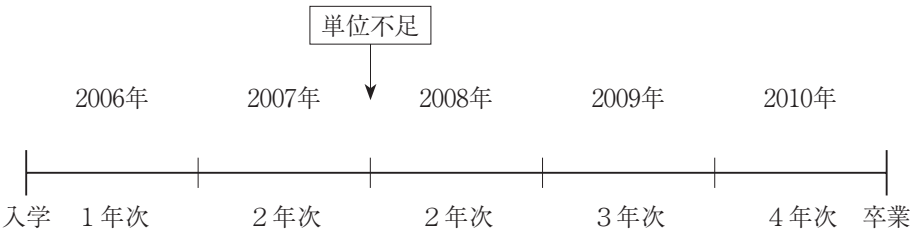
休学者の休学事由が消滅したときは、願い出により復学することができます。復学できる時期は、教育課程編成との関係で、学期の始め（第１学期（前期）または第２学期（後期）の開始日）に限定されています。したがって、復学の願い出は、学期開始日の前１ヵ月以内にしなければなりません。

６．年次

理工学部では原級制度を実施するため所定の要件を満たしていなければ進級できません。この場合「年次」の進行は原年次復帰方式とします。

学籍異動上は次のような扱いになります。

例）2007年度を留年（留年異動日2008年４月１日）



７．再入学

⑴ 学則第19条により退学した者が再び入学を願い出たときは、その事情を調査の上、原年次またはそれ以下の年次に入学を許可することがあります（学則第14条）。ただし、再入学を願い出たときが、退学した年度を含めて４年以上の場合は学科試験を課します。

⑵ 学則第20条第１項第１号により除籍された者が再び入学を願い出たときは、原年次に入学を許可することがあります（学則第14条第２項）。ただし、再入学を願い出たときが除籍された年度を含めて４年以上の場合は学科試験を課します。

⑶ 休学期間の満了するまでに退学を願い出て許可された者は、再入学を願い出ることができます。

⑷　再入学を願い出る時は、学費等納入規程に定める受験料を納め、所定の期間内に手続きをしなければなりません。なお、出願期間、出願書類等については入試部に問い合わせて下さい。

８．編入学・転入学

本学の他学部（学科・専攻）、他大学への編入学・転入学をすることになった場合は、その旨を理工学部教務課窓口に速やかに報告してください。

なお、本学学内での編入学・転入学に関する学則は以下のとおりです。

⑴　本学の第３年次および第２年次に転入学または編入学を希望する者については選考の上これを許可することがある。（学則第13条）

⑵　入学志願者は、所定の書式にしたがい、入学願書、履歴書および修学証明書を提出しなければならない。（学則第15条）

⑶　他の大学へ転学を希望する学生は、学長に願い出てその許可を受けなければならない。（学則第18条の３）

９．９月卒業について

第１学期（前期）末（９月末日）で卒業要件（修得単位・在学期間）を充足することとなる学生が、９月末日付にて卒業認定を受けることを希望する場合には、９月30日付で卒業の認定を受けることができます。（要件充足者について、自動的に卒業認定を行うことはありません。）詳細については理工学部教務課窓口に相談して下さい。

Ⅳ　留学

龍谷大学には、国際的な社会に貢献できる人材の育成を目的として、学生の海外派遣を積極的に推進するため、以下のような留学制度があります。

経済、社会、文化、政治などあらゆる局面で国際的な相互依存関係が深まっている現在、海外の大学での学修、文化交流を通して広い視野と柔軟な発想を学ぶことは、みなさんにとって有意義な経験となることでしょう。

詳しくは、国際部（深草学舎6号館1階）、国際文化学部教務課（瀬田学舎3号館1階）で配布している「留学ガイド」や国際センターホームページ（URL　http://intl.ryukoku.ac.jp）を参考にしてください。

1．交換留学

交換留学とは、学術研究および国際理解の発展のために海外の大学と学生交換協定を締結し、学費の免除や奨学金を受けて留学する制度です。この協定に基づき、原則として毎年同じ人数の学生を派遣・受入しています。

留学期間は原則1年間で、その期間、龍谷大学の学費免除（ただし、留学在籍料は必要※、留学先大学の学費免除、宿舎費免除や奨学金支給等（ただし、条件は大学により異なります）の特典が受けられます。

募集案内、応募方法などは、国際部、国際文化学部教務課（瀬田学舎3号館1階）で配布している「留学ガイド」や国際センターホームページを参照ください。

「学生交換協定校（18カ国35大学）」

地域	留　学　先		応募方法
アジア	中　国	復旦大学、上海師範大学、同済大学、 中国人民大学、大連外国語大学、大連工業大学	国際部にて募集し、語学試験および面接によって選考します。 応募締切日は各募集大学によって異なります。
	台　湾	台湾師範大学	
	韓　国	東国大学、東亜大学	
	タ　イ	チュラロンコン大学、アサンプション大学	
北米	アメリカ	カリフォルニア州立大学ノースリッジ校、 アンティオーク　カレッジ、 南ミズーリ州立大学、米国仏教大学院、 カリフォルニア大学デービス校、 東テネシー州立大学、アイダホ大学	
	カナダ	キングス・ユニバーシティ・カレッジ、 カルガリー大学	
オセアニア	オーストラリア	ＲＭＩＴ大学、マードック大学、 フリンダース大学	
ヨーロッパ	ロシア	モスクワ大学アジア･アフリカ学院	
	ウクライナ	キエフ大学	
	ポーランド	ワルシャワ経済大学	
	イギリス	ウエストミンスター大学、 リバプール・ジョン・ムアーズ大学	
	ドイツ	デュースブルグ－エッセン大学	
	フランス	リヨン第３大学	
	フィンランド	ヨエンスゥ大学	
	スウェーデン	ベクショー大学	
	デンマーク	オーフス大学	
	スペイン	バルセロナ自治大学、バレンシア大学	
アフリカ	南アフリカ	クワズールナタール大学	

※留学先大学の都合により条件が変更になる場合や募集を行わない場合がありますので、国際センターホームページ（URL　http://intl.ryukoku.ac.jp）の情報を確認してください。

2．BIE Program（ビーアイイー）留学

BIE Program（Berkeley Internship and English Program）は、龍谷大学のRyukoku University Berkeley Center（アメリカ･バークレー）を利用した本学独自の留学プログラムです。英語学習､インターンシップ（ボランティア活動）、講義を組みあわせたプログラムで5週間と半年間の2つのプログラムが年間２本ずつ（合計４本）あります。

留学期間は在学期間に算入され、５週間プログラムは学部最大６単位、半年間プログラムは学部最大20単位まで認定可能です。

	留学期間	説明会時期
5-week summer program	８月中旬～９月下旬	３月下旬～４月中旬
5-week spring program	２月中旬～３月下旬	９月下旬～10月中旬
Fall semester program	10月上旬～２月上旬	４月下旬～５月中旬
Spring semester program	３月下旬～７月上旬	10月下旬～11月中旬

3．私費留学

各自で留学したい大学を探し、大学から承認を得て留学する方法で、龍谷大学から毎年約100名の学生が私費留学をしています。

この留学は交換留学と同じく、留学期間は在学期間に算入され、取得した単位は単位認定の対象となります。

交換留学と大きく異なる点は、留学先大学の学費や寮費等が自己負担であること。また、留学手続き等は各自で行うことです。手続前に各学部教務課や指導教員と相談して下さい。

4．個人留学（休学して留学する）

大学を休学した場合、留学先で勉強した期間は在学期間には算入されません。また、単位の認定も行われません。1年間（ないし半年間）海外の専門語学学校で語学をみっちり勉強したいという学生や、ワーキングホリデーをしてみたい、海外でボランティアをしてみたいという学生がよく利用する方法です。

5．短期留学

長期休業期間を利用し、現地で外国語等を学ぶことができるように種々の海外研修を実施しています。海外で集中語学研修と異文化体験をしたい学生にすすめます。

プログラムによって申込窓口が異なります。国際センター、文学部教務課、国際文化学部教務課の掲示板やホームページを参考にしてください。

Ⅴ　通学について（自転車・バイク・自動車）

1．自動車通学の禁止

本学では、自動車による通学を全面的に禁止しています。これは交通事故の防止、大学周辺環境の維持などの理由からです。

しかし、禁止しているにも関わらず、キャンパス近隣の公共施設駐車場等に駐車し、自動車通学する学生が後を絶ちません。これらは社会のルールに反するもので、大学の名誉を著しく傷つける行為です。

迷惑駐車により、地域住民や近隣施設からの苦情も受けています。

この様な自動車通学が判明した場合には、保護者への連絡、ゼミ担当教員等からの指導の上、厳しく処分することとしています。学生諸君の節度ある行動を強く求めます。

2．バイク・自転車通学

バイク・自転車は、多くの学生が利用しています。しかし、最近通学途上でバイクによる交通事故や自転車の接触事故等が多発しています。

また、「バイク・自転車が、狭い生活道路を、スピードを出して通行して危険である」等の苦情が近隣住民から寄せられています。大学までの通学途中には、小学校や保育園等があり、その保護者からも心配する声が寄せられています。

加害者･被害者の如何を問わず、交通事故による悲劇や地域住民への迷惑を回避するためにも交通ルール･マナーを遵守し、安全運転を心がけてください。

3．バイク・自転車の駐輪

バイク・自転車は必ず構内の指定された場所に駐輪してください。構内の建物周辺や路上等に長時間放置しているバイク・自転車は、「駐輪場利用要領」に基づき、一定期間保管の後、処分します。

また、「駐輪場利用要領」に定めるとおり、駐輪場内での事故・盗難および破損等について大学は一切関与致しませんので、各自の責任で被害に遭わないよう十分注意してください。

4．交通安全教育講習会について

学生の安全確保と交通マナー向上を促進するため、毎年定期的に「交通安全教育講習会」を実施しています。この様な機会を積極的に利用して、皆さんが安全な学生生活を心がけることを望んでいます。

5．自動車の臨時入構許可について

自動車による通学を全面的に禁止していますが、以下のような理由がある時は、例外として許可することがありますので、必要な場合は必ず事前に相談してください。

①　夜間にまで及ぶ研究等で、公共交通機関の利用が困難な場合　→　所属学部
②　長期間の疾病や障がいなどにより、公共交通機関の利用が困難な場合　→　所属学部
③　大学行事やクラブ活動のため、資材等を運搬するのに必要な場合　→　学生部

許可なく入構した場合は、厳重に処分する対象となりますので、必要な事情がある場合には、必ず事前に相談してください。

教養教育科目
(共同開講科目)(共通科目)
(基礎科目)

教養教育科目
(共同開講科目)(共通科目)
(総合科目)

シラバス

学部内共通科目

学科固有科目
＜物質化学科＞

教職課程科目

本願寺派教師資格課程科目

最新の情報や、詳細情報は Web シラバスをご確認ください。

教養教育科目（共同開講科目）

（基　礎　科　目）

カナ	科目名	担当者	ページ
エ	英語Ⅰ A	クラス・開講曜講時による	94
	英語Ⅰ B	クラス・開講曜講時による	94
	英語Ⅱ A	クラス・開講曜講時による	95
	英語Ⅱ B	クラス・開講曜講時による	95
	英語Ⅲ	クラス・開講曜講時による	96
	英語Ⅳ	クラス・開講曜講時による	96
	英語セミナーA 1	宇野　誠一	97
	英語セミナーA 1	宇野　誠一	97
	英語セミナーA 1	ワード　ジョン	98
	英語セミナーA 1	ワード　ジョン	98
	英語セミナーA 2	宇野　誠一	99
	英語セミナーA 2	宇野　誠一	99
	英語セミナーA 2	ワード　ジョン	100
	英語セミナーA 2	ワード　ジョン	100
	英語セミナーB 1	近藤　英彦	101
	英語セミナーB 2	近藤　英彦	101
	英語セミナーC 1	イエニク・S・C	102
	英語セミナーC 1	音羽　レベッカ	102
	英語セミナーC 1	音羽　レベッカ	103
	英語セミナーC 2	音羽　レベッカ	104
	英語セミナーC 2	音羽　レベッカ	105
	英語セミナーC 2	ワード　ジョン	105
	英語セミナーD 1	西山　けい子	106
	英語セミナーD 2	西山　けい子	107
	英語セミナーE 1	大槻　志郎	107
	英語セミナーE 2	大槻　志郎	108
	英語セミナーF 1	五十嵐　海理	108
	英語セミナーF 2	五十嵐　海理	109
キ	教育原論 A	田中　圭治郎	109
	教育原論 A	藤井　奈津子	110
	教育原論 B	田中　圭治郎	110
	教育原論 B	藤井　奈津子	111
ケ	経済学入門／経済学	キグリチュ　イシュトヴァーン	111
	経済学入門／経済学	キグリチュ　イシュトヴァーン	112
	経済学入門／経済学	李　復屏	112
	経済学入門／経済学	李　復屏	113
	言語学入門	磯江　源	113
コ	コリア語Ⅰ A	金　仁姫	114
	コリア語Ⅰ B	金　仁姫	114
	コリア語Ⅰ C	朴　炫国	115
	コリア語Ⅰ D	朴　炫国	115
	コリア語セミナーA	金　里博	116
	コリア語セミナーB	金　里博	116
シ	社会学入門／社会学	高橋　由典	117
	社会学入門／社会学	高橋　由典	117
	社会思想史入門	朝倉　惠俊	118
	社会思想史入門	朝倉　惠俊	118
	心理学入門／心理学	関口　茂久	119
	心理学入門／心理学	松島　恵介	119
	心理学入門／心理学	松島　恵介	120
ス	スポーツ技術学 A	種目・開講曜講時による	120
	スポーツ技術学 B	種目・開講曜講時による	121
セ	生活の中の数学	大西　俊弘	121
	生活の中の統計技術／社会統計学A	阪井　一繁	122
	生活の中の物理	宮下　豊勝	123
	政治学入門／政治学	山崎　充彦	124
	政治学入門／政治学	山崎　充彦	125
	生命と科学	宮武　智弘	126

カナ	科目名	担当者	ページ
チ	中国語Ⅰ A	張　健同	126
	中国語Ⅰ A	李　愛華	127
	中国語Ⅰ B	張　健同	127
	中国語Ⅰ B	李　愛華	128
	中国語ⅠC／中国語ⅡA	韓　正愛	128
	中国語ⅠC／中国語ⅡA	韓　正愛	129
	中国語ⅠC／中国語ⅡA	張　健同	129
	中国語ⅠC／中国語ⅡA	張　健同	130
	中国語ⅠD／中国語ⅡB	韓　正愛	130
	中国語ⅠD／中国語ⅡB	韓　正愛	131
	中国語ⅠD／中国語ⅡB	張　健同	131
	中国語ⅠD／中国語ⅡB	張　健同	132
	中国語セミナー A	李　愛華	132
	中国語セミナー B	李　愛華	133
テ	哲学入門／哲学	鷲見　淳之	133
	哲学入門／哲学	鷲見　淳之	134
	哲学入門／哲学	渡邊　華月	134
	哲学入門／哲学	渡邊　華月	135
ト	統計入門／社会統計学B	長命　洋佑	135
	ドイツ語Ⅰ A	呉　春吉	136
	ドイツ語Ⅰ A	松口　春美	136
	ドイツ語Ⅰ B	呉　春吉	137
	ドイツ語Ⅰ B	松口　春美	137
	ドイツ語ⅠC／ドイツ語ⅡA	永井　達夫	138
	ドイツ語ⅠC／ドイツ語ⅡA	松口　春美	138
	ドイツ語ⅠD／ドイツ語ⅡB	永井　達夫	139
	ドイツ語ⅠD／ドイツ語ⅡB	松口　春美	139
	ドイツ語セミナー A	青山　豊	140
	ドイツ語セミナー B	青山　豊	140
ニ	日本国憲法	時本　義昭	141
	日本国憲法	時本　義昭	141
	日本国憲法	時本　義昭	142
ハ	発達と教育 A	松島　恵介	142
	発達と教育 A	松島　恵介	143
	発達と教育 B	松島　恵介	143
	発達と教育 B	松島　恵介	144
フ	フランス語ⅠA／フランス語ⅡA	瓜生　濃世	144
	フランス語ⅠB／フランス語ⅡB	瓜生　濃世	145
	フランス語ⅠC／フランス語ⅠA	嶋崎　陽一	145
	フランス語ⅠC／フランス語ⅠA	森部　卓	146
	フランス語ⅠC／フランス語ⅠA	森部　卓	146
	フランス語ⅠD／フランス語ⅠB	嶋崎　陽一	147
	フランス語ⅠD／フランス語ⅠB	森部　卓	147
	フランス語ⅠD／フランス語ⅠB	森部　卓	148
	フランス語セミナー A	嶋崎　陽一	148
	フランス語セミナー B	嶋崎　陽一	149
	仏教の思想 A	若原　雄昭	153
	仏教の思想 B	若原　雄昭	155
	文学入門／文学	大槻　志郎	156
	文学入門／文学	嶋崎　陽一	156
	文学入門／文学	森脇　正史	157
ホ	法学入門	時本　義昭	157
	法学入門	時本　義昭	158
リ	倫理学入門	菊地　建至	159
レ	歴史入門	佐野　東生	160
	歴史入門	松原　廣志	160
ロ	論理学入門	中谷　隆雄	161
	論理学入門	中谷　隆雄	161

英語ＩＡ

【担当】クラス・開講曜講時による

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。まず四技能の基礎力を見直し、必要に応じてこれを補強することに重点を置く。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文）を習得する。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式をとり、CALL教室を使って語学ソフトによる学習の導入を行う。すべての基礎となる「読解力」の養成を重視する。

■成績評価の方法
定期試験の成績、平素の学習活動状況などを総合的に評価する。

■テキスト
※担当教員別に、教科書リストを参照のこと。

■参考文献
※講義時に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言
第１回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画
※講義時に指示。

英語ＩＢ

【担当】クラス・開講曜講時による

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。まず四技能の基礎力を見直し、必要に応じてこれを補強することに重点を置く。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文）を習得する。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式をとり、CALL教室を使って語学ソフトによる学習の導入を行う。すべての基礎となる「読解力」の養成を重視する。

■成績評価の方法
定期試験の成績、平素の学習活動状況などを総合的に評価する。

■テキスト
※担当教員別に、教科書リストを参照のこと。

■参考文献
※講義時に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言
第１回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画
※講義時に指示。

英語ⅡA

【担当】クラス・開講曜講時による

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。英語Ⅰでの基礎力確認に積み上げる形で、さらに基礎力の向上をはかる。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文）を習得する。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または、視聴覚機器の使用などの形式をとり、CALL教室を使って語学ソフトによる学習の導入を行う。すべての基礎となる「読解力」の養成を重視する。

■成績評価の方法
定期試験の成績、平素の学習活動状況等を総合的に評価する。学年末に共通テストを実施し、その結果を評価の一部に組み入れる。

■テキスト
※担当教員別に、教科書リストを参照のこと。

■参考文献
※講義時に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言
第１回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画
※講義時に指示。

英語ⅡB

【担当】クラス・開講曜講時による

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。英語Ⅰでの基礎力確認に積み上げる形で、さらに基礎力の向上をはかる。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文）を習得する。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または視聴覚機器の使用などの形式をとり、CALL教室を使って語学ソフトによる学習の導入を行う。すべての基礎となる「読解力」の養成を重視する。

■成績評価の方法
定期試験の成績、平素の学習活動状況等を総合的に評価する。学年末に共通テストを実施し、その結果を評価の一部に組み入れる。

■テキスト
※担当教員別に、教科書リストを参照のこと。

■参考文献
※講義時に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言
第１回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画
※講義時に指示。

英語Ⅲ

【担当】クラス・開講曜講時による

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。英語Ⅰ・Ⅱで培った基礎力をもとに四技能をいっそう伸ばし、専門科目の学習につなげようとするものである。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文など）を習得する。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または、視聴覚機器の使用などの形式をとる。授業によってはCALL教室を使って語学ソフトやインターネットなどを利用することもある。すべての基礎となる「読解力」の養成を重視する。

■成績評価の方法
定期試験の成績、平素の学習活動状況などを総合的に評価する。

■テキスト
※担当教員別に、教科書リストを参照のこと。

■参考文献
※講義時に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言
第１回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画
※講義時に指示。

英語Ⅳ

【担当】クラス・開講曜講時による

■講義概要
これまでに習得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要とされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。英語Ⅰ、Ⅱで培った基礎力をもとに四技能をいっそう伸ばし、専門科目の学習につなげようとするものである。

■到達目標
異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙･文法事項･構文など）を習得する。

■講義方法
主として教科書の講読、演習、または、視聴覚機器の使用などの形式をとり、授業によっては、CALL教室を使って語学ソフトやインターネットなどを利用することもある。すべての基礎となる「読解力」の養成を重視する。

■成績評価の方法
定期試験の成績、平素の学習活動状況等を総合的に評価する。学年末に共通テストを実施し、その結果を評価の一部に組み入れる。

■テキスト
※担当教員別に、教科書リストを参照のこと。

■参考文献
※講義時に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言
第１回目の授業で、授業の方法や成績評価方法等について伝える。辞書をつねに携帯すること。

■講義計画
※講義時に指示。

英語セミナーＡ１

【担当】宇野　誠一
【開講】前期　月１

■サブタイトル
TOEIC対策セミナー
■講義概要
この授業ではTOEICに必要とされる技能を高める。またTOEICのみならず、英語の総合的な能力向上を最大の課題とする。
■到達目標
１年間を通して各自が到達目標を持つこと。具体的には最低100点のアップを期待する。
■講義方法
毎回テキストに沿ってポイントを明確にして授業を行う。TOEIC本番のテストの気持ちで受けていただきたい。
■成績評価の方法
平常点（70%） Participationが含まれる
定期試験（30%） 最終授業日に行う（In Class Test）
■テキスト
Junichi Uchida『English Trainer for the TOEIC Test』朝日出版　2000円
■参考文献
宇野誠一、中村収三『理系人よ！英語なんかに負けるな』化学同人　2200円
■講義計画
①オリエンテーション
②Text 1
③Text 2
④Text 3
⑤Text 4
⑥Text 5
⑦Text 6
⑧Text 7
⑨Text 8
⑩Text 9
⑪Text 10
⑫Text 11
⑬Text 12
⑭In Class Final Exam

英語セミナーＡ１

【担当】宇野　誠一
【開講】前期　月２

■サブタイトル
TOEIC対策セミナー
■講義概要
この授業ではTOEICに必要とされる技能を高める。またTOEICのみならず、英語の総合的な能力向上を最大の課題とする。
■到達目標
１年間を通して各自が到達目標を持つこと。具体的には最低100点のアップを期待する。
■講義方法
毎回テキストに沿ってポイントを明確にして授業を行う。TOEIC本番のテストの気持ちで受けていただきたい。
■成績評価の方法
平常点（70%） Participationが含まれる
定期試験（30%） 最終授業日に行う（In Class Test）
■テキスト
Junichi Uchida『English Trainer for the TOEIC Test』朝日出版　2000円
■参考文献
宇野誠一、中村収三『理系人よ！英語なんかに負けるな』化学同人　2200円
■講義計画
①オリエンテーション
②Text 1
③Text 2
④Text 3
⑤Text 4
⑥Text 5
⑦Text 6
⑧Text 7
⑨Text 8
⑩Text 9
⑪Text 10
⑫Text 11
⑬Text 12
⑭In Class Final Exam

英語セミナーＡ１

【担当】ワード　ジョン
【開講】前期　水１

■サブタイトル
TOEIC Listening skills and strategies
■講義概要
Students will develop and refine their listening skills and strategies in order to deal with the particular type of listening questions that can be found in parts 1-4 of the TOEIC test. This course will focus on increasing Students' English ability and giving students the tools to demonstrate their ability by achieving better test results.
■到達目標
The goal of this course is to learn test taking strategies while learning critical thinking methods, building vocabulary, reviewing grammar, and strengthening listening and reading skills.
■講義方法
We will try different strategies and approaches and find out what techniques work most effectively. We will also study specific vocabulary that matches the themes found in the test.
■成績評価の方法
その他（100%） Evaluation will be based on the following: Attendance 40% Participation 40%
■テキスト
『TOEIC（R）Preparation Book Volume 3』
■参考文献
『The Institute for Business Communication（IIBC）』
■履修上の注意・担当者からの一言
Students will need an electronic or paper dictionary which gives English explanations of vocabulary as well as examples of how to use the words.
■講義計画
①Introduction to the TOEIC test
②Describing Photographs
③Questions and Responses
④Short Conversations
⑤Short Talks
⑥Incomplete Sentences
⑦Text Completion
⑧Reading Comprehension
⑨Mock Test

英語セミナーＡ１

【担当】ワード　ジョン
【開講】前期　水２

■サブタイトル
TOEIC Listening skills and strategies
■講義概要
Students will develop and refine their listening skills and strategies in order to deal with the particular type of listening questions that can be found in parts 1-4 of the TOEIC test. This course will focus on increasing Students' English ability and giving students the tools to demonstrate their ability by achieving better test results.
■到達目標
The goal of this course is to learn test taking strategies while learning critical thinking methods, building vocabulary, reviewing grammar, and strengthening listening and reading skills.
■講義方法
We will try different strategies and approaches and find out what techniques work most effectively. We will also study specific vocabulary that matches the themes found in the test.
■成績評価の方法
その他（100%） Evaluation will be based on the following: Attendance 40% Participation 40%
■テキスト
『TOEIC（R）Preparation Book Volume 3』
■参考文献
『The Institute for Business Communication（IIBC）』
■履修上の注意・担当者からの一言
Students will need an electronic or paper dictionary which gives English explanations of vocabulary as well as examples of how to use the words.
■講義計画
①Introduction to the TOEIC test
②Describing Photographs
③Questions and Responses
④Short Conversations
⑤Short Talks
⑥Incomplete Sentences
⑦Text Completion
⑧Reading Comprehension
⑨Mock Test

英語セミナーＡ２

【担当】宇野　誠一
【開講】後期　月１

■サブタイトル
TOEIC対策セミナー
■講義概要
前期同様にTOEICに必要とされる能力の向上を後期においてもはかる。後期は特に、Listeningを重点的におこなう。
■到達目標
各自が明確なゴール（到達目標）を持つように願う。
■講義方法
毎週テキストに従って授業を進めていく。毎クラス、その日のポイントを明確ににして教えていく。
■成績評価の方法
平常点（70%） Participationが含まれる
定期試験（30%） 最終授業日に行う（In Class Test）
■テキスト
Mikako Fujioka, Christopher Belton『Listening Strategies for the TOEIC Test』CENGAGE Learning　2000円
■参考文献
宇野誠一、中村収三『理系人よ！英語なんかに負けるな』化学同人　2200円
■講義計画
①オリエンテーション
②Unit 1
③Unit 2
④Unit 3
⑤Unit 4
⑥Unit 5
⑦Unit 6
⑧Unit 7
⑨Unit 8
⑩Unit 9
⑪Unit 10
⑫Unit 11
⑬Unit 12
⑭In Class Final Test

英語セミナーＡ２

【担当】宇野　誠一
【開講】後期　月２

■サブタイトル
TOEIC対策セミナー
■講義概要
前期同様にTOEICに必要とされる能力の向上を後期においてもはかる。後期は特に、Listeningを重点的におこなう。
■到達目標
各自が明確なゴール（到達目標）を持つように願う。
■講義方法
毎週テキストに従って授業を進めていく。毎クラス、その日のポイントを明確ににして教えていく。
■成績評価の方法
平常点（70%） Participationが含まれる
定期試験（30%） 最終授業日に行う（In Class Test）
■テキスト
Mikako Fujioka, Christopher Belton『Listening Strategies for the TOEIC Test』CENGAGE Learning　2000円
■参考文献
宇野誠一、中村収三『理系人よ！英語なんかに負けるな』化学同人　2200円
■講義計画
①オリエンテーション
②Unit 1
③Unit 2
④Unit 3
⑤Unit 4
⑥Unit 5
⑦Unit 6
⑧Unit 7
⑨Unit 8
⑩Unit 9
⑪Unit 10
⑫Unit 11
⑬Unit 12
⑭In Class Final Test

英語セミナーＡ２

【担当】ワード　ジョン
【開講】後期　水１

■サブタイトル
TOEIC Listening skills and strategies
■講義概要
Students will develop and refine their listening skills and strategies in order to deal with the particular type of listening questions that can be found in parts 1-4 of the TOEIC test. This course will focus on increasing Students' English ability and giving students the tools to demonstrate their ability by achieving better test results.
■到達目標
The goal of this course is to learn test taking strategies while learning critical thinking methods, building vocabulary, reviewing grammar, and strengthening listening and reading skills.
■講義方法
We will try different strategies and approaches and find out what techniques work most effectively. We will also study specific vocabulary that matches the themes found in the test.
■成績評価の方法
その他（100%） Evaluation will be based on the following: Attendance 40% Participation 40%
■テキスト
『TOEIC（R）Preparation Book Volume 3』
■参考文献
『The Institute for Business Communication（IIBC）』
■履修上の注意・担当者からの一言
Students will need an electronic or paper dictionary which gives English explanations of vocabulary as well as examples of how to use the words.
■講義計画
①Introduction to the TOEIC test
②Describing Photographs
③Questions and Responses
④Short Conversations
⑤Short Talks
⑥Incomplete Sentences
⑦Text Completion
⑧Reading Comprehension
⑨Mock Test

英語セミナーＡ２

【担当】ワード　ジョン
【開講】後期　水２

■サブタイトル
TOEIC Listening skills and strategies
■講義概要
Students will develop and refine their listening skills and strategies in order to deal with the particular type of listening questions that can be found in parts 1-4 of the TOEIC test. This course will focus on increasing Students' English ability and giving students the tools to demonstrate their ability by achieving better test results.
■到達目標
The goal of this course is to learn test taking strategies while learning critical thinking methods, building vocabulary, reviewing grammar, and strengthening listening and reading skills.
■講義方法
We will try different strategies and approaches and find out what techniques work most effectively. We will also study specific vocabulary that matches the themes found in the test.
■成績評価の方法
その他（100%） Evaluation will be based on the following: Attendance 40% Participation 40%
■テキスト
『TOEIC（R）Preparation Book Volume 3』
■参考文献
『The Institute for Business Communication（IIBC）』
■履修上の注意・担当者からの一言
Students will need an electronic or paper dictionary which gives English explanations of vocabulary as well as examples of how to use the words.
■講義計画
①Introduction to the TOEIC test
②Describing Photographs
③Questions and Responses
④Short Conversations
⑤Short Talks
⑥Incomplete Sentences
⑦Text Completion
⑧Reading Comprehension
⑨Mock Test

英語セミナーＢ１

【担当】近藤　英彦
【開講】前期　水３

■サブタイトル
生きた社会の英語の知識を
■講義概要
現代の社会に日を逐って生起する出来事、あるいは新たに生まれる情報やその意味をめぐってそれを伝える英語の様々な表現に馴れること、それを通して将来社会人・職業人としての活動の中で、英語の知識が生かされることを目ざす。
日常的個人生活の領域に終始していたこれまでの英語の学習内容の範囲を抜け出し、年齢相応に学ぶ機会の乏しかった公的な社会に関わる英語とでもいうべきものを学ぶ手がかりとなることを目標にする。
■到達目標
ことさらやさしく高校程度のレベルに作ってある一般英語のテキストとは異なり、現実の社会に関わる実地のテキストを教材とするので努力して予習する以外には身につくことはないが、収穫は多い筈である。
■講義方法
比較的最近の新聞・放送・雑誌などの報道や論評をプリントで用意したものを教材とする。講義概要に述べたような意味で社会に関する英語の知識を養う。表現に注目し、語彙の強化に留意する。
■系統的履修
一般英語の授業での勉強をせめておろそかにしないこと。あえていえば漫画でなく新聞に目を通すこと。それも単なる話題づくりや提灯記事の類に眼をうばわれずにニュース報道とその背景に目を向けること。
■成績評価の方法
平常点50％（出席は当然、出席点といったものはない）
小テストや、ややまとまったテストなど50％
■テキスト
プリント使用、渡されたものは紛失しないこと。
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
使用するテキストの構成・内容ともに一般英語のそれとはレベル・緊迫性・忠実性が大きく異なる。学力がないことは理解するが、予習には完全主義が求められる。安易な受講態度の速やかな結末は、無理解の上塗りと、かえって有害な幼児的誤解の累積で、多くの受講者にみられる。
■講義計画
①英字新聞の体裁・特徴。３つの“Line”について。国際通信社の存在と役割について。
②授業期間を通して６～８編程度の新聞等のニュース記事を精読し、語彙を強化し、表現に注目する。
（随時小テストを行う）
③　〃
④　〃
⑤　〃
⑥　〃
⑦　〃
⑧　〃
⑨　〃
⑩　〃
⑪　〃
⑫　〃

英語セミナーＢ２

【担当】近藤　英彦
【開講】後期　水３

■サブタイトル
生きた社会の英語の知識を
■講義概要
現代の社会に日を逐って生起する出来事、新たに生まれる情報やその意味をめぐってそれを伝える英語の種々な表現例に接し、それを通して将来社会人・職業人としての活動の中で英語の知識が生かされることを目ざす。今まで年齢相応に学ぶ機会の乏しかった公的な社会に関わる英語とでもいうべきものを学ぶ手がかりとなることを目標とする。
■到達目標
やさしく高校程度に作られている一般英語のテキストとは異なり、現実の社会に関わる実地のテキストを教材とするので、努力して予習する以外に身につくことはないが、収穫は多い筈である。
■講義方法
比較的最近の新聞・放送・雑誌などの報道や論評をプリントで用意したものを教材とする。講義概要で述べたような意味で社会に関する英語の知識を養う。表現に注目し語彙の強化に留意する。
■系統的履修
一般英語の授業での勉強をせめておろそかにしないこと。あえていえば漫画は捨てて新聞に目を通すこと。それも、単なる話題づくりや提灯記事の類に眼をうばわれず、ニュース報道とその背景に目を向けること。
■成績評価の方法
平常点50％（出席は当然、出席点といったものはない）
小テストや、ややまとまったテストなど50％
■テキスト
プリント使用、渡されたものは紛失しないこと。
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
使用するテキストの構成・内容ともに一般英語のそれとはレベル・緊迫性・忠実性が大きく異なる。学力がないことは理解するが、予習には完全主義が求められる。安易な受講態度の速やかな結末は、無理解の上塗りと、かえって有害な幼児的誤解の累積で、多くの受講者にみられる。
■講義計画
①英字新聞の体裁・特徴。３つの“Line”について。国際通信社の存在と役割について。
②授業期間を通して６～８編程度の新聞等のニュース記事を精読し、語彙を強化し、表現に注目する。
（随時小テストを行う）

英語セミナーＣ１

【担当】イエニク・Ｓ・Ｃ
【開講】前期　水３

■サブタイトル
Active English
■講義概要
The aim of this course is to improve students ability to use Englsih by dividing the class into groups and having them create their own extended dialogues or short plays. This places emphasis on the active skills: writing and speaking. The students create the concrete contents of the course themselves.
■到達目標
Relative to students abilities
■講義方法
Individual students each write dialogues or short plays and then perform them in groups.
■成績評価の方法
平常点（100%） Homework. Class Performance.
■テキスト
特になし
■参考文献
Any good dictionary.
■履修上の注意・担当者からの一言
Do not miss the first class.
■講義計画
①Intorduction and Video Exercise
②Creative Stimulus Exercise
③Creative Stimulus and Narrative Writing
④Convert Narrative to Dialogue
⑤Learn, Practice and Perform Skits and Short Plays

英語セミナーＣ１

【担当】音羽　レベッカ
【開講】前期　水２

■サブタイトル
英語コミュニケーション
■講義概要
Communication, role play, projects and homework in 3 units based on present, future, and past tense expressions.
3つのテーマでコミュニケーション・実用会話・プロジェクト・宿題・作文 （テーマは現在形・未来形・過去形に基づく）
■到達目標
Build confidence in communication, increase vocabulary, familiarize with grammar forms, and improve pronunciation
コミュニケーションに自信をつける・英語単語を増やす・文法に親しむ・発音を改善する
■講義方法
Introduction of subject テーマ紹介 ・ Introduction of basic conversation 基本会話の紹介 ・ Practice basic conversation 基本会話の練習 ・ Pronunciation practice 発音の練習 ・ Individual creative practice 個人的会話練習 ・ Presentation 発表 ・ Theme project テーマに関するプロジェクト
■系統的履修
English will be used throughout. Course related questions may be asked in Japanese.
原則として英語を使いますが、コースに関する質問などは日本語でもいいです。
■成績評価の方法
平常点（55%） 学生は常に出席して、真剣に授業に参加する。
その他（45%） 宿題 （３回）、作文（先生へのてがみ）（6回・2週に1回をめどとして）
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
Attendance and participation are high priorities.
出席と参加は重視されます。
■講義計画
①Introduce course
②First Meetings
③At a Clothing Shop
communicating desires
④At my Part-Time Job
commands、requests
⑤Body Language
⑥Vacation Plans
future plans
⑦Travel Advice
advice and suggestions
⑧Planning a Party
contingencies -- what if
⑨World Knowledge Game
⑩At the Doctor
cause and effect
⑪At the Lost and Found
story telling
⑫Office Telephone
reasons, telephone talk
⑬Personal History
⑭one to one communication test

英語セミナーＣ１

【担当】音羽　レベッカ

【開講】前期　水３

■サブタイトル

ENGLISH COMMUNICATION　英語でコミュニケーション

■講義概要

Course is divided into 3 units, mainly targeting past, present, and future tense communication.
In each unit, students practice role play in specific situations. Also, classes will include games and activities, vocabulary and grammar aids, and freewriting.
Each Unit will include 1 homework assignment and 3entries in“Dear Teacher”notebook, in which students will communicate with teacher in writing.
In each Unit, a project will explore related topics.
コースは、３つのテーマ（現在・過去・未来）に分かれる。それぞれ宿題と発表がある。いろいろな日常的な場面で、英会話を試みる。テーマに相当する単語と文法を練習する。ゲームやげき、フリーライティングで英語に親しんでいく。

■到達目標

Building confidence in communicating in English in everyday situations.
日常生活の中で使う英語に対して自信をつける

■講義方法

Introduction of Themes　テーマの紹介
Role play（student-teacher & students in pairs）　会話の練習と発表
Theme-related project　プロジェクト
Homework &“Dear Teacher”notebook　宿題と先生あての手紙ノート

■系統的履修

（English）

■成績評価の方法

Attendance 出席20, Homework 宿題30, Notebook 手紙ノート20, Participation 参加30　＝　100

■テキスト

Teacher will provide materials.

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

Attendance and participation are high priorities.　出席・参加態度は重視されます。
Students are encouraged to speak their minds with confidence.　自信をもって思想と気持ちを表現するようになります。

■講義計画

①Introduction　Introduce course and each other
コース紹介

②Unit1（Present Tense）
① Role Play-First Meetings
場面：初対面

③
② Role Play-At a Clothing Shop
場面：ショッピング

④
③ Role Play-At My Part-Time Job
場面：アルバイト

⑤
④ Project-Body Language（gestures & postures）
プロジェクト：あいずとしせい

⑥Unit2（Future Tense）
① Role Play-Vacation Plans
場面：夏休みの予定

⑦
② Role Play-Travel Advice
場面：旅行のアドバイス

⑧
③ Role Play-Contingencies-Party Plan
場面：パーティの予定変更

⑨
④ Project-World Knowledge
プロジェクト：世界

⑩Unit3（Past Tense）
① Role Play-Doctor’s office
場面：医者

⑪
② Role Play-Lost & Found
場面：おとしもの

⑫
③ Role Play-Office telephone
場面：事務所の電話

⑬
④ Project-Learning in Life
プロジェクト：生活勉強

⑭Make up　Review of course
コースをふりかえって

英語セミナーC２

【担当】音羽　レベッカ

【開講】後期　水２

■サブタイトル

ENGLISH COMMUNICATION　英語でコミュニケーション

■講義概要

Course is divided into 3 units, mainly targeting past, present, and future tense communication.

In each unit, students practice role play in specific situations. Also, classes will include games and activities, vocabulary and grammar aids, and freewriting.

Each Unit will include 1 homework assignment and 3entries in“Dear Teacher”notebook, in which students will communicate with teacher in writing.

In each Unit, a project will explore related topics.

コースは、３つのテーマ（現在・過去・未来）に分かれる。それぞれ宿題と発表がある。いろいろな日常的な場面で、英会話を試みる。テーマに相当する単語と文法を練習する。ゲームやげき、フリーライティングで英語に親しんでいく。

■到達目標

Building confidence in communicating in English in everyday situations.

日常生活の中で使う英語に対して自信をつける

■講義方法

Introduction of Themes　テーマの紹介

Role play（student-teacher & students in pairs）　会話の練習と発表

Theme-related project　プロジェクト

Homework &“Dear Teacher”notebook　宿題と先生あての手紙ノート

■系統的履修

（English）

■成績評価の方法

Attendance 出席20, Homework 宿題30, Notebook 手紙ノート20, Participation 参加30　＝　100

■テキスト

Teacher will provide materials.

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

Attendance and participation are high priorities.　出席・参加態度は重視されます。

Students are encouraged to speak their minds with confidence.　自信をもって思想と気持ちを表現するようになります。

■講義計画

①Introduction　Introduce course and each other
コース紹介

②Unit1（Present Tense）
① Role Play-First Meetings
場面：初対面

③
② Role Play-At a Restaurant
場面：レストラン

④
③ Role Play-Asking Directions
場面：道にまよった

⑤
④ Project-Body Language（facial expressions + tones）
プロジェクト：表現のしかた

⑥Unit2（Future Tense）
①Role Play-Vacation Plans
場面：春休みの予定

⑦
② Role Play-Health Advisory
場面：健康アドバイス

⑧
③ Role Play-Contingencies-Trip Plan
場面：旅行の予定変更

⑨
④ Project-Airport
プロジェクト：空港

⑩Unit3（Past Tense）
① Role Play-Doctor’s office+Drugstore
場面：医者と薬局

⑪
② Role Play-Complaint Department
場面：不満

⑫
③ Role Play-Teacher’s Conference
場面：先生とミーティング

⑬
④ Project-Learning in Life
プロジェクト：生活の勉強

⑭Make up　Review of course
コースをふりかえって

英語セミナーC２

【担当】音羽　レベッカ

【開講】後期　水３

■サブタイトル

ENGLISH COMMUNICATION　英語でコミュニケーション

■講義概要

Course is divided into 3 units, mainly targeting past, present, and future tense communication.
In each unit, students practice role play in specific situations. Also, classes will include games and activities, vocabulary and grammar aids, and freewriting.
Each Unit will include 1 homework assignment and 3entries in“Dear Teacher”notebook, in which students will communicate with teacher in writing.
In each Unit, a project will explore related topics.
コースは、３つのテーマ（現在・過去・未来）に分かれる。それぞれ宿題と発表がある。いろいろな日常的な場面で、英会話を試みる。テーマに相当する単語と文法を練習する。ゲームやげき、フリーライティングで英語に親しんでいく。

■到達目標

Building confidence in communicating in English in everyday situations.
日常生活の中で使う英語に対して自信をつける

■講義方法

Introduction of Themes　テーマの紹介
Role play（student-teacher & students in pairs）　会話の練習と発表
Theme-related project　プロジェクト
Homework &“Dear Teacher”notebook　宿題と先生あての手紙ノート

■系統的履修

（English）

■成績評価の方法

Attendance 出席宿題20, Homework 30, Notebook 手紙ノート 20, Participation 参加30　＝　100

■テキスト

Teacher will provide materials.

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

Attendance and participation are high priorities.　出席・参加態度は重視されます。
Students are encouraged to speak their minds with confidence.　自信をもって思想と気持ちを表現するようになります。

■講義計画

①Introduction　Introduce course and each other
コース紹介

②Unit1（Present Tense）
① Role Play-First Meetings
場面：初対面

③
② Role Play-At a Restaurant
場面：レストラン

④
③ Role Play-Asking Directions
場面：道にまよった

⑤
④ Project-Body Language（facial expressions + tones）
プロジェクト：表現のしかた

⑥Unit2（Future Tense）
① Role Play-Vacation Plans
場面：春休みの予定

⑦
② Role Play-Health Advisory
場面：健康アドバイス

⑧
③ Role Play-Contingencies-Trip Plan
場面：旅行の予定変更

⑨
④ Project-Airport
プロジェクト：空港

⑩Unit3（Past Tense）
① Role Play-Doctor’s office+Drugstore
場面：医者と薬局

⑪
② Role Play-Complaint Department
場面：不満

⑫
③ Role Play-Teacher’s Conference
場面：先生とミーティング

⑬
④ Project-Learning in Life
プロジェクト：生活の勉強

⑭Make up　Review of course
コースをふりかえって

英語セミナーＣ２

【担当】ワード　ジョン
【開講】後期　水３

■サブタイトル
Language Acquisition Through Interaction
■講義概要
The Objective of this course is to prepare the students to use English in a variety of natural contexts. Throughout the course we will develop the learners speaking and listening skills by balancing consistent language support with challenging activities that will give the students the opportunity to personalize the language they learn, and make use of their own experiences and knowledge. We will be working in pairs and small groups providing a maximum amount of student-generated communication.
We will review after every three units to recycle and consolidate the language and structures previously presented.
■到達目標
After completing this course, students will feel more confident about expressing themselves in English in a variety of situations.
■講義方法
Students will be divided into pairs or groups at the beginning of each class, thus providing many opportunities for student interaction. Throughout the course, students will be helped and encouraged to express their thoughts and opinions in English with greater confidence.
■成績評価の方法
Marks will be awarded as follows: class participation（40%）, attendance（40%）, short quizzes（10%）, final test（10%）
■テキスト
Warren Wilson『Fifty-Fifty Book Two.』Longman　2180円
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
Learning is an ongoing and cylical process in that what is taught one day may well not be remembered, known, or understood the next. It is therefore very important students attend regularly, because to learn a language is to use it frequently.
■講義計画
①Asking for information: Just asking
②Describing things: It's black and white
③Making requests: Would you mind?
④Giving instructions: Turn it clockwise
⑤Review and consolidation: Say that again
⑥Asking for Permission: Go right ahead
⑦Excuses, Excuses: Making excuses and giving reasons
⑧Giving opinions: I couldn't agree more
⑨Comparing things: Bigger and better
⑩Review and consolidation: Say that again
⑪Giving advice and making suggestions: If I were you
⑫Talking about experiences: Have you ever
⑬Inviting: How about dinner?
⑭Making predictions: It's going to rain
⑮Review and consolidation: Say that again

英語セミナーＤ１

【担当】西山　けい子
【開講】前期　水２

■サブタイトル
英語で小説を読んでみよう
■講義概要
小説を楽しみながら次々読破していけたら、願う人は少なくないだろう。しかし、英文がある程度すらすら読めるようになるには、何はともあれ、まず数千ページは読まなければならない（一説によると）。みなさんは中学以来、何ページの英文を読んできただろうか？
　小説の言語というのは、最上の味わいを与えてくれるものだが、レベルに合わないものだとなかなか読み切れない。そこで、本セミナーでは、手始めに、アメリカのベストセラー作家スティーヴン・キングの小品名作を、語彙レベルを若干やさしくした版をテキストとして用いて読んでいくことにする。本作品は「スタンド・バイ・ミー」として映画化され、少年期を描いた秀作としてよく知られている。
■到達目標
英文のリズムを感じながら、ある程度のスピードをもって読んでいき、読む楽しさを体得する。とりあえず、読み切ること。受講後、薄めのペーパーバック、あるいは翻訳や映画版の助けのあるものなどに積極的に挑戦する気持ちが湧いてくるのが目標。
■講義方法
作品は全体で、短い章が27章、約70ページ。まず映画化されたものを鑑賞し、そのあと、各回２章ずつ程度の割合で読み進めていく。時間の都合で、授業では部分的に粗筋を紹介するところもあるが、重要な場面は一語一語味わいながら読んでいきたい。映画版との異同にも着目したい。
■成績評価の方法
平常点（50%）　出席状況、授業への取り組み
レポート（50%）　テキストの指定した箇所について自分なりの翻訳を試みる
■テキスト
Stephen King（Retold by Robin Waterfield）『The Body』Penguin Readers　741円
■参考文献
Stephen King『Different Seasons』Signet　596円
スティーヴン・キング『スタンド・バイ・ミー――恐怖の四季　秋冬編』新潮文庫　740円
ロブ・ライナー（監督）『スタンド・バイ・ミー　コレクターズ・エディション（ＤＶＤ）』ソニーピクチャーズ・エンターテインメント
■オフィスアワー・教員への連絡方法
研究室は2－313です。質問等については、授業後の水曜12:30-13:30または金曜11:10-13:00に来室してください。
■講義計画
①オリエンテーション
②映画「スタンド・バイ・ミー」鑑賞
③Chapter 1-3
④Chapter 4-6
⑤Chapter 7-8
⑥Chapter 9-10
⑦Chapter 11-12
⑧Chapter 13-14
⑨Chapter 15-16
⑩Chapter 17-19
⑪Chapter 20-21
⑫Chapter 22-24
⑬Chapter 25-26
⑭Chapter 27, まとめ

英語セミナーＤ２

【担当】西山　けい子
【開講】後期　水２

■サブタイトル
英語で小説の楽しみを味わおう
■講義概要
英語で書かれた小説を読みたいと思っても、自分の興味と英語力に合うものを見つけるのは意外と難しい。本セミナーでは、そういう人が将来自力で読み進めていくきっかけとなるように、英語の語彙レベルはそれほど高度ではないが、内容的には非常に興味深い、いくつかの短編あるいは長編小説の抜粋を読んでいく。映画化されているものについては、折にふれ紹介する。
■到達目標
作品を丁寧に読み、フィクションを読む楽しみ、ひいてはその奥深さに触れてほしい。小説の中には魂を揺さぶる人間がいっぱいいる。
■講義方法
1回の授業あたり１編の作品を読んでいく。毎回、次週の作品をプリントで配布し、とくに精読すべき箇所を指定するので、是非あらかじめ読んできてほしい。必要に応じて、粗筋や訳書を紹介したり、映画版の一部を見せる。
■成績評価の方法
平常点（50%）　出席状況および授業への取り組み
レポート（50%）　指定した箇所の自分なりの翻訳
■テキスト
プリントを配布する
■参考文献
随時紹介する
■オフィスアワー・教員への連絡方法
研究室は２－３１３。質問等は、授業後の水曜12:30-13:30に来室してください。
■講義計画
①オリエンテーション
②Edgar Allan Poe, 'The Tell-Tale Heart'
③Ernest Hemingway, 'Hills Like White Elephants'
④W. Somerset Maugham, 'Luncheon'
⑤Tracy Chevalier, 'The Girl with a Pearl Earring'
⑥Irwin Shaw, 'The Girls in Their Summer Dresses'
⑦George Orwell, 'Animal Farm'
⑧Michael Cunningham, 'The Hours'
⑨Tennessee Williams, 'The Glass Menagerie'
⑩Kazuo Ishiguro, 'The Remains of the Day'
⑪Jorge Luis Borges, 'The Book of Sand'
⑫J.D.Salinger, 'The Catcher in the Rye'
⑬Haruki Murakami, 'Super-Frog Saves Tokyo'
⑭まとめ

英語セミナーＥ１

【担当】大槻　志郎
【開講】前期　水２

■サブタイトル
Super Cinema English
■講義概要
映画を素材に英語を学ぶ。映画で英語を学ぶメリットについてはいろいろ言われているが、主に挙げられるのは、物語への興味をベースに楽しんで取り組めること、また映画は様々な世界や状況を扱うために、幅広く英語の映画を見れば多様な英語をいわばシミュレーションとして学べること、などであろう。この講義では、実用面もさることながら、磨き抜かれた表現としての映画、その言葉の魅力にこだわりたい。一般に英語の映画を我々が日本で見るときは、吹き替えや字幕の助けを借りるわけで、物語自体はそこそこ楽しめたとしても、作る側が苦労して仕掛けた英語自体の味わいや工夫は観客まで十分に届かないのが実情である。言い換えれば、我々が普通に鑑賞してよい映画だったと思う映画には、本当はさらに魅力がつまっているということだ。そうした表現の魅力を味わうことで、言葉というものの持つ可能性や豊かさをより深く知り、引いては、英語にいっそう意欲的に接していけるようになることを期待したい。
■到達目標
英語の映画において字幕では見えにくい言葉の仕掛けを理解すること
磨き抜かれた名セリフを自分でも応用して使えるようにすること
■講義方法
メニューは二本立て。「主食」として、テキストを少しずつ、一応最初から最後までずっとやる。テキストに選んだのは、現代日本の若者にはさほど知られていないにしても、映画史上傑作の誉れ高く、伝説と名セリフオンパレードの古典『カサブランカ』である。概して古典として生き残った白黒映画は、スラングのない正統派の英語で発音もきれいであり、内容的にも優れたものが多い。また「おかず」として、多様性を求めて、古典からごく最近の映画に至るまで、原則として毎回違った映画の一場面を切り取って味わってみる。なお毎回のおかずの「献立」はあえて公開しないので、「美味い」かどうか、「シェフ」を信用できるかどうかは多少のリスクがある。基本的な学習法としては、名セリフの読解、聴解、セリフの構文を使った応用練習など。講義の最初に前回の復習の小テストを行なう。
■成績評価の方法
平常点（40%）　小テスト、課題や作業の達成状況など
定期試験（60%）
3分の1以上の欠席の場合は、期末試験の受験資格を失うものとし、試験による評価は原則0点とする。
■テキスト
『名作映画で英会話、カサブランカ、DVD付』コスミック出版　980円
■参考文献
講義中に指示
■履修上の注意・担当者からの一言
外国人用に易しくしてあるわけではなく、英語圏の観客が普通に見る映画が教材だから英語のレベルはけっこう高い。それなりの英語力と、予習復習の努力が必要。テキストはDVD付きであり、また学習法も紹介されているので、（理想的には映画自体も気に入って）自習段階で繰り返し聞いてみることが望ましい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
水曜または金曜の4講時。ただしいずれも会議の場合を除く。2-315研究室。希望者にはメールで連絡を取る他、eLeaningサイトを開設予定。
■講義計画
①introduction
②テキストの映画の読解、聴解、表現練習など。及び、日替わり映画による学習。
③同上
④同上
⑤同上
⑥同上
⑦同上
⑧同上
⑨同上
⑩同上
⑪同上
⑫同上
⑬同上
⑭同上

英語セミナーＥ２

【担当】大槻　志郎
【開講】後期　水２

■サブタイトル
Super Cinema English

■講義概要
映画を素材に英語を学ぶ。映画で英語を学ぶメリットについてはいろいろ言われているが、主に挙げられるのは、物語への興味をベースに楽しんで取り組めること、また映画は様々な世界や状況を扱うために、幅広く英語の映画を見れば多様な英語をいわばシミュレーションとして学べること、などであろう。この講義では、実用面もさることながら、磨き抜かれた表現としての映画、その言葉の魅力にこだわりたい。一般に英語の映画を我々が日本で見るときは、吹き替えや字幕の助けを借りるわけで、物語自体はそこそこ楽しめたとしても、作る側が苦労して仕掛けた英語自体の味わいや工夫は観客まで十分に届かないのが実情である。言い換えれば、我々が普通に鑑賞してよい映画だったと思う映画には、本当はさらに魅力がつまっているということだ。そうした表現の魅力を味わうことで、言葉というものの持つ可能性や豊かさをより深く知り、引いては、英語にいっそう意欲的に接していけるようになることを期待したい。

■到達目標
英語の映画において字幕では見えにくい言葉の仕掛けを理解すること
磨き抜かれた名セリフを自分でも応用して使えるようにすること

■講義方法
メニューは二本立て。「主食」として、テキストを少しずつ、一応最初から最後までずっとやる。テキストに選んだのは、主演のオードリー・ヘップバーンの魅力もあって、公開から半世紀を経てしてなお、現代日本の若者にも人気の高い永遠のラブストーリー『ローマの休日』である。概して古典として生き残った白黒映画は、スラングのない正統派の英語で発音もきれいであり、内容的にも優れたものが多い。また「おかず」として、多様性を求めて、古典からごく最近の映画に至るまで、原則として毎回違った映画の一場面を切り取って味わってみる。なお毎回のおかずの「献立」はあえて公開しないので、「美味い」かどうか、「シェフ」を信用できるかどうかは多少のリスクがある。基本的な学習法としては、名セリフの読解、聴解、セリフの構文を使った応用練習など。講義の最初に前回の復習の小テストを行なう。

■成績評価の方法
平常点（40%）　小テスト、課題や作業の達成状況など
定期試験（60%）
3分の1以上の欠席の場合は、期末試験の受験資格を失うものとし、試験による評価は原則0点とする。

■テキスト
『名作映画で英会話、ローマの休日、DVD付』コスミック出版　980円

■参考文献
講義中に指示

■履修上の注意・担当者からの一言
外国人用に易しくしてあるわけではなく、英語圏の観客が普通に見る映画が教材だから英語のレベルはけっこう高い。それなりの英語力と予習復習の努力が必要。テキストはDVD付きであり、また学習法も紹介されているので、（理想的には映画自体も気に入って）自習段階で繰り返し聞いてみることが望ましい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
水曜または金曜の4講時。ただしいずれも会議の場合を除く。2-315研究室。希望者にはメールで連絡を取る他、eLeaningサイトを開設予定。

■講義計画
①introduction
②テキストの映画の読解、聴解、表現練習など。及び、日替わり映画による学習。
③同上
④同上
⑤同上
⑥同上
⑦同上
⑧同上
⑨同上
⑩同上
⑪同上
⑫同上
⑬同上
⑭同上

英語セミナーＦ１

【担当】五十嵐　海理
【開講】前期　金２

■サブタイトル
英語の歴史

■講義概要
この授業では「英語」が8世紀にイングランドで話されるようになってから、今日のように、スコットランド、アイルランド、北米、オーストラリア、ニュージーランド、シンガポール、南アフリカなどで話されるようになるまで、どのように広がってきたのかを概観する。周知のように、英語はもともとゲルマン諸語のひとつで、ドイツ語やオランダ語、スウェーデン語、ノルウェー語、アイスランド語などと親戚関係にある言語であり、かつてはブリテン島のみで話される言語であった。それが11世紀のノルマン・コンクエスト、17世紀～19世紀の帝国主義を経て、20世紀のアメリカの経済的覇権を背景に、現在のように、世界でもっとも通じる言葉になった。その有り様を、おもに言語の視点から、読み解こうというものである。また、こうした歴史的背景の知識があって初めて、英語に多様な方言が存在することが必然であることが理解されると思う。

■到達目標
英語という言語を通して、英語圏の歴史について知ること、および、英語について包括的な知識を得ることを目標とする。

■講義方法
おもにプリントと教科書を用いて行う。また、小テストを毎回行い、その場で解答し採点することで、理解を深めることにしたい。また、画像・映像も利用する。

■系統的履修
英語に関することであるので、英語2まで既習であることが望ましい。

■成績評価の方法
平常点（40%）　出席を重視する。また、教員よりも遅れて教室に入って来た人はすべて遅刻とみなす。
小テスト（40%）　3問から10問くらいの小テストを毎回課し、その答案の出来栄えによって評価する。
レポート（20%）　レポートは前期で自分が気になったテーマについて、図書館などで調べて書いてもらう。
成績評価の方法は変更する場合もある。

■テキスト
あとで指示する

■参考文献
中尾俊夫『英語の歴史』講談社現代新書
寺澤盾『英語の歴史：過去から未来への物語』中公新書

■履修上の注意・担当者からの一言
講義計画はあくまで取り上げる予定の事柄と、大まかな授業の流れを示したものであり、それ以上のものではない。各回の授業内容がシラバスのそれと大きく外れることはないが、そもそも完全に一致するものでもない。

■講義計画
①教科書の確認、自己紹介など
②大まかな時間の流れ、世界史、日本史との比較
③IPAの概説、書いて読む練習
④印欧祖語とゲルマン語、グリムの法則
⑤名詞の活用など
⑥動詞の活用など
⑦古英語と語順
⑧ノルマン・フレンチと中英語、借入語
⑨中英語と語順
⑩現代英語の特徴
⑪シェークスピアの英語
⑫現代英語の広がり
⑬音韻、語彙、統語の違いを検討する。
⑭予備
⑮必要な文献の指示などを行う

英語セミナーＦ２

【担当】五十嵐　海理
【開講】後期　金２

■サブタイトル
英語の歴史
■講義概要
この授業では「英語」が8世紀にイングランドで話されるようになってから、今日のように、スコットランド、アイルランド、北米、オーストラリア、ニュージーランド、シンガポール、南アフリカなどで話されるようになるまで、どのように広がってきたのかを概観する。
後期ではとくに語彙や文法について、どのようにしてそれぞれの語が英語に入ってきたのか、どのようにして現在の英語の形になったのかを概観する。
■到達目標
前期と同様、英語を通して英米の歴史を概観することであるが、後期はやや専門的になり、言語の社会的な側面にも焦点を当てていきたい。
■講義方法
前期と同じ。
■系統的履修
前期と同様、英語2までは既習であることが望ましい。
■成績評価の方法
平常点（40%）　出席重視で、遅刻もチェックする。
小テスト（40%）　毎回の授業後、確認テストを行う。前期と同様である。
レポート（20%）　後期は社会的側面から英語を論じてもらう。
■テキスト
あとで指示する
■参考文献
中尾俊夫『歴史的にさぐる現代の英文法』大修館書店
中島文雄『英語発達史』岩波全書
これらの参考文献はかなり専門的であるので、もう少し易しいものを望む時は前期で紹介したものを参考にすること。
■履修上の注意・担当者からの一言
前期でも述べたが、講義計画は実際の講義内容と一対一対応するものではない。大まかな流れを示したものであり、内容は受講生や教員の興味に応じて変更することがある。
■講義計画
①半年で行う講義の概要を述べる
②IPAについて解説する
③前期のF1の受講生のやったことをおさらいする
④同上
⑤ゲルマン語、フランス語、ラテン語などからの影響
⑥語源とは何か、ロマンス語、ラテン語からの影響
⑦その他の言語からの借入
⑧古英語における格変化、語順
⑨グリムの法則など
⑩大母音推移、格の消失、線形順序、など
⑪法助動詞の発達など
⑫最近の河口英語について
⑬予備
⑭予備
⑮扱った論題の中からレポートを書くにあたり、必要な文献などを指示し、必要があれば一部を教員と一緒に理解する。

教育原論Ａ

【担当】田中　圭治郎
【開講】前期　月２

■サブタイトル
教育の思想と実態
■講義概要
現在、われわれが直面している学校現場での諸課題についてどのように対処していったらよいのかについて考えたい。小学校・中学校・高校の教育現場に焦点を当ててみる。価値観の多様化にともなって、教師がどのように一人ひとりの子どもを見つめ、その可能性を伸ばすことができるのかについて述べる。
■到達目標
この授業では、人間としてどのように生きるべきかという視点から教育を考え、一人ひとりを生かす教育について考えてみる。
■講義方法
授業計画にもとづいて、テキストを中心に講義をすると共に、適宜ビデオ、プリントを使用する。
■成績評価の方法
平常点（30%）　主として出席を評価基準とする
小テスト（30%）
定期試験（40%）
■テキスト
田中圭治郎著『多文化教育の世界的潮流』ナカニシヤ出版
2356円
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
私語をなくすこと。出席を重視する。
■講義計画
①教育学入門（1）　人間と教育
②　〃　（2）　教育の今日的課題
③教育の意義と目的（1）　素質と環境
④　〃　（2）　学校教育の諸問題
⑤　〃　（3）　家庭教育・社会教育の諸問題
⑥　〃　（4）　バンクス等の多文化教育の思想
⑦公教育の理念と成立（1）　ソクラテス、ルター、ルソー、コンドルセ
⑧　〃　（2）　ペスタロッチー、フレーベル、ヘルバルト
⑨　〃　（3）　モンテッソーリ、デューイ
⑩　〃　（4）　フリースクール等の学校、改革
⑪世界の教育（1）
⑫　〃　（2）
⑬　〃　（3）

教育原論A

【担当】藤井　奈津子
【開講】前期　月1

■サブタイトル
子ども期へのまなざし
■講義概要
かつて子どもは〈小さな大人〉としてみなされ、大人とともに遊び・働き・学ぶ存在であった。そうした人々のあいだに、大人とは異なる存在としての〈子ども〉という態度や感情が現れるようになるのは､近代になってのことである。つまり近代になって〈子ども〉は発見されたのだ。人々は次第に、〈子ども〉を大人とは異なる純白な存在として、すなわち無知あるいは無垢なる存在としてみなすようになっていく。やがて純白＝無知としての子ども観は、白紙としての子ども・子どもの可塑性という観念となって近代教育思想の中心に位置づけられていく。一方、純白＝無垢としての子ども観は、生き生きとした生命感・豊かな想像力・鋭い感受性をそなえた子どもという観念となってロマン主義的子ども観へと繋がっていく。教育原論Aでは、まず後者のロマン主義的子ども観の流れに沿って、大人とは異なる〈子ども〉特有の生のありようについて考えていきたい。文学作品や映画に描かれた子どもを手がかりに、議論を進めていく予定である。
■到達目標
近代における子ども期の発見の歴史と、そこで見出された子ども特有の生のありようについて理解することによって、現代の教育を考えていく上で重要な子ども観を養う。
■講義方法
板書と口述による講義のほかに、ビデオ視聴を行う。また毎回講義の最後に15分程度の時間を設け、講義内容・ビデオ内容についての感想・意見・疑問点などを小レポートとして提出してもらう。
■系統的履修
できれば教育原論Bも受講することが望ましい。
■成績評価の方法
レポート（40%）　毎回講義終了時に提出してもらう小レポート
定期試験（60%）　期末レポート
■テキスト
テキストは使用せず、毎回資料プリントを配布する。
■参考文献
Ph. アリエス『〈子供〉の誕生―アンシャン・レジーム期の子供と家庭生活』みすず書房　5200円
森田伸子『テクストの子ども―ディスクール・レシ・イマージュ』世織書房　2600円
本田和子『映像の子どもたち―ビデオという覗き窓』人文書院　1900円
■講義計画
①子ども期の発見（1）―西欧
②子ども期の発見（2）―日本
③子どもの時間（1）―ロマン主義的子ども観
④子どもの時間（2）―〔映画視聴〕
⑤子どもの時間（3）―映画解説―子どものリアリティ
⑥子どもと秘密（1）―子どもの秘密と大人の秘密
⑦子どもと秘密（2）―〔映画視聴〕
⑧子どもと秘密（3）―映画解説―禁止への侵犯
⑨子どものイニシエーション（1）―イニシエーションとは何か
⑩子どものイニシエーション（2）―〔映画視聴〕
⑪子どものイニシエーション（3）―映画解説―子どもから大人へ
⑫大人の生における子ども期の意味（1）―子ども期とは何か
⑬大人の生における子ども期の意味（2）―J.S.ミルの事例から
⑭まとめ

教育原論B

【担当】田中　圭治郎
【開講】後期　月2

■サブタイトル
公教育の諸問題
■講義概要
教育とは何かを、教育哲学、教育史、思想、教授学、教育制度等のさまざまな角度から考察する。そのため、プラトン、コメニウス、ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、デューイ等の人物の思想を説明し、教育の基礎知識を習得してもらう。
■到達目標
公教育の成立により、教育の大衆化がいかに可能になったか。一人ひとりの可能性を生かすのはどうすればよいかを理解してもらう。
■講義方法
授業計画にもとづいて、テキストを中心に講義をすると共に、適宜、ビデオ、プリントを使用する。
■成績評価の方法
平常点（30%）　主として出席を評価基準とする
小テスト（30%）
定期試験（40%）
■テキスト
田中圭治郎『教育学の基礎』ナカニシヤ出版　2600円
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
私語をなくすこと。出席を重視する。
■講義計画
①教育学入門（1）　国際理解教育、異文化理解教育
②　〃　（2）　多文化教育
③教育の意義と目的（1）　明治・大正期の教育の意義と目的
④　〃　（2）　昭和期以降の教育の意義と目的
⑤　〃　（3）　教育の評価（ポートフォリオ）
⑥　〃　（4）　総合的学習
⑦現代の教育の諸問題（1）　公教育の成立の源流　プラトン、コメニウス、ルソー
⑧　〃　（2）　初等教育における統一学校（プロイセンの教育）
⑨　〃　（3）　中等教育における統一学校（ヨーロッパにおける統一学校運動）
⑩　〃　（4）　高等教育の大衆化
⑪生涯教育・生涯学習（1）
⑫　〃　（2）
⑬幼児教育

教育原論B

【担当】藤井　奈津子
【開講】後期　月1

■サブタイトル
子どもの社会化から超社会化へ

■講義概要
かつて子どもは〈小さな大人〉としてみなされ、大人とともに遊び・働き・学ぶ存在であった。そうした人々のあいだに、大人とは異なる存在としての〈子ども〉という態度や感情が現れるようになるのは、近代になってのことである。つまり近代になって〈子ども〉は発見されたのだ。人々は次第に、〈子ども〉を大人とは異なる純白な存在として、すなわち無知あるいは無垢なる存在としてみなすようになっていく。やがて純白＝無知としての子ども観は、白紙としての子ども・子どもの可塑性という観念となって近代教育思想の中心に位置づけられていく。一方、純白＝無垢としての子ども観は、生き生きとした生命感・豊かな想像力・鋭い感受性をそなえた子どもという観念となってロマン主義的子ども観へと繋がっていく。教育原論Bでは、前者の流れに沿って、子ども期の発見以降に成立していく近代教育の理念とその諸問題について検討し、その上で近代教育を超える新たな教育の可能性について考えていきたい。できるだけ具体的な教育問題・教育実践の事例を取り上げながら、議論を進めていく予定である。

■到達目標
子ども期の発見以降に成立していく近代教育の理念とその諸問題を理解した上で、近代教育を超える現代の教育の可能性を考えていく視点を養う。

■講義方法
板書と口述による講義のほかに、ビデオ視聴を行う。また毎回講義の最後に15分程度の時間を設け、講義内容・ビデオ内容についての感想・意見・疑問点などを小レポートとして提出してもらう。

■系統的履修
できれば教育原論Aも受講することが望ましい。

■成績評価の方法
レポート（40%）　毎回講義終了時に提出してもらう小レポート
定期試験（60%）　期末レポート

■テキスト
テキストは使用せず、毎回資料プリントを配布する。

■参考文献
亀山佳明『子どもと悪の人間学―子どもの再発見のために』以文社　3400円
矢野智司『自己変容という物語―生成・贈与・教育』金子書房　2200円

■講義計画
①近代教育の誕生（1）―徒弟修業から学校へ
②近代教育の誕生（2）―戦後学校教育
③近代教育の諸問題（1）―学級のアノミー化
④近代教育の諸問題（2）―他者への過剰同調
⑤近代教育の諸問題（3）―〔映画視聴〕
⑥近代教育の諸問題（4）―〔映画視聴〕
⑦近代教育の諸問題（5）―共有し得ない痛み
⑧近代教育の諸問題（6）―閉塞感からの脱出
⑨近代教育を超える可能性（1）―社会化から超社会化へ
⑩近代教育を超える可能性（2）―里山学校
⑪近代教育を超える可能性（3）―なってみる授業
⑫近代教育を超える可能性（4）―出会いの授業
⑬近代教育を超える可能性（5）―生と死の授業
⑭まとめ

経済学入門（2003年度以降入学生）
経済学（2002年度以前入学生）

【担当】キグリチュ　イシュトヴァーン
【開講】前期　月2

■サブタイトル
経済学の基本課題と暮らしの経済

■講義概要
この科目は経済学に興味を持っている学生諸君のための入門科目である。科目提供の目的は以下の2点である。(1) 経済学に関する専門知識の履修を望む学生のために、その基礎知識を提供する。(2) 専門的な経済学習得まで至らずとも、日常生活に欠かせない経済の基本知識を習得する。そのためこの講義は、基本的な経済の専門用語、世の中によく耳にする「GDP」、「インフレ」、「株」、「金融」、「利子」等の意味を分析することにより、経済の世界に案内する。また上記の問題を取り上げながら、日常生活における自己管理、経済上のやりくり、さらに世の中の経済の動きを理解できることを目指す。

■到達目標
講義を履修することにより、学生諸君は経済関係の基本知識を身に付け、身近な生活に直接影響を及ぼす新聞ニュースや一般経済問題を理解できるようになり、次の段階では専門的経済科目を履修できることも期待される。

■講義方法
講義は日本語、パワーポイントによるプレゼンテーションを行なう。教員の説明にはデータ、グラフ、ビデオも加えられる。アウトライン、関連する参考資料は学内フォルダーに提供される。講義の流れを学生の興味、質問等にそって調整して行う。

■成績評価の方法
出席　50%, テスト50%

■テキスト
特になし

■参考文献
必要に応じて授業中に知らせる。

■履修上の注意・担当者からの一言
講義は連続性を重視している。ビデオと提供される資料の理解、およびノートを取ることが欠かせないことである。学生諸君が取ったノートは期末試験の情報源になる。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
水曜日 12:40 - 13:30
その他連絡しながらアポイントを依頼する。

■講義計画
①経済とは何か。経済と社会と政治の関係
②マクロとミクロ経済
③経済と経済発展を図る統計
④経済と金
⑤経済体制、混合後経済
⑥日本型経済とその改革
⑦経済思想の発展

経済学入門（2003年度以降入学生）
経済学（2002年度以前入学生）

【担当】キグリチュ　イシュトヴァーン
【開講】後期　月2

■サブタイトル
経済学の基本課題と暮らしの経済

■講義概要
この科目は経済学に興味を持っている学生諸君のための入門科目である。科目提供の目的は以下の2点である。(1) 経済学に関する専門知識の履修を望む学生のために、その基礎知識を提供する。(2) 専門的な経済学習得まで至らずとも、日常生活に欠かせない経済の基本知識を習得する。そのためこの講義は、基本的な経済の専門用語、世の中によく耳にする「GDP」、「インフレ」、「株」、「金融」、「利子」等の意味を分析することにより、経済の世界に案内する。また上記の問題を取り上げながら、日常生活における自己管理、経済上のやりくり、さらに世の中の経済の動きを理解できることを目指す。

■到達目標
講義を履修することにより、学生諸君は経済関係の基本知識を身に付け、身近な生活に直接影響を及ぼす新聞ニュースや一般経済問題を理解できるようになり、次の段階では専門的経済科目を履修できることも期待される。

■講義方法
講義は日本語、パワーポイントによるプレゼンテーションを行なう。教員の説明にはデータ、グラフ、ビデオも加えられる。アウトライン、関連する参考資料は学内フォルダーに提供される。講義の流れを学生の興味、質問等にそって調整して行う。

■成績評価の方法
出席　50%, テスト50%

■テキスト
特になし

■参考文献
必要に応じて授業中に知らせる。

■履修上の注意・担当者からの一言
講義は連続性を重視している。ビデオと提供される資料の理解、およびノートを取ることが欠かせないことである。学生諸君が取ったノートは期末試験の情報源になる。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
水曜日 12:40 - 13:30
その他連絡しながらアポイントを依頼する。

■講義計画
①経済とは何か。経済と社会と政治の関係
②マクロとミクロ経済
③経済と経済発展を図る統計
④経済と金
⑤経済体制、混合経済
⑥日本型経済とその改革
⑦経済思想の発展

経済学入門（2003年度以降入学生）
経済学（2002年度以前入学生）

【担当】李　復屏
【開講】後期　月1

■サブタイトル
暮らしの中の経済学

■講義概要
この世の中に不思議なことが満ちている。お金とは一体どういうものなのか、モノの値段はどこでだれがどうやって決めたのか、デフレはなぜよくないのか、政府は何をしているのか、汚染権を売買してもいいのか、などなど。この講義では、こういった身近な問題を取り上げてみなさんと一緒に考えていきたい。驚くべきなのは、複雑な事象の背後にはいくつかのシンプルな経済原理が存在しているにすぎないのだ。

■到達目標
経済学の基礎理論を学び、経済学的な考え方を理解することによって、新しい視点とより深い洞察力をもって直面する現実問題について考えることができるようになる。

■講義方法
視覚教材を取り入れながら、講義形式で授業を進む。ほぼ毎回練習問題がある。

■系統的履修
なし。

■成績評価の方法
平常点（50%）・定期試験（50%）

■テキスト
N・グレゴリー・マンキュー著、足立英之ほか訳『マンキュー入門経済学』東洋経済新報社　3200円

■参考文献
三橋規宏ほか『ゼミナール日本経済入門』日本経済新聞出版社　3000円

■履修上の注意・担当者からの一言
私語厳禁！

■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワーは月４。この時間帯に来られない学生は、lifuping@soc.ryukoku.ac.jpまでご相談ください。

■講義計画
①経済学とは
②経済学者らしく考える①
③経済学者らしく考える②
④取引と貿易
⑤需要と供給①
⑥需要と供給②
⑦外部性
⑧公共部門
⑨GDPとは
⑩貨幣システム
⑪インフレ・デフレ
⑫政府の仕事
⑬復習①
⑭復習②

経済学入門（2003年度以降入学生）
経済学（2002年度以前入学生）

【担当】李　復屏
【開講】後期　月３

■サブタイトル
暮らしの中の経済学
■講義概要
この世の中に不思議なことが満ちている。お金とは一体どういうものなのか、モノの値段はどこでだれがどうやって決めたのか、デフレはなぜよくないのか、政府は何をしているのか、汚染権を売買してもいいのか、などなど。この講義では、こういった身近な問題を取り上げてみなさんと一緒に考えていきたい。驚くべきなのは、複雑な事象の背後にはいくつかのシンプルな経済原理が存在しているにすぎないのだ。
■到達目標
経済学の基礎理論を学び、経済学的な考え方を理解することによって、新しい視点とより深い洞察力をもって直面する現実問題について考えることができるようになる。
■講義方法
視覚教材を取り入れながら、講義形式で授業を進む。ほぼ毎回練習問題がある。
■系統的履修
なし。
■成績評価の方法
平常点（50%）・定期試験（50%）
■テキスト
N・グレゴリー・マンキュー著、足立英之ほか訳『マンキュー入門経済学』東洋経済新報社　3200円
■参考文献
三橋規広ほか『ゼミナール日本経済入門』日本経済新聞出版社　3000円
■履修上の注意・担当者からの一言
私語厳禁！
■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワーは月４。この時間帯に来られない学生は、lifuping@soc.ryukoku.ac.jpまでご相談ください。
■講義計画
①経済学とは
②経済学者らしく考える①
③経済学者らしく考える②
④取引と貿易
⑤需要と供給①
⑥需要と供給②
⑦外部性
⑧公共部門
⑨GDPとは
⑩貨幣システム
⑪インフレ・デフレ
⑫政府の仕事
⑬復習①
⑭復習②

言語学入門

【担当】磯江　源
【開講】前期　木３

■サブタイトル
理論言語学と比較言語学
■講義概要
言語学にもさまざまな分野があるが、本講においては、言語の成り立ち（構造）と、英語と関係の深い、いくつかの言語の比較を取り扱う。まず、ことばを構成している、文、単語、形態素、音素などを理解し、その研究方法を概観する。そののち、フランス語、ラテン語、ドイツ語が、歴史的に見て、どのように英語に類似し、影響を与えてきたかを見て、言語の比較研究について考える。
■到達目標
なじみの深い学校文法を、より分析的に見る場合などには、新しい概念を理解する必要がある。提示される問題について、積極的に考え、言語に一般的な性質を探る態度を身に付けよう。
■講義方法
始めに理論言語学の基礎的な概念を解説して、その方法を理解していただく。この知識を活用して、比較言語学の成果を学習していく。
■成績評価の方法
小テスト（100%）　本年度は、複数回の小テストを実施して、学期中のコンスタントな学習を促す。
課外活動、龍谷祭などを理由とする欠席を予定する人は、よく小テストの日程を注意すること。小テストは、欠席すれば、０点となり、直接成績に反映される。２回以上小テストを欠席すれば、単位取得は、不可能になる可能性が高い。また、出席していないと、解答は大変困難な問題である。持ち込み不可。
■テキスト
特になし
■参考文献
J.C. Catford『Fundamental Problems in Phonetics』Midland Book
John Lyons『Introduction to Theoretical Linguistics』Cambridge University Press
■オフィスアワー・教員への連絡方法
金曜1講時、木曜4講時。そのほか、授業の前後に相談してください。
■講義計画
①言語学の各分野
②音声学
③英語の音声（1）
④英語の音声（2）
⑤音韻論、形態素、語構造
⑥フランス語と英語
⑦ドイツ語と英語
⑧言語の歴史:英語の歴史
⑨ブリテン島と英語
⑩ゲルマン民族の移住
⑪ラテン語 I
⑫ラテン語 II
⑬インドヨーロッパ語
⑭まとめと復習

コリア語ＩA

【担当】金　仁姫
【開講】前期　水３

■講義概要
1. 韓国語と日本語の発音差を認識して正確で明らかな発音になるようにする。2. 韓国語と日本語の文法差を認識して簡単な表現や日常的な表現を作文する能力を培う。
■到達目標
日常語彙の中で漢字語と固有語を区別して似ている言葉や反意語などの単語の相互関連性と係わって、語彙能力を培う。教材に付いたCDを聞きながら大きい声で繰り返す。
■講義方法
あいさつや日常会話、文法などを元にして、自ら表現しようとすることを表現する。
■成績評価の方法
平常点（30%）　毎時間聞き取り（書き）試験
小テスト（30%）　普段書く宿題と授業態度
定期試験（40%）
毎時間聞き取り（書き）試験30%、普段書く宿題と授業態度30%、小テスト40%（100点満点）
■テキスト
入佐信宏、文賢珠共著『よくわかる韓国語STEP 1CD付』白帝社　2500円
■参考文献
朴炫国『韓国語の発音と演習』白帝社　2200円
■講義計画
①毎日の生活に関する表現（7）
②動詞の変化
③状況、状態に関する表現（8）
④形容詞
⑤ショッピング、食事に対して問う表現（9）
⑥お金の支払い
⑦過去型（10）
⑧過去の状態に関する表現（11）
⑨約束についての表現（12）
⑩意志、希望に関する表現（13）
⑪未来型
⑫依頼に関する表現（14）
⑬能力に関する表現（15）
⑭形容詞
⑮（　）の数字は教科書の順序

コリア語ＩB

【担当】金　仁姫
【開講】後期　水３

■講義概要
1. 韓国語と日本語の発音差を認識して正確で明らかな発音になるようにする。2. 韓国語と日本語の文法差を認識して簡単な表現や日常的な表現を作文する能力を培う。
■到達目標
日常語彙の中で漢字語と固有語を区別して似ている言葉や反意語などの単語の相互関連性と係わって、語彙能力を培う。教材に付いたCDを聞きながら大きい声で繰り返す。
■講義方法
あいさつや日常会話、文法などを元にして、自ら表現しようとすることを表現する。
■成績評価の方法
平常点（30%）　毎時間聞き取り（書き）試験
小テスト（30%）　普段書く宿題と授業態度
定期試験（40%）
毎時間聞き取り（書き）試験30点、普段書く宿題と授業態度30点、小テスト40点（100点満点）
■テキスト
入佐信宏、文賢珠共著『よくわかる韓国語STEP 1CD付』白帝社　2500円
■参考文献
朴炫国『韓国語の発音と演習』白帝社　2200円
■講義計画
①毎日の生活に関する表現（7）
②動詞の変化
③状況、状態に関する表現（8）
④形容詞
⑤ショッピング、食事に対して問う表現（9）
⑥お金の支払い
⑦過去型（10）
⑧過去の状態に関する表現（11）
⑨約束についての表現（12）
⑩意志、希望に関する表現（13）
⑪未来型
⑫依頼に関する表現（14）
⑬能力に関する表現（15）
⑭形容詞
⑮（　）の数字は教科書の順序

コリア語ＩC

【担当】朴　炫国
【開講】前期　木3

■講義概要
韓国語の基礎（コリア語ＩA, B）を受講する学生の中でより一層韓国語に対して深く勉強しようと思う学生のための授業です。
韓国語の日常会話を中心に韓国語を発音するのに必要な基本的な規則と原理を習います。

■到達目標
韓国語の基本発音原理を理解してこの規則にしたがって発音することができる。
日常会話時使われる単純な挨拶を聞いて理解しながら答える。

■講義方法
先生の韓国語発音を聞いてしたがって発音して韓国語発音が慣れれば自ら発音することができるようにする。

■成績評価の方法
平常点（40%）　授業に積極的に参加して,反復的に発音する。一人で韓国語資料を読めるようにする。
小テスト（40%）　前の授業で習った内容に対して単語,文章のヒアリング試験を毎時間実施する。
定期試験（20%）　一学期の間習った内容を総合的に整理する。

■テキスト
延世大学韓国語学堂『初級韓国語読本』延世大学出版部
テキストは授業の時販売

■参考文献
特になし

■講義計画
①言語の理解と韓国語
②韓国語の母音
③韓国語の子音
④韓国語のパッチム
⑤韓国語の文章
⑥挨拶
⑦生活
⑧勉強
⑨家族
⑩図書館
⑪昼ご飯
⑫友達　1
⑬食堂
⑭喫茶店
⑮友達　2

コリア語ＩD

【担当】朴　炫国
【開講】後期　木3

■講義概要
韓国語の基礎（コリア語ＩA, B）を受講する学生の中でより一層韓国語に対して深く勉強しようと思う学生のための授業です。
韓国語の日常会話を中心に韓国語を発音するのに必要な基本的な規則と原理を習います。

■到達目標
韓国語の基本発音原理を理解してこの規則にしたがって発音することができる。
日常会話時使われる単純な挨拶を聞いて理解しながら答える。

■講義方法
先生の韓国語発音を聞いてしたがって発音して韓国語発音が慣れれば自ら発音することができるようにする。

■成績評価の方法
平常点（40%）　授業に積極的に参加して,反復的に発音する。一人で韓国語資料を読めるようにする。
小テスト（40%）　前の授業で習った内容に対して単語,文章のヒアリング試験を毎時間実施する。
定期試験（20%）　一学期の間習った内容を総合的に整理する。

■テキスト
延世大学韓国語学堂『初級韓国語読本』延世大学出版部
テキストは授業の時販売

■参考文献
特になし

■講義計画
①韓国語の飲食
②誕生日
③花の市場
④訪問
⑤空港
⑥旅行
⑦バースの中で
⑧旅館
⑨登山
⑩タクシの中で
⑪招待
⑫友達の家で
⑬結婚式
⑭下宿
⑮春

コリア語セミナーA

【担当】金　里博
【開講】前期　水３

■サブタイトル
ハングルが読み書き出来、コリア語で話してみよう！
■講義概要
科学的文字としてのハングルの構成を知る。子音と母音の正しい発音と正しい筆順を身に付ける。新聞･書物･インターネット文等のハングル文を正しく読め、訳が出来る。自分で日記が書ける。
■到達目標
ハングルの子音･母音を順序正しく書け、且つ基本的に読める。ハングルで短文が綴れる。コリア語で自己紹介が出来る。
■講義方法
本文を書き写し、訳を試みる。本文を基本的に正しく読む。一、二学期にそれぞれ最低三回の小テストを任意に行う。コリア語で設問しコリア語で答えさせる。（答えは、正しく使われた助詞も含めて15個以上のコリア語の単語を使う。）
■成績評価の方法
平常点（20%）　欠席一回は10%、二回以上は20%減点する。
小テスト（30%）　三回の内、全て70点以下は各々0点とする。
定期試験（50%）
特に外国語学習の場合、欠席、居眠りは禁物である。小テストの追試は基本的に行わないが不可抗力の場合、誠実な意思、希望により他の方法を実施する場合もある。
■テキスト
岡山善一郎『朝鮮語を学ぶ』白帝社　1800円
カセットテープが別売されているので大いに活用してほしい。
■参考文献
尹秀一・尹龍澤『プレリュード韓国語』白帝社　2400円
渡辺鈴子『韓国語基礎』白帝社　2400円
双方ともCD付きなので自習には大いに助かるだろう。
■履修上の注意・担当者からの一言
担当者はネイティブスピーカーなので固くならずに接し、学んでほしい。欠席、居眠りはしない方が望ましい。予習は少しでも必ずしておくこと。小テストを軽く見ると後で後悔するだろう。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
第一、第三水曜日は講師控室に三時半頃までいるので訪問は歓迎する。緊急の場合携帯090-8147-7689に、その他の場合はパソコンのribak@hera.eonet.ne.jpに連絡が可能だ。
■講義計画
ハングルの子母。二つの文末形。品詞。基本的助詞。用言の時制。

コリア語セミナーB

【担当】金　里博
【開講】後期　水３

■サブタイトル
さあ、勇気を出してコリア語の会話を初めてみよう！
■講義概要
子音の順音・激音・濃音を区別し発音することを学ぶ。音の似た母音を区別し発音する事を学ぶ。正しいイントネーションを身につける。複文を正しく読み訳す。基本的な日常会話を学ぶ。用言（動詞・形容詞等）の時制を学ぶ。
■到達目標
子音と母音を正しく発音し、助詞を正しく使い分ける。コリア語で自己紹介が出来る。新聞のコラム記事等が基本的に読め意味が分かる。
■講義方法
本文を写し、訳、読む。短文を綴る。コリア語の質問に対し正しく使われた助詞も含めたコリア語の単語を１５個以上使って答えさせる。小テストを任意に最低三回行う。
■成績評価の方法
平常点（20%）　欠席（遅刻三回を含む）一回は10%引き、三回以上は20%引きとする。
小テスト（30%）　小テストは三回行い、各々70点以下は0点とする。
定期試験（50%）
特に外国語学習の場合、欠席、居眠りは禁物である。小テストの追試は基本的に行わないが不可抗力の場合、誠実な意思、希望により他の方法を実施する場合もあり得る。
■テキスト
岡山善一郎『朝鮮語を学ぶ』白帝社　1800円
カセットテープが別売されているので大いに活用してほしい。
■参考文献
尹秀一・尹龍澤『プレリュード韓国語』白帝社　2400円
渡辺鈴子『韓国語基礎』白帝社　2400円
双方ともCD付きなので活用すれば自習は大いに助かるだろう。
■履修上の注意・担当者からの一言
担当者はネイティブスピーカーなので固くならずに接し、学んでほしい。欠席、居眠りはしない方が望ましい。予習は少しでも必ずしておくこと。小テストを軽く見ると後で後悔するだろう。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
第一、第三水曜日は講師控室に三時半頃までいるので訪問は歓迎する。緊急の場合携帯090-8147-7689に、その他の場合はパソコンのribak@hera.eonet.ne.jpに連絡が可能だ。
■講義計画
会話文を読み・書き訳し、随時、講師と会話をする。ドリルを解く。

社会学入門（2003年度以降入学生）
社会学（2002年度以前入学生）

【担当】高橋　由典
【開講】前期　月1

■サブタイトル
社会学的行為論の講義を通して、社会学の基本的な考え方を身につける。

■講義概要
人間の社会的行為は社会学的認識の一つの焦点である。これまで社会学は行為についてさまざまな知見を蓄積してきた。本講義では、それらの諸学説を詳しく検討するとともに、とりわけ感情的行為の社会学的な意味を明らかにすることをめざす。感情と社会、感情と行為の関係を明らかにすることを通して、ウェーバーやデュルケーム以来確立されてきた社会学的なものの見方についての理解を深める。

■到達目標
感情と行為の関係を考えることを通して、現代社会の諸問題を観察・分析できるようになること。

■講義方法
できる限り経験的事象に言及しつつ、授業を進めたい。

■成績評価の方法
定期試験（100%） 講義全体の理解度を評価する。

■テキスト
高橋由典『行為論的思考－体験選択と社会学』ミネルヴァ書房　3500円

■参考文献
授業中に適宜指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言
意欲的に授業に参加すること。

■講義計画
①イントロダクション
②行為についての社会学的な見方
③デュルケームの方法
④ウェーバーの方法
⑤第3の方法
⑥具体例の提示
⑦行為の類型
⑧感情と行為
⑨体験選択とは何か
⑩体験選択の社会学的意味
⑪体験選択と社会的行為
⑫体験選択と開いた社会
⑬体験選択と現代社会
⑭体験選択価値について

社会学入門（2003年度以降入学生）
社会学（2002年度以前入学生）

【担当】高橋　由典
【開講】後期　月1

■サブタイトル
社会学的行為論の講義を通して、社会学の基本的な考え方を身につける。

■講義概要
人間の社会的行為は社会学的認識の一つの焦点である。これまで社会学は行為についてさまざまな知見を蓄積してきた。本講義では、それらの諸学説を詳しく検討するとともに、とりわけ感情的行為の社会学的な意味を明らかにすることをめざす。感情と社会、感情と行為の関係を明らかにすることを通して、ウェーバーやデュルケーム以来確立されてきた社会学的なものの見方についての理解を深める。

■到達目標
感情と行為の関係を考えることを通して、現代社会の諸問題を観察・分析できるようになること。

■講義方法
できる限り経験的事象に言及しつつ、授業を進めたい。

■成績評価の方法
定期試験（100%） 講義全体の理解度を評価する。

■テキスト
高橋由典『行為論的思考－体験選択と社会学』ミネルヴァ書房　3500円

■参考文献
授業中に適宜指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言
意欲的に授業に参加すること。

■講義計画
①イントロダクション
②行為についての社会学的な見方
③デュルケームの方法
④ウェーバーの方法
⑤第３の方法
⑥具体例の提示
⑦行為の類型
⑧感情と行為
⑨体験選択とは何か
⑩体験選択の社会学的意味
⑪体験選択と社会的行為
⑫体験選択と開いた社会
⑬体験選択と現代社会
⑭体験選択価値について

社会思想史入門

【担当】朝倉　恵俊
【開講】後期　水2

■サブタイトル
現代諸思想の思想史的背景
■講義概要
現代的諸思想が形成されてきた系譜を明瞭にしたい。どのように区分し選択するかは多様でありうるが、この講義では共同体的思考および近代的個人主義思考の背景となった認識論について紹介したい。具体的には、古典古代ギリシャ、古代インド仏教の認識説について紹介し、西欧啓蒙思想の意味を学ぶ。日本固有の歴史展開の中で先端的に発展し深められてきた側面、思考法などについても紹介したい。
■到達目標
現代社会思想に直結する重要な思想家たちについて学ぶことで、現代的諸事象に対する理解を深める。
■講義方法
板書。質問はどしどし出してください。
■成績評価の方法
期末テスト60 ～ 80%、平常点20 ～ 30%
■テキスト
特になし
■参考文献
授業中に指定します。
■講義計画
①始めに　－　前期の到達目標について
②共同体的思考の思想と認識説
　古典古代ギリシャ世界とプラトン
③宇宙との合一　原始仏教の思想
④中世的認識説
⑤啓蒙主義（時代）の認識論
⑥デカルト
⑦ホッブスの認識説
⑧J.ロックの認識論
⑨カントの認識論
⑩同（二）
⑪アダム　スミス
⑫ルソーの思想

社会思想史入門

【担当】朝倉　恵俊
【開講】前期　水2

■サブタイトル
現代諸思想の思想史的背景　－啓蒙主義への反省と歴史主義
的個性的認識論および現代社会批判
■講義概要
フランス革命後現れた実証主義、ドイツ歴史学派、ニヒリズム思想、フランクフルト学派の科学技術批判論、および、アメリカ認知科学について。特に、科学技術がもたらす功罪について考えたい。
■到達目標
現代社会思想に直結する諸思想を学んで現代的諸事象への理解を深める。
■講義方法
板書。テキスト使用など。
■成績評価の方法
期末テスト60 ～ 80%、平常点20 ～ 30%
■テキスト
特になし
■参考文献
朝倉惠俊『低周波音　心理の種々相』日本図書刊行会　900円
■講義計画
①始めに　－　後期の到達目標について
②実証主義
③進化論
④啓蒙主義への反省
⑤ヘーゲル
⑥歴史学派
⑦新カント派
⑧ニーチェとウエーバー
⑨意識の流れ説
⑩マルクス主義とフランクフルト学派
⑪同上
⑫認知科学論
⑬同上
⑭現象学と実存主義

心理学入門（2003年度以降入学生）
心理学（2002年度以前入学生）

【担当】関口　茂久
【開講】前期　月３

■サブタイトル
脳（Brain）と心（Mind）と行動（Behavior）

■講義概要
最近、「モーツァルト効果」が話題になっています。これは、モーツァルトの音楽を聴くと、誰もが安らいだ気分になって頭がスッキリする作用があるという事です。それでは、なぜモーツァルトの音楽を聴くと心が安らぎ頭がスッキリするのでしょうか？それは、音楽を聴くということは、耳だけで聞くのではなく、脳で聴くからなのです。音楽を聴いた脳は、「モーツァルトの音楽」を理解するだけでなく、モーツァルトが作曲した音楽が、他の音楽よりも特別に脳の中心部にある「情動の中枢」を刺激して「安らいだ気分」をもたらすからなのです。このように、心理学は心を脳の働きを通して表出する行動を科学的に解析する学問なのです。専門的には、心には認知、知覚、記憶と学習の働きがあり、それらの働きが基礎になって、考える自分や感情を表に出す自分とか言葉や意志を伝える自分があるのです。現代の心理学は、心を科学するための方法を多く編み出しました。それが、心理学的方法です。講義では、様々な心の働きを調べるための方法を解説します。

■到達目標
心が体とくに脳の成熟と密接に関係していることが分かります。また、様々な行動が対人関係や社会的状況によって現れることが理解できるようになるでしょう。

■講義方法
講義内容は、テキストをスライド編集して提示します。また、簡単な知覚検査と記憶検査を実施することによって、自分の心の働きを体験してみましょう。

■系統的履修
哲学と社会学に関する科目

■成績評価の方法
期末試験の成績（80％）とテーマについてのレポート（20％）により総合的に評価します。

■テキスト
関口茂久『心理学入門（改訂版）』ふくろう出版　2000円

■参考文献
参考書などは瀬田図書館に最新の心理学のテキストを用意しておきましたので参照してください。

■履修上の注意・担当者からの一言
心理学は応用範囲が広いので、基礎知識の理解が不可欠です。そのためには、心理学的概念を正確に憶えましょう。また、テキストは講義の参考資料ですから、授業に出席して講義内容を補充する必要があります。わからない点等は、講義終了時に質問時間を用意しておきますので、聞いてください。

■講義計画
①心理学には、多くの専門領域があります。授業は、各専門領域ごとのテーマ（テキストの各章のタイトル）に従って講義を進めます。
②私の心はどこにあるの？
③心をコントロールする脳神経系
④成熟する脳と行動発達
⑤心の窓と知覚
⑥学習する脳と行動
⑦記憶は「私」をつくる
⑧情に流される
⑨心の不調とケア
⑩共感する心
⑪コオロギズム：け高い献身愛
⑫心を測る：心理測定法
⑬まとめ

心理学入門（2003年度以降入学生）
心理学（2002年度以前入学生）

【担当】松島　恵介
【開講】前期　月１

■サブタイトル
心理学諸理論の体系的理解

■講義概要
心とは何かという問いを巡っては、古来様々な議論が重ねられてきた。心とは本質的に不確定な存在ではあるものの、心理学においては、ある種の分析的な思考によって導かれる概念であり、またあるときには、科学的な道具立てによって到達できる具体物でもある。従って、現在巷に氾濫するいわゆる心理ゲームの類は、学問としての心理学とは縁遠い存在であることを先ず認識して頂きたい。心理学において扱われる心とは、決して軽いエンターテイメントの対象になるようなものではない。心理なるものを科学的認識の俎上に載せるとはどういうことか、それはそもそも可能であるのか、不可能であるとすれば他にどういった方法論がありうるのか。本講義においては、こうした問題意識を核にしつつ、心理学のエッセンスを理解してもらう。

■到達目標
心理学諸理論の概略を把握できるとともに、伝統的心理学から現代心理学に至る軌跡について理解することができる。

■講義方法
口頭説明および板書を中心に講義を行うが、OHC、ビデオ等の視聴覚教材も用いる。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。

■系統的履修
人文・社会系分野の講義をひろく受講することが望ましい。

■成績評価の方法
定期試験（教科書・ノート他、一切持ち込み不可）・授業内レポート・授業外レポート・出席状況・出席態度、これら全てにおいて教員側が設定した規定以上の条件を満たした者にのみ単位を与える。評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績が良くても授業態度が悪い者に対しては、成績評価は極めて低くなる）。「楽勝科目」ではないので要注意。

■テキスト
必要に応じて資料を配布。

■参考文献
宝島編集部編『心理学・入門』宝島社
大橋ら著『心理学者、裁判と出会う』北大路書房
松島著『記憶の持続　自己の持続』金子書房

■履修上の注意・担当者からの一言
既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。
※当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。

■講義計画
①「心」概念とその認識の在り方を巡って
②科学的方法論と心理学との関係性
③心理学的測定論
④主観性／客観性という二元論を巡って
⑤モチベーションに関する諸理論
⑥行動主義の心理学
⑦条件付けと行動療法
⑧認知心理学概説
⑨神経心理学概説
⑩発達心理学概説
⑪臨床心理学概説
⑫フロイト／ユングの理論
⑬人格心理学概説
⑭社会性と自己との関係性を巡って

心理学入門（2003年度以降入学生）
心理学（2002年度以前入学生）

【担当】松島　恵介
【開講】後期　月1

■サブタイトル
心理学諸理論の体系的理解

■講義概要
心とは何かという問いを巡っては、古来様々な議論が重ねられてきた。心とは本質的に不確定な存在ではあるものの、心理学においては、ある種の分析的な思考によって導かれる概念であり、またあるときには、科学的な道具立てによって到達できる具体物でもある。従って、現在巷に氾濫するいわゆる心理ゲームの類は、学問としての心理学とは縁遠い存在であることを先ず認識して頂きたい。心理学において扱われる心とは、決して軽いエンターテイメントの対象になるようなものではない。心理なるものを科学的認識の俎上に載せるとはどういうことか、それはそもそも可能であるのか、不可能であるとすれば他にどういった方法論がありうるのか。本講義においては、こうした問題意識を核にしつつ、心理学のエッセンスを理解してもらう。

■到達目標
心理学諸理論の概略を把握できるとともに、伝統的心理学から現代心理学に至る軌跡について理解することができる。

■講義方法
口頭説明および板書を中心に講義を行うが、OHC、ビデオ等の視聴覚教材も用いる。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。

■系統的履修
人文・社会系分野の講義をひろく受講することが望ましい。

■成績評価の方法
定期試験（教科書・ノート他、一切持ち込み不可）・授業内レポート・授業外レポート・出席状況・出席態度、これら全てにおいて教員側が設定した規定以上の条件を満たした者にのみ単位を与える。評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績が良くても授業態度が悪い者に対しては、成績評価は極めて低くなる）。「楽勝科目」ではないので要注意。

■テキスト
必要に応じて資料を配布。

■参考文献
宝島編集部編『心理学・入門』宝島社
大橋ら著『心理学者、裁判と出会う』北大路書房
松島著『記憶の持続　自己の持続』金子書房

■履修上の注意・担当者からの一言
既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。
※当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。

■講義計画
①「心」概念とその認識の在り方を巡って
②科学的方法論と心理学との関係性
③心理学的測定論
④主観性／客観性という二元論を巡って
⑤モチベーションに関する諸理論
⑥行動主義の心理学
⑦条件付けと行動療法
⑧認知心理学概説
⑨神経心理学概説
⑩発達心理学概説
⑪臨床心理学概説
⑫フロイト／ユングの理論
⑬人格心理学概説
⑭社会性と自己との関係性を巡って

スポーツ技術学A

【担当】種目・開講曜講時による
【開講】学科により異なる

■講義概要
現代人の身体運動は交通手段の発達や技術革新などによってますます低下している。身体運動の低下は、筋力の低下、体脂肪率の増大を引き起こし、社会問題のひとつである生活習慣病の一因にもなっている。また、スポーツや身体活動は、達成感や充実感、ストレス解消などの効果を持つが、運動やスポーツに参加する人は年々減少している。このような背景から、我が国では日常生活での運動の習慣化が求められている。本授業では、スポーツを習慣化するためのファーストステップとして、以下の内容を展開する。
1）スポーツの本質に迫り、独自の面白さを認識する。
2）スポーツの本質との関連でスポーツ技術を系統的に獲得する。
3）自己の体力を分析し、改善策を探る。
スポーツ技術学は、一年次の履修で、前・後期の2種目のスポーツを行う。

■到達目標
1.スポーツを自主的・集団的に実践できる力量が高まる。
2.自己の体力を客観的に分析できる能力が養われる。

■講義方法
より効果的にスポーツ技術の獲得を目指すため、板書、資料配布、視聴覚機器を利用する。スポーツ技術学履修について、
1）1年次配当必修で、前期1単位、後期1単位、計2単位を修得する（どちらか不認定になった場合は次年度再履修する）。
2）ソフトボール、卓球、バスケットボール、テニス、ミニサッカー、ニュースポーツの6種目の中から指定された種目を履修する。
3）登録方法は、①教学部（瀬田教学）への登録②たて3cmよこ2.5cmの写真（出席カード用）2枚を準備し、最初の授業時間（体育館メインフロア）に持参する。なお最初の授業時にはトレーニングウエアは不要である。

■成績評価の方法
平常点（70%）　出席と授業参加
レポート（30%）
体力測定に関するレポート
各学期のスポーツ活動に対する積極的な態度を重視することと、スポーツテスト、出席状況、レポート等で評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
スポーツ技術学を履修するにあたって、積極的な態度で取り組んでくれることを期待する。

■講義計画
①オリエンテーション（体育館メインフロア、更衣の必要なし）
②体力測定
③各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
④各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑤各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑥各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑦各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑧各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑨各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑩各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑪各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑫各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑬各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑭各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑮各種スポーツ活動とまとめ（詳細については、講義時に指示）

スポーツ技術学Ｂ

【担当】種目・開講曜講時による
【開講】学科により異なる

■講義概要
現代人の身体運動は交通手段の発達や技術革新などによってますます低下している。身体運動の低下は、筋力の低下、体脂肪率の増大を引き起こし、社会問題のひとつである生活習慣病の一因にもなっている。また、スポーツや身体活動は、達成感や充実感、ストレス解消などの効果を持つが、運動やスポーツに参加する人は年々減少している。このような背景から、我が国では日常生活での運動の習慣化が求められている。本授業では、スポーツを習慣化するためのファーストステップとして、以下の内容を展開する。
1）スポーツの本質に迫り、独自の面白さを認識する。
2）スポーツの本質との関連でスポーツ技術を系統的に獲得する。
3）自己の体力を分析し、改善策を探る。
スポーツ技術学は、一年次の履修で、前・後期の2種目のスポーツを行う。

■到達目標
1.スポーツを自主的・集団的に実践できる力量が高まる。
2.自己の体力を客観的に分析できる能力が養われる。

■講義方法
より効果的にスポーツ技術の獲得を目指すため､板書､資料配布､視聴覚機器を利用する。スポーツ技術学履修について、
1）1年次配当必修で、前期1単位、後期1単位、計2単位を修得する（どちらか不認定になった場合は次年度再履修する）。
2)ソフトボール､卓球､バスケットボール､テニス､ミニサッカー､ニュースポーツの6種目の中から指定された種目を履修する。
3）登録方法は､①教学部（瀬田教学）への登録②たて3㎝よこ2.5㎝の写真（出席カード用）2枚を準備し、最初の授業時間（体育館メインフロア）に持参する。なお最初の授業時にはトレーニングウエアは不要である。

■成績評価の方法
平常点（70%） 出席と授業参加
レポート（30%）
体力測定に関するレポート
各学期のスポーツ活動に対する積極的な態度を重視することと、スポーツテスト、出席状況、レポート等で評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
スポーツ技術学を履修するにあたって、積極的な態度で取り組んでくれることを期待する。

■講義計画
①オリエンテーション（体育館メインフロア､更衣の必要なし）
②体力測定
③各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
④各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑤各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑥各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑦各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑧各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑨各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑩各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑪各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑫各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑬各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑭各種スポーツ活動（詳細については、講義時に指示）
⑮各種スポーツ活動とまとめ（詳細については､講義時に指示）

生活の中の数学

【担当】大西　俊弘
【開講】前期　水３

■サブタイトル
日常生活の中の数学的な原理を探る

■講義概要
普段の生活の中にも,「あれっ」と思うことや､「どうして」と思うことが多くあります。
また､自然界や日常品の形にも､数学的な原理が潜んでいます。それらの中には、難しい数学を使わなくても、その不思議な世界の舞台裏を垣間見ることができるテーマが数多くあります。毎回、日常生活に見られるいくつかの事象を紹介し、その数学的な原理を考えていきます。

■到達目標
論理的に考えられるようになる。
日常生活の中で「なぜ」や「どうして」と自然に考えられるようになる。

■講義方法
PowerPointを用いて講義を行います。
授業中にマイクを回して、学生の考えを聞きます。
ときどき、数学的な紙工作を行うので、ハサミと定規は毎回持参して下さい。

■成績評価の方法
平常点（40%） 出席点と毎回のコメント用紙の内容を元に評価します。
小テスト（60%） ２～３回に分けて、授業時間中に小テストを行います。
特別な理由なしに3回以上欠席した場合は、原則として単位を認定しません。
会社訪問等の就職活動は特別な理由に該当しないので、注意をしてください。

■テキスト
特になし

■参考文献
上村文隆『生き物たちのエレガントな数学』技術評論社 1580円
他の文献は講義の中で連絡します。

■履修上の注意・担当者からの一言
諸君を眠らせることのない、面白く楽しい授業を目指します。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワーは、木曜日の３・４講時（但し、6月は出張が多く不在がちです）
連絡方法はメールにて（メールアドレスは最初の講義で連絡します）

■講義計画
①コピー用紙の数理
②絵画や建築に潜む数理
③自然界と数列の関係
④単純計算と図形の不思議な関係
⑤自然界の造形の数理
⑥無限の不思議
⑦折り紙の数理（１）
⑧折り紙の数理（２）
⑨貯金・ローン・ネズミ講の数理
⑩最短経路問題
⑪暗号の数理
⑫宝くじの数理
⑬平均値だけで判断していませんか？
⑭勝負に勝つ意志決定の方法

生活の中の統計技術（2003年度以降入学生）
社会統計学Ａ（2000～2002年度入学生）

【担当】阪井　一繁
【開講】前期　月３

■講義概要
多数のデータを数学的に調べる「統計」をテーマに、基礎的な概念、計算手法を解説します。文系・理系に限らず、いろいろな場面で耳にするこの「統計」ですが、数学の話だから難しそう、と敬遠していると、いわゆる「数字のトリック」でだまされたり、損をしたりすることになるかも知れません。この講義では、あまり難しい数学は使わないようにしながら（とりあえずは中学校レベルの数学から）、統計の本質に迫ります。

■到達目標
統計学の基本的な知識と計算力を身につける。

■講義方法
いろいろな例題を示し、それを解きながら基本事項を解説していきます。要点はプリントにまとめて配布する予定です。

■系統的履修
特になし。

■成績評価の方法
小テスト（20%）　講義の進行状況を考慮して１、２回行う予定です。
定期試験（80%）

■テキスト
特になし

■参考文献
水野　恭之『看護学系の統計入門』培風館　1365円
山田　覚『医療・看護のためのやさしい統計学　基礎編』東京出版　2940円
最初のものは昨年度までの教科書です。しかし、今年度は教科書は使わずに、プリントでいろいろな話題を提供したいと考えています。

■履修上の注意・担当者からの一言
特に予備知識は必要としませんが、講義への積極的な取り組みを怠ると遅れを取り戻すことは困難になります。なるべく楽しい講義になるよう工夫をするので、受講生のみなさんも流れに「乗って」きてください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワーを水曜日の午後に設ける予定です。質問などがあればその時間に部屋にきてください（ただし、会議等で休止の場合もあります）。

■講義計画
①統計とは何か？
②度数分布からわかること
③平均・分散・標準偏差の計算
④二つのデータの関係を調べる
⑤相関・回帰直線と最小２乗法
⑥確率分布とは？
⑦代表的な確率分布
⑧標本と母集団
⑨推定の考え方
⑩推定量の計算
⑪検定の考え方
⑫平均の検定
⑬適合度の検定
⑭全体の復習

生活の中の物理

【担当】宮下　豊勝
【開講】後期　月１

■サブタイトル
身の回りの物理と科学技術

■講義概要
身の回りの科学技術に限っても、その進歩は著しく、益々高度になると共に複雑になり、その仕組みを理解して使うことは益々難しくなっている。それ故に、その基本的な仕組みを知って、正しく使うと共に、人類の将来に貢献する科学技術の推進のさせ方がより強く求められている。
　この講義では、誰もが恩恵に浴している科学技術に使われている物理的仕組みを、身の回りの物理現象に注目することから、平易に理解することを目的としている。毎回、話題を一つ取り上げ、または同じ話題を２回に分割して、可能な限り簡単な講義実験をして見せたり、ビジュアルな資料提示の手段を採り入れたりすることにより、その物理的仕組みについて視覚的ならびに聴覚的に把握することを追求する。

■到達目標
身の回りの物理現象ならびに科学技術の仕組みと理屈に強く関心を持つようになる。同時に、物理は数少ない基本法則から、論理的に物理現象を解明したり説明したりすること、さらに応用として人に役立つ便利で確実に動作する機械を作るところに特長があるとわかることが講義目標とも言える。

■講義方法
授業計画に示すように、毎回または２回で一つのテーマについて、身の回りの自然としての物理現象または科学技術としての物理学の応用例について、可能な限り実験をとおして、またビジュアルな手段を用いて視覚に訴えて、疑似体験的に把握することを目指した授業を行う。

■系統的履修
一般に物理関係の科目を関連して受講すると効果的である。

■成績評価の方法
平常点（100%）　講義を頭と耳と目を使って聴いているか、さらに講義内容を理解しているかを問う小テストにより評価する。原則として毎回実施する。
平常点を小テストで評価することの意味をよく認識してください。講義を聴いて考えているか努力しているか、その度合い、即ち平常点を、小テストで調べます。従って、問いに対して講義内容を用いて自分の言葉で回答してはじめて評価されます。理由が何であれ、講義を聴いていないのですから、遅刻者は小テストを受ける資格はありません。注意する必要はないと思いますが、代筆等の不正行為に対しては関係した者全員が不合格になります。

■テキスト
講義において、主としてPowerPointにより示す内容、教壇で見せる実験内容、さらに他のマルチメディアを使って示す内容

■参考文献
広く科学分野の出版物、書籍から科学雑誌、大手の新聞の科学欄の記事に関心を持って読んでください。

■履修上の注意・担当者からの一言
出席しても、耳を貸すだけでは修得できません。教壇で説明していることをしっかり見ながら聞くことが必須です。さらに、その場で考えることが要求されます。また、理解した内容を、説明に適した簡単なスケッチ図やグラフを添えて、的確な文章で表現する努力が評価されます。なお、高等学校で物理を学んでいることを前提にすることはありません。講義の時間に学ぶ基本概念と法則から理解ができるはずと考えてください。勿論、そのためには小中学校で教わった物理と算数と、大学生レベルの日本語と、勉学の努力は前提になります。さらに、成績評価の方法の項に記載した内容に注意してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
理工学部のホームページから教員の週間予定を参照して、１号館４階４１１室に直接訪ねてください。不定期的な学会出張時の不在は、入り口の行き先表示を「出張」にしています。

■講義計画
①宇治川の３水力発電所と落差、機械的エネルギーの電気的エネルギーへの変換
②琵琶湖疎水と３水力発電所
③電気エネルギーの基礎、電球と電車の歴史
④山科と瀬田間に見る電車への電力供給の仕方
⑤初期の映画に見る科学技術化社会
⑥楽音の周波数の規則、音階、和音
⑦音楽の三要素、リズムの規則
⑧聞こえる音と聞こえない音、音で距離を測る
⑨各種のドライバーに見る「てこ」の原理、力と仕事
⑩「てこ」の原理
⑪身の回りの電磁誘導：電磁調理器から電子乗車券まで
⑫アンテナから電波が出る仕組み、マルコーニと八木秀次の業績
⑬表面反射における偏波、池の中を見通す仕組み
⑭エコ住宅の技術

政治学入門（2003年度以降入学生）
政治学（2002年度以前入学生）

【担当】山崎　充彦
【開講】前期　木3

■サブタイトル

議会制と選挙制度、その歴史と現実

■講義概要

今日、我が国の議会制度は、「熱狂」と「無関心」という相反する問題点を抱えている。今は昔となったとはいえ、「小泉劇場」と称され、いわゆる「小泉チルドレン」（幼稚な名称だが）なるものを生み出した「大衆的熱狂」と、反面、低投票率に象徴される「政治的無関心」とが同時進行の状態にある。

「小泉劇場」に熱狂しつつも、同時に、国会の現状に失望感と幻滅を抱く国民は少なくない。だが、我々国民を失望させている国会議員たちを選び出したのは他ならぬ、我々国民自身であるという点も忘れてはならない。 「一国の政治の現状は、その国民のレヴェルを如実に反映する」、「国民の知的レヴェルを超えた政治など持ち得ない」、としばしば指摘される。つまり、失望させられる政治像・政治家像もまた、我々自身の姿という面を否定できないのである。選挙期間中に性犯罪を犯し、後にそれに因り辞職し有罪判決を受けた破廉恥なタレントに200万を超える票を投じ、知事の座につけたのは誰であったのか、考えてみられたい。「国会で所信表明演説を行った直後に辞意表明するようなお粗末な総理大臣」、「マンガのみを愛読し、中学生程度の漢字読解力すら欠如した総理大臣」を選んだのはどこの国の国会議員たちであったのか、その国会議員を選んだのは誰であったのか！

この講義では、現代民主主義にとって不可欠な制度となった議会制を主たる対象とし、議会制にとって不可欠な制度である選挙制度の原理や歴史、そして現代日本の政治の現状について考える。

■到達目標

我が国の主権者たる国民は、本人の専攻・社会的立場に関わりなく選挙に際して等しく1票を有する。そうした国民有権者が、政治に参加するに際して最小限知っておくべき知識・判断規準の伝授を目標とする。

■講義方法

通常の講義（口述）形式で行う。講義で話したことを、各自、頭で整理しつつノートをとってもらいたい。高校の授業とは違って、講義内容のすべてを板書するわけではないことに留意されたい。

尚、シラバスは一つの目安であり、必要に応じて入れ替えなど、状況によって最適と思われる形で講義を運営する方針であることを事前了解してもらいたい。

■系統的履修

法学入門、日本国憲法など

■成績評価の方法

定期試験（100%） 論述式試験。

例年、受講生多数につき、出席調査などは不可能である。従って、出席点加算や講義中の小テスト、レポート提出などは一切行わない。

■テキスト

特になし

■参考文献

必要に応じて、講義中に紹介する。但し、「これ1冊ですべて理解可能」といったような安直な本など存在しないことに留意されたい。

■履修上の注意・担当者からの一言

私語、居眠り、マンガなどを読むことなど絶対厳禁。携帯電話・メールの使用も絶対に認めない。教壇上から見渡せば、使用している姿は一目瞭然であり、注意を受ける前にあらかじめ電源を切っておくこと。 態度の悪い者には、退室を命じることもあるので、あらかじめ留意の上、登録履修されたい。

■講義計画

①はじめに　～講義内容の説明・講義方針と「諸注意事項」の伝達
②議会制や選挙制度の基本原理、さまざまな矛盾点など
③参議院の選挙制度①～過去：全国区
④参議院の選挙制度②～過去：拘束名簿式比例代表制
⑤参議院の選挙制度③～現在：非拘束名簿式比例代表制
⑥衆議院の選挙制度①～過去：中選挙区制
⑦衆議院の選挙制度②～現在：小選挙区比例代表並立制
⑧戦後日本の政治体制～「五五年体制」の成立とその意味
⑨「五五年体制」の実態
⑩「五五年体制」の功罪～自民党長期政権の光と影
⑪「五五年体制」の崩壊と連立政権時代の到来
⑫「連立政権」の意味、功罪など
⑬衆参両院のいわゆる「ねじれ」状態について
⑭まとめ－現代日本政治の諸問題

政治学入門（2003年度以降入学生）
政治学（2002年度以前入学生）

【担当】山崎　充彦
【開講】後期　木3

■サブタイトル
議会制と選挙制度、その歴史と現実

■講義概要
今日、我が国の議会制度は、「熱狂」と「無関心」という相反する問題点を抱えている。今は昔となったとはいえ、「小泉劇場」と称され、いわゆる「小泉チルドレン」（幼稚な名称だが）なるものを生み出した「大衆的熱狂」と、反面、低投票率に象徴される「政治的無関心」とが同時進行の状態にある。
「小泉劇場」に熱狂しつつも、同時に、国会の現状に失望感と幻滅を抱く国民は少なくない。だが、我々国民を失望させている国会議員たちを選び出したのは他ならぬ、我々国民自身であるという点も忘れてはならない。「一国の政治の現状は、その国民のレヴェルを如実に反映する」、「国民の知的レヴェルを超えた政治など持ち得ない」、としばしば指摘される。つまり、失望させられる政治像・政治家像もまた、我々自身の姿という面を否定できないのである。選挙期間中に性犯罪を犯し、後にそれに因り辞職し有罪判決を受けた破廉恥なタレントに200万を超える票を投じ、知事の座につけたのは誰であったのか、考えてみられたい。「国会で所信表明演説を行った直後に辞意表明するようなお粗末な総理大臣」、「マンガのみを愛読し、中学生程度の漢字読解力すら欠如した総理大臣」を選んだのはどこの国の国会議員たちであったのか、その国会議員を選んだのは誰であったのか！
この講義では、現代民主主義にとって不可欠な制度となった議会制を主たる対象とし、議会制にとって不可欠な制度である選挙制度の原理や歴史、そして現代日本の政治の現状について考える。

■到達目標
我が国の主権者たる国民は、本人の専攻・社会的立場に関わりなく選挙に際して等しく1票を有する。そうした国民有権者が、政治に参加するに際して最小限知っておくべき知識・判断規準の伝授を目標とする。

■講義方法
通常の講義（口述）形式で行う。講義で話したことを、各自、頭で整理しつつノートをとってもらいたい。高校の授業とは違って、講義内容のすべてを板書するわけではないことに留意されたい。
尚、シラバスは一つの目安であり、必要に応じて入れ替えなど、状況によって最適と思われる形で講義を運営する方針であることを事前了解してもらいたい。

■系統的履修
法学入門、日本国憲法など

■成績評価の方法
定期試験（100%）　論述式試験
例年、受講生多数につき、出席調査などは不可能である。従って、出席点加算や講義中の小テスト、レポート提出などは一切行わない。

■テキスト
特になし

■参考文献
必要に応じて、講義中に紹介する。但し、「これ1冊ですべて理解可能」といったような安直な本など存在しないことに留意されたい。

■履修上の注意・担当者からの一言
私語、居眠り、マンガなどを読むことなど絶対厳禁。携帯電話・メールの使用も絶対に認めない。教壇上から見渡せば、使用している姿は一目瞭然であり、注意を受ける前にあらかじめ電源を切っておくこと。　態度の悪い者には、退室を命じることもあるので、あらかじめ留意の上、登録履修されたい。

■講義計画
①はじめに　～講義内容の説明・講義方針と「諸注意事項」の伝達
②議会制や選挙制度の基本原理、さまざまな矛盾点など
③参議院の選挙制度①～過去：全国区
④参議院の選挙制度②～過去：拘束名簿式比例代表制
⑤参議院の選挙制度③～現在：非拘束名簿式比例代表制
⑥衆議院の選挙制度①～過去：中選挙区制
⑦衆議院の選挙制度②～現在：小選挙区比例代表並立制
⑧戦後日本の政治体制～「五五年体制」の成立とその意味
⑨「五五年体制」の実態
⑩「五五年体制」の功罪～自民党長期政権の光と影
⑪「五五年体制」の崩壊と連立政権時代の到来
⑫「連立政権」の意味、功罪など
⑬衆参両院のいわゆる「ねじれ」状態について
⑭まとめ－現代日本政治の諸問題

生命と科学

【担当】宮武　智弘
【開講】前期　金１

■講義概要
生体の中に含まれる様々な化学物質は生命活動において重要な役割を果たしている。私たちはそれら生体物質の構造と機能を理解し生活の向上のために巧みに利用しており、物質生産や医療など様々な分野で生体に由来する材料が利用されている。一方で、こうした分子生物学の進歩はクローン技術など生命倫理に関わる問題も引き起こしている。本講義では生体内で活躍している分子のすがたを解説し、それらと私たちの生活との関わりについても紹介したい。

■到達目標
生体物質についての知識を得ることによって、それらが私たちの生活に与える影響について考えることができるようになる。

■講義方法
参考書の内容に準じながら、適時資料を配布する。

■成績評価の方法
レポート（20%）・定期試験（80%）

■テキスト
特になし

■参考文献
柳田充弘, 佐藤文彦, 石川冬木編『生命科学』東京化学同人
2400円

■履修上の注意・担当者からの一言
生体に含まれる化学物質は複雑なものが多いが、できるだけ平易に説明するよう努めたい。よって、高校や大学で化学を履修していなくとも、生物に興味がある学生の受講を薦める。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
研究室　瀬田学舎　１号館２０７号室
オフィスアワー　（月）４講時、（木）４講時

■講義計画
①生命と化学物質
②生命科学と私たちの生活
③アミノ酸とタンパク質
④タンパク質のはたらき
⑤酵素のはたらき
⑥遺伝子とDNA
⑦遺伝情報の伝達
⑧細胞と生殖
⑨バイオテクノロジー
⑩脂質と脂肪
⑪糖質の科学
⑫生命科学と環境
⑬光合成と生命のエネルギー
⑭まとめ

中国語ＩＡ

【担当】張　健同
【開講】前期　月１

■講義概要
中国語ＩＡは初めて中国語を学ぶ人を対象に基礎から学びます。中国語を学ぶためには発音記号に相当する「ピンイン」を先に学ぶことになります。中国語の発音の中には日本語にない発音も数多く含まれていますので、それを徹底的に練習することになります。発音の学習のほかに、中国語の文の構造を説明しながら簡単な会話も学びます。

■到達目標
中国語習得に必ず必要な発音、文の構造、簡単な日常会話を身につけることになります。

■講義方法
講義毎にテーマを設定、会話の場をつくります。二人一組となって練習し、先生と会話する場合もありますが、その都度、先生は学習者の発音の誤りや表現をなおします。

■系統的履修
中国語ＩＢ、ＩＣとＩＤ及び中国語セミナー

■成績評価の方法
宿題、授業態度、出席及び期末テストの結果を総合して評価します。

■テキスト
竹山相哲［ほか］共著『基礎コース中国語』晃洋書房

■参考文献
※授業中に紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言
外国語の学習に近道はありませんが、自分に適した方法はあるはず。それを見つけましょう。

■講義計画
講義時に指示します。

中国語ＩＡ

【担当】李　愛華
【開講】前期　水３

■講義概要
中国語ＩＡは初めて中国語を学ぶ人を対象に基礎から学びます。中国語を学ぶためには発音記号に相当する「ピンイン」を先に学ぶことになります。中国語の発音の中には日本語にない発音も数多く含まれていますので、それを徹底的に練習することになります。発音の学習のほかに、中国語の文の構造を説明しながら簡単な会話も学びます。

■到達目標
中国語習得に必ず必要な発音、文の構造、簡単な日常会話を身につけることになります

■講義方法
講義毎にテーマを設定、会話の場をつくります。二人一組となって練習し、先生と会話する場合もありますが、その都度、先生は学習者の発音の誤りや表現をなおします。

■系統的履修
中国語ＩＢ、ＩＣとＩＤ及び中国語セミナー

■成績評価の方法
平常点（10%）・小テスト（40%）・定期試験（50%）

■テキスト
竹山相哲［ほか］共著『基礎コース中国語』晃洋書房

■参考文献
授業中に紹介します

■履修上の注意・担当者からの一言
外国語の学習に近道はありませんが、自分に適した方法はあるはず。それを見つけましょう。

■講義計画
①中国語について
②単母音と四声
③子音
④復母音
⑤第１課
⑥第２課
⑦第３課
⑧第４課
⑨第５課
⑩第６課
⑪第７課
⑫第８課
⑬第９課
⑭第１０課
⑮テスト

中国語ＩＢ

【担当】張　健同
【開講】後期　月１

■講義概要
中国語ＩＢは、中国語ＩＡを学習した人、それ相応のレベルの中国語を学んだ受講生を対象にする講義です。文の構造を学び、日常会話の練習も行いますが、発音の練習も続けます。中国語の基本（発音、単語、基礎文法）を身につけるための訓練として会話の量を増やし、中国語に対する理解を深めるための背景知識も学びます。

■到達目標
ピンイン表記の中国語が読め、学んだ日常会話は流暢に話せることを目標にします。

■講義方法
講義毎にテーマを設定、会話の場をつくります。講義時に提示するテーマについて皆で話すこともあります。

■系統的履修
中国語ＩＡ、ＩＣとＩＤ及び中国語セミナー

■成績評価の方法
宿題、授業態度、出席及び期末テストの結果を総合して評価します。

■テキスト
竹山相哲［ほか］共著『基礎コース中国語』晃洋書房

■参考文献
※授業中に提示します。

■履修上の注意・担当者からの一言
外国語の学習に近道はありませんが、自分に適した方法はあるはず。それを見つけましょう。

■講義計画
講義時に指示します。

中国語ＩＢ

【担当】李　愛華
【開講】後期　水３

■講義概要
中国語ＩＢは、中国語ＩＡを学習した人、それ相応のレベルの中国語を学んだ受講生を対象にする講義です。文の構造を学び、日常会話の練習も行いますが、発音の練習も続けます。中国語の基本（発音、単語、基礎文法）を身につけるための訓練として会話の量を増やし、中国語に対する理解を深めるための背景知識も学びます。

■到達目標
ピンイン表記の中国語が読め、学んだ日常会話は流暢に話せることを目標にします。

■講義方法
講義毎にテーマを設定、会話の場をつくります。講義時に提示するテーマについて皆で話すこともあります。

■系統的履修
中国語ＩＡ、ＩＣとＩＤ及び中国語セミナー

■成績評価の方法
平常点（10%）・小テスト（40%）・定期試験（50%）

■テキスト
竹山相哲『基礎コース中国語』晃洋書房

■参考文献
授業中に紹介します

■履修上の注意・担当者からの一言
外国語の学習に近道はありませんが、自分に適した方法はあるはず。それを見つけましょう。

■講義計画
①第11課
②第12課
③第13課
④第14課
⑤第15課
⑥第16課
⑦第17課
⑧復習
⑨第18課
⑩第19課
⑪第20課
⑫第21課
⑬第22課
⑭復習
⑮テスト

中国語ＩＣ（2003年度以降入学生）
中国語ⅡＡ（2000～2002年度入学生）

【担当】韓　正愛
【開講】前期　水３

■サブタイトル
基礎中国語

■講義概要
初めて中国語を学ぶ学生を対象とします。ローマ字を使った発音表記（ピンインといいます）の読み方を習得し、あいさつや簡単な会話文を学びます。

■到達目標
中国語らしく、スムーズに発音できるようにします。

■講義方法
教科書に沿って授業を進めていきます。また、正しい発音に従って会話を展開します。

■系統的履修
中国語ＩＤ

■成績評価の方法
平常点（20%）　出席、宿題
小テスト（20%）
定期試験（60%）

■テキスト
竹山相哲[ほか]共著『基礎コース中国語』晃洋書房　1800円

■参考文献
特になし

■講義計画
①発音　母音
②発音　母音
③発音　子音
④第一課　本文
⑤第一課　練習問題
⑥第二課　本文
⑦第二課　練習問題
⑧第三課　本文
⑨第三課　練習問題
⑩第四課　本文
⑪第四課　練習問題
⑫第五課　本文
⑬第五課　練習問題
⑭まとめ　復習

中国語ＩＣ（2003年度以降入学生）
中国語ⅡＡ（2000～2002年度入学生）

【担当】韓　正愛
【開講】前期　水４

■サブタイトル
基礎中国語
■講義概要
初めて中国語を学ぶ学生を対象とします。ローマ字を使った発音表記（ピンインといいます）の読み方を習得し、あいさつや簡単な会話文を学びます。
■到達目標
中国語らしく、スムーズに発音できるようにします。
■講義方法
教科書に沿って授業を進めていきます。また、正しい発音に従って会話を展開します。
■系統的履修
中国語ＩＤ
■成績評価の方法
平常点（20%）　出席、宿題
小テスト（20%）
定期試験（60%）
■テキスト
竹山相哲[ほか]共著『基礎コース中国語』晃洋書房　1800円
■参考文献
特になし
■講義計画
①発音　母音
②発音　母音
③発音　子音
④第一課　本文
⑤第一課　練習問題
⑥第二課　本文
⑦第二課　練習問題
⑧第三課　本文
⑨第三課　練習問題
⑩第四課　本文
⑪第四課　練習問題
⑫第五課　本文
⑬第五課　練習問題
⑭まとめ　復習

中国語ＩＣ（2003年度以降入学生）
中国語ⅡＡ（2000～2002年度入学生）

【担当】張　健同
【開講】前期　水３

■講義概要
中国語ＩＣは、はじめて中国語を学ぶ人を対象に、中国語を基礎から学ぶコースです。まず、中国語の発音記号であるピンインの発音と表記方法、それから簡単な日常会話および基本的な語法を教えます。授業は「読む、書く」に重点を置いて、日常の基本的なコミュニケーションができる段階まで学習します。《語法ルール66》という教材を使います。それにより基本的な文法を身につけ、今後、引き続き中国語を勉強する基盤となるでしょう。
■到達目標
正しい中国語の発音を身につけ、ピンインが正確に読み書きできるようにし、また初級中国語文法と基本的なコミュニケーション能力を養います。
■講義方法
繰り返し発音の練習をし、受講者を指名して会話練習をさせます。また、練習問題をチェックします。
■成績評価の方法
宿題（10%）、授業態度（10%）、出席（10%）、学期末の試験結果（70%）合計100点満点で評価します。
■テキスト
相原茂、玄宜青『語法ルール66（漢語精粋）』朝日出版社　1800円
■参考文献
参考書および辞書については、授業中に説明します。
■履修上の注意・担当者からの一言
中国語は日本人にとって漢字を使っている点で親しみやすく勉強しやすい外国語ですが、外国語であることに違いはありません。短期間で一定レベルまで習得するためには、反復練習が不可欠です。利用できる時間は極力利用して、解るまで繰り返しCDを聴き、復誦してみるようにしてください。　学生のみなさんには積極的に勉強し、分らないところがあれば、すぐに質問するという学習態度を望みます。
■講義計画
①発音1
②発音2
③発音3
④第一課：1、人称代詞；2、“是”；3、“不是”；4、副詞“也”“都”“不”
⑤第二課：5､指示代詞－中国語の「こそあど」;6､“吗”疑問文;7、反復疑問文
⑥第三課：8、形容詞文；9、“很”；10、形容詞の否定；11、形容詞疑問文
⑦第四課：12、“的”（日本語の「の」）；13、“的”後の名詞省略；14、親族呼称；15、“的”が省略される条件
⑧第五課：16、前置詞“在”；17、いくつかの疑問詞；18、疑問詞疑問文
⑨第六課：19、数の数え方；20、年月日、曜日の言い方；21、疑問詞“儿”；22、“呢”
⑩第七課：23、モノを数える；24、“有”（動詞「もつ」）；25、“二”と“两”
⑪第八課：26､“有”（動詞「ある／いる」）;27､“在”（動詞「ある／いる」）；28、“什么地方”
⑫第九課：29、“怎么”；30、“为什么”；31、“这么”と“那么”
⑬まとめ

中国語ＩＣ（2003年度以降入学生）
中国語ⅡＡ（2000～2002年度入学生）

【担当】張　健同
【開講】前期　水４

■講義概要
中国語ＩＣは、はじめて中国語を学ぶ人を対象に、中国語を基礎から学ぶコースです。まず、中国語の発音記号であるピンインの発音と表記方法、それから簡単な日常会話および基本的な語法を教えます。授業は「読む、書く」に重点を置いて、日常の基本的なコミュニケーションができる段階まで学習します。《語法ルール66》という教材を使います。それにより基本的な文法を身につけ、今後、引き続き中国語を勉強する基盤となるでしょう。

■到達目標
正しい中国語の発音を身につけ、ピンインが正確に読み書きできるようにし、また初級中国語文法と基本的なコミュニケーション能力を養います。

■講義方法
繰り返し発音の練習をし、受講者を指名して会話練習をさせます。また、練習問題をチェックします。

■成績評価の方法
宿題（10%）、授業態度（10%）、出席（10%）、学期末の試験結果（70%）合計100点満点で評価します。

■テキスト
相原茂、玄宜青『語法ルール66（漢語精粋)』朝日出版社　1800円

■参考文献
参考書および辞書については、授業中に説明します。

■履修上の注意・担当者からの一言
中国語は日本人にとって漢字を使っている点で親しみやすく勉強しやすい外国語ですが、外国語であることに違いはありません。短期間で一定レベルまで習得するためには、反復練習が不可欠です。利用できる時間は極力利用して、解るまで繰り返しCDを聴き、復誦してみるようにしてください。　学生のみなさんには積極的に勉強し、分らないところがあれば、すぐに質問するという学習態度を望みます。

■講義計画
①発音1
②発音2
③発音3
④第一課：1、人称代詞；2、“是”；3、“不是”；4、副詞“也”“都”“不”
⑤第二課：5､指示代詞－中国語の「こそあど」;6､“吗”疑問文;7、反復疑問文
⑥第三課：8、形容詞文；9、“很”；10、形容詞の否定；11、形容詞疑問文
⑦第四課：12、“的”（日本語の「の」）；13、“的”後の名詞省略；14、親族呼称；15、“的”が省略される条件
⑧第五課：16、前置詞“在”；17、いくつかの疑問詞；18、疑問詞疑問文
⑨第六課：19、数の数え方；20、年月日、曜日の言い方；21、疑問詞“儿”；22、“呢”
⑩第七課：23、モノを数える；24、“有”（動詞「もつ」）；25、“二”と“两”
⑪第八課：26､“有”（動詞「ある／いる」）;27､“在”（動詞「ある／いる」）；28、“什么地方”
⑫第九課：29、“怎么”；30、“为什么”；31、“这么”と“那么”
⑬まとめ

中国語ＩＤ（2003年度以降入学生）
中国語ⅡＢ（2000～2002年度入学生）

【担当】韓　正愛
【開講】後期　水３

■サブタイトル
基礎中国語

■講義概要
前期（中国語ＩＣ）のつづきです。前期にひきつづき、簡単な会話文や基本的な構文を学びます。

■到達目標
簡単な日常会話を中国語でできるようにします。

■講義方法
前期同様、テキストをもとに授業を進めていきます。特に会話を重視し、練習問題も解きます。

■系統的履修
中国語ＩＣ

■成績評価の方法
平常点（20%）　出席、宿題
小テスト（20%）
定期試験（60%）

■テキスト
竹山相哲[ほか]共著『基礎コース中国語』晃洋書房　1800円

■参考文献
特になし

■講義計画
①第六課　本文
②第六課　練習問題
③第七課　本文
④第七課　練習問題
⑤第八課　本文
⑥第八課　練習問題
⑦第九課　本文
⑧第九課　練習問題
⑨第十課　本文
⑩第十課　練習問題
⑪第十一課　本文
⑫第十一課　練習問題
⑬第十二課　本文
⑭第十二課　練習問題

中国語ＩＤ（2003年度以降入学生）
中国語ⅡＢ（2000～2002年度入学生）

【担当】韓　正愛
【開講】後期　水４

■サブタイトル
基礎中国語
■講義概要
前期（中国語ＩＣ）のつづきです。前期にひきつづき、簡単な会話文や基本的な構文を学びます。
■到達目標
簡単な日常会話を中国語でできるようにします。
■講義方法
前期同様、テキストをもとに授業を進めていきます。特に会話を重視し、練習問題も解きます。
■系統的履修
中国語ＩＣ
■成績評価の方法
平常点（20%）　出席、宿題
小テスト（20%）
定期試験（60%）
■テキスト
竹山相哲[ほか]共著『基礎コース中国語』晃洋書房　1800円
■参考文献
特になし
■講義計画
①第六課　本文
②第六課　練習問題
③第七課　本文
④第七課　練習問題
⑤第八課　本文
⑥第八課　練習問題
⑦第九課　本文
⑧第九課　練習問題
⑨第十課　本文
⑩第十課　練習問題
⑪第十一課　本文
⑫第十一課　練習問題
⑬第十二課　本文
⑭第十二課　練習問題

中国語ＩＤ（2003年度以降入学生）
中国語ⅡＢ（2000～2002年度入学生）

【担当】張　健同
【開講】後期　水３

■講義概要
中国語ＩＤは中国語ＩＣの引き続きです。
■到達目標
正しい中国語の発音を身につけ、ピンインが正確に読み書きできるようにし、また初級中国語文法と基本的なコミュニケーション能力を養います。
■講義方法
繰り返し発音の練習をし、受講者を指名して会話練習をさせます。また、練習問題をチェックします。
■成績評価の方法
宿題（10%）、授業態度（10%）、出席（10%）、学期末の試験結果（70%）合計100点満点で評価します。
■テキスト
相原茂、玄宜青『語法ルール66（漢語精粋）』朝日出版社　1800円
■参考文献
参考書および辞書については、授業中に説明します。
■履修上の注意・担当者からの一言
中国語は日本人にとって漢字を使っている点で親しみやすく勉強しやすい外国語ですが、外国語であることに違いはありません。短期間で一定レベルまで習得するためには、反復練習が不可欠です。利用できる時間は極力利用して、解るまで繰り返しCDを聴き、復誦してみるようにしてください。学生のみなさんには積極的に勉強し、分らないところがあれば、すぐに質問するという学習態度を望みます。
■講義計画
①中国語ＩＣの復習
②第十課：32、進行の表し方；33、三つの“在”；34、前置詞；35、助動詞Ｉ
③第十一課：36、連動文；37、使役の表し方；38、兼語文；39、“给”
④第十二課：40、“不”と“没”；41、二重目的語；42、様態補語
⑤第十三課：43、助動詞Ⅱ「できる」；44、助動詞Ⅲ「したい」；45、“了”；46、“几”と“多少”
⑥第十四課：47、中国語のアスペクト；48、“着”－持続；49、「过」－経験
⑦第十五課：50、「実現」の“了1”leと語気助詞の“了2”le；51、「経験」の“过1”と「終結」の“过2”
⑧第十六課：52、自然現象の表し方；53、比較；54、「少し」の種々相；55、“快要…了”
⑨第十七課：56、結果補語；57、受け身の表し方
⑩第十八課：58、動詞の重ね方；59、“一下”；60、“把”構文
⑪第十九課：61、趨向補語；62、結果補語、趨向補語の可能形；63、“越来越…”
⑫第二十課：64、疑問詞の呼応文型；65、複文の意味関係；66、「動詞＋目的語」構造の文
⑬まとめ

中国語ＩＤ（2003年度以降入学生）
中国語ⅡＢ（2000～2002年度入学生）

【担当】張　健同
【開講】後期　水４

■講義概要
中国語ＩＤは中国語ＩＣの引き続きです。

■到達目標
正しい中国語の発音を身につけ、ピンインが正確に読み書きできるようにし、また初級中国語文法と基本的なコミュニケーション能力を養います。

■講義方法
繰り返し発音の練習をし、受講者を指名して会話練習をさせます。また、練習問題をチェックします。

■成績評価の方法
宿題（10%）、授業態度（10%）、出席（10%）、学期末の試験結果（70%）合計100点満点で評価します。

■テキスト
相原茂、玄宜青『語法ルール66（漢語精粋）』朝日出版社　1800円

■参考文献
参考書および辞書については、授業中に説明します。

■履修上の注意・担当者からの一言
中国語は日本人にとって漢字を使っている点で親しみやすく勉強しやすい外国語ですが、外国語であることに違いはありません。短期間で一定レベルまで習得するためには、反復練習が不可欠です。利用できる時間は極力利用して、解るまで繰り返しCDを聴き、復誦してみるようにしてください。学生のみなさんには積極的に勉強し、分らないところがあれば、すぐに質問するという学習態度を望みます。

■講義計画
①中国語ＩＣの復習
②第十課：32、進行の表し方；33、三つの“在”；34、前置詞；35、助動詞Ｉ
③第十一課：36、連動文；37、使役の表し方；38、兼語文；39、“给”
④第十二課：40、“不”と“没”；41、二重目的語；42、様態補語
⑤第十三課：43、助動詞Ⅱ「できる」；44、助動詞Ⅲ「したい」；45、“了”；46、“几”と“多少”
⑥第十四課：47、中国語のアスペクト；48、“着”－持続；49、「过」－経験
⑦第十五課：50、「実現」の“了1”leと語気助詞の“了2”le；51、「経験」の“过1”と「終結」の“过2”
⑧第十六課：52、自然現象の表し方；53、比較；54、「少し」の種々相；55、“快要…了”
⑨第十七課：56、結果補語；57、受け身の表し方
⑩第十八課：58、動詞の重ね方；59、“一下”；60、“把”構文
⑪第十九課：61、趨向補語；62、結果補語、趨向補語の可能形；63、“越来越…”
⑫第二十課：64、疑問詞の呼応文型；65、複文の意味関係；66、「動詞＋目的語」構造の文
⑬まとめ

中国語セミナーＡ

【担当】李　愛華
【開講】前期　水１

■講義概要
「話す、聴く」を重点に置き、中国語のコミュニケーション能力の向上を目指していきます。授業中特に発音の復習を重視し、大きな声で発音の練習をしたり、朗読したりして、実際の場面を想定した会話練習もします。また文法事項を説明し、翻訳、作文の練習をします。内容に関連する映像資料などがあれば、それも随時に利用します。

■到達目標
初級で勉強した内容を復習しながら、さらなる一歩中国語を習得し、その運用能力を養うことを目標とします。

■講義方法
演習方式

■成績評価の方法
平常点（20%）　出席と授業態度
小テスト（30%）
定期試験（50%）

■テキスト
尹景春・竹島毅『中国語 さらなる一歩』白水社　2200円

■参考文献
『中日辞典 第二版』小学館

■履修上の注意・担当者からの一言
積極的に授業に参加することを望みます。

■講義計画
①授業について
②第一課
③第一課の練習
④第二課
⑤第二課の練習
⑥第三課
⑦第三課の練習
⑧第四課
⑨第四課の練習
⑩第五課
⑪第五課の練習
⑫第六課
⑬第六課の練習
⑭復習
⑮テスト

中国語セミナーB

【担当】李　愛華
【開講】後期　水1

■講義概要
「話す、聴く」を重点に置き、中国語のコミュニケーション能力の向上を目指していきます。授業中特に発音の復習を重視し、大きな声で発音の練習をしたり、朗読したりして、実際の場面を想定した会話練習もします。また文法事項を説明し、翻訳、作文の練習をします。内容に関連する映像資料などがあれば、それも随時に利用します。

■到達目標
初級で勉強した内容を復習しながら、さら一歩中国語を習得し、その運用能力を養うことを目標とします。

■講義方法
演習方式

■成績評価の方法
平常点（20%）　出席及び授業中の態度
小テスト（30%）
定期試験（50%）

■テキスト
『中国語 更なる一歩』白水社　2200円

■参考文献
『日中辞典 第二版』小学館

■講義計画
①会話練習
②第七課
③第七課の練習
④第八課
⑤第八課の練習
⑥第九課
⑦第九課の練習
⑧第十課
⑨第十課の練習
⑩第十一課
⑪第十一課の練習
⑫第十二課
⑬第十二課の練習
⑭復習
⑮テスト

哲学入門（2003年度以降入学生）
哲学（2002年度以前入学生）

【担当】鷲見　淳之
【開講】前期　月3

■サブタイトル
こころと環境の時代の世界観を探究する

■講義概要
哲学は世界に関する極めて包括的な見解と人生に対する知的な態度を目指すものです。本講義では、まず近代における知見の増大が、知識を獲得し、信念をテストする探究方法にどのような根本的変化を与えるのかを考えます。そして、近代西洋における自然観のはらむ困難な問題を明らかにした上で、今日の私たちが求めるべき「生きた自然」を開く世界観の骨格について考えてみたいと思います。なお、哲学の歴史を時代順に開設することはしませんが、具体的な問題の局面との関連において伝統的な学説のいくつかを紹介します。

■到達目標
論理的な物事の見方と考え方を身につけ、哲学・思想関係の著作を「理解しようとする努力」のできる、各人の知的に真摯な態度を養うことを目標とします。

■講義方法
哲学・思想関係の文献に慣れて頂くために、なるべく邦語の原典資料にあたりつつ講義を進めます。皆さんからの意見や感想も講義の中で取り上げたいと思います。

■成績評価の方法
平常点（30%）　出席を平常点とします
レポート（70%）

■テキスト
資料のコピーを配布します。

■参考文献
ウィル・デューラント『西洋哲学物語』講談社学術文庫723-4

■履修上の注意・担当者からの一言
哲学と言えば「実生活に関係ない難解な空論」というイメージを持たれることが多いですが、なるべく日常の出来事と県連づけて分かりやすく解説したいと思います。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
なるべく講義終了に連絡をとるように心掛けて下さい。

■講義計画
①哲学の役割
②人類の思考の進歩
③論理学のはじまり
④古代ギリシアの自然観
⑤古代ギリシアの霊魂観
⑥古典的世界観の限界
⑦近代思想のはじまり（1）
⑧近代思想のはじまり（2）
⑨ルネッサンスから近代へ
⑩デカルト－ゼロからの出発
⑪機械論的唯物論とその問題点（1）
⑫機械論的唯物論とその問題点（2）
⑬こころと環境の時代－その思想の基本的方向性（1）
⑭こころと環境の時代－その思想の基本的方向性（2）

哲学入門（2003年度以降入学生）
哲学（2002年度以前入学生）

【担当】鷲見　淳之
【開講】後期　月３

■サブタイトル
こころと環境の時代の世界観を探究する

■講義概要
哲学は世界に関する極めて包括的な見解と人生に対する知的な態度を目指すものです。本講義では、近代における知見の増大が、知識を獲得し、信念をテストする探究方法にどのような根本的変化を与えるのかを考えます。そして、近代西洋における自然観のはらむ困難な問題を明らかにした上で、今日の私たちが求めるべき「生きた自然」を開く世界観の骨格について考えてみたいと思います。なお、哲学の歴史を時代順に解説することはしませんが、具体的な問題の局面との関連において伝統的な学説のいくつかを紹介します。

■到達目標
論理的な物事の見方と考え方を身につけ、哲学・思想関係の著作を「理解しようとする努力」のできる、各人の知的に真摯な態度を養うことを目標とします。

■講義方法
哲学・思想関係の文献に慣れて頂くため、なるべく邦語の原典資料にあたりつつ講義を進めます。皆さんからの意見や感想も有意義に講義の中でとり上げたいと思います。

■成績評価の方法
平常点（30%）　出席を平常点とします
レポート（70%）

■テキスト
資料のコピーを配布します。

■参考文献
ウィル・デューラント『西洋哲学物語』講談社学術文庫723-4

■履修上の注意・担当者からの一言
哲学と言えば､「実生活に関係のない難解な空論」というイメージを持たれることが多いですが、なるべく日常の出来事と関連づけて、分かりやすく解説したいと思います

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業終了後に連絡をとるよう心掛けて下さい。

■講義計画
①哲学の役割
②人類の思考の進歩
③論理学のはじまり
④古代ギリシアの自然観
⑤古代ギリシアの霊魂観
⑥古典的世界観の限界
⑦近代思想のはじまり（１）
⑧近代思想のはじまり（２）
⑨ルネッサンスから近代へ
⑩デカルト－ゼロからの出発
⑪機械論的唯物論とその問題点（１）
⑫機械論的唯物論とその問題点（２）
⑬こころと環境の時代－その思想の基本的方向性（１）
⑭こころと環境の時代－その思想の基本的方向性（２）

哲学入門（2003年度以降入学生）
哲学（2002年度以前入学生）

【担当】渡邊　華月
【開講】前期　水３

■サブタイトル
「当然」ですませず、あえて問う

■講義概要
多くの人にとって「快適な生活」を得ることは人生の主要関心事となっている。また、より多くの快適さを実現できるありかたこそが、「自由」で理想な生き方であるかのようにさえ思われている。裏返せば、自分が思うような欲望の対象が得られず、欲求がかなわない場合、人はまるで自身が生きるに値しないかのように悲観し、自暴自棄に陥りやすい。
大衆の欲望を購買行為へと駆り立てる大量消費社会が構造的に破綻をきたしてきている今、「はたして快適さこそが至上の価値か？」「自由とは何か？」を心を落ち着けて改めて考え直すことが何よりも必要になっているのではないだろうか。
「当然のように思っていたことも改めて考え直す」ことが哲学の営みであり、荒廃し混乱した昨今の世相でこそ、いっそうの輝きを放つにちがいない。

■到達目標
様々なテーマについて自分なりの切り口で考えてみる姿勢や、他の意見にも耳を傾けることのできる柔軟さを身につけること。

■講義方法
板書を中心に講義を進める。参考資料については原則として受講者にメールにて配布する。
ただしメール手段のない生徒についてはプリントアウトして配布する。
講義期間中に、講義時間内でまとめる「ミニレポート」を3回実施する。
（ミニレポートの実施日については初回の講義時に伝える。）

■成績評価の方法
レポート（30%）　講義中のミニレポート（期間中３回実施）
定期試験（70%）　記述式の試験（持ち込み参照一切不可）
ミニレポートが30％をしめるが、講義期間中一度もミニレポートの提出がなかった生徒については定期試験の受験資格がないものとする（仮に定期試験だけを受験しても単位は認定しない）。

■テキスト
特に定まったテキストはなし。

■参考文献
参考文献などは必要に応じて講義中に示す。
各自、自らが読みやすいと思える入門書は通読しておくことが望ましい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
連絡用のメールアドレスを講義時に伝える。

■講義計画
①全体の導入：「哲学的」なのはいいことか？
②第Ⅰ部導入：快適であればあるほど「いい生き方」か？
③ⅠA：「勝者」になることこそが大切？－プラトン『国家』より
④ⅠB：「快い」ことは「苦しい」こと？－プラトン『ゴルギアス』より
⑤ⅠC：「ただ生きる」のでなく「よく生きる」－プラトン『ソクラテスの弁明』より
⑥第Ⅱ部導入：「絶対的なもの」は絶対ない？
⑦ⅡA：人間は「神」の失敗作？－アウグスティヌスより
⑧ⅡB：「私」は明日も「私」なのか？－デカルトより
⑨ⅡC：「神は死んだ！」－ニーチェより
⑩第Ⅲ部導入：自分がここにいるのは「自分の意志」？
⑪ⅢA：自分がこんな性格なのは「自分の責任」？－アリストテレスより
⑫ⅢB：「考える自由」は無制限？－カント『純粋理性批判』より
⑬ⅢC：「悪いこと」をする「自由」はない？－カント『道徳形而上学原論』より
⑭まとめ・期末試験の説明

哲学入門（2003年度以降入学生）
哲学（2002年度以前入学生）

【担当】渡邊　華月
【開講】後期　水３

■サブタイトル
「当然」ですませず、あえて問う

■講義概要
多くの人にとって「快適な生活」を得ることは人生の主要関心事となっている。また、より多くの快適さを実現できるありかたこそが、「自由」で理想な生き方であるかのようにさえ思われている。裏返せば、自分が思うような欲望の対象が得られず、欲求がかなわない場合、人はまるで自身が生きるに値しないかのように悲観し、自暴自棄に陥りやすい。
大衆の欲望を購買行為へと駆り立てる大量消費社会が構造的に破綻をきたしてきている今、「はたして快適さこそが至上の価値か？」「自由とは何か？」を心を落ち着けて改めて考え直すことが何よりも必要になっているのではないだろうか。
「当然のように思っていたことも改めて考え直す」ことが哲学の営みであり、荒廃し混乱した昨今の世相でこそ、いっそうの輝きを放つにちがいない。

■到達目標
様々なテーマについて自分なりの切り口で考えてみる姿勢や、他の意見にも耳を傾けることのできる柔軟さを身につけること。

■講義方法
板書を中心に講義を進める。参考資料については原則として受講者にメールにて配布する。
ただしメール手段のない生徒についてはプリントアウトして配布する。
講義期間中に、講義時間内でまとめる「ミニレポート」を3回実施する。（ミニレポートの実施日については初回の講義時に伝える。）

■成績評価の方法
レポート（30%）　講義中のミニレポート（期間中３回実施）
定期試験（70%）　記述式の試験（持ち込み参照一切不可）
ミニレポートが30％をしめるが、講義期間中一度もミニレポートの提出がなかった生徒については定期試験の受験資格がないものとする（仮に定期試験だけを受験しても単位は認定しない）。

■テキスト
特に定まったテキストはなし。

■参考文献
参考文献などは必要に応じて講義中に示す。
各自、自らが読みやすいと思える入門書は通読しておくことが望ましい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
連絡用のメールアドレスを講義時に伝える。

■講義計画
①全体の導入：「哲学的」なのはいいことか？
②第Ⅰ部導入：快適であればあるほど「いい生き方」か？
③ⅠA：「勝者」になることこそが大切？－プラトン『国家』より
④ⅠB：「快い」ことは「苦しい」こと？－プラトン『ゴルギアス』より
⑤ⅠC：「ただ生きる」のでなく「よく生きる」－プラトン『ソクラテスの弁明』より
⑥第Ⅱ部導入：「絶対的なもの」は絶対ない？
⑦ⅡA：人間は「神」の失敗作？－アウグスティヌスより
⑧ⅡB：「私」は明日も「私」なのか？－デカルトより
⑨ⅡC：「神は死んだ！」－ニーチェより
⑩第Ⅲ部導入：自分がここにいるのは「自分の意志」？
⑪ⅢA：自分がこんな性格なのは「自分の責任」？－アリストテレスより
⑫ⅢB：「考える自由」は無制限？－カント『純粋理性批判』より
⑬ⅢC：「悪いこと」をする「自由」はない？－カント『道徳形而上学原論』より
⑭まとめ・期末試験の説明

統計入門（2003年度以降入学生）
社会統計学Ｂ（2000～2002年度入学生）

【担当】長命　洋佑
【開講】後期　木３

■サブタイトル
統計に騙されるな！

■講義概要
新聞、テレビ、インターネットなどさまざまなメディアを通して日常生活の中から得られるデータ、社会現象の調査や自然現象の観察・実験などを通して得られるデータなどを様々なデータがあります。
　大量の情報が氾濫している現代社会において、「何が正しく、何が誤っているか」を自分自身で判断する力がないと思わぬ落とし穴に陥ることになります。いわゆる「騙されたっ！」という状態になりかねません。
　また、数値（データ）の持つ意味を理解していないと「数値に振り回される」ことにもなります。
この講義では、そうした数値（データ）を正しく理解する力を養い、数値（データ）に振り回されないように生きていくためのコツについて学びます。
　講義では、出来る限り、我々の日常生活の中での現象を例に取り上げ講義を行います。
　前半で記述統計を後半では推測統計を取り上げます。
　そこで学ぶ内容（統計学）は、今後の学生生活や社会人になった時でも必ず必要となるでしょう。この講義では、皆さんが近い将来、必要となる（身につけておくと大きな力となる）客観的な物の見方を学びます。

■到達目標
新聞、テレビ、インターネット、調査や実験などの数値（データ）の意味が理解できるようになる。
日常生活において、数値への恐怖心（アレルギー）がなくなる。

■講義方法
基本的な流れは教科書と参考文献の順に従います。
前半は基礎的なこと、後半は理論的なことについて学習します。

■成績評価の方法
平常点（30%）・定期試験（70%）

■テキスト
吉田忠『現代統計学を学ぶ人のために』世界思想社　1950円

■参考文献
鳥居泰彦『はじめての統計学』日本経済新聞社　2345円

■履修上の注意・担当者からの一言
統計学は数字を扱い、数式などもでてくるため、毛嫌いされる部分があります。しかし、日常生活を見渡してみると数字を見ない日なんてないと思います（一部の除く）。そうした数字の意味がわかりだしてくると「おっ！そーゆうことか。なかなかオモロイな～」と思うようになってくると思います。また、みんなが毛嫌いするからこそ、逆に身につければ大きな武器となると思います。

■講義計画
①統計学とは？（オリエンテーション）
②統計と統計学
③集団現象と統計資料
④統計資料の種類と体系
⑤記述統計の基本
⑥データの取り扱い（数値化と図表の作成）
⑦２値データの取り扱い
⑧確率に関して
⑨推測統計の基本
⑩分布について
⑪統計的推定
⑫統計的検定
⑬回帰分析
⑭まとめ

ドイツ語ＩＡ

【担当】呉　春吉
【開講】前期　月３

■講義概要
この授業は、初めてドイツ語を学習する人を対象としているため、ドイツ語のアルファベットの読み方、発音、簡単な挨拶というような基礎的なことから始めます。テキストは基本的な文法知識を習得するためだけでなく、ドイツとドイツ人、そして、ドイツ語圏の国々や人々についても関心がもてるようにも工夫されています。受身に文法を覚えるのではなく、能動的に文法を使いこなしてみましょう。

■到達目標
日本語とは異なったドイツ語のもつ端正な美しさを感じ、ことばの背後にあるドイツ文化やドイツ人の心に触れてほしいと思います。

■講義方法
各課の文法を解説した後、文法問題を練習し、本文を読みます。ドイツに関するビデオなども観る予定です。

■成績評価の方法
出席状況、練習問題等の理解度、授業態度による平常点（40%）と期末試験（60%）を合計し、100点満点で評価します。

■テキスト
Hermann J. Troll 小松はるの『改訂版/話してみよう・ドイツ語』同学社　2500円

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
外国語を学ぶということは根気と忍耐を必要としますが、じっくりと物事に取り組んだ後に得られる達成感を共に味わえればと思います。学習者の積極的な授業態度を期待します。

■講義計画
①アルファベートと発音
②Lektion１　動詞の現在人称変化
③Lektion２　名詞と冠詞（1）
④Lektion３　名詞と冠詞（２）
⑤Lektion４　話法の助動詞の現在人称変化
⑥Lektion５　前置詞の格支配
⑦Lektion６　命令形、分離動詞と非分離動詞

ドイツ語ＩＡ

【担当】松口　春美
【開講】前期　水４

■サブタイトル
聞いて話すドイツ語の習得

■講義概要
基礎的ドイツ語を聞き取り，話す口頭表現による「能動的ドイツ語」の学習を目指す。具体的な場面を想定して基本的文型のパターンを繰り返し読みながら、日常的コミュニケーションの能力を養う。
国際化が進むなかで、異文化を理解するための第一のステップは、何はさておき語学の習得である。ドイツ語はドイツ以外でも、オーストリアをはじめスイスやベルギー等で公用語として話されており、ドイツ語圏の文化や社会を知るうえで重要な「道具」です。

■到達目標
基本的な会話能力の習得

■講義方法
テキスト付録のCDを使って，「文のパターン」を聞き、色々な表現を覚える

■系統的履修
ドイツ語IC、ID・ドイツ語セミナーA、B

■成績評価の方法
平常点（40%）　予習・復習、宿題、出席に基づく評価
定期試験（60%）　学期末のテスト点

■テキスト
H.J.トロル・小松はるの『改訂版/話してみよう・ドイツ語』同学社　2500円

■参考文献
早川東三他『独和辞典』朝日出版　2800円
辞書等については授業中に紹介する

■履修上の注意・担当者からの一言
授業は段階的に進めていくので、毎回出席し、予習・復習を行うこと

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業後の時間を質疑応答に当てる

■講義計画
①発音・数字（基数・序数）
②規則動詞の変化
③定動詞の位置（1）
④不規則動詞の変化
⑤定冠詞、不定冠詞（1）
⑥定・不定冠詞類
⑦疑問代名詞、人称代名詞（3,・4格）
⑧話法の助動詞の現在人称変化
⑨名詞の複数形には５つのパターの語尾変化がある
⑩前置詞は主格（１格）以外の格を要求する
⑪中性名詞の代名詞esは、自然現象や時刻の表現にも使われる
⑫命令形
⑬分離・非分離動詞
⑭非分離動詞

ドイツ語ＩＢ

【担当】呉　春吉
【開講】後期　月３

■講義概要
この授業は、ドイツ語Aで習得した知識を踏まえた上で、さらに様々な動詞表現、時制等を学びます。テキストは基本的な文法知識を習得するためだけでなく、ドイツとドイツ人、そして、ドイツ語圏の国々や人々についても関心がもてるようにも工夫されています。受身に文法を覚えるのではなく、能動的に文法を使いこなしてみましょう。

■到達目標
日本語とは異なったドイツ語のもつ端正な美しさを感じ、ことばの背後にあるドイツ文化やドイツ人の心に触れてほしいと思います。また、独検４級、できれば３級合格レヴェルのドイツ語習得を目指します。

■講義方法
各課の文法を解説した後、文法問題を練習し,本文を読みます。ドイツに関するビデオなども観る予定です。

■成績評価の方法
出席状況､練習問題等の理解度､授業態度による平常点（40点）と期末試験（60点）を合計し、100点満点で評価します。

■テキスト
Hermann J. Troll 小松はるの『話してみようドイツ語』同学社　2500円

■参考文献
辞書等については授業中に紹介します。

■履修上の注意・担当者からの一言
外国語を学ぶということは根気と忍耐を必要としますが､じっくりと物事に取り組んだ後に得られる達成感を共に味わえればと思います。学習者の積極的な授業態度を期待します。

■講義計画
①Lektion 7　再帰動詞、zu不定詞句
②Lektion 8　動詞の3基本形、過去人称変化
③Lektion 9　完了形、形容詞の比較
④Lektion 10　受動態、現在分詞と過去分詞
⑤Lektion 11　関係代名詞
⑥Lektion 12　接続法Ⅱ式
⑦Lektion 13　接続法Ⅰ式

ドイツ語ＩＢ

【担当】松口　春美
【開講】後期　水４

■サブタイトル
聞いて話すドイツ語の習得

■講義概要
基礎的ドイツ語を聞き取り，話す口頭表現による「能動的ドイツ語」の学習を目指す。具体的な場面を想定して基本的文型のパターンを繰り返し読みながら､日常的コミュニケーションの能力を養う
国際化が進むなかで、異文化を理解するための第一のステップは、何はさておき語学の習得である。ドイツ語はドイツ以外でも、オーストリをはじめスイスやベルギー等で公用語として話されており、ドイツ語圏の文化や社会を知るうえで重要な「道具」です

■到達目標
基本的な会話能力の習得

■講義方法
テキスト付録のCDを使って､「文のパターン」を聞き、色々な表現を覚える

■系統的履修
ドイツ語IC、ID・ドイツ語セミナーA、B

■成績評価の方法
平常点（40%）　予習・復習、宿題、出席に基づく 評価
定期試験（60%）　学期末の筆記試験の点数

■テキスト
H.J.トロル・小松はるの『改訂版/話してみよう・ドイツ語』同学社　2500円

■参考文献
早川東三他『独和辞典』朝日出版　2800円
辞書等については授業中に紹介する

■履修上の注意・担当者からの一言
授業は段階的に進めていくので、毎回出席し、予習・復習を行うこと

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業後の時間を質疑応答に当てる

■講義計画
①再帰代名詞をもつ再帰動詞
②未来、zu不定詞句の用法
③動詞の三基本形、過去基本形に基づく過去の人称変化
④付加語的形容詞の語尾変、形容詞の比較級・最上級
⑤現在完了、過去完了
⑥過去完了の用法
⑦受動態、能動態の作り方
⑧現在分詞、過去分詞の用法
⑨指示代名詞
⑩関係代名詞
⑪接続法の変化と時称
⑫接続法II式の用法
⑬接続法1式の用法
⑭基本的会話のエッセンス

ドイツ語ＩＣ（2003年度以降入学生）
ドイツ語ⅡＡ（2000～2002年度入学生）

【担当】永井　達夫
【開講】前期　水４

■サブタイトル
ドイツ語の文法的理解と表現
■講義概要
ドイツ語を文法の側面から学ぶ。外国語を学ぶにはいくつもの方法があろうが、そのことばの文法や構造を理解することから始めるという方法には合理性がある。この授業ではドイツ語の文法的知識を習得することが中心となるが、肝心なのはそれを運用する能力を身につけることである。一通りの知識を得られた段階では、自分の伝えたいことをドイツ語で表現することに力を入れたい。
■到達目標
「ことば」のもつ論理性を明確に感じとれるようになる。
■講義方法
各課とも文法事項の解説をした上で、理解度に応じた問題を解く。
■系統的履修
ドイツ語ＩＡ
■成績評価の方法
平常点（50%）　出席を重視する
定期試験（50%）
平常点と定期試験の点数を総合して評価する。
■テキスト
清水薫『改訂版　ドイツ文法　100語の世界』同学社　2300円
■参考文献
辞書等については授業中に説明する
■履修上の注意・担当者からの一言
一歩一歩授業に真面目にとりくむ気持ちを忘れないこと。さらに授業への積極的な参加の姿勢を期待する。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
メールアドレス　SNA05617@nifty.com
■講義計画
①規則的に人称変化する動詞
②文を作る
③名詞の性と格　　sein　haben
④不規則に人称変化する動詞
⑤命令形　　冠詞類
⑥複数形　　人称代名詞
⑦前置詞
⑧話法の助動詞　　未来形
⑨形容詞の格語尾　　序数
⑩上記
⑪上記
⑫上記
⑬上記

ドイツ語ＩＣ（2003年度以降入学生）
ドイツ語ⅡＡ（2000～2002年度入学生）

【担当】松口　春美
【開講】前期　水３

■サブタイトル
文法を踏まえた表現力
■講義概要
ドイツ語の基礎文法を習得する。ドイツ語の基礎的表現力を高めて、総合的運用力を養うためには、文法の構造を、理論的に理解することが大切である。国際化が進むなかで、異文化を理解するための第一のステップは、何はさておき語学の習得である。既習語学の外に新しい語学を学んで、未知の文化や社会を知ろうとする努力が求められる
■到達目標
文法構造の論理的把握
■講義方法
日本語や英語の文法構造を比較検討しながら、ドイツ語の文法を学んで、各種の表現の文法的基礎を習得する
■系統的履修
ドイツ語IA, IB・ドイツ語セミナーA、Bの受講
■成績評価の方法
平常点（40%）　予習・復習、宿題、出席に基づく評価
定期試験（60%）　小テスト・学期末の筆記試験
■テキスト
清水薫『改訂版/ドイツ文法・100語の世界』同学社　2300円
■参考文献
早川東三他『独和辞典』朝日出版　2800円
辞書等については授業中に紹介する
■履修上の注意・担当者からの一言
授業は段階的に進めていくので、毎回出席し、予習・復習を行うこと
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業後の時間を質疑応答に当てる
■講義計画
①多言語と比較しながらドイツ語の数字を覚える
②規則動詞の現在人称変化
③定動詞の位置
④名詞には、男性、女性、中性の違いがあり、格変化をする
⑤定冠詞、不定冠詞
⑥不規則動詞の現在人称変化（１）
⑦不規則動詞の現在人称変化（２）
⑧冠詞類の変化と命令形の作り方
⑨名詞の複数形の語尾には５つのパターンがある
⑩人称代名詞の格変化
⑪前置詞は主格（1格）以外の格を要求する
⑫話法の助動詞（１）と動詞の未来形
⑬話法の助動詞（２）
⑭名詞を修飾する形容詞は格変化をする

ドイツ語ＩＤ（2003年度以降入学生）
ドイツ語ⅡＢ（2000～2002年度入学生）

【担当】永井　達夫
【開講】後期　水４

■サブタイトル
ドイツ語の文法的理解と表現
■講義概要
ドイツ語を文法の側面から学ぶ。外国語を学ぶにはいくつもの方法があろうが、そのことばの文法や構造を理解することから始めるという方法には合理性がある。この授業ではドイツ語の文法的知識を習得することが中心となるが、肝心なのはそれを運用する能力を身につけることである。一通りの知識を得られた段階では、自分の伝えたいことをドイツ語で表現することに力を入れたい。
■到達目標
「ことば」のもつ論理性を明確に感じとれるようになる。
■講義方法
各課とも文法事項の解説をした上で、理解度に応じた問題を解く。
■系統的履修
ドイツ語ＩＢ
■成績評価の方法
平常点（50%）
定期試験（50%）
平常点、定期試験の点数を総合して評価する。
■テキスト
清水薫『改訂版　ドイツ文法　100語の世界』同学社　2300円
■参考文献
辞書等については授業中に説明する
■履修上の注意・担当者からの一言
一歩一歩授業に真面目にとりくむ気持ちを忘れないこと。さらに授業への積極的な参加の姿勢を期待する。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
メールアドレス　SNA05617@nifty.com
■講義計画
①比較変化　非人称表現　不定代名詞
②時刻　分離動詞　非分離動詞
③再帰l動詞　接続詞
④動詞の3基本形　過去人称変化
⑤完了形　zu不定形
⑥受動態　分詞
⑦関係代名詞　指示代名詞
⑧接続法
⑨上記
⑩上記

ドイツ語ＩＤ（2003年度以降入学生）
ドイツ語ⅡＢ（2000～2002年度入学生）

【担当】松口　春美
【開講】後期　水３

■サブタイトル
文法を踏まえた表現力
■講義概要
ドイツ語の基礎文法を習得する。ドイツ語の基礎的表現力を高めて、総合的運用力を養うためには、文法の構造を理論的に理解することが大切である。国際化が進むなかで、異文化を理解するための第一のステップは、何はさておき語学の習得である。既習語学の外に新しい語学を学んで、未知の文化や社会を知ろうとする努力が求められる。
■到達目標
文法構造の論理的把握
■講義方法
日本語や英語の文法構造を比較検討しながら、ドイツ語の文法を学んで、各種の表現の文法的基礎を習得する
■系統的履修
ドイツ語IA、IB・ドイツ語セミナーA、B
■成績評価の方法
平常点（40%）　予習・復習、宿題、出席に基づく評価
定期試験（60%）　学期末のテスト点
■テキスト
清水薫『改訂版/ドイツ文法・100語の世界』同学社　2300円
■参考文献
早川東三他『独和辞典』朝日出版　2800円
辞書等については授業中に紹介する
■履修上の注意・担当者からの一言
授業は段階的に進めていくので、毎回出席し、予習・復習を行うこと
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業後の時間を質疑応答に当てる
■講義計画
①形容詞と副詞の比較変化語尾
②非人称的表現、不定代名詞
③分離可能・不可能な動詞の前綴り
④非分離動詞、再帰代名詞
⑤並列接続詞、従属接続詞
⑥動詞の３基本形
⑦過去人称変化
⑧現在・過去完了の用法
⑨sein/habenの過去分詞、zu 不定形の用法
⑩受動・能動態
⑪従属文としての関係代名詞、指示代名詞の用法
⑫接続法第１式
⑬接続法第２式
⑭文法の復習

ドイツ語セミナーA

【担当】青山　豊
【開講】前期　金2

■サブタイトル
日常生活のドイツ語
■講義概要
ドイツ語ＩＡ・ＩＢまたは、ＩＣ・ＩＤで習得した知識を整理、確認した上で、聞き話すという会話的要素を重視しながら日常的ドイツ語の運用に力点をおく。テキストとしてはドイツ人の生活情報をテーマにしたものを使用する。
■到達目標
日常生活に必要なレヴェルのドイツ語による表現力が身につく。
■講義方法
少人数クラスになると思われるので、対話的授業にしたいと考えている。
■系統的履修
ドイツ語ＩＡ・ＩＢおよびドイツ語ＩＣ・ＩＤ
■成績評価の方法
平常点（50％）と授業への熱意（50％）を総合的に100点満点で評価する。
■テキスト
受講生の希望に沿えるものを選定する予定。
■参考文献
ＩＡ・ＩＢまたはＩＣ・ＩＤで使用済みのテキストを持参するとよい。
■履修上の注意・担当者からの一言
ドイツ語ＩＡ、ＩＢ、ＩＣ、ＩＤのうち1単位以上修得済みであることを受講の条件とするが、基本的にはＩＡ、ＩＢ、ＩＣ、ＩＤに続くドイツ語運用能力の向上をめざす授業であるので、堅苦しく考えずに参加して欲しい。授業には辞書を持参のこと。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
メールアドレス　SNA05617@nifty.com
■講義計画
①日本人はなぜ駅の近くに住みたがるの？
②なぜ日本人は熱いお風呂に入りたがるの？
③家族で食事して、なぜテレビを付けるの？
④医者と患者の話がどうして聞こえちゃうの？
⑤日本人は死者と話すことができるの？
⑥日本には労働契約がないんですか？
⑦印鑑ってなんのためにあるの？

ドイツ語セミナーB

【担当】青山　豊
【開講】後期　金2

■サブタイトル
ドイツの文化をドイツ語で理解する
■講義概要
さまざまなジャンルを扱ったドイツ語のテキストを用いて、読解力の向上を目指しながらドイツという国と人々への理解を深める。
■到達目標
新聞・雑誌・インターネットなどによるなまのドイツ語情報が理解できるようになる。
■講義方法
テキストの内容を大まかに解説した後、正確に読解を進めていく。
■系統的履修
ドイツ語ＩＡ・ＩＢおよびドイツ語ＩＣ・ＩＤ
■成績評価の方法
平常点と授業への熱意を総合して評価する。
■テキスト
プリント使用の予定。
■参考文献
必要に応じて説明する。
■履修上の注意・担当者からの一言
ドイツ語ＩＡ、ＩＢ、ＩＣ、ＩＤのうち1単位以上修得済みであることを受講の条件とする。授業内容については、受講者の希望をかなえることも可能であるので、遠慮なく申し出て欲しい。授業には辞書を持参のこと。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
メールアドレス　SNA05617@nifty.com
■講義計画
①Die Sterntaler
②Rubezahl und die tapfere Mutter
③Boser Traum
④Goldland
⑤Das Madchen und der Mond
⑥Rumpelstilzchen
⑦Der Mond und der vorgeschichtliche Mensch
⑧Der Neandertaler
⑨Wagen
⑩Der Stein von Rosette
⑪Der Gewurzhandel
⑫Literatur
⑬Wie hat Landwirtschaft angefangen?
⑭Adam,ein Pharao und das Land Mu
⑮Entstehung von Leben

日本国憲法

【担当】時本　義昭
【開講】後期　月１

■サブタイトル
日本国憲法の規定する統治機構と人権
■講義概要
近代的（立憲的）意味の憲法は、統治機構に関する部分と人権に関する部分から成る。日本国憲法が制定されてから半世紀が経過した現在、人権に関する判例が蓄積されるとともに、それらを分析するためにアメリカの判例理論が積極的に導入された結果、現在のわが国の憲法学は人権論中心となっている。そこで本講義では、統治機構について、国会・内閣・裁判所の基本構造を説明したうえで、人権について、最高裁判所の重要な判例を取り上げつつ体系的な説明を行う。
■到達目標
基本的な法的思考を身につけること
■講義方法
原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。
■系統的履修
前期に法学入門を受講することが望ましい。
■成績評価の方法
定期試験（100%） 学期末の定期試験
■テキスト
※特に指定しない。
■参考文献
小嶋和司・大石眞『憲法概観〔第6版〕』有斐閣
佐藤幸治他編『デイリー六法平成21年版』三省堂
■履修上の注意・担当者からの一言
六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。
■講義計画
①憲法の基本概念
②日本国憲法の成立過程と基本原理
③国会
④内閣
⑤裁判所
⑥基本的人権の分類と基本原理
⑦包括的基本権
⑧法の下の平等
⑨精神的自由Ⅰ（内心の自由）
⑩精神的自由Ⅱ（表現の自由）
⑪経済的自由
⑫社会権
⑬人身の自由
⑭裁判員制度Ⅰ
⑮裁判員制度Ⅱ

日本国憲法

【担当】時本　義昭
【開講】後期　月３

■サブタイトル
日本国憲法の規定する統治機構と人権
■講義概要
近代的（立憲的）意味の憲法は、統治機構に関する部分と人権に関する部分から成る。日本国憲法が制定されてから半世紀が経過した現在、人権に関する判例が蓄積されるとともに、それらを分析するためにアメリカの判例理論が積極的に導入された結果、現在のわが国の憲法学は人権論中心となっている。そこで本講義では、統治機構について、国会・内閣・裁判所の基本構造を説明したうえで、人権について、最高裁判所の重要な判例を取り上げつつ体系的な説明を行う。
■到達目標
基本的な法的思考を身につけること
■講義方法
原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。
■系統的履修
前期に法学入門を受講することが望ましい。
■成績評価の方法
定期試験（100%） 学期末の定期試験
■テキスト
※特に指定しない。
■参考文献
小嶋和司・大石眞『憲法概観〔第6版〕』有斐閣
佐藤幸治他編『デイリー六法平成21年版』三省堂
■履修上の注意・担当者からの一言
六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。
■講義計画
①憲法の基本概念
②日本国憲法の成立過程と基本原理
③国会
④内閣
⑤裁判所
⑥基本的人権の分類と基本原理
⑦包括的基本権
⑧法の下の平等
⑨精神的自由Ⅰ（内心の自由）
⑩精神的自由Ⅱ（表現の自由）
⑪経済的自由
⑫社会権
⑬人身の自由
⑭裁判員制度Ⅰ
⑮裁判員制度Ⅱ

日本国憲法

【担当】時本　義昭
【開講】後期　木３

■サブタイトル
日本国憲法の規定する統治機構と人権
■講義概要
近代的（立憲的）意味の憲法は、統治機構に関する部分と人権に関する部分から成る。日本国憲法が制定されてから半世紀が経過した現在、人権に関する判例が蓄積されるとともに、それらを分析するためにアメリカの判例理論が積極的に導入された結果、現在のわが国の憲法学は人権論中心となっている。そこで本講義では、統治機構について、国会・内閣・裁判所の基本構造を説明したうえで、人権について、最高裁判所の重要な判例を取り上げつつ体系的な説明を行う。
■到達目標
基本的な法的思考を身につけること
■講義方法
原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。
■系統的履修
前期に法学入門を受講することが望ましい。
■成績評価の方法
定期試験（100%）　学期末の定期試験
■テキスト
※特に指定しない。
■参考文献
小嶋和司・大石眞『憲法概観〔第6版〕』有斐閣
佐藤幸治他編『デイリー六法平成21年版』三省堂
■履修上の注意・担当者からの一言
六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。
■講義計画
①憲法の基本概念
②日本国憲法の成立過程と基本原理
③国会
④内閣
⑤裁判所
⑥基本的人権の分類と基本原理
⑦包括的基本権
⑧法の下の平等
⑨精神的自由Ⅰ（内心の自由）
⑩精神的自由Ⅱ（表現の自由）
⑪経済的自由
⑫社会権
⑬人身の自由
⑭裁判員制度Ⅰ
⑮裁判員制度Ⅱ

発達と教育Ａ

【担当】松島　恵介
【開講】前期　水１

■サブタイトル
児童期～青年期における発達と教育について
■講義概要
子どもは児童期から、「学校」という環境の中で生活をはじめることになる。このことは単に、学校教育を受け始める、という受動的な事態ではありえない。それは、子どもが学校という新たな社会に参入しつつそれを共同で作り上げることであり、また同時に、家庭と学校という二つの文化を行き来するという特殊な実践のはじまりである。こうした新たな世界に生き始める児童期から青年期にかけて生じる特有な問題を、心理学を中心に周縁領域の知見も援用しながら学際的かつ立体的に理解する。
■到達目標
児童・青年期特有の心理学的諸問題を、時間的な流れにおいて理解することができる。また、それらが単純な因果関係では結びつかないことについても理解することができる。
■講義方法
教科書を中心に講義を行うが、OHP、ビデオ等の補助的な視聴覚教材も用いることがある。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。
■系統的履修
「発達と教育B」とセットになっているので、本講義を履修後「発達と教育B」を履修すること。
■成績評価の方法
定期試験（教科書・ノート他、一切持ち込み不可）・授業内レポート・授業外レポート・出席状況・出席態度、以上すべてにおいて、教員側が設定した規定以上の基準を満たした者にのみ単位を与える。　評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績が良くても授業態度が悪い者に対しては、成績評価は極めて低くなる）。「楽勝科目」ではないので要注意。
■テキスト
岩田ほか著『児童の心理学』有斐閣　2500円
■参考文献
授業において適宜指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。
■講義計画
①発達とは何か（総論）
②発達論にみられる児童期～青年期（総論）
③成熟優位説と学習優位説
④対人関係と自己の発達
⑤子どもの生活世界
⑥ピアジェの発達理論
⑦ヴィゴツキーの発達理論
⑧言語的理解力と授業適応
⑨言葉と概念
⑩命題的思考の発達
⑪表現の理解と習得
⑫発達と現代的問題（１）
⑬発達と現代的問題（２）
⑭まとめと今後の課題

発達と教育A

【担当】松島　恵介
【開講】前期　水2

■サブタイトル
児童期～青年期における発達と教育について
■講義概要
子どもは児童期から、「学校」という環境の中で生活をはじめることになる。このことは単に、学校教育を受け始める、という受動的な事態ではありえない。それは、子どもが学校という新たな社会に参入しつつそれを共同で作り上げることであり、また同時に、家庭と学校という二つの文化を行き来するという特殊な実践のはじまりである。こうした新たな世界に生き始める児童期から青年期にかけて生じる特有な問題を、心理学を中心に周縁領域の知見も援用しながら学際的かつ立体的に理解する。
■到達目標
児童・青年期特有の心理学的諸問題を、時間的な流れにおいて理解することができる。また、それらが単純な因果関係では結びつかないことについても理解することができる。
■講義方法
教科書を中心に講義を行うが、OHP、ビデオ等の補助的な視聴覚教材も用いることがある。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。
■系統的履修
「発達と教育B」とセットになっているので、本講義を履修後「発達と教育B」を履修すること。
■成績評価の方法
定期試験（教科書・ノート他、一切持ち込み不可）・授業内レポート・授業外レポート・出席状況・出席態度、以上すべてにおいて、教員側が設定した規定以上の基準を満たした者にのみ単位を与える。　評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績が良くても授業態度が悪い者に対しては、成績評価は極めて低くなる）。「楽勝科目」ではないので要注意。
■テキスト
岩田ほか著『児童の心理学』有斐閣　2500円
■参考文献
授業において適宜指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。
■講義計画
①発達とは何か（総論）
②発達論にみられる児童期～青年期（総論）
③成熟優位説と学習優位説
④対人関係と自己の発達
⑤子どもの生活世界
⑥ピアジェの発達理論
⑦ヴィゴツキーの発達理論
⑧言語的理解力と授業適応
⑨言葉と概念
⑩命題的思考の発達
⑪表現の理解と習得
⑫発達と現代的問題（1）
⑬発達と現代的問題（2）
⑭まとめと今後の課題

発達と教育B

【担当】松島　恵介
【開講】後期　水1

■サブタイトル
児童期～青年期における発達と教育について
■講義概要
子どもは児童期から、「学校」という環境の中で生活をはじめることになる。このことは単に、学校教育を受け始める、という受動的な事態ではありえない。それは、子どもが学校という新たな社会に参入しつつそれを共同で作り上げることであり、また同時に、家庭と学校という二つの文化を行き来するという特殊な実践のはじまりである。こうした新たな世界に生き始める児童期から青年期にかけて生じる特有な問題を、心理学を中心に周縁領域の知見も援用しながら学際的かつ立体的に理解する。
■到達目標
児童・青年期特有の心理学的諸問題を、時間的な流れにおいて理解することができる。また、それらが単純な因果関係では結びつかないことについても理解することができる。
■講義方法
板書、教科書を中心に講義を行うが、OHP、ビデオ等の補助的な視聴覚教材も用いることがある。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。
■系統的履修
「発達と教育A」とセットになっているので、「発達と教育A」を予め履修しておくこと。
■成績評価の方法
定期試験（教科書・ノート他、一切持ち込み不可）・授業内レポート・授業外レポート・出席状況・出席態度、以上すべてにおいて、教員側が設定した規定以上の基準を満たした者にのみ単位を与える。　評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績が良くても授業態度が悪い者に対しては、成績評価は極めて低くなる）。「楽勝科目」ではないので要注意。
■テキスト
岩田ほか著『児童の心理学』有斐閣　2500円
■参考文献
授業において適宜指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。
■講義計画
①学習と自律性
②自己意識と発達課題
③教育と休暇の関わり
④性役割の形成過程（強化学習／モデリングなど）
⑤論理構成力と発達過程
⑥社会的問題行動
⑦遊びと発達・教育
⑧メディアコミュニケーションと発達・教育
⑨学校文化と発達
⑩隠れたカリキュラム
⑪個性化の教育をめぐって
⑫発達と現代的問題（1）
⑬発達と現代的問題（2）
⑭まとめと今後の課題

発達と教育Ｂ

【担当】松島　恵介
【開講】後期　水２

■サブタイトル
児童期～青年期における発達と教育について

■講義概要
子どもは児童期から、「学校」という環境の中で生活をはじめることになる。このことは単に、学校教育を受け始める、という受動的な事態ではありえない。それは、子どもが学校という新たな社会に参入しつつそれを共同で作り上げることであり、また同時に、家庭と学校という二つの文化を行き来するという特殊な実践のはじまりである。こうした新たな世界に生き始める児童期から青年期にかけて生じる特有な問題を、心理学を中心に周縁領域の知見も援用しながら学際的かつ立体的に理解する。

■到達目標
児童・青年期特有の心理学的諸問題を、時間的な流れにおいて理解することができる。また、それらが単純な因果関係では結びつかないことについても理解することができる。

■講義方法
板書、教科書を中心に講義を行うが、OHP、ビデオ等の補助的な視聴覚教材も用いることがある。また、受講者の考え方を可能な範囲で当該教員が参照し、授業に反映させる。

■系統的履修
「発達と教育A」とセットになっているので、「発達と教育A」を予め履修しておくこと。

■成績評価の方法
定期試験（教科書・ノート他、一切持ち込み不可）・授業内レポート・授業外レポート・出席状況・出席態度、以上すべてにおいて、教員側が設定した規定以上の基準を満たした者にのみ単位を与える。　評価は、これらの総合的なバランスを考慮し行うものとする。（採点比率はケースバイケースで異なるため公表しない。たとえば、定期試験の成績が良くても授業態度が悪い者に対しては、成績評価は極めて低くなる）。「楽勝科目」ではないので要注意。

■テキスト
岩田ほか著『児童の心理学』有斐閣　2500円

■参考文献
授業において適宜指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言
既存の先入観に囚われることなく物事を多面的／多層的な観点から捉えようとする柔軟な基本姿勢を受講者に求める。なお講義内での教員からの指示は受講者全員に伝わっているものとして扱うので注意せよ。加えて、当然のことながら私語・中途入退室は厳しく禁ずる。当科目はいわゆる「楽勝科目」ではないので要注意。努力せず単位をとりたい学生は登録しないこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業終了時に時間を設けるのでその際に予約のこと。

■講義計画
①学習と自律性
②自己意識と発達課題
③教育と休暇の関わり
④性役割の形成過程（強化学習／モデリングなど）
⑤論理構成力と発達過程
⑥社会的問題行動
⑦遊びと発達・教育
⑧メディアコミュニケーションと発達・教育
⑨学校文化と発達
⑩隠れたカリキュラム
⑪個性化の教育をめぐって
⑫発達と現代的問題（１）
⑬発達と現代的問題（２）
⑭まとめと今後の課題

フランス語ＩＡ（2003年度以降入学生）
フランス語ⅡＡ（2000～2002年度以前入学生）

【担当】瓜生　濃世
【開講】前期　水３

■サブタイトル
初級フランス語の習得

■講義概要
コミュニケーション表現を中心とした教科書を用いて、フランス語の仕組みを学習します。教科書には会話文とその理解に必要な文法事項の解説があります。それらを確認した後、練習問題に取り組み、知識の定着を目指します。発音練習も毎回行う予定です。また、教科書付属のDVDもありますので、映像を通してフランス文化への理解を深めることも目標とします。

■到達目標
平易なフランス語が理解できるようになること

■講義方法
最初に文法事項の解説を行い、会話文の意味を確認すると共に発音練習を行う。次に練習問題へと進む。

■成績評価の方法
平常点（10%）・小テスト（50%）・定期試験（40%）

■テキスト
田辺保子『やさしいサリュ―サリュ！簡略版―』駿河台出版社　1890円

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
初めて学ぶ言語の場合、一度欠席してしまうとわからなくなってしまう場合が多いので、とにかく出席すること。

■講義計画
①オリエンテーション、第０課
②第１課
③第１課
④第２課
⑤第２課
⑥第３課
⑦第３課
⑧第４課
⑨第４課
⑩第５課
⑪第５課
⑫第６課
⑬第６課
⑭まとめ

フランス語ＩＢ（2003年度以降入学生）
フランス語ⅡＢ（2000～2002年度以前入学生）

【担当】瓜生　濃世
【開講】後期　水３

■サブタイトル
初級フランス語の習得

■講義概要
フランス語ＩＡの内容を引き継ぎ、コミュニケーション表現を中心とした教科書を用いて、フランス語の仕組みを学習します。教科書には会話文とその理解に必要な文法事項の解説があります。それらを確認した後、練習問題に取り組み、知識の定着を目指します。発音練習も毎回行う予定です。また、教科書付属のDVDもありますので、映像を通してフランス文化への理解を深めることも目標とします。

■到達目標
平易なフランス語が理解できるようになること

■講義方法
最初に文法事項の解説を行い、会話文の意味を確認すると共に発音練習を行う。次に練習問題へと進む。

■成績評価の方法
平常点（60%）・定期試験（40%）

■テキスト
田辺保子『やさしいサリュ―サリュ！簡略版―』駿河台出版社　1890円

■参考文献
特になし

■講義計画
①オリエンテーション、復習
②第７課
③第７課
④第８課
⑤第８課
⑥第９課
⑦第９課
⑧第10課
⑨第10課
⑩第11課
⑪第11課
⑫第12課
⑬第12課
⑭まとめ

フランス語ＩＣ（2003年度以降入学生）
フランス語ＩＡ（2000～2002年度以前入学生）

【担当】嶋崎　陽一
【開講】前期　月３

■サブタイトル
さらに楽しいフランス語

■講義概要
フランス語IA、IBは基礎的な文法知識の習得が主な目標となっています。それに対しIC、IDは、やはり文法項目についての解説も行うけれども、もっと多くのシチュエーションに触れ、実際にフランス語を多く口にすることで、より実践的な語学学習の場としたいと思います。同時に多くの視聴覚教材を利用して、フランスの文化と歴史について、幅広い解説をしていきます。さらに、盛りだくさんの内容を誇るコンピュータ教材を用いることで、発音練習なども深めていく予定です。

■到達目標
口頭練習を数多く取り入れることで、実践的なコミュニケーション能力を習得することを目指します。

■講義方法
CALL教室を利用して、語学学習用ソフトウェア、DVDなどを積極的に活用します。

■系統的履修
前期完結の授業ですが、つづけてフランス語IDも受講し、通年で学習することを目指してください。

■成績評価の方法
平常点（80%）　出席を重視します。
定期試験（20%）

■テキスト
中川努、曽我祐典、中井珠子『フランス語　聞く･話す･読む･書く』白水社　2415円

■参考文献
授業で直接用いることは多くはないが、仏和辞典を持つことが望ましいでしょう。次の２点を特に勧めます。
『ディコ仏和辞典』（白水社）、『プチ･ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）

■履修上の注意・担当者からの一言
積極的に興味を持ち、授業時間以外にもフランス語に多く触れることで、幅広い学習を心がけてください。

■講義計画
次の教科書、教材を複合的に運用していきます。受講生の進度に合わせて組み合わせを考えていきます。
World Talk フランス語、Talk Now! フランス語（インフィニス）
Tell Me More niveau 1（Auralog）
その他にも複数の視聴覚教材を使用します。

フランス語ＩＣ（2003年度以降入学生）
フランス語ＩＡ（2000～2002年度以前入学生）

【担当】森部　卓
【開講】前期　月2

■サブタイトル
ゲーム感覚で生きたフランス語の習得

■講義概要
従来、大学の語学授業は、学生間の個人差とは無関係に、教師が文法事項を羅列的に説明し、その合間にささやかな講読や会話を行うというもので、学生は受動的立場に置かれ、実践的語学学習からは遠い内容でした。当授業は発想を転換し、パソコンを使い、受講者各人が主役となり、自らの意志と好みに合わせ自由に生きたフランス語を習得できるシステムになっています。当授業で使用するフランス語学習ソフトには、日常の基本的会話を中心に、役割練習、発音、クイズ、まとめの問題、さらには辞書や動詞変化も収録され、一貫性があると同時に飽きのこない内容となっています。反復練習も可能であり、授業時間以外にもCALL教室で自習もできます。ゲームをする気分で気軽に受講して下さい。

■到達目標
①フランス語の基本的かつ実践的会話パターン。②正確な発音と発声リズム。③聞き取り能力。④語い力と短文構成力。⑤パソコン操作の初歩。

■講義方法
パソコンソフト“Tell me more”の各サイトをクリックし、〈読む・話す・聞く・書く〉の反復練習。ただし、授業の前半はテキストを用い、必要な文法・発音・語いの解説、会話練習を行い、パソコン学習と系統的にリンクするよう配慮する。また、DVDやビデオを使い、フランスの文化、歴史、社会などもできる限り紹介します。

■成績評価の方法
平常点（50%）
定期試験(50%)　受講者数により､小テストに変更する場合あり。

■テキスト
藤田裕二『パスカル・オ・ジャポン（CD付)』白水社　2000円

■参考文献
辞書等、授業中に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言
学生同士、教師と学生の間でも、積極的にコミュニケーションをはかりたいと考えています。「あいさつ」「お互いの紹介」から、日常の様々な場面でのモデル会話を中心に展開してゆきます。4月の授業初日に、受講者各自のパソコンモニタースクリーン上で全体の構成を提示します。

■講義計画
①パソコンソフトTell me more（フランス語版教材）の全体の構成を提示
②フランスとフランス語に親しむ
③挨拶する
④発音と綴り字の説明
⑤名前、国籍、職業を言う
⑥年齢を言う、家族を語る
⑦好きなものを言う
⑧持ち物を言う
⑨友達について話す
⑩疑問詞を使ってたずねる
⑪近い未来、近い過去のことを言う
⑫時間、天候を言う
⑬数量を表す
⑭紹介する
⑮フランス旅行の仕方

フランス語ＩＣ（2003年度以降入学生）
フランス語ＩＡ（2000～2002年度以前入学生）

【担当】森部　卓
【開講】前期　木3

■サブタイトル
ゲーム感覚で生きたフランス語の習得

■講義概要
従来、大学の語学授業は、学生間の個人差とは無関係に、教師が文法事項を羅列的に説明し、その合間にささやかな講読や会話を行うというもので、学生は受動的立場に置かれ、実践的語学学習からは遠い内容でした。当授業は発想を転換し、パソコンを使い、受講者各人が主役となり、自らの意志と好みに合わせ自由に生きたフランス語を習得できるシステムになっています。当授業で使用するフランス語学習ソフトには日常の基本的会話を中心に、役割練習、発音、クイズ、まとめの問題、さらには辞書や動詞変化も収録され、一貫性があると同時に飽きのこない内容となっています。反復練習も可能であり、授業時間以外にもCALL教室で自習もできます。ゲームをする気分で気軽に受講して下さい。

■到達目標
①フランス語の基本的かつ実践的会話パターン。②正確な発音と発声リズム。③聞き取り能力。④語い力と短文構成力。⑤パソコン操作の初歩。

■講義方法
パソコンソフト“Tell me more”の各サイトをクリックし、〈読む・話す・聞く・書く〉の反復練習。ただし、授業の前半はテキストを用い、必要な文法・発音・語いの解説、会話練習を行い、パソコン学習と系統的にリンクするよう配慮する。また、DVDやビデオを使い、フランスの文化、歴史、社会などもできる限り紹介します。

■成績評価の方法
平常点（50%）
定期試験(50%)　受講者数により､小テストに変更する場合あり。

■テキスト
藤田裕二『パスカル・オ・ジャポン（CD付)』白水社　2000円

■参考文献
辞書等、授業中に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言
学生同士、教師と学生の間でも、積極的にコミュニケーションをはかりたいと考えています。「あいさつ」「お互いの紹介」から、日常の様々な場面でのモデル会話を中心に展開してゆきます。4月の授業初日に、受講者各自のパソコンモニタースクリーン上で全体の構成を提示します。

■講義計画
①パソコンソフトTell me more（フランス語版教材）の全体の構成を提示
②フランスとフランス語に親しむ
③挨拶する
④発音と綴り字の説明
⑤名前、国籍、職業を言う
⑥年齢を言う、家族を語る
⑦好きなものを言う
⑧持ち物を言う
⑨友達について話す
⑩疑問詞を使ってたずねる
⑪近い未来、近い過去のことを言う
⑫時間、天候を言う
⑬数量を表す
⑭紹介する
⑮フランス旅行の仕方

フランス語ＩＤ（2003年度以降入学生）
フランス語ＩＢ（2000～2002年度以前入学生）

【担当】嶋崎　陽一
【開講】後期　月３

■サブタイトル
さらに楽しいフランス語
■講義概要
フランス語IA、IBは基礎的な文法知識の習得が主な目標となっています。それに対しIC、IDは、やはり文法項目についての解説も行うけれども、もっと多くのシチュエーションに触れ、実際にフランス語を多く口にすることで、より実践的な語学学習の場としたいと思います。後期はとくにコンピュータ教材、インターネットによる演習の比率を増やしていく予定です。
■到達目標
きれいな発音による、役立つフランス語の習得。
■講義方法
CALL教室を利用して、語学学習用ソフトウェア、DVDなどを積極的に活用します。
■系統的履修
後期完結の授業ですが、前期に開講されるフランス語ICもできれば受講しておいてください。
■成績評価の方法
平常点（80%）　出席を重視します。
定期試験（20%）
■テキスト
中川努、曽我祐典、中井珠『フランス語　聞く・話す・読む・書く』白水社　2415円
■参考文献
授業で直接用いることは多くはないが、仏和辞典を持つことが望ましいでしょう。次の２点を特に勧めます。
『ディコ仏和辞典』（白水社）、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）
■履修上の注意・担当者からの一言
積極的に興味を持ち、授業時間以外にもフランス語に多く触れることで、幅広い学習を心がけてください。
■講義計画
会話用の教材としては、次のものを使用します。受講生の進度に合わせて組み合わせを考えていきます。
Tell Me More niveau 1（Auralog）
その他にも複数の視聴覚教材を使用します。

フランス語ＩＤ（2003年度以降入学生）
フランス語ＩＢ（2000～2002年度以前入学生）

【担当】森部　卓
【開講】後期　月２

■サブタイトル
ゲーム感覚で生きたフランス語の習得
■講義概要
従来、大学の語学授業は、学生間の個人差とは無関係に、教師が文法事項を羅列的に説明し、その合間にささやかな講読や会話を行うというもので、学生は受動的立場に置かれ、実践的語学学習からは遠い内容でした。当授業は発想を転換し、パソコンを使い、受講者各人が主役となり、自らの意志と好みに合わせ自由に生きたフランス語を習得できるシステムになっています。当授業で使用するフランス語学習ソフトには日常の基本的会話を中心に、役割練習、発音、クイズ、まとめの問題、さらには辞書や動詞変化も収録され、一貫性があると同時に飽きのこない内容となっています。反復練習も可能であり、授業時間以外にもCALL教室で自習もできます。ゲームをする気分で気軽に受講して下さい。なお、授業自体はＩＣの続きです。
■到達目標
①フランス語の基本的かつ実践的会話パターン。②正確な発音と発声リズム。③聞き取り能力。④語い力と短文構成力。⑤パソコン操作の初歩。
■講義方法
パソコンソフト“Tell me more”の各サイトをクリックし、〈読む・話す・聞く・書く〉の反復練習。ただし、授業の前半はテキストを用い、必要な文法・発音・語いの解説、会話練習を行い、パソコン学習と系統的にリンクするよう配慮する。また、DVDやビデオを使い、フランスの文化、歴史、社会などもできる限り紹介します。
■成績評価の方法
平常点（50%）
定期試験(50%)　受講者数により､小テストに変更する場合あり。
■テキスト
藤田裕二『パスカル・オ・ジャポン（CD付き）』白水社　2000円
■参考文献
辞書等、授業中に指示。
■履修上の注意・担当者からの一言
学生同士、教師と学生の間でも、積極的にコミュニケーションをはかりたいと考えています。ＩＣの続きですが、9月末の授業初日に、受講者各自のパソコンモニタースクリーンで全体の構成を提示します。
■講義計画
①パソコンソフトTell me more（フランス語版教材）の全体の構成の提示
②一日を語る
③頼む、命令する
④フランスの食文化
⑤未来のことを語る
⑥過去のことを語るⅠ（直説法複合過去）
⑦過去のことを語るⅡ（直説法半過去）
⑧フランス語の手紙の書き方
⑨人や物について語る
⑩比較する（比較級、最上級）
⑪受け身の形を使う
⑫フランス留学と学生生活について
⑬仮定する
⑭感情を表現する
⑮日仏文化交流の昨今

フランス語ＩＤ（2003年度以降入学生）
フランス語ＩＢ（2000～2002年度以前入学生）

【担当】森部　卓
【開講】後期　木3

■サブタイトル
ゲーム感覚で生きたフランス語の習得

■講義概要
従来、大学の語学授業は、学生間の個人差とは無関係に、教師が文法事項を羅列的に説明し、その合間にささやかな講読や会話を行うというもので、学生は受動的立場に置かれ、実践的語学学習からは遠い内容でした。当授業は発想を転換し、パソコンを使い、受講者各人が主役となり、自らの意志と好みに合わせ自由に生きたフランス語を習得できるシステムになっています。当授業で使用するフランス語学習ソフトには日常の基本的会話を中心に、役割練習、発音、クイズ、まとめの問題、さらには辞書や動詞変化も収録され、一貫性があると同時に飽きのこない内容となっている。反復練習も可能であり、授業時間以外にもCALL教室で自習もできます。ゲームをする気分で気軽に受講して下さい。なお、授業自体はＩＣの続きです。

■到達目標
①フランス語の基本的かつ実践的会話パターン。②正確な発音と発声リズム。③聞き取り能力。④語い力と短文構成力。⑤パソコン操作の初歩。

■講義方法
パソコンソフト“Tell me more”の各サイトをクリックし、〈読む・話す・聞く・書く〉の反復練習。ただし、授業の前半はテキストを用い、必要な文法・発音・語いの解説、会話練習を行い、パソコン学習と系統的にリンクするよう配慮する。また、DVDやビデオを使い、フランスの文化、歴史、社会などもできる限り紹介します。

■成績評価の方法
平常点（50%）
定期試験(50%)　受講者数により､小テストに変更する場合あり。

■テキスト
藤田裕二『パスカル・オ・ジャポン』白水社　2000円

■参考文献
辞書等、授業中に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言
学生同士、教師と学生の間でも、積極的にコミュニケーションをはかりたいと考えています。ＩＣの続きですが、9月末の授業初日に、受講者各自のパソコンモニタースクリーンで全体の構成を提示します。

■講義計画
①パソコンソフトTell me more（フランス語版教材）の全体の構成の提示
②一日を語る
③頼む、命令する
④フランスの食文化
⑤未来のことを語る
⑥過去のことを語るⅠ（直説法複合過去）
⑦過去のことを語るⅡ（直説法半過去）
⑧フランス語の手紙の書き方
⑨人や物について語る
⑩比較する（比較級、最上級）
⑪受け身の形を使う
⑫フランス留学と学生生活について
⑬仮定する
⑭感情を表現する
⑮日仏文化交流の昨今

フランス語セミナーA

【担当】嶋崎　陽一
【開講】前期　木4

■サブタイトル
フランス語を楽しく深める

■講義概要
１年次ではじめて触れたフランス語に興味をもち、さらに学習を継続したい、と考える方が対象です。紙媒体のテクストとＣＡＬＬ教材を併用して、前年の学習内容を復習しつつ、その上に新しい知識を付け加えて、よりフランス語を楽しめるようになることをねらいとします。教科書では、パリのオルセー美術館に収蔵された絵画を題材としながら、フランス近代の歴史と文化が詳しく紹介されています。そうした文化学習にも力を入れていきます。

■到達目標
平易なフランス語の文章が読めるようになるまでの文法の知識、基本語彙の習得。

■講義方法
CALL教室で、視聴覚教材を用いると同時に、教科書を講読しながら、文法を学びます。

■系統的履修
前期完結の授業ですが、つづけてフランス語セミナーＢも受講されることをすすめます。

■成績評価の方法
平常点（60%）・定期試験（40%）

■テキスト
中山眞彦『オルセー美術館にて－初級フランス語総合教本－』朝日出版社　2500円

■参考文献
仏和辞典を持つことが望ましい。次の２点を特に勧めます。『ディコ仏和辞典』（白水社)､『プチ･ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）

■履修上の注意・担当者からの一言
積極的な参加を望みます。

■講義計画
教材としては、文法・読本の教科書の他に、Tell Me More niveau 1（Auralog）を用います。その他に、適宜視聴覚教材を用意します。教科書は近代の美術作品を通して広くフランスの文化を紹介するものです。

フランス語セミナーB

【担当】嶋崎　陽一
【開講】後期　木4

■サブタイトル
フランス語・フランス文化の理解を楽しく深める。

■講義概要
１年次ではじめて触れたフランス語に興味をもち、さらに学習を継続したい、と考える方が対象です。紙媒体のテクストとＣＡＬＬ教材を併用して、よりフランス語を楽しめるようになることをねらいとします。教科書では、パリのオルセー美術館に収蔵された絵画を題材としながら、フランス近代の歴史と文化が詳しく紹介されています。そうした文化学習にも力を入れていきます。

■到達目標
フランス語応用のための基礎的な語学力、現代のフランス文化についての知識を身に付ける。

■講義方法
CALL教室を利用します。引き続き中級文法を学ぶと同時に、視聴覚教材を通じてフランスの文化・歴史を学びます。また、希望により実用フランス語検定受験のための学習も用意します。

■系統的履修
後期完結の授業ですが、内容的にはフランス語セミナーＡと共通しています。継続した受講を勧めます。

■成績評価の方法
平常点（100%）

■テキスト
中山眞彦『オルセー美術館にて－初級フランス語総合教本－』朝日出版社　2500円

■参考文献
『ディコ仏和辞典』（白水社）、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）

■履修上の注意・担当者からの一言
積極的な参加を望みます。

■講義計画
次の教材を複合して使用していきます。
Tell Me More niveau 1, niveau 2（Auralog）
中山眞彦『オルセー美術館にて』（朝日出版社）

仏教の思想

「仏教の思想Ａ・Ｂ」

龍谷大学は、「一切の人間が平等に真実心を与えられているという親鸞精神を建学の精神にもち、真の人間たるにふさわしい世界を開くことをめざし、深い学識と教養とをもちながら国際社会の一員として努力する人間を育成すること」をめざしています。

「仏教の思想A・B」は龍谷大学の建学の精神を学ぶために必修科目として位置づけられ、大学の一つの個性となっています。この講義は、龍谷大学のよき伝統を知り、仏教の思想を学ぶことを通して、自己をふりかえり、幅広いものの見方と心の豊かさを育てることを目的とします。自己と現実世界を見つめる時間、それが「仏教の思想」の講義といってもいいでしょう。「仏教の思想A・B」は、各学部のカリキュラムに沿って履修しやすいように、クラス指定で一年次に開講されています。また入学した学生にいち早く建学の精神を学んでほしいという願いもあります。

この「仏教の思想A・B」を平易に理解していただくために、以下に教育目標と講義の主な内容を掲げておきます。

講義の教育目標

１．人間にとっての宗教の意義を明らかにする。真実の宗教を見極める眼を育てる。

真実の宗教は、その思想と文化を通して、人間に二つの働きをもっている。一つは、自己の存在意味や人生の根本的な方向性を指し示すという働きである。もう一つは、日々の生活の中で直面する苦しみや悲しみを乗りこえさせるという働きである。仏教は、この二つの働きをもって、自己中心的に生きようとする人間が、あるべき理想の人間に向かって、脱皮、成長していくことをめざしている。

２．倫理・歴史として「仏教の思想」を学ぶ。

仏教は一つの学問である。高校では、公民科「倫理」や地歴科「世界史」「日本史」の教科で、仏教を学習する。それを踏まえ、「仏教の思想」の教育目標に、次の点を掲げる。

① 青年期における人間が、自ら歩んできた道・人生をあらためて見つめ直し、人間として生きる意味を考える。

② 学生が過去の人々の思想や生き方を学び、また現代社会の諸問題を考えることを通して、人間としての生きる意味や目的を探求する。

③ 仏教は、人類が継承してきた一つの智慧であり、世界の各地で、人々の心の依りどころとなっている。この歴史を学ぶことを通して、ものの見方を豊かにし、人生への思索を深める。

３．人間学として「仏教の思想」を学ぶ。

宗教は民族宗教と世界宗教に大きく分類されるが、世界宗教としての仏教の特質には次のような点があげられる。

・創造主なる神を想定しない

・人間を含むあらゆるいのちに重きを置く

仏教がめざしたのは生きとし生けるものの幸せ・平等・平和である。講義を通して自己を内省し、悲しみや苦しみに立ち向かう勇気と、他者に対する慈愛と感謝と寛容さを培う。

４．広い視野を育てるために「仏教の思想」を学ぶ。

一つの固定的なものの見方を離れ、柔軟で、幅広い考え方や生き方が開かれるように、「仏教の思想」を学ぶ。

５．現代世界のあり方を考える思想として「仏教の思想」を学ぶ。

戦争・差別・貧困・犯罪など、世界の各地で現実に起きている問題と向きあい、どのように解決したらよいかについて考える。

６．いのちのかけがえのなさに目覚め、異なる意見と対話・交流しあえるような姿勢を培うために、「仏教の思想」を学ぶ。

いのちに関わる現代の諸問題　生命倫理や地球環境など　を積極的に見つめる。仏教は、一つひとつの存在が無限の意味と尊さをもって輝いていると伝えてきた。さまざまな執着や偏見をとりはらい、相手の幸せを願い、相手の痛みをともに分かちあおうとする共感を養う。

７．「仏教の思想」を通して、龍谷大学の建学の精神を学ぶ。

龍谷大学は、シルクロードコレクションなどの世界的に貴重な古典籍を有する大学である。1639 年創設以来からの、龍谷大学の仏教の先進性と歴史的伝統を、建学の精神を学ぶことを通して理解し、龍谷大学を愛する学生を育てる。

講義の概要

「仏教の思想 A」講義の概要

「仏教の思想」の教育目標を、以下に示す講義の計画全体に盛り込みながら、教員からの一方的な講義にならないよう、学生一人ひとりの声に耳を傾け、視聴覚教材も活用して講義を展開します。

仏教の思想 A

「仏教の思想 A」では、釈尊の生涯と思想を中心に、以下の授業計画で進めます。

1．人間と宗教――カルトや原理主義・宗教の意義

2．神々と仏――民族宗教・世界宗教（キリスト教・イスラム教・仏教）

3．あるがままに見る眼――智慧・如実知見・四諦・三法印

4．いのちあるものすべてへの慈愛――慈悲・非暴力

5．自己中心的に考える人間存在――煩悩・我執・四苦八苦

6．支えあってつながっている宇宙――縁起の理法・空・無我

7．仏教の思想と龍谷大学の建学の精神

仏教の思想Ａ

【担当】若原　雄昭
【開講】前期　水１

■講義方法
特定のテクストは用いない。レジュメや参考資料のプリントを毎回配布し、口頭説明と板書による通常の講義形式で授業を進める。またVCRなどの視聴覚教材も適宜使用する。

■成績評価の方法
平常点（30%）　出席と小レポートなど
定期試験（70%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①龍谷大学の沿革と建学の精神
②インド史概観と仏教史の時代区分
③仏教以前－固有信仰とインドアーリヤンの宗教
④初期仏教（仏陀の生涯と思想）①－家系と誕生
⑤　〃　②－求道の日々
⑥　〃　③－成道
⑦　〃　④－最初の説法（初転法輪）
⑧　〃　⑤－布教伝道と弟子たち
⑨　〃　⑥－晩年と入滅
⑩中期仏教①－部派仏教とその思想
⑪　〃　②－大乗仏教の出現
⑫　〃　③－大乗仏教の理念
⑬　〃　④－浄土経典の思想
⑭仏教の伝播とアジア諸地域の仏教

講義の概要

「仏教の思想 B」講義の概要

「仏教の思想」の教育目標を、以下に示す講義の計画全体に盛り込みながら、教員からの一方的な講義にならないよう、学生一人ひとりの声に耳を傾け、視聴覚教材も活用して講義を展開します。

仏教の思想 B

「仏教の思想 B」では、親鸞の生涯と思想を中心に、以下の授業計画で進めます。

1．鎌倉仏教の位置と特質――法然・親鸞・道元・日蓮・一遍

2．真実の探求――老少善悪を問わず・易行・わけへだてのない安らぎの道

3．自己を徹底的に見つめる――悪人正機・煩悩具足の凡夫・罪悪深重

4．現実世界への凝視と安らぎへの願い――火宅無常の世界・欣求浄土・世のなか安隠なれ

5．あるがままで受け容れられる世界――摂取不捨・阿弥陀仏の本願・自力と他力

6．あらゆるものは輝いている――白色白光・御同朋御同行・他者の尊重

7．親鸞の思想と龍谷大学の建学の精神

仏教の思想B

【担当】若原　雄昭
【開講】後期　水1

■講義方法
特定のテクストは用いない。レジュメや参考資料のプリントを毎回配布し、口頭説明と板書による通常の講義形式で授業を進める。またVTRなどの視聴覚教材も適宜使用する。

■成績評価の方法
平常点（30%）　出席と小レポートなど
定期試験（70%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①中国仏教史概観と中国浄土教①
②　〃　②
③　〃　③
④日本仏教史概観と日本浄土教①
⑤　〃　②
⑥　〃　③
⑦法然の生涯と思想①
⑧　〃　②
⑨親鸞の生涯と思想①
⑩　〃　②
⑪　〃　③
⑫　〃　④
⑬蓮如の生涯と思想
⑭近代日本の仏教者たち

文学入門（2003年度以降入学生）
文学（2002年度以前入学生）

【担当】大槻　志郎
【開講】前期　水３

■サブタイトル
物語の誘惑

■講義概要
ある物語が面白いと感じるのはなぜなのか。ある言葉が魅力的に輝くのはなぜなのか。おそらくこれまでは漠然と、文学、小説、物語に接してきた学生諸君に、文学を理解するための諸々の知的枠組み（知識、体系、視点）を紹介し、それによって新たな目で文学を捉え、より深く面白く味わえるようにするのが狙い。その過程で、道具となる様々な考え方はもちろん、必要に応じて専門用語も導入し、また例として学生にとって面白いのではないかという諸作品をも紹介したい。講師の専門が英文学ということもあって、対象は日本文学に限らず広く翻訳も含める。詩も取り上げるものの、何よりも物語の魅力を焦点とするため、ジャンルとしては主に小説を扱う。また映画など、文学以外の物語形式にも多く言及することになる。

■到達目標
文学作品を、より知的に、より深く、より楽しく、味わうためのノウハウを身につける
文学という広く豊かな世界への意識を養う

■講義方法
受講者数にもよるが、授業計画に基づく理論的な講義と、実際に文学作品を読み解く作業とを併せて取り入れたい。細かいレベルで考えられるように、作品は短編を中心に扱う。出欠状況の確認も兼ねて、毎回講義の終わりに、簡単に感想、質問などを書いてもらうほか、作品分析などで課題の提出を求めることがある。

■成績評価の方法
平常点（40%）　講義末に書いてもらうコメントや課題の提出状況と内容
定期試験（60%）　講義内容に関する選択問題、論述問題など
試験と平常成績を総合的に評価する。3分の1以上欠席の場合は原則として評価は0点とする。

■テキスト
使用せず。適宜プリント配布。

■参考文献
中条省平『小説の解剖学（ちくま文庫）』筑摩書房　798円
廣野由美子『批評理論入門―『フランケンシュタイン』解剖講義（中公新書）』中央公論社　780円

■履修上の注意・担当者からの一言
文学の世界をもっと知りたい、より理解したい、という意欲のある受講者を念頭に、講師も受講生も労力は大きいが収穫も多い、という講義をめざす。したがって楽に単位が取れればいいというだけの人には向かない。受講者数によって座席指定をする場合があり、また私語が目立つ受講生には、随時、退出を求めたり以後の受講を認めないことがある。なお、物語についての講義となると、取り上げる小説などについての、いわゆる「ネタばれ」は多少とも避けられない。なるべく配慮はするが、あらかじめ了解の上受講のこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
水曜または金曜の4講時。ただしいずれも会議の場合を除く。2-315研究室。希望者にはメールで連絡を取る他、eLeaningサイトを開設予定。

■講義計画
①序説―文学は死んだか？
②詩の言葉、言葉の詩
③ジャンル・タイプ・intertextuality
④幻想という名の真実
⑤言葉の裏を読む
⑥象徴の成立
⑦構造と対立
⑧アイロニー
⑨作者・作品・読者
⑩曖昧と解釈の問題
⑪文学と時間
⑫名前の文化論
⑬旅のモチーフ
⑭実践分析批評
⑮＊以上は、講義項目の流れを示したもので、必ずしも回毎の内容ではない。1-13の項目に14を絡めてゆくのが基本スタイルである。

文学入門（2003年度以降入学生）
文学（2002年度以前入学生）

【担当】嶋崎　陽一
【開講】前期　月２

■サブタイトル
ブンガクはなぜあんなにつまらないか？あるいはなぜこんなに面白いか？

■講義概要
宿題で読書感想文を書かされ、観たいテレビもがまんして嫌いな作文を書かされたせいで読書が嫌いになった方は多いでしょう。おまけに、今の世の中、ケータイでもネットでも、本を読むより楽しいことはいくらでもあります。それなのになぜ本を読まなければならないのか？それもよりによってブンガクだなんて！しかし、実はブンガクこそが、私たちの住んでいる世界を作る力・ひっくり返す力を持っているのです。本講義は、そうしたブンガクの力についての入門です。

■到達目標
ただひたすら楽しいはずの文学を読むという行為を認識する。

■講義方法
毎回テーマを決めて数冊の本を採り上げ、講義形式で解説する。

■成績評価の方法
レポート（100%）
ただし、授業内容に関するものとなるので、出席は重要である。

■テキスト
特になし

■参考文献
授業中に指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言
特に出席はとらないが、レポート課題は講義でとりあげたテーマに沿って出される。留意されたい。

■講義計画
①以下に挙げる作品を採り上げる予定である。（順不同）
②池上永一《シャングリ・ラ》
③古川日出男《ベルカよ、吠えないのか》
④宮部みゆき《理由》
⑤津原泰水《ブラバン》
⑥澁澤龍彦《高丘親王航海記》
⑦ジェイムズ・ジョイス《フィネガンズ・ウェイク》
⑧筒井康隆《虚構船団》
⑨村上春樹《ダンス・ダンス・ダンス》
⑩梨木香歩《沼地のある森を抜けて》
⑪山田風太郎《甲賀忍法帖》
⑫松浦寿輝《川の光》
⑬ブラム・ストーカー《ドラキュラ》

文学入門（2003年度以降入学生）
文学（2002年度以前入学生）

【担当】森脇　正史
【開講】後期　木３

■サブタイトル
あいまいな言葉の力、不完全な虚構の自由

■講義概要
何が文字の羅列や言葉のかたまりを文学作品にするのだろうか？この授業では、文学作品を読む際に暗黙に受け入れているような前提を問い直すことで、文学（という現象）の成立過程を（疑いつつ）考察する。授業の大半は、文学の定義や境界線に関する概論である。身近な話題や文芸誌の対談などから出発し、文学用語や作品を紹介しながら講義を進めていく。終盤の回では、特定の作品を扱って作品論を実践する。

■到達目標
・文学に関する問題や作品に触れることで､そのどれか(できるだけ多く)に「ひっかかる」こと。
・文学についてあれこれ考えることで、他の領域の事柄にも応用できるような批評的思考力を見につけること。

■講義方法
基本的に、プリント教材を参照しながら担当教員が話を進める講義形式をとる。(設備があれば）映像機器も使いたい。中心的な考察の対象にするのは日本の現代文学で、文字で書かれたテクストを扱うが、理解の助けになるように補助的に映画や音楽、美術など他の分野の作品を手がかりにすることもある。レスポンス・ペーパーなどを利用して受講者のコメントを集める。

■成績評価の方法
平常点（30%）　授業への参加姿勢
レポート（70%）　授業で扱ったテーマ、または指定した作品に関する論考を最終授業で提出。書き方、独創性、説得力を評価対象とする。

■テキスト
特になし

■参考文献
小笠原喜康『大学生のためのレポート・論文術』講談社　714円
ジョナサン・カラー『1冊でわかる文学理論』岩波書店　1470円
参考文献は受講する上で特に必須のものではありませんが、1冊目はレポートを作成する上で非常に便利な本ですので持っておくと良いと思います。レポートの書式や調査方法、執筆手順に関する情報が載っています。2冊目は興味があれば拾い読みでもいいので読んでみて下さい。もちろん、これだけでは文学理論はわかりませんし、この1冊自体がわからない可能性が高いかもしれませんが、それでいいのです。頭の中に「？」を作ることから始まります。

■履修上の注意・担当者からの一言
特に文学に関心を持っていなくても構いませんが、本を読むことが好きな（好きになりたい）人、非実用的なことを非生産的に（だが一生懸命）考えることが好きな（好きになりたい）人に受講していただければ幸いです。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
木曜日の授業後、15時～17時。ただし学内にオフィスを持っていないので何らかの共有スペースを利用して対応することになります。その他に連絡用のメールアドレスを授業の最初にお知らせしますので利用して下さい。

■講義計画
①文学という言葉の意味を考える
②小説と詩はどこが違う（と思う）か？
③文学的な言葉というのは存在するか？
④純文学は純粋か？
⑤軽いことは悪いことか？
⑥嘘の世界を信じること
⑦自分から嘘だと暴露すること
⑧本当に嘘なのか、本当に本当なのか？
⑨誰が語っているのか？
⑩影響関係を考える
⑪作品論（１）
⑫作品論（２）
⑬作品論（３）
⑭まとめ

法学入門

【担当】時本　義昭
【開講】前期　月３

■サブタイトル
日常生活と法

■講義概要
わが国では、明治維新以来、欧米の法制度を積極的に導入してきた結果、現在、社会生活のすみずみまで法の網の目が張りめぐらされ、近代的法制度は一応完備されているといってよい。さらに、敗戦に伴う日本国憲法の制定（とくに社会権の保障）・環境問題・高齢化社会の到来などによって、現在のわが国の法制度は世界の最先端に位置しているといっても過言ではない。このように複雑な現在の日本社会で生活してゆくためには、法に関する基本的な知識が不可欠である。そこで本講義では、日常生活にとって必要不可欠な法的知識について、財産関係と家族関係を中心に説明したい。

■到達目標
基本的な法的思考を身につけること

■講義方法
原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。

■成績評価の方法
定期試験（100%）　学期末の定期試験

■テキスト
※特に指定しない。

■参考文献
佐藤幸治他編『デイリー六法平成21年版』三省堂
※プリント使用

■履修上の注意・担当者からの一言
六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。

■講義計画
①基礎知識（法の種類）
②日本国憲法の基本原理
③日本国憲法の保障する人権
④日常生活と契約Ⅰ（契約とその主体）
⑤日常生活と契約Ⅱ（動産と不動産）
⑥日常生活と契約Ⅲ（金銭と保証）
⑦日常生活とアクシデント
⑧雇用と法
⑨家族関係Ⅰ（夫婦と親子）
⑩家族関係Ⅱ（相続）
⑪犯罪と法Ⅰ（刑法の基本原理）
⑫犯罪と法Ⅱ（犯罪の成立）
⑬行政と法
⑭裁判員制度Ⅰ
⑮裁判員制度Ⅱ

法学入門

【担当】時本　義昭
【開講】前期　月1

■サブタイトル
日常生活と法

■講義概要
わが国では、明治維新以来、欧米の法制度を積極的に導入してきた結果、現在、社会生活のすみずみまで法の網の目が張りめぐらされ、近代的法制度は一応完備されているといってよい。さらに、敗戦に伴う日本国憲法の制定（とくに社会権の保障）・環境問題・高齢化社会の到来などによって、現在のわが国の法制度は世界の最先端に位置しているといっても過言ではない。このように複雑な現在の日本社会で生活してゆくためには、法に関する基本的な知識が不可欠である。そこで本講義では、日常生活にとって必要不可欠な法的知識について、財産関係と家族関係を中心に説明したい。

■到達目標
基本的な法的思考を身につけること

■講義方法
原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。

■成績評価の方法
定期試験（100%）　学期末の定期試験

■テキスト
※特に指定しない。

■参考文献
佐藤幸治他編『デイリー六法平成21年版』三省堂
※プリント使用

■履修上の注意・担当者からの一言
六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。

■講義計画
①基礎知識（法の種類）
②日本国憲法の基本原理
③日本国憲法の保障する人権
④日常生活と契約Ⅰ（契約とその主体）
⑤日常生活と契約Ⅱ（動産と不動産）
⑥日常生活と契約Ⅲ（金銭と保証）
⑦日常生活とアクシデント
⑧雇用と法
⑨家族関係Ⅰ（夫婦と親子）
⑩家族関係Ⅱ（相続）
⑪犯罪と法Ⅰ（刑法の基本原理）
⑫犯罪と法Ⅱ（犯罪の成立）
⑬行政と法
⑭裁判員制度Ⅰ
⑮裁判員制度Ⅱ

倫理学入門

【担当】菊地　建至
【開講】後期　水３

■サブタイトル
「現代社会の」倫理学入門

■講義概要
・他人に明確な損害を与えたり自分が罰っせられたりさえしなければ、「倫理」がどうであれ、何をしてもよいと主張する人がいる。他方、親、教師、宗教、伝統などの拘束に従順な人や、流行、仲間の意見や周囲からの評価が気になってしかたがない人がいる。さらに、自分の生を自分の仕方で充実させたいと願うとき、人は「私的な領域の拡張」や「科学技術の進展」に盲信的な期待をしがちだ。「倫理学」を学び、これらいずれに対してもそれ（だけ）でよいのかとじっくり考えるのは、大学生として有意義なことだろう。
・ほんとうに「自由な」社会であるためには、なんの規制もない場合よりも、いくつかの「きまり」・「制度」や「社会的協力」があった方がよいということもあるだろう。「自由な社会の倫理学」を学び、いろいろ自分で考えたり、人と話したり、自分の成長を実感できるだろう。
・「自由な社会」においても、人と人のかかわり、「コミュニケーション」を「（より）よい」ものにするのは何かという問いは重要だ。「倫理学」の視角から、「会話や理解の基礎」、「他者の尊重」、「ケア」など、多面的に、そうした問題に取り組むことができる。
・「あたりまえ」や「しかたない」と思っていることを見直し、他者・政治経済・科学技術へのかかわりの新たな可能性に気づくことは、「倫理学入門」の楽しみのひとつとなるだろう。
・受講生にとって、上記のきっかけとなる、またさまざまなことについて「倫理学的に」考え話し合うきっかけとなる、「入門」講義にしたい。

■到達目標
・現代社会において、とくに「自由な社会（リベラリズム）」であるはずの日本社会において、「倫理学」はどのように生かされるか、このことについての理解を深めるとともに、日常の生活や社会の諸問題に関して「倫理学的に」考え表現する仕方の基本を身につける。

■講義方法
・講義形式。下記の両面をバランスよく組み合わせたものにする。これまでのところ「楽しかった」・「興味をもてた」と言ってくれる受講生が多いが、楽して単位がとれればよいと考える人には向かない授業だと思う。
・「映像資料（映画やテレビ番組）」をよく活用し、具体的に「倫理学」に取り組める工夫をする。
・「テキスト」や「読解資料」を読んだり、受講者が文章を書いたりする機会もある。
・ほぼ毎回「レジュメ」を配付するが、原則として欠席者は「次回授業でのみ」それを受け取ることができる。（もちろん、いわゆる「公欠」扱いの人や「長期入院」などの場合は、別扱いです。）連続欠席をすると、授業内容の理解が難しくなるのは当然だが、こういう点でも困ることになる。積極的に、授業参加しよう。

■成績評価の方法
平常点（40%）［基本的に、授業内でのみ通知する］数回の課題・復習小テストにより評価する。
定期試験（60%）
下段「履修上の注意・担当者からの一言」にも記したが、受講者数によっては「出席」をとることができるかもしれない。その場合には、定期試験の配点の一部を「出席点」とすることになる。

■テキスト
A.ウエストン『ここからはじまる倫理』春秋社
・もちろん授業内で使用することもあるが、テキストをただ順に読み上げるようなことはしない。テキストは、「予習・復習」や「課題」などにも使う予定です。
・テキストのほかに、必要な範囲で「読解資料」を配付することがある。

■参考文献
授業で、そのつど紹介する。ぜひ、積極的に読んでほしい。

■履修上の注意・担当者からの一言
・受講者数が多くて毎回出席確認することに困難が多いと判断すれば、出席はとらない。この点は、初回授業で、決定する。しかし、いずれにしても、継続的な「授業参加」と「復習」がなければ高得点は望めないだろう。
・また、倫理学の実践にとって、「よく聞くこと」や「ていねいに考えること」を続けることは欠かせない。受講者ひとりひとりが集中して授業にのぞめるような授業環境づくりに協力することを求めます。その点では、厳しい授業です。
・授業内容は、身近なテーマ、重要な社会問題、「映像資料」などを扱うことも多く、楽しく学べるものにしたいと思います。

■講義計画
①ガイダンス
②なぜ「倫理」について知ることが重要か
③人と人の「よりよいコミュニケーション」---1
④「自由な社会（リベラリズム）の」倫理学入門
⑤「生殖医療・技術」や「エンハンスメント」について「倫理学的に」考えよう
⑥人と人の「よりよいコミュニケーション」---2
⑦予備日および「まとめ」・「課題」関連
⑧以上、順不同。

歴史入門

【担当】佐野　東生
【開講】後期　金2

■サブタイトル
西アジアの歴史と文化
■講義概要
西アジアは多様な民族・宗教・文化が交流する地域として長い歴史を有している。この講義では、史料を主体とした歴史学の基礎を理解した上で、イスラーム史を中心に西洋との関係の中で近代に至るまで概観する。前イスラーム期の西アジア地域について述べたのち、イスラーム世界の歴史的文化交流、近世イスラーム世界について解説する。その上で、近現代史について西洋の進出とそれへの対応の視野から見ていくことになる。
■到達目標
中東とも呼ばれる西アジア地域の現代の情勢を考察する上で、歴史的理解の必要性を認識すること。
■講義方法
講義形式で、日本語に訳された史料を配布し、講読する。ビデオなど視覚教材を適宜使用。
■成績評価の方法
平常点（20%）　質問票（出席票にもなる）を最低1回書く。
小テスト（20%）　1回実施する。
定期試験（60%）
■テキスト
特になし
■参考文献
前嶋信次『イスラムの時代』講談社学術文庫　1365円
■履修上の注意・担当者からの一言
西アジア史に関する書籍は多いので、講義とともに読む習慣を身に着けてもらいたい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義中に指示
■講義計画
①歴史学の方法１
②歴史学の方法２
③古代の西アジア１
④古代の西アジア２
⑤イスラームの成立・拡大
⑥イスラーム帝国の文化
⑦イスラーム世界の交流１
⑧イスラーム世界の交流２
⑨近世のイスラーム世界１
⑩近世のイスラーム世界２
⑪帝国主義の時代１
⑫帝国主義の時代２
⑬中東情勢
⑭まとめ

歴史入門

【担当】松原　廣志
【開講】前期　水2

■サブタイトル
20世紀の歴史的理解
■講義概要
20世紀は「戦争と革命の世紀」とよばれ、2度にわたる世界戦争、米ソに代表される資本主義と社会主義との対立をめぐって世界が動いた。このような動向は歴史的にどのように発生し、展開し、そして終焉をむかえたか。そして対立の終焉以後、世界はどのような問題をかかえて新しい世紀へと歩みだしたか.。以上のような問いを、欧米を中心として検証する。
■到達目標
現代世界の歴史的理解
■講義方法
テキストは使わず、パワーポイントにより視覚的にも理解を図る。また必要に応じて印刷資料を配布する。
■成績評価の方法
平常点（15%）　講義テーマに即したまとめ提出3回
定期試験（85%）　800字以上での論述中心
■テキスト
特になし
■参考文献
大下尚一他『西洋の歴史　近現代編』ミネルヴァ書房
和田春樹『歴史としての社会主義』岩波書店
藤本和貴夫・松原広志『ロシア近現代史』ミネルヴァ書房
参考文献は上記以外にも講義テーマに応じて紹介する。
■履修上の注意・担当者からの一言
高校世界史のレベルを超えて：歴史と取り組むこととは、固定した教科書の記述を”暗記する”ことではない。いままで疑いも余地のない事実と思われていた事柄が、突然まったく異なって見えてくるということが生じることがある。そのようなことに対する驚き・疑問・理解の試みから自分の問いを"発見”し、証拠=資料をふまえて自分の頭で考え、文書に表現する。これが歴史の"探求”につながるのである。歴史像がどのようにつくられ、どのように見直しできるかを考えようという受講者を期待する。
■講義計画
①はじめに
②近代資本主義社会の成立
③近代資本主義社会への批判
④第1次世界大戦とロシア革命　①
⑤　〃　②
⑥　〃　③
⑦　〃　④まとめ
⑧戦間期　①
⑨　〃　②
⑩　〃　③まとめ
⑪第2次世界大戦と冷戦①
⑫　〃　②
⑬　〃　③まとめ
⑭おわりに

論理学入門

【担当】中谷　隆雄
【開講】前期　月３

■サブタイトル
練習して身につく論理学
■講義概要
講義のテーマは「推論」である。私たちの思考や議論には、さまざまの形で、推論というものが含まれている。推論とはどういうものか。定義すれば、それは、「前提から結論を導き出すこと」ということになる。推論には長くて複雑なものもある。しかし、たとえば、「・・・だから、・・・である」という言い方をするときも、私たちは「前提から結論を導き出」そうとしている。これも推論である。ただ、推論をしているからといって、必ずしも正しい推論をしているとはかぎらない。推論には正しいものもあれば、まちがったものもある。ならば、推論が正しいとはどういうことか。どういう推論が正しくて、どういう推論が正しくないのか。講義では、こうしたことについて考えていきたい。
■到達目標
弁論の技術をみがくよりは、むしろ思考の能力を高めることを目指す。つまり、他人との議論に対処する技術ではなく、自分自身の日々の思考あるいは発言が論理的に正しいかどうか（辻褄があっているかどうか）を吟味する力を高めていく。
■講義方法
推論が正しいか否かを判定するために記号を使う。記号に慣れるために、教壇から説明するだけではなく、講義時間中に各自で練習問題を解いてもらう。そうすれば、効果的に、推理を判定する方法がマスターできるはずである。
■成績評価の方法
評価は主として定期試験によって評価する
定期試験約80点（80％）、平常点約20点（20％）
■テキスト
飯田賢一他著『論理学の基礎』昭和堂　2000円
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてほしい。
■講義計画
①論理とは何か
②推論の最小単位としての命題（文）・命題を否定する語（ない）
③命題と命題を結ぶ語（そして）
④命題と命題を結ぶ語（あるいは）
⑤命題と命題を結ぶ語（ならば）
⑥命題と命題を結ぶ語（双条件）
⑦常に真な命題；表による判定
⑧常に真な命題；図による判定
⑨推論の妥当性；表による判定
⑩推論の妥当性；図による判定
⑪ルールによる推論の証明（1）（そして）
⑫ルールによる推論の証明（2）（ならば）
⑬ルールによる推論の証明（3）（ない）
⑭総復習

論理学入門

【担当】中谷　隆雄
【開講】後期　月３

■サブタイトル
練習して身につく論理学
■講義概要
講義のテーマは「推論」である。私たちの思考や議論には、さまざまの形で、推論というものが含まれている。推論とはどういうものか。定義すれば、それは、「前提から結論を導き出すこと」ということになる。推論には長くて複雑なものもある。しかし、たとえば、「・・・だから、・・・である」という言い方をするときも、私たちは「前提から結論を導き出」そうとしている。これも推論である。ただ、推論をしているからといって、必ずしも正しい推論をしているとはかぎらない。推論には正しいものもあれば、まちがったものもある。ならば、推論が正しいとはどういうことか。どういう推論が正しくて、どういう推論が正しくないのか。講義では、こうしたことについて考えていきたい。
■到達目標
弁論の技術をみがくよりは、むしろ思考の能力を高めることを目指す。つまり、他人との議論に対処する技術ではなく、自分自身の日々の思考あるいは発言が論理的に正しいかどうか（辻褄があっているかどうか）を吟味する力を高めていく。
■講義方法
推論が正しいか否かを判定するために記号を使う。記号に慣れるために、教壇から説明するだけではなく、講義時間中に各自で練習問題を解いてもらう。そうすれば、効果的に、推理を判定する方法がマスターできるはずである。
■成績評価の方法
主として定期試験によって評価する。
定期試験約80点（80％）、平常点約20点（20％）
■テキスト
飯田賢一他著『論理学の基礎』昭和堂　2000円
改定の予定があるので、テキストは後期になってから購入すること
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
能動的な姿勢で講義に出席するよう心がけてほしい。
■講義計画
①論理とは何か
②推論の最小単位としての命題（文）・命題を否定する語（ない）
③命題と命題を結ぶ語（そして）
④命題と命題を結ぶ語（あるいは）
⑤命題と命題を結ぶ語（ならば）
⑥命題と命題を結ぶ語（双条件）
⑦常に真な命題；表による判定
⑧常に真な命題；図による判定
⑨推論の妥当性；表による判定
⑩推論の妥当性；図による判定
⑪ルールによる推論の証明（1）（そして）
⑫ルールによる推論の証明（2）（ならば）
⑬ルールによる推論の証明（3）（ない）総復習
⑭総復習

教養教育科目（共同開講科目）（共通科目）

（総　合　科　目）

カナ	科目名	担当者	ページ
ア	アジアの文化	石坂　晋哉	165
	アジアの文化	徐　光輝	165
	アジアの文化	徐　光輝	166
	アジアの文化	ケント　ポーリン	166
オ	欧米の文化	大槻　志郎	167
	欧米の文化	サルズ・ジョーナ・I	168
	欧米の文化	永井　達夫	169
	欧米の文化	村澤　真保呂	169
カ	海外英語研修	イエニク・S・C	170
	科学技術史	堀川　武	170
	科学技術史	松下　隆之	171
	環境と人間A	河合　富佐子	171
	環境と人間A	竺　文彦	172
	環境と人間B	尾鍋　智子	172
	環境と人間B	鈴木　滋	173
	環境と倫理	菊地　建至	174
キ	教養教育科目特別講義A／共同開講科目特別講義／共通科目特別講義	宮浦 富保/石垣 智基, 占部 武生/岸本 直之/鈴木 龍也/田中 滋/林 珠乃/丸山 徳次/遊磨 正秀/横田 岳人	175
	教養教育科目特別講義B	山中　聡	175
ケ	健康とスポーツ	渡辺　英児	176
	現代社会と宗教	辻　虎志	176
	現代社会とスポーツ	辻　延浩	177
	現代社会と福祉／高齢化社会と福祉	池田　省三	177
	現代社会とマス・メディア	西村　敏雄	178
	現代の技術／現代技術論	大塚　尚武／松下　隆之	178
コ	国際社会と日本A	松原　廣志	179
	国際社会と日本B	アイスン　ウヤル	179
	国際社会と日本C	藤本　龍児	180
シ	自然観察法	宮浦　富保／遊磨　正秀	180
	ジェンダー論	山下　明子	181

カナ	科目名	担当者	ページ
シ	ジェンダー論	山下　明子	181
	ジェンダー論	山下　明子	182
	情報社会とメディア	野村　竜也／三浦　雅展	182
	情報社会とメディア	野村　竜也／三浦　雅展	183
	情報と人間	村田　正	183
	情報倫理	野村　竜也／芝原　努	184
	人権論A／人権論I	岸　衛	184
	人権論A／人権論I	妻木　進吾	185
	人権論A／人権論I	中川　ユリ子	185
	人権論A／人権論I	松本　城洲夫	186
	人権論A／人権論I	松本　城洲夫	186
	人権論B／人権論II	岸　衛	187
	人権論B／人権論II	妻木　進吾	187
	人権論B／人権論II	中川　ユリ子	188
	人権論B／人権論II	松本　城洲夫	188
	人権論B／人権論II	松本　城洲夫	189
ス	スポーツ文化論	松下　唯夫	189
セ	生活の中の宗教	寺本　知正	190
	生命と共生	柿本　佳美	190
	生命と共生	柿本　佳美	191
	世界の福祉	太谷　亜由美	191
タ	歎異抄の思想I	殿内　恒	192
	歎異抄の思想II	殿内　恒	192
	大学生入門	山本　哲司	193
	大学生入門	山本　哲司	193
ニ	日本の文化	ケント　ポーリン	194
	人間と社会と法	時本　義昭	194
ヘ	平和学入門／平和論	清水　耕介	195
メ	メディアにみる福祉	高田　敏司	195

アジアの文化

【担当】石坂　晋哉
【開講】後期　水２

■サブタイトル
人文・社会科学の古典に学ぶ「アジアの文化」
■講義概要
アジアの文化はさまざまな学問分野においてさまざまに研究されてきた。このコースでは、人文・社会科学の諸専門分野における古典的研究のなかで「アジアの文化」がどのように捉えられてきたかを学ぶ。授業では毎回、それぞれの専門分野における「アジアの文化」をめぐる代表的研究を取り上げ、その内容と特徴を紹介する。
■到達目標
「アジアの文化」に対する誠実でバランスのとれた見方ができるようになること。
■講義方法
パワーポイントによる講義。映像等も使用する。
■成績評価の方法
平常点（40%）
定期試験（60%）
■テキスト
授業中にコピーを配布する。
■参考文献
長崎暢子・山内昌之編『現代アジア論の名著』中央公論社
授業中に適宜指示する。
■講義計画
①ガイダンス
②社会学における「アジアの文化」―マックス・ヴェーバーの研究をめぐって
③文学研究における「アジアの文化」―エドワード・サイードの研究をめぐって
④人類学における「アジアの文化」―クリフォード・ギアツの研究をめぐって
⑤政治学における「アジアの文化」(1) ―ベネディクト・アンダーソンの研究をめぐって
⑥経済学における「アジアの文化」―ジェームス・スコットの研究をめぐって
⑦歴史学における「アジアの文化」―サバルタン研究グループをめぐって
⑧精神分析における「アジアの文化」―アシス・ナンディの研究をめぐって
⑨民際学における「アジアの文化」―鶴見良行の研究をめぐって
⑩国際文化学における「アジアの文化」
⑪国際政治経済学における「アジアの文化」
⑫政治学における「アジアの文化」(2)
⑬地域研究における「アジアの文化」
⑭まとめ

アジアの文化

【担当】徐　光輝
【開講】前期　木４

■サブタイトル
中国歴史文化概説
■講義概要
考古学発掘調査によれば、中国文明のあけぼのは遅くとも5000年前の新石器時代後期にさかのぼる。畑作や水田稲作に代表される農耕文化の発展に伴って、各地に城郭都市の原型が現われ、地域初期国家の胎動が注目を浴びており、従来疑われてきた「三皇五帝」などの文献資料の虚実が再検討されるようになった。
　このような先史文明を土台に、夏・商（殷）・周のような古代国家が各地で興亡を繰り返し、春秋戦国時代を経て、秦漢帝国が登場した。とりわけ城郭都市、文字、百家思想、金属器（青銅器、鉄器）文化、郡県制度が注目される。
　後漢末に起きた「黄巾の乱」を経て、魏、蜀、呉といった三国時代に入るが、西晋王朝によって再び統一された。南北朝時代の民族大融合のなかで、地域文化交流が活発になり、絢爛たる六朝文化、北朝文化が栄え、朝鮮半島や日本列島との文化交流を裏付ける考古発見も多い。
　隋唐時代には東西文化交流が更に盛んになり、科学技術、経済、文化、芸術などの分野において大きく発達した。朝鮮半島や日本列島との文化交流も頻繁に行われた。
■到達目標
隋唐時代に至る中国歴史文化の主な流れを知り、また朝鮮半島や日本列島との比較研究の一助になってほしい。
■講義方法
時代順に概説するが、パワーポイント、ビデオなどによる映像資料を常に使う。
■系統的履修
アジアの歴史文化に関する科目を多く履修してほしい。
■成績評価の方法
平常点（10%）　出席率や受講態度等を重視する
小テスト（20%）　点数により評価する
レポート（20%）　内容により評価する
定期試験（50%）　点数により評価する
■テキスト
特になし
■参考文献
尾形勇・岸本美緒編『中国史（新版世界各国史３）』山川出版社　1998　3500円
小澤正人・谷豊信・西江清高著『中国の考古学（世界の考古学７）』同成社　1999　3200円
■講義計画
①はじめに
②中国文明のあけぼの（黄河流域）
③中国文明のあけぼの（長江流域）
④中国文明のあけぼの（西遼河流域）
⑤考古学上の夏王朝、夏文化の実体
⑥殷周王朝と都城遺跡の考古発見
⑦春秋戦国時代の百家思想
⑧秦の統一と始皇帝陵の考古発見
⑨漢王朝と長安城、洛陽城の考古発見
⑩魏晋王朝と陳寿の『魏志倭人伝』
⑪南北朝時代の民族大融合
⑫宗教文化の発展と伝播
⑬隋唐帝国の成立と繁栄
⑭まとめ

アジアの文化

【担当】徐　光輝
【開講】後期　木４

■サブタイトル
中国歴史文化概説
■講義概要
考古学発掘調査によれば、中国文明のあけぼのは遅くとも5000年前の新石器時代後期にさかのぼる。畑作や水田稲作に代表される農耕文化の発展に伴って、各地に城郭都市の原型が現われ、地域初期国家の胎動が注目を浴びており、従来疑われてきた「三皇五帝」などの文献資料の虚実が再検討されるようになった。
　このような先史文明を土台に、夏・商（殷）・周のような古代国家が各地で興亡を繰り返し、春秋戦国時代を経て、秦漢帝国が登場した。とりわけ城郭都市、文字、百家思想、金属器（青銅器、鉄器）文化、郡県制度が注目される。
　後漢末に起きた「黄巾の乱」を経て、魏、蜀、呉といった三国時代に入るが、西晋王朝によって再び統一された。南北朝時代の民族大融合のなかで、地域文化交流が活発になり、絢爛たる六朝文化、北朝文化が栄え、朝鮮半島や日本列島との文化交流を裏付ける考古発見も多い。
　隋唐時代には東西文化交流が更に盛んになり、科学技術、経済、文化、芸術などの分野において大きく発達した。朝鮮半島や日本列島との文化交流も頻繁に行われた。
■到達目標
隋唐時代に至る中国歴史文化の主な流れを知り、また朝鮮半島や日本列島との比較研究の一助になってほしい。
■講義方法
時代順に概説するが、パワーポイント、ビデオなどによる映像資料を常に使う。
■成績評価の方法
平常点（10%）　出席率や受講態度等を重視する
小テスト（20%）　点数により評価する
レポート（20%）　内容により評価する
定期試験（50%）　点数により評価する
■テキスト
特になし
■参考文献
尾形勇・岸本美緒編『中国史（新版世界各国史３）』山川出版社　1998　3500円
小澤正人・谷豊信・西江清高著『中国の考古学（世界の考古学７）』同成社　1999　3200円
■履修上の注意・担当者からの一言
アジアの歴史文化に関する科目を多く履修してほしい。
■講義計画
①はじめに
②中国文明のあけぼの（黄河流域）
③中国文明のあけぼの（長江流域）
④中国文明のあけぼの（西遼河流域）
⑤考古学上の夏王朝、夏文化の実体
⑥殷周王朝と都城遺跡の考古発見
⑦春秋戦国時代の百家思想
⑧秦の統一と始皇帝陵の考古発見
⑨漢王朝と長安城、洛陽城の考古発見
⑩魏晋王朝と陳寿の『魏志倭人伝』
⑪南北朝時代の民族大融合
⑫宗教文化の発展と伝播
⑬隋唐帝国の成立と繁栄
⑭まとめ

アジアの文化

【担当】ケント　ポーリン
【開講】前期　水１

■サブタイトル
オーストラリアの国家形成過程
■講義概要
オーストラリアは比較的若い国で、歴史が浅いといわれる。反面に、土地として最も古い大陸で、そこで最も古い文化をもつアボリジニが何万年も同じ文化を維持しながら生活をしてきた。近代国家として、国の形成の歴史がユニークで、流刑植民地から始まり、現在は多文化主義社会として世界でもまれに見る成功した社会である。政策として白豪主義という排他的な社会からいくつかの段階を経過し、現在の寛容な多文化主義社会になっている。その形成過程について本講義で紹介していく。また、先住民であるアボリジニの文化と白人社会の中の迫害も検討していく。さらに、オーストラリアと日本の歴史的な関係とオーストラリアの形成との関係について考える。
■到達目標
現在、オーストラリアに留学や遊びに行く学生が多くなり、その経験を充実させるためにこの講義が準備知識になるだろう。また、今後外国人を受け入れる日本社会の各社会問題を想定しその解決も考えるためにこの講義は何らかのヒントを与えるかも知れない。
■講義方法
文献にもとづいて講義内容を進めていくが、PowerPointと映像資料を活用しながら、ポイントなどを明確に示す。ただし、ポイントだけを出すので、学生は口頭での説明をノートにとる必要がある。PowerPointのプリントアウトやサーバーで公開することはない。
■成績評価の方法
平常点（50%）　毎回のコメント・カードで述べた考えの内容を評価する（注意：感想ではない。出席点ではない。）
レポート（50%）　オーストラリア社会に関する仮題を選び、自分なりに議論を展開する・コメント・カードの内容が評価の対象となる。（外れた場合には、0点になり得る。）また、レポートは4000字。文献にもとづいた議論を構築し、きちんとしたレポート形式（本論では、参考したものの出所を明記し、最後に必ず文献リストをつけるなど）をとったものでなければならない。説得力のある議論を期待している。自分にとって関心のある現代オーストラリア社会の社会的イッシューを取りあげ、自分の問題意識にもとづいて議論することがレポートの課題である。剽窃と判明した際、0点になる。情報の出所が明記されていないレポートや文献リストのないレポートは評価の対象から外れるので、注意。
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■オフィスアワー・教員への連絡方法
pauline@world.ryukoku.ac.jp
■講義計画
①イントロ
②なぜ流刑植民地か
③植民地の初期
④Gold Rush
⑤日豪関係：ブルームから
⑥日豪関係：第二次大戦
⑦統合と連邦国の誕生
⑧白豪主義から多様性へ
⑨多文化主義社会
⑩アボリジニの伝統文化
⑪白人社会でのアボリジニ（初期）
⑫アボリジニ文化の衰退
⑬Reconciliation
⑭まとめ

欧米の文化

【担当】大槻　志郎
【開講】後期　水３

■サブタイトル
テーマで斬る欧米文化

■講義概要
文化学、ないしは文化研究、という学問の分野（あるいは方法）があるが、「文化」を「学ぶ」ということの意味は必ずしも明確ではない。したがって文化についての講義も、文化研究の最先端をゆくものから、限りなく観光ガイドに近いものまで、その振幅は広いであろう。この講義は、特定の国や地域に限定せず、広く欧米文化を理解するためのテーマをいくつか設定して考察しながら、欧米を考え直す機会を提供しようとするものである。場合によっては、その具体的な現れとして、文学作品（講師の専門分野）などの事例を参照したい。
なお、この講義を受講するかどうかに関わらず、現代のグローバルな世界を生きる上で、世界の歴史その他、広く世界の状況を知ることは不可欠と考えられるが、数年前の高校カリキュラム未修問題にも顕著なように、そうした知識は日本の教育から大きく欠落しているのが現状である。したがってこの講義では、時間の制約はあるものの、基本的な事項についても簡単な解説をする他、小テスト、課題などで補強的な学習を求めたい。テキストはあらかじめ読んでおくこと。

■到達目標
未知の世界としての異文化を、単純化せず、固定観念を持たずに、さまざまな角度、視点から考察する態度を養う。
欧米についての基礎知識をより多く身につける。

■講義方法
授業計画に基づく講義。出欠の確認も兼ねて、毎回講義の最初に、欧米の一般常識についての小テスト、終わりに講義についての簡単なコメントを書いてもらう。課題として特定の問題について調べてもらうことがある。

■成績評価の方法
平常点（40%）　小テスト、講義末に書いてもらうコメント、他の課題の提出と内容。
定期試験（60%）　講義内容を理解できているかどうかについて、選択問題、論述などの筆記試験。小テストから一部出題。
試験と平常成績を総合的に評価する。3分の1以上欠席の場合は原則として評価は0点とする。

■テキスト
綿引弘『一番大切なことがわかる「世界史」の本』三笠書房　619円

■参考文献
講義中に紹介。

■履修上の注意・担当者からの一言
欧米の文化をもっと知りたい、より理解したい、という意欲のある受講者を念頭に、講師も受講生も労力は大きいが収穫も多い、という講義をめざす。したがって楽に単位が取れればいいというだけの人には向かない。受講者数によって座席指定をする場合があり、また私語が目立つ受講生には、随時、退出を求めたり以後の受講を認めないことがある。受講するからには、しっかり話を聞いて、未知の内容はちゃんと学び、問題を掘り下げるつもりでいろいろ考えてほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
水曜または金曜４講時。但しいずれも会議の場合を除く。2-315研究室。希望者にはメールで連絡を取る他、eLeaningサイトを開設予定。

■講義計画
①「欧米」の誕生
②聖書と神話
③時間をめぐる話
④移動としての歴史
⑤風土と文化
⑥旅の物語の伝統
⑦土地と家族の問題
⑧労働と階級
⑨理性と野性、文明と自然
⑩言語の歴史、言葉の重さ
⑪名前と個人主義
⑫言葉、シンボル、数字
⑬見えないもの
⑭＊以上は、講義項目のおおまかな流れを示したもので、必ずしも回数毎の内容ではない。

欧米の文化

【担当】サルズ・ジョーナ・I
【開講】後期　金2

■サブタイトル
映画で見るアメリカの現代社会　American Contemporary Society in Film

■講義概要
アメリカ映画はその初期から大衆芸術としてあり、劇的な場面や生き生きとした見せ場を通して、同時代のさまざまな問題に取り組んできた。なかには議論を呼ぶような深いテーマを扱う映画もあり、それらは重要な文化的イコンとなったり、各世代のアイデンティティや心性を探るための窓となっているものもある。
この講義は、映画を通して1970年代以降のアメリカの主要な社会問題について議論することを目的とする。具体的には、人種差別や「アメリカン・ドリーム」という根強い神話、フロンティアの開拓者たち、孤高の人物やアウトサイダーたち、資本主義の危機に関する問題である。これらの映画は、同時代の社会問題をどの程度正確に反映しているのだろうか？
そして、これらの映画が与えた影響は、アメリカ人の自己へのまなざしや世界の見方をどのように変えたのだろうか？

■到達目標
この講義では、映画美学に関する基本的な理解を提供し、過去50年間にアメリカで生じた社会的・政治的な問題を取り上げる。

■講義方法
授業で鑑賞する作品の多くは、映画の道を切り開いてきたものである。たとえば、物語の構成方法は、暗示的なメッセージと同様に影響を及ぼしている。講義では、こうした先駆的な映画制作のテクニックを論じていく。

■系統的履修
毎週、まず有名なハリウッド映画を１本取り上げて、その物語の戦略と問題点を紹介する。次に、映画の受容とその影響について議論する。その後、授業内にその映画を部分的に鑑賞する（英語版、日本語字幕付き）

■成績評価の方法
平常点（20%）　参加程度
小テスト（20%）　感想リポート
レポート（20%）　作品の分析リポート
定期試験（40%）
レポートでは、授業中に鑑賞した映画作品を他の作品と比較してもらう、
●同じ監督の他作品と比較するか、
●同様のテーマを扱った他作品と比較するか、剽窃と判明した際、0点にする。
●アメリカ以外の国の作品と比較する、
このいずれかの方法をとること。

■テキスト
なお受講生は各自図書館やレンタルショップを利用し、作品全体を視聴することが望ましい。従って、受講生は、各週の授業外に、映画を観るために２時間必要なことを考慮にいれておくこと講義は日本語で行い、映画もすべて日本語字幕のものを使用する。ただし、英語の資料をいくつか使用する予定である。

■参考文献
井上 一馬『ブラック・ムービー―アメリカ映画と黒人社会（講談社現代新書）』（新書）
八尋春海『映画の中の星条旗―厳選映画100本で見る現代アメリカ社会 by』

■履修上の注意・担当者からの一言
なお受講生は各自図書館やレンタルショップを利用し、作品全体を視聴することが望ましい。従って、受講生は、各週の授業外に、映画を観るために２時間必要なことを考慮にいれておくこと。剽窃と判明した際、0点にする。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
jonah@world.ryukoku.ac.jp

■講義計画
①映像の基本の見方
　アメリカ社会の最近20年
②『Wall Street』：ビジネス界の倫理学
③『Wall Street』：ビジネス界の倫理学
④『Wag the Dog』：政治・メディア・戦争
⑤『Wag the Dog』：政治・メディア・戦争
⑥『Bowling for Columbine』：アメリカの銃への欲望
⑦『Bowling for Columbine』：アメリカの銃への欲望
⑧『Juno』－ 少女妊娠コメディ－
⑨『Juno』－ 少女妊娠コメディ－
⑩機能不全の家族１『The Simpsons』
⑪機能不全の家族１『The Simpsons』
⑫機能不全の家族２『American Beauty』
⑬機能不全の家族２『American Beauty』
⑭まとめ

欧米の文化

【担当】永井　達夫
【開講】前期　水３

■サブタイトル
ヨーロッパの歴史と文化にふれる　（ドイツ語圏を中心に）

■講義概要
「欧米か？」という流行り言葉がありましたね。日本人は、明治の昔から現在に至るまで「欧米」に対して複雑な感情を持ってきたようです。その原因については講義の時に述べますが、これから社会に出ていくみなさんは、程度の差こそあれ、今後さまざまな機会に「欧米」と向かいあっていくことになります。そのときの「心の準備」を学生のあいだに少ししておきましょう。相手を良く知ることで、自分自身に余裕も出てきます。「欧米」に対して斜に構えたり、また妙な崇拝の気持ちを持たずに済みます。この講義で担当者は、みなさんが「欧米」についての自分なりの「正しい」イメージを作るお手伝いをしようと思います。ほんとうは一度実際に行ってみるのが一番なのですが、そうも言っていられません。さて「欧米の文化」と名が付いていますが、講義で実際に取り上げるのは、ヨーロッパの、しかもドイツ語が話されている国々が中心になります。前期の水曜日の午後は、毎週日本とはちょっと「違う文化」に触れることにしてみませんか？

■到達目標
・「ヨーロッパ文化」に対してお おまかな自分自身の意見を持つ
・古代ギリシア文明からＥＵの現代に至るヨーロッパの歴史のイメージをつかむ
・映像によってドイツ語圏を中心としたさまざまな世界遺産を知る
・将来実際にヨーロッパ旅行がしたくなる
・さらにヨーロッパのことが知りたくなる

■講義方法
毎回さまざまな映像資料を使います。＜講義＞ 50 ～ 60分。＜参考映像＞ 20 ～ 30分。その日の＜まとめ 10分＞の流れでやっていきます。＜その日のまとめ＞では、履修者が自分の考えたことを、こちらで用意するシートに書いていきます。それを束ねたものを「マイノート」と名付けて、最後の筆記試験に持ちこむことができます。

■系統的履修
必要があれば講義時に指示します

■成績評価の方法
平常点（40%）　小レポートを含む
定期試験（60%）
平常点は毎回の授業で書くことになる「マイノート」の積み重ねです。その意味で出席が重要視されます

■テキスト
必要があれば、その都度プリント等で配布します

■参考文献
随時講義中に指示します

■オフィスアワー・教員への連絡方法
担当者のメールアドレス　uni@doitsugo.com　（メイルを送る際には、受講科目、学籍番号、名前を忘れずに）

■講義計画
①日本とヨーロッパ
②ヨーロッパ文明の源流、その１、古代ギリシア
③ヨーロッパ文明の源流、その２、ユダヤ・キリスト教
④古代ローマ帝国
⑤ヨーロッパの国々の誕生／フランク王国とカール大帝
⑥クヴェートリンブルクに見る中世の都市の形
⑦宗教の支配／ケルンとザルツブルク
⑧帝国自由都市／ローテンブルクとリューベク
⑨ルネッサンス／フィレンツェ
⑩オーストリアとハプスブルク家
⑪プロイセンとドイツ統一
⑫ヨーロッパを覆った二つの大戦
⑬冷戦、ベルリンの壁、ドイツ再統一
⑭ＥＵの誕生とヨーロッパの未来

欧米の文化

【担当】村澤　真保呂
【開講】前期　水２

■サブタイトル
ヨーロッパの文化と社会

■講義概要
「欧米の文化」といっても、その実態は地域や時代によって大きく異なる。したがって、この授業では、残念ながら大ざっぱで一般的な話しかできないのだが、それでもヨーロッパの古代から現代にいたるまでの文化、宗教、社会について、とくに芸術や文学を例にしながら考察していくつもりである。

■到達目標
音楽や絵画などの文化現象と社会制度との関連について理解を深める。

■講義方法
書籍、絵画、音楽、映画などのさまざまな教材を使いながら講義形式で授業を進める。

■系統的履修
通史的な授業になるので、高校の世界史の復習をしておくこと。

■成績評価の方法
定期試験（100%）
詳細は授業中に指示。

■テキスト
高校の世界史の教科書、あるいはそれに準じる書籍。

■参考文献
授業中に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言
私語や居眠りなどの授業妨害をおこなう者がいれば、その場で登録を取り消しにする。

■講義計画
①古代ギリシア以前
②ギリシア神話
③古代ギリシアの芸術・文化・社会
④ローマ帝国の成立と発展
⑤古代ローマ文化
⑥中世キリスト教文化
⑦ルネサンス期の芸術と社会
⑧宗教改革から近代へ
⑨バロックの光と陰
⑩近代市民社会の成立
⑪世紀末ヨーロッパの文化と社会
⑫大衆の時代――ダダとポップアート
⑬クレオール化とヨーロッパ文化
⑭まとめ

海外英語研修

【担当】イエニク・S・C
【開講】後期　水3

■サブタイトル
海外で、実際に英語を話してみよう

■講義概要
〈募集人数〉 10名程度。修学状況などを参考 に選考を行う。〈履修申し込み受付〉 毎回、実施の年度春に掲示し、受付を行い、参加予定者を決定する。受付期間があるので、希望者は教学部（瀬田）へ申し出ること。受付場所は、瀬田教学部（1号館1階）〈経費〉 従来のプログラムに要した費用、約350,000を参考にされたい。 （航 空運賃･授業料･食費･滞在費を含む）〈相談や質問を希望する方へ〉 理工学部・社会学部の英語科教員までご連絡ください。
〈後期期間に行われる英語研修 クラスの講義内容〉
The class will prepare the students for study in New Zealand. Study, travel, and social vocabulary.
Some group work emphasizing spontaneous conversation will be done.

■到達目標
ニュージーランドの大学に短期滞在し、英語の授 業および英語による講義を受け、英語の運用能力を高めるとともに、その国の文化･歴史など諸事情を学ぶことを目的とする。あわせて、渡航や帰国の手続き、滞在中の生活など、帰国するまでの一切の行動を参加者が各自の責任において行うことによって、外国生活を体験する。

■講義方法
(1) 後期期間（10月～1月）中、瀬田学舎 において週1回の英語研修クラスを受講すること。具体的な講義方法は以下に示すとおり Class work will include conversation, map study, reading about New Zealand, and movies about New Zealand.
(2) 2月初旬より約3週間､ニュージーランド南島の国立リンカーン大学（カンタベリー州クライストチャーチ 市近郊）および／または国立クライストチャーチ・ポリテクニーク校（クライストチャーチ市）において、本学が両校に依頼する教育プログラムに参加し、修了 認定をうける。 英語の授業のほか、ニュージーランドに関する講義、週末の小旅行などが含まれる。

■成績評価の方法
平常点（100%） Class Participation and Homework・講義方法欄にある（1）（2）の履修結果にあわせ､その総合評価によって「総合科目」の1科目2単位（選択）として認定する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
(1) 参加者各自の責任において自主的な計画によって渡航し、所定の日時に現地（大学キャンパス等）に集合する。後期末試験終了直後の出発であるから諸準備によく注意すること。(2) プログラム期間中は、大学の寮または現地の家庭にわかれて滞在し、プログラム終了後は各自の責任において帰国する。(3) に関し教職員の付き添いは無いので、全面的に各自の責任と心構えと意欲とが求められる。終始この点に十二分に留意して行動すること。自発的に英語の研修を積んでおくことが当然必要である。(4) 以上の点をよく認識する為に、事前に英語研修クラスとは別に説明会を行うので、必ず出席し連絡を欠かさないこと。(5) 全期間中において、プログラムを無視して勝手な行動をとり、受け入れ校および本学の関係者に迷惑をかけたものは、理由の如何を問わず、履修結果を取り消すものとする。(6) 受け入れ校や本学の事情、国際情勢その他の理由で、年度によって実施しない（開講しない）事があるので、予め承知されたい。(7) 実施の為の世話は、瀬田学舎（理工・社会）英語担当者と瀬田教学部（1号館1階）が行う。

■講義計画
※講義概要を参照

科学技術史

【担当】堀川　武
【開講】後期　月3

■講義概要
「科学技術」と言う言葉から何をイメージするでしょうか。我々の営み､ことさら「衣食住」に深く根を下ろしている「科学技術」からもたらされた製品の中に使われている技術は産業革命の時にその起源を持つものが多くある。当時は「科学」と「技術」、その意味するところは別のものである。いつ頃から「科学技術」と言う言葉が使われるようになったのであろうか。科学は古くは、ギリシャの哲人の間で、近世になってはヨーロッパのサロンの中で語られていた。つぎに、人類の文明が始まって以来経験の積み重ねにより洗練され、職人の「手の技」として「技術」が伝承されてきた。産業革命を経て機械工業の時代に入ると、科学と技術は結びつき、「科学技術」として発達してきた。さらに、純粋な科学の研究成果は工業に応用され、今日では応用のための科学研究に力を注ぎ、得られた「科学技術」は、時の審判を経ないままに実用化され、様々な環境問題を引き起こしている。本講義では、産業革命を出発点にして、科学と技術の誕生と発展の歴史を学ぶ中から、21世紀に求められる「科学技術」について考究する。

■到達目標
科学と技術が人びとの生活にどのような影響を与え、また人びとの欲求が科学と技術をどのように発展させたかを、その歴史から学ぶことにより、「科学技術」の陰陽について理解する。そこから、新しい時代における「科学技術」と我々の関わりを問う力を身につけるようにする。

■講義方法
特定の教科書を用いず、ノート講義による。必要なプリント・資料を配布する。

■成績評価の方法
期末試験と授業途中で課すレポートによる。
試験50%、レポート50%とする。

■テキスト
特になし

■参考文献
桜井邦明『現代科学論』東京教学社　1785円
石井威望『科学技術は人間をどう変えるか』新潮選書
道家達將『科学技術史』放送大学振興会　3610円

■講義計画
①科学と技術
②科学・技術・科学技術
③中国・ヨーロッパにおける技術
④産業革命と科学・技術
⑤産業革命と工学（1）
⑥産業革命と工学（2）
⑦我が国における科学技術（1）
⑧我が国における科学技術（2）
⑨20世紀の科学、技術
⑩現代の科学技術：その光と影
⑪鉄を作る技術と鉄鋼産業
⑫日本鉄道車両技術の発展
⑬機械・構造物の安全を支える
⑭21世紀の科学技術に求められること

科学技術史

【担当】松下　隆之
【開講】前期　月2

■講義概要
人類が、地球上に生物の進化の過程で誕生して以来、火や道具を使うことを学び取り、長い道のりを経て現代の科学技術にまで発展させてきた。この講義では、私たちが住む地球の誕生から始め、化学進化、生命の誕生から生物の進化まで遡る。続いて、時代とともに幾多の学習能力を身につけ、数多くの科学技術を如何に発展させてきたかを歴史的に概観する。さらに、今日のような文明社会が構築されるまでに至った経緯について学ぶ。一方、科学技術の目覚しい進歩とともに、20世紀の後半に入り、大量生産、大量消費、大量廃棄がもたらした地球環境の悪化に対し、21世紀においてはその保全と浄化に如何に取り組んでいくかについても述べたい。
また、将来におけるエネルギー資源や鉱物資源の枯渇に備えた新規技術の開発の必要性についても述べる。とくにこの講義では化学技術を中心に進める。

■到達目標
科学は自然の観察とそれらの理解から始まる。それゆえ、自然界で起こっている現象を理解するところからはじめ、それを科学技術に如何に発展させてきたかをまた、どのようにすれば発展させられるかを身につけ、自ら学べるようになることを到達目標とする。

■講義方法
各課題ごとに、プリントを配布し、板書で行う。テキストは用いない。ほとんど毎回小演習を実施する。さらに講義と密接に関連した課題について、レポート（約5回）を課す。

■成績評価の方法
小テスト（15%）・レポート（15%）・定期試験（70%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
休まないこと。遅刻しないこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワーは月曜日5講時と火曜日5講時

■講義計画
①宇宙および地球の誕生、化学進化
②生命の誕生と生物進化の過程
③人類への進化と古代文明の発展
　古代における元素観
④錬金術と科学
⑤ルネサンスと科学技術
　医療技術の進歩
⑥気体の研究
⑦産業革命とエネルギー
⑧電気化学の発展、元素の発見、
　原子構造と量子論
⑨窒素を利用する化学
　アンモニア合成と肥料
⑩石炭から石油化学へ、
　人工合成高分子
⑪電子技術と原子核反応
　IT産業の発展
⑫化学リスク
⑬地球環境保全の化学
　持続的発展
⑭科学技術の将来展望

環境と人間A

【担当】河合　富佐子
【開講】後期　土1

■サブタイトル
環境問題入門

■講義概要
地球環境問題が切迫した重要課題となっている。日本は第2次世界大戦後の復興と高度成長の過程で「公害国」として様々な公害問題を体験したが、これらを克服して今や環境先進国に位置づけられる。日本の体験と技術移転は開発途上国にとって非常に重要である。他方、地球環境問題は国境を越えた新たな問題を提起している。実際に何が生じ、どのように対応すべきかを考えるために、サイエンスとして正しく環境問題を理解すると同時に広い視野から考える必要がある。
過去の問題や経緯を紹介すると同時に、現在直面する課題や将来の懸念事項を解決するために、できるだけトピックスを紹介し、共生社会のあり方や循環型社会を構築するための方策を探る。

■到達目標
高等教育を受けた社会人として必要な環境問題の知識と理解を身につける。

■講義方法
資料を配布して講義する。また、必要に応じてパソコンを使用して映像を紹介する。

■成績評価の方法
平常点（30%）
レポート（70%）　中間レポート、最終レポート（各35点）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
指定されたから読むのではなく、講義から環境に関心を深めて、読書や行動に結びつけることを期待する。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
できるだけ出講日に連絡する。やむを得ない場合は教学部を通してコンタクトする。

■講義計画
①イントロダクション
②地球環境問題１
③地球環境問題２
④地球環境問題３
⑤公害・環境問題の歴史１
⑥公害・環境問題の歴史２
⑦エネルギーと環境　中間レポート提出
⑧資源と環境
⑨生態系と生物多様性
⑩化学物質と環境１
⑪化学物質と環境２
⑫リサイクルと循環型社会
⑬環境時事問題
⑭まとめ　最終レポート

環境と人間Ａ

【担当】竺　文彦
【開講】前期　月４

■サブタイトル
環境問題とはなにか。
■講義概要
現代社会は、地球的な規模での環境汚染や多種多様な廃棄物の排出などの環境問題に直面し、今までの大量生産、大量消費、大量廃棄の生活様式を見直し、生物と共生できるライフスタイルが求められている。「環境と人間Ａ」では、地球環境問題を中心に、排水処理、ダイオキシン問題、環境ホルモン、廃棄物処理、河川・湖の問題、都市の緑、ＮＰＯ活動などについて述べる。
■到達目標
広く地球環境問題を理解し、さらに、これに関連するごみ問題、水質問題等について理解をする。
■講義方法
パワーポイントなどを使用する。
■成績評価の方法
定期試験（100%）
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
講義以外に自分自身で体験をして欲しい。
■講義計画
①環境と人間
②地球環境問題
③生物と人間
④エネルギー問題
⑤微量汚染問題Ⅰ
⑥微量汚染問題Ⅱ
⑦廃棄物Ⅰ
⑧廃棄物Ⅱ
⑨水環境Ⅰ
⑩水環境Ⅱ
⑪ビオトープ
⑫景観問題
⑬市民活動
⑭まとめ

環境と人間Ｂ

【担当】尾鍋　智子
【開講】前期　水２

■サブタイトル
環境倫理への招待
■講義概要
1970年代、エコロジー運動の倫理的哲学的基礎を築くため、アメリカを中心に環境倫理学がうまれた。本講義では、環境倫理学の基本主張を理解しつつ、エコロジー思想の古典をその背景とともに学ぶ。そして、現実問題としての環境問題にどう対処すればよいのか皆で考える指針とする。
■到達目標
環境問題について、自分なりに論点を整理し、みずから考える姿勢を身につける。
■講義方法
講義とディスカッションを主体に授業をすすめる。毎授業コメントカードの提出を課すことにより、授業理解をうながす。
■系統的履修
倫理学または哲学
■成績評価の方法
平常点（10%）　出席およびディスカッション参加度、授業態度
小テスト(50%)　授業内テスト2回　（第8回および最終日に実施）
レポート（40%）　レポート１回　（最終日提出）
テストの追試は原則として行わないので、日程に注意すること。
■テキスト
加藤尚武『環境と倫理』有斐閣　1800円
■参考文献
加藤尚武『環境倫理学のすすめ』丸善　780円
山内廣隆『環境倫理の新展開』ナカニシヤ出版社　1900円
その他は授業内に指示
■履修上の注意・担当者からの一言
環境倫理は応用倫理学の一種である。哲学や倫理学に興味のある学生の積極的参加を期待する。ディスカッションに積極的に参加できるように、テキストのわからない用語等は調べて必ず予習をして授業に臨むこと。
■講義計画
①環境倫理学とは
②環境倫理学の三つの主張　（第1章）
③人間中心主義とその批判　（第2章）
④持続可能性とは何か　（第3章）
⑤文明と公害　（第4章）
⑥環境正義という思想　（第5章）
⑦動物開放論　（第6章）
⑧テスト１
⑨生態系と倫理　（7章）
⑩自然保護　（8章）
⑪環境問題と宗教　（9章）
⑫消費者の自由と責任　（10章）
⑬京都議定書と国際協力　（11章）
⑭テスト２　レポート提出〆切

環境と人間B

【担当】鈴木　滋
【開講】後期　水2

■サブタイトル
生態人類学入門

■講義概要
生態人類学的な視点を中心に、ヒトという動物の特徴を、人類進化史から抽出し、人間と環境の基本的な関係を概観する。自然環境に強く依存した生活、とくに人類史の99％以上を占める狩猟採集生活についての研究成果をもとに、人間の環境利用の特徴を検討する。そして、狩猟採集や農耕などの生業活動が自然環境にもたらした影響を、進化史的かつ人類学的に考察する。また、ヒトによる持続的な環境の利用について、とくに森林利用と破壊の問題について検討する。地球環境問題についての授業ではない。

■到達目標
環境問題の根源として、ヒトという生物の特徴と時代や生業や環境との関連を見渡す視点。

■講義方法
パワーポイントのスライドで資料を提示しながら講義をする。ビデオも利用し、スライド資料はWEBで公開する。
出席は情報メディアセンターの携帯による出欠確認システムを利用予定。
授業内容の要約や文献調査など、適宜小レポートの提出をもとめる。
ゲストスピーカーを招聘予定。

■系統的履修
環境と倫理、環境と人間A

■成績評価の方法
レポート（50%）　宿題を授業２回に１回の割合で課す予定
定期試験（50%）　記述式中心

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
授業とは、知識の伝達のみならず、受講生の関心を広げ深めるきっかけとなることが重要だと考えています。そのため、ただ受講するだけでは十分ではなく、授業時間外の課題にとりくんでもらう予定です。知らないことを知ることで満足せず、そこから自分でなにをするのかを考える授業にしたいと思います。課題が多いので、要領よく単位をとりたい人にはお勧めしません。

■講義計画
①霊長類の多様性とヒト
②人類の進化と環境
③人類の形態と環境
④人種の形成とその差異
⑤生活史（ライフヒストリー）
⑥人口と環境
⑦狩猟採集民の生活と社会
⑧狩猟採集生活の特徴１
⑨狩猟採集生活の特徴２
⑩狩猟採集生活の社会変容
⑪環境の持続的利用１
⑫環境の持続的利用２
⑬環境の持続的利用３
⑭まとめ

環境と倫理

【担当】菊地　建至
【開講】後期　水2

■講義概要
・「環境と倫理」に関して、とくに20世紀後半の欧米での「環境倫理学」に学ぶことは少なくない。また、日々のマスメディアの情報や「エコ」活動もいろいろなことを教えてくれる。その意味で、現在の日本の社会は、「環境とそれに関する倫理の問題」への関心が高まっており、そうした関心にこたえる学習の材料も豊富だと言えるだろう。
・しかし、反面で、環境に関する情報の不確かさという面で難しいこともあり、環境事業に関するいろいろな政治・経済の思わくもあれば、 宗教や文明・科学技術に関する見解の相違が環境（倫理）理解の隔たりを大きくしているようにも思われる。
　つまり、社会における「環境をめぐる対立」も根深いように思われる。
・本授業は、君が（「環境倫理学」だけでなく、たとえば文学や哲学のなかにあるものも含め、もう少し広い視野で）「環境と倫理」に関する諸思想を知るとともに、「環境の倫理」について「（他の人と積極的に会話することも含め）自分で考える」きっかけとなる授業にしたい。
・「講義」に加え、（受講者数、教室状況などによって無理なこともありうるが）話し合いなどの「グループワーク」や、「映像資料」の活用も、取り入れる予定です。
・また、重要な本の一部を実際に読むという授業や課題も、少なくない。もちろん「読解」の仕方もていねいに指導するから、文章を読むのは苦手だという人もそれだけの理由で受講をやめようとは思わないでほしいが、面倒なことはいやでただ出席さえすれば自動的に単位がとれる　ような授業がよいと思う人には得られるものはないだろう。

■到達目標
・「環境と人間」の関係について、明確な見通しを得る。
・「倫理（学）的に」考え、話し合うための「基礎」を身につける。
・「環境問題」について「倫理（学）的に」考え、話し合うことができるようになる。

■講義方法
・「導入」には、読解資料や映像資料を活用する。
・上記「到達目標」の実現に向けて、「講義」に加え、「（他の人と会話することも含め）自分で考える」機会も設ける。
・授業で「レジュメ」や「読解資料」を配付することがあるが、原則として欠席者は「次回授業でのみ」それを受け取ることができる。
（もちろん、いわゆる「公欠」扱いの人や「長期入院」などの場合は、別扱いです。）
連続欠席をすると、授業内容の理解が難しくなるのは当然だが、こういう点でも困ることになる。積極的に、授業参加しよう。

■成績評価の方法
平常点（40%）［基本的に、授業内でのみ通知する］数回の課題・復習小テスト・授業参加態度により評価する。
定期試験（60%）
下段「履修上の注意・担当者からの一言」にも記したが、受講者数によっては「出席」をとることができるかもしれない。その場合には、定期試験の配点の半分程度（成績評価全体の30%程度）を「出席点」とすることになる。

■テキスト
特になし

■参考文献
デ・ジャルダン『環境倫理学---環境哲学入門』出版研
パルマー『環境の思想家たち（上・下）』みすず書房
その他、参考文献については、そのつど授業内で紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
・受講者数が多くて毎回出席確認することに困難が多いと判断すれば、出席はとらない。この点は、初回授業で、決定する。しかし、いずれにしても、継続的で積極的な「授業参加」と「復習」がなければ高得点は望めないだろう。
・この授業にとって、「よく聞くこと」や「ていねいに考えること」を続けることは欠かせない。受講者ひとりひとりが集中し授業にのぞめるような授業環境づくりに協力することを求めます（授業中の私語や授業と関係のない用事などに厳しく対処されるのは嫌だと思う学生は、この授業に合わないと思います）。その点では、厳しい授業です。

■講義計画
①ガイダンス
②「未来世代に対する責任」
③「人間」は「環境」を操作する主体か、それとも「全体の一部」か。
④「倫理の基礎」についての諸理論を学ぶ。
⑤「人間中心主義」と「非・人間中心主義」
⑥「（文学や哲学における）環境と倫理の諸思想」を読んで、考える。
⑦「よい環境を（つくり）残し伝える」とは、どのようなことか。
⑧「市民的不服従」と「環境倫理の思考と活動」
⑨「環境の科学や情報」をめぐる困難について考える。
⑩「プラグマティズム」と「環境倫理の思考と活動」
⑪予備日および「試験準備」・「課題」関連
⑫以上、順不同。

教養教育科目特別講義Ａ（2008年度以降入学生）
共同開講科目特別講義（2003～2007年度以降入学生）
共通科目特別講義（2001・2002年度入学生）

【担当】宮浦 富保、石垣 智基、占部 武生、岸本 直之、鈴木 龍也、田中 滋、林 珠乃、丸山 徳次、遊磨 正秀、横田 岳人 【開講】前期 金１

■サブタイトル
里山学入門　　地域の自然と文化

■講義概要
里里山は、人間が長期にわたって手を入れ、自然と多様な形で関わり、自然と共生することによって、人間同士の共存を可能にしてきた場所であった。日本の生物の多様性の一部は里山の存在によって維持されてきたということも明らかになりつつある。ところがエネルギー革命と農業革命のため里山は放置され、都市の膨張とともに開発のターゲットにされてきた。生物多様性を維持し、人間の生活を支え、日本文化の形成にも密接に関連していたと考えられる里山が失われようとしている。「里山学入門」では，里山の環境，動植物，歴史，里山と文化・制度との関わりなどについて，複数の教員が講義する。また，数回の野外実習も予定している。

■到達目標
里山といわれる環境について、その歴史や現状を理解する。里山を代表とする身近な自然環境と人間との関係について、自分自身の意見を持つ。

■講義方法
複数教員によるチェーンレクチャーであり、それぞれの教員ごとにいろいろな方法で講義する。

■成績評価の方法
レポート（100%）

■テキスト
講義時間内に教員ごとに指示する。

■参考文献
丸山徳次・宮浦富保『里山学のすすめ』昭和堂　2310円
講義時間内に教員ごとに指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言
チェーンレクチャーであるので、すべての講義時間に出席しないと、里山学の全体を理解することができない。また、里山環境を実体験することを目的として野外実習を予定している。

■講義計画
①４月１０日　里山の歴史と現状
②４月１７日　里山の環境倫理
③４月２４日　翌日の実習の説明
④４月２５日　【実習】「里山保全体験」
⑤５月　２日　《実習予備日》
⑥５月　８日　里山の生物多様性
⑦５月１５日　水辺環境と里山
⑧５月２２日　翌日の実習の説明
⑨５月２３日　【実習】「里山保全体験」
⑩５月２９日　環境社会学からみた里山
⑪５月３０日　《実習予備日》
⑫６月　５日　翌日の実習の説明
⑬６月　６日　【実習】「里山保全体験」
⑭６月１３日　《実習予備日》
⑮６月１９日　法学からみた里山
⑯６月２６日　里山の水環境
⑰７月　３日　里山のバイオマス利用１
⑱７月１０日　里山のバイオマス利用２

教養教育科目特別講義B

【担当】山中　聡
【開講】前期　月３

■サブタイトル
西洋近現代史入門

■講義概要
大航海時代（15世紀）から第二次世界大戦後（20世紀半ば）までの西洋（ヨーロッパ、アメリカ）の歴史を学ぶ。
基本的な事実の解説と並行して、近年の研究動向を踏まえた新しい視点・議論も適宜紹介する。

■到達目標
西洋近現代史の知識を習得することで、現代世界の動向を理解するための基本的な教養を身に付ける。

■講義方法
毎回レジュメを配布し、それを解説しながら、補足事項を口頭で紹介する。また、映像資料も用いる。

■成績評価の方法
平常点（100%）
毎回、出席届を兼ねた用紙を配布し、講義の内容に関する自分の考えを書いてもらいます。評価はその内容によって決定します。

■テキスト
特になし

■参考文献
福井憲彦『近代ヨーロッパの覇権』講談社　2415円

■履修上の注意・担当者からの一言
歴史、それも日本ではなく、西洋の近現代史を勉強することが、今を生きる私たちにとって、どんな意味があるのか？
本講義では、基本的な知識の習得と共に、この点について、皆さんにじっくり考えてもらうつもりです。評価においては出席はもちろん、毎回の講義で提出してもらう小レポートの内容を重視しますが、単に単位を取ることだけを目的に参加するのではなく、西洋近現代史を学ぶことの意義を、講義の中で自らに問いかけてもらいたいと思います。

■講義計画
①はじめに―大航海時代―
②ルネサンスと宗教改革
③絶対王政の時代
④ヨーロッパ主権国家体制の展開
⑤アメリカ独立革命と産業革命
⑥フランス革命とナポレオン
⑦ウィーン体制の確立とその崩壊
⑧19世紀後半におけるヨーロッパ諸国の再編
⑨ヨーロッパ諸国のアジア進出
⑩帝国主義の時代
⑪第1次世界大戦とロシア革命
⑫ヴェルサイユ体制下の欧米諸国とアジア・アフリカの民族主義
⑬世界恐慌とファシズムの台頭、そして第2次世界大戦へ
⑭おわりに―戦後の世界について―

健康とスポーツ

【担当】渡辺　英児
【開講】前期　月1

■講義概要
テクノロジーの急速な発展は人類に多大な恩恵をもたらした一方で、運動不足などによる生活習慣病などの発生率が年々高くなってきている。そこで、本講義は、現代社会における健康とスポーツ・運動の役割をスポーツ科学の観点から以下の項目について紹介する。（1）現代社会におけるスポーツ・運動と健康（2）スポーツ･運動と身体的な健康（3）スポーツ・運動と心の精神的健康（4）食生活とスポーツ

■到達目標
現代社会における運動やスポーツの重要性を科学的な観点から理解することを目標とする。

■講義方法
講義形式で、担当教員が講義する。受講人数が少なければ実際にトレーニングセンターを使って運動を行う。

■成績評価の方法
定期試験（100%）
大学が定める定期試験中に試験を実施する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
スポーツや運動に興味のある学生の履修を期待する。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
最初の講義で紹介する。

■講義計画
①健康、スポーツ、運動、身体活動とは
②1)スポーツや運動への参加状況
　2)運動は寿命を長くするか。
③スポーツ・運動不足と生活習慣病について
④健康に関する体力要素
⑤エネルギー供給システムの違いについて
⑥1)運動処方について
　2)運動によるウェートコントロール
⑦レジスタンストレーニング
⑧1)ストレスと運動
　2)行動パターンと運動
⑨1)スポーツ・運動と精神的健康
　2)運動の実践による心理的効果
⑩1)運動により心理的効果のメカニズム
　2)運動の実践による自己概念の向上
⑪スポーツ・運動を継続させるための心理的方策
⑫スポーツ栄養学について
⑬スポーツ科学の基礎知識
⑭まとめ

現代社会と宗教

【担当】辻　虎志
【開講】後期　木3

■講義概要
現代における様々な問題について宗教はどう考えるか。考えられないということも含めて、どう考えるのか。また、宗教自身がはらんでいる問題に、宗教はどう答え、どう答えられないか。授業では、物語と自己、悪や不幸、生命倫理、死刑、新宗教といった切り口を１つずつ設定しながら、上記のことに迫っていく予定である。

■到達目標
宗教や、宗教のものの考え方に興味をもつことができる。

■講義方法
プリントを配布し、それをもとに講義する。

■系統的履修
生活の中の宗教

■成績評価の方法
平常点（40%）　出席＋その他
定期試験（60%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
積極的に授業に参加してほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業終了時。

■講義計画
①はじめに　―　現代における宗教
②宗教と物語　（1）
③宗教と物語　（2）
④イスラーム　（1）
⑤イスラーム　（2）
⑥キリスト教　（1）
⑦キリスト教　（2）
⑧宗教と生命倫理　（1）
⑨宗教と生命倫理　（2）
⑩宗教と死刑　（1）
⑪宗教と死刑　（2）
⑫性愛と宗教
⑬新宗教
⑭まとめ

現代社会とスポーツ

【担当】辻　延浩
【開講】後期　金１

■サブタイトル
現代のスポーツ文化
■講義概要
現代社会におけるスポーツの社会的・文化的な役割について、スポーツ固有の魅力や楽しみ方、スポーツと地域社会のかかわりなどをふまえながら考えていきます。また、スポーツのメディア化･ビジネス化･グローバル化という３つの視点から、現代スポーツのあり方を批判的に検討し、これからのスポーツと社会との関係について考えていきます。
■到達目標
スポーツと社会の関係を理解し、生涯にわたってスポーツに親しむための楽しみ方を見いだそうとする。現代スポーツの社会的問題点を考察し、これからの社会とスポーツのかかわりについて考え、実践の視点を見つけることができる。
■講義方法
プレゼンソフトによる講義、プリントの配布、ビデオ（DVD、VHS）を使用。
■成績評価の方法
平常点（30%）　出席状況および受講態度
小テスト（10%）　毎授業後のプリント
レポート(20%)　中間試験。講義内容(前半)をもとに出題する。記述式。
定期試験（40%）　講義内容（後半）を中心に出題する。記述式。
出席は毎回とる。授業後に小プリントを配布し、記述を求める。
■テキスト
受講生は講義内容をもとに独自のノートを作成すること。積極的な意見や質問を期待する。
■参考文献
井上俊・亀山佳明編『スポーツ文化を学ぶ人のために』世界思想社　2415円
■講義計画
①オリエンテーション：講義の概要、成績評価の方法、授業計画、履修上の注意事項などについて説明します。
②「スポーツ」「SPORT」「体育」「武道」「レクリエーション」「レジャー」「遊び」などの用語について理解を深めます。
③ホイジンガとカイヨワのプレイ論を視座にして、スポーツの楽しさについて学びます。
④教育としてのスポーツについて、学習指導要領の変遷、体育科（保健体育科）の目標と内容を中心に考えます。
⑤レクリエーションの理論と実際について、事例を通して学びます。
⑥総合型地域スポーツクラブについて、ヨーロッパの事例をもとに運営形態や経営努力、課題について学びます。
⑦中間試験
⑧競技スポーツと生涯スポーツの魅力について、多角的に学びます。また、スポーツの楽しみ方を「する」「みる」「かたる」「ささえる」の観点からとらえます。
⑨スポーツの起源やこれからのスポーツについて学びます。
⑩「メディアと競技スポーツの商品化」、「勝利至上主義とドーピング」、「競技スポーツと環境問題」、「スポーツの大衆化と環境問題」をテーマとして、現代スポーツが抱える問題点について考えます。
⑪子どもの体力・運動能力の実態と課題について、データをもとにして考察します。
⑫人間のからだの適応性について、運動の種類、強度、時間などの要因によって異なる変化の様相について理解を深めます。
⑬現代社会における健康問題に対する運動（スポーツ）・食事・睡眠の役割の重要性について学びます。
⑭「表現することは生きている証」をキャッチフレーズに展開されている表現運動のビデオを通して、表現することの意義や価値について考えます。
⑮定期試験

現代社会と福祉（2003年度以降入学生）
高齢化社会と福祉（2002年度以前入学生）

【担当】池田　省三
【開講】前期　木３

■サブタイトル
私たちの生活を支える仕組み
■講義概要
「福祉」という言葉は、広義の意味では「幸せな状態」を意味するが、協議の意味では「不幸せな状態からの救済」と理解されている。この講義では、幸せな社会のために、人間の智恵がどんなシステムを作り出してきたかを考える。狭い意味での「社会福祉」にとらわれることなく、私たちの生活を根底的に支えている年金保険、医療保険、介護保険など、社会保障制度全体の仕組みを、初心者にもわかりやすく伝えたい。
■到達目標
社会保障制度の意味と概要を基本的に理解する。
■講義方法
要点をまとめた教材を作成し、映像的に理解できるようパワーポイントを利用して、講義を行う。
■系統的履修
社会保障論
■成績評価の方法
平常点（30%）　出席、授業態度を評価する。
レポート（20%）　内容を点数で評価する
定期試験（50%）　点数で評価する
■テキスト
特になし
■参考文献
講義中に適宜指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
日本は、超高齢社会を迎えようとしている。学生諸君が社会に出てから、社会保障制度も大きく変わっていくことが予想される。その時に正確な認識と判断ができるような知識を身につけてほしい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
毎週水曜日午後（教授会等の会議時間を除く）
■講義計画
①「福祉」って何だろう？
②社会保険と社会福祉はどこが違うの？
③年金は貯金じゃないの？
④「トンチン年金」って知っている？
⑤日本の医療は世界一だって？
⑥映画「シッコ」を見た？
⑦介護保険はどうしてできたの？
⑧困った時に誰が助けてくれるの？
⑨「社会福祉」はどんな活動をしているんだろう？
⑩当事者はどんな生活をしているんだろう？
⑪「福祉」のお金はどこから出てくるんだろう？
⑫「福祉」は経済活動を活発にするんだって？
⑬これからの日本はどこへ行くんだろう？

現代社会とマス・メディア

【担当】西村　敏雄
【開講】後期　水2

■サブタイトル
現代社会におけるメディアの世界を見る
■講義概要
新聞やテレビ、書籍、インターネットなどを通して社会にもたらされる情報は多種多様で、２４時間地球規模で駆け巡っている。しかしその情報の受け手である我々は一体どの様にしてそれらの情報を正確に把握しているのであろうか。本講義では様々な角度からメディアを分析していく。
■到達目標
新聞やテレビなどの情報を発信するメディアの役割や使命などを学び、メディアを批判的に読み解く力を養う。
■講義方法
講義形式で使用するテキストは毎回こちらが用意するレジュメを提供する。基本的には板書。
■系統的履修
報道論
■成績評価の方法
平常点（40%）　出席，授業中の態度
その他（60%）　提出物
■テキスト
テキストは講義で毎回こちらがレジュメ・プリントなどを用意する。
■参考文献
ノーム・チョムスキー『メディア・コントロール』集英社新書　660円
■履修上の注意・担当者からの一言
自ら学ぼうとする態度が講義に求められる。よく考え、よく発言し、よくまとめる、そのような力をつけてほしい。
■講義計画
①ガイダンス
②メディア・リテラシー
③歴史的転換期を迎えたメディア
④表現の自由をめぐる諸問題
⑤メディアの責任
⑥編集権とは何か
⑦報道と人権
⑧犯罪報道の問題点
⑨報道被害とは何か
⑩メディアへのアクセス
⑪報道の自由と取材の自由
⑫取材拒否とジャーナリスト
⑬性表現の自由と規制
⑭知る権利と情報公開

現代の技術（2003年度以降入学生）
現代技術論（2002年度以前入学生）

【担当】大塚　尚武、松下　隆之
【開講】後期　月3

■サブタイトル
現代社会を支える先進技術
■講義概要
本講義の前半では、現代の情報化社会を支え、私たちの日常生活で恩恵に浴している基礎的技術・先端的技術に焦点をあてて機械システム工学の立場から講述する。これらの技術の中から、講師の研究テーマに関連し比較的関心があると思われる、巨大および微細技術、安全技術、輸送技術、エネルギー・地球環境問題などについて基礎的知識とトピックスについてその概要を紹介する。
後半の講義では、化学分野の現代の科学技術について述べる。20世紀において化学は急速に進歩した。これは、多くの元素が19世紀になって発見され、それ以来それらの原子構造に関する研究が目覚ましい進歩を遂げると共に、石炭・石油化学がエネルギー革命を引き起こし、プラスチックなどの化学製品が大量生産されるようになった。さらに、種々の化学製品の大量生産・大量消費・大量廃棄の時代となり、後に地球環境の悪化を導き出した。それとともに化石燃料の枯渇を危惧し、その代替エネルギー資源として原子エネルギーの平和利用が行われるようになった。しかしながら、これは危険性を秘めた科学技術である。21世紀において文明社会を維持しながら持続可能な科学技術を発展させ、地球環境の浄化方法などについて講義計画欄に示した順に従って述べる。
■到達目標
現代社会を縁の下で支えている先端技術の現状と課題について理解を深め、今後のあるべき姿あるいは方向性を考えるための基礎知識を修得する。また、科学（化学）技術の進歩とそれらの恩恵について知り、21世紀において、20世紀にもたらされた地球環境の悪化に対する対策を講じながら、持続的発展をいかに続けていくかを理解することが到達目標である。
■講義方法
前半はパワーポイント、プリントを用いて講義形式で行う。
後半はプリントを配布し、それに準じて講義する。各講義時間に小演習をし、適宜レポートを課す。
■系統的履修
「生活の中の物理」「生活の中の化学」（教養教育科目）
■成績評価の方法
前半は出席点10点と中間試験（第7回目授業時に実施）成績40点の合計50点とする。
後半は小演習（15%）レポート（15%）定期試験（70%）の合計を1/2にして合計50点とする。
前半と後半の点数を足し合わせて総計100点とする。
■テキスト
特定の教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
私語は他人に迷惑となるので慎むこと。目に余る者は退出または減点する。試験は持ち込みなし。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
前半は特に設けない。
後半は月曜5、6講時
■講義計画
①地震発生のメカニズムとプレートテクトニクス
②建築物の耐震設計の考え方
③輸送技術（特に鉄道輸送）
④エネルギー技術（特に原子力発電および太陽熱、風力発電）
⑤微細技術（特にマイクロマシン）
⑥地球環境問題（特に地球温暖化問題、人口問題）
⑦復習（中間試験）
⑧石油化学工業の進展
⑨人工合成プラスチック
⑩ファインセラミックス
⑪エネルギー資源：太陽電池（シリコンの精製）から原子力まで
⑫IT産業の進歩（アナログからデジタルへ）
⑬リサイクル技術
⑭環境浄化の方法

国際社会と日本A

【担当】松原　廣志
【開講】後期　水1

■サブタイトル
日露の交流史より
■講義概要
「国際社会と日本」というと、欧米やアジアアフリカ諸国との関係を思い浮かべることが多いと思われるが、この講義では過去300年余にわたるロシア・ソ連と日本との交流の歴史から、文化面に重点をおいて考察する。歴史的に日本とロシアの国家間関係は必ずしも円滑でなく、日本に伝わるロシア側の情報は少なく、偏りがちである。今日も日本側のロシアへの関心はあまり大きくないが、ロシア側の日本への関心はとくに文化面で非常に大きいものがある。講義ではこのようなギャップが生まれる土台を歴史的に考察し、日露両国の関係と文化的交流を探求する手がかりを探る。
■到達目標
情報が少なく、また一面的な日露関係についての基本的知識と見直し。
■講義方法
テキストは使わず、パワーポイントを使って視覚的にも理解を図る。また必要に応じて印刷教材を配布する。
■成績評価の方法
平常点（10%）　テーマごとのまとめ
レポート（30%）　文献資料、インターネット情報だけでなく、フィールドワークを踏まえたレポート提出
定期試験（60%）　800字以上での論述中心
■テキスト
特になし
■参考文献
ロシア史研究会編『日露二〇〇年　隣国ロシアとの交流史』彩流社
山下恒夫『大黒屋光太夫』岩波書店
中村健之介『宣教師にコライと明治日本』岩波書店
長塚英雄他『日本のなかのロシア　ロシア文化と交流史跡を訪ねる』東洋書店
参考文献は上記以外にも必要に応じて紹介する。
■履修上の注意・担当者からの一言
あまりなじみのない問題を取り上げるので、たとえこれまで関心をもっていなくても新たに育てようとする意欲をもつ人の受講を期待する。受身で聞くのでなく、自分で関心をもち、探求する姿勢が不可欠である。
■講義計画
①はじめに
②「鎖国」期の日本とロシア①
③　〃　②
④　〃　③
⑤　〃　④
⑥　〃　⑤
⑦　〃　⑥・まとめ
⑧文明開化期の日本とロシア①
⑨　〃　②
⑩　〃　③・まとめ
⑪シベリアと日本人①
⑫　〃　②
⑬　〃　③・まとめ
⑭おわりに

国際社会と日本B

【担当】アイスン　ウヤル
【開講】後期　金2

■サブタイトル
日本とアジア・太平洋の国際関係
■講義概要
国際関係論は、現代のグローバルな社会システムに影響する様々なアクターの政治・経済的そして社会的な相互関係を理論的に分析する学問です。
この講義の目的は、日本とアジア・太平洋における、現代および歴史的国際関係の事例を分析しながら政治学、経済学、社会学、哲学および国際法の基本的な考え方を理解できるようになることです。
■到達目標
グローバル社会を正しくよむ意識を深め、日本と世界諸地域の関係と日本の国際協力を理解した上で社会に貢献できるようになること。
■講義方法
講義の前半は、日本とアジア・太平洋における国際関係の概要を解説します。後半は、国際社会と日本の関係に基づき、現代日本の外交上の重要事例を分析します。その上で、一部学生によるプロジェクト発表を行います。
■成績評価の方法
平常点（40%）　コメントカードおよび発表による、授業への参加度
定期試験（60%）　中間試験：20%、定期試験：40%
■テキスト
毎回配布するレジュメ、PPTおよびビデオ等
■参考文献
清水 耕介『国際政治経済学―多様な視点から「世界」を読む』ミネルヴァ書房
■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワー：授業中に指示する
メール：aysunuyar@ad.ryukoku.ac.jp
■講義計画
①オリエンテーション
②国際関係論
③日本とアジア・太平洋の国際関係
④国際社会のアクター：国家、国際機関、多国籍企業, 非政府組織
⑤アジア・太平洋の国際政治経済論
⑥アジア・太平洋と日本：APEC、ASEANおよび東アジア共同体
⑦東アジアの地域主義：日本－中国－韓国
⑧国際貿易：日本とWTO、日本のFTA/EPA政策
⑨国際システム：日本と国際連合（UN）および日本の非政府組織の活動
⑩国際社会：日本とヨーロッパ
⑪国際社会：日本と中東（学生によるグループプロジェクト発表）
⑫国際社会：日本のODA政策（学生によるグループプロジェクト発表）
⑬国際社会：日本の多国籍企業（学生によるグループプロジェクト発表）
⑭まとめ：現在の国際社会と日本

国際社会と日本C

【担当】藤本　龍児
【開講】後期　水３

■講義概要
あなたはアメリカが好きですか、嫌いですか？　それともあまり関心がありませんか？
この講義は、アメリカに焦点をあて、日本やイスラームとのかかわりで国際社会を考えていく講義です。
また、イスラームが台頭して以降の国際社会を考えるために、「宗教」的観点を導入します。
いまや国際社会は、「アメリカの支配」が終わり「多極化の時代」に入った、と言われます。
アメリカの支配が終わった、と言われるのは「イラク戦争の失敗」や「金融資本主義の危機」を根拠にしてのことでしょう。
多極化とは、国際社会のなかで、アジア、ロシア、ヨーロッパ、イスラームなど多くの国が台頭してくることです。
たしかに今後は、これまでと違って、アメリカのパワーが衰えていくと考えられます。
しかし、それは決して、アメリカを軽んじたり無視したりすることができるようになる、ということではありません。
世界の国々は、好きであれ嫌いであれ、今後もアメリカとなんらかの形でかかわっていかなければならないのです。
とくに日本は、戦後から現在まで、アメリカと密接な関係を築いてきました。
これから日本が、アジアなど、他の国々との距離を縮めていくにしても、アメリカとの距離が問題にならざるをえません。
アメリカを過小評価することも過大評価することもなく、なるべく正確に理解し、国際社会を読み解いていこう、というのが本講義のテーマです。

■到達目標
「国際社会の見取り図」と「世界における日本の位置」をイメージできるようになること。

■講義方法
基本的には講義形式。
受講人数やテーマによっては、ディスカッションをおこなうこともあります。
受講生の理解度や興味、質問を反映させて、講義内容に柔軟性をもたせたいと思います。

■成績評価の方法
定期試験（100%）　講義やテキストをもとに、記述式・論述式でおこないます。

■テキスト
藤本龍児『(仮）アメリカニズムと宗教』NTT出版
後期が始まる頃には出版されている予定ですので、詳細が分かり次第、情報を追加します。

■参考文献
柴山桂太（編）『(仮）キーワードで読み解く現代社会』ナカニシヤ出版
春には出版されている予定ですので、詳細が分かり次第、情報を追加します。
また、さらに詳しく知りたい人のために、授業のなかで適宜、テーマごとの参考文献を紹介します。

■講義計画
①はじめに
②多文化主義／スピリチュアリティ／公共宗教
③テロ／原理主義／ EUとイスラーム
④親米／反米／嫌米
⑤アメリカ／イスラーム／日本
⑥おわりに

自然観察法

【担当】宮浦　富保、遊磨　正秀
【開講】前期　金２

■講義概要
瀬田学舎の近くには比較的豊かな自然環境が残されています。この講義では、瀬田学舎周辺で観察できる植物や動物を主な題材として、身近な自然を観察するポイントを学習します。講義だけでなく、実際に野外に出て、自らの目で観察し、記録し、簡単な分析を行う方法を学びます。

■到達目標
身近な自然環境を観察するための基本的な項目を体得する。

■講義方法
講義とともに、実際にキャンパス内外の身近な自然を観察し、記録、分析する方法を体験学習する。講義による知識の伝授は最低限度とし、可能な限り自らの目と手と頭を使うような授業内容を目指す。

■系統的履修
なし

■成績評価の方法
平常点（50%）・レポート（50%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
野外に出て自然観察をしますので、相応の服装と足元の準備をしてください。小雨程度であれば野外観察を実施します。カッパ、傘の準備をしてください。また、ここで示している授業計画は、雨などの気象条件によっては適宜変更します。

■講義計画
①４月１０日　野外における観察とは（ガイダンス）
②４月１７日　地形図の見方と野外での観察記録
③４月２４日　覚えよう身近な樹木
④５月　１日　動物の餌探し
⑤５月　８日　「昆虫の飛び方を探る」（チョウやハチの飛翔を観察する）
⑥５月１５日　田圃の生き物
⑦５月２２日　植物と動物の関係
⑧５月２９日　樹木の形
⑨６月　５日　ホタルの観察
⑩６月１２日　生物による造形（巣作り）
⑪６月１９日　生物の形の数理
⑫６月２６日　「生き物のだましを見抜こう」（擬態観察）
⑬７月　３日　カワニナの観察
⑭７月１０日　自由課題

ジェンダー論

【担当】山下　明子
【開講】前期　月1

■サブタイトル
グローバル化とジェンダー
■講義概要
「男」「女」の性差が文化や社会によって異なっているのがジェンダーだが、それゆえに性差別の内容も多様である。ところが経済のグローバル化の進行とともに、国境や文化の違いをこえた女性問題としてのジェンダーもあらわになってきた。環境や平和の視点から女性運動に共鳴する男性も増加している。本講では、このような世界の状況をみすえながら、私たちの日常的なジェンダーおよびセクシュアリティの問題を具体的に取り上げて考察する。国境や性差をこえて、人とひとがどうすれば対等につながることができるかについて考えたい。
■到達目標
ジェンダーとは何かを、たんに男と女の性差や役割のこととしてではなく、自身の解放、生き方の問題として気づくこと。
■講義方法
講義を中心とするが、ビデオ映像も使って、受講者が自分の問題として深く考えられるようにする。
■成績評価の方法
平常点（20%）
授業時のミニ試験・定期試験（80%）
論述形式・サブテーマについての理解度および自身の問題としての認識度
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
講義に出て、ジェンダーについての認識や思考を深めていくこと。
■講義計画
①性差を考える
②セックス、ジェンダー、セクシュアリティの関係と内容
③性の多様性について
④貧困の女性化について
⑤世界女性会議とその流れ
⑥リプロダクティブ・ヘルス／ライツ
⑦妊娠・中絶・出産
⑧メンズ・リブとは
⑨ＤＶをなくすために
⑩日本の場合
⑪日本軍「慰安婦」問題を考える
⑫トラフィッキングとは
⑬両者の関係について
⑭ジェンダー再編の現状について

ジェンダー論

【担当】山下　明子
【開講】前期　月2

■サブタイトル
グローバル化とジェンダー
■講義概要
「男」「女」の性差が文化や社会によって異なっているのがジェンダーだが、それゆえに性差別の内容も多様である。ところが経済のグローバル化の進行とともに、国境や文化の違いをこえた女性問題としてのジェンダーもあらわになってきた。環境や平和の視点から女性運動に共鳴する男性も増加している。本講では、このような世界の状況をみすえながら、私たちの日常的なジェンダーおよびセクシュアリティの問題を具体的に取り上げて考察する。国境や性差をこえて、人とひとがどうすれば対等につながることができるかについて考えたい。
■到達目標
ジェンダーとは何かを、たんに男と女の性差や役割のこととしてではなく、自身の解放、生き方の問題として気づくこと。
■講義方法
講義を中心とするが、ビデオ映像も使って、受講者が自分の問題として深く考えられるようにする。必要に応じて、質疑応答の時間をとる。
■成績評価の方法
授業時のミニテスト　20%、筆記試験（ミニ論文）80%、
サブテーマについての理解度および自身の問題としての認識度
■テキスト
特になし
■参考文献
山下明子『戦争とおんなの人権』明石書店　1800円
山下明子『アジアの女たちと宗教』解放出版社　1700円
その他、授業中に関連文献を指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
講義に出て、ジェンダーについての認識や思考を深めていくこと。
■講義計画
①オリエンテーションー「性差」を考える
②ジェンダーとは何か（1）
③ジェンダーとは何か（2）
④国際化する女性問題
⑤国際化する女性運動
⑥性と生殖ーリプロダクティブ・ヘルス／ライツについて
⑦性と生殖ー妊娠と出産
⑧男性解放の思想
⑨男性解放の運動
⑩戦時下の性暴力
⑪人身売買と性産業
⑫ナショナリズムとジェンダー
⑬経済のグローバル化とジェンダー

ジェンダー論

【担当】山下　明子
【開講】前期　月３

■サブタイトル
グローバル化とジェンダー
■講義概要
「男」「女」の性差が文化や社会によって異なっているのがジェンダーだが、それゆえに性差別の内容も多様である。ところが経済のグローバル化の進行とともに、国境や文化の違いをこえた女性問題としてのジェンダーもあらわになってきた。環境や平和の視点から女性運動に共鳴する男性も増加している。本講では、このような世界の状況をみすえながら、私たちの日常的なジェンダーおよびセクシュアリティの問題を具体的に取り上げて考察する。国境や性差をこえて、人とひとがどうすれば対等につながることができるかについて考えたい。
■到達目標
ジェンダーとは何かを、たんに男と女の性差や役割のこととしてではなく、自身の解放、生き方の問題として気づくこと。
■講義方法
講義を中心とするが、ビデオ映像も使って、受講者が自分の問題として深く考えられるようにする。必要に応じて、質疑応答の時間をとる。
■成績評価の方法
授業時のミニテスト　20%、筆記試験（ミニ論文）80%、
サブテーマについての理解度および自身の問題としての認識度
■テキスト
特になし
■参考文献
山下明子『戦争とおんなの人権』明石書店　1800円
山下明子『アジアの女たちと宗教』解放出版社　1700円
その他、授業中に関連文献を指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
講義に出て、ジェンダーについての認識や思考を深めていくこと。
■講義計画
①オリエンテーションー「性差」を考える
②ジェンダーとは何か（１）
③ジェンダーとは何か（２）
④国際化する女性問題
⑤国際化する女性運動
⑥性と生殖ーリプロダクティブ・ヘルス／ライツについて
⑦性と生殖ー妊娠と出産
⑧男性解放の思想
⑨男性解放の運動
⑩戦時下の性暴力
⑪人身売買と性産業
⑫ナショナリズムとジェンダー
⑬経済のグローバル化とジェンダー

情報社会とメディア

【担当】野村　竜也、三浦　雅展
【開講】前期　月３

■サブタイトル
情報社会をいかに生きるか：生活の場における情報
■講義概要
現代社会は情報社会である。文明史的に見れば牧畜社会、農耕社会、工業社会の次に現れた新しい社会である。そこでは情報が主役となる。コンピュータと通信の発達に支えられて従来とは本質的に変わった様相を持つ社会である。この情報社会ではメディアはどのように関わってくるのであろうか。情報社会の光と影を認識し、リテラシーとともに、膨大な情報メディアに振り回されぬ自己主体性と判断力を身に付けることが重要である。本講義では、情報化時代を積極的に生き抜き、より良い生活を送るためには、情報とメディアの本質をどのように理解し、それをどのように情報化に対応し活用するのかを考えていく。
■到達目標
情報化社会の文明史的鳥瞰に基づき、基本と概要が理解できる。
■講義方法
主として講義形式。一部に演習的な要素も取り入れる。
■系統的履修
特になし。
■成績評価の方法
平常点40点、レポート60点、合計100点満点で評価する。
■テキスト
使用しない。プリント。パワーポイント使用。
■参考文献
講義時に適宜指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
情報は目に見える物体があるわけではなく、系統的に整理され、関係付けられた概念や考え方の集合体である。問題の本質を捕らえて、自分で考え、自分のものとして身に付けること。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
７号館２階の教員室前にオフィスアワーの掲示がある。
■講義計画
①情報化社会：ITを中心に
②ITは社会の何をを変えたのか
③Tは社会の何を変えられなかったのか
④教育におけるIT（1）：コンピュータの学習
⑤教育におけるIT（2）：コンピュータによる学習
⑥コンピュータに対する心理的反応
⑦総括：社会におけるITの今後のあり方
⑧情報の基本概念：情報・メディア・伝達
⑨メディア処理技術とユーザーインターフェイス
⑩情報システムと情報ネットワーク
⑪メディアの諸相（1）：音メディアが伝える情報
⑫メディアの諸相（2）：映像メディアが伝える情報
⑬人間によるメディア処理：視覚と聴覚によるメディア処理
⑭総括：メディアの知覚からアートへ

情報社会とメディア

【担当】野村　竜也、三浦　雅展
【開講】後期　木３

■サブタイトル
情報社会をいかに生きるか：生活の場における情報

■講義概要
現代社会は情報社会である。文明史的に見れば牧畜社会、農耕社会、工業社会の次に現れた新しい社会である。そこでは情報が主役となる。コンピュータと通信の発達に支えられて従来とは本質的に変わった様相を持つ社会である。この情報社会ではメディアはどのように関わってくるのであろうか。情報社会の光と影を認識し、リテラシーとともに、膨大な情報メディアに振り回されぬ自己主体性と判断力を身に付けることが重要である。本講義では、情報化時代を積極的に生き抜き、より良い生活を送るためには、情報とメディアの本質をどのように理解し、それをどのように情報化に対応し活用するのかを考えていく。

■到達目標
情報化社会の文明史的鳥瞰に基づき、基本と概要が理解できる。

■講義方法
主として講義形式。一部に演習的な要素も取り入れる。

■系統的履修
特になし。

■成績評価の方法
平常点40点、レポート60点、合計100点満点で評価する。

■テキスト
使用しない。プリント。パワーポイント使用。

■参考文献
講義時に適宜指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言
情報は目に見える物体があるわけではなく、系統的に整理され、関係付けられた概念や考え方の集合体である。問題の本質を捕らえて、自分で考え、自分のものとして身に付けること。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
７号館２階の教員室前にオフィスアワーの掲示がある.

■講義計画
①情報化社会：ITを中心に
②ITは社会の何をを変えたのか
③Tは社会の何を変えられなかったのか
④教育におけるIT（1）：コンピュータの学習
⑤教育におけるIT（2）：コンピュータによる学習
⑥コンピュータに対する心理的反応
⑦総括：社会におけるITの今後のあり方
⑧情報の基本概念：情報・メディア・伝達
⑨メディア処理技術とユーザーインターフェイス
⑩情報システムと情報ネットワーク
⑪メディアの諸相（1）：音メディアが伝える情報
⑫メディアの諸相（2）：映像メディアが伝える情報
⑬人間によるメディア処理：視覚と聴覚によるメディア処理
⑭総括：メディアの知覚からアートへ

情報と人間

【担当】村田　正
【開講】後期　月３

■講義概要
我々は、文化的な社会生活を行う上で「情報」という言葉を抜きには考えられない。我々を取り巻く社会環境は、様々な情報を発信し、それらの中から各自に必要な情報を選択し、受容し、判断し、それぞれに即した行動をとっている。我々の社会生活において、その「情報」とは何か。本講義では「情報」の性質や特徴を明らかにするとともに、情報メディアとしての通信、コンピュータ、インターネットの仕組みを学ぶ。また、人間の特質、機械と人間の違いなどにもふれ、「情報と人間」の関係を学ぶ。

■到達目標
モノ社会と情報社会の違い、情報の表現や伝達方法、通信、コンピュータ、インターネットの仕組みとこれを利用するのに必要な知識を教育する。

■講義方法
情報社会の仕組みや本質を深く考えることに重点を置き、授業計画に従って進める。

■成績評価の方法
小テスト（20%）
定期試験（80%）
中間試験2回（各10点）と期末試験（80点、教科書・ノート・その他持ち込み不可）で評価する。

■テキスト
回陽博史『情報と人間』オーム社　2310円

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
本講義で学ぶ情報、メディア、コンピュータ、インターネットに関する知識は、文系、理系を問わず、これからの社会を生き抜くには必要不可欠の知識です。好き嫌いではなく、大学生の基礎知識として理解し、習得して下さい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワーは部屋（Ｉ－412）前に掲示しています。

■講義計画
①情報と人間
②情報の性質
③ディジタル革命
④情報の表現技術
⑤情報量に関する演習と小テスト
⑥コミュニケーションの構造
⑦通信の仕組み
⑧コンピュータの仕組み
⑨インターネットの仕組み
⑩2進法に関する演習と小テスト
⑪情報社会の脆弱性
⑫仮想空間とライフスタイル
⑬まとめとしての「情報と人間」
⑭全体を通しての質疑応答

情報倫理

【担当】野村　竜也、芝原　努
【開講】前期　月４

■サブタイトル
情報社会における心理・技術・法
■講義概要
情報化に伴う社会の変化により、倫理や規範の問題についても、これまでの議論の枠組みとは異なる視点からの再検討が必要になっていると考えられる。例えば、従来の知的財産権法制は情報社会において有効な行動指針たりうるのか、新たな形態の反社会的行動に対する対策はいかにありうるのか、人と人の間の対話のあり方はどのように変容していくのか等、問題は多岐に渡り、社会や個人の様々な側面に関係している。本講義では、こうした課題を法制・関連IT技術・個人の心理面の3テーマから整理し、情報倫理の問題を多面的に検討していくことを目指す。
■到達目標
人がインターネット等で活動する際に直面する問題はどのようなものか、そうした問題を予防し、またはこれに対処する行動指針とはどのようなものかを理解する。
■講義方法
講義計画に沿ってレジュメと資料を配布し、それに基づき講義形式で進める。可能な限り視聴覚教材も利用する。
■成績評価の方法
平常点（20%）・レポート（40%）・定期試験（40%）
レポートは上記テーマごとに１回、合計3回を予定
■テキスト
講義時間中に資料を配布
■参考文献
A.N.ジョインソン『インターネットにおける行動と心理』北大路書房　2800円
Deborah G. Johnson『コンピュータ倫理学』オーム社　2500円
名和小太郎『情報の私有・共有・公有　ユーザーからみた著作権』NTT出版　2500円
■履修上の注意・担当者からの一言
3つのテーマからなる講義のため、1回でも欠席するとその回の内容は理解不能。配布資料はあくまで補助教材であり、毎回出席し確実にメモをとることが必須。授業中の私語厳禁は当然。
■講義計画
①インターネットにおける行動と心理および技術者倫理・セキュリティ
②「情報倫理」に関連する反社会行動と具体的法律

人権論Ａ（2003年度以降入学生）
人権論Ⅰ（2002年度以前入学生）

【担当】岸　衛
【開講】前期　金１

■サブタイトル
自分をみつめ・差別をみつめ・世間をみつめる
■講義概要
１　差別は人と人の関係の中で起こる。人との関係の中で「自分」をどうとらえるかという課題、自分と他人の関係の結び方、「まなざし」と差別など、「アイデンティティ」について考える。
２　被差別部落に対する差別意識を中心に、自分の中の差別する心をみつめる。
３　日本人の差別意識の根底で生き続ける「世間」について考えを深めていきたい。世間における人と人の関係を明らかにしながら、日本人の「原風景」や生活意識の中の「ケガレ意識」や「畏れ・怖れ」の視点から日本における部落差別の根底を探る。
４　中世ヨーロッパの宇宙観と被差別民について学ぶ。
■到達目標
＊今の「世の中」を見る目を身につける。
＊自分との関係でものをとらえる習慣を身につける。
＊本を読む習慣を身につける。
■講義方法
受講人数にもよるが、講義だけでなく、報告や討議も大切にしたい。
■系統的履修
人権論Ｂ
■成績評価の方法
レポート（50%）　講義の中でテーマを課し、レポートを転出する
定期試験（50%）
■テキスト
岸　衛『自分・差別・世間　第２版』反差別国際連帯解放研究所しが　700円
■参考文献
桜井厚『境界文化のライフストーリー』せりか書房　2500円
桜井厚・岸衛編『屠場文化…語られなかった世界…』創土社　2520円
反差別国際連帯解放研究所しが編『語りのちから』弘文堂　2415円
■講義計画
①オリエンテーション
②知ってもらいたい「自分」
③「まなざし」と差別
④まとめ「自分を見つめる」
⑤被差別部落を「なぜ、差別するのか」という問題
⑥畏れながら遠ざける「差別」
⑦賤民身分の人たちが担ってきた仕事
⑧日本人の「原風景」と差別
⑨中世ヨーロッパの宇宙観と被差別民
⑩結婚をめぐって
⑪まとめ：「部落差別の根底にあるもの」
⑫世間とは何か
⑬世間の中の「自分」
⑭まとめ「自分・差別・世間」

人権論A（2003年度以降入学生）
人権論Ⅰ（2002年度以前入学生）

【担当】妻木　進吾
【開講】前期　水3

■サブタイトル
「若者と就業」から考える人権

■講義概要
フリーター、ニートと呼ばれる若者の存在が社会問題化している。また近年、派遣労働者などの労働と生活も大きな社会問題となっている。こうした人びとはなぜ、どのようにして生み出されたのか。彼／彼女らはどのような人々で、その労働と生活とはいかなるものか。行政はどのような対応を試みているのか。また、正社員と呼ばれる若者の労働と生活とはいかなるものか。本講義では、フリーターやニートと呼ばれる若者を出発点に、「若者と就労」という切り口から人権について考えていく。

■到達目標
本講義の目標は、「他人を差別してはならない」「他人を傷つけてはならない」「他人に優しく」といった禁止や命令について学ぶことではない。「若者と就業」を切り口に、自らの権利について学び、人権について意見を主張できるようになることを目標とする。

■講義方法
ビデオ視聴なども活用して講義する。

■成績評価の方法
平常点（50%）
レポート（50%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①イントロダクション、人権概念のあゆみ
②「ニート急増85万人」は何を意味するのか？
③フリーターの急増と社会問題化（1）
④フリーターの急増と社会問題化（2）
⑤フリーター、ニート急増の構造的背景
⑥フリーター、ニートと「やりたいことという論理」
⑦働き過ぎの正社員
⑧フリーター、ニートになるのは誰か？（1）
⑨フリーター、ニートになるのは誰か？（2）
⑩フリーター、ニートになるのは誰か？（3）
⑪働く者の権利について考える（1）
⑫働く者の権利について考える（2）
⑬立ち上がる若者たち（1）
⑭立ち上がる若者たち（2）
⑮まとめ：格差社会と「自己責任論」

人権論A（2003年度以降入学生）
人権論Ⅰ（2002年度以前入学生）

【担当】中川　ユリ子
【開講】前期　月1

■サブタイトル
現在の被差別部落・入門

■講義概要
日本で人権ということばが根づいてきたのは、社会運動があったからである。労働者の権利を獲得する運動、被差別部落の人々の差別を打開しようとする運動、戦後の婦人参政権を獲得する運動など、さまざまなものがあり、その運動の過程で「人の権利」が模索された。その結果、法的な人権は、不完全であるとはいえ、時代とともに整ってきた。しかし、問題は、法的に差別がなくなっても、われわれの生活のなかでは差別が多く存在することである。

本講義では、長い運動の歴史をもつ被差別部落をテーマとする。かつて、同和対策事業が大々的に行われ、多くの部落は確かに大きく変わった。市民の意識を変革していこうとする試みも数多くなされ、今では「部落差別はよくないことだ」とたいていの人が知っている。しかし、現実的には、差別がすべて解決したとは言い難い。「部落差別は良くない」と知りながら、それは表向きの意見で、実際には差別をする側に身を置く人も多くいる。大きく変化した現在の部落の実態と、周囲の実態、そして、その問題点を明らかにする必要がある。

差別を生み、再生産してゆく社会について、多様な側面からその不合理性を指摘していきたい。

■到達目標
たてまえ的な言説にまどわされず、ものごとの深層を見る力を養う。

■講義方法
初回から4，5回目までの講義は、現実を把握することを主眼とする。その後は、個々人がその現実とどういう関係性をもっているのかが理解できるような題材を用いて、講義を行う。

■系統的履修
特にない。

■成績評価の方法
定期試験（100%）
基本的には、定期試験による評価を考えている。定期試験の場合は、記述式の問題を考えている。レポートを書くように、問題点を自分でまとめて、答える（文章を作る）という形をとる。ただし、講義の進捗状況によっては、レポートを10～15%とすることもある。講義中に改めて指示する。

■テキスト
教科書は使用しない。講義中にプリントを配布する。

■参考文献
読んで欲しい本、興味をひかれるだろう本等は、講義時に指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言
内容を単に覚えるのではなく、考える力を身につけてほしい。他の社会事象を判断する視点が変わってくるはずである。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
連絡用のemailを講義時に知らせることを考えている。

■講義計画
①部落問題とは何か
②今日の差別事象－－結婚差別を考える
③被差別部落の実態－－統計資料より
④被差別部落の実態－－統計資料より
⑤同和対策事業が部落にもたらしたもの
⑥古い問題、新しい問題
⑦部落の新しい世代
⑧ある唄から部落を見る①
⑨ある唄から部落を見る②
⑩賤民の歴史－中世・近世
⑪部落の歴史－近代（水平社、戦争中、同和対策事業）
⑫部落の人々が語ること
⑬部落とは何か
⑭予備日（ビデオの上映）

人権論A（2003年度以降入学生）
人権論Ⅰ（2002年度以前入学生）

【担当】松本　城洲夫
【開講】前期　月2

■サブタイトル
「人権侵害・未保障問題」から人権を考える

■講義概要
近代ヨーロッパで誕生した人権の概念は、「市民的自由と市民的権利」「人間の尊厳」「パブリック・モラル」などの概念と有機的に関連しながら発展してきた。日本人にとって共通理解のあいまいなこの人権概念について、人権A・人権Ⅰでは、「差別からのアプローチ」「市民的権利からのアプローチ」「人権文化からのアプローチ」をテーマに、歴史的視点を大切にして、今日の社会状況もふまえ、自分自身の日常生活を考えていく回路として深める。

■到達目標
「人権」という近代社会の原理を日常生活との関連で多角的に考えることによって、人生を切り拓いていくために必要な自己自立と生活規範確立への糸口を発見する。

■講義方法
講義資料やビデオ視聴なども活用して講義する。

■系統的履修
法学、社会学、歴史学

■成績評価の方法
レポート（60%）　全講義終了後に前期テーマに即したレポートの提出を求める
平常点（40%）の内訳
・講義時に前期授業計画のテーマに即したミニ・レポートの提出を求める（3回）・・・30%
・授業に対する姿勢の評価・・・10%

■テキスト
使用しない

■参考文献
講義時に指示

■履修上の注意・担当者からの一言
自分自身の「個人の自由・自立・自尊」やモラルの問題として、主体的に考えてほしい。

■講義計画
①オリエンテーション〇サブタイトルの概要
②「差別」からのアプローチ〇部落差別について①概論
③「差別」からのアプローチ〇部落差別について②「同和対策審議会答申」を読む
④「差別」からのアプローチ〇部落差別について③自治体の啓発活動から
⑤「差別」からのアプローチ〇「偏見」について
⑥「市民的権利」からのアプローチ〇「フランス人権宣言」から
⑦「市民的権利」からのアプローチ〇憲法第3章と市民的権利
⑧「市民的権利」からのアプローチ〇「人権行政」について（1）
⑨「市民的権利」からのアプローチ〇「人権行政」について（2）
⑩「人権の文化」からのアプローチ〇「世界人権宣言」について
⑪「人権の文化」からのアプローチ〇「人権教育・啓発」について
⑫「人権の文化」からのアプローチ〇アメリカの公民権法（1）
⑬「人権の文化」からのアプローチ〇アメリカの公民権法（2）

人権論A（2003年度以降入学生）
人権論Ⅰ（2002年度以前入学生）

【担当】松本　城洲夫
【開講】前期　月3

■サブタイトル
「人権侵害・未保障問題」から人権を考える

■講義概要
近代ヨーロッパで誕生した人権の概念は、「市民的自由と市民的権利」「人間の尊厳」「パブリック・モラル」などの概念と有機的に関連しながら発展してきた。日本人にとって共通理解のあいまいなこの人権概念について、人権A・人権Ⅰでは、「差別からのアプローチ」「市民的権利からのアプローチ」「人権文化からのアプローチ」をテーマに、歴史的視点を大切にして、今日の社会状況もふまえ、自分自身の日常生活を考えていく回路として深める。

■到達目標
「人権」という近代社会の原理を日常生活との関連で多角的に考えることによって、人生を切り拓いていくために必要な自己自立と生活規範確立への糸口を発見する。

■講義方法
講義資料やビデオ視聴なども活用して講義する。

■系統的履修
法学、社会学、歴史学

■成績評価の方法
平常点（40%）　内訳は「自由記載」欄を参照のこと
レポート（60%）　全講義終了後に前期テーマに即したレポートの提出を求める
平常点（40%）の内訳
・講義時に前期授業計画のテーマに即したミニ・レポートの提出を求める（3回）・・・30%
・授業に対する姿勢の評価・・・10%

■テキスト
使用しない

■参考文献
講義時に指示

■履修上の注意・担当者からの一言
自分自身の「個人の自由・自立・自尊」やモラルの問題として、主体的に考えてほしい。

■講義計画
①オリエンテーション〇サブタイトルの概要
②「差別」からのアプローチ〇部落差別について①概論
③「差別」からのアプローチ〇部落差別について②「同和対策審議会答申」を読む
④「差別」からのアプローチ〇部落差別について③自治体の啓発活動から
⑤「差別」からのアプローチ〇「偏見」について
⑥「市民的権利」からのアプローチ〇「フランス人権宣言」から
⑦「市民的権利」からのアプローチ〇憲法第3章と市民的権利
⑧「市民的権利」からのアプローチ〇「人権行政」について（1）
⑨「市民的権利」からのアプローチ〇「人権行政」について（2）
⑩「人権の文化」からのアプローチ〇「世界人権宣言」について
⑪「人権の文化」からのアプローチ〇「人権教育・啓発」について
⑫「人権の文化」からのアプローチ〇アメリカの公民権法（1）
⑬「人権の文化」からのアプローチ〇アメリカの公民権法（2）

人権論Ｂ（2003年度以降入学生）
人権論Ⅱ（2002年度以前入学生）

【担当】岸　衛
【開講】後期　金１

■サブタイトル
ライフストーリー・インタビューからみえてきた「生活・文化」と「差別」

■講義概要
①ライフストーリー・インタビューを通してみえてきた被差別部落の生活・文化史を学ぶ。ライフストーリー・インタビューは、文字として記録には残らなかったけれども「あった」ひとり一人の生活史の「語り」である。
　こうして得られた「語り」から、農耕を中心にした日本の支配的な「暮らし」や「仕事」とは違った「もうひとつの」生活文化を明らかにしたい。文字と巧みな言葉で人を支配し管理する学歴社会とはちがう、「もうひとつの」生活文化の中にこそ、今、私たちが受け継がなければならない大切な人と人のつながりや生き方がある。
②生活と差別の中で人々が身につけた文化と教養について知り、現在の私たちの時代が失った「もうひとつの生活・文化」、さらには、今、私たちに必要なリベラル・アーツとしての教養について学ぶ。

■到達目標
＊ 今の「世の中」を見る目が身につく。
＊ 自分との関係でものをとらえる習慣が身につく。
＊ 本を読む習慣が身につく。
＊「いかに生きるか」を問う姿勢ができる。

■講義方法
受講人数にもよるが、講義だけでなく、報告や討議も大切にしたい。実際の聞き取り調査にもとづく映像や写真、資料も紹介しながら、進める。

■成績評価の方法
レポート（50%）　５つの章について自分の読み込んだ、まとめを、Ａ４用紙で提出。
定期試験（50%）　全体から、提出する
　　詳しいテーマ等は、講義の中で言います。

■テキスト
岸衛『自分・差別・世間第２版』反差別国際連帯解放研究所しがリリアンス・ブックレット8　700円

■参考文献
桜井厚『境界文化のライフストーリー』せりか書房　2500円
桜井厚・岸衛編『屠場文化…語られなかった世界…』創土社　2520円
反差別国際連帯解放研究所しが編『語りのちから』弘文堂　2415円

■講義計画
①オリエンテーション　生活史について
②ライフストーリーの聞き方
③「もうひとつ」の生活文化①
④文字によらない生活文化
⑤生きる知恵としての仕事
⑥さまざまな仕事
⑦「不安定就労」とは何か
⑧「嫁盗み」の物語－若者同士の婚姻慣行－
⑨靴職人の魂の物語
⑩手縫いの靴を受け継ぐ
⑪「屠場文化」－語られなかった世界－
⑫「屠場」のあり方をめぐって
⑬「もうひとつ」の生活文化②
⑭リベラルアーツ（教養）を求めて
⑮まとめ

人権論Ｂ（2003年度以降入学生）
人権論Ⅱ（2002年度以前入学生）

【担当】妻木　進吾
【開講】後期　水３

■サブタイトル
「ホームレス問題」から考える人権

■講義概要
1990年代後半以降、日本の都市部においてホームレスと呼ばれる人々の存在が可視化し、社会問題化した。彼らはなぜ、どのようにして生み出されたのか。彼／彼女らはどのような人々で、彼／彼女らの労働と生活とはいかなるものか。行政はどのような対応を試みているのか。本講義では、「自己責任」が強調されがちな現代にあって、「無責任の典型」と見なされがちな、ホームレスと呼ばれる人々を出発点、あるいは切り口として、人権について考えていく。

■到達目標
本講義の目標は、「他人を差別してはならない」「他人を傷つけてはならない」「他人に優しく」といった禁止や命令について学ぶことではない。ホームレスと呼ばれる人々の実態を知った上で、「人権」をめぐって意見を主張できるようになることを目標とする。

■講義方法
ビデオ視聴なども活用して講義する。

■成績評価の方法
平常点（50%）・レポート（50%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①イントロダクション、人権概念のあゆみ
②「ホームレス問題」の社会問題化（1）
③「ホームレス問題」の社会問題化（2）
④誰が野宿者になるのか？
⑤寄せ場・釜ヶ崎と野宿者（1）
⑥寄せ場・釜ヶ崎と野宿者（2）
⑦野宿者の生活実態（1）
⑧野宿者の生活実態（2）
⑨「ホームレス襲撃」
⑩野宿者の強制立ち退き
⑪「ホームレス自立支援策」の展開：自立とは何か？（1）
⑫「ホームレス自立支援策」の展開：自立とは何か？（2）
⑬ホームレスとの共生？
⑭「ホームレス問題」の新たな局面（1）
⑮「ホームレス問題」の新たな局面（2）

人権論B（2003年度以降入学生）
人権論Ⅱ（2002年度以前入学生）

【担当】中川　ユリ子
【開講】後期　月1

■サブタイトル
「生」と「性」

■講義概要
女性のタクシー運転手、社長、そして、知事。時代は変わった……そう言う人も多い。しかし、「女の子は勉強なんかできなくても料理ができれば、いいお嫁さんになれるのよ」と何の疑問も持たずに言う大人たちも多く存在する。テレビの視聴者参加番組で「あんた、男だろう」と、司会者のタレントに態度をたしなめられる男性をみて、違和感を感じる人は、どれほどいるのだろう。小さい頃から私たちの周りには、男と女をことあるごとに峻別し、「らしさ」に順応することを期待する大人たちがたくさんいた。子どもの見る絵本やアニメのなかでも、「男だから」「女だから」が強調される。それでも、学生である間は、男女の差をあまり気にせずに生活できる。しかし、社会に出ると、女と男の扱いの差に気づくはずである。社会の入口の就職活動では、企業の対応にあからさまな差別はなくなったものの、男子学生の方が就職の決定が一般的に早い。
現在の日本は、いまだに女性にとって生きにくい社会である。その裏返しで、男性も多くの可能性を封じ込められている。
「らしさ」の呪縛から解き放たれるためには、ちょっとした知識が必要である。その知識は、「常識」をちがう角度から見せてくれるはずである。

■到達目標
常識にとらわれず、さまざまな角度からものを見る力を養う。

■講義方法
まず、身近な問題を取り上げ、日本の現実を把握する。そして、個々人がその現実とどう関わっているのかを考える。さらに、差別の無根拠性を明らかにする。

■成績評価の方法
定期試験（100%）
記述式の試験による評価を考えている。レポートを書くように、解答の文章を自分で考えて書く。ただし、講義の進捗状況によっては、レポートを10～15%とする場合もある。講義中に改めて指示する。

■テキスト
教科書は使用しない。プリントを配布する。

■参考文献
おもしろい本などは講義時に紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
覚えるのではなく、常識に疑問を持ち、考える姿勢を身につけてほしい。講義ではそのための知識を提供したい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
希望があれば、emailを使用することを考えている。

■講義計画
①差別問題を考える意味
②女の子、男の子はつくられる
③女の子、男の子はつくられる　　性の認識
④どこで「らしさ」を学んだのか　絵本
⑤どこで「らしさ」を学んだのか　学校
⑥どこで「らしさ」を学んだのか　テレビ
⑦女人禁制――伝統をどう考えるか
⑧「常識」を疑え！
⑨性暴力①　セクシュアルハラスメント
⑩性暴力②　レイプ
⑪多様な性のあり方－同性愛①
⑫多様な性のあり方－同性愛②
⑬多様な性のあり方－トランスジェンダー
⑭まとめ

人権論B（2003年度以降入学生）
人権論Ⅱ（2002年度以前入学生）

【担当】松本　城洲夫
【開講】後期　月2

■サブタイトル
「人権自己認識問題」から人権を考える

■講義概要
近代ヨーロッパで誕生した人権の概念は、「市民的自由と市民的権利」「人間の尊厳」「個人と社会」「パブリック・モラル」などの概念と有機的に関連しながら発展してきた。日本人にとって共通理解のあいまいなこの人権概念について、人権論B･人権論Ⅱでは、「日本の近代化と人権からのアプローチ」「個人の確立からのアプローチ」「パブリック・モラルからのアプローチ」をテーマに、歴史的視点を大切にして、今日の社会状況もふまえ、自分自身の日常生活を考えていく回路として深める。

■到達目標
「人権」という近代社会の原理を日常生活との関連で多角的に考えることによって、人生を切り拓いていくために必要な自己自立と生活規範確立への糸口を発見する。

■講義方法
講義資料やビデオ視聴なども活用して講義する。

■系統的履修
文学、哲学、社会学、歴史学

■成績評価の方法
平常点（40%）　内訳は「自由記載」欄を参照のこと
レポート（60%）　全講義終了後に前期テーマに即したレポートの提出を求める
平常点（40%）の内訳
・講義時に前期授業計画のテーマに即したミニ・レポートの提出を求める（3回）…30%
・授業に対する姿勢の評価…10%

■テキスト
使用しない

■参考文献
講義時に指示

■履修上の注意・担当者からの一言
自分自身の「個の自由・自立・自尊」やモラルの問題として、主体的に考えてほしい。

■講義計画
①オリエンテーション　○サブタイトルの概要
②「近代化と人権」からのアプローチ　○「日本の近代化の歴史」と人権
③「近代化と人権」からのアプローチ　○福沢諭吉が見た近代ヨーロッパ
④「近代化と人権」からのアプローチ　○「自由民権運動」について
⑤「近代化と人権」からのアプローチ　○文学者たちの近代化論（1）
⑥「近代化と人権」からのアプローチ　○文学者たちの近代化論（2）
⑦「近代化と人権」からのアプローチ　○文学者たちの近代化論（3）
⑧「個人の確立」からのアプローチ　○黒澤明監督の目ざしたもの
⑨「個人の確立」からのアプローチ　○「世間」と「個人」について
⑩「個人の確立」からのアプローチ　○音楽と人権
⑪「パブリック・モラル」からのアプローチ　○「パブリック」と「社会」
⑫「パブリック・モラル」からのアプローチ　○「日本の倫理思想」と人権
⑬「パブリック・モラル」からのアプローチ　○様々な「日本人論」から

人権論B（2003年度以降入学生）
人権論Ⅱ（2002年度以前入学生）

【担当】松本　城洲夫
【開講】後期　月3

■サブタイトル
「人権自己認識問題」から人権を考える
■講義概要
近代ヨーロッパで誕生した人権の概念は、「市民的自由と市民的権利」「人間の尊厳」「個人と社会」「パブリック・モラル」などの概念と有機的に関連しながら発展してきた。日本人にとって共通理解のあいまいなこの人権概念について、人権論B･人権論Ⅱでは､「日本の近代化と人権からのアプローチ」「個人の確立からのアプローチ」「パブリック・モラルからのアプローチ」をテーマに、歴史的視点を大切にして、今日の社会状況もふまえ、自分自身の日常生活を考えていく回路として深める。
■到達目標
「人権」という近代社会の原理を日常生活との関連で多角的に考えることによって、人生を切り拓いていくために必要な自己自立と生活規範確立への糸口を発見する。
■講義方法
講義資料やビデオ視聴なども活用して講義する。
■系統的履修
文学、哲学、社会学、歴史学
■成績評価の方法
平常点（40%） 内訳は「自由記載」欄を参照のこと
レポート（60%） 全講義終了後に前期テーマに即したレポートの提出を求める
平常点（40%）の内訳
・講義時に前期授業計画のテーマに即したミニ・レポートの提出を求める（3回）…30%
・授業に対する姿勢の評価…10%
■テキスト
使用しない
■参考文献
講義時に指示
■履修上の注意・担当者からの一言
自分自身の「個の自由・自立・自尊」やモラルの問題として、主体的に考えてほしい。
■講義計画
①オリエンテーション　○サブタイトルの概要
②「近代化と人権」からのアプローチ　○「日本の近代化の歴史」と人権
③「近代化と人権」からのアプローチ　○福沢諭吉が見た近代ヨーロッパ
④「近代化と人権」からのアプローチ　○「自由民権運動」について
⑤「近代化と人権」からのアプローチ　○文学者たちの近代化論（1）
⑥「近代化と人権」からのアプローチ　○文学者たちの近代化論（2）
⑦「近代化と人権」からのアプローチ　○文学者たちの近代化論（3）
⑧「個人の確立」からのアプローチ　○黒澤明監督の目ざしたもの
⑨「個人の確立」からのアプローチ　○「世間」と「個人」について
⑩「個人の確立」からのアプローチ　○音楽と人権
⑪「パブリック・モラル」からのアプローチ　○「パブリック」と「社会」
⑫「パブリック・モラル」からのアプローチ　○「日本の倫理思想」と人権
⑬「パブリック・モラル」からのアプローチ　○様々な「日本人論」から

スポーツ文化論

【担当】松下　唯夫
【開講】前期　水3

■サブタイトル
文化人類学の立場から、スポーツは「誰のためのものか」を考え、学ぶ
■講義概要
スポーツは人類の発展史と共にあり、その過去の歴史から、ナショナリズム・プロパガンダ・ビジネス化・アマチュアリズム･人種差別など明らかにしながら「誰のためのスポーツか」を受講学生とともに考える。
■到達目標
スポーツ文化の理解を深める。
■講義方法
板書、配布資料、ビデオ
■成績評価の方法
平常点80%（講義中のミニレポート）
期末の課題レポート20%
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■講義計画
①映画「スパルタカス」「ベンハー」から古代スポーツを見る
②　〃
③近代スポーツの発展史（イタリアの古式サッカーと1600年～1900年代のスポーツ事情）
④　〃
⑤日本の戦前・戦後のスポーツ事情
⑥　〃　（人見・古橋から学ぶ）
⑦アマチュアリズムとフェアプレー
⑧テレビ支配
⑨ビジネス化
⑩スポーツとプロパガンダ
⑪スポーツの市民参加
⑫イタリア・シエナのパリオ（競馬）とコミュニケーション
⑬まとめ1
⑭まとめ2

生活の中の宗教

【担当】寺本　知正
【開講】前期　月１

■講義概要
宗教とは何であるかを考えるとき、学者の数だけ「宗教とは何か」の定義があると言われます。個々人の心理現象との関わりにおいて宗教を見た場合や、行動規範との関わりから宗教を見た場合、集団形成との関わりから宗教を見た場合など、宗教とは人間との関わりにおいてさまざまな角度から見ることができます。左程に広範囲に、宗教とは人間の精神生活や社会生活に関わってきました。また、宗教は全人類に見られる現象であり、そこには数え切れないほどの個々に異なる宗教が、人々によって営まれてきました。哲学的な思考に重きをおいた宗教、篤い信仰心が求められる宗教、修行を積む宗教、儀礼を中心とした宗教など、さまざまに異なる体系を個々の宗教はもっており、また、それら個々の宗教も、それぞれに時代や場所によって、その理解や形態が変遷するという多様性を有しています。このように宗教とは多面性と多様性とをもっているだけに、ある一面だけをとって考えてしまうと、現代の私たちの生活からは縁遠いものと思われるかも知れません。しかしながら、宗教に関する基礎的で正確な知識を持つことで、私たちの生活や世界に関して驚くほどの多くのことが見えてきます。そして、そのことはまた、多くの宗教が中心的な課題とし続ける、「私とは何か」「いのちとは何か」という問題に向き合い考える材料を提供してくれます。この講義では、私たちと宗教はどのような形で関連しているかということを中心に話を進めたいと考えています。

■到達目標
この講義では、皆さんが宗教に関する知識を整理し検討する力が付くよう、宗教を考えるにあたっての基本的な枠組みを案内していきたいと思います。そのため、日本の神道、そして東洋と西洋をそれぞれに代表する仏教とキリスト教の概要を紹介し、並行して、超越、霊魂、転生などに関して各宗教がどのように理解するかを比較検討します。各宗教が持つ人間形成、スピリチュアリティー、癒しなどの伝統を、今日の私たちの生活に即してどのように捉えることができるかを考える力が学生諸君につくことが、この講義の到達目標です。

■講義方法
こちらで準備するプリントもしくはパワーポインターによる表示に沿いながら授業を進めます。また、できる限り視覚資料を使用し、絵画や建築物、ドキュメンタリーなどの紹介を通じて理解の手がかりとしていきたと思います。

■成績評価の方法
平常点（10%）
小テスト（30%）
定期試験（60%）
１．期末テスト　60%
２．レポート・小テスト（授業期間中に実施）　30%
３．出席　10%

■テキスト
特になし

■参考文献
参考文献およびその必読の章やページを授業中に紹介します。

■講義計画
①宗教とは何か：あるべき姿から考える、実際の姿から考える
②多様な民俗宗教的観念
③祭事に見る神観念と儀礼
④日本の神話に見るケガレとハライ
⑤仏教の源流：ヒンドゥー教の神々
⑥釈迦の悟り
⑦禅の言葉・浄土の言葉
⑧宗教と日本のポピュラー文化
⑨キリスト教の源流：ユダヤ教の戒律
⑩旧約聖書に見る一つの神
⑪イエスの愛と癒し
⑫信教の自由と政教分離
⑬公民権運動とニューエイジ運動
⑭ファンダメンタリズムと国際情勢

生命と共生

【担当】柿本　佳美
【開講】前期　木３

■サブタイトル
生命倫理から見た身体と生命

■講義概要
生命倫理は、人間の生命に関わるさまざまな問題、特に飛躍的に発展している医療技術がもたらしている、あるいはもたらすかもしれない倫理的な諸問題を対象に、生物学、医学、法学、倫理学、人類学などさまざまな専門領域の立場から概念的な分析を行う、学際的な研究領域である。
ところで、「共生」という言葉は、生態系における異なる種の共存を意味するだけでなく、生物学的性差や障碍の有無など身体に基づくとされる違いや、異なるルーツ・価値観等を持つことを認め、尊重することについても使われる。生命倫理には、新たな生命科学技術によって影響を受ける人々の利害をあらかじめ考慮するという側面があり、この意味で共生という概念と無縁ではない。
この授業では、生命倫理の基本概念および理論を倫理学の視点から説明し、その上で人間の生と死にかかわる身近な事例を手がかりにこの分野で取り上げられる主要なトピックを紹介する。

■到達目標
生命をめぐる倫理的な問題を概念的に分析し、問題の軸を設定してさまざまな立場を理解することで、多角的な思考を身につける。

■講義方法
講義とミニレポートを組み合わせる。

■系統的履修
教養教育科目「哲学入門」または「倫理学入門」を履修することが望ましい。

■成績評価の方法
平常点（20%）とテスト（80%）で評価する。

■テキスト
加藤尚武・加茂直樹編『生命倫理を学ぶ人のために』世界思想社　1998
今井道夫・香川知晶『バイオエシックス入門第３版』東信堂　2001
上記のテキストのうち、どちらか1冊を持ってくることが望ましい。その他、授業中に適宜挙げる。

■参考文献
欠席遅刻はしないこと。また、授業開始後は教室を出ないこと。通算欠席数が授業回数の３分の１以上欠席した場合は履修放棄と見なします。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
１：00～１：30（木）

■講義計画
①はじめに：健康とはどのような状態か？
②生命倫理の基礎概念を知る
③生命倫理の理論枠組を知る：パーソン論vs人間の「尊厳」
④生命倫理の理論枠組を知る：ケアの倫理
⑤身体は誰のものか？－身体への権利と人工妊娠中絶合法化への道－
⑥優生思想とは何か－ナチスドイツ・アメリカ・日本－
⑦人はどこまで生命をコントロールできるか１－出生前診断と選択的中絶－
⑧人はどこまで生命をコントロールできるか２－生殖補助医療のもたらすもの－
⑨医療資源の配分－医療における格差とは－
⑩資源としての人体－特許・臓器移植・再生医療研究－
⑪揺らぐ死の定義その１－人間はどのような状態を「死」と見なしたか－
⑫揺らぐ死の定義その２－脳死と臓器移植－
⑬揺らぐ死の定義その３－安楽死と緩和ケア－
⑭まとめ：生命倫理から環境倫理へ
⑮テスト

生命と共生

【担当】柿本　佳美
【開講】後期　木３

■サブタイトル
生命倫理から見た身体と生命

■講義概要
生命倫理は、人間の生命に関わるさまざまな問題、特に飛躍的に発展している医療技術がもたらしている、あるいはもたらすかもしれない倫理的な諸問題を対象に、生物学、医学、法学、倫理学、人類学などさまざまな専門領域の立場から概念的な分析を行う、学際的な研究領域である。
ところで、「共生」という言葉は、生態系における異なる種の共存を意味するだけでなく、生物学的性差や障碍の有無など身体に基づくと考えられている違いや、異なるルーツ・価値観等を持つことを認め、尊重するということを指す場合にも使われる。生命倫理には、新たな生命科学技術によって影響を受ける人々の利害をあらかじめ考慮するという側面があり、この意味で共生という概念と無縁ではない。
この授業では、生命倫理の基本概念および理論を倫理学の視点から説明し、その上で人間の生と死に関わる身近な事例を手がかりにこの分野で取り上げられる主要なトピックを紹介する。

■到達目標
生命をめぐる倫理的な問題を概念的に分析し、問題の軸を設定してさまざまな立場を理解することで、多角的な思考を身につける。

■講義方法
講義とミニレポートを組み合わせる。

■系統的履修
教養教育科目「哲学入門」または「倫理学入門」を履修することが望ましい。

■成績評価の方法
平常点（20%）とテスト（80%）で評価する。

■テキスト
加藤尚武・加茂直樹編『生命倫理を学ぶ人のために』世界思想社 1998
今井道夫・香川知晶『バイオエシックス入門第３版』東信堂　2001
上記のテキストのうち、どちらか1冊を持ってくることが望ましい。その他、授業中に適宜挙げる。

■参考文献
欠席遅刻はしないこと。また、授業開始後は教室を出ないこと。通算欠席数が授業回数の３分の１以上欠席した場合は履修放棄と見なします。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
１：00 ～ １：30（木）

■講義計画
①はじめに：健康とはどのような状態か？
②生命倫理の基礎概念を知る
③生命倫理の理論枠組を知る：パーソン論vs人間の「尊厳」
④生命倫理の理論枠組を知る：ケアの倫理
⑤身体は誰のものか？－身体への権利と人工妊娠中絶合法化への道－
⑥優生思想とは何か－ナチスドイツ・アメリカ・日本－
⑦人はどこまで生命をコントロールできるか１－出生前診断と選択的中絶－
⑧人はどこまで生命をコントロールできるか２－生殖補助医療のもたらすもの－
⑨医療資源の配分－医療における格差とは－
⑩資源としての人体－特許・臓器移植・再生医療研究－
⑪揺らぐ死の定義その１－人間はどのような状態を「死」と見なしたか－
⑫揺らぐ死の定義その２－脳死と臓器移植－
⑬揺らぐ死の定義その３－安楽死と緩和ケア－
⑭まとめ：生命倫理から環境倫理へ
⑮テスト

世界の福祉

【担当】太谷　亜由美
【開講】前期　水３

■サブタイトル
先進国の貧困を考える

■講義概要
2008年、100年に一度と言われる経済危機が全世界を襲った。市場主義主導経済の欠点が露見した年でもあった。本年においてはその影響が、すでに日本の一般の人々にまで及んでいる。現代の若い世代が、貧困というものをこれほど身近に感じたことはないだろう。なぜ、こうも簡単に貧困に陥ってしまうのか、仕事さえあれば、働いていれば貧困に陥らないのではないか、と単純に考えてはいないだろうか。貧困に陥るのは個人の責任と簡単に片づけてはいないだろうか。
社会福祉の「社会」で福祉を扱おうという、概念はそもそもどういったところにあるのか。もし何もかもが、市場で解決するならば国が様々な保障や福祉を行う必要などないだろう。「国」の役割は個人の責任を越えた、個人や民間だけではもはや解決できない、国中に広まった問題を解決するところにある。それは、「貧困」という結果への対処だけでなく、そうした状態に陥らないようにすることも国の役割である。現在の日本には「派遣」などの非正規雇用の問題が傍らにあり、従来の社会的弱者だけではなく仕事がありながらも貧困状態に陥るという構造的な問題も存在する。貧困の対処療法としての「公的扶助」だけを観察しても、日本の貧困問題の解決にはなり得ない状況となっている。本年はこうした事情を踏まえて、世界の先進国、アメリカ、イギリス、ニュージーランドの公的扶助と労働者に対する施策の現状を考察し、今後の日本がどう進むべきか皆さんと考えていきたい。

■到達目標
身の回りの社会に無関心であることは、現状をまったく改善しない。まずは、問題点に気付くことが重要となる。そこで、日本と各国の抱える問題とその対処法について学び、自分たちを取り囲む社会に対して問題意識を持ち、自分たちの社会を改善できるのは自分たちであることを認識して頂きたい。

■講義方法
毎回、レジュメを配布します。必ず、受け取ること。それに従って、板書、映像、画像にて解説を行います。また、時に受講生にインタビューを行い、意見交換を行う予定。

■成績評価の方法
平常点（10%）　全10回の出欠調査を行います。（ただし、一度も「出席」のない者は原則不可とします）
定期試験（90%）　全10回の出席調査のうち、最低１回の出席を受験条件とする。
上記の通り、全10回の出欠調査のうち、全く出席のない者は原則不可と致しますので、受講生は十分留意のこと。

■テキスト
特になし

■参考文献
参考文献は講義中に参照します。

■履修上の注意・担当者からの一言
受講に当たっては、成績評価の方法を良く理解した上で受講して下さい。講義中の私語は厳禁と致します。

■講義計画
①日本と世界の先進国の貧困の概観
②日本の貧困の現状と公的扶助 1
③日本の貧困の現状と公的扶助 2
④第２回、第３回のまとめ
⑤アメリカの貧困の現状と公的扶助 1
⑥アメリカの貧困の現状と公的扶助 2
⑦第５回、第６回のまとめ
⑧イギリスの貧困の現状と公的扶助 1
⑨イギリスの貧困の現状と公的扶助 2
⑩第８回、第９回のまとめ
⑪ニュージーランドの貧困の現状と公的扶助 1
⑫ニュージーランドの貧困の現状と公的扶助 2
⑬第11回、第12回のまとめ
⑭総括的まとめ

歎異抄の思想Ⅰ

【担当】殿内　恒
【開講】前期　水2

■サブタイトル
親鸞のことば
■講義概要
『歎異抄』は、親鸞が亡くなった後、その教えに対する誤解（異義）が多く生まれたことを歎き、親鸞の真意を伝えようとして著されたものである。本書は、その風格と表現の豊かさから、現代においても多くの人に読み継がれているが、その内容を正確につかむのは、実は必ずしも容易なことではない。親鸞の思想全体を把握することなく本書を読むなら、その真意を読み誤ってしまうことも十分に考えられる。本講義では、『歎異抄』の前半（第10条まで）に伝えられる親鸞のことばを正確に読んでいき、その真意を把握することを通して、そこに示される親鸞の思想を深く理解していきたい。
■到達目標
誤解されがちな『歎異抄』の内容を正しく理解し、ひいては建学の精神に基づく生き方を自身の中に見出していく。
■講義方法
『歎異抄』の本文に即しながら、そこに見られる親鸞の思想について講義する。随時、資料等を配布して用いる予定。
■系統的履修
「仏教の思想Ａ・Ｂ」の履修を前提とする。
■成績評価の方法
定期試験を80％、平常点（数回の小レポート）を20％で評価の上、欠席回数分を減点する形で出席状況を加味し、総合評価する。
■テキスト
『歎異抄　現代語訳付き』本願寺出版社
■参考文献
梯實圓『聖典セミナー　歎異抄』本願寺出版社
林智康（他）『歎異抄事典』柏書房
■履修上の注意・担当者からの一言
龍谷大学ならではの講義です。歴史上の思想文化というだけでなく、いまの自分を導くものとして、親鸞の教えに触れてもらえれば何よりです。
■講義計画
①『歎異抄』とは：伝えられる親鸞の言葉
②第１条：本願のはたらき－摂取不捨－
③第２条：念仏との出会い－往生極楽の道－
④第３条：悪人正機の意味－いわんや悪人をや－
⑤第４条：本当の慈悲とは－浄土の慈悲－
⑥第５条：縁の中にある命－世々生々の父母兄弟－
⑦第６条：仏の前の平等性－弟子一人も持たず－
⑧第７条：信心の行者のあり方－無碍の一道－
⑨第８条：念仏の意味するもの－非行・非善－
⑩第９条：煩悩を持って生きる－浄土は恋しからず－
⑪第10条：他力のあるがまま－無義をもって義とす－

歎異抄の思想Ⅱ

【担当】殿内　恒
【開講】後期　水2

■サブタイトル
誤解をただす
■講義概要
『歎異抄』は、親鸞が亡くなった後、その教えに対する誤解（異義）が多く生まれたことを歎き、親鸞の真意を伝えようとして著されたものである。本書は、その風格と表現の豊かさから、現代においても多くの人に読み継がれているが、その内容を正確につかむのは、実は必ずしも容易なことではない。親鸞の思想全体を把握することなく本書を読むなら、その真意を読み誤ってしまうことも十分に考えられる。本講義では、『歎異抄』の後半（第11条以降）に示された、親鸞の教えに対する誤解をただす文章を通して、その中で伝えようとされている親鸞の思想を深く理解していきたい。
■到達目標
誤解されがちな『歎異抄』の内容を正しく理解し、ひいては建学の精神に基づく生き方を自身の中に見出していく。
■講義方法
『歎異抄』の本文に即しながら、そこに見られる親鸞の思想について講義する。随時、資料等を配布して用いる予定。
■系統的履修
「仏教の思想Ａ・Ｂ」の履修を前提とする。「歎異抄の思想Ⅰ」も履修していることが望ましい。
■成績評価の方法
定期試験を80％、平常点（数回の小レポート）を20％で評価の上、欠席回数分を減点する形で出席状況を加味し、総合評価する。
■テキスト
『歎異抄　現代語訳付き』本願寺出版社
■参考文献
梯實圓『聖典セミナー　歎異抄』本願寺出版社
林智康（他）『歎異抄事典』柏書房
■履修上の注意・担当者からの一言
龍谷大学ならではの講義です。歴史上の思想文化というだけでなく、いまの自分を導くものとして、親鸞の教えに触れてもらえれば何よりです。
■講義計画
①「異義」とは：親鸞思想への誤解
②第11条：本願と念仏の関係
③第12条：学問の持つ意義
④第13条：人間にそなわる悪
⑤第14条：罪を滅ぼす行い
⑥第15条：この世で開くさとり
⑦第16条：回心するということ
⑧第17条：本願を疑っての往生
⑨第18条：布施の意義と利益
⑩後序：信心は一つ－たまわりたる信心－
⑪後序：自身が対象－親鸞一人がため－
⑫後序：虚仮と真実－念仏のみぞまこと－

大学生入門
※2010年度以降不開講

【担当】山本　哲司
【開講】前期　月2

■サブタイトル
大学での学習と報告－情報のＩ／Ｏのスタイルと環境
■講義概要
大学での授業生活、学習と報告についての基礎知識を学ぶ。講義するにあたって、大学という学習・教育組織の特色と関連させた内容を紹介する。
■到達目標
大学の講義・授業に関する基本的な知識や技術の習得にもとづいた個々人の自律した思考の表現を目指す。
■講義方法
授業では課題作成作業と点検と講義の繰り返しを行います。課題作成に際して、学内のネットワークサービスを活用します。
序盤は、ネットワークサービスを確認しながら、大学の授業に必要な知識の収集と確認を行います。
中盤は個々人の関心をそれぞれに報告し、報告のスタイルについて確認します。
終盤は、グループワークによる情報収集とプレゼンテーションを行います。複数であることのメリット・デメリットを考慮しつつ、学習への寄与を考察します。最後に直前のグループワークでの成果を活かし、個々の報告を求める予定です。
課題の作成・提出が何度か求められます。ただし、授業参加者の規模によって、内容を変更する可能性があります。
■成績評価の方法
平常点（100%）　出席状況と課題提出状況で評価をします。
出席と単位認定について、履修要項の記載に準じて判断しています。
■テキスト
高橋三郎・新田光子『大学生入門』世界思想社
他、関連資料は適宜授業時間に配布します。
ただし、配布は原則としてその回限りとします。
次回以降配布する場合は、配布当日欠席の方のみです。
■参考文献
講義中に適宜紹介します。
■履修上の注意・担当者からの一言
初回の授業で、90分間の進行も含め全体の説明を行います。重要です。
作成課題について、提出状況（締切含む）が重要です。
■講義計画
①人物紹介
②質問を寄せる
③大学生が寄せた大学生に必要な基礎知識の確認
④教員の求める大学生に必要な基礎知識
⑤大学生のための基礎知識
⑥プレゼンテーション１
⑦プレゼンテーション１ｂ
⑧プレゼンテーション２
⑨プレゼンテーション２ｂ
⑩グループワーク１
⑪グループワーク２
⑫グループワーク３
⑬グループワーク４
⑭グループワーク５
⑮プレゼンテーションのまとめ

大学生入門
※2010年度以降不開講

【担当】山本　哲司
【開講】前期　木3

■サブタイトル
大学での学習と報告－情報のＩ／Ｏのスタイルと環境
■講義概要
大学での授業生活、学習と報告についての基礎知識を学ぶ。講義するにあたって、大学という学習・教育組織の特色と関連させた内容を紹介する。
■到達目標
大学の講義・授業に関する基本的な知識や技術の習得にもとづいた個々人の自律した思考の表現を目指す。
■講義方法
授業では課題作成作業と点検と講義の繰り返しを行います。課題作成に際して、学内のネットワークサービスを活用します。
序盤は、ネットワークサービスを確認しながら、大学の授業に必要な知識の収集と確認を行います。
中盤は個々人の関心をそれぞれに報告し、報告のスタイルについて確認します。
終盤は、グループワークによる情報収集とプレゼンテーションを行います。複数であることのメリット・デメリットを考慮しつつ、学習への寄与を考察します。最後に直前のグループワークでの成果を活かし、個々の報告を求める予定です。
課題の作成・提出が何度か求められます。ただし、授業参加者の規模によって、内容を変更する可能性があります。
■成績評価の方法
平常点（100%）　出席状況と課題提出状況で評価をします。
出席と単位認定について、履修要項の記載に準じて判断しています。
■テキスト
高橋三郎・新田光子『大学生入門』世界思想社
他、関連資料は適宜授業時間に配布します。
ただし、配布は原則としてその回限りとします。
次回以降配布する場合は、配布当日欠席の方のみです。
■参考文献
講義中に適宜紹介します。
■履修上の注意・担当者からの一言
初回の授業で、90分間の進行も含め全体の説明を行います。重要です。
作成課題について、提出状況（締切含む）が重要です。
■講義計画
①人物紹介
②質問を寄せる
③大学生が寄せた大学生に必要な基礎知識の確認
④教員の求める大学生に必要な基礎知識
⑤大学生のための基礎知識
⑥プレゼンテーション１
⑦プレゼンテーション１ｂ
⑧プレゼンテーション２
⑨プレゼンテーション２ｂ
⑩グループワーク１
⑪グループワーク２
⑫グループワーク３
⑬グループワーク４
⑭グループワーク５
⑮プレゼンテーションのまとめ

日本の文化

【担当】ケント　ポーリン
【開講】後期　木3

■サブタイトル
日本の文化は誰の文化か

■講義概要
「日本の文化」の意味は多用である。この講義では、歴史的に外国人はどのように日本の文化を認識してきたかについて検討していく。元禄時代に来日したドイツ人のケンペルや、一六世紀にやってきたヨーロッパの宣教師などの記録から、幕末・明治維新期の代表的なものの概要を紹介する。そして、初めて社会科学的に日本の文化を分析した『菊と刀』に注目する。後半では、日本の文化に対する認識の変化と、日本の文化のグローバル化について検討する。

■到達目標
「日本の文化」について「固定観念」で考えるのではなく、その文化の幅広い意味と、時代による変化を意識して、新たな柔軟な考えで日本の文化について考えるようになることが目標である。

■講義方法
講義形式で行う。PowerPointを使用しながら講義のポイントと映像資料をモニターに出すことになる。ポイントについての説明を学生が筆記することになる。PowerPointのプリントの配布やサーバーでの保存はしない。ノートをとることによって、理解を深め、講義内容の整理の練習になる。

■成績評価の方法
平常点（40%）　毎回の講義について仮題を出し、これについてコメント・カードに記入してもらう。
レポート（60%）　外国人が日本の文化についての記録を題材にしたレポート
レポートの締め切りについて授業中に指示する。レポートの長さは4000字。前半では外国人が日本の文化について書いた本の主なポイントをまとめて説明し（本の内容をまとめる際、引用を最小限にする）、後半では自分の立場からその日本の文化の説明を分析と考察する。表面的な感想で終わらないように注意。レポート作成に当たり、必ず文献を利用することが条件。主にインターネットの情報に頼るものを認めない。本論においては必ず情報の出所を明記し、最後に文献リストをつけること。表紙もつけて、記入項目は:レポートのタイトル、氏名、学籍番号、科目名、担当者の氏名（ポーリン ケント）、提出日。本の内容をまとめる際、引用を最小限に。この条件を満たしていないものを評価の対象から外れる。剽窃と判明した場合､評価は0点になる。レポート作製に自信のない方は、是非ライティング・センターと相談しながら作製するように。また、このシラバスに添付してあるレポート作製のプリントを参照に。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
早めにレポートの仮題を決めることが大事。また、毎回のコメント・カードの内容が評価されるので､(出席点ではない) 毎回の講義内容をしっかり聞いて､ノートを取ることが重要。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
pauline@world.ryukoku.ac.jp

■講義計画
①イントロ、各回の話の簡単な紹介
②ケンペルが見た日本の文化
③アールコックとイギリスの日本学派
④開国とともに発進する日本の文化
⑤御雇外国人のモースの記録
⑥ラフカディオ・ハーンに影響を与えた文化的背景
⑦『ニュー・ヨーク・タイムズ』に見る日本
⑧『菊と刀』の背景にある日本のイメージ
⑨『菊と刀』の解説
⑩韓国から見た日本
⑪アジアに広がる日本の文化
⑫Lost Decadeの再評価
⑬ヨーロッパに広がる日本の文化
⑭グローバリゼーションの中で､日本の文化は誰の文化なのか？

人間と社会と法

【担当】時本　義昭
【開講】前期　木4

■サブタイトル
現代日本における人権

■講義概要
日本国憲法が保障した平等は、法的な身分制度を否定しただけではなく、社会的な階層関係をも破壊した。その結果、一方で、身分制度から解放された国民の活力は高度経済成長と均質な社会を実現したが、他方で、平等意識に基づく無節操な自己主張ははどめを失い無秩序と混乱をもたらした。いずれにしても、日本の社会は憲法制定時からあまりにも変わってしまい、いまや憲法制定者が予想もしなかった利益や自由が人権の名の下に主張されている。そこで本講義では、人権の歴史をふまえたうえで、社会的背景や訴訟理論にもふれつつ、新しい人権について裁判所の判決を中心に検討したい。

■到達目標
基本的な法的思考を身につけること。

■講義方法
原則として毎回レジュメを配布し、レジュメに沿って講義を進めるので、レジュメを有効に活用して、しっかりしたノートを作成してもらいたい。

■系統的履修
法学入門か日本国憲法を受講していることを前提として講義を行う。

■成績評価の方法
定期試験（100%）　学期末の定期試験

■テキスト
特に指定しない。

■参考文献
佐藤幸治他編『デイリー六法平成21年版』三省堂

■履修上の注意・担当者からの一言
六法は持参してもらいたい。私語が許されないのは当然であるが、それに加えて、携帯電話の所持者は電源を切っておくこと。

■講義計画
①人権の歴史と分類
②憲法訴訟Ⅰ
③憲法訴訟Ⅱ
④日本国憲法の成立と戦後史
⑤憲法13条（幸福追求権）の意味
⑥さまざまな新しい人権
⑦プライバシーの権利Ⅰ
⑧プライバシーの権利Ⅱ
⑨知る権利Ⅰ
⑩知る権利Ⅱ
⑪環境権
⑫自己決定権Ⅰ
⑬自己決定権Ⅱ
⑭裁判員制度Ⅰ
⑮裁判員制度Ⅱ

平和学入門（2003年度以降入学生）
平和論（2002年度以前入学生）

【担当】清水　耕介
【開講】後期　月2

■サブタイトル
暴力、文化、そしてアイデンティティー
■講義概要
平和学は非常に幅の広い学問です。一方でアインシュタインも平和問題に取り組んだように物理学的な分野からのアプローチもありますし、彼とともに平和運動を展開したバートランド・ラッセルのように哲学からアプローチする場合もあります。しかしながら本講義では、これら平和学の創始者達と異なり政治学・国際関係論・グローバル社会論的な視点から平和について考えていきたいと思います。授業では映画やビデオなどの教材を使いながら歴史的な事件から現代に特有の問題まで可能な限り幅広く考え、その中で、受講者のみなさんも一緒に平和概念を考えていただければと思います。時間の制約からここで取り上げる事象は、ルワンダにおける虐殺、第二次大戦中のナチズムによるユダヤ人の迫害、パレスチナ・イスラエル紛争、9.11同時多発テロなどに限られてしまいますが、講義外でも受講者のみなさんによる自主的な研究を期待します。
大人数の講義になった場合は、コミュニケーション・ペーパーを通してみなさんとの意見交換をしていきたいと思います。積極的な参加を期待します。
■到達目標
自分なりの平和概念を持てるようになること、もしくはそのための研究を始めること。
■講義方法
主として講義形式となる予定ですが、映画・ビデオなどの教材をできるだけ使っていくつもりです。
■系統的履修
特にありません。
■成績評価の方法
レポート（50%）　A4　1枚程度
定期試験（50%）　論述形式
■テキスト
特になし
■参考文献
授業の中で適宜指示します。
■履修上の注意・担当者からの一言
ビデオ教材などを多用する予定です。上映中の出入りは他の受講生の迷惑になる場合もありますので、できるだけ遅刻しないようにしてください。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業の中でお知らせします。
■講義計画
①イントロダクション
②ルワンダ１
③ルワンダ２
④暴力とは何か
⑤暴力、思考、時間
⑥ホロコーストとは何だったのか
⑦ホロコーストとは何だったのか２
⑧人間が存在するとは何なのか
⑨パレスチナとイスラエル
⑩パレスチナとイスラエル２
⑪9.11同時多発テロ
⑫サイード「イラク戦争を語る」
⑬イラク戦争と政治経済
⑭まとめ

メディアにみる福祉

【担当】高田　敏司
【開講】後期　水3

■講義概要
世界に例を見ない長寿化と少子化で、日本は人口の減少が進んでおり、「超高齢社会」に突入します。右肩上がりの経済成長を前提につくられた現在の社会保障制度は抜本的な見直しが迫られています。そこで政府、自治体、住民の中からはさまざまな動きが起こっています。本講義では現場で取材する新聞記者の立場から、介護保険や医療、年金、少子化対応など時事問題のトピックスを解説するとともに、どのような課題があるのかも考えます。
■到達目標
迫る超高齢化社会に向け、福祉など社会保障をめぐる行政、住民、メディアの「いま」の動きを広く知ることができるようにしたいと思っています。
■講義方法
新聞記事やテレビの特集番組などを素材にして講義します。
■成績評価の方法
定期試験（100%）（人数によってはミニレポートを課すこともあります。その場合は試験90点、ミニレポート10点とします）
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■講義計画
①超高齢・人口減少社会の到来
②介護保険の創設
③介護保険の仕組みと意義
④介護の課題（障害者福祉とともに）
⑤ケアの工夫
⑥日本の医療
⑦がんと生活習慣病対策
⑧先端医療、医師不足
⑨患者が医療を変える
⑩年金のいま
⑪少子化への対応
⑫雇用の位置付け
⑬分権型社会と福祉
⑭国のかたちと社会保障

学部内共通科目

（物質化学科）

カナ	科　目　名	担　当　者	開講曜講時		ページ
エ	ＭＯＴ概論	長谷　智弘／安藤　信行／加藤　正浩／佐藤　研司／島次　文彦／神野　友香子／谷口　清志	前期	集中	199
	ＭＯＴ演習	長谷　智弘／島次　文彦	後期	月１	199
カ	科学技術英語	内田　欣吾	後期	月２	200
	科学技術英語	大柳　満之	後期	月２	200
	科学技術英語	白神　達也	後期	月２	201
	科学技術英語	中沖　隆彦	後期	月２	201
	科学技術英語	林　久夫	後期	月２	202
	科学技術英語	富崎　欣也	後期	月２	202
	科学技術英語	藤原　学	後期	月２	203
	科学技術英語	岩澤　哲郎	後期	月２	203
	科学技術英語	宮武　智弘	後期	月２	204
	科学技術英語	和田　隆博	後期	月２	204
	化学基礎実験／理工学基礎実験Ｂ	宮武　智弘／糟野　潤	後期	金３～５	205
	科学思想史	但馬　亨	前期	月１	205
	学外実習	白神　達也	前期	集中	206
	環境科学	林　久夫	前期	月４	206
キ	キャリアデザイン	越野　由美子／瀧井　智美	前期	木２	207
	キャリアプランニング	神殿　織江	前期	水３	208
ケ	計算機基礎実習Ⅰ	野村　竜也	前期	木４～５	209
	計算機基礎実習Ⅱ	岩澤　哲郎	後期	木３～４	209
コ	工学概論	斉藤　光徳／川上　肇	前期	月５	210
	工業経済	五百井　正樹	後期	金４	210
シ	資源エネルギー論	三浦　信弘	後期	金２	211
	自然観察実習／生物多様性実習Ｂ	横田　岳人／丸山　敦	前期	水３～５	211
	情報学概論	杉山　久佳	前期	木５	212
	情報と職業	三木　忠行	前期	集中	212
	情報倫理	野村　竜也／芝原　努	前期	月４	213
セ	生態学概論	丸山　敦	後期	月２	213
	生体情報概論	椙崎　弘幸	前期	金２	214
	生物学概論Ⅰ	土井田　幸郎	前期	木１	214
	生物学概論Ⅱ	土井田　幸郎	後期	木１	215
	生物学実験	土井田　幸郎／竹内　圭介	後期	水３～５	215
チ	地域環境概論	竺　文彦／遊磨　正秀	前期	月１	216
	地学概論Ⅰ	桑原　希世子	前期	月３	216
	地学概論Ⅱ	島田　充彦	後期	水２	217
	地学実験	島田　充彦／桑原　希世子	前期	水３～５	217
	地球環境概論	宮浦　富保／市川　陽一	後期	月１	218
	知的財産概論	藤河　恒生	前期	水３	218
ニ	人間工学	橋本　正治	後期	水１	219
フ	物理実験／理工学基礎実験Ａ	西原　弘訓	前期	月３～５	219

MOT概論

【担当】長谷　智弘、安藤　信行、加藤　正浩、佐藤　研司、島次　文彦、神野　友香子、谷口　清志
【開講】前期　集中

■サブタイトル
技術経営入門
■講義概要
本講義は、本学卒業生が就職後、企業において中核的な技術と経営の分かる人材として活躍が出来るだけの知識の修得、大学発ベンチャーの出来る人材の育成を目指して開講する。そのために、(1) マーケティング・戦略論、(2) 財務・会計、(3) 労務・組織、(4) 生産管理・情報管理・流通管理など、(5) 法務・知財（特許）・標準化（品質管理など）を、バランス良く総合的に学べる内容になっている。応用を重視した実践的なManagement of Technology（MOT：技術経営）教育プログラムの構成とする。
■到達目標
技術者として知っておいてほしい経営全般の知識、起業マインド
■講義方法
各分野の専門の講師によるチェーンレクチャーとする。
■成績評価の方法
講師ごとに出される課題のレポート内容などを勘案した総合点で評価する。
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
後期開講の「MOT演習」を受講を希望するものは、本科目を受講すること。

■講義計画
①総論
②企業経営理論（1）企業形態・株式会社
③企業経営理論（2）経営計画・マーケティング
④企業経営理論（3）経営戦略
⑤企業経営理論（4）競争戦略
⑥財務・会計（1）概論・会計原則
⑦財務・会計（2）損益計算書・貸借対照表
⑧財務・会計（3）安全性・収益性・生産性分析
⑨財務・会計（4）損益分岐点分析
⑩人事・労務・組織
⑪運営管理：生産・販売・流通・在庫・情報化
⑫法務：会社設立・運営
⑬知的所有権：特許
⑭標準化動向（品質・環境・労務）
⑮まとめ：ビジネスプランの作成方法

MOT演習

【担当】長谷　智弘、島次　文彦
【開講】後期　月1

■講義概要
本演習は、本学卒業生が就職後、企業において中核的な技術と経営の分かる人材として活躍が出来るだけの知識の修得、大学発ベンチャーの出来る人材の育成を目指して開講する。そのために、(1) マーケティング・戦略論、(2) 財務・会計および労務・組織、(3) 情報管理、(4) 生産管理などを中心に、演習を通じて応用を重視した実践的なManagement of Technology（MOT：技術経営）教育を身に付ける。
■到達目標
技術者として知っておいてほしい経営全般の知識、起業マインド
■講義方法
各分野の専門の講師によるチェーンレクチャーとする。
■系統的履修
MOT（技術経営）概論
■成績評価の方法
平常点（50%）・レポート（50%）
各講師より出される課題のレポート内容、発表・討論などを勘案した総合点で評価する。
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
前期開講の「MOT（技術経営）概論」の知識を前提とするため、本科目の履修登録は「MOT（技術経営）概論」の単位合格者に限る。

■講義計画
①総論
②マーケティング・戦略論
③マーケティング・戦略論に関する事例演習（1）
④マーケティング・戦略論に関する事例演習（2）
⑤財務・会計および労務・組織
⑥財務・会計および労務・組織に関する事例演習（1）
⑦財務・会計および労務・組織に関する事例演習（2）
⑧情報管理
⑨情報管理に関する事例演習（1）
⑩情報管理に関する事例演習（2）
⑪生産管理
⑫生産管理に関する事例演習（1）
⑬生産管理に関する事例演習（2）
⑭ビジネスプランの作成方法
⑮まとめ

科学技術英語

【担当】内田　欣吾
【開講】後期　月2

■講義概要
本講義では、4年生で始まる特別研究に備え、専門性の高い英語の習得を目的とする。教材は、当研究室の研究に関連する最新の学術論文を選び、内容を理解しながら英文和訳を進める。１つの論文を読み終えると、４年時のセミナーの雑誌会で用意するようなレジメを各自提出する。

■到達目標
学習・教育目標：E1（◎），F2（○）
4年次に行う特別研究で必要となってくる専門性の高い英語が習得できる。また、実際の特別研究の分野の英語を教材として用いるため、4年次の特別研究の内容等に関しても理解できる。

■講義方法
英文の専門書および実際の学術論文を用い受講者全員で読み進めていく。英文の和訳と共に書いてある内容に対しての説明等も同時に行う。適宜小テストを行う。

■系統的履修
研究デザイン演習

■成績評価の方法
平常点（50%）・小テスト（50%）

■テキスト
講義開講前にpdfファイルでテキストを配布する。

■参考文献
Ben.L.Feringa 『Molecular Switches』 Wiley-VCH

■履修上の注意・担当者からの一言
英語を単に訳すだけでは不十分です。書いてある内容を理解して初めて読めたことになります。数多くの英文を読むことが読解力アップへの唯一の道です。

■講義計画
①英文の専門書を読む（1）
②英文の専門書を読む（2）
③英文の専門書を読む（3）
④英文の専門書を読む（4）
⑤英文の専門書を読む（5）
⑥英文の専門書を読む（6）
⑦英文の専門書を読む（7）
⑧英文の専門書を読む（8）
⑨学術論文の種類と内容・英文の原著論文を読む（1）
⑩英文の原著論文を読む（2）
⑪英文の原著論文を読む（3）
⑫英文の原著論文を読む（4）
⑬英文の原著論文を読む（5）
⑭英文の原著論文を読む（6）

科学技術英語

【担当】大柳　満之
【開講】後期　月2

■サブタイトル
科学技術論文の読み方を習得する

■講義概要
「科学技術英語」は、来年度研究室仮配属が決定している学生に対して行う授業であるので、同じメンバー授業が行われる「研究デザイン演習」とリンクさせたかたちで行う。具体的には、研究室で取り組んでいる幾つかのプロセスに関連した基本的な学術論文を選び、論文の成り立ちを詳しく説明する。授業では、主語、述語、……原詞構文など文法的なところをしっかり抑える訓練をする。論文は、セラミックスの分野では学術的レベルの高いとされるアメリカセラミックス学会の雑誌を中心にその中から選定する。英語の読み方、音読も行う。海外からの教授が訪問されたときは、この授業にも出来るだけお呼びして、討論や講演を通して生の英語を聞く機会を積極的に企画する。

■到達目標
学習・教育目標：E1（◎），F2（○）
英語の学術論文を自分で探し、努力さえすれば自分で読むことが出来るような技術を習得できる。

■講義方法
学術論文は、教員が選定する。授業終了時に次回に読んで訳して来てもらう箇所を予め通知する。予習をしてきたことを前提に、その通知した部分を順番に読んでいく。先ず、一文ずつ全員で音読し、ランダムに訳してもらう人を当て、一人一文ずつ訳してもらう。最初は意味が通じなくても直訳してもらう。その後、構文など文章を解析した上で、意訳をしてもらい、最後に答えを言う。この繰り返しを行っていく。

■系統的履修
3年前期の化学英語の履修が不可欠。

■成績評価の方法
平常点（100%）・毎回の授業での平常点を中心に評価する。

■テキスト
アメリカセラミックス学会誌から適宜論文を選択して使用

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
この講義は、欧文学術論文の読み方を習熟することを目的としている。従って、予習を充分にやってこないと授業についていけないことを承知しておくこと。

■講義計画
①学術欧文誌論文の読み方入門（1回）
②論文の音読・読み方の実際（13回）

科学技術英語

【担当】白神　達也
【開講】後期　月2

■サブタイトル
研究活動に使用する技術用語を正確に把握する。
■講義概要
近年の科学技術を学び、またみずからが情報発信していくには英語は不可欠のツールとなってきた。もはや英語は科学技術の分野で共通の言語となったといっても過言ではない。実際の英語力が必要なのはもちろんのこと、専門用語や独特の言い回しに習熟しないと主張したいことも伝えられないし、必要な情報が得られないといった事態にもなる。公教育機関で長年英語教育を受けてきて英語に自信がある人でも最初はとまどいが多いものである。本演習では特に専門の文章への「慣れ」を重視し、おのおのが全く違った英語の長文を読解することにより、よりスムーズに研究生活に入れるように訓練することを目的とする。
■到達目標
学習・教育目標：E1（◎），F2（○）
科学技術の専門用語や独特の言い回し。英語に対する慣れ。
■講義方法
テキストは初日に提示、あるいは配布する。10人前後のセミナー方式で行う。
■成績評価の方法
レポート（100%）　毎回行うレポートを採点対象とする。
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
この演習は演習時間外の予習が中心となる。十分な予習を行ってこなかった人には、その当日の演習受講資格はないものと見なす。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
1号館210号室に訪ねてくれば、可能な限り対応する。
■講義計画
初日に提示する。

科学技術英語

【担当】中沖　隆彦
【開講】後期　月2

■講義概要
3年生前期の「化学英語演習」で化学に関する基礎的な単語、熟語などを学んだので、後期の本授業では化学英語のアドバンスコースに位置付けて、より専門性の高い英語を学習する。教材としては実際の学術論文を用い、詳しい解説を加えながら、受講者全員で読み進んでいく。論文を読み終えると4年生で行う雑誌会と同じ形式のレジメを提出する。
■到達目標
学習・教育目標：E1（◎），F2（○）
研究室で頻繁に使う基礎的な英語を習得すること、また実践的な学術論文を教材として用いているので4年生のセミナー（雑誌会）とのスムーズな連携が可能にする。英語ばかりではなく論文の内容についても考えながら授業を行うので論文の書き方、測定方法などについても習得する。
■講義方法
英語の和訳を事前にノートに書いてくることが原則です。それを授業時間に全員に当て、適宜解説をしながら進めていきます。
■系統的履修
化学英語演習
■成績評価の方法
平常点（70%）　毎回行う日本語訳から判断する。
レポート（30%）　授業の最後に雑誌会形式のレジメを提出してもらい、理解度から判断する。
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■講義計画
①日本人の書いた短めの論文（ショートコミュニケーション）を読む（1）
②ショートコミュニケーション（2）
③ショートコミュニケーション（3）
④ショートコミュニケーション（4）
⑤ショートコミュニケーション（5）
⑥外国人の書いたフルペーパーを読む。（1）
⑦フルペーパー（2）
⑧フルペーパー（3）
⑨フルペーパー（4）
⑩フルペーパー（5）
⑪フルペーパー（6）
⑫フルペーパー（7）
⑬フルペーパー（8）
⑭フルペーパー（9）

科学技術英語

【担当】林　久夫
【開講】後期　月2

■講義概要
国際的な場で科学技術に関する情報を交換する場合、語学能力は不可欠である。とりわけ事実上の国際語である英語の能力は欠かせない。英語を読み、書き、聞き、話せることはいずれも必要である。これらができることを最終目標とすべきであるが、学部学生としては、科学論文の形で英語に接することが圧倒的に多い。本講では、簡単な英語の科学論文を読みこなせることを目標とする。前半では、科学技術に関する平易な内容のプリントを配布し、輪読することにより、英語の論文・解説などで用いられる言い回し・単語・慣用句などの基礎知識を確認する。後半では、学生各自が興味ある英文の科学記事･解説等を調査し、熟読の上、全員の前で発表する。

■到達目標
学習・教育目標E1：(◎)，F2：(○)
専門分野に近い内容の科学技術論文等を輪読することにより、科学論文に特有な英語表現に慣れ、これまでに学んだ英語の力を科学技術情報の交換に役立つ道具とすることができる。

■講義方法
少人数（8 ～ 12名程度）教育を行う。学生は予習をしてくることを前提とし、毎週必ず発表する機会を与えられる。

■系統的履修
化学英語演習

■成績評価の方法
平常点（50%）・小テスト（50%）
毎回の発表態度、質問状況ならびに随時行う宿題、小テストなどの結果により総合的に判定する。

■テキスト
随時指定する
最初の講義のときにプリントを配布する

■参考文献
必要に応じて科学英語雑誌等を配布する

■履修上の注意・担当者からの一言
週一回の大学における演習だけでは充分な学習効果は期待できないので、予習・復習を充分に行うこと。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
学科のホームページで周知するものの他、適宜指導を行う。

■講義計画
①Laboratory Equipment
②Filtration
③Distillation
④Reflux
⑤Tables and Graphs
⑥Shapes and Forms
⑦Perfectly Rigid Body
⑧Thermal Expansion
⑨Geometrical Proof
⑩Hermetical Seal
⑪The Earth and Wire
⑫Magnet
⑬Travelling Balloon
⑭まとめ

科学技術英語

【担当】富崎　欣也
【開講】後期　月2

■講義概要
研究者・技術者として社会に貢献するためには、英文で記述された研究論文から情報収集することが必須である。ここでは、４年生で始まる特別研究に備えて、英文の専門書や実際の学術論文を教材として用い、内容を理解しながら英文和訳を進める。更に､学術集会等への研究成果発表申し込みの際に、英文要旨の提出が求められるので、化学に関する和文論述の英訳にも挑戦する。

■到達目標
学習・教育目標Ｅ１：(◎)，Ｆ２（○）
専門分野に近い内容の英文学術論文等を輪読することによって化学論文特有の英語表現に慣れ、研究者・技術者としての基本的な情報交換能力を身に付ける。

■講義方法
英文の専門書および実際の学術論文を用いて、受講者全員で読み進めて行く。予習を前提とし、毎週必ず発表する機会が与えられる。

■系統的履修
化学英語演習

■成績評価の方法
平常点（50%）・小テスト（50%）

■テキスト
随時指定する

■参考文献
必要に応じて化学英語雑誌等を配布する

■講義計画
①オリエンテーション
②英文の専門書を読む１
③英文の専門書を読む２
④英文の専門書を読む３
⑤英文の専門書を読む４
⑥英文の原著論文を読む１
⑦英文の原著論文を読む２
⑧英文の原著論文を読む３
⑨英文の原著論文を読む４
⑩英文の原著論文を読む５
⑪英文の原著論文を読む６
⑫化学に関する和文論述の英訳に挑戦する１
⑬化学に関する和文論述の英訳に挑戦する２
⑭演習

科学技術英語

【担当】藤原　学
【開講】後期　月2

■講義概要
４年次において特別研究を行う際には、前処理や最新の分析手法を調べるために英語論文を読むことが必要になってくる。また、論文をまとめる際にも参考論文としての英語論文を収集し読むことは必須である。「科学技術英語」では、それの準備として科学に関する読み物を受講生で読み進めていく。そこでは、専門用語を学ぶとともに、科学法則の再確認も行う。

■到達目標
学習・教育目標E1：(◎)，F2（○）
科学英語に必要な英単語の意味と用法を習得するとともに、グループ内で自分の意見を発表するなど、今後理系の学生としていろいろな場面で必要とされる基本的な力を身につける。

■講義方法
本科目では、受講生全員で同じ英文を読み、順次訳していく。関連した事項については説明するとともに、適宜受講生の理解度をチェックする。場合によっては、テープ教材も活用し、リスニングの力を向上させる。

■系統的履修
化学英語演習

■成績評価の方法
授業中における課題について総合的に評価する。そのため授業に積極的に参加することを求める。

■テキスト
Donald H. Andrews and Richard J. Kokes : FUNDAMENTAL CHEMISTRY（WILEY）を予定している。

■参考文献
資料等は講義時に指示する。

■講義計画
①はじめに（授業の進め方の説明と単語チェック）
②課題（１）～（５）
③単語チェック・演習
④課題（６）～（９）
⑤課題（１０）（１１）・演習
⑥総合演習

学部内共通

科学技術英語

【担当】岩澤　哲郎
【開講】後期　月2

■講義概要
目的は「卒業研究に必要な語学力の習得」及び「学術雑誌や論文に対する理解」等に置く。本講義は「物質化学研究デザイン演習」とリンクさせながら進める。次年度（４年生時）の雑誌購読を行う能力、学術雑誌に記載の実験項を読解する能力、自身の行う研究の実験項を書く能力を養うことに注力する。また、専門学術雑誌の種類や内容、及び学術論文の典型的な構成についても理解を深める。

■到達目標
学習・教育目標Ｅ１：(◎)，Ｆ２（○）
１．研究室で取り組んでいる研究テーマに深い関わりを持つ学術論文を題材にして、学術論文に特有の構成や成り立ちを講述する。
２．独特の言い回しや専門用語を解説する。
３．適宜小テストを行う。

■講義方法
化学の教科書レベルの英文から読み進め、徐々に専門的な内容に移行し、最後は研究論文の読解に挑戦する。英文に書かれている内容を理解することに重きを置きながら進め、特に複雑な文章については、その文法についても解説する。

■系統的履修
化学英語演習、物質化学研究デザイン演習

■成績評価の方法
平常点（50%）・小テスト（50%）

■テキスト
適宜講義の開講前にプリントやＰＤＦファイルを配布する。

■参考文献
演習時に適宜紹介する。

■講義計画
①学術欧文雑誌についての解説、及び学術論文の読み方
②実験項の読解（１）
③実験項の作成（１）
④実験項の読解（２）
⑤実験項の作成（２）
⑥学術論文の読解（１）
⑦学術論文の読解（２）
⑧雑誌購読のレジメ作成（１）
⑨学術論文の読解（３）
⑩学術論文の読解（４）
⑪雑誌購読のレジメ作成（２）
⑫学術論文の読解（５）
⑬学術論文の読解（６）
⑭雑誌購読のレジメ作成（２）

科学技術英語

【担当】宮武　智弘
【開講】後期　月2

■講義概要
４年次の特別研究においては様々な研究論文を読み参考にすることが必須となるが、その多くは英語で書かれている。ここでは、研究論文の読解能力を身につけることを目標とし、そこで多く使われる英文表現や専門用語を実際の研究論文を題材にして学ぶことになる。
■到達目標
学習・教育目標E1：(◎)，F2（○）
研究論文で多く出てくる専門用語や英文表現を少しでも多く身につけることにより、自らの力で英文を理解できるようになる。
■講義方法
化学の教科書レベルの英文から読み進め、徐々に専門的な内容に移行し、最後は研究論文の読解に挑戦する。英文に書かれている内容を理解することに重きを置きながら進め、特に複雑な文章については、その文法についても解説する。
■系統的履修
化学英語演習
■成績評価の方法
平常点（50%）・小テスト（50%）
■テキスト
特になし
■参考文献
演習時に適宜紹介する。
■講義計画
①化学英語の特徴と学習法
②有機化学の基礎Ⅰ
③有機化学の基礎Ⅱ
④有機化学の基礎Ⅲ
⑤有機合成化学Ⅰ
⑥有機合成化学Ⅱ
⑦有機合成化学Ⅲ
⑧物性評価Ⅰ
⑨物性評価Ⅱ
⑩物性評価Ⅲ
⑪研究論文の読解Ⅰ
⑫研究論文の読解Ⅱ
⑬研究論文の読解Ⅲ
⑭まとめ

科学技術英語

【担当】和田　隆博
【開講】後期　月2

■講義概要
国際化時代においては、英語による情報収集と情報発信が不可欠である。それら情報収集や情報発信には、今まで中学・高校及び大学の初学年で学んできた文学的英文とは大きく異なり、たくさんの専門用語や科学的表現がはいった技術英語が用いられる。この科学技術英語では、前期で学んだ化学英語演習を基礎にして、自分自身で海外から科学や技術に関する最新情報を収集したり、情報発信するための、応用能力を身につけることをねらいとする。
■到達目標
学習・教育目標E1：(◎)，F2（○）
科学技術に関する英文の読解力を中心にして、英作文力も身につけるようにする。
■講義方法
基本的には、セミナー形式でプリントを講読しながら進める。
■系統的履修
化学英語演習
■成績評価の方法
その他（100%）・授業中に実施する小テストと口頭での最終発表で評価する。
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■講義計画
①オリエンテーション
②化学英語の文章に親しもう（1）
③化学英語の文章に親しもう（2）
④化学英語の文章に親しもう（3）
⑤化学英語の文章に親しもう（4）
⑥化学英語の文章に親しもう（5）
⑦化学英語の文章に親しもう（6）
⑧化学英語の文章に親しもう（7）
⑨化学英語の文章に親しもう（8）
⑩化学英語の文章に親しもう（9）
⑪化学英語の文章に親しもう（10）
⑫化学論文を読みこなそう（1）
⑬化学論文を読みこなそう（2）
⑭みんなの前で英語の化学論文を紹介しよう

化学基礎実験（2007年度以降入学生）
理工学基礎実験B（2006年度以前入学生）

【担当】宮武　智弘、糟野　潤
【開講】後期　金３・金４・金５

■講義概要
物質を構成している元素やイオンを識別し、組成を正しく決定する化学的手法を実験を通して習得する。ここで学ぶ実験操作は、3年、4年次に実施される物質の合成・評価に関する実験の基礎であり、物質化学を学ぶ学生にとっては最も重要な基礎科目の1つである。単に実験の操作を習得するだけではなく、実験操作の背後にある化学理論を理解し、実験結果を吟味・考察し、報告書にまとめる訓練を行う。実験レポートの作成は、実験結果の精度と信頼性の検討、実験結果の解析・考察などを通して各人が将来科学技術論文を作成するための基礎訓練と位置づけている。

■到達目標
学習・教育目標：D3（◎），F1（○）
化学実験の操作法、レポートの書き方、分析化学の基礎理論が理解でき、化学技術者としての素養を身につける。

■講義方法
化学実験室で各人に配布された実験器具を用いて「化学実験書」に記載された内容の実験を個人単位で行う。 実験レポートと演習問題の解答は毎回提出を義務づけている。

■系統的履修
物質化学総論、分析化学

■成績評価の方法
予習の有無（10%）、実験中の態度（10%）、実験レポートの内容（60%）､宿題に対する解答（20%）などを総合して評価する。

■テキスト
龍谷大学理工学部編｢化学実験書｣をガイダンス時に配付する。

■参考文献
化学同人編集部編 『化学実験を安全に行うために』 化学同人
化学同人編集部編 『続化学実験を安全に行うために』 化学同人

■履修上の注意・担当者からの一言
この講義は実験であるので原則として補講は行わない。欠席はしない事。やむを得ない理由で欠席する場合は必ず宮武（内線7467）あるいは前田（内線7593）まで連絡する事。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
随時TA、担当教員が質問を受け付ける。

■講義計画
①ガイダンス（実験に臨む心得･安全意識･レポートの書き方･基本操作・準備と後始末）
②定性分析（1 ～ 5属陽イオンの系統分析）
③定性分析（1 ～ 5属陽イオンの系統分析）
④定性分析（1 ～ 5属陽イオンの系統分析）
⑤定性分析（1 ～ 5属陽イオンの系統分析）
⑥定性分析（1 ～ 5属陽イオンの系統分析）
⑦未知試料の定性分析（未知陽イオンの系統分析）
⑧容量分析（酸化還元滴定・キレート滴定）
⑨容量分析（酸化還元滴定・キレート滴定）
⑩容量分析（酸化還元滴定・キレート滴定）
⑪容量分析（酸化還元滴定・キレート滴定）
⑫水質分析
⑬演習・実験の後始末
⑭予備日

科学思想史

【担当】但馬　亨
【開講】前期　月１

■サブタイトル
ヨーロッパにおける近代科学・技術の成立と発展についての通史

■講義概要
現代世界において，科学・技術の問題に触れずして人類の知識総体の理解を行うことはまず不可能であろう．しかし，このように強大な影響力は古代の段階においてすでに得られていたのであろうか．当講義では，発展過程でその本質的意味を大幅に変化させていった科学・技術について，約二千年前のギリシャから遡り解説していく．なお，扱われる対象は近代の数学や物理学を主体としたいわゆる自然科学分野であるが，その他として西洋思想の諸問題についての理解が必須であるため，適宜取り上げる．

■到達目標
各時代ごとの自然科学・技術の様態について個別の歴史的認識を得られる．

■講義方法
プリントなどの資料の配布に加えて，映像資料などの学習教材を使って歴史的背景について説明する．

■系統的履修
自然科学の論理

■成績評価の方法
平常点（40%） 授業へ取り組む姿勢を出席以外で判断する．
定期試験（60%） 授業で扱ういくつかの核となるべきトピックについて，その理解を問う．
テストでは論述が主体となります．正しい日本語を書くことと何を聞かれているのかを理解すること，この２点に留意して課題に望んでください．

■テキスト
スティーヴン・シェイピン [著] ; 川田勝[訳] 『「科学革命」とは何だったのか : 新しい歴史観の試み』 白水社　2520円
授業全体に必要というわけではありませんが，重要な17世紀の説明にこのテキストは利用します．

■参考文献
トーマス・クーン著 中山 茂訳 『 科学革命の構造』 みすず書房　2730円
パラダイムや通常科学等，当授業で必要な重要な用語が取り上げられるので，一読の価値があるかと思います．

■履修上の注意・担当者からの一言
携帯電話や私語などには厳しく対処し，場合によっては単位を取り消す可能性もあります．

■講義計画
①ガイダンス
②古代ギリシャ，ローマ，アラビア，中世ヨーロッパ
③ルネサンスから17世紀科学革命まで
④18世紀から19世紀まで
⑤20世紀
⑥現在の諸問題
⑦全体の総括

学外実習

【担当】白神　達也
【開講】前期　集中

■講義概要
理工学部の各学科の講義・演習・実験・実習等を通じて培っている知識を背景として、学外の企業・研究所等の現場における実務を体験する。
学外実習は夏期休暇中の約3週間実施され、実習終了後に報告書の提出､報告会への参加が必要である。　また実習先の企業･研究所等は大学により指定される。その他、学外実習に関する説明会が事前に実施される。

■到達目標
学習・教育目標：E2（◎），C1，C2，D3，F1，F3，（○）
学外実習に参加することにより研究・開発・生産現場等の仕事を通じて大学における勉学の意義を知り、将来の学修に役立てることおよび社会的訓練と人格の向上に資することを目的としている。

■講義方法
原則として事前実習の受講および学外の企業・研究所等での実習とし、実習内容は実習先の計画による。

■成績評価の方法
平常点（30%）・レポート（30%）・定期試験（40%）
実習後、配属予定研究室で実習報告により判定。・実習最終日に実習先に提出する報告書を実習先から大学に返送してもらうこと、および実習後に学内で開催される実習報告会への出席等により総合的に合否を判定する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
説明会には必ず参加すること。　実習にあたっては、実習先の規則を遵守すること。　実社会での実習であることを理解し、学生として責任ある態度をとること。　実習先の指定は原則大学側が行うが、学生の積極的な進取的選定も可とする事があるので学外実習担当教員に相談すること。
〈学外実習実施委員〉
数理：宇土顯彦　　電子：斉藤光徳　　機械：渋谷恒司
物質：白神達也　　情報：新川芳行　　環境：遊磨正秀

■講義計画
①3月上旬　大学より企業・研究所等へ実習受入の依頼書発送
②4月中旬　実習先希望アンケート作成・提出
③5月中旬　実習に関するオリエンテーション
④5月下旬　大学より企業・研究所等へ実習内容確認書発送
⑤6月下旬　実習先の通知・オリエンテーション
⑥7月中旬　大学より企業・研究所等へ正式依頼状発送
事前実習
⑦8月24日　学外実習実施（実習先企業等からの回答により実期間等が変更される場合があります。）　～9月11日
⑧9月下旬　学外実習報告会
（実習先企業・研究所、学生、教員が参加）については学生に直接関係する事項です。
上記の予定ですが、状況により変更になる場合があります。掲示に十分注意すること。

環境科学

【担当】林　久夫
【開講】前期　月４

■サブタイトル
環境問題を科学的に考えるために

■講義概要
地球環境の問題には社会的･経済的･政治的要因が関係しているが、科学技術の問題である側面も大きい。したがって、これを解決するための努力は、科学技術に携わる者の責務ともいえる。本講では、これらの問題を客観的・科学的に考えるための基礎知識と思考法を習得することを目的とする。まず、われわれを取り巻く宇宙や地球の成り立ちから始め、生物の発生・進化など、人類がこの地球上に現在の形で存在するようになった経緯を解説する。続いて、地球上における水・大気・エネルギーなどの循環を通じて、人類が環境とどのような関わりの下で生存できるかについて説明する。最後に、このような環境を維持することの意義と方法について考える。

■到達目標
学習・教育目標：Ｂ１（◎），Ａ，Ｃ２（○）
最終的に以下の効果を期待している。
1）今日の地球規模の環境問題に関して、科学的・客観的に理解し、実例を示しながら簡単な説明ができる。
2）技術者として獲得した知識をどのように社会に役立てるべきかに関して、常に考える習慣を身に付ける。

■講義方法
毎回の講義のテーマは常に明確化し､重要なポイントは板書し強調する。随時レポートや小テストを課し、出欠を確認するとともに講義内容の理解度を把握し、学生諸君が消化不良に陥らないよう特に配慮する。

■系統的履修
環境化学

■成績評価の方法
平常点（40%）（レポート・小テストなど）
定期試験（40%）（期末試験）
その他（20%）（中間試験）
以上の結果を合計して総合的に判定する。

■テキスト
木下紀正・八田明夫 『地球と環境の科学』 東京教学社 2300円

■参考文献
勝木渥 『環境の基礎理論』 海鳴社　2400円
山口幸夫 『エントロピーと地球環境』 七つ森書館　1300円

■履修上の注意・担当者からの一言
環境を考えるための科学的基礎知識を身に付けることが最終目標であり、色々な学習方法の中で、真剣にかつ積極的な姿勢で講義を聴くことが結局一番の近道であることを悟って欲しい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
学科のホームページ等で周知する者以外にも、随時指定する。

■講義計画
①宇宙と地球の成り立ち
②地球の歴史と構造
③生命の誕生と進化
④物質の循環
⑤エネルギーの流れ
⑥エネルギーとエクセルギー
⑦地球資源
⑧中間試験
⑨水の循環
⑩大気の循環
⑪太陽と光
⑫化学物質
⑬放射能
⑭技術者倫理

キャリアデザイン

【担当】越野　由美子、瀧井　智美
【開講】前期　木2

■サブタイトル
自己概念とThe real world

■講義概要
キャリアデザインへの1回生からの取り組みが自分のキャリアをつくっていく上で決定的に重要であることを実践的に学ぶ。自らの判断と創造が要求される、つまり責任ある仕事を継続的に体験したことがない学生には、そこに至る基本的な「考え方」と「知識」を学ぶ必要がある。大学卒業を控えた選職活動に絶大な威力を発揮するのは「大学でどんな行動を起こし、何を掴んだのか」ということを堂々と自分の言葉で語れることである。このキャリアデザイン論では、自分のキャリアをつくっていく上で、何故、そうしたという「考え方」や「知識」が必要であり、これから君達が自分でつくる学生生活を自分の言葉で語ることが重要であるかを理論的・体験的に学ぶ。
＜理工学部キャリア教育の取り組み＞
http://www.rikou.ryukoku.ac.jp/career/index.html

■到達目標
・自分の学生生活を自己責任でつくっていく大切さを知ることが「キャリアデザイン」の第一歩であること
・キャリアデザインの基本となる「キャリアデザイン論」の習得

■講義方法
講義室の制約があるが、可能な限りワークを使いながら解説を試みる。また、講師から教わるのではなく、自分自身で「ためになる事」を体験の中から発見･再発見･再認識し、メンバーからも様々なことを学ぶ。ワークおよびディスカッションを主に、受け身の講義ではなく自分自身や社会について学んだことを仲間と共有し、互いに協力し合って、有意義で楽しい大学生活を”自らの手で”作っていく面白さの参加型講義を行う。板書量は多くないが必ずノートを要求する。

■系統的履修
キャリアプランニング（２年次・前期）

■成績評価の方法
平常点（50%）　遅刻・欠席及び授業態度等は減点法で厳しく行う
その他（50%）　決められた提出物を何種類か提示する。
試験は実施しないが、講義毎に要求するなんらかの提出物で評価する。従って、連続欠席等をするとワークシート理解が不可能であり、注意を要する。

■テキスト
東田晋三著　『My Career Note ～ Encourage ～』　ベネッセコーポレーション　2500円
生協にて販売。部数品切れの可能性あり､早めに確保すること。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
3年後に控えた就職活動に役に立ち､使える「考え方」と「知識」の提供を試みたい。講義予定は、受講生の反応を見ながら柔軟に進めたい。18年度からの学生による授業評価は、毎回受講して良かった90％以上と非常に高い評価が出ている。受講学生の積極的な発言を期待している。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
キャリア講師は７名で火曜日・水曜日・木曜日に授業を行っている。授業の合間は講師控え室にて待機。

■講義計画
①オリエンテーション（評価の方法､学習のポイント等の解説）
　答えはいっぱいある
　この講座の目標
②目標の力
　目標を考え戦略を立てる
　目的と目標のちがい
③・自己紹介とは
　・ワークを通じて、普段あまり意識しなかった自分について深く考えることの大切さを学んで行く。
④協力と共有
　何が共有で何が協力か
　協力はどこから生まれてくるか
⑤自分を伝える難しさ
　自分を伝えることは決して簡単なことではない。
　そのために自分を知り、うまく伝える方法を知ろう。
⑥コミュニケーションの意味
　コミュニケーションを構成するもの
　コミュニケーションバズで意志疎通の難しさを体験してみよう
⑦ディスカッションの構造と心構え
　ディスカッションはなぜ大切なのか
　「Because」が重要な理由・ディスカッションとディベートの違い
　ディスカッションは新しい意見から始まる
⑧世の中のことを考えよう
　話し合ってみよう：世の中に出るってことはどういうこと？
　この世の中で楽しく生きる為には何が大切か
⑨自己概念とキャリアマインド
　自分と社会の関係を整理しよう
　「自分は何者か」を興味や関心を通して知っていくことで自己概念を固めよう
⑩大学生活と自己責任
　あなたの人生はあなたが選択し決定しなければならない
　あなたの行動規範を整理しよう
　あなたの行動規範と社会の行動規範を意識しながら行動しよう
⑪目標実現までのプロセス
　目標実現までの行動について考えよう（プロセスを整理し、成功へのプロセスを知る）
　「何がしたい」を決めることから始める大学生活
⑫私を支えてくれた人
　あなたを支えてくれた人の事を考え、あなたはなにをすべきかを整理しよう
　自分と他者との関わりを改めて考えよう
　一人ではキャリアデザインは作れない
⑬私のキャリアデザン
　目標を持ち、その実現を目指して行動するキャリアデザインに取り組もう
　考えに考えて、勇気を持って目標と行動計画を整理する
⑭キャリアデザンまとめ
　私のキャリアデザイン発表

キャリアプランニング

【担当】神殿　織江
【開講】前期　水３

学部内共通

■サブタイトル
自らの意志と責任で進路を選択しよう

■講義概要
1年次では、自分の個性や生き方、将来の進路を見つめながら、大学で学ぶ目的・目標を持つことの大切さを学んだ。2年次、キャリアプランニングでは、種をまき、芽を出すことの意識を自らが自覚をしよう。自分らしさを活かして大学生活を充実させる為の自己分析及び自己現状分析をしっかり行い、将来を見据え、これからの大学生活で何を経験しておくべきか、実際に行動を起こす為の具体的計画をたてよう。目標を達成するために自分でプロセスを楽しめる状態に持っていく力、それは、「なぜ」「どうやって」「どうしたら」を考え、答えを出す作業が、その力として身につくものであり、自分の言葉でその経験を熱く語れるようになる。
＜理工学部キャリア教育の取り組み＞
http://www.rikou.ryukoku.ac.jp/career/index.html
※現在テキストの再検討のため、一部講義計画の内容が変更となる可能性があります。

■到達目標
自己分析をしっかりと行い、自己の個性や生き方、将来の進路を見つめながら、じっくりと進路を考える。その為の必要なスキルを身につけ、可能性を探る。

■講義方法
ワークおよびディスカッションを主に、受け身の講義ではなく自分自身や社会について学んだことを仲間と共有し、互いに協力し合って､有意義で楽しい大学生活を”自らの手で”作っていく面白さの参加型講義を行う。また、授業のなかで複数の講師によるグループカウンセリングも行う。毎年好評を得ている。

■系統的履修
１年次キャリア授業：キャリア・デザイン

■成績評価の方法
平常点（50%）　遅刻・欠席及び授業態度等は減点法にて厳しく行う
その他（50%）　決められた提出物を何種類か提示する。
試験は実施しないが、講義毎に要求するなんらかの提出物で評価する。従って、連続欠席等をするとワークシート理解が不可能であり、注意を要する。

■テキスト
授業計画のテーマに沿ったテキストを配布予定。各人、幅３センチ以上の２穴綴じ仕様のＡ４サイズバインダーを必ず用意すること。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
キャリア教育の基本は、自分の能力を知り、人間性を磨くことから始まる。日頃からの言葉づかい・挨拶・礼儀作法、時間厳守は最低限のマナーである。その基本のもと、自由に発想し自らの信念に基づき主体的に行動し、結果に責任を持つことが、求められる。つまり、働くことに必要なベースとなることを学ぶ授業であり、エントリーシートの書き方、模擬面接等、手法を学ぶ授業ではない。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
キャリア講師は７名。前期授業は火曜・水曜・木曜。授業の合間は、いずれも講師控え室にて待機。

■講義計画
①オリエンテーション　自分について考える
②私の勤労観と職業観
③自己分析：価値観・能力について
④自己分析・私の強みを見つけよう
「できること」を様々な角度に分類する
⑤自己分析：私の強みを掘り下げよう
⑥社会を知ろう：その１
社会でのマナーをみにつけよう
⑦社会を知ろう：その２
⑧社会を知ろう：その３
私の興味のある業界・職種・会社・仕事を実際に調べてみる
⑨グループディスカッション
⑩自己分析のまとめ：統合
⑪自己の課題を見つけよう：グループカウンセリング
⑫自己の現状しらべ
⑬キャリアプラン作成
⑭キャリアプランニング発表：プレゼンテーション

計算機基礎実習Ⅰ

【担当】野村　竜也
【開講】前期　木4・木5

■講義概要
この実習は、(1) インターネット上の情報を収集するためのソフトウェアの使い方、(2) 収集した情報を加工するためのソフトウェアの使い方、(3) 自分から世の中に向かって情報を発信するためのソフトウェアの使い方を身に付けることを目的とする。また、インターネットの普及によって我々の生活が非常に豊かになった反面、様々な問題点も生じている。そこで、インターネットの良い点と弊害について考え、インターネットを適切に活用するための知識をしっかりと身に付けていくことを第2の目的とする。

■到達目標
情報の収集・加工・発信に必要な各種ソフトウェアを使いこなす能力を身に付けることができる。また、インターネットの特質を理解し、インターネットの適切な活用法を身に付けることができる。

■講義方法
各自1台のコンピュータを用いて実習形式で行う。毎回演習課題を出題する。

■成績評価の方法
平常点（10%）
その他（90%）　毎回提出する演習課題に対する達成度

■テキスト
斉藤幸喜・小林和生・花房拓 『Windows XPを用いたコンピュータリテラシー入門』 共立出版　2300円
情報教育学研究会・情報倫理教育研究グループ 『インターネットの光と影』 北大路書房　1800円

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
実習を中心とした授業のため、毎回の出席が必須。
また、講義時間内に課題が終了しない場合も想定されるので、自習時間も積極的に設けること。

■講義計画
①ログオン・ログオフの仕方。日本語入力。メール
②ファイル・フォルダの作成。メモ帳の使い方。ウェブからの情報収集
③Excelの使い方（1）：ウェブ上のデータの読込み
④Excelの使い方（2）：セル操作、表作成と計算式
⑤Excelの使い方（3）：オートフィルタ、各種関数
⑥Excelの使い方（4）：実験データの整理、グラフ
⑦Wordの使い方（1）：基本操作、ツールの使い方
⑧Wordの使い方（2）：Excelグラフの取り込み
⑨Powerpointによるプレゼン資料作成（1）
⑩Powerpointによるプレゼン資料作成（2）：図表
⑪ウェブページ（HTMLファイル）の作成（1）
⑫ウェブページ（HTMLファイル）の作成（2）
⑬情報倫理、インターネットの活用法（1）
⑭情報倫理、インターネットの活用法（2）

計算機基礎実習Ⅱ

【担当】岩澤　哲郎
【開講】後期　木3・木4

■講義概要
化学の分野においても、コンピュータの使用は日常的なものになっている。本科目においては、計算機基礎実習Ⅰで履修したコンピュータの基本的な知識と技術を化学の分野に応用することを主に行う。ワープロソフトを用いた一般的な文書作成やインターネットによる情報検索だけではなく、化学の分野で用いられている画像情報の取り込み、表計算、グラフ作成、化学反応式および分子構造の作成およびパワーポイントを用いたプレゼンテーションの練習を行う。また、分子構造を3次元的に示すことに関連して、簡単な最安定構造の算出を行うことを予定している。

■到達目標
学習・教育目標：D1（◎）
本科目を履修することにより、化学の分野での一般的なコンピュータ利用を支障なく行うことができるようになる。また、実験科目やさらに4年次での卒業研究で行うデータ処理や発表をスムーズに行うことができる。

■講義方法
毎回、簡単に講義した後、課題を与える。各自コンピュータを使用して、時間内にその課題を完成させる。教員およびTAの助言を求めることも可能であるが、なるべく一人の力で解決できるように指導する。

■系統的履修
計算機基礎実習Ⅰ

■成績評価の方法
レポート（80%）
その他（20%）　プレゼンテーション（２回）
毎時間行う各課題に対する達成度および理解度により評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
コンピュータを苦手と感じている学生の受講を歓迎する。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義中に指示する。

■講義計画
①PC操作技術の確認
②画像情報の処理（デジタルカメラ・スキャナー）
③インターネットによる情報収集法（１）・データ加工（１）
④インターネットによる情報収集法（２）・データ加工（２）
⑤エクセルを用いた計算・図表の作成
⑥エクセルを用いたスペクトルデータの処理法
⑦図表を含む報告文書の作成（１）
⑧パワーポイントによるプレゼンテーション（１）
⑨化学反応式・３次元的化学構造式の作成（１）
⑩化学反応式・３次元的化学構造式の作成（２）
⑪図表を含む報告文書の作成（２）
⑫パワーポイントによるプレゼンテーション（２）
⑬プレゼンテーションと評価
⑭総合問題・まとめ

工学概論

【担当】斉藤　光徳、川上　肇
【開講】前期　月５

■講義概要
工学は、素材研究やものづくりから、コンピュータ・通信、さらには資源・環境問題に至るまで、あらゆる分野に広がっている。そして、それらの異なる分野の技術が融合して様々な機械やシステムを作り上げている。したがって、技術者には専門性だけでなく、異分野の技術に関する知識や理解も求められる。このような観点から、学生に異分野の技術を知る機会を与えるのがこの授業の目的である。第1部（川上担当）では、ソフトウェア開発の立場から歴史を交えて工学の目的を概観した後，ディジタルTV放送の実用化などで身近になったディジタル画像を例に取り上げ，その基盤技術と発展方向を工学の広い分野に亘って講義する。第2部（斉藤担当）では、素材や機器開発の立場から、我々の周辺にある様々な機械を取り上げて、構造やしくみ、それが使われる理由などを説明し、電気･機械･材料･エネルギー・情報など数多くの分野の技術がそこに結集されていることを紹介する。また、それらの例を通じて、技術の発展が社会や経済との関係で左右されることも垣間見て、技術者には幅広い視野が求められることを説く。

■到達目標
自分の専攻と直接関係が無いことも勉強する必要があると悟り、様々な分野に関心を持って学習する意欲を喚起することが目標である。さらに、この授業を通じて、自分が将来どのような分野に進むかを考える基盤を得ることも目標とする。

■講義方法
前半の第1部（4回）は川上、後半の第2部（10回）は斉藤が講義を行う。

■成績評価の方法
平常点（30%）・レポート（20%）・定期試験（50%）
第1部の講義内容に関するレポートの点数、第2部の講義内容に関する定期試験の点数、および講義全体にわたる平常点を総合して成績評価を行う。

■テキスト
特になし

■参考文献
中島尚正（編）『工学は何をめざすのか』 東京大学出版会

■履修上の注意・担当者からの一言
工学分野では、大学を卒業しても、自分で問題を解決する能力のない者は役に立たない。遅刻や欠席をせず講義を熱心に聴くことは義務ではなく、社会で通用する能力を磨くための権利であることを自覚してほしい。

■講義計画
①ディジタル画像処理1：発展の歴史・目的
②ディジタル画像処理2：視覚の工学的実現
③ディジタル画像処理3：基本となる情報処理
④ディジタル画像処理4：発展（ロボット視覚）
⑤コンピュータの進歩はいつまで続くか／成長限界と革新技術
⑥テレビはどこまで薄くなるか／軽薄短小を追求する技術
⑦デジカメはコピー機に代われるか／歩留りが勝負の生産技術
⑧送電線はなぜ高圧にするのか／省エネに役立つ技術
⑨電波はなぜ地球の裏まで届くか／携帯から宇宙に広がる技術
⑩光ファイバが普及したのはなぜか／高速・安全・省資源技術
⑪音が電波や光で伝わるのはなぜか／全てを0と1にする技術
⑫ハイテクのCDがなぜ千円もしないのか／低コスト化の技術
⑬不良品や誤りは無くせるか／完全をめざす品質管理技術
⑭照明を革新するLEDは誰が発明したか／特許を争う技術

工業経済

【担当】五百井　正樹
【開講】後期　金４

■サブタイトル
技術の発達とそれに伴う社会および環境の変化について

■講義概要
私たち日本人は工業社会に住む。が、この国の工業化は明治維新以降であり、工業社会となったのは、諸説はあるが、1970年代の中頃であろうか。いずれもさほど古い出来事ではない。この日本近代は激動の時代であり、風景、景観、暮らしの有り様にいたるまで、根こそぎの変化を続けてきた。この変化の過程を概観し、変化を引き起こすにいたった要因、また変化を可能にした各種条件について考える。何故に、敗戦後の急速な工業化と“経済大国化”が可能であったのか。その結果、社会と自然環境はどのように変化したか。また、どのような課題に直面するにいたったか。これらの視点から、具体的データをもとに日本近代を考えて行くことにする。

■到達目標
学習・教育目標：C2（◎）
日経新聞を楽しく読めるようになること

■講義方法
PCによるプレゼンテーション、およびレジュメ、参考資料の配布

■成績評価の方法
小テスト（50%）・レポート（50%）

■テキスト
特になし

■参考文献
日々の新聞の経済面、および1面。その他必要に応じて講義時に指示。

■履修上の注意・担当者からの一言
質問は大いに歓迎するが、私語は断る。

■講義計画
①【戦後日本の工業化】
②データから見る戦前と戦後
③コピーからオリジナルへの長い道
④自動車が輸出商品に育つまで
⑤【経済という考え方】
⑥「自由市場」のウソとホント
⑦貿易と比較優位・・なぜ中国椎茸はやすいのか
⑧利潤と価値・・価値を生み出すものは何か
⑨【技術と環境・・その相互作用】
⑩技術とは何か・・誕生と発展
⑪環境とその変化・・どのようにすれば見えるか
⑫環境と経済

資源エネルギー論

【担当】三浦　信弘
【開講】後期　金2

■講義概要
我々の生活や文明は、その維持、発展のために多くのエネルギーを消費することによって成り立っている。これらのエネルギーの大部分は、石油、石炭、天然ガスといった化石燃料の燃焼反応により取り出された熱エネルギーの変換によっている。我々の社会を支えるための大量のエネルギー消費は、化石燃料をはじめとする自然界からの資源の大量消費を伴い、資源の枯渇といった問題をはらんでいる。一方、多量のエネルギー消費により自然の許容量を越える廃棄が繰り返される事により、自然環境の汚染・破壊が引き起こされている。このように、エネルギー論を論じるにあたっては、「資源」、「エネルギー」、「環境」の三者からの視点が必要である。本講義では、できる限り具体的な事例を中心に、資源とエネルギーの関わり、現状のエネルギー利用とその課題、新エネルギーの開発状況などを環境問題との関連をふまえて講義する。

■到達目標
実際の生活において利用されている「エネルギー」、「資源」の関連と、その「環境問題」への関わりを理解できるようになる。また、新エネルギーの開発状況を知ることにより、エネルギー資源利用の今後の展開、展望が理解できる。

■講義方法
適時プリントと資料を配布し、板書を中心に講義する。
随時演習を行うと共にレポートを課す。

■成績評価の方法
レポート（20%）
定期試験（40%）
その他（40%）　中間テストを実施する

■テキスト
特になし

■参考文献
井田民男他　『熱エネルギー・環境保全の工学』　コロナ社　2900円
押田勇雄　『現代エネルギー工学概論』　オーム社　2900円
世良力　『資源・エネルギー工学要論』　東京化学同人　2400円

■講義計画
①資源・エネルギー・環境保全
②エネルギーシステム
③化石エネルギー（概論・石炭）
④化石エネルギー（石炭・石油）
⑤化石エネルギー（石油・天然ガス）
⑥原子力エネルギー
⑦原子力エネルギー
⑧中間テスト
⑨原子力エネルギー
⑩自然エネルギー（水力・地熱・太陽エネルギー）
⑪自然エネルギー（太陽電池）
⑫燃料電池
⑬エネルギーとエクセルギー

自然観察実習（2007年度以降入学生）
生物多様性実習B（2006年度以前入学生）

【担当】横田　岳人、丸山　敦
【開講】前期　水3・水4・水5

■講義概要
環境科学では野外における自然現象を観察し、その場で生じている事柄や問題を、科学的なデータをもとに明らかにしていく。その最も基本となるのは、自然現象の観察である。この実習では、比較的身近にある自然環境を対象に、主として植物や動物などの生物が織りなす自然現象を対象に、自然観察法の初歩を体験的に幅広く学習する。

■到達目標
野外での生物現象の観察の基本を身につける。自然観察に用いる道具類の取り扱いを学ぶ。動植物の関わり合いについて、実際の観察を通じて理解する。

■講義方法
実習は３つの班に分かれ、概ね４回ずつ一つのテーマについて実習を行う。具体的な実習テーマは初回ガイダンス時に示す。基本的に実習内容についての講義の後に実習を行うが、詳細は担当教員毎に異なる。不明な点は初回のガイダンス時に確認する事。

■成績評価の方法
平常点（40%）　実習参加状況
レポート（40%）　レポート、スケッチを評価。
その他（20%）　積極性、自発性、協調性を総合評価。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
基本的に実習は野外で行う。野外活動できる服装を準備すること。また野外での実習には，思いがけない危険が伴う。入学時に配布された安全のてびきを熟読し，指導者の指示に従うこと。また，実習内容によって集合時間や場所が変わることがあるので，事前の掲示に十分注意すること。

■講義計画
①実習ガイダンス
②3つのテーマについて実習を行う
③陸上生物を中心にした自然観察
④水域生物を中心とした自然観察
⑤街と農村の自然観察（桑垣 瑞）
⑥実習まとめ

情報学概論

【担当】杉山　久佳
【開講】前期　木5

■講義概要
コンピュータと情報ネットワークの基礎を解説する．まずコンピュータの発展の歴史を述べ，現代および将来の応用分野を示す．次にコンピュータシステムを構成するＯＳなどの諸要素について解説する．情報ネットワークに関しては，その基盤となる符号化とディジタル信号処理などの要素技術を解説する．

■到達目標
コンピュータと情報ネットワークの基礎を理解するとともに，これらを統合した現代社会の基盤技術の全体像を把握することを目標とする．

■講義方法
指定したテキストを基本とし，適宜他の視聴覚機材を使用して授業を行う．授業中に適宜小テストを行うことで理解度をチェックする．

■成績評価の方法
小テスト（20%）・定期試験（80%）

■テキスト
三井田他　『情報工学概論』　森北出版　2100円

■参考文献
特になし

■講義計画
①コンピュータの歴史
②コンピュータの応用分野
③２進数とプール代数
④コンピュータの構成
⑤プログラムとＯＳ
⑥コンピュータの将来像
⑦通信とネットワーク
⑧小テスト
⑨ネットワークプロトコル
⑩情報量と符号化
⑪ディジタル信号処理
⑫移動体通信
⑬アドボックネットワーク
⑭ネットワークの将来像

情報と職業

【担当】三木　忠行
【開講】前期　集中

■サブタイトル
情報化の進展が職業に及ぼす影響とはどういうことか。

■講義概要
今日の高度情報通信社会で生活する私たちにとって、情報通信の技術や利用方法について考えることは重要なことである。本科目では、情報通信を媒介としたコミュニティ構成から、専門的職業への分化まで、情報に関する職業人教育とした内容について授業を展開する。また、情報化の進展が職業に及ぼす影響について、さらには社会そのものへの影響についても考えていく。

■到達目標
学習・教育目標：C2（◎）
現実の社会情勢の推移や科学技術の発達と現状を認識し、柔軟に的確に対応できる資質と能力を習得する。

■講義方法
資料を用いて授業を進める。

■成績評価の方法
平常点（30%）・レポート（30%）・定期試験（40%）
試験と課題レポートと学習状況を総合して評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
文部省　『高等学校学習指導要領解説　情報編』　開隆堂出版株式会社　90円
近藤勲　『情報教育シリーズ　情報と職業』　丸善株式会社　2600円
駒谷昇一／他　『IT Text　情報と職業』　株式会社オーム社　2500円

■履修上の注意・担当者からの一言
高校教員免許教科「情報」に係る科目です。

■講義計画
①「情報と職業」の意義
②情報化社会における職業観
③高校における職業指導
④情報社会と情報システム
⑤情報化社会とIT革命
⑥情報社会における危機管理
⑦生涯学習－高学歴社会と自己学習力－
⑧労働時間の短縮と余暇の利用
⑨情報社会と高等教育
⑩企業・組織体のセキュリティ
⑪情報処理技術者とITスペシャリスト
⑫これからのビジネスシステムと経営
⑬情報産業におけるビジネスモデル
⑭情報倫理

情報倫理

【担当】野村　竜也、芝原　努
【開講】前期　月４

■サブタイトル
情報社会における心理・技術・法
■講義概要
情報化に伴う社会の変化により、倫理や規範の問題についても、これまでの議論の枠組みとは異なる視点からの再検討が必要になっていると考えられる。例えば、従来の知的財産権法制は情報社会において有効な行動指針たりうるのか、新たな形態の反社会的行動に対する対策はいかにありうるのか、人と人の間の対話のあり方はどのように変容していくのか等、問題は多岐に渡り、社会や個人の様々な側面に関係している。本講義では、こうした課題を法制・関連IT技術・個人の心理面の3テーマから整理し、情報倫理の問題を多面的に検討していくことを目指す。
■到達目標
人がインターネット等で活動する際に直面する問題はどのようなものか、そうした問題を予防し、またはこれに対処する行動指針とはどのようなものかを理解する。
■講義方法
講義計画に沿ってレジュメと資料を配布し、それに基づき講義形式で進める。可能な限り視聴覚教材も利用する。
■成績評価の方法
平常点（20%）・レポート（40%）・定期試験（40%）
レポートは上記テーマごとに１回、合計３回を予定
■テキスト
講義時間中に資料を配布
■参考文献
A.N.ジョインソン　『インターネットにおける行動と心理』
北大路書房　2800円
Deborah G. Johnson 『コンピュータ倫理学』 オーム社
2500円
名和小太郎 『情報の私有・共有・公有　ユーザーからみた著作権』 NTT出版　2500円
■履修上の注意・担当者からの一言
3つのテーマからなる講義のため、1回でも欠席するとその回の内容は理解不能。配布資料はあくまで補助教材であり、毎回出席し確実にメモをとることが必須。授業中の私語厳禁は当然。
■講義計画
①インターネットにおける行動と心理および技術者倫理・セキュリティ
②「情報倫理」に関連する反社会行動と具体的法律

学部内共通

生態学概論

【担当】丸山　敦
【開講】後期　月２

■講義概要
環境問題への関心が高まり、「エコ」の語は世間に溢れる。しかし、生態学（ecology）の理解は必ずしも高いとは言えない。生態学は、生物どうし、および生物と非生物的環境の間の全ての関係を扱う科学分野であり、興味の方向や時空間スケール、研究手法によって多方面に発展している。この学問を概観することで、生態学本来の可能性や、環境問題の本質を理解するための学問的基礎を得られよう。本講義では、生態学の基礎（共通）概念から始まり、進化生態学、行動生態学、社会生態学、個体群生態学、群集生態学、生態系生態学、応用生態学などについて概説する。重要キーワードの理解に重点をおき、具体的事例の紹介で理解を助ける。また、各分野の視点から、移入種、温暖化、生物多様性損失などの環境問題を考察する。
■到達目標
生態学全般についての概括的な知識を習得し、生態学の発展諸分野への興味を持つ。環境問題を生態学的に考察する重要性を知る。
■講義方法
教科書とプロジェクタを中心に行う（プロジェクタで示す内容はダウンロード可能）。随時小テストを行い、授業内容にフィードバックする。
■系統的履修
生物学序論、生物学概論、または高校「生物II」
■成績評価の方法
平常点（10%）　発言など
小テスト（40%）　ほぼ毎回行う
定期試験（50%）　教科書のみ持込を許可する（書き込み可）
■テキスト
日本生態学会　『生態学入門』　東京化学同人　2940円
■参考文献
日本生態学会　『生態学事典』　共立出版　13650円
マッキンジー、ボール、バーディー　『生態学キーノート』
シュプリンガー・フェアラーク東京　3360円
ベゴン、タウンゼント、ハーパー　『生態学ー個体・個体群・群集の科学』　京都大学学術出版会　12600円
この他、講義中に紹介する。
■履修上の注意・担当者からの一言
パワーポイントを併用し、その内容はダウンロード可能にしているが、教科書の購入は正しい理解のために必須である。自学習として毎回、教科書該当部分の予習および復習を求める。講義中に発言や質問を求めることがある。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業直後、もしくは環境研究室１２（瀬田学舎７号館１階）にて連絡が可能である。
■講義計画
①生態学概観
②生物の自然史
③進化からみた生態
④分子進化
⑤生活史の適応
⑥性
⑦生理生態特性と適応
⑧行動と社会
⑨進化生態学の総括
⑩個体間相互作用と個体群
⑪種間相互作用と個体群
⑫種間相互作用と生物群集
⑬生態系の機能
⑭応用生態学と環境保全

生体情報概論

【担当】椙崎　弘幸
【開講】前期　金2

■サブタイトル
遺伝情報の伝達メカニズム

■講義概要
組換えDNA技術の発展を背景に、塩基配列レベルでの遺伝情報の解析が飛躍的に進展し、細菌等の単細胞生物はもとよりヒトに代表される高等生物の遺伝情報に対する理解が深まってきた。高次生命現象の研究までもが次々と組換えDNA技術を用いて発展し、新しい概念の確立、既成概念の修正がなされている。本講義では組換えDNA技術の基礎となる原核生物の遺伝情報の伝達メカニズムについての解説から始める。さらに、この技術を用いて解明された真核生物の遺伝情報とその伝達メカニズム、生体機能の発現のメカニズムについて分子レベルで追求した研究成果を紹介する。

■到達目標
学習・教育目標：D1（◎）
遺伝情報の発現と制御のメカニズムを学ぶことにより、細胞内での情報伝達システムの一端を知ることができる。情報科学や物理系の学科を専攻する学生にとっても理解できるように講義を進めていく。

■講義方法
毎回授業計画のテーマに関するプリントを配布し、それに従って講義を進めていく。

■成績評価の方法
定期試験（100%）
前期試験期間に筆記試験をおこなう。試験では参考資料の持ち込みを許可する。筆記試験により成績を評価する。

■テキスト
教科書は使用しない。毎回授業計画のテーマに関するプリントを配布し、それをもとに授業を進めていく。

■参考文献
J.D.Watson et al., Molecular Biology of the Gene 『(訳本) 遺伝子の分子生物学』 トッパン
B. Alberts et al., Molecular Biology of the Cell 『(訳本) 細胞の分子生物学』 教育社
B. Lewin, Genes Ⅷ 『(訳本) 遺伝子第８版』 東京化学同人
いずれの本も旧版ではあるが、本学の図書館に完備されている。

■履修上の注意・担当者からの一言
参考文献に挙げた本は高価なので、あえて購入する必要はありません。知識をより深めたいときに、図書館に完備してある参考文献に挙げた図書を利用していただきたい。適宜容易に読める本を紹介します。

■講義計画
①遺伝物質の化学的本性
②遺伝物質の構造
③遺伝物質の自己複製
④遺伝物質の組換え
⑤遺伝情報の発現と制御－原核生物における転写のメカニズム
⑥遺伝情報の発現と制御－真核生物における転写とRNAプロセッシングのメカニズム
⑦蛋白質の構造と機能
⑧遺伝情報の発現と制御－翻訳のメカニズム
⑨遺伝子系の保存
⑩組換えDNAとバイオテクノロジー
⑪生物科学の最近のトピックス紹介（1）
⑫生物科学の最近のトピックス紹介（2）
⑬生物科学の最近のトピックス紹介（3）
⑭生物科学の最近のトピックス紹介（4）

生物学概論Ⅰ

【担当】土井田　幸郎
【開講】前期　木1

■講義概要
生物学は生物の特長である生命現象とは何か、生きているとはどういうことかなどといった問題を自然科学の言葉で理解しようとする学問分野である。とはいえ、生きているということを定義することはむずかしい。本講義では、まず生物の基本単位である細胞をとりあげ、細胞が示す普遍的な構造と機能について説明する。以下、生物は生命維持のため、どのように自己複製をし、新しい個体を形成するか。その際、どのようにして、個々の生物は特異性を維持するのか、その物質的背景は何かなど下記授業計画の①から⑤までについて論じる。

■到達目標
学習・教育目標：D1（◎）
昨今、生物学、医学の知識は飛躍的に増え、生命体にメスさえ入っているが、ヒトは最小の微生物すら未だに作ることができない。この講義を通じて生物のことを多面的に学んで欲しい。そして、生命という不可思議なものの意義を自然科学的な視野からも考えられるようになって欲しい。

■講義方法
講義ごとにテーマを決め、そのことを中心にして解説する。授業計画の項目によっては複数回にわたる場合がある。
講義はオーソドックスな方法で行なうが、トピカルなことも取り上げる。

■系統的履修
状態と変化の科学である生物学を充分理解するためには、物理学と化学の知識が必要である。

■成績評価の方法
講義への出席、講義中の小試験と期末テストの結果を総合して判定したいが、最終的には期末テストの結果を重視する。

■テキスト
石川統編 『生物学　第２版』 東京化学同人社
近年凄まじい勢いで発展している生物学の領域を一冊のテキストで理解することは不可能であるので、講義中、必要なプリントを配布する。またテキストに記されてない事項についても講義で取り上げる。

■参考文献
その他参考図書は随時講義中に知らせる。

■履修上の注意・担当者からの一言
大学の講義の一時間には二時間の予習と復習の時間が課されている。従って、私は講義時間に大切だと思う出来るだけ多くの知識を伝えたいと思っているので、その知識を基礎に自分で考えたり、不足を補って欲しい。

■講義計画
①生物の階層性
②細胞の構造と機能の普遍性
③細胞の増殖とその制御
④生物の初期発生と生物間の形態の比較
⑤生物の特異性の維持機構
⑥恒常性維持の諸機構
⑦生態系
⑧動物の行動
⑨生命の起源・生物の進化
⑩トピカルな話題

生物学概論Ⅱ

【担当】土井田　幸郎
【開講】後期　木1

■講義概要
生物学Ⅰの講義内容に続き、生物がどのように、自己の生命の安全を維持しているか、また、同種、異種の生物や無生物の世界と相互関係を保ちつつ生存しているのか、生命の誕生とその後の発展はどのようにして起こったのかなど年間授業計画⑥から⑨について述べる。生物学概論Ⅰ、Ⅱを通じ、出来るだけ広範な分野について概観し、ヒトも含めた生物の生命というものを自然科学的な面から眺めたい。したがって生物学概論Ⅰ、Ⅱ両方選択されるのが望ましい。

■到達目標
学習・教育目標：D1（◎）
昨今、生物学、医学の知識は飛躍的に増え、生命体にメスさえ入っているが、ヒトは最小の微生物すら未だに作ることができない。この講義を通じて生物のことを多面的に学んで欲しい。そして、生命という不可思議なものの意義を自然科学的な視野からも考えられるようになって欲しい。

■講義方法
講義ごとにテーマを決め、そのことを中心にして論じる。

■系統的履修
状態と変化の科学である生物学を充分理解するためには、物理学と化学の知識が必要である。

■成績評価の方法
講義への出席、講義中の小試験と期末テストの結果を総合して判定したいが、最終的には期末テストの結果を重視する。

■テキスト
石川統編　『生物学　第２版』　東京化学同人社
近年凄まじい勢いで発展している生物学の領域を一冊のテキストで理解することは不可能であるので、講義中、必要なプリントを配布する。またテキストに記されてない事項についても講義で取り上げる。

■参考文献
その他参考図書は随時講義中に知らせる。

■履修上の注意・担当者からの一言
大学の講義の一時間には二時間の予習と復習の時間が課されている。従って、私は講義時間に大切だと思う出来るだけ多くの知識を伝えたいと思っているので、その知識を基礎に自分で考えたり、不足を補って欲しい。

■講義計画
生物学概論Ⅰのこの項参照

生物学実験

【担当】土井田　幸郎、竹内　圭介
【開講】後期　水3・水4・水5

■講義概要
生命活動は生物の示す多様な形態と機能の上に成り立っている。それがどのようにして維持されているのかについては、形態学、細胞学、発生学、生理学、生化学、遺伝学、生態学などの視点から研究されている。
本実験では、適切な材料を選び、種々な生物学的な研究方法を用いて、生物の示す生活活動の諸相について調べる。

■到達目標
学習・教育目標：D3，F1（◎）
多分野にわたるこの実験を通し、生物体の構造の多様なこと、変異に富むこと、生物間の相互作用、生育環境に対して示す生物の適応性などについて、基本的なことを学んで欲しい。

■講義方法
実験に先だって、実習の目的・内容・意義・方法を説明したあと、個別･グループで実験する。授業計画の項目によっては、複数回にわたる場合もある。

■成績評価の方法
実験への出席、レポートの提出をもって評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
必要に応じ、資料は用意する。

■履修上の注意・担当者からの一言
生物学の実験では、どうしても生きているものの生命を奪わねばならないことがある。実験を通して、生物学の知識、研究の手段や技術を学ぶ以上に、命の尊厳、生きているということの意義に深く思いをいたし、真面目に実験に取り組んで欲しい。

■講義計画
①生物の基本的体制と生物間の比較
②細胞の構造と機能の組織化学的・生化学的研究
③遺伝に関する実験
④生物反応の温度依存性など生理学的実験
⑤生体成分の分離、定量
⑥細胞の増殖制御の実験
⑦大学周辺の植物相調査
⑧野外での生物生息数の調査

地域環境概論

【担当】竺　文彦、遊磨　正秀
【開講】前期　月１

■講義概要
一定の地域における汚濁発生源が水域に流入し、あるいは、廃棄物となって、地域の環境レベルを決定していく。生物においては、これからの無機的環境の中において、動物、植物が、生態系を構成し、総合的な環境が形成されている。これらの地域における無機的環境、生物的環境について述べる。

■到達目標
地域における物理・化学的、生物的環境について基礎的な理解をする。

■講義方法
パワーポイント、プリント等を用いて講義する。

■成績評価の方法
平常点（20%）　出席状況等による
定期試験（80%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①地域環境とは何か
②流域における水質汚濁源
③湖への汚濁源流入プロセス
④琵琶湖の水質変化
⑤湖内での水質形成プロセス
⑥地域での有機物発生源
⑦廃棄物処理・循環プロセス
⑧流域における水環境の連続性（Ⅰ）
⑨流域における水環境の連続性（Ⅱ）
⑩流域における水環境の連続性（Ⅲ）
⑪流域における水資源開発（Ⅰ）
⑫流域における水資源開発（Ⅱ）
⑬流域における生物多様性（Ⅰ）
⑭流域における生物多様性（Ⅱ）

地学概論Ⅰ

【担当】桑原　希世子
【開講】前期　月３

■講義概要
人間や社会に歴史があるように、自然界にも長い歴史がある。地学の中でも特に自然界を歴史科学的観点から理解しようとする分野がある。自然史学・古生物学・地史学などの分野がこれに相当する。この講義では原始地球から現在までの自然史を、主に生物進化の跡をたどって概観する。生物進化と地球環境の関係、生物界における人類の位置を変えることを狙いとする。

■到達目標
自然の歴史を概観することで、現在の地球環境を考え、人類の産業活動と、今後の地球環境保全について、洞察力を高めることを目的とする。

■講義方法
ビデオ教材、パワーポイントを使用して進める。

■成績評価の方法
平常点（30%）　授業中に課すプリント問題により評価する。
定期試験（70%）　点数を評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
川上紳一・東條文治　『地球史がよくわかる本』　秀和システム　1900円
丸山茂徳・磯崎行雄　『生命と地球の歴史』　岩波書店　660円
木庭元晴編書　『宇宙　地球　地震と火山』　古今書院　2600円
この他、授業中に紹介する。

■講義計画
①講義概要を紹介し、地球についての基礎知識調査を行う
②固体地球，大気，海洋，生物，磁気の各圏のあらましと人間圏との関わり
③相対年代と数値年代、編年について
④太陽系形成のシナリオ
⑤生命の誕生
⑥光合成生物の活動が大気組成を変化させた
⑦７～６億年前、全地球が凍りついたとする仮説
⑧多様な動物の爆発的進化
⑨オゾン層の形成と植物・動物の陸上への進出
⑩パンゲア大陸の分裂と生物大量絶滅
⑪恐竜の繁栄、白亜紀の温室地球、石油の形成
⑫中生代／新生代の境界の絶滅のシナリオ
⑬新生代の地球環境、ほ乳類の繁栄
⑭人類はどのように進化してきたのか

地学概論Ⅱ

【担当】島田　充彦
【開講】後期　水2

■サブタイトル
地球内部の構造と運動

■講義概要
現在、人類は、宇宙の彼方まで見る事が可能となっているが、我々が生存している地球の足下については見る事が不可能である。しかしながら、地球の内部や、そこでの運動（例えば、地震の発生、火山活動、地磁気の存在など）はかなりの程度明らかにされている。どのようにして、見ることのできない地下とそこでの運動が分かってきたかを、過去から現在の考え方への発展と共に解説する。具体的には、地球の形や地表の重力の値から地球の内部の推定、地震学や地球内部を再現する室内実験によって明らかにされてきた地球内部の物理的構造と物質構造並びにそこでの運動について解説する。

■到達目標
学習・教育目標：D1（◎）
地球の内部に起因する地震や火山活動は、大きな被害を伴うことから、一般社会においてしばしば報道される。しかし、それらは必ずしも正しく理解されているとはいえない。本講義により、正しい知識が得られる。

■講義方法
講義概要の図や表のプリントを配付し、それに基づき板書およびOHPにより講義する。

■系統的履修
地学概論Ⅰ、地学実験、力学、物理学、数学、化学

■成績評価の方法
各授業中に出席確認を兼ねた小テストなどを数回行い、それにより平常点30点（30％）、小テスト70点（70％）、合計100点満点で評価する。

■テキスト
プリント使用

■参考文献
日本材料学会編 『岩の力学－基礎から応用まで－　1 ～ 6章』丸善　1993　20600円
山中高光編 『宇宙・地球：その構造と進化』 学術図書　2060円
杉村新他編 『図説地球科学』 岩波書店　1988　3600円

■履修上の注意・担当者からの一言
授業中、講義に集中している者への迷惑（私語、携帯電話、飲食など）を慎むこと。
緊急に必要な場合は退席すること。講義に対する疑問質問は大いに歓迎する。

■講義計画
①序（宇宙における地球、地質時代、地球内部のダイナミックス、プレートテクトニクス）
②地球の形
③重力
④重力の測定と重力異常
⑤地震計と地震波
⑥震度とマグニチュード
⑦地震と断層
⑧地震波の伝播と地球内部
⑨地球内部の物理的性質
⑩地球内部の物質構造
⑪高温高圧実験（地球内部の実験室での再現Ⅰ）
⑫地球の磁気
⑬岩石の変形破壊実験（地球内部の実験室での再現Ⅱ）
⑭リソスフェアの変形
⑮ホットスポット・マントルプルーム・プルームテクトニクス

地学実験

【担当】島田　充彦、桑原　希世子
【開講】前期　水3・水4・水5

■講義概要
地学に関する基礎的な実験のうち、授業計画に示す項目を取り上げて実施する。実験の前にその内容（意義、理論と方法）を解説し、ついで個別またはグループで実験を行う。

■到達目標
学習・教育目標：D3，F1（○）
自らの作業を通して、地球の物理学的・化学的・古生物学的な挙動の一端を体得する。

■講義方法
各実験項目ごとにプリントを配付し、これを参考にして説明する。

■系統的履修
地学概論Ⅰ、Ⅱ

■成績評価の方法
各実験項目ごとに実験経過・結果などをレポートとして提出。平常点12点（12％）、レポート88点（88％）、合計100点満点で評価する。

■テキスト
プリント使用

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
講義や実験に対する疑問質問は大いに歓迎する。授業中の私語、携帯電話の使用、飲食は禁止（緊急に必要な場合は退席すること）。時間内に終了できるように、担当者の説明をよく聞き、実験には集中すること。

■講義計画
①ガイダンス
②ステレオ投影による結晶面表示
③岩石・造岩鉱物・化石の肉眼観察
④偏光顕微鏡による岩石薄片の観察
⑤Katerの可逆振子による重力の測定
⑥屈折波による地下構造の決定
⑦真北の決定
⑧地磁気水平分力の測定
⑨地質図の理解
⑩平板測量
⑪浸液法による鉱物の屈折率の測定
⑫学外実習（地質巡検、関連施設の見学等）1
⑬学外実習（地質巡検、関連施設の見学等）2
⑭総合討論

地球環境概論

【担当】宮浦　富保、市川　陽一
【開講】後期　月１

■講義概要
近年、地球がどのように変化したかを理解するためには、まず地球の生物圏としての機能を理解し、その機能に人間が影響をもたらす以前はどのようになっていたかを理解することが必要である。環境の時代を象徴するように、地球環境問題が声高に取り上げられているが、それらが人間の生活にどのように関わっているのか、その因果関係を明確にし、なぜ問題視するかを論述する。 人間が引き起こしたさまざまな地球環境問題に取り組み、解決策をさぐるにあたって、まず地球が集積されたシステムとしてどのように機能しているかを基本的に理解することが重要である。

■到達目標
学習・教育目標：B1（◎），A（○）
地球における複雑な物理的・生物的環境を把握し、人間活動が地球の機能に対しどのように影響をもたらしているかを理解する。人間による地球環境へのインパクトを評価し、対処するのに必要な基礎的知見を得ることが可能となる。

■講義方法
板書、OHP、あるいはパワーポイントを用いてわかり易く講義を進める。

■成績評価の方法
レポート（30%）・定期試験（70%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①講義の進め方
　地球環境とは？
②地球の歴史
③地球の気候変動
④エネルギーと地球環境
⑤地球の生態系　－起源と進化
⑥地球の生態系　－生物多様性
⑦人類の来歴と環境問題
⑧環境汚染 －陸上
⑨環境汚染 －大気
⑩環境汚染 －海洋
⑪地球温暖化
⑫生態系に与える人間の影響
⑬環境問題の対策と見通し
⑭まとめ

知的財産概論

【担当】藤河　恒生
【開講】前期　水３

■講義概要
本講座では産業財産権である特許権、実用新案権、意匠権、商標権について概観し、特に、技術者にとって大事な特許権について詳細に学習する。特許に関する手続きはどのようにするか、特許を受けるための要件とは何か、書類はどのように読み、書くか、などを実例を見ながら勉強する。産業財産権情報を蓄積している特許庁の電子図書館（IPDL）を活用するため、その基本操作から学ぶこととし、IPDLの操作に関する時間もかなり取っている。講義を通じて知的財産を身近に感じ、また、知的財産の重要さを感じ取ることも目的としている。

■到達目標
技術者として、自分又は企業の研究開発の成果を知的財産権として保護するためにはどうすれば良いか、他人の権利を侵害しないためにはどうすれば良いか、について基礎的な知識を習得する。

■講義方法
テキストを使って講義をするとともに、インターネット（IPDL）を用いて実例を参照、調査したり、電子出願ソフトを用いた出願書類作成の練習をしたりする。
　講義は、各自がインターネットを使用できる教室で行う予定である。

■成績評価の方法
平常点（50%） 出席状況を評価する。
レポート（50%） 総合的に判断する。
レポートの課題は、最終講義の２回前の講義時に渡し、最終講義時にレポート提出を受ける予定である。

■テキスト
特許庁 『産業財産権テキスト』
全て大学が無料で提供する。

■参考文献
特になし

■講義計画
①知的財産権（産業財産権）とは？特許制度とは？
②産業財産権情報にアクセス　IPDL基本操作Ⅰ
③特許明細書読解Ⅰ
④特許明細書読解Ⅱ
⑤特許を受けるための手続き／出願から登録まで
⑥発明とは？特許を受けることができる者とは？
⑦特許になる発明とは？
⑧特許明細書を書いてみようⅠ
⑨特許明細書を書いてみようⅡ
⑩特許以外の産業財産権／商標
⑪特許以外の産業財産権／実用新案・意匠
⑫意匠・商標情報にアクセス　IPDL基本操作Ⅱ
⑬外国での特許取得　外国の産業財産権情報にアクセス
⑭企業における知的財産権の位置づけ

人間工学

【担当】橋本　正治
【開講】後期　水１

■サブタイトル
製品設計への人間工学的アプローチ
■講義概要
人間工学は、人間をシステムの一要素として扱い、人間の特性を考慮し、人間にとって適切なシステムの設計・改良をめざす工学である。ここでは、生理学・心理学・運動学の立場から人間の諸特性を明確にし、特に生産の場における製品設計・作業設計等に用いられる人間工学的方法について解説する。これによって人間工学的な観点から設計における問題解決できる能力を養う。
■到達目標
人間の生体機能、運動機能に関する基本的な特性を理解でき、設計に応用できる
機械・電気システムにおいて考慮しなければならない入出力インタフェースの特性を理解し設計に応用できる
■講義方法
ノート講義を中心に進めますが、適時OHP等で最新事例も紹介します。図を使った説明が多くなりますので可能な限りプリントも用意します。ノートへ記入が負担となるかもしれませんが、整理されたノートを作り上げることで、学習が進むと考えます。
■成績評価の方法
平常点（30%）　質問票の提出をもって平常点とします
レポート（10%）
定期試験（60%）　60%の正答率をもって合格とします
■テキスト
特になし
■参考文献
長町三生著　『現代の人間工学』　朝倉書店
■履修上の注意・担当者からの一言
解らないことや興味のあることは授業の途中でも質問や意見を発言して下さい。それはきっと他の人も同じように考えているに違いないからです。ただ聞いているだけの授業ではなく、授業に積極的に参加して、より興味ある内容となるよういっしょに学んでいきましょう。
■講義計画
①人間工学の定義（歴史的背景､人間工学をとりまく研究分野）
②人間の生理的特性と心理的特性（感覚器全般）
③人間の生理的特性と心理的特性（視覚・色覚）
④人間の生理的特性と心理的特性（聴覚）
⑤生理的機能の測定法（筋電、心拍、呼吸、発汗）
⑥心理的機能の測定法（官能検査、アンケート調査）
⑦動作分析・動作解析（動作分析）
⑧動作分析・動作解析（動作解析）
⑨動作分析・動作解析（運動計測）
⑩マンマシンシステム（フィードバック、インターフェイスの要素、人間の制御機能）
⑪マンマシンインターフェイス（歴史的背景、コミュニケーションと情報の流れ）
⑫インターフェイスの最新事例（人工現実感）

物理実験（2007年度以降入学生）
理工学基礎実験A（2006年度以前入学生）

【担当】西原　弘訓
【開講】前期　月３・月４・月５

■サブタイトル
理工学基礎実験
■講義概要
理工学の全ての分野の基礎となる力学、光学、熱学、電磁気学、原子物理学の分野から選ばれた基本的で重要な11種の実験について実習する。物質化学は本質的に実験分野であり、将来卒業研究や大学院において、新しい方法により新しい物質を合成したり，新しい実験を行って新しい現象を見つけたり、新しい実験装置や新しい機械を製作したりすることになるが、そのためのトレーニングである。ノギス、マイクロメータ、サーキットテスター、デジタルボルトメータ、オッシロスコープ等の簡単な道具や測定器はいつでも使えるように練習すること、得られた実験データの誤差が評価できて、有効数字がわかること、重力加速度、波の波長、速度、振動数、温度、熱起電力、活性化エネルギー、電気抵抗、電圧、電流、電力、ローレンツ力、ヤング率、光の波長、屈折率、波の干渉、回析等の概念について実験によって深く理解することを目標とする。プレゼンテーションの練習のため最後に発表会も行なう。
■この科目を履修することにより身につくポイント
物理的センスと基礎的実験技術
■到達目標
種々の実験の原理を理解する。ノギスなど基礎的器具を使えるようになる。実験データの誤差を評価できる。積極的に質問し，自ら進んで勉強できるようになる。
■講義方法
実験指導書にそって、二人一組で、毎回1つのテーマの実験を行う。レポートを各自まとめて提出する。
■系統的履修
物理学Ⅰ，物理学Ⅱ，物理学Ⅲ，物理実験（理工学基礎実験A）を続けて履修すること。
■成績評価の方法
平常点（80%）・定期試験（20%）
毎回のレポートを主体に（約８割）、まとめの試験を加味して（約２割）評価する。
■テキスト
龍谷大学理工学部編　『物理実験』
初回に配布します。関数電卓とA4ノート１冊を各自用意してきてください。
■参考文献
小出昭一郎著　『物理学（三訂版）』　裳華房　2100円
原康夫著　『物理学基礎』　学術図書出版社　2400円
■履修上の注意・担当者からの一言
初回のガイダンスとノギスの使い方の実験を無断欠席すると今期履修しないものとみなすので注意してください。まず実験の原理、方法を自習して、考えてもわからなかったことをTAに質問し、わからなかった理由を考えることにより力をつけてください。受講マナーにも気をつけてください。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
実験１テーマにつき１人のTAが配置された少人数教育であるので，３コマ連続の時間を有効に利用して物理の内容についても，どんどん教員およびTAに質問してください。
■講義計画
①ノギスの使い方
②振り子によるgの測定
③のびによるヤング率の測定
④弦の振動の実験
⑤分光器の実験
⑥レーザー光の回析実験
⑦テスターの使い方とパルス回路
⑧アナログ回路
⑨電気抵抗の温度変化
⑩熱起電力
⑪電子の比電荷の測定
⑫発表会
⑬追加実験（公欠の人）
⑭まとめの試験

学科固有科目

（物質化学科）

カナ	科目名	担当者	開講曜講時		ページ
エ	エネルギー循環工学	和田　隆博	前期	月３	223
カ	化学英語演習	宮武　智弘/石井　大輔/ 糟野　潤/山添　誠司	前期	火１	223
	化学工学概論	泉　生一郎	前期	水２	224
	化学数学／数学Ⅲ	松尾　嘉浩	後期	火４	224
	化学リスク学	松下　隆之	前期	火２	225
	環境化学	池田　昌彦	前期	月１	225
	環境生態学	西川　博章/鈴木　秀男	後期	木１	226
キ	機器分析化学／無機機器分析化学	藤原　学	前期	木４	226
	機器分析化学実験	松下　隆之/糟野　潤	後期	火３～５	227
	機能材料工学	榊間　博	後期	金２	227
ク	グリーンプロセス工学	富崎　欣也	後期	木２	228
ケ	結晶材料工学	松尾　嘉浩	前期	金２	228
コ	工業化学	松下　隆之/岩澤　哲郎	前期	木２	229
	工業法規	池田　昌彦	後期	月１	229
	構造解析学	白神　達也/野村　勝裕	後期	火１	230
	高分子化学	林　久夫	前期	金１	230
	高分子材料化学／高分子物性	中沖　隆彦	後期	金３	231
	高分子プロセス化学／高分子合成化学	中沖　隆彦	後期	金１	231
ス	数学Ⅰ・演習	大竹　真一	前期	水２	232
	数学Ⅱ・演習／数学Ⅰ	四ツ谷　晶二	後期	月２	232
	数学Ⅲ・演習／数学Ⅱ	白神　達也	前期	火２	233
セ	生化学	宮武　智弘	前期	水３	233
	セミナー	大柳　満之/内田　欣吾/ 白神　達也/中沖　隆彦/ 林　久夫/藤原　学/ 松下　隆之/宮武　智弘/ 和田　隆博/岩澤　哲郎/ 富崎　欣也	前期	火２or火３	234
	セラミック材料工学	塩見　治久	前期	月４	234
ト	特別研究	大柳　満之/内田　欣吾/ 白神　達也/中沖　隆彦/ 林　久夫/藤原　学/ 松下　隆之/宮武　智弘/ 和田　隆博/岩澤　哲郎/ 富崎　欣也	通年	集中	235
ナ	ナノ材料工学	中山　明	後期	金４	235
ニ	入門セミナー	中沖　隆彦/富崎　欣也/ 松下　隆之/渡辺　英児	前期	金３～４	236
フ	物質化学研究デザイン演習	内田　欣吾	後期	月３～４	236
フ	物質化学研究デザイン演習	大柳　満之	後期	月３～４	237

カナ	科目名	担当者	開講曜講時		ページ
フ	物質化学研究デザイン演習	白神　達也	後期	月３～４	237
	物質化学研究デザイン演習	中沖　隆彦	後期	月３～４	238
	物質化学研究デザイン演習	藤原　学	後期	月３～４	238
	物質化学研究デザイン演習	宮武　智弘	後期	月３～４	239
	物質化学研究デザイン演習	和田　隆博	後期	月３～４	239
	物質化学研究デザイン演習	林　久夫	後期	木３～４	240
	物質化学研究デザイン演習	岩澤　哲郎	後期	月３～４	240
	物質化学研究デザイン演習	富崎　欣也	後期	月３～４	241
	物質化学総論	大柳　満之/内田　欣吾/ 白神　達也/中沖　隆彦/ 林　久夫/藤原　学/ 松下　隆之/宮武　智弘/ 和田　隆博/岩澤　哲郎/ 富崎　欣也	前期	火１	241
	物理化学実験	林　久夫/石井　大輔	後期	月３～５	242
	物理化学Ⅰ・演習	林　久夫	後期	木２	243
	物理化学Ⅱ・演習／物理化学Ⅱ	林　久夫	前期	木２	243
	物理化学Ⅲ／物理化学Ⅱ	富崎　欣也	後期	金３	244
	物理化学Ⅳ／物理化学Ⅲ	白神　達也	後期	水１	244
	物理学Ⅰ・演習	澤田　肇	後期	水３	245
	物理学Ⅱ・演習／物理学Ⅰ	白神　達也	前期	月２	245
	物理学Ⅲ・演習／物理学Ⅱ	和田　隆博	後期	水２	246
	物理学Ⅳ・演習／物理学Ⅲ	榊間　博	前期	木３	246
	プレゼンテーション演習	盛岡　真美子	前期	水1or水2	247
	分子設計化学	岩澤　哲郎	後期	水１	247
	分析化学	藤原　学	前期	金２	248
ム	無機化学Ⅰ・演習／無機化学Ⅰ	和田　隆博	前期	木１	248
	無機化学Ⅱ・演習／無機化学Ⅱ	松下　隆之	後期	木４	249
	無機化学Ⅲ／電子化学	松下　隆之	前期	木４	249
	無機化学Ⅳ／固体化学	塩見　治久	後期	火２	250
	無機合成化学実験	大柳　満之/山添　誠司	前期	金３～５	250
	無機・物理化学演習	白神　達也/山添　誠司	前期	水１	251
ユ	有機化学Ⅰ・演習／有機化学Ⅰ	中沖　隆彦	前期	火４	251
	有機化学Ⅱ・演習／有機化学Ⅱ	岩澤　哲郎	後期	火４	252
	有機化学Ⅲ	内田　欣吾	前期	木３	252
	有機化学Ⅳ	宮武　智弘	後期	水３	253
	有機合成化学実験	内田　欣吾/石井　大輔	前期	火３～５	253
	有機構造解析学／有機機器分析化学	内田　欣吾	前期	月２	254
	有機材料化学	内田　欣吾	後期	金１	254
リ	量子化学	藤原　学	前期	水２	255

エネルギー循環工学

【担当】和田　隆博
【開講】前期　月３

■サブタイトル
環境問題と新しい発電技術
■講義概要
エネルギーの有効利用は、現在社会にとってきわめて重要な課題である。石油や天然ガスは産出国の政治情勢によって安定に供給される保証が無く、しかもこれらの化石燃料を燃焼させて熱エネルギーを生成する際に発生する炭酸ガス（CO_2）が地球規模での環境変化を起こしつつある。また、21世紀のエネルギー源として期待されてきた原子力発電は、安全の確保に非常に大きな努力が必要である。本講義では、エネルギーはその総量は変化せず、様々な形に変化しながら循環するものであるとの立場から、火力発電や原子力発電のような大規模なエネルギー変換技術から、現在活発に研究開発が行われている太陽光発電や熱電発電、燃料電池等の分散型発電技術まで幅広く講義する。
■到達目標
学習・教育目標：B2（◎），C2，E1（○）
現在地球上で問題になっているエネルギー問題や環境問題等を理解するための基礎。各種エネルギーの共通点と特殊性が理解できる。「原子力発電とその問題点」や「新しい発電方法」について常識的な判断が出来、理科系でない一般の人に説明できる。
■講義方法
講義とともに演習を行い、理解を深める。
■系統的履修
物理学Ⅰ、物理学Ⅱ、物理学Ⅲ、物理化学Ⅰ
■成績評価の方法
レポート（20%）　授業中に適時課題を出す。
定期試験（80%）　期末試験
■テキスト
特になし
■参考文献
舘野淳 『原子力のことがわかる本　原子爆弾から原子力発電まで』 チャートBOOKS・数研出版　1100円
廣瀬千秋訳 『実感する化学　上・下』 エヌ・ティー・エス　3150円
キース・Ｊ．レイドラー 著 寺嶋英志 訳 『エネルギーの発見』 青土社　2310円
■履修上の注意・担当者からの一言
エネルギーについて物理学Ⅰ、物理学Ⅱ、物理学Ⅲ、物理化学Ⅰ等で学んだ事柄を横断的に学ぶことで、これらの科目の異なった視点からの復習としても役立つ。
■講義計画
①地球温暖化とエネルギー問題 総論
②地球温暖化
③エネルギー（1）
④エネルギー（2）
⑤各種エネルギー源と各種発電技術
⑥原子力発電とその問題点（1）
⑦原子力発電とその問題点（2）
⑧熱電発電（1）
⑨熱電発電（2）
⑩太陽光発電（1）
⑪太陽光発電（2）
⑫太陽光発電（3）
⑬水素エネルギーと燃料電池（1）
⑭水素エネルギーと燃料電池（2）

学科固有

化学英語演習

【担当】宮武　智弘、石井　大輔、糟野　潤、山添　誠司
【開講】前期　火１

■講義概要
化学技術に関する文献などはその多くが英語で書かれており、英語で情報を収集・理解し、発信することが益々重要となっている。4年次の特別研究においても英語で書かれた研究論文を読み、それを参考にして研究を進めることが必須である。後期に開講される「化学技術英語」ではより専門的な内容の英語にふれることになるが、本講義では科学に関する基礎的な事柄が書かれた洋書をテキストとし、受講生が今までに習得してきた内容が英語でどのように表現されるのかについて学ぶことになる。その中で、元素名をはじめとする基本的な専門用語とその発音を習得するとともに、英語を使って化学を理解する能力を身につけることをねらいとしている。
■到達目標
学習・教育目標：Ｆ２（◎）、Ｄ１（○）
化学に関する専門用語（英語）と、よく用いられる英文表現を習得する。
■講義方法
20数人のセミナー形式でテキストを講読しながら進める。
■系統的履修
科学技術英語・英語セミナー・特別研究
■成績評価の方法
小テスト（100%）　毎時間実施する小テストによって評価する
■テキスト
Fred C. Hess 『Chemistry Made Simple』 Doubleday
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
英語に親しみが薄い人も多いと思うが、積極的に英語に触れる気持ちを持って受講してもらいたい。
■講義計画
①オリエンテーション
②Atoms
③Compounds
④Gases
⑤Liquids and solids
⑥Solutions
⑦Oxidation-reduction
⑧Electrochemistry
⑨The atmosphere
⑩Organic chemistry
⑪The chemistry of energy
⑫The chemistry of the environment
⑬Biochemistry
⑭予備日

化学工学概論

【担当】泉　生一郎
【開講】前期　水2

■講義概要
有機物であろうが無機物であろうが、あらゆる化学製品・材料を社会で広く利用できるようにするためには工業的に生産をする必要がある。金属、セラミックス、プラスチック、医薬品、繊維はもちろんのこと、自動車産業、情報機器産業等の全ての工業生産に必要な素材は化学が関与した物である。これら化学製品を工業的に大量に生産するためには実験室的にビーカーの中での生産というわけにはいかない。そこでは、どのような設備でどのような運転の仕方でいかに効率よく大量生産しなければならないかという観点が必要となってくる。
また、環境問題の観点からも省エネルギーで、排ガス、廃液の少ない環境に与える負荷の少ない方法で生産する必要がある。そのような化学製品の実際の生産に関した工学、技術が「化学工学」である。本講義では、この化学工学の基礎的な事項である物質分離操作、熱移動操作について概説する。

■この科目を履修することにより身につくポイント
化学技術者として身につけておかなければならない化学工学的な見方、考え方ができるようになる。また、化学製品の生産に関わることのみならず、排水処理プロセス等の環境問題解決にも化学工学は活用されており、化学工学的知識を身につけることによりこれらの分野においても知識を活用することができる。

■到達目標
学習・教育目標：D1（◎）
単純な単位操作系における物質収支・エネルギー収支について、フローシートを作製し自ら式をたて計算することができるようになること。

■講義方法
教科書に沿って、適時プリント資料を配付し講義する。
講義と共に、随時演習を行う。

■成績評価の方法
レポート（20%）
定期試験（40%）
その他（40%）　中間テストを実施する

■テキスト
化学工学編修委員会 『化学工学入門』 実教出版　2730円

■参考文献
小島和夫他 『入門　化学工学』 培風館　2910円
竹内雍他 『解説　化学工学』 培風館
化学工学会 『技術者のための化学工学の基礎と実践』 アグネ承風社
竹内雍 『解説　化学工学演習』 培風館

■履修上の注意・担当者からの一言
化学工学では自ら手を動かして計算をすることが重要である。講義中になるべく多くの演習を実施するので、独力で解答することにより身につけて下さい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
随時質問は受け付けます。

■講義計画
①化学工学とは･化学工学の基礎（単位系、物質の状態と物性）
②化学工学の基礎（物質収支、エネルギー収支）
③化学工学の基礎（物質収支、エネルギー収支）
④物質分離操作（蒸留）
⑤物質分離操作（蒸留）
⑥物質分離操作（蒸留）
⑦中間テスト
⑧物質分離操作（ガス吸収）
⑨物質分離操作（ガス吸収）
⑩物質分離操作（抽出）
⑪物質分離操作（抽出）
⑫熱移動操作（伝導・対流伝熱）
⑬熱移動操作（伝導・対流伝熱）

化学数学（2007年度以降入学生）
数学Ⅲ（2006年度以前入学生）

【担当】松尾　嘉浩
【開講】後期　火4

■サブタイトル
化学に役立つ数学

■講義概要
テキストに提示されている偏微分、1階常微分方程式、2階常微分方程式、ベクトル、テンソルおよびフーリエ級数に関わる定義・基本概念をまずしっかりと把握する。次に、演習等により、それらの数式を使いこなせる能力を養う。さらに、それらの数式が物理化学上の諸現象を定量的に記述し、解明する上にいかに役立っているかを学ぶ。

■到達目標
学習・教育目標：D1（◎）
(1) 物質化学、物理化学における諸現象を定量的に、より厳密に理解する力を養う。
(2) 各自が求めた定量的実験データについて、何とか数式化を試みて、論理的な説明を与える能力を養う。

■講義方法
(1) テキストおよび配布するプリント教材を用いて、授業計画に沿って講義する。
(2) 適宜授業中に、レポート課題を課す。

■系統的履修
数学序論、数学Ⅰ、Ⅱ

■成績評価の方法
学期末試験（80点、持込み不可）と適宜授業中に指示した課題のレポート点（20点）との総合点（100点）にて成績評価する。

■テキスト
大岩正芳著 『化学者のための数学十講』 ㈱化学同人　3399円

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
数学は物質化学、物理化学をより厳密に理解するための強力な手段の一つであるとの認識を持ってほしい。即ち、個々の数式が物理化学上の具体的な現象を論理的に説明する上に、どの様に役立っているかを体得してほしい。

■講義計画
①偏微分
②熱力学の関係式
③1階常微分方程式
④化学反応速度の解析
⑤2階線形常微分方程式とその応用
⑥微分方程式の級数による解法と量子力学への応用
⑦ベクトルと結晶格子、分子構造への応用
⑧ベクトル演算子と流体、拡散への応用
⑨テンソルと物体の内部応力とひずみへの応用
⑩テンソルの回転運動への応用
⑪フーリエ級数
⑫フーリエ級数の調和解析、等への応用
⑬まとめと演習
⑭演習

化学リスク学

【担当】松下　隆之
【開講】前期　火2

■講義概要
化学物質は多岐にわたっており、それぞれ特有の性質を持っている。本講義では、これら化学物質のなかでとくに危険性の高い物質の取扱方と保管の方法を述べる。現在、危険な化学物質に関しては、使用者が使用量と廃棄量を把握し、届け出ることが義務付けられている（PRTR法)。それゆえ、化学物質を取り扱う際には、科学者（化学者）倫理についての心得を身につけることが必要である。さらに、化学実験室での安全性に留意することは勿論のこと、化学物質により環境破壊をもたらさない心得を持つことも要求される。このためには、危険な物質の処理法も習得する必要がある。下記の項目について順次講義する。

■到達目標
学習・教育目標：B2（◎), C2, E1（○）
危険な化学物質に関する基本的知識を習得することが第一の到達目標である。さらに、それらの安全な保管と使用法ならびに環境汚染を招かない処理法などを知り、可能な限り危険物取扱者、公害防止管理者等の資格を取得することが最終の到達目標である。

■講義方法
参考書の内容に準じながら、板書およびプリントを配布して講義する。最近のトピックスを適宜取り入れ、随時レポートを課し、演習を行う。

■系統的履修
物質化学科固有科目の学科基本科目とグリーンケミストリー関連科目。

■成績評価の方法
小テスト（15%）・レポート（15%）・定期試験（70%）

■テキスト
特になし

■参考文献
日本化学会編 『化学安全ガイド』 丸善株式会社　2600円
日本化学会編 『第4版化学実験の安全指針』 丸善株式会社　2600円
全国危険物安全協会 『危険物取扱必携－実務編』

■履修上の注意・担当者からの一言
化学物質や化学反応および装置などの安全性に配慮することの必要性を認識し、科学（化学）者倫理の素養を身につける。また、環境分析化学を履修し、関連する資格を取得できるよう努力してもらいたい。わからないこと、疑問点については積極的に質問することを期待する。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
月曜日：５限目、６限目

■講義計画
①科学者（化学者）倫理
②化学と安全－リスクとはー
　リスクコミュニケーション
③火災と爆発
④化学物質の危険性Ⅰ
⑤化学物質の危険性Ⅱ
⑥化学反応の危険性Ⅰ
⑦化学反応の危険性Ⅱ
⑧各種装置の危険性（高温、高圧、X線など）
⑨PRTR（Pollutant Release and Transfer Register）法について
⑩化学物質の環境汚染と処理Ⅰ
⑪化学物質の環境汚染と処理Ⅱ
⑫危険物取扱者、公害防止管理者等の資格についてⅠ
⑬危険物取扱者、公害防止管理者等の資格についてⅡ
⑭化学実験の安全性に対する対処法

環境化学

【担当】池田　昌彦
【開講】前期　月1

■講義概要
■科目概要・科目内容
最近我々の生活環境の中で、温暖化現象・産業廃棄物・食品問題が取り上げれない日がないといっても過言ではない。
これらの問題は産業の発展に伴い深刻な問題となったことは、生活の利便性と裏腹の関係でもある。この問題は過去から引き継がれたものが多くある中で、将来の生活環境を維持するには、緊急にその対策をなさねばならないことも多数ある。
理工学分野を学ぶものは、広く環境問題に対する認識は不可欠である。とりわけ化学物質がこれらの問題を引き起こしている場合が多い。従って広い意味での地球環境における化学物質の挙動や分布の計測、管理について解説する。
■この科目を履修することで身に付くポイント
環境に調和する化学技術を考えるために必要な、環境化学物質の種類・性質・計測方法に関する知識が身に付く。

■到達目標
学習・教育目標：B1（◎）C2 , D2（○）
環境に影響を与える化学物質の種類･性質･計測方法を理解する。

■講義方法
出版された教科書を使用するが、適宜プリントを配布して演習を行い理解を深める

■系統的履修
物質化学科グリーンケミストリー関連科目、分析化学

■成績評価の方法
定期試験（100%）　広範囲にわたり多くの課題を出す。
定期試験結果のみを評価する

■テキスト
小島次雄・川平浩二・藤倉良 『これからの環境科学』 化学同人　2300円

■参考文献
北野大・飯田芳男・宮田秀明・長山淳哉 『２１世紀のライフスタイル　ゴミ　リサイクル　ダイオキシン』 研成社　1300円

■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義後質問を受け次回講義で補足説明や資料を配布する。

■講義計画
①地球環境の現状と将来
②環境計測の基礎１
　自動計測とバッチ計測
③環境計測の基礎2
　試料の分析測定・標準物質
④環境計測の基礎3
　分析方法の選択
⑤環境計測の基礎4
　環境計測のピックス
⑥無機汚染物質
⑦有機汚染物質１
　ダイオキシン・PCB
⑧有機汚染物質２
　内分泌撹乱化学物質
⑨酸性雨の現状と対策
⑩オゾン層破壊とその対策
⑪地球温暖化現象
⑫産業廃棄物とリサイクル
⑬化学物質規制
⑭まとめ
⑮閉講（定期試験）

環境生態学

【担当】西川　博章、鈴木　秀男
【開講】後期　木1

■講義概要
日本の環境問題は、公害問題として始まり、工場廃水の処理や大気汚染の制御が課題となったが、現在では、地球環境の問題に拡大している。今後の地球環境問題に対処していくためには、自然環境、特に生物の状況と、都市における排水や廃棄物の両面から現状を把握し、総合的に理解していくことが重要である。講義では、環境問題を引き起こしている自然的要因や社会的要因あるいはその影響について基本的な講述を行う。さらに、それらに対処するための防御技術や、地球環境問題についても論じる。

■到達目標
学習・教育目標：E1（○）
人間活動により排出される排水・廃棄物の処理や課題、植物・植生を中心とした生態学保全の基礎的な考え方などを総合的に理解できる。

■講義方法
文献・資料

■成績評価の方法
レポート（100%）レポート結果を中心に評価を行う。

■テキスト
文献・資料から作成

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
環境問題は身近な問題であり、家庭から排出されるゴミや家庭排水、野山や湖に関心を持ってもらいたい。自然を保全・再生する正しい考え方を理解し、地球環境問題を考える観点から注意して講義を聴いてほしい。さらに、環境問題はいかなる職業にあっても無関係ではありえない問題であるとともに、その重要度は今後ますます増加することを認識して講義にいどんでほしい。

■講義計画
①植生概論Ⅰ
②植生概論Ⅱ
③植生調査法Ⅰ（実習）
④植生調査法Ⅱ（実習）
⑤日本の植物区系
⑥生物多様性と絶滅危惧植物
⑦自然環境修復・ミチゲーションの実験
⑧今日の環境問題
⑨環境意識とISO140001
⑩水循環と水質保全
⑪上水道概論Ⅰ
⑫上水道概論Ⅱ
⑬下水道概論Ⅰ
⑭下水道概論Ⅱ

学科固有

機器分析化学（2007年度以降入学生）
無機機器分析化学（2006年度以前入学生）

【担当】藤原　学
【開講】前期　木4

■講義概要
最近の機器分析装置は、高機能化し極微量サンプルにおいても簡便に短時間で数値を得ることができる。また装置の複合化および自動化が進み、原理を理解していなくてもデータを取得できることが多くなっている。しかし、それらの結果を鵜呑みにして新規材料の評価を行なうと誤った結論を導くことがあり、非常に危険である。これらの危険を回避するためには、機器分析法の原理を理解し、それに即した利用とデータ解析に努めなければならない。本講義では、無機物質や有機物質の一般的な分析に用いられている主要な機器分析法について詳述する。

■到達目標
学習・教育目標：E1（◎）
電磁波と物質の相互作用を理解し、ランベルト - ベールの法則を用いて定量値を求めることができる。それぞれの機器分析法の原理を理解できる。それぞれのスペクトルから、物質の化学状態に関する情報を抽出することができる。必要な情報を得るため、最も適切な機器分析法を選択することができる。

■講義方法
プリントおよび黒板を使い、講義を行なう。適時小テストや宿題を課して理解度を深める。

■系統的履修
物理化学Ⅳおよび分析化学、機器分析化学実験

■成績評価の方法
レポート（30%）　各課題に対する達成度および理解度
定期試験（70%）

■テキスト
庄野利之、脇田久伸　『入門機器分析化学』　三共出版　3000円

■参考文献
参考文献・資料等は講義時に指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言
物質化学科の固有科目を履修していることを前提として講義を進める。専門用語など理解できない点は、講義中に質問するか自習することによって解決していってほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義中に伝える。

■講義計画
①電磁波と物質との相互作用
②光吸収（ランベルト - ベールの法則）
③紫外・可視吸収スペクトル法（1）
④紫外・可視吸収スペクトル法（2）
⑤X線分析法（1）
⑥X線分析法（2）
⑦X線分析法（3）
⑧磁気共鳴分析（1）
⑨磁気共鳴分析（2）
⑩磁気共鳴分析（3）
⑪その他の主な分析法（1）
⑫その他の主な分析法（2）
⑬その他の主な分析法（3）
⑭まとめ

機器分析化学実験

【担当】松下　隆之、糟野　潤
【開講】後期　火３・火４・火５

■講義概要
物質の分離・精製ならびにそれらの同定・定量や物質固有の性質の評価は、機器を用いた方法で行われることが多くなってきている。機器分析化学実験では、基本的な機器分析の手法についてそれらの測定原理と応用について理解できるように講義し、実測定を行う。たとえば、水溶液中の水素イオン濃度（pH）は水素イオン電極とpHメータを用いてどのようにして測定されるのかなど、装置の構成、測定原理ならびに装置の操作法さらに得られた結果の解析法について修得させる。

■到達目標
学習・教育目標：D3（◎），F1（○）
物質の分離・精製ならびにそれらの同定・定量法を習得することは、新規物質を創製する上で、如何に重要であるかを経験として身につけ、実験報告書の作成方法も習得することが最低の到達目標である。さらに、学部卒業研究への知識の集約も到達目標とする。

■講義方法
グループ実験で下記の項目について実施する。実験指導書に基づき説明をしたのち実験を行う。得られた結果をまとめレポートする。機器の測定原理と操作法を予習しておくこと。原則として、遅刻・欠席は認めない。

■系統的履修
物質化学固有科目群

■成績評価の方法
レポート（70%）・定期試験（30%）

■テキスト
本学理工学部物質化学科編　『機器分析化学実験指導書』

■参考文献
庄野利之・脇田久伸編著　『入門機器分析化学』　三共出版　3000円
庄野利之・脇田久伸編著　『入門機器分析化学演習』　三共出版　2300円

■履修上の注意・担当者からの一言
グループ実験であるが、各個人が積極的に取り組み、各種機器分析手法の測定原理を修得するとともに、得られた結果の数値のもつ意味を十分理解し、解析できるように努力してほしい。わからないこと、疑問点については積極的に質問することを期待する。とくに演習においては、課題を短時間に解決する能力を身につける。

■講義計画
①説明会
②電気分析法（pH曲線の解析、電導度滴定）
③電気化学測定法（電極反応の解析）
④吸光光度分析法（色素のpKaの測定、錯体組成の決定）
⑤赤外線分光光度法（有機化合物の同定）
⑥ガスクロマトグラフ分析法（炭化水素類の分離分析）
⑦高速液体クロマトグラフ分析法（有機化合物の分離定量）
⑧磁化率の測定（遷移金属錯体の磁気モーメントの測定と解析）
⑨核磁気共鳴法（有機化合物の同定）
　電子スピン共鳴法（不対電子の検出）
⑩パソコンによる化学反応の解析（中和滴定曲線など）
⑪課題演習
⑫課題演習の質問
⑬試験
⑭予備日

機能材料工学

【担当】榊間　博
【開講】後期　金２

■サブタイトル
電子材料の基礎（金属、半導体、磁性体、超伝導体など）

■講義概要
ＬＳＩやＨＤＤ等の今日の先端電子デバイスを支える電子材料の基礎と応用について講義を行う。特に固体の電気伝導と金属の自由電子モデル、初歩的なバンド理論、半導体の基礎と半導体デバイス、磁性体の基礎とストレージデバイス、超伝導体の基礎について、材料科学の観点から理解を深めることに注力する。また機能材料分野のトピックスについても触れる予定である。

■到達目標
学習・教育目標：E1（◎）
固体中の電子状態とその機能、電子デバイスについての基礎的理解

■講義方法
(1) テキストと配布プリント教材を用いて、授業計画に沿って講義する。
(2) 理解を深めるため、適時レポート課題を課す。

■系統的履修
物理学Ⅲ・演習、物理学Ⅳ・演習、無機化学Ⅰ、結晶材料工学

■成績評価の方法
レポート（20%）・定期試験（80%）
定期試験としては中間試験（20点）と期末試験（60点）を行う。60%以上の出席を必要条件とする。

■テキスト
田中勝久　『固体化学』　東京化学同人　3675円

■参考文献
特になし

■講義計画
①固体の電気伝導
②金属の自由電子論（1）
③金属の自由電子論（2）
④バンド理論（1）
⑤バンド理論（2）
⑥半導体の基礎
⑦半導体の応用
⑧前半のまとめと演習
⑨磁性体の基礎
⑩磁気と伝導
⑪磁性体の応用
⑫超伝導体の基礎
⑬機能材料のトピックス
⑭後半のまとめと演習

グリーンプロセス工学

【担当】富崎　欣也
【開講】後期　木2

■講義概要
20世紀は科学技術の時代であり、様々な化学製品が爆発的に生産され続けてきた。だがそれらは廃棄が非常に難しいものであったり、少なからず毒性を示す副産物が生成したりする例も多く、今世紀後半には処理能力の限界を迎えると予想されている。そこで来世紀以降も持続可能な社会を目指して新たなパラダイムシフトが起こりつつある。それが「グリーン」という概念で示される一連の科学技術である。本講では「グリーン」概念がどのようなものであるかを伝えるとともに、具体的な例を示しつつその概要を示すことを目的とする。

■到達目標
学習・教育目標：B2（◎），E1（○）
数多くの「環境にやさしい化学プロセス」を通じて「グリーン」概念全般が理解できるようになる。また、世界的に競争が激化している次世代の地球環境産業技術の研究開発動向について考えることができるようになる。

■講義方法
特に教科書は使用せず、板書、プリントを中心に行う。理解を助けるためのレポートを必要に応じて課す。

■成績評価の方法
レポート（20%）・定期試験（80%）

■テキスト
特になし

■参考文献
工藤徹一、御園生誠 『グリーンマテリアルテクノロジー』 講談社 3400円
御園生誠、村橋俊一 『グリーンケミストリー』 講談社 2900円
柘植秀樹、荻野和子、竹内茂彌 『環境と化学－グリーンケミストリー入門－』 東京化学同人 2200円
（財）地球環境産業技術研究機構編 『CO2貯留テクノロジー』 工業調査会 2400円

■履修上の注意・担当者からの一言
来世紀の人類における「最大多数の最大幸福」は「グリーン」概念の確立なくしては達成し得ないであろう。学際的な観点から化学プロセスを眺める目を持って欲しい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
別途掲示する。また、別途質問を受け付けます。

■講義計画
①地球温暖化問題の最前線
②グリーンケミストリーとグリーンプロセス
③環境にやさしいものつくり　グリーンプロセス
④有機系材料のグリーンプロセス１
⑤有機系材料のグリーンプロセス２
⑥無機系材料のグリーンプロセス１
⑦無機系材料のグリーンプロセス２
⑧無機系材料のグリーンプロセス３
⑨廃棄物とリサイクル１
⑩廃棄物とリサイクル２
⑪エネルギー関連プロセスのグリーン化１
⑫エネルギー関連プロセスのグリーン化２
⑬エネルギー関連プロセスのグリーン化３
⑭エネルギー関連プロセスのグリーン化４

結晶材料工学

【担当】松尾　嘉浩
【開講】前期　金2

■サブタイトル
物性電子論への入門

■講義概要
「固体化学」においてすでに学習した結晶構造、それを解析するためのX線回析法、完全理想結晶からのずれ、即ち格子欠陥をまず学習し、本論である物性の電子論の学習へと進む。ここでは三つの物性、即ち熱的性質と誘電的性質および圧電的性質を取り上げる。固体の熱的性質を理解するために、まず格子振動のエネルギー概念を習得する。誘電体（絶縁体）については電気分極の発生メカニズムやミクロな挙動について学習し、圧電体についてはその電気的・機械的性質およびそれらの応用例について学習する。

■到達目標
学習・教育目標：E1（◎）
卒業研究の実験にしばしば用いるX線回析法の原理を習得する。固体物性のうち、ここでは熱的性質と誘電的性質および圧電的性質についてミクロレベルの考え方に慣れて、卒業研究等での測定結果を自ら考察していく能力を養う。

■講義方法
(1) テキストおよび配布するプリント教材を用いて、授業計画に沿って講義する。
(2) 適宜授業中に、レポート課題を課す。
(3) Technical terms（専門用語）については、なるべくEnglishにも慣れるようにする。

■系統的履修
無機化学Ⅳ、物理学Ⅰ、物理学Ⅱ、物理学Ⅲ

■成績評価の方法
レポート（20%）・定期試験（80%）
学期末試験（80点、持込み不可）と適宜授業中に指示した課題のレポート点（20点）との総合点（100点）にて成績評価する。

■テキスト
田中勝久著 『固体化学』 東京化学同人 3500円

■参考文献
坂田亮著 『理工学基礎・物性科学』 ㈱培風館 2400円
藤島啓著 『ピエゾセラミックス』 裳華房 1236円
沖憲典・江口鐵男著 『金属物性学の基礎』 内田老鶴圃 2300円

■履修上の注意・担当者からの一言
マクロな自然現象（実験結果）を常にミクロな原子・電子モデルに置き換えて考える習慣をどれだけ早く身につけることができるかが、将来材料技術者・研究者として活躍するための決め手となる。

■講義計画
①空間格子
②結晶構造
③X線回析
④格子欠陥
⑤格子振動
⑥固体の比熱
⑦絶縁体の熱伝導度と固体の熱膨張
⑧誘電体の分極と誘電率
⑨分極の種類と誘電分散
⑩強誘電体
⑪圧電体とその物性
⑫圧電応用
⑬まとめと演習
⑭演習

工業化学

【担当】松下　隆之、岩澤　哲郎
【開講】前期　木2

■講義概要
本講義では、純粋化学の基礎に立って如何に効率よく物あるいは材料を生産するのか、そのプロセスについて講述する。前半（担当者：松下）は、地球環境問題への対応、無機工業薬品、無機・金属工業化学、、無機材料工業化学、ファインセラミックスなどを中心に生産プロセスとその化学について講義する。後半（担当者：岩澤哲郎）では、有機化学工業から石油化学工業・有機ファインケミカルズ・バイオインダストリーを取り上げる。また、有機化学工業で果たす触媒の役割、有機化学工業とグリーンケミストリーについて講述する。

■到達目標
学習・教育目標：B2，D2，E1，（○）
化学工業の全体像および各種化学製品・材料の生産プロセスに関する知識を身につけることができる。また、生産活動・製品開発が環境や人類社会に与える影響について考えることができるようになる。

■講義方法
（松下）テキストを使用せず、適宜プリントを配布し、具体例をもとに講義する。適宜演習をし、レポート課題を課す。
（岩澤哲郎）テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。適宜レポート課題を課す。

■成績評価の方法
小テスト（10%）・レポート（10%）・定期試験（40%）
その他（40%）　中間試験

■テキスト
特になし

■参考文献
松田治和・野村正勝ら著　『有機工業化学（第2版）』　丸善
2800円
大谷杉郎著　『新工業化学概論』　裳華房　3300円

■履修上の注意・担当者からの一言
この授業は、工業的な物づくりのプロセスを学ぶものであり、今まで学んできた基礎化学に関連づけてわかりやすく講義を進めるが、基礎化学の復習をしておくことが望ましい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
松下・岩澤哲郎：月曜日5限目、火曜日５限目

■講義計画
①現代無機化学工業と地球環境問題
②無機工業薬品I
③無機工業薬品II
④無機・金属工業化学I
⑤無機・金属工業化学II
⑥ファインセラミックスの工業化学
⑦無機工業化学とグリーンケミストリー
⑧中間試験
⑨有機化学工業原料
⑩石油化学工業と触媒（１）
⑪石油化学工業と触媒（２）
⑫有機ファインケミカルズ
⑬バイオインダストリー
⑭有機工業化学とグリーンケミストリー
⑮有機工業化学と環境

学科固有

工業法規

【担当】池田　昌彦
【開講】後期　月1

■講義概要
企業を含む組織内での法に規定されていない行為については個人の人間性の問題であるが、豊かな社会を形成するには組織内の個人の倫理は重要である。技術士・規定や過去の事例を解析し技術者としての倫理を高める。
発明や意匠に関する工業所有権は産業の発展において、秩序維持を図ることを目的としたもので、先端技術における特許係争は数多く報じられている。社会において必要な工業所有権にかかわる基礎的事項を理解する。
テクノグローバリゼーションに対応するために設計や技術部門はISO ／ IECの標準化の仕組みを知らなければ世界の工業水準およびその普及に遅れていくことは確実である。国際的な工業標準や計量標準つまり度量衡／計量学（Metrology）の原点であるSI基本単位とトレーサービリティーを運用するISO9000sおよびISO17025 ／試験所認定を例にISOについて理解を深める。
化学物質に関する法規は多数ある。化学系の技術者に求められる安全管理の基礎知識又環境関連法規としてISO14000や環境汚染物質排出・移動登録制度（PRTR）が制定されている。これら法の制定背景から運用について学ぶ。その他欧州での化学物質管理の動向や国際安全保障面から産業活動における先端科学技術に関連する管理規定の運用についてのべる。

■到達目標
学習・教育目標：B2，C2（◎），D2（○）
テクノグローバリゼーションにおける工業技術に係わる者が守らなければならない法規の基礎を理解し、倫理観を高め社会人としてのルールを身に付ける。

■講義方法
特別の教科書は使用しない。プリントを配布する。演習問題を行い講義の理解を深める。ビデオを使用することもある。

■成績評価の方法
定期試験（100%）　学期末試験の成績のみで評価する。

■テキスト
特定のテキストは使用しない。講義に必要な資料配布する。

■参考文献
杉村一成　『理系のための法学入門』　法学書院　2400円

■履修上の注意・担当者からの一言
実社会での産業活動の中でのさまざまなルールをいろいろな方法で具体的に分かり易い講義を行う。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義後質問を受け、次の講義で補足説明および資料を渡す

■講義計画
①法と倫理（企業と活動における各種法など）
②工業所有権Ⅰ（特許の要件など）
③工業所有権Ⅱ（特許情報の運用など）
④工業所有権Ⅲ（特許実施と 維持など）
⑤計測と標準化Ⅰ（SI基本単位系など）
⑥計測と標準化Ⅱ（数値の取扱など）
⑦計測と標準化Ⅲ（計測の不確かさ）
⑧ISO ／ IEC　9000　17025について
⑨ISO ／ IEC　9000　17025要求事項などについて
⑩17025の要求事項など
⑪化学物質に関する規制Ⅰ
⑫化学物質に関する規制Ⅱ
⑬法・規制の基本用語
⑭まとめ
⑮試験

構造解析学

【担当】白神　達也、野村　勝裕
【開講】後期　火１

■サブタイトル
物性を支配する構造の特色とその評価方法

■講義概要
物質の性質はその物質を構成する原子の種類、配列、結合の仕方によって支配される。それに加えてこれらの要素を合わせて物質の構造という。また、電子の配列や相互作用の働きによってできる磁気構造や電子構造も視野に入れなければならない。本講義では広い意味での構造を知るための基本原理として、空間格子と対称操作をふまえての原子座標、格子パラメータおよび結晶構造因子の理解を目標とし、ポーリングの法則や結晶構造のエネルギー的側面が、その構造の必然を理解するのに有効であることを示す。また、JCPDSカードやリートベルト法といったデータ解析法および中性子散乱や透過型電子顕微鏡を用いた実験法を紹介する。

■到達目標
学習・教育目標：Ｅ１（◎）
空間格子と対称操作、原子座標、格子パラメータおよび結晶構造因子の理解。ポーリングの法則、JCPDSカードの見方、リートベルト法および中性子散乱の初歩、電子回折の見方の習得。

■講義方法
教科書は一部参照しながら、板書、プリント、プロジェクタなどにより行います。理解度を確認するための小テストを必要に応じて課します。出席は何らかの形で毎回取ります。

■系統的履修
無機化学Ⅳ、セラミック材料工学、結晶材料工学、ナノ材料工学、機能材料工学

■成績評価の方法
小テスト（25%）　5回の小テストの合計です。
定期試験（75%）

■テキスト
佐々木義典他　『基本化学シリーズ12　結晶化学入門』　朝倉書店　3500円
日本分析化学会Ｘ線分析研究懇談会編　『粉末Ｘ線回折の実際』　朝倉書店　4800円

■参考文献
F.S.ガラッソー著，加藤誠軌・植松敬三　訳　『図解 ファインセラミックスの結晶化学』　アグネ技術センター　4500円

■履修上の注意・担当者からの一言
構造解析法は、無機･金属系すべての研究室、評価系のほとんどの研究室、有機・高分子系の一部の研究室で、卒業研究をはじめとする研究活動になくてはならないものである。実際に測定を行う日までに理解して準備していただきたい。物質化学科以外の学生にも言えることであるが、配属研究室で構造解析を必要としない人には、難易度が高すぎると考える。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
別途通知する。一号館２１０号室を訪ねてくれば可能な限り対応する。

■講義計画
①イントロダクション
②結晶の幾何学
③ポーリングの法則
④いろいろな結晶構造とマーデルング定数
⑤Ｘ線の性質と回折
⑥結晶構造因子と消滅則
⑦JCPDSカードの見方
⑧Ｘ線構造解析の応用
⑨透過型電子顕微鏡を用いた構造解析
⑩リートベルト法の原理
⑪リートベルト法の実際
⑫RIETANの操作法
⑬中性子散乱で何がわかるか？
⑭まとめ

高分子化学

【担当】林　久夫
【開講】前期　金１

■サブタイトル
高分子科学の基礎

■講義概要
高分子は合成繊維、エラストマー（ゴム）、プラスチックなどの合成高分子と蛋白質や多糖類などの天然高分子に大別される。本講では主として合成高分子について、その合成、構造、性質ならびに加工についての基本的な事項を解説する。まず、高分子合成の反応機構ならびに生成物の分子構造上の特徴について解説する。つぎに各種の高分子特有の性質とその評価法について解説する。さらに、結晶、アモルファスなどの基本概念を解説し、これらの状態と高分子鎖の形態およびモルフォロジーとの関係を詳述する。さらに、力学的性質、熱的性質などの各種材料物性とその評価法について概説する。また、紡糸、成型などの高分子加工技術についても概説する。

■到達目標
学習・教育目標：Ｄ２（○）
現在使用されている材料の重要な一分野である合成繊維、エラストマー（ゴム）、プラスチックなどに関する基本的概念が理解でき、高分子を合成したり、使用したり、廃棄したりする場合に必要な基礎知識や考え方が身につく。
最終的に以下の知識・能力の獲得を期待している。
1）基本的な分子合成法について説明できること。
2）高分子の階層的な構造に関して基礎的な説明ができること。
3）基本的な高分子材料の性質について説明できること。
4）高分子の利用価値を説明できること。

■講義方法
毎回の講義のテーマは常に明確化し、重要なポイントは全て板書し強調する。講義の最後にクイズ(短時間のテスト)を課し、講義内容の理解を深め、学生－教員間のコミュニケーションを計るとともに出欠を確認する。

■系統的履修
高分子プロセス化学

■成績評価の方法
平常点（30%）（小テストならびにレポート等）
定期試験（40%）（期末試験。電卓持込み可、ノート･教科書等持込み不可）
その他（30%）（中間試験）
中間試験の得点が10点未満の者に対して補習を実施し、その修得レベルに応じて0 ～ 10点を加算する（合計は10点を超えないものとする）。

■テキスト
蒲地幹治　『高分子化学入門』　NST　3600円

■参考文献
高分子学会編　『高分子科学の基礎（第2版）』　東京化学同人　4100円

■履修上の注意・担当者からの一言
自主的に学ぶ姿勢が肝心で、形式的な出席は期待していない。高分子化学の生きた素養を身につけることが最終目的であり、色々な学習方法の中で、結局講義を真剣に聞くことが一番の近道であることを理解してほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
学科のホームページ等で周知するもの以外にも、随時指定する。

■講義計画
①高分子とは
②逐次重合反応Ⅰ－重宿合
③逐次重合反応Ⅱ－重付加
④連鎖重合反応Ⅰ－ラジカル重合
⑤連鎖重合反応Ⅱ－イオン重合
⑥分子構造－コンフィギュレーション
⑦孤立鎖の形態－コンホメーション
⑧溶液の性質
⑨中間テスト
⑩固体の構造Ⅰ－非晶の構造
⑪固体の構造Ⅱ－結晶の構造
⑫固体の性質Ⅰ－力学的性質
⑬固体の性質Ⅱ－温度の影響
⑭ポリマーブレンド

高分子材料化学（2007年度以降入学生）
高分子物性（2006年度以前入学生）

【担当】中沖　隆彦
【開講】後期　金３

■講義概要
2年次後期の「高分子化学」で学んだ構造・物性のセクションをさらに深く学習します。高分子は分子が長くつながった物質であるため低分子とは異なった様々な特徴を示します。例えばプラスチック製品や洋服の繊維などは高分子特有の性質を利用したものです。強い繊維はどうやって作るのか？硬いプラスチックはどういうコンセプトで作られたか？など高分子の分子構造と身近に見られる物性の関係について講義します。

■到達目標
学習・教育目標：Ｅ１（◎）
高分子の固体構造、溶液物性、粘弾性の基本について理解する。

■講義方法
講義形式で進めます。適宜演習も行いながら授業を進めます。

■系統的履修
「高分子化学」「高分子合成化学」

■成績評価の方法
定期試験（55%）　期末試験55点
その他（45%）　中間試験45点
試験を受けるには2/3以上の出席が必要です。

■テキスト
村橋ら　『高分子化学』　共立出版

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
授業中に理解して覚えてしまうように努力してください。あとで勉強しようと思っても量が多くなっていやになったり、授業で聞いたことを忘れたりしてしまいます。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
随時1号館204号室で行います。

■講義計画
①立体規則性高分子
②高分子の高次構造
③X線回折法
④赤外・ラマン分光法
⑤NMR分光法
⑥結晶化度の決定法
⑦中間試験
⑧溶液中での高分子の分子構造
⑨浸透圧
⑩光散乱、粘度法
⑪弾性
⑫粘性
⑬力学模型
⑭日常の高分子材料

学科固有

高分子プロセス化学（2007年度以降入学生）
高分子合成化学（2006年度以前入学生）

【担当】中沖　隆彦
【開講】後期　金１

■講義概要
高分子材料は現代生活において欠くことのできない、身近であり重要な材料です。合成繊維、プラスチック、接着剤など身の回りにある高分子材料はどうやって作られているのでしょうか？高分子は分子量の大きな化合物です。分子量を大きくするためには色々な方法があります。これらの重合方法について系統的に解説します。

■到達目標
学習・教育目標：D2（○）
高分子合成の基礎的な重縮合、開環重合、付加重合、イオン重合について、基本反応とこれらの違いを説明できるようにする。

■講義方法
講義形式で進めます。適宜演習も行いながら授業を進めます。

■系統的履修
高分子化学

■成績評価の方法
定期試験（55%）　期末試験55点
その他（45%）　中間試験45点
試験を受けるには2/3以上の出席が必要です。

■テキスト
村橋ら　『高分子化学』　共立出版

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
授業中に理解して覚えてしまうように努力してください。あとで勉強しようと思っても量が多くなっていやになったり、授業で聞いたことを忘れたりしてしまいます。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
1号館204号室で随時行います。

■講義計画
①高分子の基礎－分子量－
②重縮合
③重付加、付加縮合
④開環重合
⑤ラジカル重合
⑥ラジカル共重合
⑦中間試験
⑧アニオン重合
⑨遷移金属触媒重合
⑩カチオン重合
⑪連鎖移動反応
⑫ブロック・グラフト重合
⑬高分子反応
⑭機能性高分子

数学Ⅰ・演習

【担当】大竹　真一
【開講】前期　水2

■サブタイトル
微分法
■講義概要
微分積分は物質化学を学んでいくため必要不可欠なものである。その基礎となる微分法について学ぶ。導関数・微分係数・テイラーの定理・偏導関数・偏微分係数といった内容を予定している。代数関数・三角関数・逆三角関数・指数関数・対数関数などの微分法について学び、さらにテイラーの定理・テイラー展開・偏微分法について、実際に使えるような計算力にも配慮しながら、講義を進める。
講義のほか演習も行い、学力の定着をめざす。
■到達目標
学習・教育目標：D１（◎）
導関数・微分係数・テイラーの定理・テイラー展開などを習得し、実際に使えるようになる。
■講義方法
講義を基本とするが適宜演習の時間をとる。
■成績評価の方法
期末試験（80点）、課題・小テスト等平常点（20点）をあわせて評価する。
■テキスト
大竹真一著　『《基礎固め》数学』　化学同人　1800円
プリント教材（教室で配布）を併用をする。
■参考文献
特になし
■講義計画
①微分係数、導関数の定義
②微分の計算公式①
③微分の計算公式②
④微分の計算公式③
⑤微分の計算公式④
⑥応用と演習①
⑦応用と演習②
⑧高次導関数、平均値の定理
⑨テイラーの定理・テイラー展開①
⑩テイラーの定理・テイラー展開②
⑪テイラーの定理・テイラー展開③
⑫偏微分係数、偏導関数の定義
⑬偏微分の計算
⑭まとめと復習

数学Ⅱ・演習（2007年度以降入学生）
数学Ⅰ（2006年度以前入学生）

【担当】四ツ谷　晶二
【開講】後期　月2

■講義概要
微分の概念・積分の概念を理解し、それらをうまく使える能力を身につけることは、化学を学んでいく上で必須である。
　高校では1変数関数のみ取り扱ってきたが、化学的な概念の習得・応用のためには、多変数関数を自由に取り扱うことができる数学的な素養を必要とする。基本となる概念をしっかり身につければ、自然に臨機応変の応用能力が身に付く。
　この講義では、1変数関数の微分の知識の確認を簡潔に行った後、多変数関数の微分・積分を、基本から分かりやすく講義していく。
■到達目標
学習・教育目標：D1（◎）
微分・積分の概念を原理から理解し、自由に道具として使っていける能力が身に付く。これにより、より高度の化学をはじめとする様々な分野の教科書が読めるようになる。偏微分、全微分、合成関数の微分公式、変数変換による微分の変換公式、テーラー展開、極大・極小、重積分、オイラーの公式、定係数の線形微分方程式の解法にかかわる概念を修得し、活用できる能力を身につける。
■講義方法
適当な例題を解きながら、基本的な考え方分かり易く説明する。理解を確認するために、適宜小テストを行う。
■系統的履修
なし
■成績評価の方法
小テスト（40%）・定期試験（60%）
■テキスト
川野日郎・薩摩順吉・四ツ谷晶二（共著）『理工系の数理微分積分＋微分方程式』　裳華房　2835円
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
レポート、小テストで理解状況と出席をチェックする。
■講義計画
①1変数関数の微分の要約
②偏微分、全微分、高階偏導関数
③2変数関数の合成関数の微分
　陰関数の微分
④Taylor 展開
⑤2変数関数の極大・極小
⑥条件付極値
⑦極座標と座標変換
⑧積分の基本概念
⑨重積分
⑩極座標への変数変換
⑪複素数・複平面、オイラーの公式
⑫複素数値関数の導関数
⑬微分方程式への応用
⑭まとめ

数学Ⅲ・演習（2007年度以降入学生）
数学Ⅱ（2006年度以前入学生）

【担当】白神　達也
【開講】前期　火2

■サブタイトル
化学におけるベクトル演算の重要性

■講義概要
もともと連立1次方程式を効率よく、確実に解く方法として考え出された「行列と行列式」のもつ重要な基本概念（例えば、基本変形、和、積、ランク、固有値、固有ベクトル、対角化など）およびそれらの関連性を講義する。一方、ベクトルおよび行列は結晶物性を理解する上に必要なテンソルなどの概念とも関連しているので、その関係性を表す初級ともいえる一次変換について学習する。また、行列の逆行列、固有値および対角化は高階線形微分方程式の解法にも用いられ、量子力学のエネルギー固有値とも関連しているのである。さらに、ベクトル解析や複素数の概念、フーリエ解析の初歩を扱い、電磁気学への数学的手がかりをつかむ。

■到達目標
学習・教育目標：D1（◎）
ベクトルや行列およびそれらがもつ行列式、固有値などの重要な概念、ベクトルとテンソルとの関係を理解する初歩としての一次変換、ベクトルはもっと広い概念でさまざまなものを表現できること、などを理解すること。

■講義方法
教科書、板書、プリント、プロジェクタなどにより行います。理解度を確認するための小テストあるいは宿題を必要に応じて課します。出席は何らかの形で毎回取ります。試験を受けるには60%以上の出席が必要です。

■成績評価の方法
小テスト（25%）　５回の小テスト（演習）の合計で決める。
定期試験（75%）

■テキスト
薩摩順吉・四ツ谷晶二　『キーポイント線形代数』　岩波書店　2200円
川野日郎・薩摩順吉・四ツ谷晶二　『微分積分＋微分方程式』　裳華房　2700円

■参考文献
佐藤敏明　『図解雑学　ベクトル・行列』　ナツメ社　1350円
トランスナショナル カレッジ オブ レックス編　『フーリエの冒険』　ヒッポファミリークラブ　3500円

■履修上の注意・担当者からの一言
現代化学を理解するために、ベクトルや行列およびそれらがもつ行列式、固有値などの重要な概念、ベクトルとテンソルとの関係を理解する初歩としての一次変換は必ず必要になるものなので、この講義で理解してください。ここにあげた参考文献は比較的平易に読めるものなので、講義の内容理解に対する補助として使用してください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
別途掲示する。1号館210号室を訪ねてくれば、可能な限り対応する。

■講義計画
①ガウスの消去法による連立1次方程式の解法
②クラメルの公式と行列式の計算
③行列の積と逆行列
④ベクトル空間
⑤線形変換と逆変換
⑥行列のランク
⑦線形代数の基本定理
⑧行列の固有値と固有ベクトル
⑨行列の対角化
⑩エルミート行列とユニタリ行列
⑪複素数とオイラーの公式
⑫フーリエ級数の初歩
⑬フーリエ変換の実例
⑭まとめ

生化学

【担当】宮武　智弘
【開講】前期　水3

■講義概要
生物はすべて化学物質でできており、本講義では生命現象の本質を理解する基礎として、生体物質の有機化学を系統的に学ぶ。まず、生体を構成する基本的な分子として、炭水化物、蛋白質、脂質、核酸について、これらがどのような構造をしており、どのように生体内で合成されるかについて学ぶ。ついで、これらの分子構造が高次組織体として生体の形成と機能の発現にどのような役割を果たしているかを解説する。また、生体内における代謝経路にこれらの分子がどのように関与しているかを学ぶ。

■到達目標
学習・教育目標：Ｄ２（◎）
生体内にどのような化学物質が存在するか、またそれらの生体物質がどのような化学的相互作用・化学反応を通して個体の生命維持・種保存のために働いているかを理解できるようになる。

■講義方法
原則として教科書にそって講義する。

■系統的履修
有機化学Ⅰ～Ⅳ

■成績評価の方法
小テスト（20%）・定期試験（80%）

■テキスト
マクマリー　『有機化学（下）第６版』　東京化学同人　4620円

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
生体に関わる有機化合物を理解するためには有機化学の基本事項を習得していることが必要となるため、有機化学Ⅰ～Ⅳの内容を理解しておいてほしい。

■講義計画
①炭水化物の構造
②炭水化物の性質と反応
③多糖類
④アミノ酸の構造
⑤アミノ酸の性質
⑥タンパクの構造と性質
⑦酵素
⑧脂質と生体膜
⑨複素環と核酸
⑩核酸の構造と性質
⑪遺伝情報の伝達
⑫バイオテクノロジー
⑬代謝経路の有機化学
⑭まとめ

セミナー

【担当】大柳　満之、内田　欣吾、白神　達也、中沖　隆彦、林　久夫、藤原　学、松下　隆之、宮武　智弘、和田　隆博、岩澤　哲郎、富崎　欣也

【開講】前期　火2or火3

■講義概要

本セミナーは配属された研究室において、小グループを対象として行われる。下記の各分野について、担当教員の指導により、まず輪読と演習により基礎的知識を習得したのち、特別研究に関連した最近の論文(主として英語)の紹介等を行う。これにより、専門用語を含む外国語に対する読解力を培うと共に発表・討論を通じて特別研究を行っていくための専門分野の知識を一層深める。

「物質評価系」

無機溶液化学および状態分析化学、生体膜の物理化学、金属錯体および微量分析、材料物性の測定

「無機・金属系」

セラミックス材料の合成、無機材料の合成、セラミックス薄膜の合成・評価法、構造無機化学とその物性

「有機・高分子系」

触媒化学、有機光化学、有機合成化学、高分子の化学・物理化学および物理、高分子の固体物性

■到達目標

学習・教育目標：E1（◎），F1，F2（○）

学術論文を読解出来るようになること。特別研究を行うための専門知識を習得すること。

■講義方法

担当教員により異なる。

■成績評価の方法

研究テーマに対する取り組みの姿勢、テーマに関する調査や発表の内容、課題の達成度などを担当教員が評価する。

■テキスト

担当教員により異なる。

■参考文献

担当教員により異なる。

■講義計画

英文の専門書および学術論文の輪読。

学科固有

セラミック材料工学

【担当】塩見　治久

【開講】前期　月4

■サブタイトル

セラミック入門

■講義概要

セラミックスは人類が最初に火を用いて作った土器の類にまで遡ることができる。セラミックスは、ガラス、陶磁器、たいかぶつ、セメントなどの伝統的セラミックスと呼ばれるものから、フェライト、コンデンサー材料などの機能性セラミックスと呼ばれるものまで多岐におよぶ。この講義では、これらのセラミックスについて原料、製造法、性質だけでなく、僧都についても詳しく述べ、セラミックスの全体像が把握できるようにする。また、各種セラミックスに共通の焼結機構、力学的特性、電気的特性などを理解するために実用セラミックスを例に挙げて解説する。

■到達目標

学習・教育目標：E1（◎）

セラミック材料の全体像を把握できることを目指し、この分野の技術者として将来活躍するために基礎となる知識の習得を目標とする。

■講義方法

各講義テーマの重要な事項について説明する。難しいと思われるところは，反復しながら十分理解できるよう勤める。

■系統的履修

物質化学の一年次、二年次前期における学部内共通科目と学科基本科目は、すべて履修しておくことが望ましい。

■成績評価の方法

定期試験（50%）

その他（50%）　中間試験を行う。

中間試験と学期末試験の結果で成績を評価する。

■テキスト

特になし

■参考文献

柳田博明編著 『セラミックスの化学』 丸善　3360円

掛川一幸，山村　博，守吉佑介，門間英毅，植松敬三，松田元秀 『機能性セラミックスの化学』 朝倉書店　3990円

A.R.West著，遠藤忠訳 『固体化学入門』 講談社　4893円

■履修上の注意・担当者からの一言

この講義は、特定の教科書を使用しないので、授業に出ていないと理解できなくなる。しかし授業に出ているだけでは試験の点数は取れない。毎回の復習は十分に行ってほしい。

■講義計画

①セラミックス材料工学概説
②伝統的セラミックスⅠ（陶磁器、耐火物）
③伝統的セラミックスⅡ（セメント、ガラス）
④ニューセラミックスⅠ（構造材料）
⑤ニューセラミックスⅡ（機能材料）
⑥その他のセラミックス
⑦セラミックス粉体の製造プロセス（製造工程１）
⑧セラミックスの成形プロセス（製造工程２）
⑨セラミックスの焼結プロセス（製造工程３）
⑩セラミックスの焼結と理論
⑪格子欠陥と転位
⑫平衡状態図概説
⑬二成分系平衡状態図
⑭三成分系平衡状態図

特別研究

【担当】大柳　満之、内田　欣吾、白神　達也、中沖　隆彦、林　久夫、藤原　学、松下　隆之、宮武　智弘、和田　隆博、岩澤　哲郎、富崎　欣也

【開講】通年　集中

■講義概要

4年次に進級すると、学科の研究グループあるいは教員の研究室に10数人単位で配属され、指導教員によるマンツーマンの指導のもとに1年間を通じて特別研究を行う。これは、3年次までに修得した基礎学力のうえに立って、特定の研究テーマについて自主的に研究を行い、その成果を卒業論文にまとめ発表するものである。この特別研究によって、履修した科目の応用能力を高め、新しい未知のテーマに挑戦して自主的に勉学し、研究成果をまとめ、発表する能力を養成することを目的としている。指導教員は、あらかじめ学科において指示された方式により、また研究テーマは指導教員と学生との相談により決定される。特別研究のテーマは、3年次までの学生実験のテーマとは異質で、結果が全く見えない未知のテーマに挑戦することがあると肝に銘じることが肝要である。

■到達目標

学習･教育目標:E1，E2，E3（◎） A，B2，C2，D3，F3（○）
物質を合成する基本的な技術を習得すること。使用した分析機器の原理を理解すること。物質を評価する基本的な技術を習得すること。参考となる学術論文を読み、卒業論文をまとめ、研究発表を行うこと。

■講義方法

研究テーマおよびそれらの進行状況に応じ個別に行う。適時、それぞれの研究室内において中間発表会を行う。

■成績評価の方法

平常点（100%）（平常点ならびに卒業論文発表会での評価）
研究テーマへの日常の取り組み姿勢、研究結果に対する掘り下げ、卒業論文の内容、発表内容などにより総合的に評価する。主担当教員による評価（70%）と副担当教員による評価（30%）。

■テキスト

特になし

■参考文献

特になし

■履修上の注意・担当者からの一言

物質化学科においては特別研究に取り組むには4年次初頭に開催される安全講習会を受講することが義務付けられている。また、600時間以上かけて特別研究を行うことが求められている。

■講義計画

研究テーマおよびそれらの進行状況により異なる。

学科固有

ナノ材料工学

【担当】中山　明

【開講】後期　金４

■講義概要

ナノ材料は、新しい機能やこれまでの材料特性を飛躍的に向上させることが期待できる材料である。本講義ではナノ材料を作製する。特性を評価するナノテクノロジーについて基礎から応用まで、最先端の研究、実用例も交えて講義を行い、無機・セラミックス材料の基礎となの材料について理解と活用のための知識を身に付けることを目指す。

■到達目標

ナノ材料がバルク材料と異なる物性や機能を有することの原理、その特徴を理解し、ナノ材料に関して考える力を身につけるようになること。

■講義方法

特に決まったテキストは使用しない。適時、プリント資料、PCによるプレゼン、板書を中心に講義する。演習、レポート提出も適時行う。

■成績評価の方法

レポート（30%）
定期試験（40%）
その他（30%） 中間試験を実施する

■テキスト

特になし

■参考文献

平尾一之編 『基礎から学ぶナノテクノロジー』 東京化学同人 3360円
川合知二 『図解 ナノテク活用技術のすべて』 工業調査会 2982円
坂田亮 『理工学基礎 物性科学』 培風館 2520円

■履修上の注意・担当者からの一言

本講義は、物理学、物性物理学、結晶化学等の基礎知識をベースとした上で進めるものであり、事前に理解しておくことが望ましい。適時、演習、レポート等で理解度をチェックしながら進めるが、理解できない点とかあれば電子メール等でも構わないので（十分時間がとれない場合）質問して頂きたい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法

オフィスアワーは毎週火曜日4,5講時に設けています。また、随時質問は受け付けます。

■講義計画

①ナノテクノロジー、ナノ材料とは、ナノ材料の歴史
②ナノ材料が拓く未来の世界
③ナノ材料の作製法：ナノ粒子
④ナノ材料の作製法：ナノ粒子
⑤ナノ材料の作製法：ナノ薄膜材料
⑥ナノ材料の作製法：ナノ薄膜材料
⑦ナノ材料の作製法：ナノ薄膜材料
⑧中間テスト
⑨ＩＴ技術とナノ材料
⑩ＩＴ技術とナノ材料
⑪ＩＴ技術とナノ材料
⑫エネルギー・環境問題とナノ材料
⑬エネルギー・環境問題とナノ材料
⑭ナノ計測・加工プロセス技術

入門セミナー

【担当】中沖　隆彦、富崎　欣也、松下　隆之、渡辺　英児
【開講】前期　金３・金４

■講義概要
大学においては、既に明らかになっていることを知識として学ぶと共に、結果が明らかでない問題や複数の解答がある問題を自分自身で考えることが要求される。これには論理的に思考する訓練が必要である。また思考を深めるためには意見の異なる者と討論することが重要となる。「入門セミナー」では、受講生の問題発見力・問題解決力・自己表現力を向上させることを目的にしている。本科目は、与えられた課題を各自が解いていくのではなくて、課題自体を受講生が設定することから始まる。論理的に思考する、グループ内でディスカッションを通して意見をまとめていく、自分の意見を発表するなど、今後理系の学生としていろいろな場面で必要とされる基本的な力を養うことができる。

■到達目標
学習・教育目標：F1，F3（◎），C2（○）
課題を発見する。グループ内で、議論し意見をまとめる。データをまとめる。パワーポイントを用いて、発表する。他のグループの発表を聞き、評価する。

■講義方法
本科目では、受講生を4つのグループに分け、4名の教員で分担する。通常の講義方法とは異なり、教員は学生の活動に対するアドバイザー役を務める。

■系統的履修
必修科目である計算機基礎実習Ⅰを必ず履修すること。

■成績評価の方法
平常点（40%）　授業中における討論
レポート（10%）　最終レポート
その他（50%）（ポスター発表会での発表（10%）および口頭発表会での発表（40%））

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
本科目においてはあくまでも受講生が主体であり、討論参加およびレポート作成など自己表現が授業の中心となるので、積極的に参加されることを望む。選択科目であるが、受講されることを強く薦める。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義中に知らせる。

■講義計画
①はじめに（グループ分け・内容説明）
②課題討論（1）・情報収集法説明・図書館見学
③課題討論（2）
④課題討論（3）・仮テーマ発表会
⑤情報収集（1）
⑥情報収集（2）
⑦情報収集（3）・ポスター発表準備
⑧情報収集（4）・ポスター発表練習
ポスター発表会（講義の日以外の昼休みに実施予定）
⑨情報収集（5）・報告書作成
⑩データのまとめ・報告書提出・口頭発表準備
⑪グループ内発表会
⑫口頭発表会（1）
⑬口頭発表会（2）
⑭総合演習

物質化学研究デザイン演習

【担当】内田　欣吾
【開講】後期　月３・月４

■講義概要
本授業は3年生前期までに学習してきた基礎的な知識が未知の現象を解き明かすのに必要であるということを実感するとともに、4年生で行う卒業研究をスムーズに開始できるように設けられた科目である。最初の1時間程度は実際に研究室で行っているテーマを簡単に解説したり、世界の他の研究グループの研究の現状について説明をする。その後、研究室の学生の指導のもと簡単な実験と装置の使い方を習得し、そのデータを用いて報告書の書き方を実習する。最後に各自で、研究テーマの設定について教員と文献調査に基づきディスカッションする。

■到達目標
学習・教育目標：D3,E1,E2（◎），F1（○）
4年生で行う研究テーマがどういうものなのかということと研究室に付属する器具や装置を使用することにより、卒業研究の全体像を把握することができる。3年生後期から卒業研究に触れることにより、4年生からの卒業研究がスムーズに始めることができる。また第3者に対しても研究の概要を説明することができるようになる。最新の文献を読み、新しい研究テーマをデザインするための基礎力をつける。

■講義方法
最初はテーマの説明などを行い、その後グループに分かれて文献調査・実験室で教員と研究室の学生の指導のもと実験・測定なども行う。デザイン演習であるので、Webから最近の研究について知見を深め、教員のアシストを得ながらデザイン演習を行う。結果はパワーポイントとA4用紙1枚の予稿原稿にまとめ口頭発表によって評価を受ける。

■系統的履修
有機化学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ有機材料化学

■成績評価の方法
毎回提出のレポート、日常態度、積極性をもとに主担当教員が判定する。(70%）また授業の最後に他の教員のもとでプレゼンを行い評価する。(30%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
常にこの研究はどこが新しいのか、どこに価値があるのかを考えてください。そのうえで、どうしたらオリジナリティーが出せるかについても考えてください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
演習の時間内に終わることができない場合は、時間を延長して演習に取り組んでいる。

■講義計画
①現在の研究テーマの説明、文献検索・Chemical Abstractの使い方
②研究の進め方、実験ノート、レポートの書き方等
③フォトクロミック化合物の合成
④フォトクロミック化合物の物性測定
⑤生成物の1H NMR、IR測定、実験報告書作成
⑥文献調査・研究デザイン（1）
⑦文献調査・研究デザイン（2）
⑧文献調査・研究デザイン（3）
⑨文献調査・研究デザイン（4）
⑩文献調査・研究デザイン（5）
⑪報告書作成
⑫プレゼンテーション練習会
⑬他の教員のところでのプレゼンテーション
⑭プレゼンテーションの結果報告と総括

物質化学研究デザイン演習

【担当】大柳　満之
【開講】後期　月３・月４

■サブタイトル
研究の設計方法と実践
■講義概要
「研究デザイン演習」の目的は、卒業研究を始める半年前から、研究を開始する前に研究とは何か、またどのようにして研究というものが構築されるかを習熟することにある。特に、研究を設計する前段階として、自分が注目した合成・プロセス、材料機能・物性などについて、従来研究がどのようにされており、どのようなことをやれば新規で独創的な研究が展開できるかを考える機会を提供する。まず、研究室で行っている研究を紹介し、研究の背景や研究の着目点、進め方などを概説した上で、自分が注目したい対象を決定する。次に、その対象を選んだ理由を説明し、引き続きこれまでに研究されている事柄を調査するステップに進む。次に自分が研究したい項目を見つけ教員との討論のなかで、研究すべき対象と項目を選定する。これまでに関連研究がどこまでなされてきたかを再び調査し、研究するための背景を充分検討する。次に研究を行うための方法を検討し、研究計画を立案させる。最後に、これまでの過程をすべてまとめPowerPointにて発表を行う。一部、早く進んだ人には実験も行ってもらう。
■到達目標
学習・教育目標：D3,E1,E2（◎）,F1（○）
研究の立案能力を養うことが目的であるが、「研究」入門として位置づけている。
自分で実験・研究の立案をできるための方法を習得することを目標とする。
■講義方法
授業概要に従い、各人或いはグループと教員が個別に討論を行っていき、途中で全員の進行過程をお互いに認識するための発表会も行う。研究対象は出来るだけ簡単なものを選ぶ。
■系統的履修
特になし。
■成績評価の方法
最終の発表結果により点数をつける。
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
この演習は、積極的に取り組めば組むほど自分の力となって跳ね返ってくるので、精力的に動いて欲しい。
■講義計画
①「研究デザイン演習」について
②研究室での研究の紹介
③研究分野や対象を選定
④研究内容（対象と項目）の選定
⑤研究項目に関する研究の背景や先行研究の調査
⑥研究方法の検討
⑦研究計画の立案
⑧デザインした研究計画のプレゼンテーション
⑨実験の実施

学科固有

物質化学研究デザイン演習

【担当】白神　達也
【開講】後期　月３・月４

■サブタイトル
研究発表に必要なプレゼンテーション
■講義概要
本演習では、配属予定の研究室において、その研究室の研究分野に関連した文献調査、発表や基礎的な練習実験を行い、決められた形式や時間内でプレゼンテーションを行う。研究が行われる意味や、科学の一分野の中での研究の位置づけについて洞察できる目を養う。それまでの教育課程で身につけた知識やスキルを総動員して、問題解決を図ることにより、卒業研究へのスムーズな橋渡しを狙う。
■到達目標
学習・教育目標：D3，E1，E2（◎），F1（○）
配属予定の研究室の研究分野に関連した文献調査を独力で行えること。発表や基礎的な練習実験を行い、決められた形式や時間内でプレゼンテーションを行うこと。他の人のプレゼンを聞いて、その内容をつかむこと。
■講義方法
初日に粉末Ｘ線回折データをそれぞれ配布する。TG-DTAの原理を理解した上で、測定とその解析を行い、与えられた試料の総合評価を行う。また、その内容について、レポートすることと与えられた時間でプレゼンテーションすることを目標とする。他の人のプレゼンを聞いて、その内容をつかむことをレポートにて確認する。
■系統的履修
すべての科目。強いてあげれば「入門セミナー」と実験
■成績評価の方法
レポート（70%）　レポート作成を通して、課題への取り組み姿勢、表現力、課題に対する理解、まとめ方および発表、文書形式の遵守度などを総合する。・その他（30%）　プレゼンテーション能力およびその要約力、質疑応答を総合して副担当が決める。
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■講義計画
初日に提示する。

物質化学研究デザイン演習

【担当】中沖　隆彦
【開講】後期　月３・月４

■講義概要
本授業は3年生前期までに学習してきた基礎的な知識を応用できるように準備するということと、4年生で行う卒業研究とのつなぎに位置付けられる科目である。最初の1時間程度は実際に研究室で行っているテーマを簡単に解説したり、装置の原理等の説明をする。そのあと研究室の学生の指導のもと簡単な実験と装置の使い方を習得する。また秋の高分子若手研究会にも参加する。

■到達目標
学習・教育目標：D3，E1，E2（◎），F1（○）
4年生で行う研究テーマがどういうものなのかということと研究室に付属する器具や装置を使用することにより、卒業研究の全体像を把握すること、および3年生後期から卒業研究に触れることにより、4年生からの卒業研究がスムーズに始めることができるようにすることが目標である。

■講義方法
講義の最初に研究テーマの説明などを行い、その後グループに分かれて実験室で研究室の学生の指導のもと実地操作に当たる。各回ごとにレポートを提出する。

■系統的履修
高分子化学、高分子プロセス化学、高分子物性

■成績評価の方法
平常点（20%）　毎回の演習での積極性について評価する。・レポート（50%）　毎回レポートを提出し、その理解度を口頭でチェックする。・その他（30%）　他の研究室で演習成果の発表を行う。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
卒業研究で行うテーマに近いことを学びます。常に自分なりにどこかでオリジナリティーが出せるよう考えてください。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業のあと、質問に来て下さい。

■講義計画
①液体NMR：アタクチックポリスチレン（aPS）を重クロに溶かして　1H　NMR
②固体NMR：グリシンのCP/MAS測定、グリシンのCPT1測定
③ホットプレスでポリ乳酸フィルム（生分解性高分子）をつくり加水分解させる
④開環重合：Novoを使いカプロラクトンの開環重合を行う
⑤scCO2IR：超臨界赤外分光器の使い方とCO2の吸光度の圧力依存性
⑥微生物培養：バクテリアの培地作りと増殖
⑦高分子若手研究会参加
⑧ゲルの作成と真空ラインの使い方
⑨DSCによりポリエチレンの結晶化度を求める
⑩フィルムの引張試験
⑪プレゼンテーション練習会
⑫プレゼンテーション練習会
⑬他の教員のところでのプレゼンテーション
⑭プレゼンテーションの結果報告と総括

物質化学研究デザイン演習

【担当】藤原　学
【開講】後期　月３・月４

■講義概要
藤原研究室において４年次の特別研究を行う際には、多くの機器分析装置を用いる。そのため、それらを用いて有用なデータを得るためには、機器の原理・サンプルの前処理・操作法・データ解析などについてそれぞれの手法ごとに習熟しておかなければならない。さらに研究室の研究課題を理解し、それとともに自らの研究課題について深く考えるために、あらかじめ研究の目的や背景についてよく調査し、議論し、思考する必要がある。「研究デザイン演習」においては、これらの思考法を養うことを目的としている。

■到達目標
学習・教育目標：D3，E1，E2（◎），F1（○）
理系の学生として今後研究を進めていく時のいろいろな場面で必要とされる基本的な力を養う。自らの力で研究を企画し、計画し、実行することのできる基礎を身につける。また、一般的な機器分析操作（前処理・測定・解析）を理解し、それらの基礎技術を身につける。

■講義方法
本科目では、いろいろな機器分析装置の原理・手法を学び、自らの研究課題として実現可能な実験計画書の作成を行う。また、担当教員以外の教員へプレゼンテーションを行う。

■成績評価の方法
平常点（70%）　課題・議論への参加・プレゼンテーションなど・その他（30%）　他教員へのプレゼンテーション・授業中における課題・研究計画書およびプレゼンテーションについて総合的に評価する。そのため授業に積極的に参加することを求める。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■講義計画
①はじめに（現在の研究課題の説明）・主要な分析機器装置の概略
②分析化学と電磁波（X線）・X線分析装置の概略
③X線発生の原理と応用（X線光電子分光法･前処理･測定･データ解析）
④X線分析（蛍光X線分析・前処理・測定・データ解析）・NMR法
⑤サンプリング・環境試料前処理法（森林土壌・河川水試料）
⑥キャピラリー電気泳動法（陰イオン・陽イオン・有機イオンの分離定量分析）
⑦ＢＯＤ・ＴＯＣ・ＣＯＤ（河川水試料）
⑧紫外線・可視光・赤外線を用いた分析（金属錯体）
⑨生体試料前処理法（タンパク質・酵素）・考古科学分析・大宮図書館見学
⑩研究課題探求（１）・研究計画書作成
⑪研究課題探求（２）・研究計画書自己評価
⑫報告書作成・プレゼンテーション練習
⑬プレゼンテーション（その１）
⑭プレゼンテーション（その２）・総合課題

物質化学研究デザイン演習

【担当】宮武　智弘
【開講】後期　月３・月４

■サブタイトル
エネルギー問題や環境問題に取り組むための物質化学入門
■講義概要
物質化学研究デザイン演習では、一人一人が別々の研究テーマに取り組むことで、それまで講義や学生実験を通して勉強してきた物質化学の基礎知識を、実際の研究テーマに応用する方法を学ぶ。今まで学んできた科目ごとの断片的な知識を組み合わせて、各自の課題を解決するために活用する。
■到達目標
学習・教育目標：D3，E1，E2（◎），F1（○）
研究のやり方・デザイン能力が身に付く。それまでに勉強してきた事柄が、研究を行う上でどのように生かされるかがわかる。「課題を発見し、調査を行い、実験方法を学び、データを整理して、得られた結果をみんなの前で発表する」、研究開発の基本サイクルを身につける。
■講義方法
研究室で行っているエネルギー問題や環境問題に関係する研究テーマの中から興味のあるテーマを一つ選択し、各自が別々のテーマに取り組む。各自が教員や先輩とコミュニケーションをとりながら研究の背景や研究方法、実験装置の原理や使い方、結果の解釈について勉強する。
■成績評価の方法
学科共通の評価方法に準ずる。（発表・要旨・レポート）
■テキスト
特になし
■参考文献
関連する図書は、研究室にそなえられている。

■講義計画
①オリエンテーション
②研究の背景についての調査
③実験方法について
④実験演習（1）
⑤実験演習（2）
⑥実験演習（3）
⑦実験演習（4）
⑧実験演習（5）
⑨実験結果の検討
⑩発表のための資料作成（1）
⑪発表のための資料作成（2）
⑫研究室内発表
⑬先輩の発表の聴講
⑭他研究室での発表

学科固有

物質化学研究デザイン演習

【担当】和田　隆博
【開講】後期　月３・月４

■サブタイトル
エネルギー問題や環境問題に取り組むための物質化学入門
■講義概要
物質化学研究デザイン演習では、一人一人が別々の研究テーマに取り組むことで、それまで講義や学生実験を通して勉強してきた物質化学の基礎知識を、実際の研究テーマに応用する方法を学ぶ。今まで学んできた科目ごとの断片的な知識を組み合わせて、各自の課題を解決するために活用する。
■到達目標
学習・教育目標：D3，E1，E2（◎），F1（○）
研究のやり方・デザイン能力が身に付く。それまでに勉強してきた事柄が、研究を行う上でどのように生かされるかがわかる。「課題を発見し、調査を行い、実験方法を学び、データを整理して、得られた結果をみんなの前で発表する」、研究開発の基本サイクルを身につける。
■講義方法
研究室で行っているエネルギー問題や環境問題に関係する研究テーマの中から興味のあるテーマを一つ選択し、各自が別々のテーマに取り組む。各自が教員や先輩とコミュニケーションをとりながら研究の背景や研究方法、実験装置の原理や使い方、結果の解釈について勉強する。
■成績評価の方法
学科共通の評価方法に準ずる。（発表・要旨・レポート）
■テキスト
特になし
■参考文献
関連する図書は、研究室にそなえられている。

■講義計画
①オリエンテーション
②研究の背景についての調査
③実験方法について
④実験演習（1）
⑤実験演習（2）
⑥実験演習（3）
⑦実験演習（4）
⑧実験演習（5）
⑨実験結果の整理
⑩実験結果の解釈
⑪発表のための資料作成
⑫研究室のみんなの前で実験結果の発表
⑬研究室の先輩の研究発表を聴講
⑭他の研究室の先生の前での発表

物質化学研究デザイン演習

【担当】林　久夫
【開講】後期　木３・木４

■サブタイトル
グリーンケミストリーと高分子

■講義概要
講義や学生実験では多くの場合、先人の科学技術者によって発見された原理や完成された技術を、知識として吸収したり訓練によって体得したりすることに重点が置かれる。一方、実社会では、問題を提起したり、その問題を分析し解決に導くまでの方法と手順を明らかにしたり、それを効率的に遂行するための実施計画を練ったり、さらには結果を分かりやすく報告・発表したりするための能力や技術も要求される。本講ではこのような能力や技術の習得を目的とし、まず本研究室の専門分野の概要を解説した後、下記に示す一連の作業を具体的なテーマに即して行う。

1）問題を提起する、
2）その問題を分析し解決に導くまでの方法と手順を明らかにする、
3）それを効率的に遂行するための実施計画を練る、
4）結果を分かりやすく報告・発表。

■到達目標
学習・教育目標：D3，E1，E2（◎），F1（○）

1）研究室の研究テーマの概要を知ること。
2）学科の理念と研究室の目標に合致した研究テーマを見出す手法を学ぶこと。
3）定めた目標を達成するための方法論を学ぶこと。
4）得た知識を発表する技術を修得すること。

■講義方法
少人数（7 ～ 12名程度）教育を行う。教員は毎回の演習の達成目標とそれに至るアウトラインを示し、学生自身の自主性と積極性を喚起することに努めながら、全体の舵取りを行う。

■系統的履修
特別研究

■成績評価の方法
平常点（70%）・その他（30%）（発表会における得点）・担当教員による平常点（70点）と期末に他教員の前で行う発表会における得点（30点）の合計により判定する。

■テキスト
『適宜指定する』
適宜プリント等を配布します。

■参考文献
『適宜指定する』

■履修上の注意・担当者からの一言
常に問題意識を持ちながら日常生活を送ることが様々な問題の発見や解決につながる。演習の時間中ばかりでなく、常日頃からの自主的・積極的な関与を期待する。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
学科のホームページで周知するものの他、随時指定する。

■講義計画
①研究室の紹介・演習の進め方
②学外実習の報告（1）
③学外実習の報告（2）
④研究テーマの紹介（1）
⑤研究テーマの紹介（2）
⑥文献調査法
⑦課題の検討（1）
⑧課題の検討（2）
⑨自己テーマの調査研究（1）
⑩自己テーマの調査研究（2）
⑪自己テーマのまとめ
⑫発表練習（1）
⑬発表練習（2）
⑭最終発表（他研究室にて）

物質化学研究デザイン演習

【担当】岩澤　哲郎
【開講】後期　月３・月４

■講義概要
目的は「必要最低限の基礎的な研究技術を学び、卒業研究のスタートアップを円滑に進めること」に所在する。即ち、卒業研究を行うための入門講座としての位置づけ。講義内容は大きく３つに分ける。１つ目は当該研究の全体像の講述、２つ目は実際的な実験研究技術の説明、３つ目は各自に与えられた研究テーマの目的・問題点・意義等の解説。

■到達目標
学習・教育目標：Ｄ３，Ｅ１，Ｅ２（◎），Ｆ１（○）

１．当研究室の研究の進め方について理解する
２．基本的で実際的な実験研究技術を習得する

■講義方法
少人数形式。毎回の演習では、その回の理解目標と実際の研究活動のどのあたりに直結している演習なのかについて述べる。その後、具体的に実習・演習を通して実際の活動のはじめの一歩に触れてもらう。

■成績評価の方法
毎回提出のレポート、日常態度、主体性をもとに主担当教員が判定する（70%）。また最後の講義時にほかの教員の下でプレゼンを行い評価する（30%）。

■テキスト
特になし。要点をまとめたプリントなどを適宜配布する。

■参考文献
適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
受講の最大のポイントは「研究生活の楽しさ」を理解すること。研究とは知的冒険そのものです。知的冒険に付随する多様な楽しさ・感動を理解すればするほど、次年度４月以降の自分自身の成果や成長に反映されてきます。教員とコミュニケーションを取りながら協力して取り組みます。意欲的で主体的に行動できる学生の参加をのぞみます。

■講義計画
①研究とは（研究室紹介、実際の研究の流れ、世界の他研究チームの動向）
②実験ノートの書き方、合成試薬ラベルの書き方など
③有機リチウム試薬、遷移金属試薬、及び真空ラインの使い方
④ＴＬＣを使う反応の追跡
⑤有機化合物の精製（１）（再結晶操作の実際）
⑥有機化合物の精製（２）（再結晶操作の実際）
⑦有機化合物の精製（３）（カラム操作の実際）
⑧有機化合物の精製（４）（カラム操作の実際）
⑨ＮＭＲ、ＭＳスペクトルの読み方と実験ノートへの書き方
⑩ＮＭＲ、ＭＳスペクトルの読み方と実験ノートへの書き方
⑪研究進歩状況の報告書の作成と成果発表の仕方
⑫自身の研究テーマに関する調査とプレゼンテーション練習
⑬自身の研究テーマに関する調査とプレゼンテーション練習
⑭他研究室にてプレゼンテーション、及び総括

物質化学研究デザイン演習

【担当】富崎　欣也
【開講】後期　月３・月４

■講義概要
研究者･技術者への第一歩として、「立案、調査、提案、実験、考察、報告」といった一連の研究開発行程を学ぶことは非常に意義深い。本講では、これまで講義、演習や学生実験を通して習得してきた物質化学の基礎知識を基に、実際の研究テーマに即した研究提案を行うことで、受講者を化学分野の断片的理解から横断的理解へと導く。まず、研究室で行っているテーマの解説や有機合成化学の基礎、機器分析装置の原理・手法等を説明する。次いで、受講生自らが研究実施計画書を作成し、研究提案する。一部､早く進んだ受講生には実験も行ってもらう。また、視野を広げるために、受講者全員で他の研究機関を見学する。

■到達目標
学習・教育目標：Ｄ３，Ｅ１，Ｅ２（◎），Ｆ１（○）

■講義方法
研究室の基盤技術である有機化合物合成法および化合物同定のための機器分析装置の原理・手法について学ぶ。また、研究室で行っている研究分野を対象とした課題について実現可能な研究実施計画書を作成し、担当教員以外の教員に対して研究提案を行う。

■成績評価の方法
平常点（70%）　日常態度、課題・議論への参加等、積極性をもとに主担当教員が判定する。
その他（30%）　授業の最後に他の教員のもとでプレゼンを行い評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
研究者・技術者としての第一歩となる特別研究のテーマに近いことを学ぶ。自分の課題に対峙するのみならず、他の受講生の発表にも興味をもって、積極的に周辺知識の獲得に努めてもらいたい。

■講義計画
①研究室紹介・演習の進め方
②有機合成化学の基礎１
③有機合成化学の基礎２
④研究テーマの紹介１
⑤研究テーマの紹介２
⑥自己テーマの調査研究１
⑦自己テーマの調査研究２
⑧自己テーマの調査研究３
⑨自己テーマの調査研究４
⑩研究機関見学
⑪発表資料の作成１
⑫発表資料の作成２
⑬発表練習会
⑭他研究室での発表・総括

学科固有

物質化学総論

【担当】大柳　満之、内田　欣吾、白神　達也、中沖　隆彦、林　久夫、藤原　学、松下　隆之、宮武　智弘、和田　隆博、岩澤　哲郎、富崎　欣也
【開講】前期　火１

■講義概要
「環境・資源・エネルギー」を視野に入れて行動することが、21世紀に活躍する研究者・技術者・社会人に強く求められている。物質化学科のカリキュラムはこの考えのもとに組み立てられている。最初の2回の授業において物質化学科で4年間何を学び、卒業時には何ができるようになるのかを概説する。その後の講義では、物質化学科の全教員がリレー講義で物質化学各分野における最先端の研究成果や21世紀の物質化学に求められているものについて分かりやすく解説する。その中で、各教員の体験から生み出された貴重な研究哲学が語られるだろう。

■到達目標
学習・教育目標：B2（◎），C2,D3（○）
本講義を受講すると、物質化学科の4年間で何を学ぶのかを概観することができる。また物質化学各分野における最先端の研究成果を概観でき、今後学んでいく基礎科目がこれらとどのように関わり、いかに大切かを学ぶことができる。
物質化学科の学習内容および学習目標を理解する。グリーンケミストリーおよびJABEEプログラムについて理解する。最新の化学分野の研究動向を知る。

■講義方法
物質化学科の全教員が1回ずつを担当するリレー講義形式で行う。教科書等は使用せず、必要に応じてプリントなどの資料を配付する。プロジェクターやビデオを使用することもある。

■成績評価の方法
各講義時にレポートを課す
毎回、テーマごとにレポートの提出を求め、それによって評価する。

■テキスト
大柳満之編　『仏教の共生思想と科学技術』　丸善　2625円

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
毎回出席し、レポートを提出することを義務づけているので、必ず出席すること。

■講義計画
①グリーンケミストリー　ガイダンス
②日本技術者教育認定（JABEE）プログラムについて
③プラスチックの功罪
④光応答材料と分子機械
⑤機能性材料としての無機薄膜
⑥SI単位系と測定のいろいろ
⑦身の回りの高分子材料
⑧物質と光のかかわり
⑨生物の中の超分子化学
⑩地球環境問題と太陽電池
⑪光合成と酸素
⑫新しい創薬活動を目的とした挑戦的有機合成
⑬化学の眼で生命活動を観る
⑭環境負荷の低い無機燃焼合成

物理化学実験

【担当】林　久夫、石井　大輔
【開講】後期　月３・月４・月５

■講義概要
物質の物理的・化学的性質を定量的に測定することは物理化学の基本であり､物質化学の理解に不可欠である｡本実験では、物理化学関連の講義・演習の理解を深めることを主な目的とし、異なったテーマを順次実行する。これらの実験を通して、物理化学における基本的な測定技術を習得するとともに、これらの測定量の基本概念を把握する。そのため、装置を自作したり比較的単純な装置を使用するなどの工夫により、測定原理と測定値との間の関係が直観的に把握できるように計画されている。また、測定データの取り扱いに関する基本的な概念・技術も習得する。さらに、4年生配当の特別研究に対する基礎訓練としての性格もあわせ持っている。
結果として、以下に示す効果を期待している
(1) 関連分野の講義・演習の理解が深まる。
(2) 実験操作の基本が身につく。
(3) 簡単な測定装置を自分で組み上げることができるようになる。
(4) 簡単な装置で分子・原子レベルの測定ができる面白さを知る。

■到達目標
学習・教育目標：D3（◎），F1（○）
1) 基本的な実験操作を身に付けること。
2) 計画的に研究を進めるための手法を学ぶこと。
3) 物理化学で扱う基礎的な概念を直感的に把握すること。
4) 安全管理に関する知識を学ぶこと。
5) チームワークの手法を身に付けること。

■講義方法
3 ～ 8人の小グループに分かれ、毎回異なったテーマを順に行う。「物理化学実験指針」に基づく解説の後、教員やティーチング・アシスタント（TA）の指導・監督のもとに自ら実験を行う。結果はレポートにまとめて提出する。

■系統的履修
物理化学Ⅰ・演習および物理化学Ⅱ・演習

■成績評価の方法
平常点（20%）　準備状況、操作技術、積極性、理解度（評価にあたってはTAの意見も参考にする）
レポート（70%）　各テーマ毎に提出するレポート点の合計（6点×10回）
定期試験（10%）　最終回に実施する筆記試験

■テキスト
龍谷大学理工学部物質化学科　『物理化学実験指針（改定第12版）』
履修者に無料で配布する

■参考文献
龍谷大学理工学部物質化学科　『物理化学実験指針DVD』
足立吟也ら編　『物理化学実験のてびき』　化学同人　1800円
千原秀昭編　『物理化学実験法（第4版）』　東京化学同人　3200円
アトキンス　千原秀昭・稲葉章訳　『物理化学要論（第4版）』　東京化学同人　5600円

■履修上の注意・担当者からの一言
あらかじめ「物理化学実験指針（改定8版）」を熟読し、疑問点は調査や質問によって解決してから実験に取りかかること。操作の手順や意味を十分理解し、イメージトレーニングを積んでおくことは実験のスムーズな進行と安全のため重要である。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワー以外にも随時指定する。

■講義計画
①実験全体の解説と一般的注意
②反応速度－酸化還元反応の擬一次反応の速度定数を決定する
③凝固点降下－凝固点降下を測定し、分子量を求める
④蒸気圧－蒸発のエンタルピーおよびエントロピー変化を求める
⑤密度－密度測定により高分子の結晶化度を求める
⑥粘度－溶液の粘度を測定し、極限粘度から分子量を評価する
⑦表面張力－液滴法により界面活性剤の臨界ミセル濃度を決定する
⑧吸着－吸着等温線から比表面積を求める
⑨電導度－比電導度を測定し、電離定数を求める
⑩放射線－放射線の基本性質を測定する
⑪計算化学－パソコンを用いて分子動力学シミュレーションを行う
⑫予備日
⑬筆記試験

物理化学Ⅰ・演習

【担当】林　久夫
【開講】後期　木2

■サブタイトル
物理化学入門
■講義概要
この講義では、物質化学科の学生として必須である化学の３分野（無機化学・有機化学・物理化学）のうち、物理化学分野の基礎知識を、いくつかの簡単な法則に基づいて整理する。また、化学入門として、科学的思考センスを養うことをも目的としている。高校で化学を選択しなかった諸君にも十分理解できるよう、基礎的な事項から始め、具体例や応用例を示しながら順を追って講述する。また、適宜演示実験や演習を行い、理解の助けとするとともに、科学技術レポートの作成等の指導も行う。講義内容は、物質の三態（相転移）、気体の性質（完全気体、状態方程式、気体運動論モデル、実在気体、気体の液化）、熱力学の基礎（圧力、温度、熱、仕事、状態量、系）を扱う。
■到達目標
学習・教育目標：D2（○）
高校で化学を履修した人にはその復習として、充分化学を履修してこなかった人に対しては化学への入門としての役割を果たし、化学の基礎知識を再確認して、大学での自発的な学習へのスムーズな移行を達成すること。
■講義方法
毎回の授業のテーマは常に明確化し、重要なポイントは全て板書し強調する。授業は講義と演習を効果的に組み合わせた形態で行う。基本概念の解説の後、適宜演習、レポートやクイズ（短時間のテスト）を課し、講義内容の理解度を深めると同時に応用力を身につける。
■系統的履修
物理化学II・演習、物理化学III、物理化学IV
■成績評価の方法
平常点（40%）（演習・レポート・小テスト等
定期試験（30%）（期末試験（電卓持ち込み可、ノート・教科書等持ち込み不可））
その他（30%）（中間試験（電卓持ち込み可、ノート・教科書等持ち込み不可））
中間試験の得点が10点未満のものに対しては補習を行い、その成果に応じて0 ～ 10点を加算する（合計10点を限度）。
■テキスト
アトキンス、千原秀昭・稲葉章訳 『物理化学要論（第4版）』 東京化学同人　5600円
■参考文献
斎藤勝裕・林久夫 『ステップアップ 大学の物理化学』 裳華房　2520円
■履修上の注意・担当者からの一言
主体的に学ぶ姿勢が大切なのであって、形式的な出席は望んでいない。化学一般の素養を身に付けることが最終目標であり、色々な学習方法の中で、真剣にかつ積極的な姿勢で講義を聴くことが結局一番の近道であることを理解して欲しい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
学科のホームページ等で周知した時間以外にも随時指定する。
■講義計画
①物理化学の体系
②気体、液体、固体
③理想気体と状態方程式
④実在気体と臨界現象
⑤相転移
⑥熱と仕事とエネルギー
⑦中間テスト
⑧定積変化と定圧変化
⑨定積熱容量と定圧熱容量
⑩内部エネルギーとエンタルピー
⑪反応熱とヘスの法則
⑫標準生成熱
⑬原子化熱と結合エネルギー
⑭熱化学の基礎

学科固有

物理化学Ⅱ・演習（2007年度以降入学生）
物理化学Ⅰ（2006年度以前入学生）

【担当】林　久夫
【開講】前期　木2

■サブタイトル
化学熱力学入門
■講義概要
物理化学は、無機化学、有機化学と並んで化学の主要な分野であり、物質化学の基礎である。本講では「物理化学Ⅱ」、「物理化学Ⅲ」および「分析化学」等の関連科目と総合して、物理化学の基礎をバランスよく提供する。範囲は主として化学熱力学の基礎領域である。まず、熱力学で用いられる基本的な概念の再確認から始め、熱力学の基本法則である第一法則、第二法則を詳説する。さらに、これらの応用として、化学反応熱の計算、化学平衡と反応の進行方向の予言、相転移や相平衡、ならびに溶液の性質などを取扱う。講義全体を通じて現実に即した計算を行うことで抽象的概念を直感的に把握し、その取扱いに習熟することに努める。
■到達目標
学習・教育目標：D2（○）
あらゆる物理的な変化や化学反応の進行方向が何によって決定されるのかについての基本的な考え方を理解することができ、物質化学の理解と開発に使用できる非常に強力な武器を手に入れることができる。
1）第一、第二法則の基礎を把握する。2）代表的な変化過程について、熱・仕事、内部エネルギー、エンタルピー、エントロピー、ギブズエネルギーの変化を計算できる。3）それらを化学反応および相変化に応用できる。
■講義方法
毎回の講義のテーマは常に明確化し、重要なポイントは板書し強調する。随時レポートやクイズ（短時間のテスト）を課し、出欠を確認するとともに講義内容の理解度を把握し、学生諸君が消化不良に陥らないよう配慮する。
■系統的履修
物理化学Ⅰ・演習，物理化学Ⅲ，物理化学Ⅳ
■成績評価の方法
平常点（40%）（演習、レポートおよび小テスト）
定期試験（30%）（期末試験（電卓持ち込み可、ノート・教科書等持ち込み不可））
その他（30%）（中間試験（電卓持ち込み可、ノート・教科書等持ち込み不可））
■テキスト
アトキンス　千原秀昭・稲葉章訳 『物理化学要論（第4版）』 東京化学同人　5600円
■参考文献
斎藤勝裕・林久夫 『ステップアップ 大学の物理化学』 裳華房　2520円
渡辺啓 『化学熱力学（改訂版）』 サイエンス社　1650円
■履修上の注意・担当者からの一言
主体的に学ぶ姿勢が大切なのであって、形式的な出席は望んでいない。物理化学の素養を身に付けることが最終目標であり、色々な学習方法の中で、真剣にかつ積極的な姿勢で講義に参加することが結局一番の近道であることを理解して欲しい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
学科のホームページ等で周知するものの他、随時指定する。
■講義計画
①熱力学とは
②理想気体と実在気体
③液体と溶液
④エネルギーと熱・仕事
⑤熱力学の第一法則
⑥反応熱と結合エネルギー
⑦中間試験
⑧可逆過程と不可逆過程
⑨熱力学の第二法則
⑩エントロピーの性質
⑪ギブズエネルギー
⑫純物質の相平衡
⑬化学ポテンシャル
⑭化学ポテンシャルと化学平衡

物理化学Ⅲ（2007年度以降入学生）
物理化学Ⅱ（2006年度以前入学生）

【担当】富崎　欣也
【開講】後期　金３

■講義概要
物理化学は、無機化学、有機化学と並んで化学の主要な部分を占めており、物質化学科の学生にとって必須の分野である。物質化学科では、物理化学Ⅰ、Ⅱ、ⅢおよびⅣで、アトキンス著の物理化学要論を分担して受け持ち、物理化学の基礎をバランスよく提供することを目的としている。すなわち、一連の科目について同一の教科書を用いることにより、受講生諸君が自分が今学んでいる事項が、この学問分野全体のどの位置にあるかを容易に把握することができるよう計画されている。その中で、物理化学Ⅲがカバーする範囲は、相平衡、化学反応速度論、凝集力と構造で、教科書の章立てで行くと、それぞれ第5章、6章、7章、10章、11章、15章および16章に対応する。講義の順番が変わることがある。

■到達目標
学習・教育目標：D2（○）
相平衡では、1、2成分系の相図および理想溶液の基礎を、化学反応速度論では、経験的な反応速度論を中心に素反応や速度式の成り立ちも勉強する。

■講義方法
各講義テーマの重要な事項について解説する。難しいと思われるところは、反復しながら十分に理解できるよう努めたい。また、演習問題を具体例として理解を深める。

■系統的履修
物質化学の1年次における学部内共通科目と学科基本科目、特に物理化学Ⅰは必須。

■成績評価の方法
定期試験（50%）
その他（50%）　中間試験を行う
中間試験と学期末試験で評価する。

■テキスト
P.W.アトキンス、千原･稲葉訳　『アトキンス物理化学要論（第３版）』　東京化学同人　5600円

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
この講義は、特定の教科書を使用するが、基本的に授業に出ていないと理解できなくなる。毎回の復習はテキストの演習と共に十分に行ってほしい

■講義計画
①平衡に関する一般則１
②平衡に関する一般則２
③混合物の性質１
④混合物の性質２
⑤混合物の性質３
⑥自由エネルギーと化学平衡１
⑦自由エネルギーと化学平衡２
⑧自由エネルギーと化学平衡３
⑨反応速度論１
⑩反応速度論２
⑪反応速度論３
⑫固体状態
⑬分子の構造
⑭その他

学科固有

物理化学Ⅳ（2007年度以降入学生）
物理化学Ⅲ（2006年度以前入学生）

【担当】白神　達也
【開講】後期　水１

■サブタイトル
原子構造・化学結合・統計力学・分子分光法

■講義概要
原子や分子はわれわれの日常感覚からはほとんど推し量ることのできない振る舞いをします。その振る舞い方を知ることは物質の構造や性質などを理解するためには非常に重要です。このミクロの世界を支配する法則が量子力学であり、高校や１年次で学んだニュートンの運動方程式（古典力学）とは異なるシュレーディンガー方程式がその基礎となっています。この方程式の解から原子・分子の構造や化学結合に関する種々の情報が得られます。また、原子・分子の構造に基づいた分子分光法が非常に発達し、材料の解析に不可欠の手段となっています。これらの知識は化学を学ぶための必須の基礎といえます。これらのことがらについて本講義で解説します。

■到達目標
学習・教育目標：D2（○）
原子・分子構造や化学結合を支配する基本原理の理解や、物質の構造と物性を理解するときの基礎概念の理解。赤外、ラマン散乱、NMRなど重要な分子分光法の測定原理とその理解に必要な統計的なものの見方。

■講義方法
教科書、板書、プリントなどにより行います。理解度を確認するためのレポート、小テストを必要に応じて課します。出席は何らかの形で毎回取ります。試験を受けるには60%以上の出席が必要です。

■系統的履修
無機化学Ⅰ･演習、無機化学Ⅱ･演習、物理学Ⅰ･演習、物理学Ⅱ･演習、物理化学Ⅰ・演習、物理化学Ⅱ・演習、物理化学Ⅲ

■成績評価の方法
小テスト（25%）　５回の小テストの合計です。
その他（75%）

■テキスト
アトキンス　『物理化学要論（第４版）』　東京化学同人　5800円

■参考文献
アトキンス　『物理化学（上・下）第６版』　東京化学同人
アトキンス　『物理化学問題の解き方（学生版）第６版』　東京化学同人

■履修上の注意・担当者からの一言
ミクロな世界はわれわれの感覚とはかけ離れています。そのことをもって「理解できない」とは考えないでください。私だって感覚的にはあわないが、「実験事実」が上記の考えの肩を持っているので信じているのです。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
別途掲示します。Ｉ号館210号室を訪ねてくれば、可能な限り対応します。

■講義計画
①量子論　－微視的な系の力学（量子力学）－
②原子構造（１）－水素型原子－
③原子構造（２）－多電子原子の構造－
④化学結合（１）－いろいろな概念－
⑤化学結合（２）－原子価結合法－
⑥化学結合（３）－分子オービタル－
⑦分子性の物質・双極子モーメント
⑧統計的な考え方
⑨分布という考え方
⑩量子論と分布
⑪分子分光法（１）－分子の回転と振動－
⑫分子分光法（２）－電子遷移－
⑬分子分光法（３）－磁気共鳴－
⑭まとめ

物理学Ⅰ・演習

【担当】澤田　肇
【開講】後期　水3

■サブタイトル
大学レベルの化学学習に必要な最低限の力学範囲の物理
■講義概要
大学での化学学習に必要不可欠な最低限の力学範囲の物理を高校レベルの初歩から講義・演習する。
■到達目標
学習・教育目標：D1（◎）
大学レベルの化学を学習する上で最低限必要不可欠な力学範囲の物理をマスターすること
■講義方法
教科書および適宜プリントを用いての授業。講義形式。
■成績評価の方法
筆記テスト等
■テキスト
澤田肇著　『《基礎固め》物理』　化学同人発行　1800円
■参考文献
必要に応じて随時紹介
■履修上の注意・担当者からの一言
専門科目は、本科目の十分な理解を前提として講義されることを注意しておく。
■講義計画
①力の性質（1）
②力の性質（2）
③力のモーメント
④問題演習（1）
⑤運動と微分積分
⑥力と運動
⑦問題演習（2）
⑧運動量と力積
⑨衝突と分裂
⑩問題演習（3）
⑪仕事
⑫位置エネルギー
⑬力学的エネルギー
⑭問題演習（4）

学科固有

物理学Ⅱ・演習（2007年度以降入学生）
物理学Ⅰ（2006年度以前入学生）

【担当】白神　達也
【開講】前期　月2

■サブタイトル
化学に必要な範囲の力学入門
■講義概要
原子や分子の運動は、本質的には量子力学という力学にしたがいます。しかし、少し重い原子やイオンではそれらを質点と考えたニュートンの運動方程式が充分な近似で成り立つので、古典と言われる力学を学ぶことは今もなおその価値が失われてはいません。本講義では化学で必要な最小限の力学について解説します。また、物体の回転を表すにはベクトルの内積に加えベクトル積が必要なので、その解説も行います。分子の運動も、剛体と呼ばれるある形を持ったものの運動と考えるのが、わりとよい近似になることが多いので、剛体の運動について学ぶことは分子運動のイメージをつかむ助けになります。
■到達目標
学習・教育目標：D１（◎）
質点系の古典力学を中心に、バネを例にした保存力とエネルギー保存の関係を解析的に理解すること。ベクトル積の計算法とその物理的意味、剛体の簡単な運動と慣性モーメントの計算および物理的意味、座標の変換。
■講義方法
教科書、板書、プリントなどにより行います。理解度を確認するための小テストを必要に応じて課します。出席は何らかの形で毎回取ります。試験を受けるには60%以上の出席が必要です。
■系統的履修
物理学Ⅰ・演習、数学Ⅰ・演習、数Ⅱ・演習、物理化学Ⅳ・演習
■成績評価の方法
小テスト（25%）　5回の演習（小テスト）の合計です。
定期試験（75%）
■テキスト
戸田盛和　『物理入門コース１　力学』　岩波書店　2500円
■参考文献
戸田盛和、渡辺慎介　『物理入門コース演習1　例解力学演習』　岩波書店　2800円
■履修上の注意・担当者からの一言
物理学Ⅰ・演習、数学Ⅰ・演習を熱心に受講して欲しいです。できるだけわかりやすく講義をするつもりですが、演習問題を自分で解くなど受講する方も努力をして下さい。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
別途連絡します。一号館210号室を訪ねてくれれば可能な限り対応します。
■講義計画
①空間と時間、速度、速度の積分
②運動の法則
③運動量と力積、直線運動と単振動
④１次元の運動とエネルギー
⑤２次元の運動
⑥仕事と運動エネルギー
⑦力のポテンシャルとエネルギー保存
⑧中心力と平面極座標
⑨角運動量と力のモーメント
⑩ベクトル積
⑪質点系の力学
⑫分子の慣性モーメント
⑬相対運動
⑭オイラー角

物理学Ⅲ・演習（2007年度以降入学生）
物理学Ⅱ（2006年度以前入学生）

【担当】和田　隆博
【開講】後期　水2

■サブタイトル
量子学入門
■講義概要
量子力学は現在における物理学の1つの大きな柱であり、物理化学･無機化学･有機化学を問わずすべての化学の基礎である。しかしながら、量子力学はその重要性にも関わらず高校の授業ではほとんど取り上げられていない。本講義では物理学序論や物理学Ⅰで学んだ古典力学の知識を基礎にして、量子力学への発展について理論の進展と実験を対比させながら説明する。特に化学の学生に理解が難しい物質の波としての性質について詳しく講義する。また、物質化学の基礎として重要な光や電子の性質については詳しく講義する。授業の最後には、その日に講義した内容について演習を行う。
■到達目標
学習・教育目標：D1（◎）
物理化学・無機化学・有機化学を含むすべての化学の基礎として有用である。量子力学の基礎を理解して、物理化学・無機化学・有機化学への応用について対応できる。
■講義方法
教科書に沿って講義する。講義とともに演習を行い、理解を深める。
■系統的履修
物理学Ⅰ, 物理学Ⅱ
■成績評価の方法
小テスト（20%）
定期試験（80%）　中間試験（30点）, 期末試験（50点）
■テキスト
長岡洋介著　『岩波講座物理の世界　量子力学2　量子力学の考え方』　岩波書店　1400円
■参考文献
千原 秀昭, 稲葉 章 訳　『アトキンス　物理化学要論（第3版)』　東京化学同人　5880円
高田 健次郎著　『わかりやすい量子力学入門 ～原子の世界の謎を解く～』　丸善　2625円
■履修上の注意・担当者からの一言
大学に入ってはじめて学ぶ科目である。繰り返し勉強して新しい概念に慣れるようにしてほしい。
■講義計画
①なぜ量子力学を学ぶのか
②古典物理学の困難（1）
③古典物理学の困難（2）
④古典物理学の困難（3）
⑤量子論の誕生（1）
⑥量子論の誕生（2）
⑦量子論の誕生（3）
⑧中間試験
⑨量子力学の確立（1）
⑩量子力学の確立（2）
⑪量子力学の確立（3）
⑫波動関数と確率
⑬古典力学と量子力学
⑭復習

物理学Ⅳ・演習（2007年度以降入学生）
物理学Ⅲ（2006年度以前入学生）

【担当】榊間　博
【開講】前期　木3

■サブタイトル
電磁気学入門
■講義概要
物理Ⅳで取り上げる電磁気学は現代社会において重要な分野であるとともに、物質化学・材料工学分野の学生にとってその基礎となる科目の一つである。金属や半導体、磁性体や誘電体等の機能材料の理解には電磁気学の知識は不可欠である。講義としては化学系の学生にも理解しやすいよう出来るだけ物質に関連した具体例を取り入れ、演習では基礎的な計算法を理解して初歩的な問題が解けるように指導する予定である。３年で開講される「結晶材料工学」や「機能材料工学」、「エネルギー循環工学」の基礎科目である。
■到達目標
学習・教育目標：D1（◎）
電気化学を含む物理化学や機能材料工学の基礎。電磁気的な考え方で空間と物質を理解できるようになる。また電磁気学の公式を用いて簡単な問題が解けるようになる。
■講義方法
(1) 教科書に従って授業を行う。講義とともに演習を行い、理解を深める。
(2) 更なる理解を深めるため、適時レポート課題を課す。
■系統的履修
物理学Ⅰ・演習、物理学Ⅱ・演習、物理学Ⅲ・演習
■成績評価の方法
レポート（20%）
定期試験（80%）
定期試験としては中間試験（20点）と期末試験（60点）を行う。
60%以上の出席を必要条件とする。
■テキスト
佐野元昭　『新・基礎　電磁気学』　サイエンス社　1890円
■参考文献
特になし
■講義計画
①クーロン力
②静電界
③電位
④ガウスの法則
⑤導体
⑥コンデンサ
⑦誘電体
⑧定常電流
⑨電流が作る磁界
⑩ローレンツ力
⑪アンペールの法則
⑫磁性体
⑬電磁誘導
⑭交流回路

プレゼンテーション演習

【担当】盛岡　真美子
【開講】前期　水1or 水2

■サブタイトル
「どうすれば自分を相手に伝えられるか？」
■講義概要
普段の人間関係はもちろんのこと、就職活動においてもコミュニケーション能力が欠かせないのは周知の事実。しかし、どうすればコミュニケーション能力を高めることができるのか？コミュニケーション能力が高い人とはどういう人のことなのか？そもそも、コミュニケーション能力とはどういう能力のことなのか？などと問われても、なかなか答えにくいものなのではないでしょうか。「自分の考えをしっかりと持ち、きちんと相手にもわかるように伝え、理解してもらう」というのは、言うのは簡単ですが、いざ実践しようとするとなかなか難しいことです。この講座では、コミュニケーションに必要なものとはいったい何なのか、ということから始め、より良い自己表現ができるようになることを目的とした実践演習を通して「読む（聞く）」「考える」「表現する（書く・話す）」という力を身につけていきます。
【対象】
・人前で話すのが苦手な人、慣れていない人
・「自分の考えを述べよ」と言われても何も思い浮かばない人
・言いたいことはあるのだけれど、相手にうまく伝えられない人
・面接に強くなりたい人
・人とのコミュニケーションに自信のない人
■到達目標
学習・教育目標：Ｆ１（○）
「相手の発言をきちんと受けとめ、理解した上で、自分の考えを見出し、深め、それを相手にもわかるように伝える」という力を身につけることで、就職活動の際に自信を持って自己ＰＲができるようにする。
■講義方法
・毎回、与えられたテーマに応じて、各自が「考え」「発表する（書く・話す）」。
・テーマの内容によっては、「１対１」や「グループ（集団）」での討論をおこなう。
■成績評価の方法
授業のなかで各自が発表する「論文」や「意見」等によって決定する。
■テキスト
毎回、プリントを配布する。
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
本講座は、受講生が積極的に参加し、発表することで力をつけていくことを目的とした、実践演習重視の講座です。普段、人前で話すのが苦手な人も、勇気を持って参加することで、「自分を変える」経験にしていきましょう。
■講義計画
①自己紹介（簡単な自己ＰＲ）を実際に行ってもらい、「効果的な自己紹介とは？」について考える
②与えられたテーマについて理解し、自分の考えを見つける作業をした上で、それを文章化する
③与えられたテーマについて、反論を想定しながら自分の考えをまとめ、発表する
④与えられたテーマについて、みんなで討論した上で各自が自分の考えをまとめ、発表する。
⑤与えられたテーマについて、1対1で話し合い、相手の意見についてまとめる。
⑥最近のニュースの中から自分の興味のあるものを取り上げ、自分の意見を交えながら発表する
⑦「私の仕事観」について考察し、自分の考えを「理論的」に書く
⑧「現代の若者」について書かれた文章について、その内容について討論する
⑨“就活模擬面接”という設定で、一人ひとりが「自己ＰＲ」をしていく
⑩与えられたテーマについて、2チームに分かれて討議する（ディベート）
⑪「企業が大学生に求めていること」について各グループに分かれて話し合い、グループごとの意見をプレゼンする
⑫集団討議面接という設定で、与えられたテーマについて語り合う
⑬「プレゼンテーション」について、後輩にアドバイスを求められたと想定した上で、どんなアドバイスをしたらよいか、グループごとに話し合い、その内容をプレゼンする
⑭仮の「エントリーシート」に記入し、各自が「自分」についてのプレゼンをする

分子設計化学

【担当】岩澤　哲郎
【開講】後期　水1

■講義概要
次世代の物質化学産業は低コストかつ短工程な実用的プロセスに価値を求めている。そのためには、グリーンケミストリーの概念に基づいた戦略的な合成化学的考え方が必須となる。本講義ではその本質の一つである逆合成解析について解説する。作りたい分子や欲しい分子を設計して組み立てるための方法論と、そこから見える問題点を学ぶ。
■到達目標
学習・教育目標：Ｅ１（◎）
目的とする分子を逆合成解析して合成経路を立案し、実際に合成ルートを提案する能力を習得する。周辺の境界領域分野の問題に応用する能力も養う。
■講義方法
テキストを使用しない。適宜解説プリントと演習問題を配布して進める。これまでの有機化学の復習も兼ねながら総合的に講述し、「理解すること」に力点を置く。
■系統的履修
有機化学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、有機合成化学実験、工業化学、有機材料化学、生化学
■成績評価の方法
平常点（40%）・定期試験（60%）
■テキスト
特になし
■参考文献
C. L. ウィルス著、富岡 清 訳 『有機合成の戦略』 化学同人 2100円
■履修上の注意・担当者からの一言
「逆合成解析」は現代有機合成の基盤となる実際的な考え方。有機系研究室においては最もベースとなる「ものづくり」のための方法論の一つ。超分子化合物の合成に焦点を絞った講述も行います。意欲ある学生の積極的な参加を求めます。分子化学の多様性と実験化学の魅力に触れてほしい。
■講義計画
①「逆合成解析」とは
②結合の分極と電子の動き
③結合の切断とシントン及び合成等価体について
④潜在極性が一致する場合と一致しない場合
⑤極性転換（umpolung）の例
⑥「官能基の反応性」と「逆合成解析」の関係
⑦官能基相互変換の例
⑧複雑な分子の合成に効率よくアプローチするための基本指針
⑨官能基選択的反応の利用法
⑩位置選択的反応の利用法
⑪超分子相互作用を組み込んだ分子へのアプローチ
⑫分子認識部位を組み込んだ分子へのアプローチ
⑬超分子化合物の合成に向けた逆合成解析
⑭まとめ

分析化学

【担当】藤原　学
【開講】前期　金2

■サブタイトル
溶液内化学平衡
■講義概要
「化学平衡」は、化学における最も重要な概念の一つである。高等学校の化学では定性的に説明されているのみであるので、ここでは近似を用いた定量的な取り扱いについて学ぶ。講義では、まず物理化学的な観点から化学平衡の本質を論じ、化学分析の基礎となる溶液内平衡および反応を分類し、それぞれの特徴を明らかにしていく。そこから次第に定量的な取り扱いを行っていく。化学平衡の知識は、実際の化学分析だけでなく、有機合成における分離、無機化合物における熱的挙動などにおいても非常に重要であるので、確実に習得してほしい。
分析化学は、化学の分野で起こっている現象を定量的に理解する物理化学系列科目の基礎科目として位置付けられており、本講によって、化学平衡についての考え方ならびに定量的な取り扱い方を習得することができる。
■到達目標
学習・教育目標：D2（○）
化学平衡の考え方を理解する。化学平衡式をたてる。種々の近似を適切に用いて、化学平衡にある化学種の濃度を計算できる。
■講義方法
教科書、プリントおよび黒板を使い、講義を行なう。適時小テストや宿題を課して理解度を深める。
■系統的履修
「物理化学Ⅰ・演習」「物理化学Ⅱ・演習」「物理化学Ⅲ」「物理化学Ⅳ」「量子化学」
■成績評価の方法
レポート（30%）　各課題に対する達成度および理解度
定期試験（70%）　中間試験30%、講義最後の定期試験40%
■テキスト
アトキンス　『物理化学要論（第3版）』　東京化学同人　5600円
この教科書は物理化学系列科目である「分析化学」「物理化学Ⅰ・演習」「物理化学Ⅱ・演習」「物理化学Ⅲ」「物理化学Ⅳ」および「無機化学Ⅲ」において使用するので、講義開始前に購入しておくこと。
■参考文献
斉藤勝裕・藤原学　『ステップアップ大学の分析化学』　裳華房　2400円
その他の参考文献・資料等は講義時に指示する。
■履修上の注意・担当者からの一言
講義のスピードは少し速いかもしれないが、毎回重要な項目の理解度を演習問題・課題でチェックできるようにしているので、理解できない部分がある場合はいつでも積極的に質問していただきたい。高校で学習した「化学平衡」をより詳しく述べているので、化学Ⅱを履修していれば他学科の学生でも充分習得できると思われる。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義中に伝える。研究室（１号館２１２室）に来てくれれば、オフィスアワー以外でもできるだけ時間をつくって説明するつもりである。
■講義計画
①はじめに（モルの概念、濃度の計算、化学平衡の概略）
②物理化学的取り扱い・化学平衡の分類・酸および塩基の定義
③強酸と弱酸・強塩基と弱塩基・強酸の希薄溶液
④酸塩基解離平衡（1）、一塩基酸の解離、電荷均衡式と質量均衡式
⑤酸塩基解離平衡（2）、多塩基酸の解離、近似の導入
⑥酸塩基解離平衡（3）、弱酸と強塩基の塩、強酸と弱塩基の塩
⑦酸塩基解離平衡（4）、緩衝溶液
⑧中間試験
⑨溶解度平衡（1）、塩の溶解、難溶性塩
⑩溶解度平衡（2）、平衡に関係するイオンのみの場合
⑪溶解度平衡（3）、平衡に関係しないイオンが共存する場合
⑫溶解度平衡（4）、平衡に影響をおよぼす因子
⑬化学平衡を用いた分離、中和滴定、沈殿滴定
⑭まとめ・総合問題

無機化学Ⅰ・演習（2007年度以降入学生）
無機化学Ⅰ（2006年度以前入学生）

【担当】和田　隆博
【開講】前期　木1

■サブタイトル
無機化学入門
■講義概要
無機化学はすべての元素とその化合物を対象にしている。そのため、扱う物質は膨大であり、その構造や性質も非常に多様性に富んでいる。それで、ともすれば講義は各論中心になり知識の詰め込みになりやすい。本講義では、そのような負担をできるだけ少なくするために、原子の構造や分子の構造、化学結合の把握を中心に行う。個々の物質については基本概念の応用として取り扱う。演習を通してその基本的概念の活用方法を学びつつ、幅広い応用力を養う。
■到達目標
学習・教育目標：D2（○）
無機化学の基礎や化学結合論の基礎。本講義で学ぶ大学における化学の概念に早く慣れると有機化学や物理化学等の他の科目に対する理解も深まる。元素の周期性の根本を理解し、化学結合の本質を理解することで、大学の化学として化合物の構造や性質を統一的に理解できるようになる。
■講義方法
教科書を参考にしながら講義を進め、演習を通して基本概念を活用する方法を学ぶ。
■成績評価の方法
小テスト（20%）
定期試験（80%）　中間テスト（30点），期末テスト（50点）
■テキスト
M. J. Winter 著 西本吉助訳　『フレッシュマンのための化学結合論』　化学同人　2200円
■参考文献
三吉克彦著　『はじめて学ぶ大学の無機化学』　化学同人　2200円
平山令明著　『実践　量子化学入門　分子軌道法で化学反応が見える』　ブルーバックス・講談社　1500円
■講義計画
①大学で学ぶ無機化学
②原子の構造（1）
③原子の構造（2）
④原子の構造（3）
⑤原子の性質
⑥原子価結合法（1）
⑦原子価結合法（2）
⑧分子の形とVSEPR則
⑨中間試験
⑩分子軌道法の基礎（1）
⑪分子軌道法の基礎（2）
⑫等核2原子分子（1）
⑬等核2原子分子（2）
⑭異核2原子分子

無機化学Ⅱ・演習（2007年度以降入学生）
無機化学Ⅱ（2006年度以前入学生）

【担当】松下　隆之
【開講】後期　木4

■講義概要
無機化学Ⅱ・演習では、典型元素の性質と化合物について簡単に概説したのち、おもに金属および金属イオンの性質ならびに配位化合物に関して、それらの反応性と構造との関連について述べる。とくに、遷移金属イオンを含む化合物の酸化還元反応について詳述する。また、配位化合物の応用面と生体内に微量存在するこれら金属イオンの役割や、生体にとって有害な金属イオンの振舞いについて述べる。さらに、無機イオンの関与した溶液内反応から核化学に至るまで以下の項目に従って講述し、常に演習を行いながら理解度を深める。

■到達目標
学習・教育目標：D2（○）
広範な化学物質に関する知識を学ぶとともに、身の回りから生体内に至るまで化学物質が果たしている役割について知ることを到達目標とする。さらに、私たちの生活が多種多様の物質によって支えられているかも進んで調査し、レポートする。

■講義方法
テキストの内容に準じながら、最近のトピックスを適宜取り入れ、板書およびプリントを配布して講義する。随時、演習を行い、理解度を確認する。さらに、宿題（演習）を多く課し、講義に即したレポートを課す。

■系統的履修
分析化学、無機化学Ⅰ・演習

■成績評価の方法
小テスト（15%）・レポート（15%）・定期試験（70%）

■テキスト
鈴木晋一郎ら著　『ベーシック無機化学』　化学同人　2625円

■参考文献
F.A.Cottonら 著　『Advanced Inorganic Chemistry-6th ed』　John Wiley, N.Y.

■履修上の注意・担当者からの一言
無機化学Ⅱ・演習は固有科目の中で基礎科目であるから、1年次において修得しておくことが必要である。わからないこと、疑問点については積極的に質問することを期待する。演習は自らの理解力を深めるためであるから、自分自身で行うことが肝要である。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
月曜日：５限目、６限目

■講義計画
①典型元素の化学……演習
②貴ガス、水素、酸素……演習
③アルカリ金属とアルカリ土類金属……演習
④ハロゲン族と硫黄族……演習
⑤窒素族、ホウ素族と炭素族……演習
⑥遷移元素の化学Ⅰ……演習
⑦配位結合と配位化合物……演習
⑧配位化合物の理論的取扱い……演習
⑨3d遷移元素の生体内での役割……演習
⑩有機金属化合物……演習
⑪遷移元素の化学Ⅱ（遷移元素の化合物）----演習
⑫遷移元素の化学Ⅱ（ランタノイドとアクチノイド）-----演習
⑬放射性元素と核化学----演習
⑭演習
⑮まとめと演習

学科固有

無機化学Ⅲ（2007年度以降入学生）
電子化学（2006年度以前入学生）

【担当】松下　隆之
【開講】前期　木4

■講義概要
本講義では、無機化学II・演習に引き続き、無機化学物質の特徴と応用について述べ、これらを理解するうえで必要な化合物の結晶構造と物質の対称性について講義する。次に、化学の現象には、電子をやりとりしながら進むものが多い。電気分解や電池の反応はもちろん、酸化還元反応に分類される反応はすべて原子・分子の電子授受反応である。生物の細胞内では多岐に渡る酸化還元反応が常に生じており、光エネルギーの助けで進む光合成はその代表的な例である。また、写真などもこの光電子移動反応に含まれる。こうした現象を理解し、制御・応用するには、電子移動に関して正しいイメージをもつことが重要である。この講義では、無機物質の詳細な性質を理解するように講義し、そのうえで電子移動の化学について概説し、電気化学の基礎と応用について以下の項目に従って講義する。

■到達目標
学習・教育目標：D2（○）
物質の構造と対称性を理解し、ついで電子移動が関与する原子・分子間での酸化還元反応のしくみと、光エネルギー、電気エネルギーと化学エネルギーとの相互関係や相互変換について理解し、将来の代替エネルギーを考えることを到達目標とする。

■講義方法
テキストおよび参考書の内容に準じながら、最近のトピックスを適宜取り入れ、板書およびプリントを配布して講義する。随時、レポートを課し、演習を行う。

■系統的履修
物質化学科固有科目の基礎科目とくに無機化学I・演習、無機化学II・演習など

■成績評価の方法
小テスト（15%）・レポート（15%）・定期試験（70%）

■テキスト
渡辺正・中村誠一郎著、日本化学会編　『電子移動の化学－電気化学入門（化学者のための基礎講座11)』　朝倉書店　3000円

■参考文献
松田好晴、岩倉千秋共著　『電気化学概論（化学教科書シリーズ)』　丸善　2900円
平尾一之ら　『無機化学ーその現代的アプローチ』　東京化学同人　3300円

■履修上の注意・担当者からの一言
将来の化石燃料の枯渇に備え、新規代替エネルギー資源の候補として考えられる、太陽電池や燃料電池ならびに光エネルギーの化学エネルギーへの変換材料としての触媒の開発を目指す学生諸君の受講を薦める。わからないこと、疑問点については積極的に質問することを期待する。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
月曜日　５限目、火曜日５限目

■講義計画
①無機化学物質の特徴と機能
②物質の構造と対称性
③電子移動の化学
④エネルギーと化学平衡
⑤標準電極電位とネルンストの式
⑥電極反応の速度
⑦電池によるエネルギーの変換と貯蔵
⑧電気分解による物質の製造
⑨金属の表面処理と腐食防止
⑩光のかかわる電気化学
⑪光合成－天然の光電気化学プロセス
⑫生体の機能と電気化学　I
⑬生体の機能と電気化学　II
⑭電気化学を応用した情報計測機器
⑮電気化学と環境保全

無機化学Ⅳ（2007年度以降入学生）
固体化学（2006年度以前入学生）

【担当】塩見　治久
【開講】後期　火2

■サブタイトル
結晶構造と相図（平衡状態図）

■講義概要
固体化学は、固体物質の構造、状態、物性、反応性、および合成法などを化学的側面から探求する学問領域である。近年、新素材開発、材料開発を含むいわゆる材料科学におけるめざましい発展にともない、固体化学を一つの分野として独立させようとする試みがなされると同時に、その重要性が日増しに認められてきている。本講義では、全ての領域を包含することは難しいので、固体化学の中でも基礎中の基礎である「結晶構造」と「平衡状態図」を中心に学習する。結晶化学、構造解析の一つであるX線回折、物質の状態と組織に密接に関係するギブスの相律と平衡状態図、固溶体や不定比化合物などの物質群についてできるだけ平易に授業を行う。

■到達目標
学習・教育目標：D2（○）
卒業研究等の実験を遂行する上に必要となる基礎能力を養う。結晶化学の基本的なところは、時間を割いて丁寧に説明し、また粉末X線回折と平衡状態図に関しても、卒業研究に困らないように実力を身につける。

■講義方法
各講義テーマの重要な事項について解説する。難しいと思われるところは、反復しながら十分に理解できるように努めたい。また、なるべく具体例も取り上げ、分かり易さを重視して講義を行いたい。

■系統的履修
物理化学Ⅰ、物理化学Ⅱ、物理化学Ⅲ

■成績評価の方法
定期試験（50%）
その他（50%）　中間試験を行う。
中間試験と学期末試験の結果により成績評価する。

■テキスト
特になし

■参考文献
A.R.West著、遠藤忠訳 『固体化学入門』 講談社　4893円
遠藤忠、岩崎博、鶴見敬章、中平敦、滝澤博胤 『結晶化学入門』 講談社　3045円
村石治人 『基礎固体化学』 三共出版　3045円

■履修上の注意・担当者からの一言
この講義は、特定の教科書を使用しないので、授業に出ていないと理解できなくなる。しかし授業に出ているだけでは試験の点数は取れない。毎回の復習は十分に行ってほしい。

■講義計画
①物質の充填構造
②対称性（回転、対称面、反転、回反、回映など）
③空間群（その意味と表記法）
④空間格子（ブラベ格子、ミラー指数、方向指数）
⑤代表的な結晶構造（MX、MX2）と多形
⑥代表的な結晶構造（M2X3、ABO3、AB2O4）
⑦格子欠陥と転位、不定比化合物（1）
⑧格子欠陥と転位、不定比化合物（2）
⑨平衡状態と化学ポテンシャル、ギブスの相律
⑩化合物と固溶体
⑪二成分系平衡状態図と不変系の反応
⑫状態図と形成組織の関係
⑬X線とブラッグの反射条件および粉末X線回折
⑭その他の固体のキャラクタリゼーション

学科固有

無機合成化学実験

【担当】大柳　満之、山添　誠司
【開講】前期　金3・金4・金5

■講義概要
無機化合物、合金、セラミックスに関する合成化学実験を通じて、各種合成プロセスにおける実験操作を習得する。1000℃を超える高い温度条件で使用する機器の操作に慣れる。実験操作にあわせて、置換反応、結晶の析出反応、結晶成長、試料の精製と結晶相転移、凝固、焼結等の物理化学的現象と相律や状態図（相図）との関係を学ぶ。実験は、実験書の予習、実験準備、実験操作、後かたづけ、レポート作成をもって完了する。実験を通じて安全や環境への対応についても経験する。

■到達目標
学習・教育目標：D3，E2（◎）
無機合成化学実験の基本操作や基礎的な物性測定法、と同時に無機物質の特性を理解するための基礎知識を修得できる。無機合成化学実験の基本操作を習得し、講義などで習った組織や相図などの関係を実際に実験で会得することを目標とする。

■講義方法
原則として2 ～ 4名を1チームにして、教科書に沿って実験する。実験の指導は教授、助手、実験講師、TA等で編成したチームで行う。

■系統的履修
特になし。

■成績評価の方法
項目ごとに提出したレポートの成績、実験中に行う個人面接による理解度チェック、出席状況や実験操作等の平常点を加味して評価する

■テキスト
龍谷大学理工学部物質化学科編 『無機合成化学実験　実験指針及び関連機器取扱説明書』

■参考文献
高温での実験などもあり、充分過ぎるほどの注意が要求されます。充分予習を行い適切な実験操作を頭の中で描いてから実験に取り組む習慣をつけてください。実験室を離れるときは、必ずTAなどの許可を取るようにしてください。

■履修上の注意・担当者からの一言
無機化学、物理化学や固体化学など基礎科目を充分に復習しておくこと。

■講義計画
①実験に関する諸注意と実験の解説
②無機塩の合成（鉄アンモニウムミョウバンの合成）
③金属と合金1（Al-Si二元系合金の溶製、熱分析と状態図の作成）
④金属と合金2（Al-Si二元系合金の顕微鏡観察用試料の調整）
⑤金属と合金3（Al-Si二元系合金の組織観察、写真撮影の硬さ測定）
⑥金属と合金4（炭素鋼の状態図と顕微鏡組織観察と記録）
⑦金属と合金5（炭素鋼の熱処理、組織観察と硬さ測定）
⑧セラミックス1（中和共沈法による安定化ジルコニアの原料合成）
⑨セラミックス2（安定化ジルコニアの原料調整、成形と焼結）
⑩セラミックス3（安定化ジルコニア、純ジルコニアの原料調整と焼結）
⑪セラミックス4（純ジルコニアの熱分析－示差熱分析と熱重量分析、安定化ジルコニアの熱膨張測定と焼結体の観察）
⑫セラミックス5（焼結体の評価－安定化ジルコニア、アルミナの組織観察）

無機・物理化学演習

【担当】白神　達也、山添　誠司
【開講】前期　水1

■講義概要
無機化学および物理化学の分野は非常に幅広い。本学科のカリキュラムにおいても、無機化学系列科目には、「無機化学Ⅰ・Ⅱ」「電子化学」「固体化学」「無機プロセス化学」が、物理化学系列科目には「分析化学」「物理化学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「量子化学」などがあり、それぞれの科目内容は関連している。これらの分野の演習問題を解くことによって、無機化学および物理化学だけでなく化学全般に対する理解をより一層深めることができる。本科目では、今まで習得してきた基本的な知識をもう一度確認し、平易な問題から大学院レベルに相当する高度な問題まで、自らが解答できるように指導する。

■到達目標
学習・教育目標：E1（○）
無機化学の基礎について様々な問題について解答できるようになること。
熱力学・総平衡の正しい理解、統計力学の理解、速度論や量子化学の計算の習熟。

■講義方法
各テーマの重要な事項について解説し、基本的な原理や公式および考え方について紹介する。いくつかの例題の解き方を解説した後、演習問題を解答してもらう。

■系統的履修
分析化学、機器分析化学実験、数学Ⅰ・演習、数学Ⅱ・演習、数学Ⅲ・演習、物理学Ⅰ・演習、物理学Ⅱ・演習、物理学Ⅲ・演習、無機化学Ⅰ･演習、無機化学Ⅱ･演習、物理化学Ⅰ･演習、物理化学Ⅱ・演習、物理化学Ⅲ、物理化学Ⅳ、量子化学

■成績評価の方法
定期試験（50%）　定期試験（無機化学分野）
その他（50%）　中間試験（物理化学分野）
物理化学分野は、中間試験（50点）とし、無機化学分野は、期末試験（50点）とし合計して評点とする。従って、両方の試験を受けないと60点以上の合格点は取ることができない。

■テキスト
『講義中に指示する。』

■参考文献
『講義中に指示する。』

■履修上の注意・担当者からの一言
関連する科目を既に履修していること。大学院進学予定者および公務員または教員採用試験を考えている学生は、受講することが望ましい。単に選択科目の数あわせ的な気持ちで受講するにはあまりにハードである。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
各教員の居室に指定されたオフィスアワーの時間帯に訪ねること。

■講義計画
①物理化学（気体の性質）
②物理化学（熱力学）
③物理化学（相平衡）
④物理化学（化学反応速度）
⑤物理化学（量子化学）
⑥物理化学（統計力学）
⑦中間試験（物理化学分野）
⑧無機化学（原子の構造と性質）
⑨無機化学（化学結合）
⑩無機化学（分子軌道法）
⑪無機化学（遷移元素の化学）
⑫無機化学（配位化合物）
⑬無機化学（金属錯体の性質と反応性）
⑭まとめ
⑮期末試験（無機化学分野）

学科固有

有機化学Ⅰ・演習（2007年度以降入学生）
有機化学Ⅰ（2006年度以前入学生）

【担当】中沖　隆彦
【開講】前期　火4

■講義概要
有機化学は炭素化合物の研究を行う分野の学問である。なぜ炭素だけを特別に扱うのだろうか？その答は炭素化合物は単純なものから生体を構成するたんぱく質にいたるまで膨大な数の化合物から構成されていて、バラエティーに富んだ諸性質を示すからである。有機化学Ⅰでは高校でも学習したことを復習しながら、共有結合の基礎から始まり、鎖状化合物の構造と反応性について学修することになる。

■到達目標
学習・教育目標：D2（○）
有機化学の基礎となるアルカン、アルケン、アルキンについての命名法、基本反応を習得する。

■講義方法
マクマリーの「有機化学・上」に沿って講義を行います。テキスト中の演習問題を指定しますので次回の講義までに提出してもらいます。試験を受けるには2/3以上の出席と演習問題の提出が必要です

■成績評価の方法
定期試験（50%）　答だけでなく、解き方も問いますので、十分に理解をしておいてください。
その他（50%）　中間テストを6月ごろに行います。

■テキスト
マクマリー　『有機化学（上)』　東京化学同人
マクマリー　『有機化学問題の解き方』　東京化学同人

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
授業中に理解して覚えてしまうように努力してください。あとで勉強しようと思っても量が多くなっていやになったり、授業で聞いたことを忘れたりしてしまいます。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
授業が終わった直後の校時に、教室を使ってTAの人と対応します。

■講義計画
①構造と結合１
②構造と結合２
③化学結合と分子の性質
④有機化合物：アルカンとシクロアルカン
⑤アルカンとシクロアルカンの立体化学１
⑥アルカンとシクロアルカンの立体化学２
⑦中間試験
⑧有機反応の概観１
⑨有機反応の概観２
⑩アルケン：構造と反応性１
⑪アルケン：構造と反応性２
⑫アルケン：反応と合成１
⑬アルケン：反応と合成２
⑭まとめ

有機化学Ⅱ・演習（2007年度以降入学生）
有機化学Ⅱ（2006年度以前入学生）

【担当】岩澤　哲郎
【開講】後期　火4

■講義概要
最近の科学技術の発展には有機化学が深く関与している。有機分子の構造に対する理解や反応機構の解明などが、新材料の創製や生命現象の解明に直結している。また有機化学自体も周辺の境界領域分野から影響を受けて、日進月歩の進化を遂げている。本講義では、有機立体化学、有機化合物（アルキン、ハロゲン化アルキル）の性質、有機化学反応メカニズム（求核置換、脱離）などについて講述する。

■到達目標
学習・教育目標：D2（○）
有機立体化学、有機化合物（アルキン、ハロゲン化アルキル）の構造、化学反応における基本的性質を理解する。

■講義方法
原則としてテキストに沿って講義する。また、化学式や構造式を多く書いて理解することに力点を置いて進める。

■系統的履修
有機化学Ⅰ、有機化学Ⅲ、有機化学Ⅳ、有機構造解析学、有機合成化学実験

■成績評価の方法
定期試験（50%）
その他（50%）　中間試験

■テキスト
マクマリー　『有機化学（上）』　東京化学同人　4500円

■参考文献
マクマリー　『有機化学　問題の解き方』　東京化学同人　4200円

■履修上の注意・担当者からの一言
履修のポイントは、暗記ではなく理解に注力すること。そのためにはできるだけ多くの分子構造を描き、問題を解いて考えること。分子化学の魅力に触れてほしい。

■講義計画
①アルキン（1）
②アルキン（2）
③アルキン（3）
④立体化学（1）
⑤立体化学（2）
⑥立体化学（3）
⑦中間試験
⑧ハロゲン化アルキル（1）
⑨ハロゲン化アルキル（2）
⑩ハロゲン化アルキルの反応（1）
⑪ハロゲン化アルキルの反応（2）
⑫ハロゲン化アルキルの反応（3）
⑬ハロゲン化アルキルの反応（4）
⑭ハロゲン化アルキルの反応（5）

学科固有

有機化学Ⅲ

【担当】内田　欣吾
【開講】前期　木3

■講義概要
本講義では1年次に行なわれる「有機化学Ⅰ」「有機化学Ⅱ」に続いての有機化学、芳香族化合物、アルコール、エーテル類の化学について述べる。芳香族の化学は、現在の有機半導体、機能性色素などの基礎になる重要な項目である。

■到達目標
学習・教育目標：D2（○）
芳香族化合物およびアルコール類、エーテル類の特徴と反応についての知識と理解が得られる。有機化学の中心的な反応の１つである求電子置換反応について芳香族化合物の反応例から理解する。

■講義方法
原則として教科書に沿って講義する。適宜、演習を行うとともに、宿題を課することもある。

■系統的履修
有機化学Ⅰ、有機化学Ⅱ

■成績評価の方法
中間試験30点・期末試験70点　合計100点満点で評価する。

■テキスト
マクマリー　『有機化学　中』　東京化学同人

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
有機化学は丸暗記をする学問ではない。教科書を理解するように努め、さらに演習問題を解くことによって理解を深めなければならない。さらに理解度を深めるために必要に応じて宿題を課す。

■講義計画
①ベンゼンと芳香族性（1）
②ベンゼンと芳香族性（2）
③ベンゼンの化学（1）
④ベンゼンの化学（2）
⑤ベンゼンの化学（3）
⑥ベンゼンの化学（4）
⑦中間試験
⑧アルコールとフェノール（1）
⑨アルコールとフェノール（2）
⑩アルコールとフェノール（3）
⑪エーテルとエポキシド（1）
⑫エーテルとエポキシド（2）
⑬エーテルとエポキシド（3）
⑭エーテルとエポキシド（4）

有機化学Ⅳ

【担当】宮武　智弘
【開講】後期　水３

■講義概要
カルボニル基は有機化学において重要な官能基であり、カルボニル化合物は、多くの薬剤や合成化学品、さらには生体を構成する成分に含まれる。カルボニル化合物は、アルデヒド、ケトン、カルボン酸、酸無水物、エステル、アミドなどに分類できるが、これらの性質は基礎的な原理に基づいて理解することができる。本講義では、まずカルボニル基の基礎を解説した後、それぞれの化合物の構造・性質を講述する。また、窒素を含む化合物であるアミンについても解説する。

■到達目標
学習・教育目標：D2（○）
カルボニル化合物およびアミン類の基礎を理解し、その性質や反応性を述べることができるようになる。

■講義方法
原則として教科書に沿って講義する。適宜、演習問題を解くことにより理解を深める。

■系統的履修
有機化学Ⅰ、有機化学Ⅱ、有機化学Ⅲ、有機構造解析学、有機合成化学実験

■成績評価の方法
小テスト（30%）・定期試験（70%）

■テキスト
マクマリー　『有機化学（中）第６版』　東京化学同人　4620円
マクマリー　『有機化学（下）第６版』　東京化学同人　4620円

■参考文献
マクマリー　『有機化学／問題の解き方（第６版)』　東京化学同人　4515円

■履修上の注意・担当者からの一言
有機化学は基礎を理解し、それを応用する能力が求められる。教科書を熟読し、演習問題を解くことによって、理解を深めることができる。

■講義計画
①カルボニル化合物の基礎
②アルデヒドとケトン：求核付加反応（１）
③アルデヒドとケトン：求核付加反応（２）
④アルデヒドとケトン：求核付加反応（３）
⑤カルボン酸とニトリル
⑥カルボン酸誘導体と求核アシル置換反応（１）
⑦カルボン酸誘導体と求核アシル置換反応（２）
⑧カルボン酸誘導体と求核アシル置換反応（３）
⑨カルボニルα置換反応（１）
⑩カルボニルα置換反応（２）
⑪カルボニル縮合反応（１）
⑫カルボニル縮合反応（２）
⑬アミン（１）
⑭アミン（２）

学科固有

有機合成化学実験

【担当】内田　欣吾、石井　大輔
【開講】前期　火３・火４・火５

■講義概要
化学を学ぶ学生諸君にとって有機化学の実験は必須のものである。将来有機化学の分野を志す人はもちろん、有機化学以外の化学の分野に進む人にも、有機化合物の特性を知り、それらの取扱いに習熟しておくことは必要である。この「有機合成化学実験」のカリキュラムは有機化学の基本操作実験と有機合成実験とから構成されている。基本操作実験では、蒸留、カラムクロマトグラフィー、再結晶、抽出操作などの有機化学実験の基本操作を習得し、さらに種々のタイプの有機合成反応を行うように組み立てられている。

■到達目標
学習・教育目標：D3（◎），F1（○）
本実験では有機合成化学実験の基本となる分離精製操作と基本的な合成実験を学生1人1人個別に行うことにより、合成実験の基礎を習得する。有機合成の器具の使い方に慣れるとともに、基本的で代表的な有機化学反応について習熟する。

■講義方法
各実験項目は、準備と後片付けを含めてその実験日の内に終了させる。実験は各実験ごとのティーチングアシスタントの簡単な説明に続いて各個人単位で行う。

■系統的履修
有機化学Ⅰ、有機化学Ⅱ、有機化学Ⅲ

■成績評価の方法
レポート（81%）
その他（19%）　口述試験9%＋筆記試験10%
提出した実験レポートならびに、個人面談方式による口述試験により採点する。実験レポート９テーマ各10点満点、口述試験10点。合計100点。

■テキスト
『有機合成化学実験指針』（龍谷大学理工学部物質化学科編）を配布する。

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
予め当日の実験項目の内容について有機合成化学実験指針を熟読し、各自のノートに原理、反応機構や当日用いる試薬や装置の危険性を熟知し、実験手順をフローチャートにまとめ理解しておくこと。

■講義計画
①安全講習　有機合成化学実験での注意点
②実験準備　器具類の説明と点検ならびに組立等
③o-及びp-ニトロアニリンのカラムクロマトグラフィーによる分離
④アセトアニリドの調製と再結晶
⑤未知試料の抽出による分離
⑥エステル化による安息香酸メチルの合成
⑦メシチレンのアルキル化
⑧グリニャール反応によるトリフェニルメタノールの合成
⑨ベンゾフェノンの光還元によるベンゾピナコールの合成
⑩重合反応による6.6-ナイロンとウレタンフォームの合成
⑪アシラーゼを用いるアミノ酸の光学
⑫筆記試験
⑬実験の後片付けと器具の収納
⑭まとめ

有機構造解析学（2007年度以降入学生）
有機機器分析化学（2006年度以前入学生）

【担当】内田　欣吾
【開講】前期　月2

■講義概要
有機化学の教科書では、有機化合物の構造式が記載されているが、これらは機器分析によって求められたものである。結晶や油状物質として得られる有機化合物の分子構造を明らかにする分析手法として、NMR, IR, Mass, UV-Vis分光法などの方法がある。これらの原理を解説した後、マクマリー有機化学の教科書（上巻・中巻）の各章末にある有機機器分析の演習問題を系統的に解くことによって、分子構造解析の力を養う。

■到達目標
学習・教育目標：E1（◎）
NMR, IR, Mass分光法などの測定原理を理解する。有機化合物のスペクトルデータから未知化合物の構造決定ができるようになる。

■講義方法
教科書に沿って講義した後、演習問題を解いてもらい、最後に問題を解くプロセスについて解説する。教科書以外の練習問題も教材として用いる。

■系統的履修
有機化学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ

■成績評価の方法
中間試験30点、期末試験70点、合計100点満点で評価する。

■テキスト
マクマリー　『有機化学　上』　東京化学同人　4500円
マクマリー　『有機化学　中』　東京化学同人　4400円

■参考文献
『Organic Structures from Spectra』　Wiley

■オフィスアワー・教員への連絡方法
本講義の次の時間をオフィスアワーにするので研究室に来ていただきたい。

■講義計画
①質量分析と赤外吸収スペクトルの測定原理
②NMRの測定原理
③いろいろなNMR測定法
④マクマリー有機化学　上巻の練習問題
⑤マクマリー有機化学　中間より
　芳香族化合物の構造決定（1）
⑥芳香族化合物の構造決定（2）
⑦中間試験
⑧アルコール・チオールの構造決定
⑨エーテル・エポキシドの構造決定
⑩カルボニル化合物の構造決定（1）
⑪カルボニル化合物の構造決定（2）
⑫カルボン酸の構造決定
⑬カルボン酸誘導体の構造決定
⑭総合問題

有機材料化学

【担当】内田　欣吾
【開講】後期　金1

■講義概要
有機材料は、現在多くの場面で用いられている。以前は、有機物というと薬、農薬といったイメージしかなかったが、現在コンピュータや携帯電話のディスプレーは液晶と呼ばれる有機分子が使われている。次世代のディスプレーとして期待されるエレクトロルミネッセンスにも有機材料が使われている。このような状況での有機材料について主に解説すると共に従来の概念の有機材料についても講義する。

■到達目標
学習・教育目標：E1（◎）
教科書的な化学の基本事項が先端の有機化学の分野にどのように関連があるかを知るとともに有機化学の最新の話題についての知識を得る。有機化学の基礎と最先端の知見の関連性を理解する。

■講義方法
教科書およびプリントに従って講義する。宿題を課すこともある。

■系統的履修
有機化学Ⅰ、有機化学Ⅱ、有機化学Ⅲ、有機化学Ⅳ

■成績評価の方法
成績評価は、期末試験の成績100％で評価する。

■テキスト
マクマリー　『有機化学　下』　東京化学同人
荒木孝二ら　『有機機能材料』　東京化学同人　2900円

■参考文献
原田明　『有機機能性材料科学』　三共出版　3675円
堀江一之・牛木秀治　『光機能分子の科学』　講談社サイエンティフィク　4900円

■履修上の注意・担当者からの一言
現在、社会で用いられている有機材料一般について興味をもって勉強して欲しい。

■講義計画
①軌道と有機化学：電子環状反応
②軌道と有機化学：環状付加反応
③軌道と有機化学：シグマトロピー反応
④光と光反応
⑤有機色素の構造と性質
⑥フォトクロミズムとその反応
⑦光学材料
⑧光記録材料
⑨導電材料
⑩界面活性剤
⑪液晶
⑫香料の化学
⑬医薬・農薬
⑭まとめ

量子化学

【担当】藤原　学
【開講】前期　水2

■講義概要
これからの化学において、量子論を応用することがますます重要になってくると思われる。量子論の本質を理解することは非常に難しいが、概略的に理解することは容易であり実際的に多くの分野で応用が行われている。まずいくつかの具体例について紹介し、つづいてシュレディンガー方程式の導入と原子の電子状態について述べる。さらに分子軌道論の概念の説明を行う。2原子分子や簡単な分子の分子軌道とその解析について述べ、電子状態と化学結合への理解を深める。最後に分子軌道計算法について講述する。

■到達目標
学習・教育目標：D2（○）
分子軌道法の初歩を理解できる。共有結合などの化学結合や分子の構造と性質について量子化学的な概念で理解できる。

■講義方法
プリントおよび黒板を使い、講義を行う。適時小テストや宿題を課して理解度を深める。

■系統的履修
無機化学Ⅰ・Ⅱ・物理化学Ⅲ

■成績評価の方法
小テスト（30%）　各課題に対する達成度および理解度
定期試験（70%）

■テキスト
特になし

■参考文献
特になし

■履修上の注意・担当者からの一言
物質化学科の固有科目を履修していることを前提として講義を進める。専門用語など理解できない点は、講義中に質問するか自習することによって解決していってほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
講義中に指示する。

■講義計画
①序論・量子とは？
②波動性と粒子性
③波を表す波動関数
④シュレディンガー方程式（1）
⑤シュレディンガー方程式（2）
⑥量子化と量子数
⑦原子の構造と電子軌道・電子配置
⑧共有結合（等核と異核）
⑨結合性と反結合性
⑩混成結合、σ結合とπ結合
⑪単結合・二重結合・三重結合
⑫分子の性質と分子軌道、非局在π結合、環状共役系
⑬分子軌道法と電子分光
⑭分子軌道の３次元可視化・まとめ

教職課程科目

カナ	科　目　名	担　当　者	ページ
カ	学校カウンセリング論	小林　清八郎	259
キ	教育課程論	大西　俊弘	259
	教育社会学	森　繁男	260
	教育社会学Ⅰ	森　繁男	261
	教育社会学Ⅱ	森　繁男	261
	教育実践研究Ⅰ（介護等体験）	脇田　博文/大西　俊弘/山中　健一	262
	教育実践研究Ⅱ（事前指導）	山中　健一/大西　俊弘/脇田　博文	262
	教育実践研究ⅢA（中免用実習）	脇田　博文/大西　俊弘/山中　健一	263
	教育実践研究ⅢB（高免用実習）	脇田　博文/大西　俊弘/山中　健一	263
	教育制度論	山中　健一	264
	教職総合演習	脇田　博文/大西　俊弘/竹谷　博/山中　健一	264
	教師論	脇田　博文	265
シ	職業指導	田中　圭治郎	265
	人権教育論	岸　衛	266
セ	生徒指導論	脇田　博文	266
ト	特別活動論	脇田　博文	267
	道徳教育指導法	大嶋　正志	267
	同和教育論	岸　衛	268
メ	メディア教育論	大西　俊弘	268
リ	理科教育法Ⅰ／理科教育法	竹谷　博	269
	理科教育法Ⅱ	大西　俊弘	270

学校カウンセリング論

【担当】小林　清八郎
【開講】前期　水３

■サブタイトル
児童生徒及び人間理解を深めながら、カウンセリングのあり方を追究します。

■講義概要
今、教育現場では、不登校、いじめ、自殺、非行、校内暴力、学級崩壊、学力低下をはじめさまざまな問題が生じています。このような状況の中で、教師がただ知識を伝達したり教えたりするだけのプロにとどまっていてはなりません。
本講義では、学校場面におけるカウンセリングの基礎を学びます。更に、学校におけるすべての教育活動にカウンセリングの発想や技法を生かすことができれば、学校はもっと活性化するのではないか、と同時に、個々の児童生徒は自分自身の可能性を限りなく発揮し、自ら学び成長していくのではないか、等々を学びます。
最後に、教師に限らず、人間にとって、学び続けることがいかに大切か、研修のあり方について考えます。

■到達目標
教師は教えるプロである以前に、人間関係のプロでなければなりません。そのためには、カウンセリングの発想や技法を学び生かしていくことが重要なポイントになってきます。その足がかりをつかむことを目標にします。

■講義方法
講義が中心になりますが、カウンセリングという特徴から、具体的な場面や課題における対応のあり方について個々に考えたり、グループディスカッションを通してより深く追究したりします。

■系統的履修
教職課程の各科目が関連します。

■成績評価の方法
毎回の講義後に提出を求めるごく簡単なレポート及び定期試験の成績で評定します。出席状況20％、小レポート30％、定期試験50％をめどに算出します。

■テキスト
講義の中で適宜プリントを配布します。

■参考文献
講義の中で適宜紹介します。（カウンセリングに関連したものに限らず）

■履修上の注意・担当者からの一言
共に楽しく学び合う姿勢をだいじにしましょう。その中から、人間にとって学ぶことや学び続けることがいかに大切かをぜひつかみとってください。

■講義計画
①学校カウンセリングとは？
②児童生徒の現状と課題
③児童生徒理解とカウンセリングの技術（1）
④児童生徒理解とカウンセリングの技術（2）
⑤児童生徒理解とカウンセリングの技術（3）
⑥児童生徒理解とカウンセリングの技術（4）
⑦授業におけるカウンセリングの生かし方（1）
⑧授業におけるカウンセリングの生かし方（2）
⑨生徒指導におけるカウンセリングの生かし方
⑩進路指導におけるカウンセリングの生かし方
⑪課題1　不登校
⑫課題2　いじめ
⑬課題3　非行等
⑭教師の力量を高める研修のあり方

教育課程論

【担当】大西　俊弘
【開講】後期　土２

■講義概要
すべての教育活動には目的があり、その目的を遂行するには、綿密な計画が必要となる。学校における教育活動の計画（全体）が、教育課程であるといえる。本講義では、教育課程について生徒の視点ではなく、教師（指導者）の視点で捉えて解説する。具体的には、次のような内容に取り組む。
1．中学校･高等学校における教育課程について､実例を通して概観する。
2．学校現場と教育行政との関係を踏まえた上で、教育課程編成の手順について学ぶ。
3．戦後の教育課題と関連させながら､学習指導要領の変遷について学ぶ。
4．近年の学力観・評価観について解説し、教育課程編成における新しい取り組みと紹介する。
5．学習指導要領の改訂と学力低下問題の関係について考察する。
6．諸外国の教育制度・教育課程を参考にして、今後の日本の教育のあり方を考える。

■到達目標
学校現場における教育課程の重要性について認識し、様々な教育問題への興味・関心を深める。学校現場の状況及び国の政策について学ぶことにより、今後の教育が目指していくべき方向性について考える。

■講義方法
講義形式ではあるが、出来る限り学生参加型の授業としたい。また、視聴覚教材の活用も積極的に図りたい。

■成績評価の方法
平常点（20%）　出席状況、授業への積極的な参加の度合い。但し、3回以上欠席した場合は単位不認定。
レポート（20%）　レポート未提出の場合は、単位を認定しない。
定期試験（60%）
特別な事情なしに3回以上欠席した場合は､原則として単位を認定しない。
また、レポート未提出の場合も、原則として単位を認定しない。

■テキスト
特になし

■参考文献
田中耕治　他３名 『新しい時代の教育課程』 有斐閣アルマ　1900円
中学校・高等学校の学習指導要領やその解説書が必要になる場合があるが、その都度指示する。
その他の参考文献については適宜指示する。

■履修上の注意・担当者からの一言
教職を目指す者として意欲的に受講すること。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワー:木曜日の２講時～４講時に研究室（2号館117号室）にて。
連絡方法：電子メールにて（メールアドレスは講義で連絡）

■講義計画
①序論（教育をめぐる社会の状況）
②戦前の教育制度・教育改革
③戦前の教育課程について
④戦後の教育改革と生活単元学習
⑤系統学習と戦後の学習指導要領の変遷
⑥学校教育に関する法体系と教育課程
⑦高等学校の各種制度と学習指導要領
⑧教育課程編成の実際
⑨高等学校における未履修問題
⑩学力低下問題と学習指導要領の関係
⑪国際的な学力調査の結果が教育課程に及ぼす影響
⑫観点別評価と生徒指導要録
⑬外国の教育課程
⑭教育改革の方向性と新学習指導要領

教育社会学（2006年度以前入学生）

【担当】森　繁男
【開講】通年　月３

■サブタイトル
（前期）教育社会学入門　（後期）教育現象の社会学的理解

■講義概要
教育社会学は教育を広い意味での「社会現象」ととらえ、これを社会学的視点や方法によって分析・説明する社会科学・教育科学の一つである。ここでいう「社会学的視点や方法」とは、あくまで「価値中立的に」、しかも現象の生起する要因をできるだけ「個人心理に還元しないで」理解しようとすることを指す。まず前期の授業では、このような教育社会学のものの見方・考え方を提示しながら、主として「子どもの育ちと社会の仕組み」といった内容に焦点を置いた入門的講義を行なう。

続いて後期では、家族・学校・ジェンダー・メディア・青少年など教育社会学の個別テーマに接近しながら、これらを「どうとらえ、いかにして説明するのか」という具体的分析・考察への道案内をしたい。

■到達目標
「教育」というきわめて「価値的」な営みを「社会や文化」（＝人間関係や意味世界）という観点から「事実」として把握し、現代社会における教育の現実を読み解く力を養ってゆきたい。

■講義方法
前期では、主に板書中心の「レクチャー」形式を取るが、参考プリントの配布や関連ビデオの視聴も行なう。　後期では、上記の方法以外に時間的・人数的な条件が許せば文献を指定して講読させ、各領域における最新の研究成果に触れながら、受講生自身による発表とディスカッションも期すつもりである。

■系統的履修
「社会学」全般、および「哲学・教育学・心理学」などの基礎学問や「ジェンダー論・メディア論・青年論」などのうちの関心領域。

■成績評価の方法
定期試験（100%）
「試験」によって評価するが、「出席」も適宜確認して参考に資する。

■テキスト
（未定であるが、必要があれば適宜指示する。）

■参考文献
（進度に応じて適宜紹介する。）

■履修上の注意・担当者からの一言
ミクロな「相互作用」とマクロな「社会構造」との関連の中で「教育現象の発生」を理解するような社会学的視点を養い、「教育現実」（事実）を見据えてから「教育理念」（価値）を探究するよう心がけていただきたい。

■講義計画
①イントロダクション
②社会学的社会観と教育作用（１）
③社会学的社会観と教育作用（２）
④教育社会学の視点と方法（１）
⑤教育社会学の視点と方法（２）
⑥社会化のとらえ方と社会学パラダイム（１）
⑦社会化のとらえ方と社会学パラダイム（２）
⑧現代学校の理念と現実（１）
⑨現代学校の理念と現実（２）
⑩社会の変化と家族関係（１）
⑪社会の変化と家族関係（２）
⑫教育問題の発生と解釈（１）
⑬教育問題の発生と解釈（２）
⑭前期のまとめ
⑮教育学と社会学の接点（１）
⑯教育学と社会学の接点（２）
⑰家族・学校と教育の階層性（１）
⑱家族・学校と教育の階層性（２）
⑲文化的再生産と社会的相互作用（１）
⑳文化的再生産と社会的相互作用（２）
㉑ディスカッション（その１）
㉒ジェンダーと教育の諸現象（１）
㉓ジェンダーと教育の諸現象（２）
㉔メディアと青少年の文化問題（１）
㉕メディアと青少年の文化問題（２）
㉖ディスカッション（その２）
㉗教育社会学と教育実践
㉘後期のまとめ

教育社会学Ⅰ（2007年度以降入学生）

【担当】森　繁男
【開講】前期　月3

■サブタイトル
教育社会学入門
■講義概要
教育社会学は教育を広い意味での「社会現象」ととらえ、これを社会学的視点や方法によって分析・説明する社会科学・教育科学の一つである。ここでいう「社会学的視点や方法」とは、あくまで「価値中立的に」、しかも現象の生起する要因をできるだけ「個人心理に還元しないで」理解しようとすることを指す。まず前期の本授業では、このような教育社会学のものの見方・考え方を提示しながら、主として「子どもの育ちと社会の仕組み」といった内容に焦点を置いた入門的講義を行なう。
■到達目標
「教育」というきわめて「価値的」な営みを、「社会や文化」（＝人間関係や意味世界）という観点から「事実」として把握する態度を養いたい。
■講義方法
主に板書中心の「レクチャー」形式を取るが、参考プリントの配布や関連ビデオの視聴も行なう。
■系統的履修
「社会学」全般、および「哲学・教育学・心理学」などの基礎学問。さらに後期の「教育社会学Ⅱ」も受講していただきたい。
■成績評価の方法
定期試験（100%）
「試験」によって評価するが、「出席」も適宜確認して参考に資する。
■テキスト
（未定であるが、必要があれば適宜指示する。）
■参考文献
（進度に応じて適宜紹介する。）
■履修上の注意・担当者からの一言
日常の人と人とのコミュニケーション（相互作用）を注意深く観察し、人間関係や人間形成のあり方と社会の仕組み（社会構造）とをつないでいる「文化」を読み取るよう心がけていただきたい。
■講義計画
①イントロダクション
②社会学的社会観と教育作用（1）
③社会学的社会観と教育作用（2）
④教育社会学の視点と方法（1）
⑤教育社会学の視点と方法（2）
⑥社会化のとらえ方と社会学パラダイム（1）
⑦社会化のとらえ方と社会学パラダイム（2）
⑧現代学校の理念と現実（1）
⑨現代学校の理念と現実（2）
⑩社会の変化と家族関係（1）
⑪社会の変化と家族関係（2）
⑫教育問題の発生と解釈（1）
⑬教育問題の発生と解釈（2）
⑭前期のまとめ

教育社会学Ⅱ（2007年度以降入学生）

【担当】森　繁男
【開講】後期　月3

■サブタイトル
教育現象の社会学的理解
■講義概要
本授業では、前期の「教育学社会学Ⅰ」に引き続いて、家族・学校・メディア・青少年・ジェンダーなど教育社会学の個別テーマに接近し、これらを「どうとらえ、いかにして説明するのか」という具体的分析・考察への道案内をしたい。
■到達目標
社会学的視点と方法から、現代社会における教育の現実を読み解く力を養ってゆきたい。
■講義方法
「レクチャー」をプリントやビデオで補いつつ、時間的・人数的な条件が許せば、それ以外にも文献を指定して講読させ、各領域における最新の研究成果に触れながら、受講生自身による「発表とディスカッション」も試みたい。
■系統的履修
「ジェンダー論・メディア論・青年論」などのうちの関心領域。
■成績評価の方法
定期試験（100%）
「試験」によって評価するが、「出席」も適宜確認して参考に資する。
■テキスト
（未定であるが、必要があれば適宜指示する。）
■参考文献
（進度に応じて適宜紹介する。）
■履修上の注意・担当者からの一言
ミクロな「相互作用」とマクロな「社会構造」との間に生起する「教育現実」（事実）を社会学的に見据えた上で「教育理念」（価値）を探求するよう心がけていただきたい。
■講義計画
①教育学と社会学の接点（1）
②教育学と社会学の接点（2）
③家族・学校と教育の階層性（1）
④家族・学校と教育の階層性（2）
⑤文化的再生産と社会的相互作用（1）
⑥文化的再生産と社会的相互作用（2）
⑦ディスカッション（その1）
⑧ジェンダーと教育の諸現象（1）
⑨ジェンダーと教育の諸現象（2）
⑩メディアと青少年の文化問題（1）
⑪メディアと青少年の文化問題（2）
⑫ディスカッション（その2）
⑬教育社会学と教育実践
⑭後期のまとめ

教育実践研究Ⅰ（介護等体験）

【担当】脇田　博文、大西　俊弘、山中　健一
【開講】通年　集中

■サブタイトル
心豊かな教師を目指して～「介護等体験」への参加～
■講義概要
子ども達に「豊かな心」を育むことが今日の教育の大きな課題となっている。そのためには、まず教師自らが「豊かな心」をもつ存在でなければならない。障害者や高齢者などに対する介護、介助、これらの人々との交流が、人間の尊厳を自覚させ、相手の立場や心に思いを馳せる「豊かな心」を育む貴重な経験となるのである。
国では「教育職員免許法の特例等に関する法律」（平成10年4月1日施行）により、小・中学校の教員免許状を取得しようとする者に「介護等体験」への参加を義務づけている。これを基に本学では、特別支援学校および社会福祉施設で行う「介護等体験」とともに、その事前・事後に大学で必要な指導を行い、それらを総合して教職関係科目に位置づけている。
■到達目標
教師に必要な「豊かな心」を育む。
■講義方法
１年次の11月からガイダンスが始まるので掲示には注意しておくこと。１年次に２回の説明会と講演会を行う。２年次には説明会及び事務手続きを行い、６月より随時体験に入る。
■成績評価の方法
平常点（50%）　事前・事後指導及び体験への参加状況、意欲・態度を評価する。
その他（50%）　提出された記録簿、レポートの内容、学校・施設からの報告書等を総合的に評価する。
上記の尺度・割合を目安として総合して単位認定する。ただし、下記の履修上の注意にもあるように、説明会・講演会の欠席、提出物の遅れ、体験の無断欠席や遅刻等、教職への適性を著しく欠く場合には単位を認定しない。
■テキスト
講義で適宜配布する。
■参考文献
講義で適宜紹介する。
■履修上の注意・担当者からの一言
①説明会や講演会には必ず出席すること。無断欠席の場合は受講資格を失う。公欠等でやむなく欠席する場合は事前に相談・届出をし、指示を受けること。
②書類などの提出日は厳守すること。
③進路変更などにより受講を途中で辞退する者は教職課程教室に「辞退届」を提出すること。
④「体験」への無届け欠席や遅刻は絶対に許されない。
⑤「体験」には真摯な態度で臨むこと。
■講義計画
①介護等体験説明会①ーガイダンス及び登録
②介護等体験説明会②ー介護等体験の意義と課題
③介護等体験講演会①ー障害児教育諸学校
④介護等体験説明会③及び事務手続き
⑤介護等体験講演会②ー福祉施設
⑥介護等体験説明会④ー福祉施設への参加手続き
⑦介護等体験説明会⑤ー特別支援学校への参加手続き
⑧介護等体験への参加
1. 障害児教育諸学校　2日間
2. 社会福祉施設　5日間
⑨介護等体験を振り返ってー記録簿等の書類提出

教育実践研究Ⅱ（事前指導）

【担当】山中　健一、大西　俊弘、脇田　博文
【開講】前期　月３

■サブタイトル
教育実習の前に
■講義概要
教育実習は教員養成課程の総仕上げとしての位置付けを持つ。実習生にとっては生涯忘れ得ぬ感動を得る機会である。同時に、実習校及び実習校の生徒にとっても絶対に有意義なものでなければならない。
そのために、実習生は教師として必要な最低限の見識と能力を備えている必要がある。本学では教育実習の先修科目として「教育原論」「発達と教育（青年心理学）」「教科教育法」「人権論Ⅰ」「人権論Ⅱ」「教育実践研究Ⅰ（介護等体験）」を必習と定めている。この他にも、「教師論」「生徒指導論」「学校カウンセリング論」「メディア教育論」「教育制度論」等の教職科目と、できるだけ多くの「教科に関する科目」を実習前年までに修得し終えている事が望ましい。
これら先修科目の基盤の上に、教師として必要な責任の自覚を促し、教育実習に関する実務的内容を教授するのが、「教育実践研究Ⅱ」の目的である。
■到達目標
教壇に立つ心構えを身につける。
■講義方法
必要な資料を配布して説明する。
■系統的履修
教育実践研究ⅢＡまたは教育実践研究ⅢＢ（教育実習）
■成績評価の方法
平常点（30%）　出席状況
レポート（50%）毎回の講義で提出を求めるレポートの内容
その他（20%）　教職を目指す者にふさわしい意欲・態度等
上記の尺度・割合を目安として総合的に評価する。
■テキスト
『教育実習の手引き』（龍大教職課程教室編）を配布する。
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
教育実習前は健康管理に十分気をつけること。
■講義計画
①はじめに
②最近の学校教育の現状と課題
③今後の教育改革の内容と方向
④教員の服務について　①地公法、教育関係法に定められた服務基準、②学校勤務に関する留意点
⑤教科指導について　①指導案作成上の留意点、②授業を進めるうえでの留意点
⑥教科外の諸活動の指導について　①学級（ホームルーム）指導業務、②部活動などの指導、③学校運営の組織と各校務分掌の業務内容
⑦教育実習後の総括・反省

教育実践研究ⅢA（中免用実習）

【担当】脇田　博文、大西　俊弘、山中　健一
【開講】通年　集中

■サブタイトル
教えられる立場から教える立場へ
■講義概要
「教育実践研究Ⅲ」の目的は、学校現場での実習を通して、大学で教職や教科に関して学んだことを確認し、深化･発展させ、教員としての実践的指導力を身につけることにある。教育実習では、単に教科指導にとどまらず、特別活動、生徒（進路）指導、部活動、事務処理など実に多様な教員の仕事を観察及び体験し、その中で指導の基礎･基本を養うことが大事である。教育実習は実習生にとっては教育活動の試行である。しかし、受け入れる学校や生徒にとっては、実習期間中の一時間一時間が、後戻りできない、かけがえのない時間であることを忘れてはならない。それゆえに、教員としての責務を十分に自覚して、真摯な態度で、全精神をつぎ込んで実習に取り組まなくてはならない。
■到達目標
「絶対に教師になる」という確信をもつ。
■講義方法
学校現場での実習、報告書・記録簿等の提出と事後報告
■系統的履修
教育実践研究Ⅱ（事前指導）
■成績評価の方法
平常点（10%）　実習後の報告・事後指導
レポート（50%）　実習記録・指導案・レポート
その他（40%）　実習校の評価
上記の尺度・割合を目安として総合的に評価する。事後報告は必ず実習終了後２週間以内に行うこと。事後報告が全くなされない時には単位認定をしない。
■テキスト
特になし
■参考文献
教育実習の手引き（龍谷大学教職課程教室編）
■履修上の注意・担当者からの一言
・真摯な態度で参加すること。
・期間中は実習に専念し、就職活動、大学での諸活動などへの参加は一切認められない。
■講義計画
①（具体的な実習の進め方は実習校により異なるが、概ね次のように行なわれる）
②事前打ち合わせ
③オリエンテーション
④教科指導
1. 授業見学（多くは期間前半に実施）
2. 授業実施（多くは期間後半に実施）
3. 研究授業と批評会
⑤特別活動の指導
1. 学級（SHR、LHR）指導
中学校では「道徳の時間」の指導を含む。
2. その他の教科外の指導（清掃、学校行事など）
⑥その他の校務分掌業務について
⑦教育実習全体の反省
⑧教職に就くに当たっての心得など

教育実践研究ⅢB（高免用実習）

【担当】脇田　博文、大西　俊弘、山中　健一
【開講】通年　集中

■サブタイトル
教えられる立場から教える立場へ
■講義概要
「教育実践研究Ⅲ」の目的は、学校現場での実習を通して、大学で教職や教科に関して学んだことを確認し、深化･発展させ、教員としての実践的指導力を身につけることにある。教育実習では、単に教科指導にとどまらず、特別活動、生徒（進路）指導、部活動、事務処理など実に多様な教員の仕事を観察及び体験し、その中で指導の基礎･基本を養うことが大事である。教育実習は実習生にとっては教育活動の試行である。しかし、受け入れる学校や生徒にとっては、実習期間中の一時間一時間が、後戻りできない、かけがえのない時間であることを忘れてはならない。それゆえに、教員としての責務を十分に自覚して、真摯な態度で、全精神をつぎ込んで実習に取り組まなくてはならない。
■到達目標
「絶対に教師になる」という確信をもつ。
■講義方法
学校現場での実習、報告書・記録簿等の提出と事後報告
■系統的履修
教育実践研究Ⅱ（事前指導）
■成績評価の方法
平常点（10%）　実習後の報告・事後指導
レポート（50%）　実習記録・指導案・レポート
その他（40%）　実習校の評価
上記の尺度・割合を目安として総合的に評価する。事後報告は必ず実習終了後２週間以内に行うこと。事後報告が全くなされない時には単位認定をしない。
■テキスト
特になし
■参考文献
教育実習の手引き（龍谷大学教職課程教室編）
■履修上の注意・担当者からの一言
・真摯な態度で参加すること。
・期間中は実習に専念し、就職活動、大学での諸活動などへの参加は一切認められない。
■講義計画
①（具体的な実習の進め方は実習校により異なるが、概ね次のように行なわれる）
②事前打ち合わせ
③オリエンテーション
④教科指導
1. 授業見学（多くは期間前半に実施）
2. 授業実施（多くは期間後半に実施）
3. 研究授業と批評会
⑤特別活動の指導
1. 学級（SHR、LHR）指導
中学校では「道徳の時間」の指導を含む。
2. その他の教科外の指導（清掃、学校行事など）
⑥その他の校務分掌業務について
⑦教育実習全体の反省
⑧教職に就くに当たっての心得など

教育制度論

【担当】山中　健一
【開講】後期　水３

■サブタイトル
我が国の教育制度史の概略と現行教育制度
■講義概要
我が国の近代化と戦後の急速な回復・成長に教育が果たした役割の大きさは計り知れない。本講では我が国の教育制度の歴史的発展について概観すると共に、現行の教育制度と関係法規の精神について講述する。また、教育基本法が改正され、さまざまな教育改革が論議されている今日、これからの我が国の教育の在り方について考察する。
■到達目標
我が国の教育制度の経過と現状
■講義方法
必要な資料はプリントで配布して説明する。
■成績評価の方法
講義で提出を求める簡単なレポートとともに、期末の筆記試験の結果を基に総合的に評定する。出席点20％、小レポート20％、定期試験の成績60％をメドに算出する。
■テキスト
特になし
■参考文献
講義時に指示。プリント配布
■履修上の注意・担当者からの一言
教職を目指すものとしてふさわしい態度で。
■講義計画
①古代・中世の教育
②近世の教育
③「学制」の成立と改革
④教育勅語と戦前の道徳教育
⑤戦時下の教育体制
⑥戦後の教育改革
⑦教育基本法の制定・改正とその精神
⑧学校教育法の制定と各学校の目的・目標
⑨平成の教育改革
⑩中央の教育行政制度
⑪地方の教育行政制度
⑫教育制度と教職員、児童、生徒
⑬学校経営と学校運営
⑭これからの我が国の教育の在り方

教職総合演習

【担当】脇田　博文、大西　俊弘、竹谷　博、山中　健一
【開講】前期　集中

■サブタイトル
今日的課題に対していかに考え、取り組むか
■講義概要
これから教員を目指す者にとって、国際化・情報化の進展により社会が急速に変化する激動の時代の中で、どのように教育を進めていけばよいのか、どのような資質や能力を身につける必要があるのかが重要な課題となる。それにはまず、環境破壊、民族対立・紛争、人口と食糧など地球全体が直面する問題や少子・高齢化と福祉、家庭のあり方などのわが国に関わる問題について、自分自身の理解を深めることが不可欠である。
この授業では、現在の社会が直面する様々な今日的課題から関心のあるテーマを自らが設定し、それに関わる調査研究を実施し、その結果をまとめて報告・発表する方法をとる。授業では、各自が意見を出し合い、議論を発展させてテーマを追求することが特に重要である。
さらに、テーマに関わる内容を学校教育での実践として具体化していく必要がある。そのために、今日的課題に対して、学校の教育活動の各場面において、生徒に主体的かつ問題解決的に取り組ませるための指導計画を構想する力を養う過程も、本授業の重要な内容の一つとして位置づける。教員を目指す諸君の積極的な参加と意欲的な取り組みを期待する。
■到達目標
これからの教員に求められる実践的指導力を養う。
■講義方法
講義の他、グループによる調査研究・発表等の参加型授業を行う。
＊授業は一部の内容を5～6月から実施し、大部分を8月の集中講義期間に設定することになる。開講日等の詳細は教職課程掲示板で連絡するので、各自で確認すること。
■成績評価の方法
平常点（30%）　事前オリエンテーション・集中講義への出席状況、意欲・態度
レポート（30%）「今日的課題に関わる指導の構想案」等３つの課題
その他（40%）　調査・研究・発表・討議の諸活動の状況
上記の尺度・割合を目安として総合的に評価を行う。
■テキスト
講義の中で適宜プリントを配布する。
■参考文献
講義の中で適宜紹介する。
■履修上の注意・担当者からの一言
教職を目指す者として意欲的に取り組むこと。
■講義計画
①教職総合演習のねらいと今後の予定
②「今日的課題と学校教育（その1)」講義及び研究協議
③「今日的課題と学校教育（その2)」講義及び研究協議
④グループ分け及び研究テーマ・研究方法の決定
⑤研究テーマ・研究方法の発表と討議
⑥研究テーマ・研究方法のねりなおし
⑦グループ別の研究・調査活動（学内・学外での活動）
⑧研究・調査活動の中間報告
⑨研究成果のまとめ
⑩研究・調査の発表会と研究協議
⑪研究方法・発表方法の総括
⑫今日的課題を扱う指導内容・方法の構想
⑬研究・調査・発表・討議についての総括
⑭まとめ

教師論

【担当】脇田　博文
【開講】前期　土2

■サブタイトル
これからの教師に求められる資質能力とは何か
■講義概要
教師の仕事はブーメランに似て、教師が日々行う教科指導、学級活動、部活動、教育相談などの様々な教育実践は、たえず実践主体である教師自身の在り方や生き方として自己回帰する性格を持っている。従って教育の問題は究極的に「教育は人なり」に帰着する。
では教師に求められる資質能力とは何か。まず教師は豊かな個性を持ち、高い専門的知識、使命感、教育的情熱等のいつの時代にも求められる資質能力を有することが必要である。これに加えて、これからの教師には、社会変化の激しい時代にあって子どもたちに「生きる力」を育むためにも、幅広い視野、課題解決能力、対人関係能力、変化への対応能力等の実践的指導力を併せて持つことが期待されている。
本講義では、今の教師が直面する教育課題や職務内容など、教職に関する全体像を理解するとともに、教育改革が進む中でこれからの時代に「期待される教師像」について考察していく。
■到達目標
教員に求められる資質能力について理解するとともに、教育への積極的な姿勢を養う。
■講義方法
講義の他、討論・発表等の参加型授業を取り入れる。
■成績評価の方法
平常点（30%）　授業への参加、意欲・態度等を評価する。
レポート(20%)　授業中の課題､レポートの達成度を評価する。
定期試験（50%）　学習内容の理解、教師としての適性等を試験で評価する。
上記の尺度・割合を原則として総合的に評価する。欠席が3分の1を超える、遅刻が多い、著しく授業態度が悪い等の場合には、教職への適性を欠くものとして、単位を認定しない。
■テキスト
講義の中で適宜プリントを配布する。
■参考文献
講義の中で適宜紹介する。
■履修上の注意・担当者からの一言
教職を目指す者として意欲的に受講すること。
■講義計画
①はじめに－教職とは何か
②社会の変化と中高生文化の変容
③教師が直面する教育課題 1
④教師が直面する教育課題 2
⑤教師が直面する教育課題 3
⑥教員に求められる資質能力 1
⑦教員に求められる資質能力 2
⑧学校教育の意義・目的
⑨教育公務員としての身分と服務、職務内容 1
⑩教育公務員としての身分と服務、職務内容 2
⑪教員研修の意義と内容
⑫学校内での職務の実際と連携のあり方
⑬地域・家庭等との連携
⑭まとめ

職業指導

【担当】田中　圭治郎
【開講】通年　土1

■サブタイトル
進路指導の実際
■講義概要
職業指導（進路指導）の理論と実践。職業指導の真の意義と役割を把握し、そのあるべき姿を自ら描き、実践できる力をつけることを目的とする。
■到達目標
職業教育と教養教育との違いを明確にし、将来職業についた時何が必要か、また職業科の教師にとって必要な内容を学習する。
■講義方法
講義と討議。各授業時に小テストを行う。
■成績評価の方法
平常点（50%）　授業態度および出席。
小テスト（50%）　論点を明確にして、記述しているかどうか。
■テキスト
プリントを配布する。
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
授業には出来るだけ出席すること　毎回プリントを配布して授業をする
■講義計画
①職業と人間（1）
②職業と人間（2）
③職業指導とは（1）
④職業指導とは（2）
⑤教育課程と進路指導（1）
⑥教育課程と進路指導（2）
⑦職業指導の理論的基礎（1）
⑧職業指導の理論的基礎（2）
⑨職業指導の理論的基礎（3）
⑩職業指導の理論的基礎（4）
⑪職業適性（1）
⑫職業適性（2）
⑬職業適性（3）
⑭職業適性（4）
⑮職業適性（5）
⑯進路指導の技術と方法（1）
⑰進路指導の技術と方法（2）
⑱進路指導の技術と方法（3）
⑲諸外国における職業指導（1）
⑳諸外国における職業指導（2）
㉑諸外国における職業指導（3）
㉒諸外国における職業指導（4）
㉓今日の職業指導のあるべき姿（1）
㉔今日の職業指導のあるべき姿（2）
㉕今日の職業指導のあるべき姿（3）
㉖授業を通して各人が進路を考え職業観､人生観を確立する（1）
㉗授業を通して各人が進路を考え職業観､人生観を確立する（2）
㉘授業を通して各人が進路を考え職業観､人生観を確立する（3）

人権教育論（2007年度以降入学生）

【担当】岸　衛
【開講】前期　水１

■サブタイトル
「今」を問う・「自分」を問う
■講義概要
部落差別は過去の歴史的な「遺制」ではなく、「今、ここ」で恣意的かつ無根拠に作られている差別である。差別は人と人の関係の中で起こる。だから日常の自分と他人の関係の仕方を見つめることから始めたい。
　今、「同和教育の深まりから人権教育への広がり」といわれている。同和教育の出発とそれがめざしたものが何であったのか、これからの人権教育では「同和教育」の観点をどう生かしていくのかを明らかにしたい。
　差別問題、人権問題は、いい古された言葉を語った時点で、自分で考えることをやめてしまう。「自分の言葉で何が語れるか」を最終の課題にしたいと考えている。
■到達目標
「今」を見る目が養われる
「自分」と「他人」との関係やあり方が見えてくる
■講義方法
基本的には講義形式で進めるが、可能な限り問答・会話を中心に進める。
人権学習についての「教案」を作り、実際に授業の一部をやってもらう。
自分の言葉で「語る」人権問題のスピーチをする。
■系統的履修
人権論Ａ・Ｂ（岸）
■成績評価の方法
平常点（50%）　出席点・コミュニケーション・カード提出
　　スピーチ
　　小テスト（30%）　教案提出
　　レポート（20%）　まとめのレポート提出
■テキスト
岸衛　『自分・差別・世間』　解放研究所しが　700円
■参考文献
特になし
■講義計画
①オリエンテーション
②差別する瞬間の「自分」を探る
③差別の作られ方
④「同和」教育運動の歩みと実践
⑤学校教育の中での「同和」教育の実践
⑥自分を解放する部落問題学習の実践
⑦差別事件に学ぶ
⑧部落差別問題とは何か
⑨部落差別問題の「深まり」と人権問題への「広がり」
⑩人権学習の教案作り
⑪人権学習の実践①
⑫人権学習の実践②
⑬人権学習の実践③
⑭まとめ

生徒指導論

【担当】脇田　博文
【開講】後期　金１

■サブタイトル
学校教育における生徒指導の意義と役割
■講義概要
急速な社会変化の中で旧来の倫理観・価値観が大きく崩れ、家庭や学校の教育力は低下している中で、生徒指導の重要性とその対応のあり方については認識を新たにする必要がある。最近の学校現場で起こっているいじめ、不登校、学級崩壊等の問題は生徒指導上の喫緊課題であるが、単に表面的な目に見える現象だけに注目し、問題行動を起こす生徒への治療・矯正や防止対策として生徒指導を捉えてはならない。生徒指導は、一人ひとりの生徒の人格的発達への支援、将来の自己実現に向けてのガイダンスという積極的な教育機能として位置づけられるべきである。
本講義では、まず生徒指導の本質的な意義や役割を明確にした上で、様々な問題例を通してその原因・背景・対処について実証的な考察を加え、さらにガイダンス機能の充実のための進路指導について触れる。そして教員には個人あるいは組織の一員としてどのような資質や能力や役割が求められているか理解したい。
■到達目標
教員に求められる資質・能力・役割について理解するとともに、教育への積極的な姿勢を養う。
■講義方法
講義の他、討論・発表等の参加型授業をできるかぎり取り入れる。
■系統的履修
「発達と教育」などの発達・教育心理学関係の科目
■成績評価の方法
平常点（30%）　授業への参加、意欲・態度等を評価する。
　　レポート（10%）　毎回出される小課題の達成度を評価する。
　　定期試験（60%）　学習内容の理解、教職への適性を試験で評価する。
上記の尺度・割合を原則として総合的に評価する。欠席が３分の１を超える、遅刻が多い、著しく授業態度が悪い等の場合には、教職への適性を欠くものとして、単位を認定しない。
■テキスト
特になし
■参考文献
講義の中で適宜紹介する。
■履修上の注意・担当者からの一言
教職を目指す者として意欲的に受講すること。
■講義計画
①はじめに
②学校及び青少年の現状と課題１
③学校及び青少年の現状と課題２
④生徒指導の意義と役割１
⑤生徒指導の意義と役割２
⑥生徒指導の意義と役割３
⑦生徒理解１
⑧生徒理解２
⑨問題行動・学級（授業）崩壊１
⑩問題行動・学級（授業）崩壊２
⑪いじめ・不登校１
⑫いじめ・不登校２
⑬進路指導のあり方
⑭まとめ

特別活動論

【担当】脇田　博文
【開講】前期　金1

■サブタイトル
もう一つの教育課程－学校教育における特別活動の役割

■講義概要
学校での様々な教育活動の意義は、生徒一人ひとりが個性の伸張を図るとともに、集団や社会の一員としての自覚を深め、協力してより良い生活を築こうとする態度を身につけることにある。この意味で、学校が知識や技術の習得のためだけに合目的的に機能を単一化し、その本来的な多機能性（特に人間形成）を失い、居心地のよい場所でなくなりつつある現状を見ると、もう一つの教育課程である特別活動の意義は見直されるべきである。特別活動は、生徒の自主的、集団的な活動の時間であり、まさに「生きる力」を養う場として、各学校・教員が創造的にいろいろな実践や工夫を行う余地が多く残されている。

本講義では、特別活動の教育課程上の位置づけ、その教育的意義と内容、具体的な展開と工夫などについて考察しながら、学校教育における特別活動の基本的な役割について理解を深め、ひいてはこれからの時代に期待される教師のあり方について明らかにしたい。

■到達目標
教員に求められる資質・能力・役割について理解するとともに、教育への積極的な姿勢を養う。

■講義方法
講義の他、討論・発表等の参加型授業を導入する。

■成績評価の方法
平常点（40%）　授業への参加、意欲・態度等を評価する。
小テスト（20%）　授業中に出される課題の達成度を評価する。
レポート（40%）　学期末の課題の達成度を評価する。
上記の尺度・割合を原則として総合的に評価する。欠席が3分の1を超える、遅刻が多い、著しく授業態度が悪い等の場合には、教職への適性を欠くものとして、単位を認定しない。

■テキスト
特になし

■参考文献
適宜講義中に紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
教職を目指す者として意欲的に受講すること。

■講義計画
①特別活動の意義と特性 1
②特別活動の意義と特性 2
③特別活動の意義と特性 3
④望ましい集団づくりと教師のリーダーシップ 1
⑤望ましい集団づくりと教師のリーダーシップ 2
⑥教育課程としての特別活動
⑦学級活動の意義と運営
⑧学校行事の意義と実施上の工夫・配慮事項
⑨特別活動の指導計画と工夫 1
⑩特別活動の指導計画と工夫 2
⑪特別活動の指導計画と工夫 3
⑫特別活動の指導計画と工夫 4
⑬特別活動と特色ある学校づくり・総合的な学習の時間
⑭まとめ

道徳教育指導法

【担当】大嶋　正志
【開講】後期　土1

■サブタイトル
中学校「道徳」の時間の指導の在り方、実践研究

■講義概要
道徳教育の目標は、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うことにある。道徳の時間においては、各教科、特別活動及び総合的な学習の時間における道徳教育と密接な関係を図りながら、計画的、発展的な指導によって補充・深化・統合し、道徳的価値及び人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成する必要がある。このため、道徳の目標及び内容、指導の観点、道徳の指導計画、道徳の時間の実践的な指導について講義する。各自で資料を発掘したり指導案を作成したりして協議する展開も取り入れての授業も工夫したい。

■到達目標
中学校の教育課程の構成要素のひとつである「道徳」の指導法

■講義方法
毎回、担当者が作成する「講義レジュメ」と「教材資料」を使っての「学習指導案」を作成し、指導法を考察していく。「目標構成」「生徒の意識と実態の把握」「授業展開の工夫」「発問の工夫・留意点」「生徒の活動のさせ方」など教育実習など学校現場での指導にも役立つ実践的な力量をつけたい。

■系統的履修
「教師論」「教育課程論」「特別活動論」

■成績評価の方法
平常点（20%）　出席カードによる
定期試験（80%）「道徳指導案」の作成による考査点による。持込不可
講義中に指示する項目についての資料の提出を平常点に加味する。

■テキスト
文部科学省編　『中学校学習指導要領』　260円

■参考文献
特になし

■講義計画
①教育課程の中における「道徳」の時間と道徳教育
②道徳教育の歴史と意義、道徳の時間のねらい、目標
③小・中学校における道徳の内容項目の系統性と指導の観点、構成
④道徳教育の全体計画と学級における指導計画の意義
⑤道徳学習指導案の作成の手順と創意工夫
⑥多様な資料の開発と資料の活用・工夫、生徒の意識と実態
⑦授業における展開、発問構成、資料、生徒の活動のさせ方
⑧「道徳」の授業の実践研究 1）
⑨「道徳」の授業の実践研究 2）
⑩「道徳」の授業の実践研究 3）
⑪「道徳」の授業の実践研究 4）
⑫「道徳」の授業の実践研究 5）
⑬「道徳」の時間の指導と学級経営

同和教育論

【担当】岸　衛
【開講】前期　水1

■サブタイトル
「今」を問う・「自分」を問う
■講義概要
部落差別は過去の歴史的な「遺制」ではなく、「今、ここ」で恣意的かつ無根拠に作られている差別である。差別は人と人の関係の中で起こる。だから日常の自分と他人の関係の仕方を見つめることから始めたい。
　今、「同和教育の深まりから人権教育への広がり」といわれている。同和教育の出発とそれがめざしたものが何であったのか、これからの人権教育では「同和教育」の観点をどう生かしていくのかを明らかにしたい。
　差別問題、人権問題は、いい古された言葉を語った時点で、自分で考えることをやめてしまう。「自分の言葉で何が語れるか」を最終の課題にしたいと考えている。
■到達目標
「今」を見る目が養われる
「自分」と「他人」との関係やあり方が見えてくる
■講義方法
基本的には講義形式で進めるが、可能な限り問答・会話を中心に進める。
人権学習についての「教案」を作り、実際に授業の一部をやってもらう。
自分の言葉で「語る」人権問題スピーチをする。
■系統的履修
人権論A・B（岸）
■成績評価の方法
平常点（50%）　出席点・コミュニケーション・カード提出
　　スピーチ
　　小テスト（30%）　教案提出
　　レポート（20%）　まとめのレポート提出
■テキスト
岸衛　『自分・差別・世間』　解放研究所しが　700円
■参考文献
特になし
■講義計画
①オリエンテーション
②差別する瞬間の「自分」を探る
③差別の作られ方
④「同和」教育運動の歩みと実践
⑤学校教育の中での「同和」教育の実践
⑥自分を解放する部落問題学習の実践
⑦差別事件に学ぶ
⑧部落差別問題とは何か
⑨部落差別問題の「深まり」と人権問題への「広がり」
⑩人権学習の教案作り
⑪人権学習の実践①
⑫人権学習の実践②
⑬人権学習の実践③
⑭まとめ

教職課程

メディア教育論

【担当】大西　俊弘
【開講】前期　木1

■講義概要
メディアとは何かという基本的な概念から説明し，メディアを活用した教育について講義する。
（1）視聴覚メディア・コンピュータなどの特性について考査し、中学校・高等学校などで活用方法について学ぶ。
（2）メディア・リテラシーについて考察し、教育におけるメディア・リテラシーの重要性について学ぶ。
（3）プレゼンテーションの理論・技法について学び、教育への応用を考える。
（4）教育現場で著作権に配慮することの重要性について学ぶ。
■到達目標
各教科の授業や総合学習において、メディアを有効に活用した授業の設計を行うことができる。
■講義方法
講義形式だけでなく、グループ活動（CMの制作・発表など）も行う。
■成績評価の方法
平常点（20%）　遅刻・欠席があれば、持ち点40点から減点。但し、授業を3回以上欠席すると単位不認定。
レポート(20%)　レポート･作品未提出者は単位を認定しない。
定期試験（60%）レポート･作品のテーマは授業中に指示する。
特別な理由なしに、授業を3回以上欠席した場合及びレポート未提出の場合は、原則として単位を認定しない。
■テキスト
特になし
■参考文献
特になし
■履修上の注意・担当者からの一言
教員になる強い意志を持った人の受講を望む。
■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワー：木曜日の３講時～４講時に研究室（2号館117号室）にて。（ただし、6月は教育実習の巡回で不在のこともある。）
連絡方法：電子メールにて（アドレスは講義で連絡する。）
■講義計画
①メディアとは何か
②メディア・リテラシーとは何か
③メディア・リテラシー（写真編）
④メディア・リテラシー（統計・グラフ編）
⑤メディア・リテラシー（科学編）
⑥著作権入門
⑦プレゼンテーション入門
⑧プレゼンテーションの実際
⑨映像と音響の複合効果
⑩CM製作１（技術的解説、班別協議）
⑪CM製作２（班別製作活動）
⑫CM製作３（予選会）
⑬CM製作４（本選会、講評）
⑭学校におけるメディアの活用

理科教育法Ⅰ（2003年度以降入学生）
理科教育法（2000～2002年度入学生）

【担当】竹谷　博
【開講】通年　水2

■サブタイトル
学ぶ喜びを感じる理科教育を求めて

■講義概要
科学技術は豊かな生活と繁栄をもたらした。かつては多くの子どもが自然への興味や科学への憧れを抱いたが、今や「理科嫌い」の子供が多くを占めるといわれている。理科教育では、発達に応じた教材によって観察・実験や探究活動をさせ、「学ぶ楽しさ」とBlack boxなしに「分かる喜び」を与えることである。
本科目では、まず、我が国の理科教育の歴史的変遷を概説し、中・高等学校の理科教育の目的、教育課程とその基準、学習内容等に触れる。また、実験・観察の在り方を含む効果的な指導法を「評価論」を含めて探る。さらに、実践的な演習として、指導案の作成、教材研究および模擬授業を個別に課し、指導力の育成を図る。

■到達目標
理科教育を担当するにあたっての基本的な姿勢と実践的な指導力の習得

■講義方法
テキスト、プリントおよび板書による講義。後期には、受講生全員に指導案の作成と模擬授業を課し、具体的・実践的指導を行う。

■成績評価の方法
平常点（10%）　出席点を含む
定期試験（50%）　後期末に実施
その他（40%）　指導案および模擬授業

■テキスト
文部科学省　『中学校学習指導要領解説　理科編』　大日本図書　110円
文部科学省　『高等学校学習指導要領解説　理科編』　大日本図書　305円
中学のは平成20年9月告示の新課程用、高校のは、平成11年12月告示の旧課程用

■参考文献
飯利雄一　他　『理科教育　理論と実践』　東京書籍　2730円
日本理科教育学会　『キーワードから探る　これからの理科教育』　東洋館出版社　3675円

■履修上の注意・担当者からの一言
授業への出席が必須条件

■講義計画
1　理科教育に変遷
　1）明治から終戦までの理科教育
　2）戦後における理科教育
　　・理科教育を支える法体系
　　・学習指導要領改訂に見る変遷
2　理科教育とは
　1）理科の目標と理科学習の特徴
　2）現行指導要領における理科の教育課程
　3）中学校理科の指導内容と、高校理科の科目構成
　4）指導上の問題点と留意事項
3　理科の学習指導法
　1）各種指導法
　2）観察・実験および探究活動の指導
1　学習評価の意義と理科学習評価の特徴
2　その他実践上の留意事項
3　演習
　1）教材研究と指導案の作成
　2）模擬授業を通して指導技術の習得

理科教育法Ⅱ（2003年度以降入学生）

【担当】大西　俊弘
【開講】通年　月４

■講義概要
日本の理科教育・科学教育の現状と課題を概観し、今後の理科教育の方向性について考察する。また、教育現場に出てすぐに役立つ指導力の育成をはかるため、模擬授業等にも積極的に取り組む。
具体的には、次のような内容の講義を行う。
（１）理科教育の意義と今日的な課題
（２）理科教育の歴史的変遷
（３）環境問題と理科教育の関係
（４）仮説実験授業の理論と実際
（５）実験指導の実際
（６）諸外国における理科教育の動向
（７）教材研究の実際

■到達目標
理科教育の歴史と新しい潮流について理解を深め、実験・観察および探究活動を重視した実践的指導力を身につける。

■講義方法
講義及び実習・演習が中心。
実習・演習では、教材作成や指導案の作成を行い、模擬授業も行う。

■系統的履修
理科教育法Ⅰを学んだ後に履修すること。

■成績評価の方法
平常点（40%）　出席状況、講義・実習への積極的な参加の度合い
レポート（60%）　学習指導案等の作成、年に数回のレポート
特別な理由なく3回以上欠席した場合は、原則として単位を認定しない。
また、レポート未提出の場合も、原則として単位を認定しない。

■テキスト
特になし

■参考文献
左巻健男　『授業づくりのための理科教育法』　東京書籍　2200円
文部省　『中学校学習指導要領解説　理科編』　大日本図書　126円
文部省　『高等学校学習指導要領解説　理科編』　大日本図書　305円
上記に示した「学習指導要領解説」はともに、現行課程のものである。新学習指導要領の解説書も入手しておくことが望ましい

■履修上の注意・担当者からの一言
教員を強く志望し、意欲のある学生諸君に履修してほしい。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
オフィスアワーは、木曜日の３・４講時に研究室（2号館117D）にて。（但し、６月は教育実習の巡回指導で不在のときもある。）
連絡は、メールにて（メールアドレスは、最初の講義で連絡する）

■講義計画
（前期）
①理科の授業のあり方
②現行学習指導要領の特徴と課題
③次期学習指導要領の特徴
④理科教育における評価のあり方
⑤観点別評価と学習指導案
⑥模擬授業（１）
⑦模擬授業（２）
⑧理科教育の歴史（戦前）
⑨理科教育の歴史（戦後）
⑩理科教育におけるICTの利用（１）
⑪理科教育におけるICTの利用（２）
⑫仮説実験授業入門
⑬仮説実験授業の実際（模擬授業１）
⑭仮説実験授業の実際（模擬授業２）
（後期）
⑮理数離れの実態
⑯PISAが目指す科学的リテラシー
⑰諸外国における理科教育の実情（１）
⑱諸外国における理科教育の実情（２）
⑲環境問題と理科教育（１）
⑳環境問題と理科教育（２）
㉑実験指導の実際（１）
㉒実験指導の実際（２）
㉓教材・教具の開発（１）
㉔教材・教具の開発（２）
㉕ベテラン教員の授業に学ぶ
㉖他教科との連携のあり方
㉗総合学習と理科教育
㉘今後の理科教育の方向性

本願寺派教師資格課程科目

カナ	科目名	担当者	ページ
シ	宗教学概論	古賀　和則	273
	宗門法規		※1
	真宗学概論	井上　見淳	274
	真宗史	仲尾　孝誠	274
ニ	日本仏教史	下間　一頼	275
フ	仏教学概論	上田　晃圓	275

※1：詳細については別途掲示。

宗教学概論

【担当】古賀　和則
【開講】通年　月5

■サブタイトル
宗教学は宗教をどのように見てきたか

■講義概要
広義の宗教学は、宗教を研究対象とする学問であり、神（宗）学、宗教哲学、宗教史、科学的宗教学の領域があります。また、教義の宗教学では宗教史と科学的宗教学があります。この講義では、まず、広義の宗教学の概要をたどり、続いて狭義の宗教学を取り上げ、主要な研究テーマを絞りたどります。

■到達目標
宗教研究の概要の理解。

■講義方法
講義形式ですが、前後期に各1回程度の討論会（シンポジウム）を行います。

■系統的履修
「現代社会と宗教」「生活の中の宗教」「心と身体と宗教」「哲学」「社会学」「心理学」「文化人類学」

■成績評価の方法
平常点（20%）　前期、後期各１回以上のミニシンポ
レポート（80%）　前期まとめレポート（40点）、後期まとめレポート（40点）

■テキスト
特になし

■参考文献
上田・柳川編　『宗教学のすすめ』　筑摩書房
石田・薗田編　『宗教学を学ぶ人のために』　世界思想社
井上・月本・星野編　『宗教学を学ぶ』　有斐閣
脇本著　『宗教学入門』　講談社
武・宮庄・高田編　『宗教学の現在』　三和書房
細谷・藤田編　『新しい教養のすすめ　宗教学』　昭和堂

■履修上の注意・担当者からの一言
宗教学には広い範囲があります。それは、対象の宗教が多種多様であることもあります。また、学ぶ立場の多様性もあります。この講義では、主として、宗教を広くとらえ、科学的に分析しようとする立場にたちます。

■オフィスアワー・教員への連絡方法
e-mail: koga@soc.ryukoku.ac.jpでアポイントを取ること。

■講義計画
①宗教学の成立：成立の背景と分野
②宗教の規定：究極的なものと聖なるもの
③神学：科学と対峙する信仰
④宗教史Ⅰ：宗教起源論とその問題
⑤ミニシンポ「呪術は効くか」
⑥宗教史Ⅱ：呪術と宗教
⑦宗教史Ⅲ：宗教の‘進化’
⑧宗教現象学Ⅰ：宗教類型論
⑨宗教現象学Ⅱ：聖への接近
⑩宗教社会学Ⅰ：宗教社会学概観
⑪宗教社会学Ⅱ：ウェーバーの宗教社会学
⑫宗教社会学Ⅲ：デュルケミアンの宗教社会学（１）
⑬宗教社会学Ⅲ：デュルケミアンの宗教社会学（２）
⑭宗教社会学Ⅳ：宗教の社会的機能
⑮宗教社会学Ⅴ：宗教運動
⑯宗教心理学Ⅰ：宗教心理学概観
⑰宗教心理学Ⅱ：宗教体験
⑱宗教心理学Ⅲ：宗教的人格
⑲宗教心理学Ⅳ：宗教の社会心理学
⑳ミニシンポ「現代人の宗教意識」
㉑宗教生理学：心と身体と宗教
㉒宗教人類学Ⅰ：機能主義的分析
㉓宗教人類学Ⅱ：構造主義的分析
㉔宗教人類学Ⅲ：象徴分析
㉕宗教地理学：環境と宗教
㉖宗教民俗学Ⅰ：宗教民俗学概観
㉗宗教民俗学Ⅱ：ムラの宗教習俗
㉘宗教民俗学Ⅲ：民俗宗教論

真宗学概論

【担当】井上　見淳
【開講】通年　金４

■講義概要
「真宗」とは浄土真宗であり、現在では教団名を意味するのが一般的であるが、本来は親鸞が他力の法義そのものを呼ぶ名であった。では科目にある「真宗学」をどう捉えるのか。一言で定義するのはなかなか難しいが、大づかみにいえば、①親鸞が何を問題として、どういう思想を明らかにしたのか。②また明らかになった内容とは、それまでの仏教思想のどの点を受容し、どう展開させたのか。③その親鸞の思想とはどのように伝わってゆき、現在どのようなことが課題としてあるのか、ということになろうかと思う。すなわち以上の諸点を「概論」するのが、本授業ということになる。

■到達目標
真宗にまつわる基礎知識の習得

■講義方法
板書を基本として、必要に応じてレジュメを配布する。指定テキストとノートは必ず持参すること。

■成績評価の方法
年度末試験を50％とし、授業への参加姿勢（出席状況、受講態度、および小テストの結果）を50％として判断する。

■テキスト
『浄土真宗聖典（註釈版）第二版』　本願寺出版社

■参考文献
講義の際に適宜紹介する。

■履修上の注意・担当者からの一言
耳慣れない言葉も出てくるであろうが、ゆっくりと説明しながら進めていきたい。私語厳禁。

■講義計画
①宗祖と御開山と高祖
②親鸞の生涯とその思想
③本願と三部経
④親鸞と七高僧について
⑤他力について
⑥往生浄土について
⑦信心と称名について
⑧本尊について
⑨覚如と本願寺
⑩蓮如について
⑪真宗寺院について
⑫安心論題について
⑬現代社会と真宗

真宗史

【担当】仲尾　孝誠
【開講】通年　月４

■サブタイトル
浄土真宗の成立と変容の歴史

■講義概要
親鸞が開いた浄土真宗の教団は、今日、御同朋御同行のみ教えによる同朋教団であると自称されている。では御同朋御同行のみ教えとは、いかなる教えなのか。それは、どのようにして開顕され、また他の諸宗派とどのように違っていたのか。さらには、親鸞の開いた教団がその後、国家と民衆との関係においてどのように展開していったのか。
浄土真宗の成立と変容の歴史について学び、親鸞における信心の社会性の意義と今日的実践課題を共に明らかにしていきたい。

■到達目標
浄土真宗の歴史の全容。日本における宗教と国家、宗教と人権に関する基礎的な知識。

■講義方法
テキストを中心に講義するが、ビデオ教材も活用する。

■成績評価の方法
平常点（50%）・レポート（10%）・定期試験（40%）

■テキスト
福間光超・堀大慈　『真宗史（中央仏教学院テキスト）』（本願寺出版社）
柏原祐泉　『仏教と部落差別その歴史と今日（人権ブックレット９）』　解放出版社

■参考文献
二葉憲香、松尾博仁、福嶋寛隆　『歴史のなかの親鸞』　永田文昌堂
阿満利麿　『法然の衝撃　日本仏教のラディカル』　人文書院
財・同和教育振興会　『差別・被差別からの解放本願寺教団と部落差別（増補版）』　本願寺同朋センター
阿部謹也　『日本人の歴史意識』　岩波新書

■講義計画
①日本の仏教宗派
②親鸞とその教団①～③
③大谷廟堂と本願寺①②
④蓮如と本願寺教団の発展①②
⑤一向一揆①②
⑥近世本願寺教団の形成①②
⑦近世教学と信仰①②
⑧維新政治と真宗①②
⑨教団の近代化①②
⑩近代天皇制国家と教団①②
⑪戦後における真宗の動向部落問題・靖国問題①②

日本仏教史

【担当】下間　一頼
【開講】通年　火４

■サブタイトル
日本における仏教受容とその展開
■講義概要
外来思想であった仏教がどのように受容・展開し、日本社会の中に定着してきたのか。現代人の宗教観・倫理観はどのような過程をへて形成されてきたのか。
本講義では日本仏教のあり方を歴史学の方法を用いて考察し、日本における仏教受容を検証していく。
■到達目標
高等学校では政治の流れを中心に歴史を学んできた。
ここでは仏教を方法的視座にすえることで、今までと異なる日本歴史像を提示できると考えている。
■講義方法
講義形式で授業を行なう。
■成績評価の方法
平常点（20%）・レポート（20%）・定期試験（60%）
定期試験は「持ち込み可」で行います。日本仏教の歴史的展開をどのように捉え、考え、表現できるかを問いたいと思います。
■テキスト
二葉憲香・他 『歴史のなかの親鸞』 永田文昌堂　2400円
■参考文献
講義中に適宜紹介する。
■講義計画
１－　３回　仏教の基本原理
４－　５回　仏教伝来
６－１０回　古代仏教
１１－１７回　中世仏教
１８－２０回　近世仏教
２１－２３回　近代仏教
２４－２６回　現代社会と仏教
２７－２８回　まとめ

仏教学概論

【担当】上田　晃圓
【開講】通年　水３

■サブタイトル
善・悪から真・偽へ（悟りとは何かを通して）
■講義概要
自己責任が重視される今日、自己のありよう・平均的自己から本来の自己を求めるに際し、グローバルな宗教観の中から仏教とは何かを通し、現代においても祖師と仰がれる名僧の人物像とその悟りを垣間見ながら、現代のやさしい諸問題を直視する。
■到達目標
学生のプライド・身だしなみとして、知らないよりは知っておいたほうがより得になる教養。現代病に強くなる。
■講義方法
各項目における学習内容を習得しながら、現在残されている映像を補足する。
■系統的履修
真宗概論・真宗学概論の何れか。
■成績評価の方法
小テスト（20%）　仏教専門語との区別
レポート（20%）　どれだけ理解度を深めているか。
定期試験（40%）　知性度
その他（20%）　積極的な行動基準
履修学生数に応じ、平生または年度末の試験もしくはレポート。評価には出席点も加算する。
■テキスト
ファイルによって提供。
■参考文献
その都度示す。
■履修上の注意・担当者からの一言
ノートはルーズリーフによるファイルを、またはディスクに記入を。情報処理実習室使用（PC-Room）。休講は龍谷大学URLでも確認を。出席して聴講することに大いなる意義が産み出されるものと確信する。
　なお、レポートなどはPC上で行い、教員・学生個人との共用評価ファイルとなる。
■講義計画
第一部　教義篇
　シャカの教え１（誕生から「覚」（さとり）まで）
　シャカの教え２（転法輪から涅槃（ニルヴァーナ）まで）
　般若と人間学（基礎用語と人間存在）
　シルクロード文化伝播
　大乗（仏教）と小乗（仏教）
　智慧と実践の仏教
　禅と念仏
　中国・日本の宗派（仏教）
第二部　人物篇
　アジャセ王とアショカ王とカニシカ王
　龍樹・世親
　鳩摩羅什・玄奘
　曇鸞
　聖徳太子・鑑真・行基
　最澄・空海
　法然・親鸞・道元
第三部　現代の諸問題篇
　武士道と文武
　現代病 vs 仏教
　いのち
諸項目から随時選択しながら講義する

付　　録

教員名簿

理工学部専任教員

※ダイヤルインは１号館、２号館は077－543－内線番号、７号館は077－544－内線番号

【数理情報学科】			内線
飯田　晋司	1号館	513 研究室	7513
池田　　勉	1号館	512 研究室	7512
宇土　顯彦	1号館	506 研究室	7797
大西　俊弘	2号館	117D研究室	7198
※（外線）077－544－7198			
岡本　雄二	2号館	312 研究室	7654
國府　宏枝	1号館	501 研究室	7503
阪井　一繁	1号館	503 研究室	7508
佐野　　彰	1号館	507 研究室	7507
高橋　隆史	1号館	508 研究室	7501
中野　　浩	1号館	514 研究室	7518
樋口　三郎	1号館	502 研究室	7514
馬　　青	1号館	505 研究室	7505
松木平淳太	1号館	504 研究室	7488
松本和一郎	1号館	510 研究室	7510
森田　善久	1号館	509 研究室	7509
山岸　義和	1号館	507 研究室	7507
四ツ谷晶二	1号館	511 研究室	7511
若原　雄昭	3号館	320 研究室	7648

【電子情報学科】			内線
阿部　宏尹	1号館	409 研究室	7409
粟井　郁雄	1号館	604 研究室	
上原　　徹	1号館	443 研究室	7414
植村　　渉	1号館	438 研究室	7495
海川　龍治	1号館	402 研究室	7402
川上　　肇	1号館	403 研究室	7403
木村　昌弘	1号館	406 研究室	7406
木村　　睦	1号館	407 研究室	7407
熊野　雅仁	1号館	437 研究室	7437
小島　　肇	1号館	443 研究室	7414
小淵　洋一	1号館	410 研究室	7410
小堀　　聡	1号館	401 研究室	7419
近藤　英彦	2号館	311 研究室	7656
斉藤　光徳	1号館	408 研究室	7487
張　　陽軍	1号館	438 研究室	7495
中川　晃成	1号館	437 研究室	7437
中村　奉夫	1号館	405 研究室	7405
野口紳一郎	1号館	443 研究室	7414
藤井　大輔	1号館	437 研究室	7437
宮下　豊勝	1号館	411 研究室	7798
村田　　正	1号館	412 研究室	7412
山本　伸一	1号館	404 研究室	7404

【機械システム工学科】			内線
岩本　太郎	1号館	315 研究室	7445
大津　広敬	1号館	301 研究室	7431
大塚　尚武	1号館	303 研究室	7433
大槻　志郎	2号館	315 研究室	7657
金子　康智	1号館	302 研究室	7432
河嶋　壽一	1号館	311 研究室	7441
塩見　洋一	1号館	316 研究室	7458
渋谷　恒司	1号館	314 研究室	7444
進藤　康則	1号館	308 研究室	7429
田原　大輔	1号館	317 研究室	7504
辻上　哲也	1号館	306 研究室	7411
堤　　一義	1号館	304 研究室	7446
西原　弘訓	1号館	313 研究室	7443
西村　和男	1号館	339 研究室	7533
野口　佳樹	1号館	319 研究室	7434
堀川　　武	1号館	305 研究室	7435
本田　尚義	1号館	308 研究室	7429
前田　英史	1号館	320 研究室	7408
森　　正和	1号館	312 研究室	7442

【物質化学科】			内線
青井　芳史	1号館	205 研究室	7465
S. C. Yenik	2号館	314 研究室	7655
石井　大輔	1号館	318 研究室	7466
岩澤　哲郎	1号館	201 研究室	7461
内田　欣吾	1号館	202 研究室	7462
大柳　満之	1号館	206 研究室	7464
糟野　　潤	1号館	307 研究室	7439
下埜　　勝	1号館	310 研究室	7440
白神　達也	1号館	210 研究室	7470
富崎　欣也	1号館	209 研究室	7469
中沖　隆彦	1号館	204 研究室	7661
中野　裕美	1号館	307 研究室	7439
林　　久夫	1号館	203 研究室	7463
藤原　　学	1号館	212 研究室	7472
前田　尚志	1号館	310 研究室	7440
松下　隆之	1号館	211 研究室	7471
松中　岩男	1号館	310 研究室	7440
宮武　智弘	1号館	207 研究室	7467
山添　誠司	1号館	309 研究室	7599
渡辺　英児	2号館	329 研究室	7667
和田　隆博	1号館	208 研究室	7468

付録

【情報メディア学科】			内線
岩嶋　浩樹	7号館	コラボレーション演習準備室	7148
岡田　至弘	7号館	情報研究室 2	7132
片岡　章俊	7号館	情報研究室 5	7135
寄能　雅文	7号館	コラボレーション演習準備室	7148
芝　　公仁	7号館	情報研究室11	7142
新川　芳行	7号館	情報研究室 3	7133
曽我麻佐子	7号館	情報研究室13	7144
南條　浩輝	7号館	情報研究室14	7140
野村　竜也	7号館	情報研究室 6	7136
長谷　智弘	7号館	情報研究室 7	7137
藤田　和弘	7号館	情報研究室 1	7131
三浦　雅展	7号館	情報研究室12	7143
三好　　力	7号館	情報研究室 8	7138
吉見　毅彦	7号館	情報研究室 9	7139
渡辺　靖彦	7号館	情報研究室10	7141

【環境ソリューション工学科】			内線
浅野　昌弘	7号館	環境研究室14	7114
石垣　智基	7号館	環境研究室 1	7101
市川　陽一	7号館	環境研究室 4	7104
占部　武生	7号館	環境研究室 9	7109
岸本　直之	7号館	環境研究室 7	7107
桑垣　　瑞	7号館	実験実習準備室	7126
越川　博元	7号館	環境研究室 2	7102
近藤　倫生	7号館	環境研究室11	7111
竺　　文彦	7号館	環境研究室 5	7105
桧尾　亮一	7号館	実験実習準備室	7117
丸山　　敦	7号館	環境研究室12	7112
宮浦　富保	7号館	環境研究室 6	7106
遊磨　正秀	7号館	環境研究室 3	7103
横田　岳人	7号館	環境研究室 8	7108
Thomas T. Lei	7号館	環境研究室10	7110

【理工学部教務課】
077－543－7730 ～ 7732

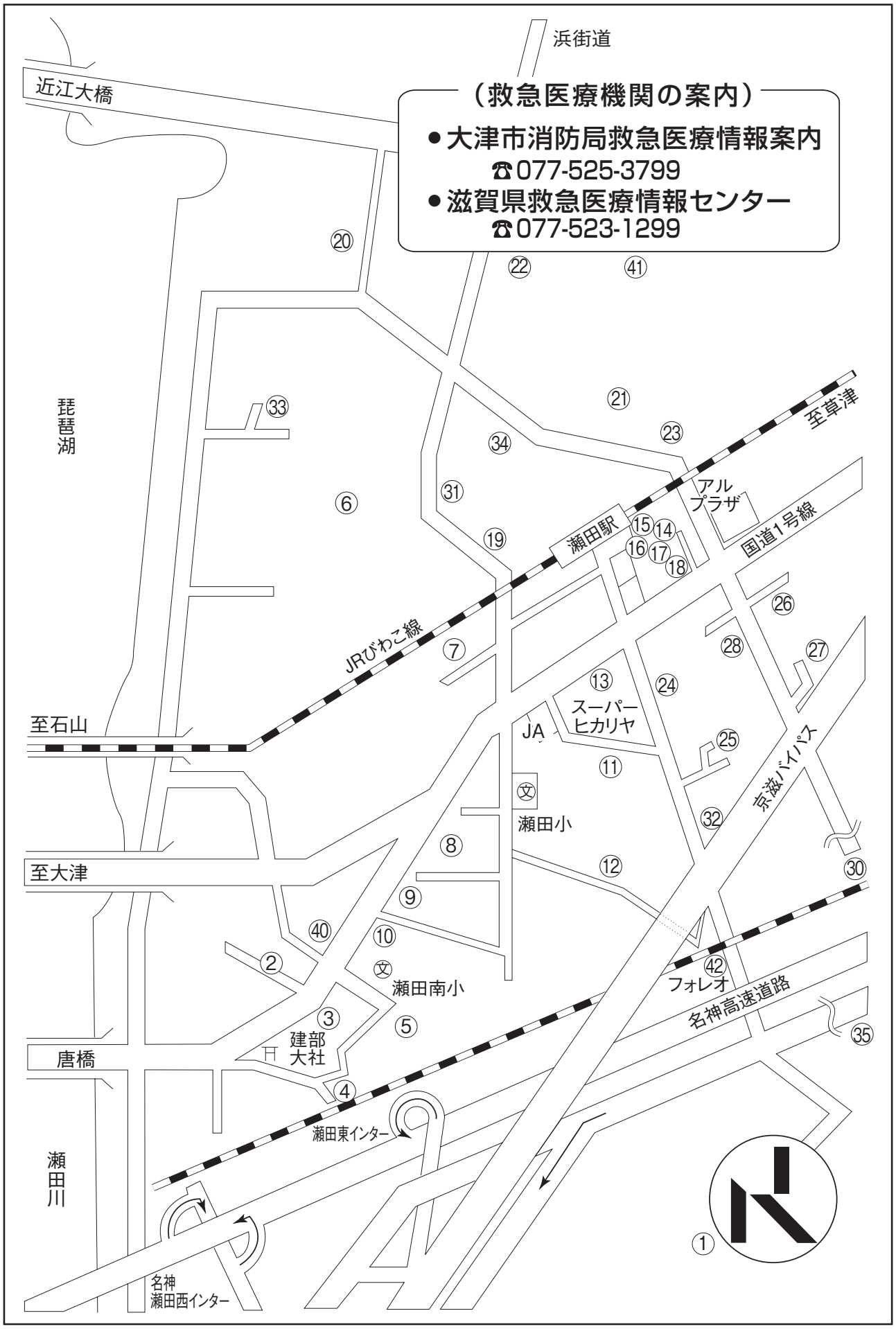
瀬田学舎近隣医療機関

※診療科目、診療日、診療時間等は変更される場合がありますので事前に電話で確認して下さい。

病院名	住所	電話番号	診療科目	診療時間	月	火	水	木	金	土
①龍谷大学 瀬田診療所	龍谷大学４号館Ｂ1階 保健管理センター内	077 - 543 - 7781	内科・精神科	午前	×	×	×	×	×	×
				午後1：00 ～ 4：00 月 1：30 ～ 4：30 火･水･金	○	○	○	×	○	×
				午後　精神科 1：30 ～ 3：00（要予約）木	×	×	×	○	×	×
②林医院	大津市瀬田１丁目 4 - 16	077 - 545 - 5592	内科・循環器科	午前 9：00 ～ 12：00 月・水・金・土	○	×	○	×	○	○
				午後 5：30 ～　8：00 木	×	×	×	○	×	×
③瀬田医院	大津市神領１丁目 9 - 20	077 - 545 - 2575	内科・消化器科・ 皮膚科	午前 9：00 ～ 12：00　月～土	○	○	○	○	○	○
				午後 5：00 ～　7：00　月～水・金	○	○	○	×	○	×
④加藤内科胃腸科	大津市神領２丁目 39 - 3	077 - 545 - 8810	内科・胃腸科	午前 9：00 ～ 12：00　月～水・金・土	○	○	○	×	○	○
				午後 5：00 ～　8：00　月・水・金	○	×	○	×	○	×
⑤前田医院	大津市萱野浦 13 - 11	077 - 545 - 3395	内科	午前 9：00 ～ 12：30　月～土	○	○	○	○	○	○
				午後 5：00 ～　7：30　月・水・木・土	○	×	○	○	×	○
⑥レイクサイドクリニック	大津市大江１丁目 3 - 20	077 - 544 - 2995	内科・消化器科・ハビリテーション科・小児科	午前 9：00 ～ 12：00 月～土	○	○	○	○	○	○
				午後 4：30 ～　6：30 月・火・木・金	○	○	×	○	○	×
⑦鶴岡眼科医院	大津市大江２丁目 12 - 38	077 - 544 - 1075	眼科	午前 8：30 ～ 10：30 月・水～土 （第１・３・５週／土曜予約制）	○	×	○	○	○	○
				午後 1：00 ～　3：00 月・水・金 午後 3：00 ～　4：00 水・金（予約制）	×	×	○	×	○	×
⑧山口医院	大津市大江３丁目 3 - 20	077 - 545 - 2207	内科・胃腸科	午前 9：00 ～ 12：00 月～土	○	○	○	○	○	○
				午後 5：30 ～　7：30 月～水・金	○	○	○	×	○	×
⑨駒井外科医院	大津市大江３丁目 11 - 25	077 - 545 - 3067	外科	午前 9：00 ～ 12：00 月～土	○	○	○	○	○	○
				午後 5：30 ～　8：00 月～水・金	○	○	○	×	○	×
⑩矢沢耳鼻咽喉科医院	大津市大江３丁目 24 - 15	077 - 544 - 3110	耳鼻咽喉科・ アレルギー科	午前 9：00 ～ 12：00 月～水・金・土	○	○	○	×	○	○
				午後 4：00 ～　7：00 月～水・金	○	○	○	×	○	×
⑪岡島内科 胃腸科医院	大津市大江４丁目 19 - 12	077 - 545 - 8600	内科・胃腸科	午前 9：00 ～ 12：00 月～土	○	○	○	○	○	○
				午後 5：30 ～　7：30 月～水・金	○	○	○	×	○	×
⑫玉川医院	大津市大江５丁目 33 - 5	077 - 548 - 3431	内科・消化器科・リハビリテーション科・外科	午前 9：00 ～ 12：00 月～水・金・土	○	○	○	×	○	○
				午後 5：00 ～　7：00 月～金	○	○	○	○	○	×
⑬瀬田耳鼻咽喉科	大津市一里山１丁目 2 - 13	077 - 543 - 1490	耳鼻咽喉科・ アレルギー科	午前 9：00 ～ 12：30 月～土	○	○	○	○	○	○
				午後 3：30 ～　7：00 月～金	○	○	○	○	○	×
⑭本田眼科	大津市大萱１丁目 16 - 15	077 - 543 - 0878	眼科	午前 9：30 ～ 12：30 月～水・金・土	○	○	○	×	○	○
				午後 4：00 ～　6：00 月～水・金	○	○	○	×	○	×
⑮藤尾医院	大津市大萱１丁目 17 - 5 本郷第２ビル４階	077 - 543 - 0310	内科・呼吸器科・ 外科	午前 8：30 ～ 12：00 月～土	○	○	○	○	○	○
				午後 5：00 ～　8：00 月～水・金	○	○	○	×	○	×
⑯小西医院	大津市大萱１丁目 17 - 35	077 - 543 - 3600	内科・皮膚科・ 泌尿器科・外科	午前 9：30 ～ 12：30 月～土	○	○	○	○	○	○
				午後 5：00 ～　7：30 月・火・木・金	○	○	×	○	○	×
⑰湖南クリニック	大津市大萱１丁目 19 - 25 大駒ビル２階	077 - 545 - 8530	精神科・神経科・ 内科・心療内科	午前 9：30 ～ 12：00 月～土（予約制）	○	○	○	○	○	○
				午後 5：00 ～　7：30 月・火・木・金（予約制）	○	○	×	○	○	×
⑱棚橋整形外科	大津市大萱１丁目 20 - 12	077 - 545 - 8020	整形外科・外科・ リハビリテーション科	午前 9：00 ～ 12：00 月～土	○	○	○	○	○	○
				午後 3：30 ～　6：30 月～金	○	○	○	○	○	×
⑲桂医院	大津市大萱３丁目 15 - 21	077 - 545 - 2217	皮膚科	午前 9：00 ～ 13：00 月～水・金・土	○	○	○	×	○	○
				午後	×	×	×	×	×	×
⑳中橋歯科医院	大津市大萱１丁目 13 - 20	077 - 543 - 0800	歯科	午前 9：00 ～ 12：00 月～水・金・土	○	○	○	×	○	○
				午後 2：00 ～　7：00 月～水・金・土	○	○	○	×	○	○
㉑ののむら眼科	大津市大将軍１丁目 13 - 12	077 - 543 - 5439	眼科	午前 9：00 ～ 12：30 月～土（第４土曜休診）	○	○	○	○	○	○
				午後 4：30 ～　6：00 月～水・金	○	○	○	×	○	×
㉒たか耳鼻咽喉科医院	大津市大将軍１丁目 27 - 1	077 - 547 - 2021	耳鼻咽喉科・ アレルギー科	午前 9：00 ～ 12：30 月～水・金・土	○	○	○	×	○	○
				午後 3：30 ～　6：30 月～金	○	○	○	○	○	×
㉓かとう医院	大津市大将軍３丁目 8 - 16	077 - 544 - 1011	内科・循環器科	午前 9：00 ～ 12：00 月～土（第２土曜休診）	○	○	○	○	○	○
				午後 5：00 ～　7：00 月・水・金	○	×	○	×	○	×
㉔かとう医院	大津市大将軍３丁目 8 - 16	077 - 544 - 1012	婦人科	午前 9：00 ～ 12：00 月・水・金・土（第２土曜休診）	○	×	○	×	○	○
				午後 4：00 ～　6：00 火・金	×	○	×	×	○	×
㉕田中皮フ科医院	大津市一里山１丁目 8 - 29 一里山中央ビル２階	077 - 545 - 1232	皮膚科	午前 9：30 ～ 12：30 月～水・金・土	○	○	○	×	○	○
				午後 4：00 ～　7：30 月～水・金	○	○	○	×	○	×
㉖川会内科医院	大津市一里山２丁目 22 - 3	077 - 545 - 6789	内科・消化器科	午前 9：00 ～ 12：00 月～土	○	○	○	○	○	○
				午後 5：00 ～　8：00 月～水・金	○	○	○	×	○	×
㉗瀬田クリニック	大津市一里山３丁目 1 - 5	077 - 545 - 3945	内科	午前 9：00 ～ 12：00 月～土	○	○	○	○	○	○
				午後 1：00 ～　5：00 月・水・木	○	×	○	○	×	×
㉘井上医院	大津市一里山３丁目 7 - 5	077 - 543 - 9400	内科・小児科・ 循環器科	午前 8：30 ～ 12：00 月～土	○	○	○	○	○	○
				午後 4：00 ～　6：30 月・水・金	○	×	○	×	○	×
㉙さいき整形外科	大津市一里山３丁目 19 - 4	077 - 545 - 7711	整形外科・ リハビリテーション科	午前 9：00 ～ 12：00 月～土	○	○	○	○	○	○
				午後 4：30 ～　7：30 月～水・金	○	○	○	×	○	×
㉚松本 ペインクリニック	大津市月輪５丁目 22 - 22	077 - 543 - 6096	内科・外科・麻酔科	午前 9：00 ～ 11：30 月～水・金・土	○	○	○	×	○	○
				午後 5：00 ～　7：00 水	×	×	○	×	×	×
㉛水谷医院	大津市大萱３丁目 6 - 33	077 - 547 - 2789	消化器科・肛門科・ 外科・整形外科	午前 9：00 ～ 12：00 月・火・木～土	○	○	×	○	○	○
				午後 4：00 ～　8：00 月～木（土は 2：00 ～ 5：00）	×	○	○	○	×	○
㉜はえうち診療所	大津市一里山４丁目 25 - 21	077 - 543 - 3861	内科・胃腸科・ 肛門科・外科	午前 9：00 ～ 12：00 月～土	○	○	○	○	○	○
				午後 3：00 ～　5：00 月・火・木・金	○	○	×	○	○	×
㉝まるやま歯科 クリニック	大津市一里山１丁目 3 - 6	077 - 547 - 3560	歯科	午前 9：00 ～午後 1：00 月～土	○	○	○	○	○	○
				午後 3：00 ～ 8：00 月～金	○	○	○	○	○	×
㉞まつだ医院	大津市大萱２丁目 4 - 20	077 - 543 - 3000	外科・胃腸科・内科・ 小児科・リハビリテーション科	午前 8：30 ～ 11：30 月～土	○	○	○	○	○	○
				午後 4：00 ～　7：00 月・水・金	○	×	○	×	○	×
㉟滋賀医科大学 附属病院	大津市瀬田月輪町	077 - 548 - 2111 時間外 548 - 2770	全科 （救急指定病院）	初診　午前 8：30 ～ 10：30 再診　午前 8：30 ～ 11：00 月～金 午後	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	○ ×	× ×
㊱大津市民病院	大津市本宮２丁目 9 - 9	077 - 522 - 4607	全科 （救急指定病院）	午前 8：30 ～ 11：30 月～金	○	○	○	○	○	×
				午後	×	×	×	×	×	×
㊲大津赤十字病院	大津市長等１丁目 1 - 35	077 - 522 - 4131	全科 （救急指定病院）	午前 8：00 ～ 11：30 月～金	○	○	○	○	○	×
				午後	×	×	×	×	×	×
㊳社会保険 滋賀病院	大津市富士見台 16 - 1	077 - 537 - 3101	全科 （救急指定病院）	午前 8：30 ～ 11：30 月～金	○	○	○	○	○	×
				午後	×	×	×	×	×	×
㊴近江草津 徳洲会病院	草津市東矢倉３丁目 34 - 52	077 - 567 - 3610	全科 （救急指定病院）	午前 9：00 ～ 11：30 月～土	○	○	○	○	○	○
				午後 5：00 ～　7：30 月～金（内科）	○	○	○	○	○	×
㊵大村整形外科医院	大津市大江２丁目 30 - 8	077 - 547 - 3551	整形外科・リハビリテーション科	午前 9：00 ～ 12：00 月～水・金・土	○	○	○	×	○	○
				午後 4：00 ～　7：00 月～水・金	○	○	○	×	○	×
㊶大道医院	大津市大将軍１丁目 15 - 7	077 - 547 - 3650	内科・呼吸器科・ 循環器科	午前 9：00 ～ 12：00 月・火・木～日	○	○	×	○	○	○
				午後 4：30 ～　7：30 月・火・木・金	○	○	×	○	○	×
㊷こはらデンタル クリニック	大津市一里山７- 1 - 1 フォレオ大津一里山	077 - 514 - 8714	一般歯科・口腔外科	午前 10：00 ～ 13：00 月～水・金～日	○	○	○	×	○	○
				午後　3：00 ～　8：00 月・水・金～日	○	×	○	×	○	○

付

録


浜街道
近江大橋
（救急医療機関の案内）
●大津市消防局救急医療情報案内
☎077-525-3799
●滋賀県救急医療情報センター
☎077-523-1299
琵琶湖
至草津
瀬田駅
アル
プラザ
国道1号線
JRびわこ線
至石山
JA
スーパー
ヒカリヤ
京滋バイパス
瀬田小
至大津
瀬田南小
フォレオ
名神高速道路
唐橋
建部
大社
瀬田東インター
瀬田川
名神
瀬田西インター

滋賀休日急患診療所

※診療科目、診療日、診療時間等は変更される場合がありますので事前に電話で確認して下さい。

病院名	住　所	電話番号	診療科目	診療時間	備考
草津・栗東休日急病診療所	草津市大路2 - 11 - 51 （草津警察署南隣）	077 - 566 - 3999	内科 小児科	日・祝・年末年始　午前10：00～午後9：30	

※滋賀県救急医療情報センター　TEL077-523-1299

京都休日急患診療所

年末年始（12/29 ～ 1/3・1/4）お盆（8/15・16）

病院名	住　所	電話番号	診療科目	診療時間	備考
京都市急病診療所	中京区聚楽廻り松下町9 （生涯学習センター内）	075 - 811 - 5072	小児科	午後9：00～午前0：00 ［土曜日］：午後2：00 ～午後5：00、 午後6：00 ～午前0：00	［日・祝日・年末年始］ 午前10：00 ～午後 5：00 午後 6：00 ～午前 0：00
			耳鼻咽喉科・眼科	［土曜日］：午後6：00～午後10：00	［日・祝日・年末年始］ 午前10：00 ～午後 5：00 午後 6：00 ～午後10：00
京都市休日急病内科小児科東診療所	山科区椥辻池尻町14の2; （山科区総合庁舎西）	075 - 591 - 5645	内科 小児科	［日・祝日・年末年始］ 午前10：00～午後5：00	
京都市休日急病内科西診療所	右京区太秦桂ヶ原町9の1 （右京保健所内）	075 - 882 - 7655	内科	［日・祝・年末年始・お盆］ 午前10：00～午後5：00	
京都市休日急病歯科中央診療所	中京区西ノ京椹尾町3 - 8 （京都府歯科医師会館内）	075 - 812 - 8493	歯科	午前10：00～午後12：00 午後 1：00～午後 4：00	
京都市休日急病歯科南部診療所	伏見区今町659 - 1 （京都府歯科医師会伏見会館内）	075 - 622 - 3418	歯科	午前10：00～午後12：00 午後 1：00～午後 4：00	
京都市休日急病歯科西部診療所	西京区大原野東境谷町2 - 5 - 9 センタービル1F （京都歯科サービスセンター洛西診療所）	075 - 332 - 3437	歯科	午前10：00～午後12：00 午後 1：00～午後 4：00	

1. 深草学舎

病院名	住　所	電話番号	診療科目	診療時間	月	火	水	木	金	土
久野病院	東山区本町22丁目500番地	075 - 541 - 3136	内科・外科・整形外科 小児科・神経科・皮膚科・消化器科・放射線科・肛門科・リハビリテーション科	午前8：45～12：00　月～土	○	○	○	○	○	○
				午後 5：15～8：00　月 4：15～8：00　火・金 5：45～8：00　水・木・土	○	○	○	○	○	○
安立整形外科	伏見区深草西浦町4丁目83	075 - 641 - 6333	整形外科 リハビリテーション科	午前9：00～11：00　月・火・水・金・土 ※但し、再診は午前11時迄	○	○	○	×	○	○
				午後5：00～ 6：30　月・金	○	×	×	×	○	×
高整形外科医院	伏見区深草直違橋 10丁目157 - 2	075 - 647 - 2828	整形外科・リウマチ科・リハビリテーション科	午前9：00～12：00　月～土	○	○	○	○	○	○
				午後5：30～ 8：00　月～金	○	○	○	○	○	×
仁木病院	伏見区深草西浦町4丁目21	075 - 641 - 2438	内科・循環器科	午前9：00～12：30　月・火・水・金・土	○	○	○	×	○	○
				午後5：30～ 8：00　月・水・金	○	×	○	×	○	×
辻クリニック	伏見区深草直違橋 9 - 184 - 2	075 - 641 - 3073	外科・整形外科・消化器科・肛門科・皮膚科・放射線科・内科・リハビリテーション科・ペインクリニック・泌尿器科	午前9：00～12：30　月～土	○	○	○	○	○	○
				午後4：30～7：30　月・火・水・金	○	○	○	×	○	×
平松眼科	伏見区深草直違橋5丁目328	075 - 641 - 2583	眼科	午前9：00～12：00　月・火・水・金・土	○	○	○	×	○	○
				午後5：00～ 7：00　月・火・水・金	○	○	○	×	○	×
水谷歯科	伏見区深草祇川町24 - 1	075 - 641 - 0675	歯科	午前9：00～12：00　月・火・水・金・土	○	○	○	×	○	○
				午後3：00～ 7：00 月・火・水・金/土（予約制）	○	○	○	×	○	○

2. 大宮学舎

病院名	住　所	電話番号	診療科目	診療時間	月	火	水	木	金	土
武田病院	下京区塩小路通西洞院 東入ル東塩小路町841 - 5	075 - 361 - 1351	内科・循環器科・神経内科・呼吸器科・消化器科・小児科・外科・整形外科・脳神経外科・心臓血管外科・皮膚科・泌尿器科・眼科・放射線科・リハビリテーション科・麻酔科・循環器センター・消化器センター・透析センター・神経脳血管センター・睡眠呼吸医療センター	午前9：00～12：30　月～土	○	○	○	○	○	○
				午後2：00～ 4：00　月～金 ※急患は24時間受付しています	○	○	○	○	○	×
ふじた医院	下京区大宮七条下ル 御器屋町67	075 - 343 - 4188	内科・消化器科・	午前9：00～12：00　月～土	○	○	○	○	○	○
				午後5：00～ 7：00　月・水・木・金	○	×	○	○	○	×
加藤医院	下京区大宮花屋町上ル	075 - 351 - 9281	耳鼻咽喉科	午前9：00～13：00　月・火・水・金・土	○	○	○	×	○	○
				午後5：00～ 7：00　月・火・金	○	○	×	×	○	×
重住眼科	下京区七条通新町東入 西境町148	075 - 361 - 8537	眼科	午前10：00～13：00　月～土	○	○	○	○	○	○
				午後5：00～8：00　月・火・木・金	○	○	×	○	○	×
西本願寺あそか診療所	下京区花屋町通堀川西入 柿本町580 - 2	075 - 371 - 0586	内科	午前9：00～12：30　月・火・木・金・土	○	○	×	○	○	○
				午後1：00～4：00　水	×	×	○	×	×	×

※診療時間等は変更になることもあるので、各病院へ問い合わせて下さい。

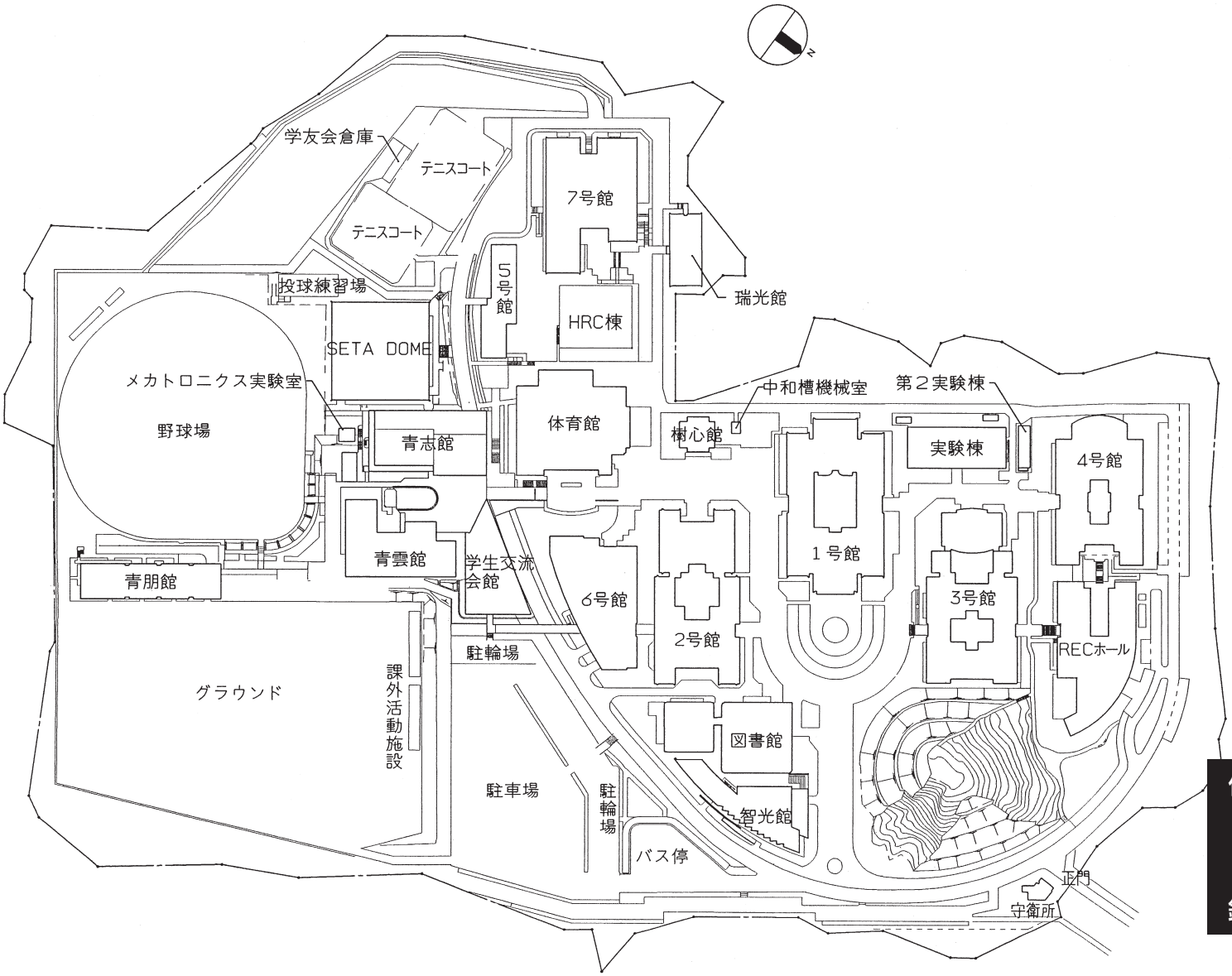
※医療機関では、保険証のコピーは使用できません。

地方出身の学生は必ず「遠隔地被保険証」の交付をうけましょう。

付

録

龍谷大学瀬田学舎見取図



付録

履修要項・Syllabus利用の手引き

学期はじめのQuestion

- ◆ １年間のスケジュールはどこを読めばいいですか。
  → 学年暦
- ◆ 授業を受けるにあたって注意することはなんですか。
  → P2：履修をはじめるにあたって
- ◆ 単位ってなんですか。
  → P3：単位制度と単位の認定
- ◆ 共同開講科目と固有科目、必修・選択・グループ必修・随意の違いってなんですか。
  → P28：教育課程の編成・履修方法
- ◆ 受けたい科目の内容を知りたいのですがどこを読めばいいですか。
  → P93：シラバス
- ◆ 登録に際しての方法や注意することはなんですか。
  → P8：履修登録
- ◆ 教職などの資格についてどこを読めばいいですか。
  → P73：諸課程等の履修方法
- ◆ 他学科の科目を受講するにはどうすればよいですか。
  → P66：他学科科目の履修について
- ◆ 大学京都コンソーシアムなどの単位互換制度を受けるにはどうすればよいですか。
  → P67：単位互換制度について

学期途中のQuestion

- ◆ どのような場合に休講になるのですか。
  → P82：授業休止の取り扱い基準
- ◆ 証明書を発行するにはどうしたらよいですか。
  → P78：窓口事務
- ◆ 講義の内容が理解できず困っているのですが。
  → P17：教育支援
- ◆ 留学したいのですが。
  → P88：留学
- ◆ 休学について知りたいのですが。
  → P83：学籍の取り扱い

学期末のQuestion

- ◆ 成績の評価はどのようになっているのですか。
  → P12：成績評価
- ◆ 定期試験等を受験する際に注意すべきことは何ですか。
  → P14：筆答試験
- ◆ 追試験について知りたいのですが。
  → P14：筆答試験
- ◆ 進級するためにはどのような要件があるのですか。
  → P46、P52、P58：固有科目の履修（卒業・進級の要件）
  ※入学年度により異なるため注意すること
- ◆ 過去問などを知りたいとき(数理情報学科)
  → http://whale2.math.ryukoku.ac.jp　参照（要パスワード）